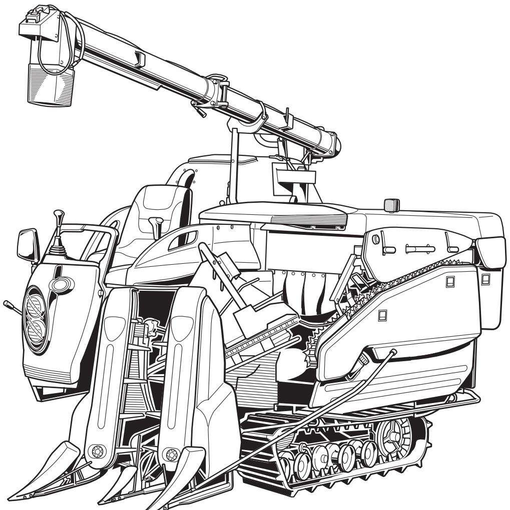
クボタコンバイン

取扱説明書

エアロ★スター ウィット

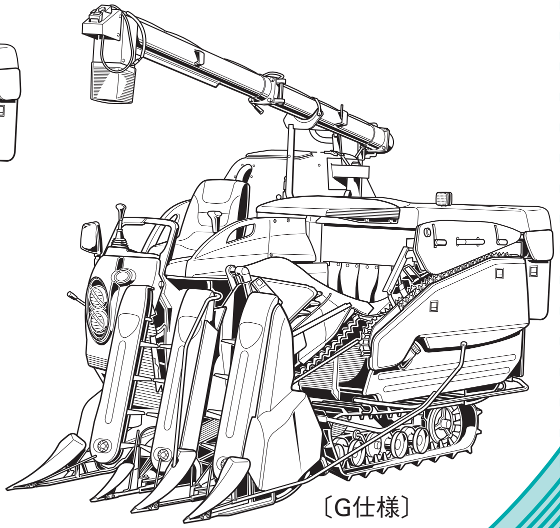
ARN 219・222



1ARADBIAP2740

〔G仕様〕

ARN 320・323



〔G仕様〕

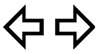
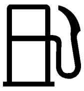
1ARADBIAP2730

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数［**低回転**］
	エンジン回転数［**高回転**］
	ウインカランプ
	ヘッドランプ
	ヘッドランプと作業灯
	エンジン停止
	燃料

専門用語の説明

● 予熱（グロー）	エンジンの始動を容易にするための補助装置
● SF ワンレバー	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
● デバイダ	こくかんを分けすくい上げる部分
● ドレーン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
● HST	油圧式の無段変速装置
● アジャスト	調節を意味する
● 主変速レバー	［前進］［後進］の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
● スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
● １番スクリュ	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
● ２番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
● チャフシーブ（選別板）	こく粒を粗選する桟状の板
● トウミ	選別風を発生させるファン
● グレンシーブ	こく粒を精選するあみ体
● 送じん調節レバー	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
● 排じん調節	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
● こぎ胴	脱こくするドラム
● フィードチェーン	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
● 縦スクリュ	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
● こぎ胴オープン	こぎ胴を上に上げる機構
● 揺動板（シーブケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
● アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒

は じ め に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法, 簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお, ⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について	本取扱説明書では, 特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。
⚠ 危 険	注意事項を守らないと, 死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	注意事項を守らないと, 死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	注意事項を守らないと, ケガを負うおそれのあるものを示します。
重 要	注意事項を守らないと, 機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補 足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲･麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［ARN323GHD 仕様］を基本とし，［ARN323GHD 仕様］と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　ARN323 G HD M W2
　　　　①　②　③　④　⑤

①エンジン出力（刈取条数）によって ……
- ［ARN219］（2 条刈り）
- ［ARN222］（2 条刈り）
- ［ARN320］（3 条刈り）
- ［ARN323］（3 条刈り）

②
- グレンタンク仕様………………［G仕様］
- ホッパ仕様…………………… 表示なし

③諸装置の仕様によって（別表参照） ……
- ［DX 仕様］（デラックス）
- ［HD 仕様］（ハイデラックス）

④自動車体水平制御装置付き（片側モンロー） ……… ［M 仕様］

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">諸装置</th><th colspan="2">仕様</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>DX</th><th>HD</th></tr>
<tr><td rowspan="6">自動化装置</td><td colspan="2">自動こぎ深さ制御</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">刈取オートクラッチ
［刈取部上昇時搬送駆動停止装置］</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">自動脱こく制御</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">アンローダ</td><td>自動旋回装置</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="2">［G仕様］</td></tr>
<tr><td>排出位置選択</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">自動エンジン停止装置</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">刈取オープン</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">刈取部横スライド装置
［スライドヘッダ］</td><td>○</td><td>○</td><td>［219・222］</td></tr>
<tr><td colspan="3">刈取突込み防止装置</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">左分草かん開閉装置</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">枕こぎオートプレート</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">バイブロシャッタ</td><td>－</td><td>○</td><td>［G仕様］</td></tr>
<tr><td colspan="3">アンローダリモコン</td><td>△</td><td>○</td><td>［G仕様］</td></tr>
<tr><td colspan="3">パワークラッチ［刈取］</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">パワークラッチ［もみ排出］</td><td>△</td><td>○</td><td>［GHD仕様］</td></tr>
<tr><td colspan="3">集中注油装置</td><td>○</td><td>○</td><td>［219・222］
：手動
［320・323］
：電動</td></tr>
<tr><td colspan="3">刈取防じんカバー</td><td>△</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">ボイスナビ［音声警報］</td><td>－</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

○：標準装備　－：非装備（後付け不可）
△：オプション（後付け可）

⑤クローラによって……

種類	リンク数	仕様	219	222	320	323
330幅ワイドエリアクローラ	37	W仕様	○	○		
360幅ワイドエリアクローラ	39	W仕様			○	○
400幅ワイドエリアクローラ	37	W2仕様	○	○		
	39	W2仕様			○	○

目　次

⚠安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください........................1
安全作業するための表示ラベル.........24
表示ラベルの内容・貼付位置............24
表示ラベルの手入れ..................38
表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る...........................38

サービスと保証について

小型特殊自動車について

装置の名称と取扱い

機体方向説明..........................4
装置の名称と各部のはたらき............5
メインスイッチ.......................10
アクセルレバー.......................10
非常エンジン停止レバー...............10
主変速レバー・副変速レバー...........11
ブレーキペダル（駐車ブレーキ）.........11
SF ワンレバー.........................12
運転席（シート）.....................12
刈取下降ロックスイッチ...............13
脱こく・刈取クラッチレバー...........13
刈取変速レバー.......................13
左分草かん開閉レバー.................14
エンジン停止スイッチ.................14
トウミ調節レバー.....................15
チャフ調節レバー.....................15
刈取スライドスイッチ.................15
もみ排出クラッチレバー...............16
もみ排出スイッチ.....................16
メータユニット・警報モニタ...........17
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ.......................................19

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき...........20
自動車体水平制御装置（モンロー）.......20
水平操作スイッチ.....................21
自動こぎ深さ制御装置.................21
手動こぎ深さスイッチ.................22
刈取オートクラッチ...................23
アンローダ自動旋回制御装置...........24
アンローダレバー.....................25
アンローダリモコンスイッチ...........27

運転前の点検

日常点検項目.........................29

移動走行と輸送

新車時の扱いかた....................31
ならし運転について...................31
エンジンの始動と停止のしかた........31
始動のしかた.........................32
停止のしかた.........................35
移動走行について....................36
走行前の準備.........................37
発進のしかた.........................40
旋回のしかた.........................42
停車·駐車のしかた....................42
道路走行について.....................43
輸送について........................44
トラックとあゆみ板の準備.............44
コンバインの準備.....................44
コンバインの積込み·積降しのしかた.....44
トラック上での処置...................46

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件....................47
作物の条件...........................47
ほ場の条件...........................47
ほ場の準備..........................48
ほ場の準備...........................48
コンバインの準備....................49
準備のしかた.........................49
アンローダの折りたたみ・伸ばしかた....54
刈取作業のしかた....................57
ほ場の出入りのしかた.................57
ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた...............................58
刈取作業の手順.......................59
ほ場の刈りかたと旋回のしかた..........63
刈取スライド装置の使いかた...........70
湿田作業のしかた.....................72
作物に合わせた変速の選びかた..........73
もみの排出のしかた...................74
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた........80
作業に合わせた各部の調整·調節のしかた.83
デバイダの上・下調整.................83
引起し爪高さの調節...................85
こぎ室送じん調節レバーの調節..........86
排じん調整板の調節...................86
トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節.........................87
メータユニット・警報パネルによる異常と処置...................................88

目　次

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた . 92
エンジンルームオープン 92
こぎ胴オープン 93
刈取オープン 94
レバーガイドシートオープン 105
カッタオープン 105
シーブケースの脱着 107
受あみの脱着 111
運転席左側板の脱着 112
引起しサイドカバー右・左の脱着 112
引起しカバーの脱着 113
左サイドカバー及びカッタ左サイドカバーの脱着 114
グレンタンク下カバーの脱着 115
排わら切換えカバーのオープン 115
グレンタンクの脱着のしかた 116
グレンタンクオープン 118
各部の掃除と注油のしかた 120
各部の掃除 120
各部の注油 126
定期点検 138
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整 138
廃棄物の処理について 138
洗車時の注意 139
使用者が行なってはいけない修理 139
定期点検一覧表 140
給･注油（水）点検一覧表 145
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換 . 148
燃料 148
エンジンオイル 149
トランスミッションオイル 150
フィードチェーン駆動ケースオイル 151
こぎ胴駆動ケースオイル 152
各部のグリース 153
ラジエータ冷却水の点検・交換 154
エアクリーナの点検･掃除･交換 156
パイプ･ホース類の点検･交換 157
防じんあみ，ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除 158
燃料フィルタアッシの交換 158
燃料フィルタの掃除，フィルタエレメントの交換 159
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 160
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換 160
各部ワイヤ・ロッドの点検・調整 161
駐車ブレーキ 162
排わら切換えワイヤ 163
排わらレールの点検・調整 165
各部ベルトの点検･調整 166
ファン駆動ベルト 169
走行（ミッション）駆動ベルト. 169
刈取駆動ベルト. 170
脱こく駆動ベルト. 171
補助搬送（突起付）ベルト. 172
こぎ胴ケース駆動ベルト. 173
こぎ胴駆動ベルト. 174
1 番・2 番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト. 175
カッタ駆動ベルト. 175
グレンタンク駆動ベルト. 175
各部チェーンの点検･調整. 177
引起しチェーン. 178
左穂先チェーン・右穂先チェーン. 179
株元供給チェーン. 179
穂先供給チェーン. 179
左株元チェーン・右株元チェーン・株元供給チェーン. 179
フィードチェーン. 180
排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン180
排わら入力チェーン. 180
刈刃の点検・調整. 181
こぎ歯の点検･交換. 186
わら切刃の点検･交換. 187
カッタ部の点検･調整. 189
カッタ刃の交換. 191
吐出口ブーツの点検･交換. 197
バッテリの点検･交換. 198
電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換 202
ランプ（電球）の点検･交換・ホーンスイッチの点検. 204
パッカのトルクリミッタの調整. 204
反射器の点検・交換. 205
クローラの点検･調整. 205
刈取スライドの点検･注油. 207
スライドガイドの点検･注油. 208
刈取作業後の手入れ 209
毎日の作業後. 209
長期格納時. 209

コンバインの不調と処置

わらが詰まる 211
自動エンジン停止装置がはたらいたとき. 211
もみが詰まる 212
アンローダからもみが排出されないとき. 212
泥やわらが詰まる 213
株元搬送通路の泥やわらの取除きかた. . . 213
刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた. 213
穂先搬送先端部のわらの取除きかた. 214
その他 214
安全ピンについて. 214

付表

主要諸元 216
付属部品 224
オプション（別売品）（純正品を使いましょう）. 224
スイスイデバイダ 224
刈取り防じんカバー 224
種子用交換部品 224
キャノピ 224
アンローダリモコン 224
作業灯ランプ 225
35mm・50mm 切断カッタ. 225
50/150mm 切断長切換えカッタ. 225
セラミック切断刃 225
カッタ後部標準結束機 225
カッタ後部ストンパ結束機 225
カッタ後部ドロッパ 225
簡易拡散装置 225
消耗部品（純正部品を使いましょう）. . . 226
クボタ純オイル 238
オイルはクボタ純オイルをお使いください。. 238
クボタ純グリース 238

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

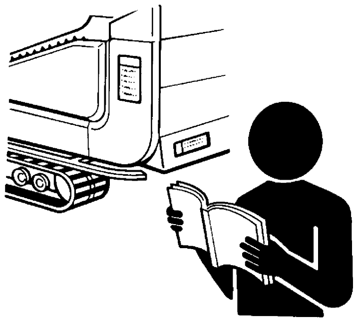
安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。



1BBAAAAAP0280

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - **・お酒を飲んでいる方　・睡眠不足の方**
  - **・妊娠中のご婦人　　　・過労，病気の方**
  - **・16 歳未満の方**

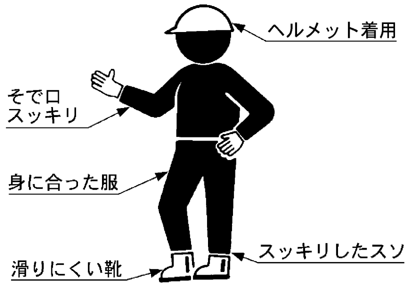
[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

1ARAEABAP0420

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0450

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

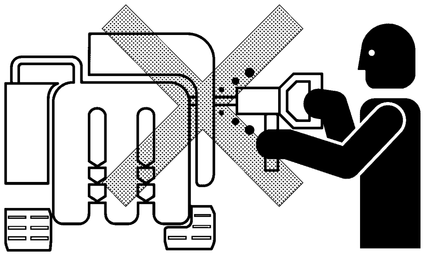
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

1AAACAAAP008A

⚠機械を改造しない。

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


1ARABAHAP0040

⚠運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。

1ARADBHAP2410

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

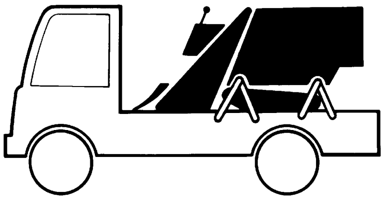
[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ASABAAAP3730

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

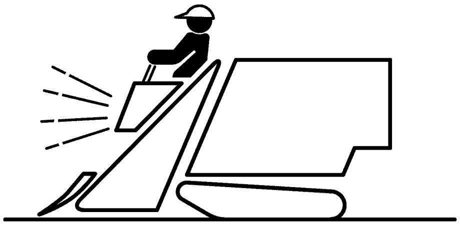
[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0440

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

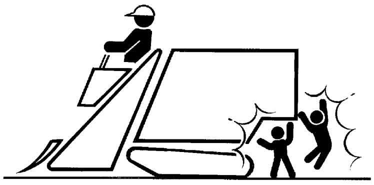
[守らないと]
火災の原因になります。

1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

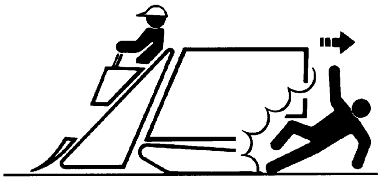
- ■ **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバー，副変速レバーを［N］（中立）位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- ■ **機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0780

- ■ **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。


1ARAEABAP0580

作業前点検（日常点検）を実施する。

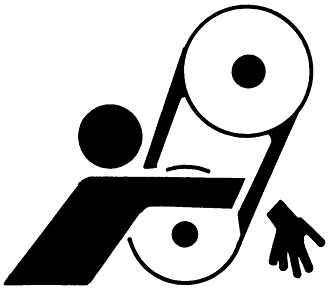
■ 運転の前には点検項目（29 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0460

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

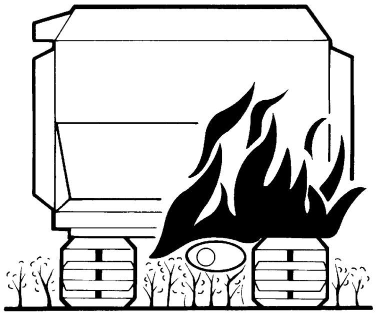
[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



1AAAAABAP0180

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

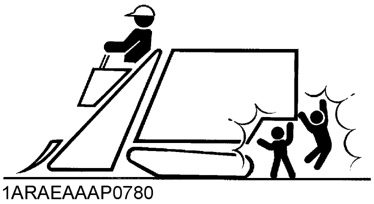
[守らないと]
火災の原因になります。



1ARAEABAP0600

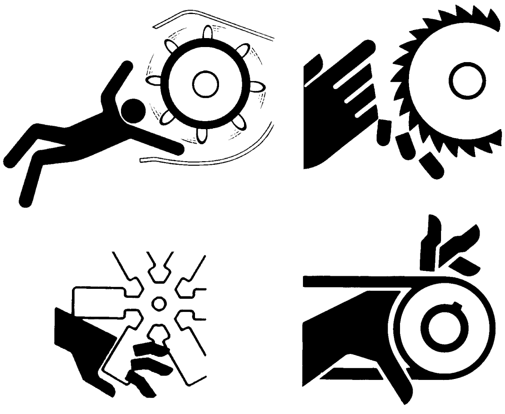
■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAEAAAP0780

⚠刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルーム，グレンタンク［G仕様］をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。



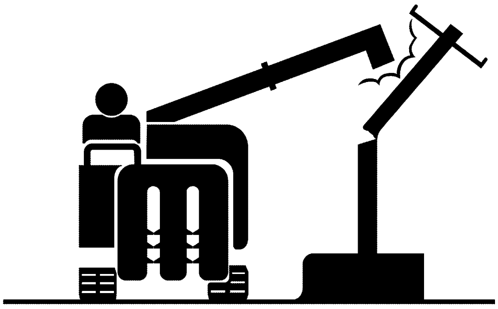
1ARAAAAAP1130

- 各部のオープンやグレンタンク**［G仕様］**の取外しは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままやグレンタンク**［G仕様］**を取外したままエンジンを始動しない。

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

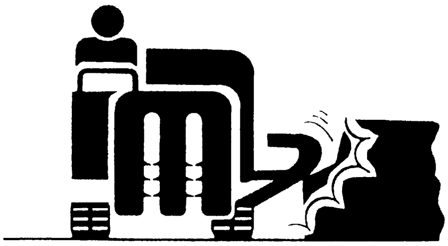
◆ ほ場間の移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。



1ARADAFAP3120

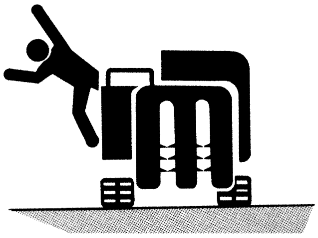
- 各作業クラッチを［**切**］位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出又は，降ろす。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダキャップを取付ける。
- 補助デッキ［**ホッパ仕様**］，左分草かんを収納して，機体幅を狭くする。
- 刈取部を右端いっぱいまでスライドさせて機体幅をせまくする。［**219・222**］
- アンローダを下げ，折りたたんでからアンローダ支えに収納してバンドを掛ける。［**G 仕様**］
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。［**M 仕様**］



1ARAFAAAP4310

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠移動走行時は急旋回をしない。

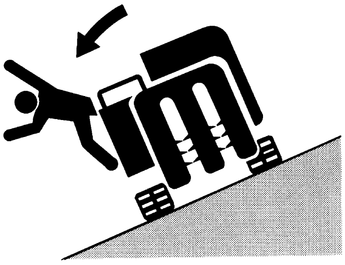


1ARAEAAAP0870

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），SF ワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

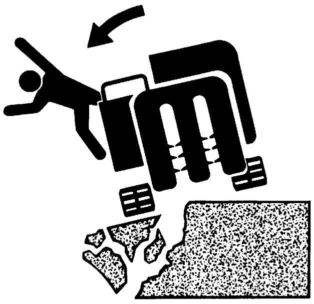


1ARAEAAAP0860

- 坂道（傾斜地）では，SF ワンレバー，副変速レバーを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

［守らないと］
暴走したり，転倒するおそれがあります。

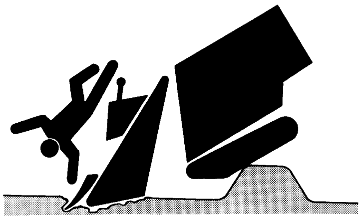
⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。


1ARAEABAP0500

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

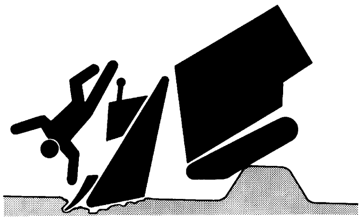
⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。


1ASABAAAP3710

- 10㎝以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出又は，降ろす。

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

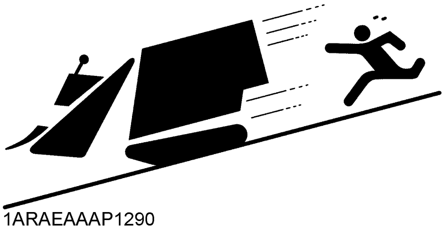
⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。


1ASABAAAP3710

- 10㎝以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて排出又は，降ろす。

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを［作業］又は，［移動］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

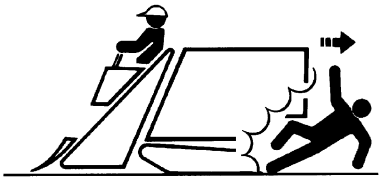

1ARAEAAAP1290

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

［守らないと］
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

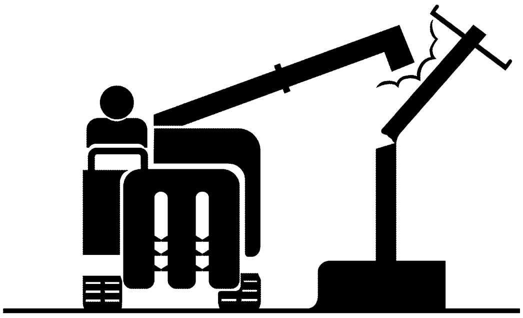
共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。


1ARAEABAP0580

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者のOKをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

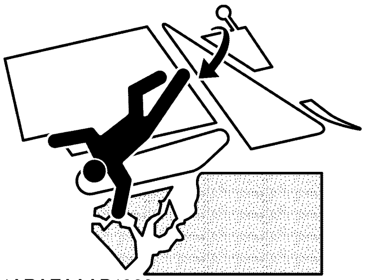
アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。[G仕様]


1ARAEABAP0920

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

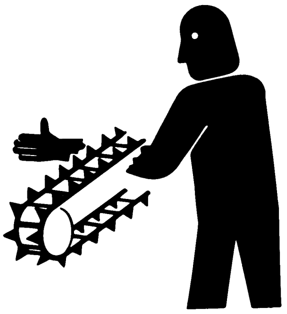
すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。


1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

手刈脱こく作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**［M 仕様］**
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを開ける。
- 刈取クラッチを**［切］**にして，枕こぎプレートを上げた状態で，プレートの上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に押し込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ押し込む。



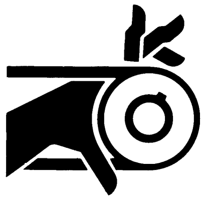
1ARAEABAP0570

［守らないと］
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

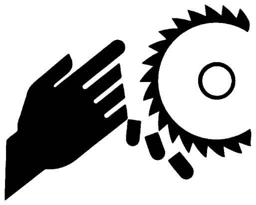
異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを【切】位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

[守らないと]
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAEAAAP0460

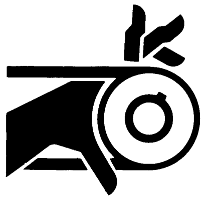


1ARAEABAP0550

点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

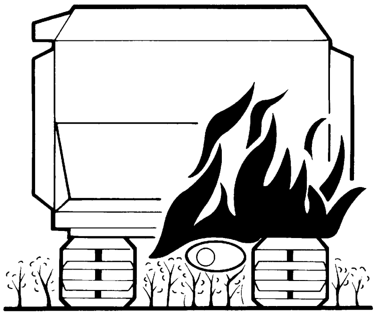


1ARAEAAAP0460

◆ 作業後・格納時の注意事項

⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

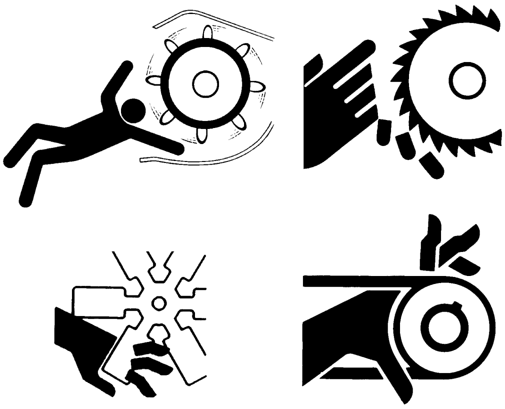
[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。



1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAAAAAP1130

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

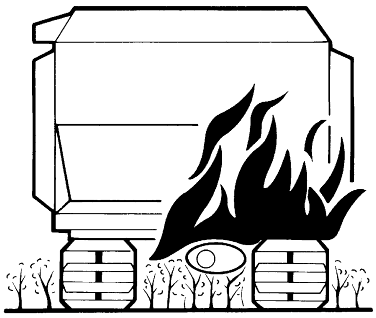
- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1AKADACAP1390

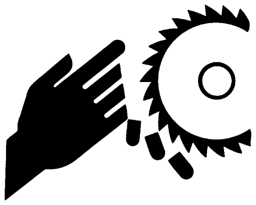
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内，配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

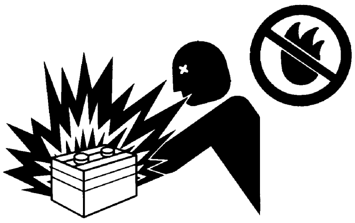
⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

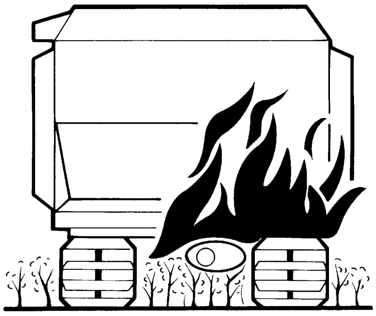
▲ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1ARAEAAAP0410

▲機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

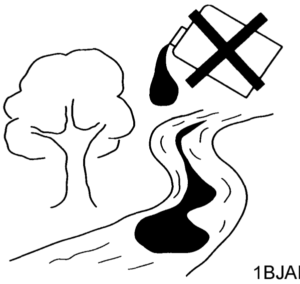
◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

1ARAEABAP0460

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

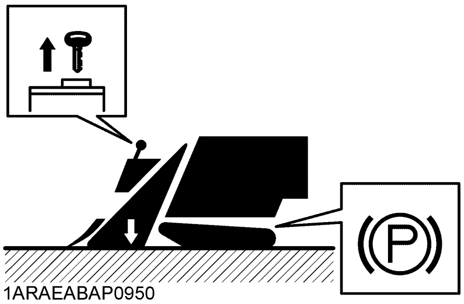


1BJABAAAP0180

- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチを［切］位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

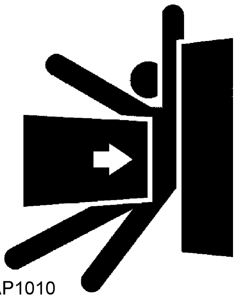


1ARAEABAP0950

[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクを開いたときは，ストッパで固定する。

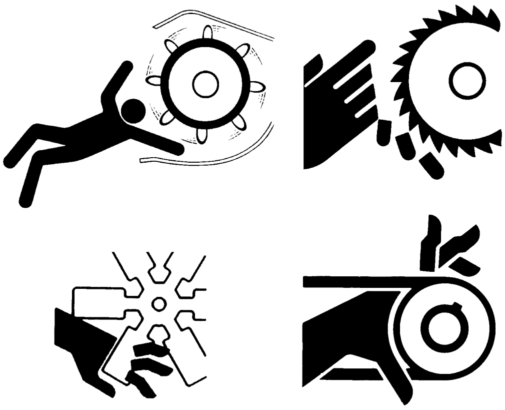
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP1010

刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクを開いたままやグレンタンクを取外したままエンジンを回さない。

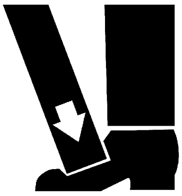
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAAAAAP1130

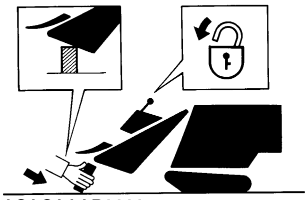
シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。



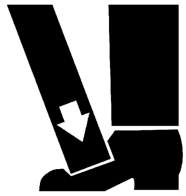
1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げる又は，オープンして点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。


1ASACAAAP3630

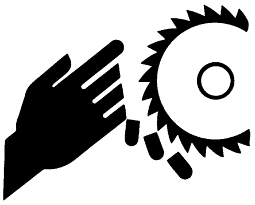
- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。
- 刈取部をオープンするときは，平たんな場所で自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0910

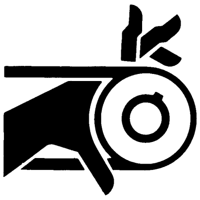
⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

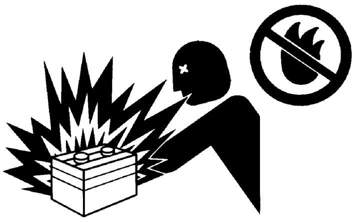
⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（－）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。


1ARAEABAP0110

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

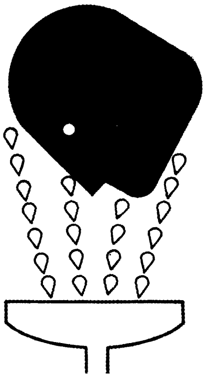
⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

1ARAEABAP0130

- バッテリ液が不足していれば,すぐに**UPPER LEVEL（上限）**と**LOWER LEVEL（下限）**の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

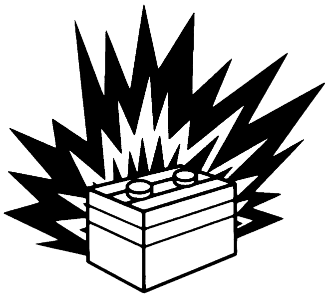
⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。



- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。



1ARAEABAP0120

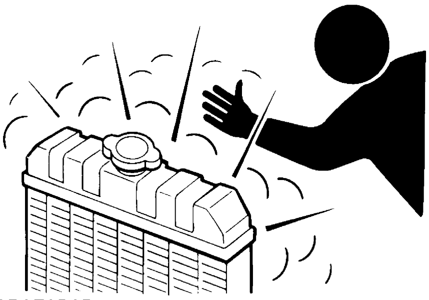
1ARAEABAP0620

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

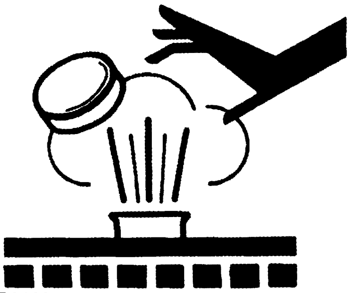
⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。



1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



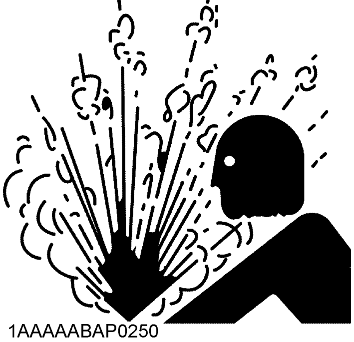
1ARAEABAP0160

⚠燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

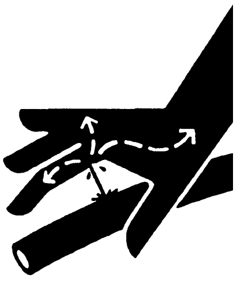
1AAAAABAP0240



1AAAAABAP0250

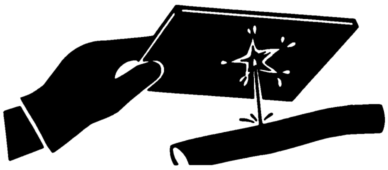
燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。



1BAACAAAP0100

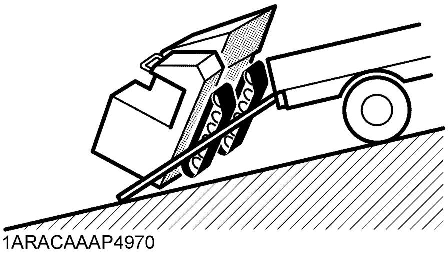
［守らないと］
油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。



1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

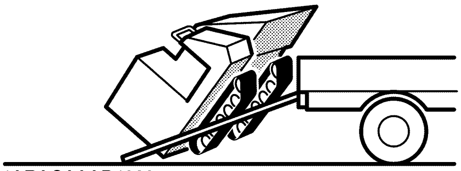
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。


1ARACAAAP4970

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを**R（後進）**又は，**１速**に入れたあと，さらにタイヤに歯止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。


1ARACAAAP4980

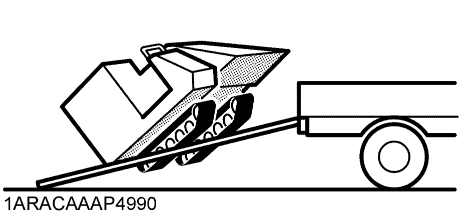
- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	50cm 以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が 1200kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

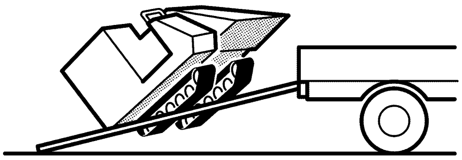
⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出，又は降ろす。


1ARACAAAP4990

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。**[G 仕様]**
- アンローダは，折りたたんで収納する。**[G 仕様]**
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

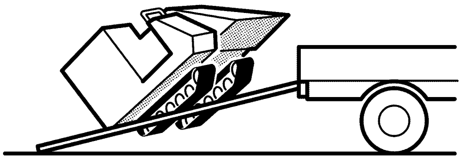
⚠トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。


1ARACAAAP4990

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**［切］**位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機付きの場合は，積込みは後進で，積降しは前進で行なう。

［守らないと］
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

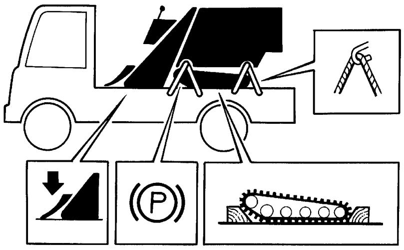
⚠あゆみ板の上では方向修正しない。


1ARACAAAP4990

- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，SF ワンレバー，副変速レバーは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上又は，荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

［守らないと］
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。


1AVAAAAAP2220

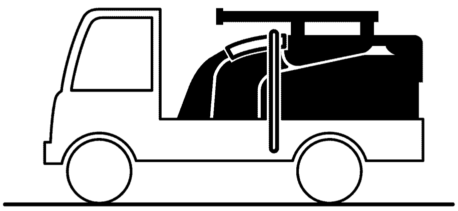
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**［M 仕様］**
- 副変速レバーを**［作業］**又は，**［移動］**位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４カ所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

［守らないと］
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

▲トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは, ロープで確実に固定するか, 外して荷台に置く。
- 防じんカバーは閉じる。**［防じんカバー付］**

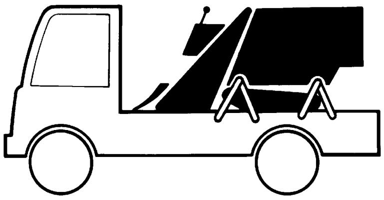
［守らないと］
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。



1ARAEABAP1000

▲輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

［守らないと］
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。



1ARAEABAP0440

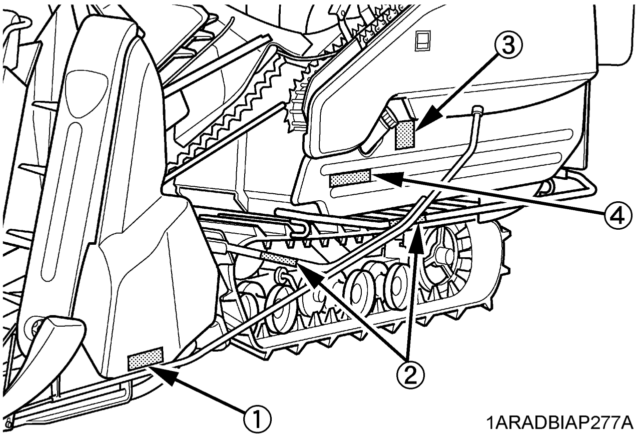
安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



1ARADBIAP277A

②品番　5H601-4344-1

注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。

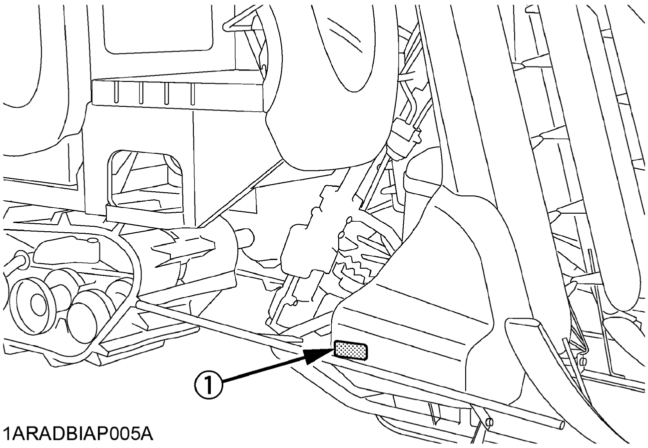
③品番　52166-2575-1

注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



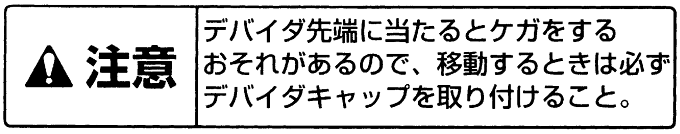
1ARADBIAP005A

④品番　5H700-4367-1

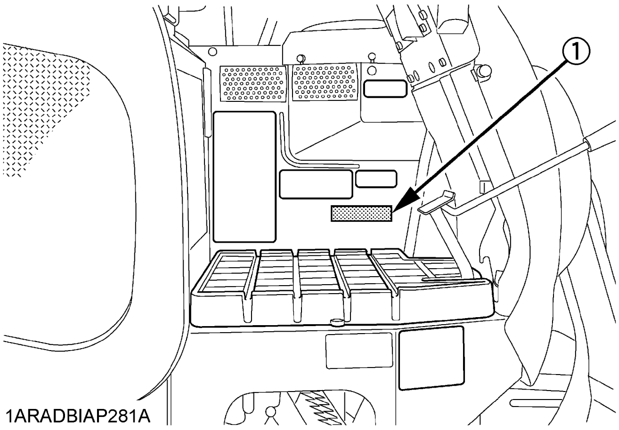
警告

1．刈取オープン作業は平たんで安全な場所で，刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。
2．刈取部をオープンしたまま，走行しないで下さい。
3．枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。

①品番　5H583-4333-1



1ARADBIAP2720



1ARADBIAP281A

①品番　5H570-4331-1

⚠ 注　意

作業前

1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし、主変速レバーを［N］（中立）にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1. 発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ、合図をして、機械に人を近づけないこと。
2. 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して[N]（中立）の位置にすること。
3. 転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また、移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4. 急発進・暴走のおそれがあるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを［N］（中立）にし、ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5. 刈取作業時以外（あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は「もみ」はすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にすること。M仕様（車体水平制御）は、機体を一番下げた状態にすること。

積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよびあぜ越えをするときは以下を守ること。

① 上がるときは前進で、降ろすときは後進で行う。結束機付きの場合は、上がるときは後進で、降ろすときは前進で行うこと。
② 副変速レバーを［作業］にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、主変速レバーを低速にすること。
③ 運転者は機械から降りて操作すること。
④ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
⑤ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

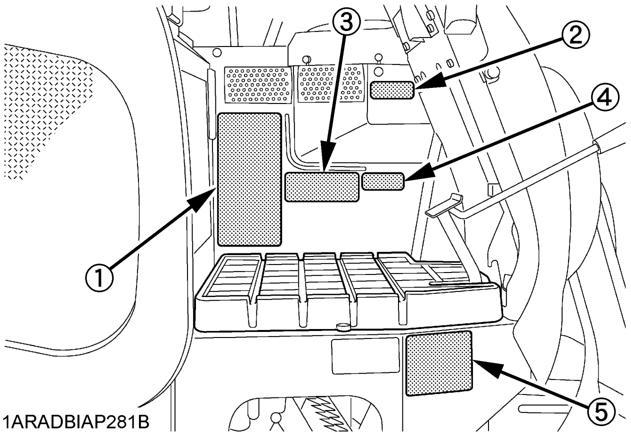
駐・停車

1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。

②品番　5K190-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

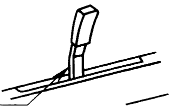


1ARADBIAP281B

③品番　5H601-4354-1

⚠ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと



④品番　5H706-4324-1

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキを「入」にし、各作業クラッチを「切」にすること。

⑤品番　5H570-4333-3

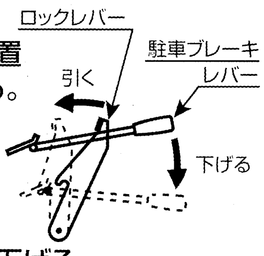
⚠ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。

1. 駐車するときは、車止めをすること。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「作業」にし、主変速を「N」にすること。

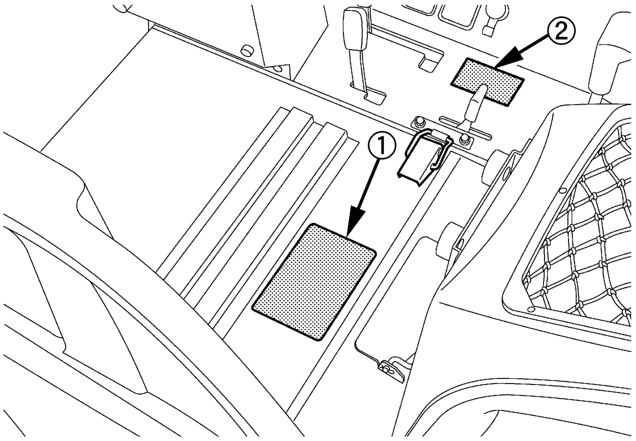
駐車ブレーキの操作方法

① 主変速レバーを「N」位置にしエンジンを停止する。
② 駐車ブレーキレバーを下げながら、ロックレバーを引いてフックを引っ掛ける。
③ ロック解除は、レバーを下げる。



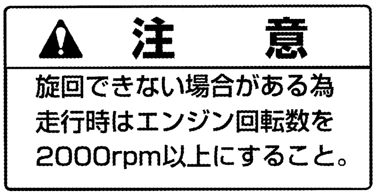
1ARADBHAP2040

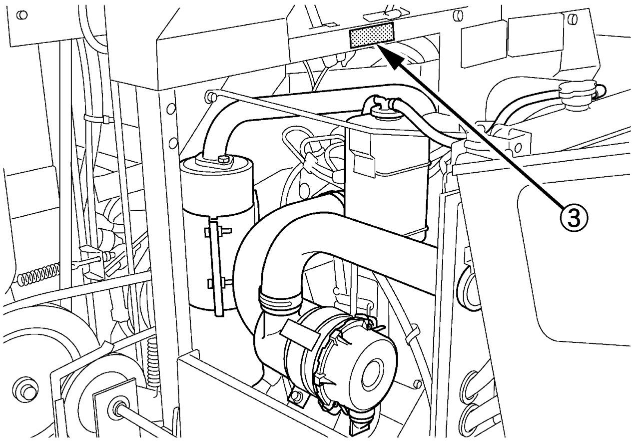
①品番　5H215-3515-1



1ARADBIAP007A

②品番　5H570-4389-1





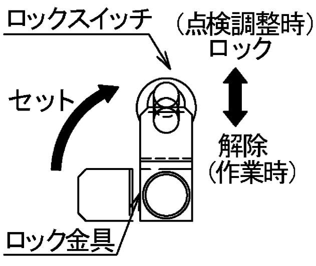
1ARADBIAP008A

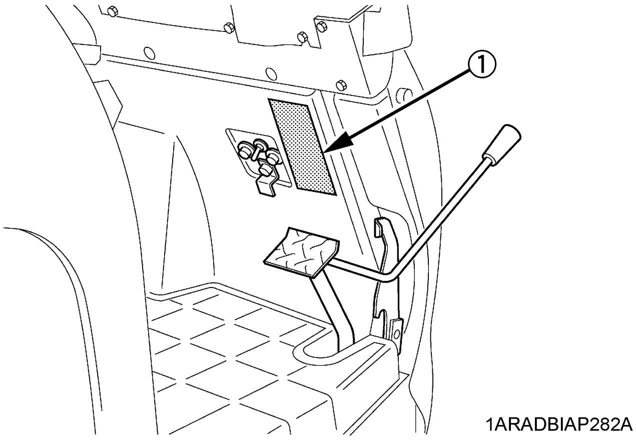
③品番　5H550-4334-1

①品番　5H570-4332-1

⚠ 注 意

刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、ロックスイッチを「ロック」位置にし、ロック金具をセットすること。





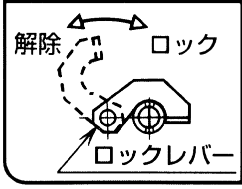
1ARADBIAP282A

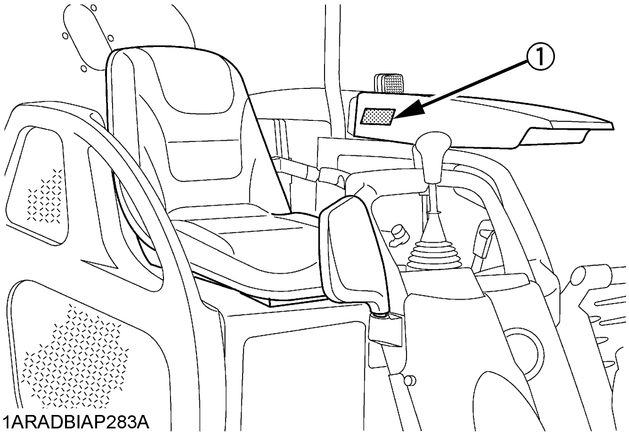
［HD仕様］

①品番　5H260-5713-1

⚠ 注意

トラックで輸送するときは風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、ボウジンカバーを閉じ、カバー内のロックレバーを「ロック」にすること。



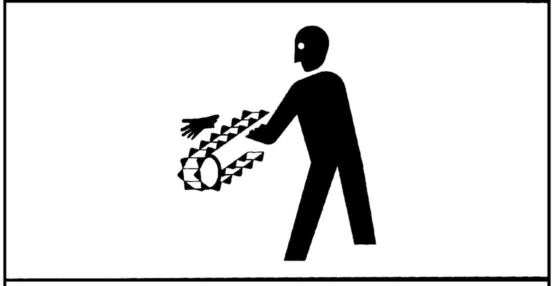


1ARADBIAP283A

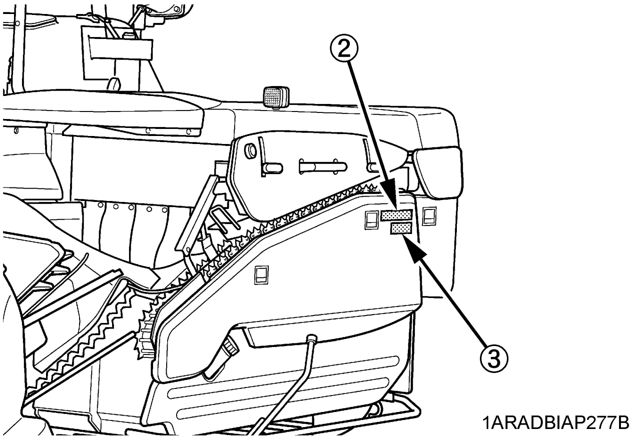
［HD仕様］

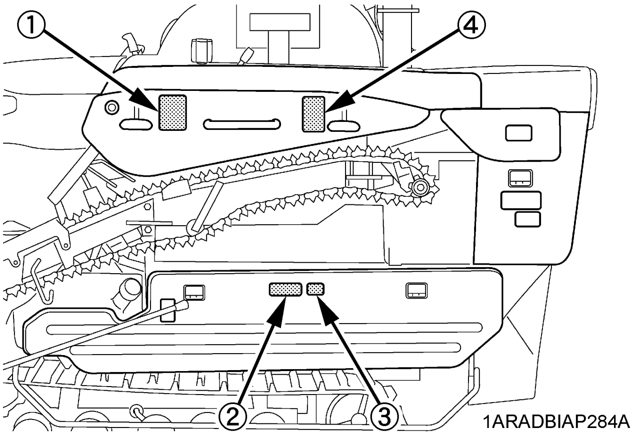
①品番　5K250-6418-2

⚠ 警　告

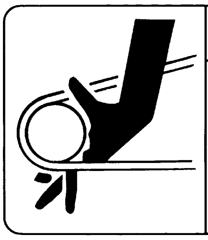


1．わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2．手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
- 平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
- 自動車体水平制御は必ず機体を一番下まで下げること。【M仕様】
- 防じんカバーを開くこと。【防じんカバー付き】
- 手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しずつ送り込むこと。





②品番　5K200-6436-1

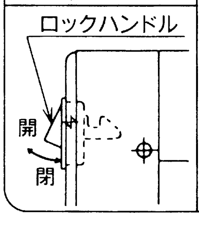


⚠ 注　意

1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　5K190-6433-1

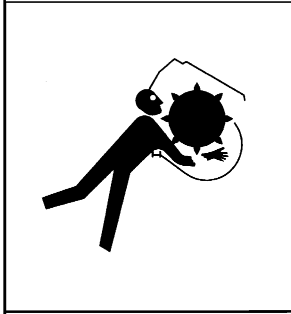
⚠ 注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

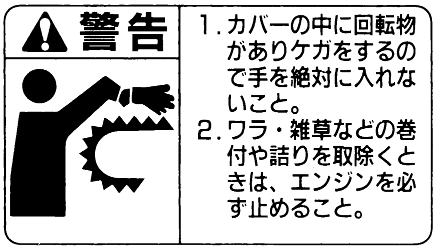
④品番　5K250-6425-2

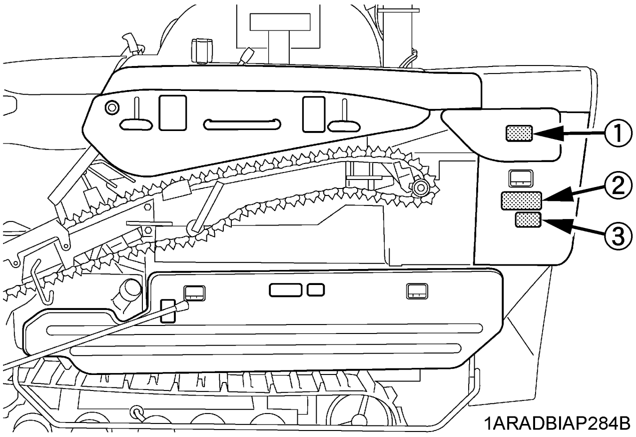
⚠ 警　告



中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

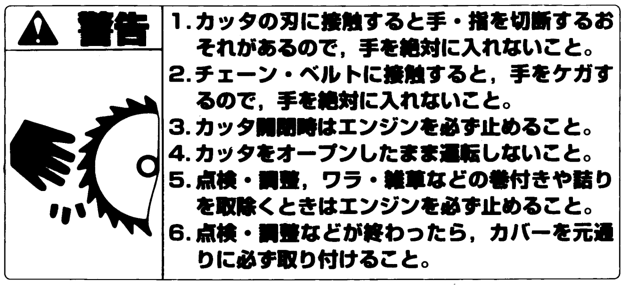
①品番　5K200-6188-1

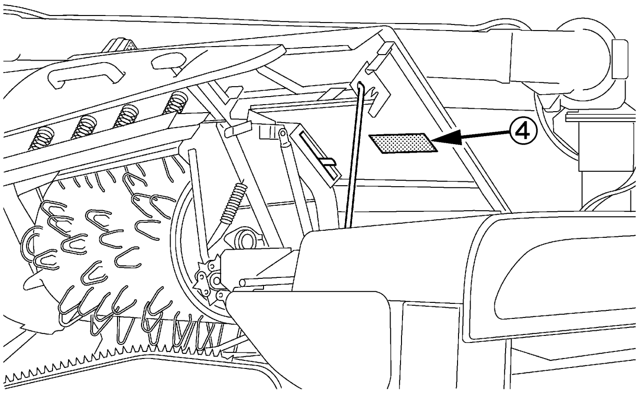




1ARADBIAP284B

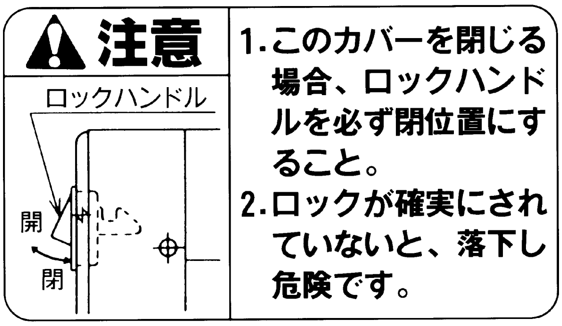
②品番　5K190-6442-1



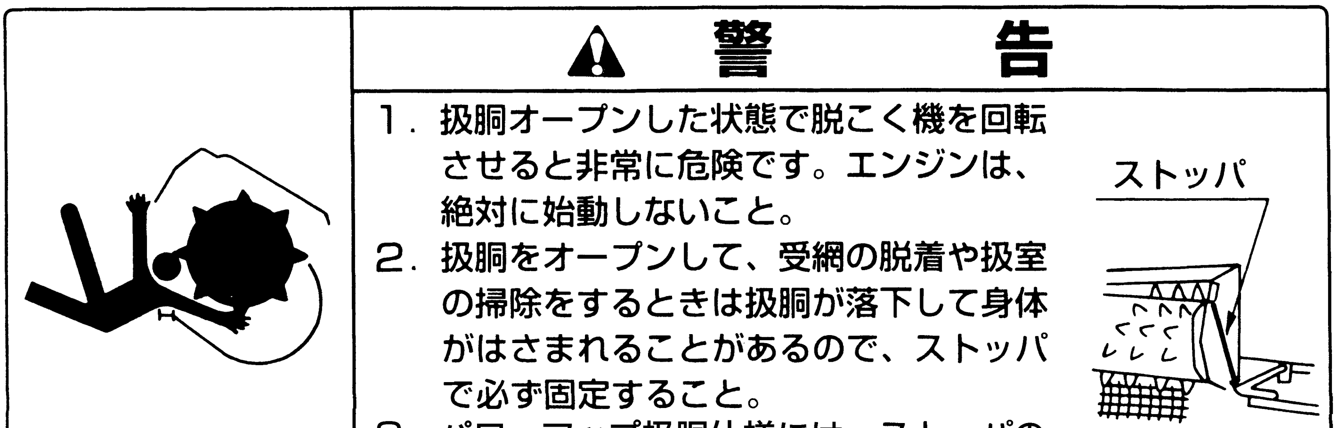


1ARADBIAP285A

③品番　5K190-6433-1



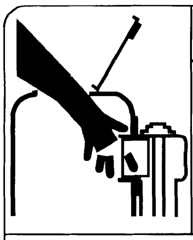
④品番　53981-6416-3



1ARADBEAP362J

[G仕様]

①品番　5H250-5338-1



⚠ 警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

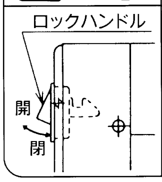
②品番　5K190-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　5K190-6433-1

⚠ 注意



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

④品番　5G067-8113-3

⚠ 注　意

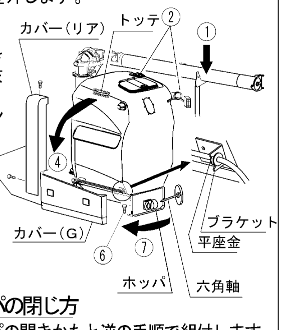
タンクを外すときは、中に回転物がありケガをするおそれがあるので、必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

グレンタンクの脱着・ホッパ開閉のしかた

◆ タンク内の「もみ」はすべて排出します。
◆ 主変速レバー及び副変速レバーを「N」（中立）位置にし、各作業クラッチ（刈取、脱こく、もみ排出）レバーを「切」位置にします。
① アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。
② カプラとコードバンドを外し、タンク上部のロックを外します。
③ カバー（G）とカバー（リア）を外します。

1. グレンタンクの外しかた

④ タンク上部のトッテを手前に引きタンクが地面に接するまで倒します。
⑤ タンク後ろのトッテを持ってタンクを外します。

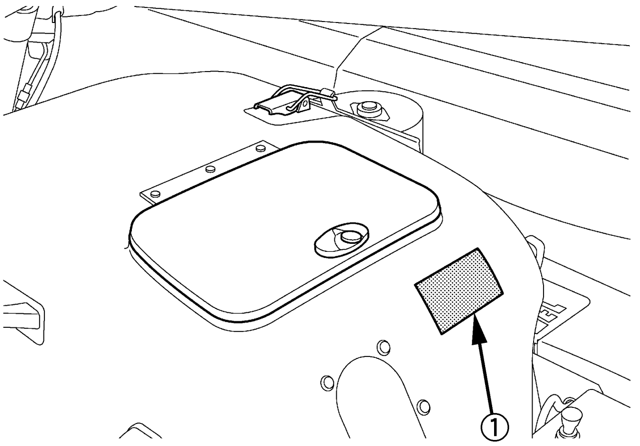


2. ホッパの開きかた

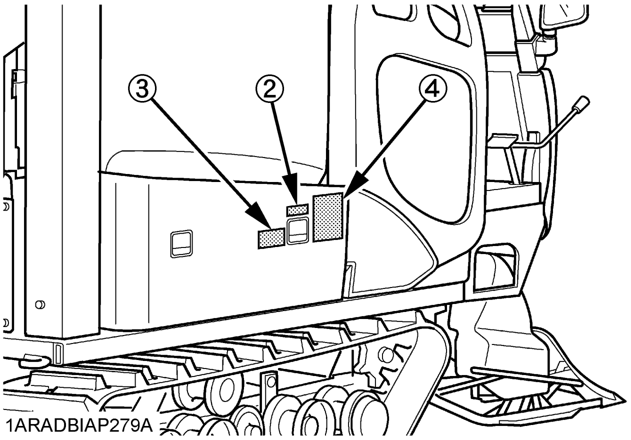
⑥ ホッパ固定ボルトを外します。
⑦ ホッパを手前に引いて開きます。
◆ホッパにタンクを乗せた状態で開くときはタンクが落ちないようにゆっくりと開いてください。

3. グレンタンクの取付、ホッパの閉じ方

⑧ グレンタンクの外しかた、ホッパの開きかたと逆の手順で組付します。
◆タンクのブラケットをホッパの平座金の間に入るように組んでください。
◆六角軸がギヤケースの六角穴に入らないときは、エンジンルームをオープンし、六角軸を手で回しながらグレンタンクを押して閉じてください。
⑨ ③、② の手順で組付します。



1ARADBIAP013A



1ARADBIAP279A

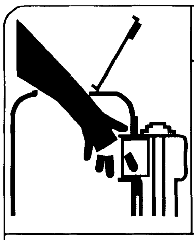
[G仕様]

[ホッパ仕様]

①品番　52166-2119-3

注意	1.転落のおそれがあるのでもみ受けデッキ、補助デッキには乗らないこと。 2.移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

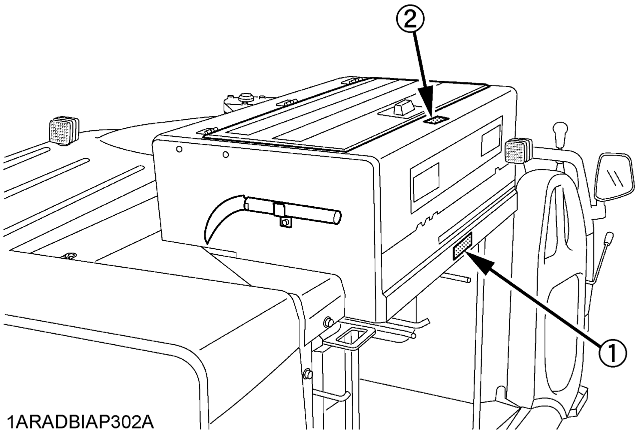
②品番　5H250-5338-1



警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

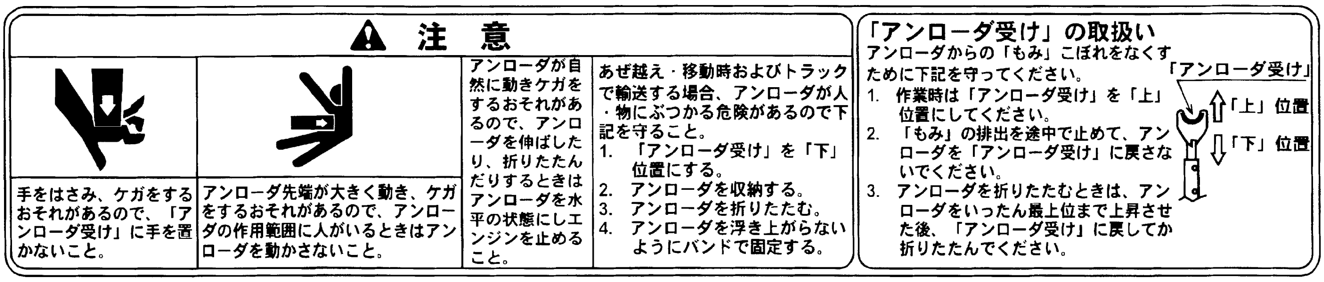


1ARADBIAP302A

[ホッパ仕様]

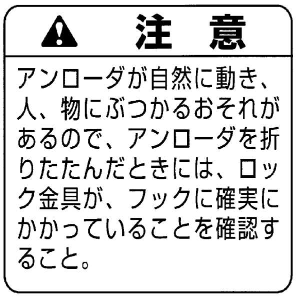
[G仕様]

①品番　5G021-1713-2

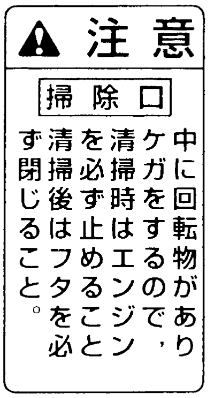


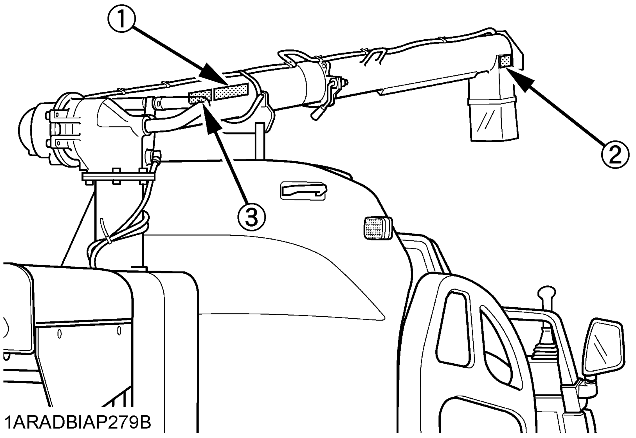
②品番　5G201-1714-2

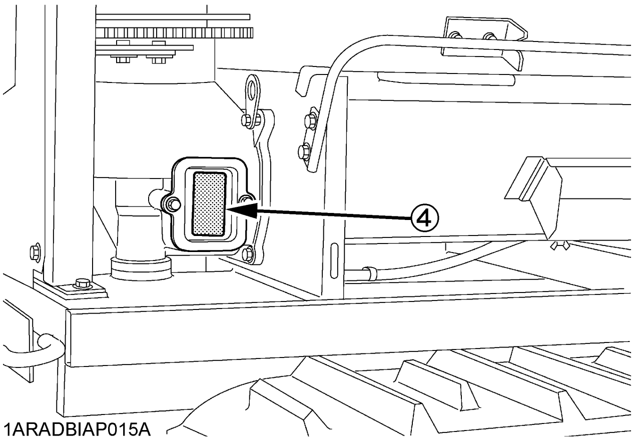
③品番　5G054-8141-1

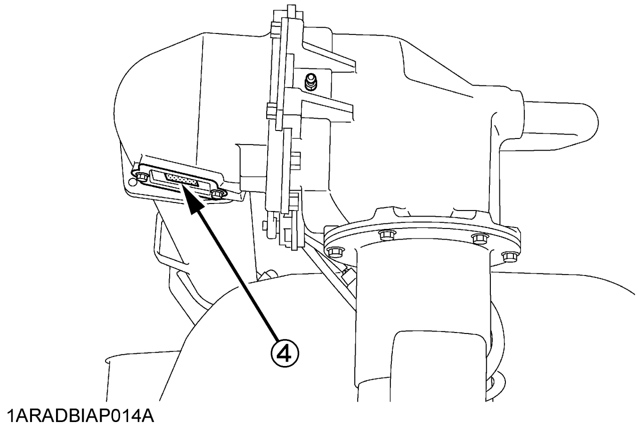


④品番　58071-8174-1









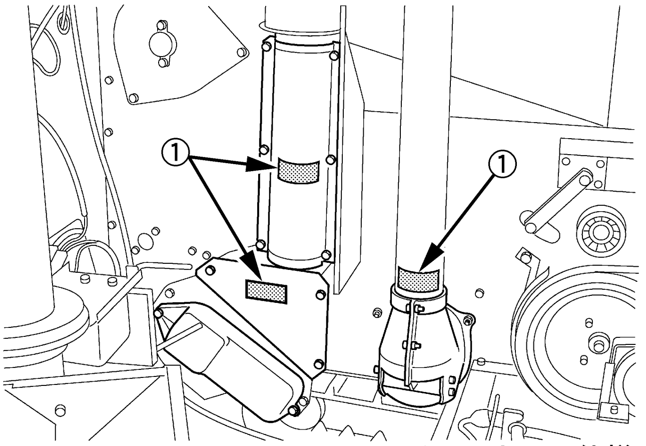
[G仕様]

①品番　5K190-6461-1

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



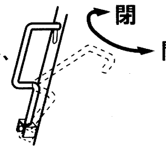
1ARADBIAP016A　※イラストは G仕様

①品番　5K250-6412-3

⚠ 注　意

掃除口　中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

スクリュケースの掃除

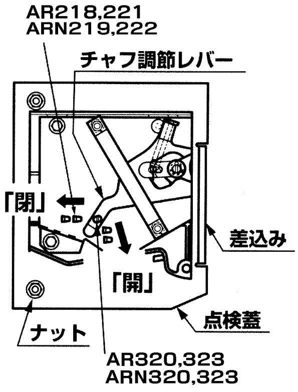


- 掃除口を開ける時はレバーを「開」の方へ倒し、閉じる時は「閉」の方へもどしてください。
- レバーは必ず穴に固定してください。

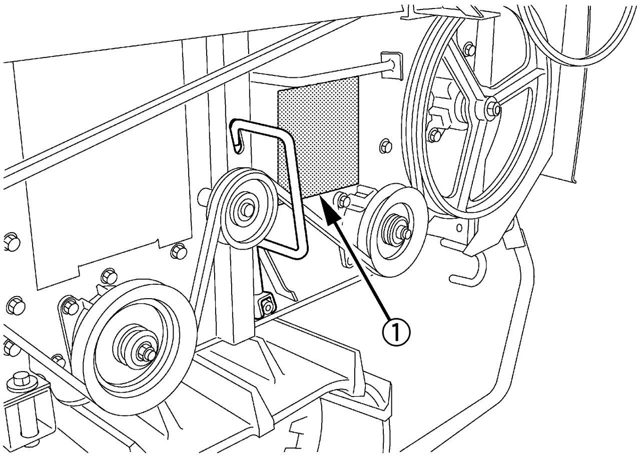
注意

- 掃除口を開ける時は、事前に必ず3分間脱こく部の空運転をしてください。
- 湿田で作業した後は必ずクローラ部分の泥を取り除いてからレバーを動かしてください。
- 掃除が終わった時は必ず2、3回レバーを動かして、掃除口に籾の付着がないことを確かめてから掃除口を閉じてください。
- スクリュの掃除口レバーを「開」の位置のままで、走行しないでください。

チャフ(選別板のすきま)調節



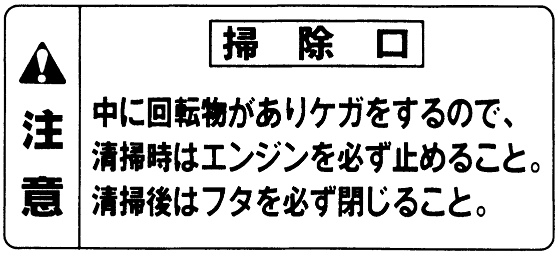
1. ナット2個を外し、点検蓋を外してください。
2. チャフ調節レバーは図の位置が基準固定位置です。
3. わらくず、切れわら、小枝梗が多いときは、チャフ調節レバーを「閉」の方向に移動して固定してください。
4. ロス、脱ぷが多いときは、チャフ調節レバーを「開」の方向に移動して固定してください。
5. 点検蓋を取りつけるときは、下部の差込み部をソクバンに掛けてから、ナットを締めてください。



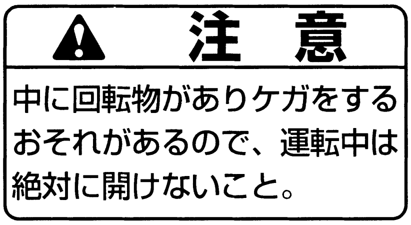
1ARADAFAP147B

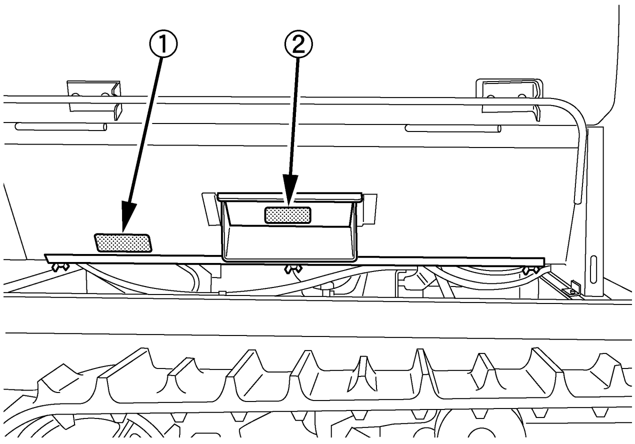
［G仕様］

①品番　58071-8175-2



②品番　5H700-4329-1





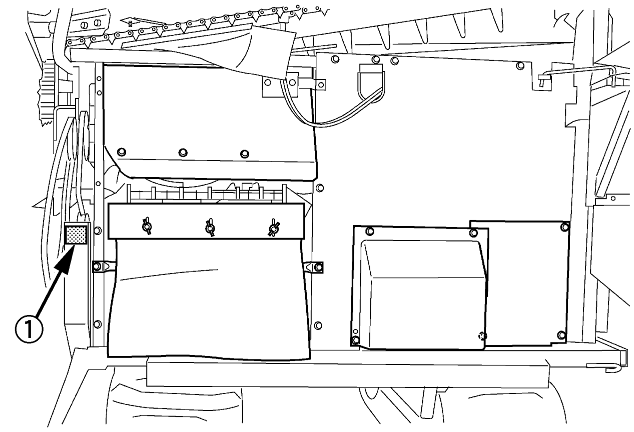
1ARADBIAP017A

［G仕様］

①品番　5K250-6427-1

注　意

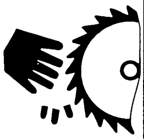
中に回転物がありケガをするおそれがあるので，運転中は絶対に手を入れないこと。



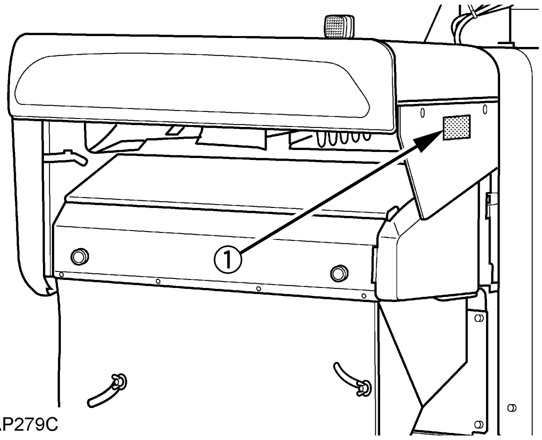
1ARADBIAP018A

①品番　53981-6191-1

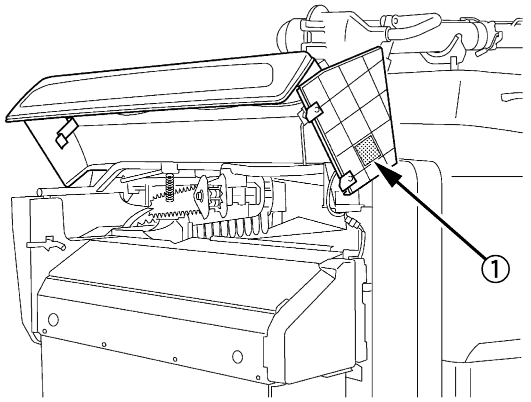
警告



1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。



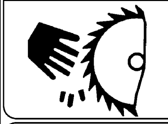
1ARADBIAP279C



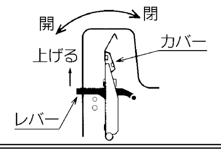
1ARADBIAP019A

①品番　5F619-7113-1

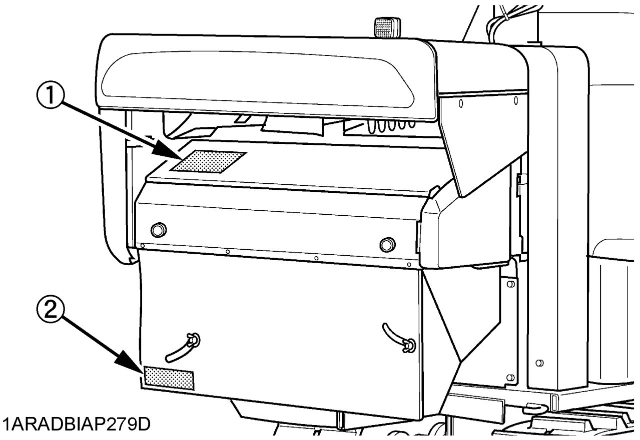
⚠ 警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対にいれないこと
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと



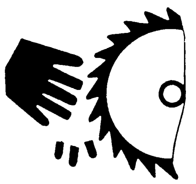
1. このカバーを開く場合、カバーを押さえながらレバーを持ち上げます
2. カバーを閉じる場合、カバーを押しこむとレバーで固定されます
3. カバーを開いた状態でエンジンをかけ、脱こくクラッチを入れると、エンジンが停止します



1ARADBIAP279D

②品番　57691-5315-1

⚠ 警告



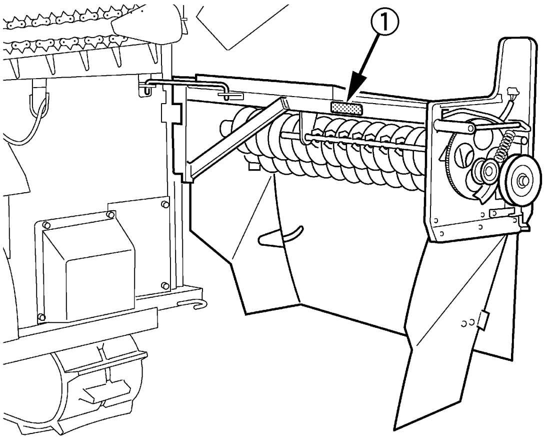
1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

---

①品番　57745-5124-1

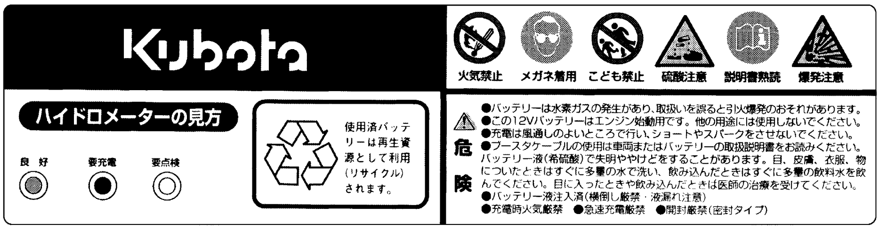
⚠ 注意

1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

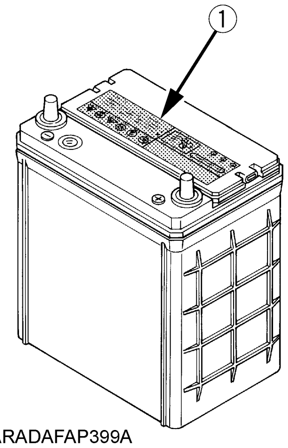


1ARADBIAP022A

①品番　5H522-4112-1



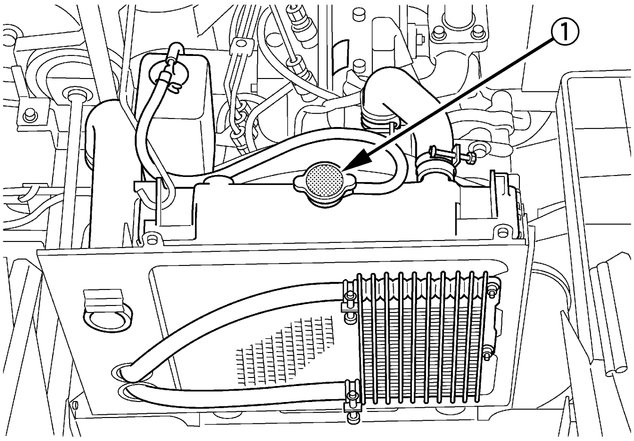
1ARADBEAP375J



1ARADAFAP399A

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J



1ARADBIAP020A

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

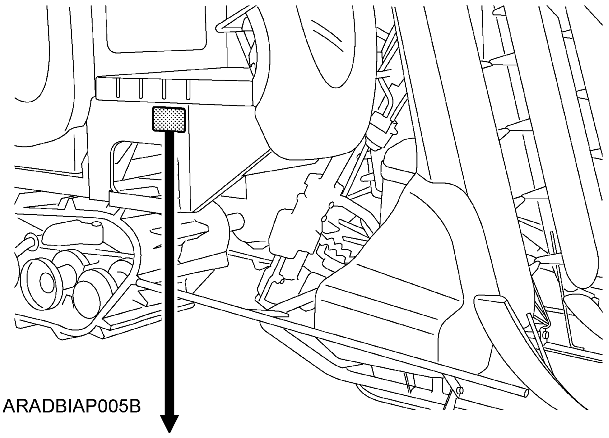
◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **［ご相談窓口］** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，
1. 販売型式名（商品名）・区分と車台番号
2. エンジンの型式名（model）と番号（serial）

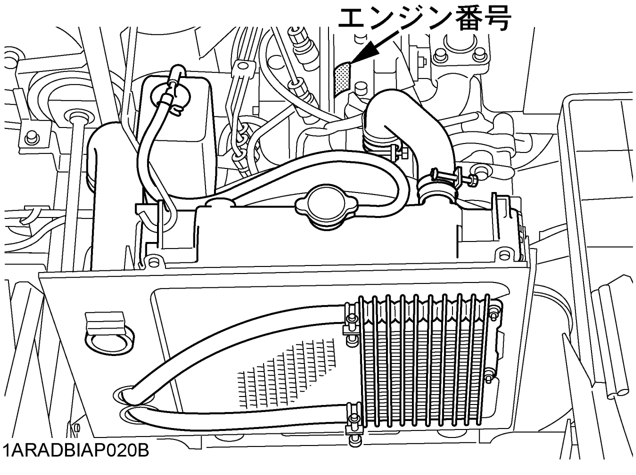
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

⚠ 警　告

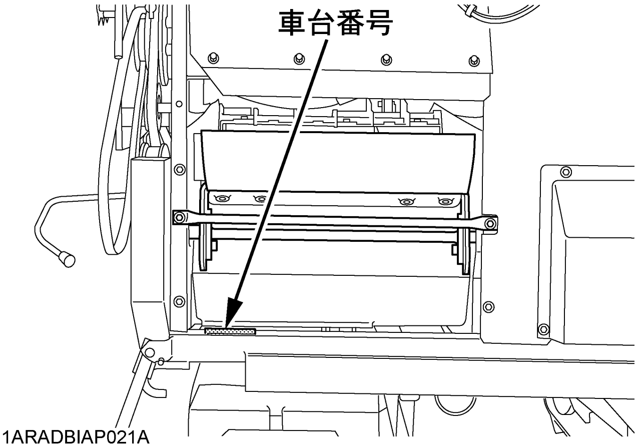
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。


1ARADBIAP005B

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）
型　式　名	クボタ
販売型式名	
区　分	
車両型式名	クボタ
車台（製造）番号	
製造会社	株式会社クボタ



1ARADBIAP020B



1ARADBIAP021A

◆ 認定番号
安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

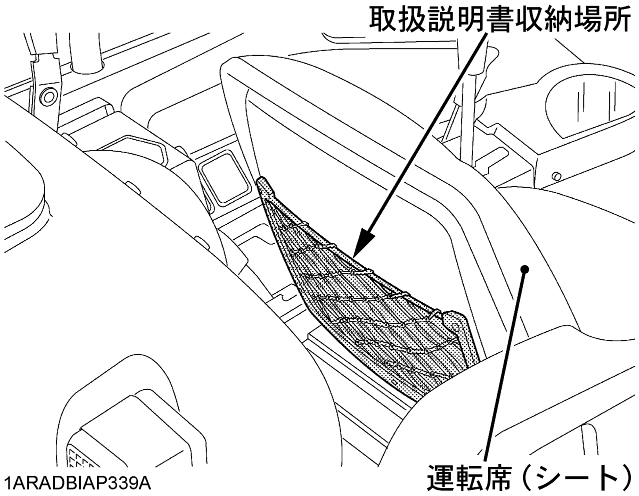
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
ARN219	クボタ R0504	31033	クボタ C225	農 3071 改造型	ホッパ仕様
ARN219G	クボタ R0504G	30137	クボタ C225	農 3071 改造型	グレンタンク仕様
ARN222G	クボタ R0503G	30136	クボタ C225	農 3071 改造型	グレンタンク仕様
ARN320G	クボタ R0502G	30135	クボタ C320	農 3075 改造型	グレンタンク仕様
ARN323G	クボタ R0501G	30134	クボタ C320	農 3075 改造型	グレンタンク仕様

補　足

＊ 届出には型式認定番号が必要ですが，車台番号（打刻）で代用することができます。

◆ 補修用部品の供給年限について
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について
本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）



補　足

＊ 取扱説明書収納場所は，デバイダキャップの保管場所としても使用してください。（49 ページ参照）

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

⚠ 警告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

⚠ 注意

＊ 作業灯は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

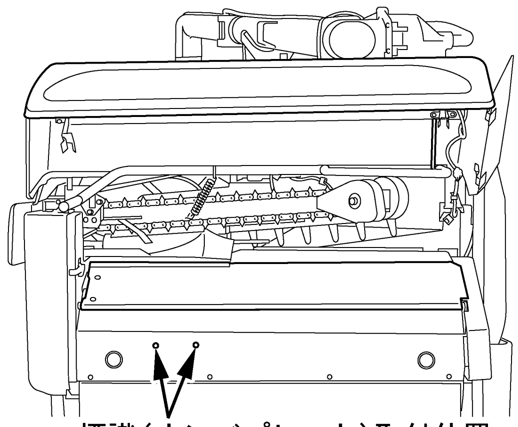
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. 結束機，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送(44 ページ参照）してください。（カッタ，ドロッパは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。



1ARADBIAP094A　※イラストは G仕様

◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

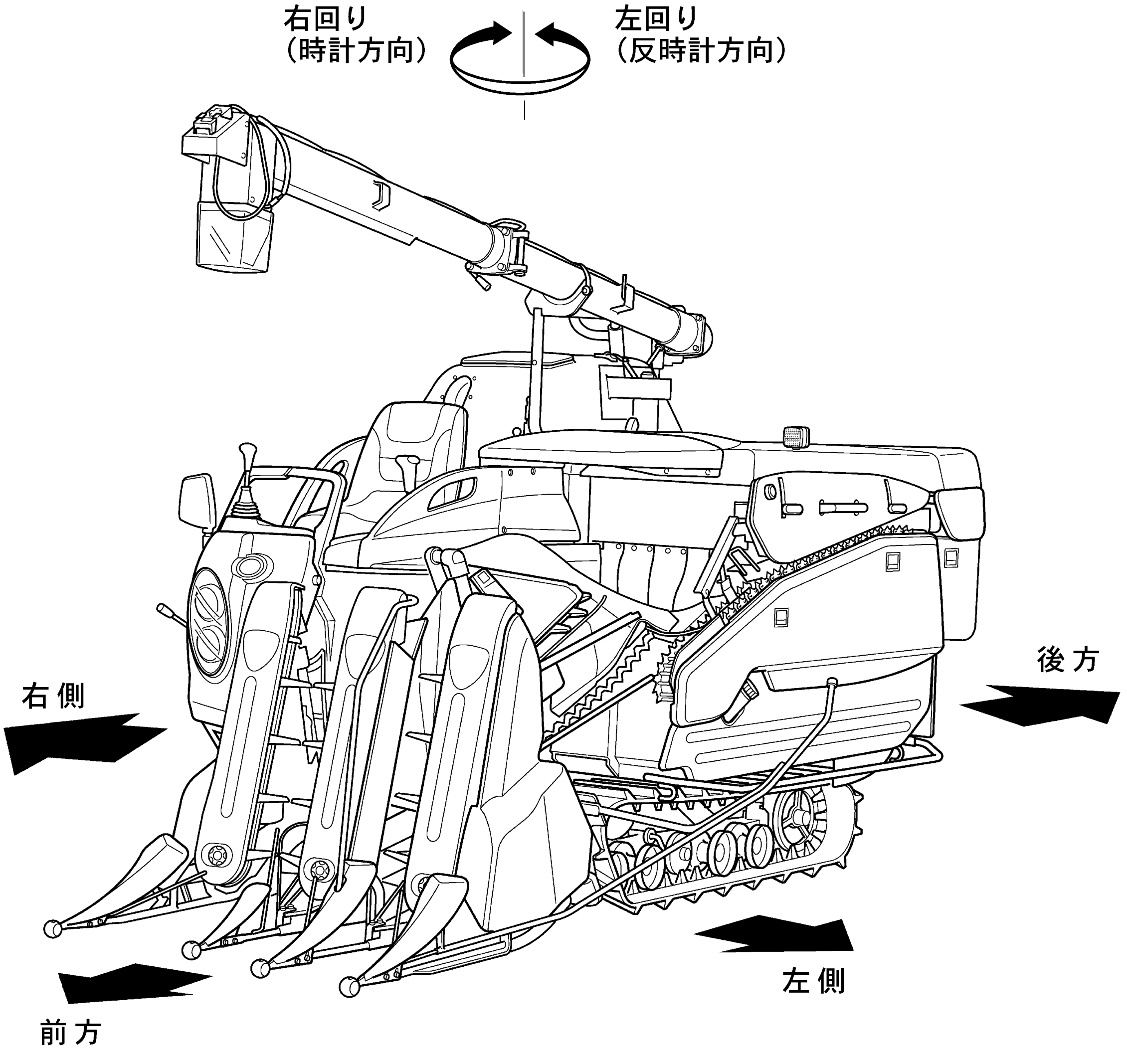
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

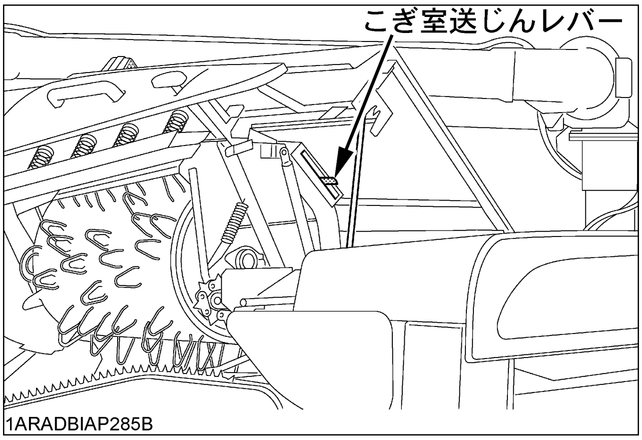


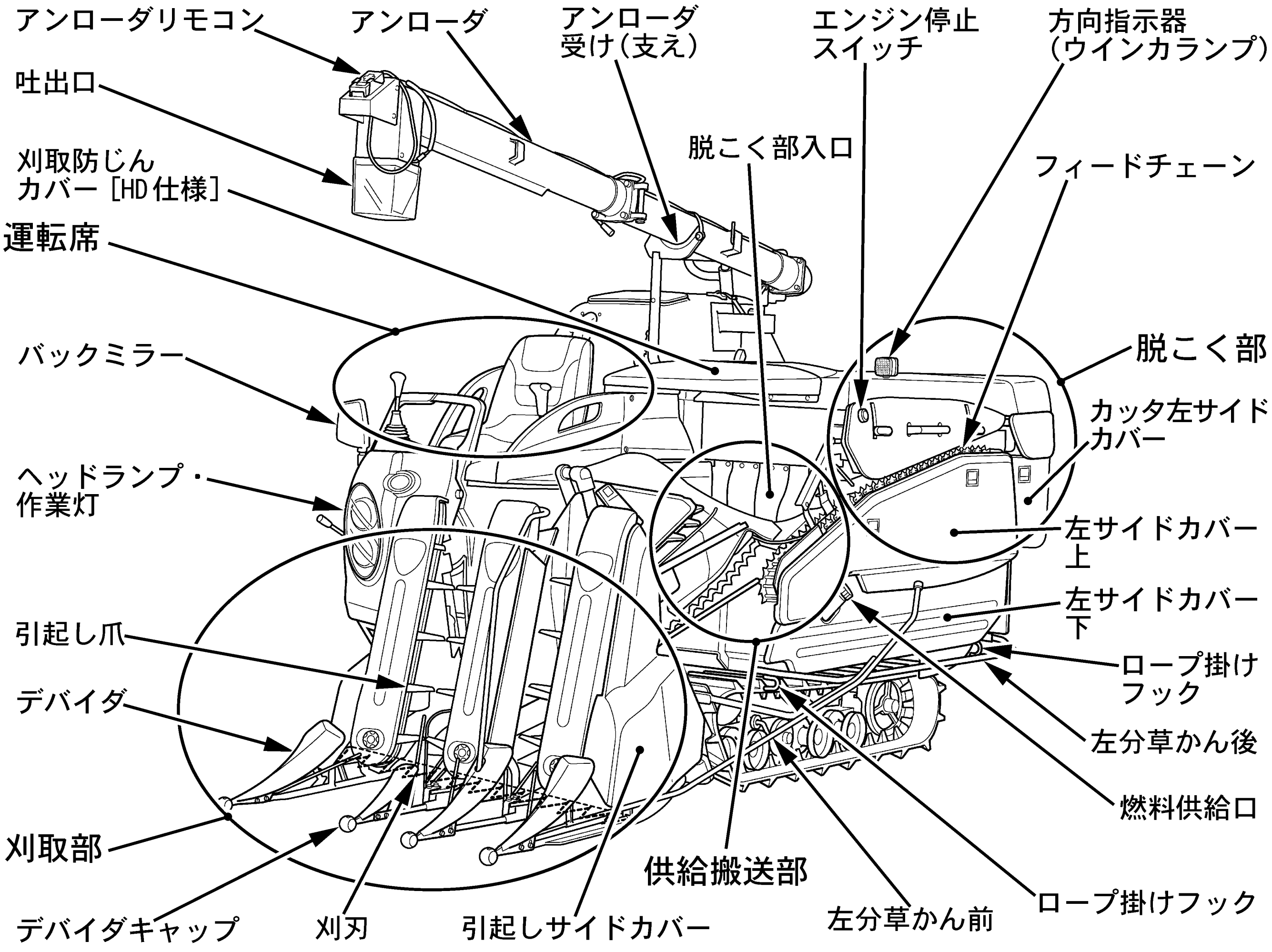
1ARADBIAP277C

※イラストは 323G仕様

装置の名称と各部のはたらき

[G 仕様]



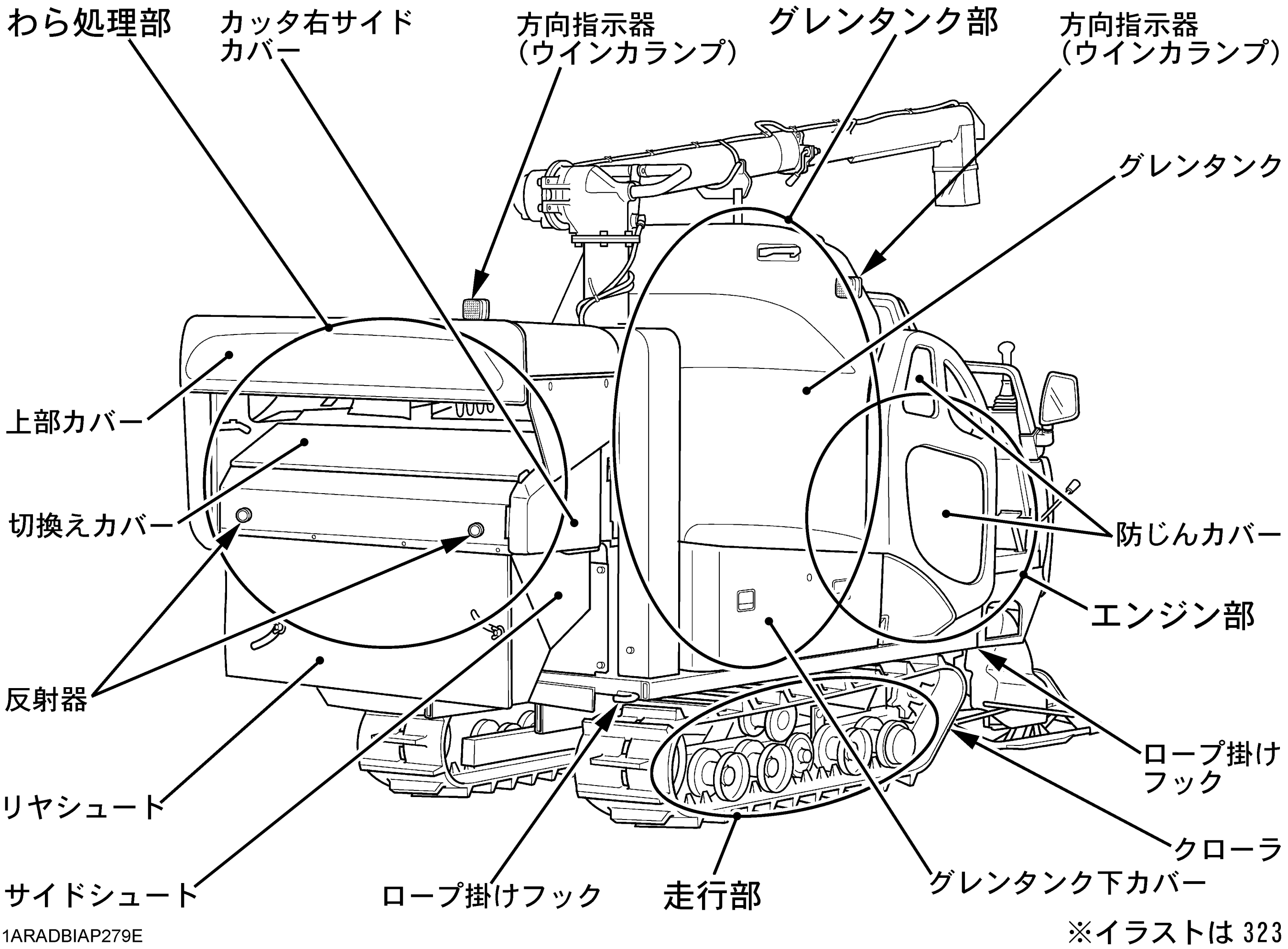


※イラストは 323

- **運転操作部**………………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……………………作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**………………刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**…………………作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**………………グレンタンクからもみを排出する筒

[G 仕様]

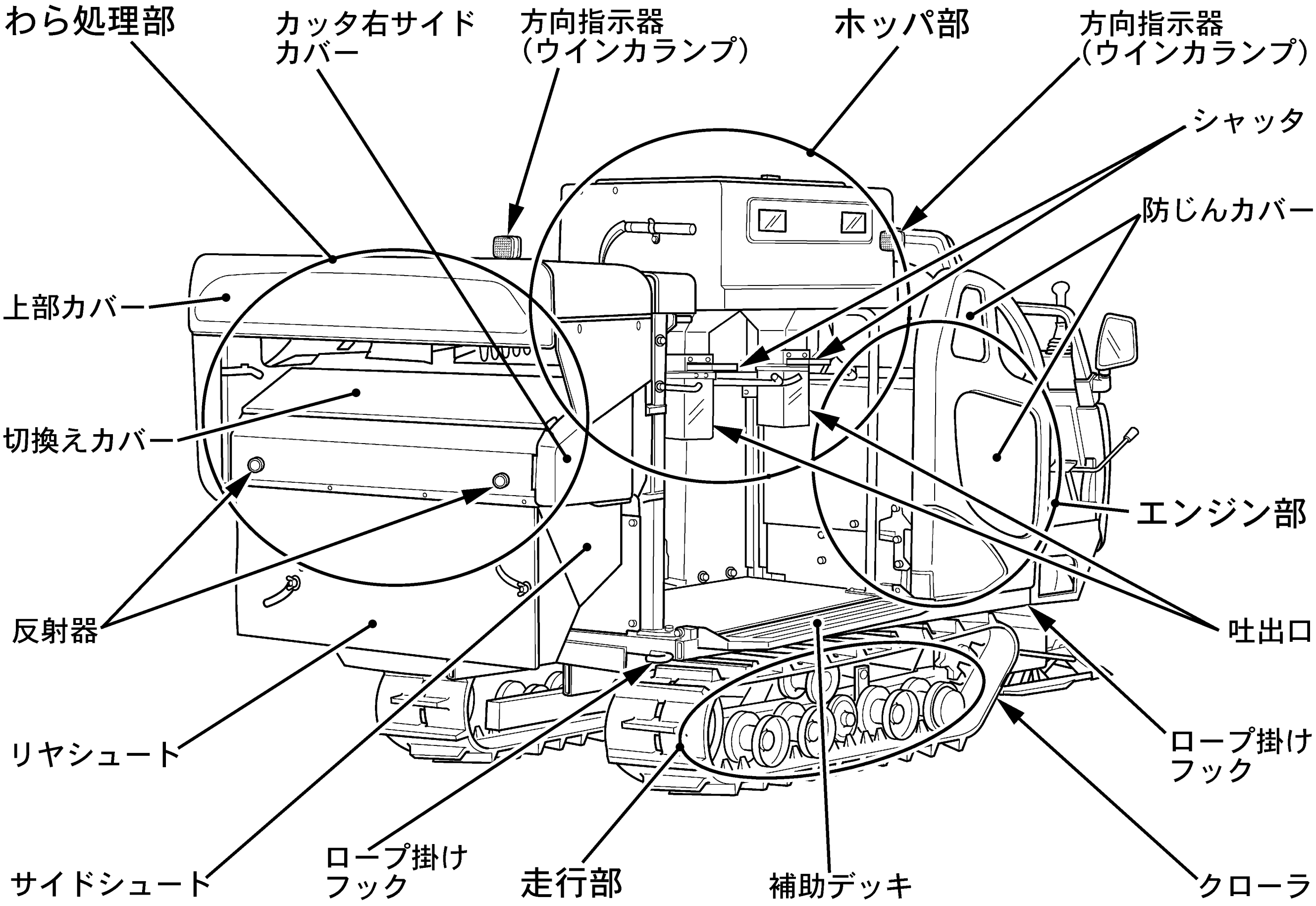
［G 仕様］



- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**…………わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

［G 仕様］

[ホッパ仕様]

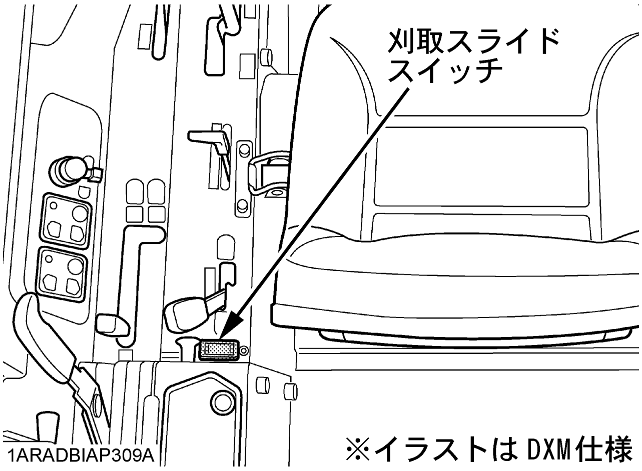


1ARADBIAP280A

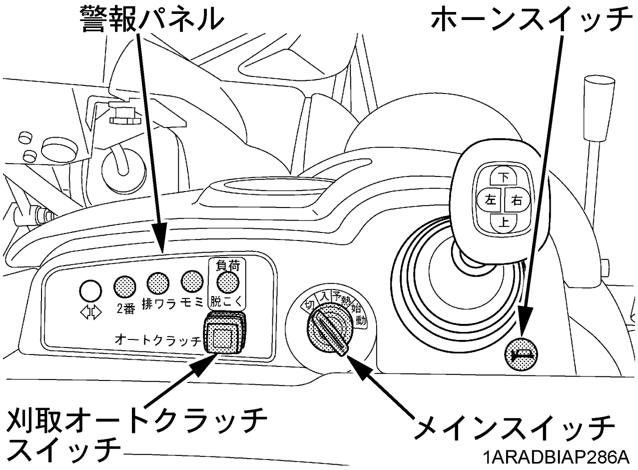
- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **ホッパ部**……………脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ
- **わら処理部**…………わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

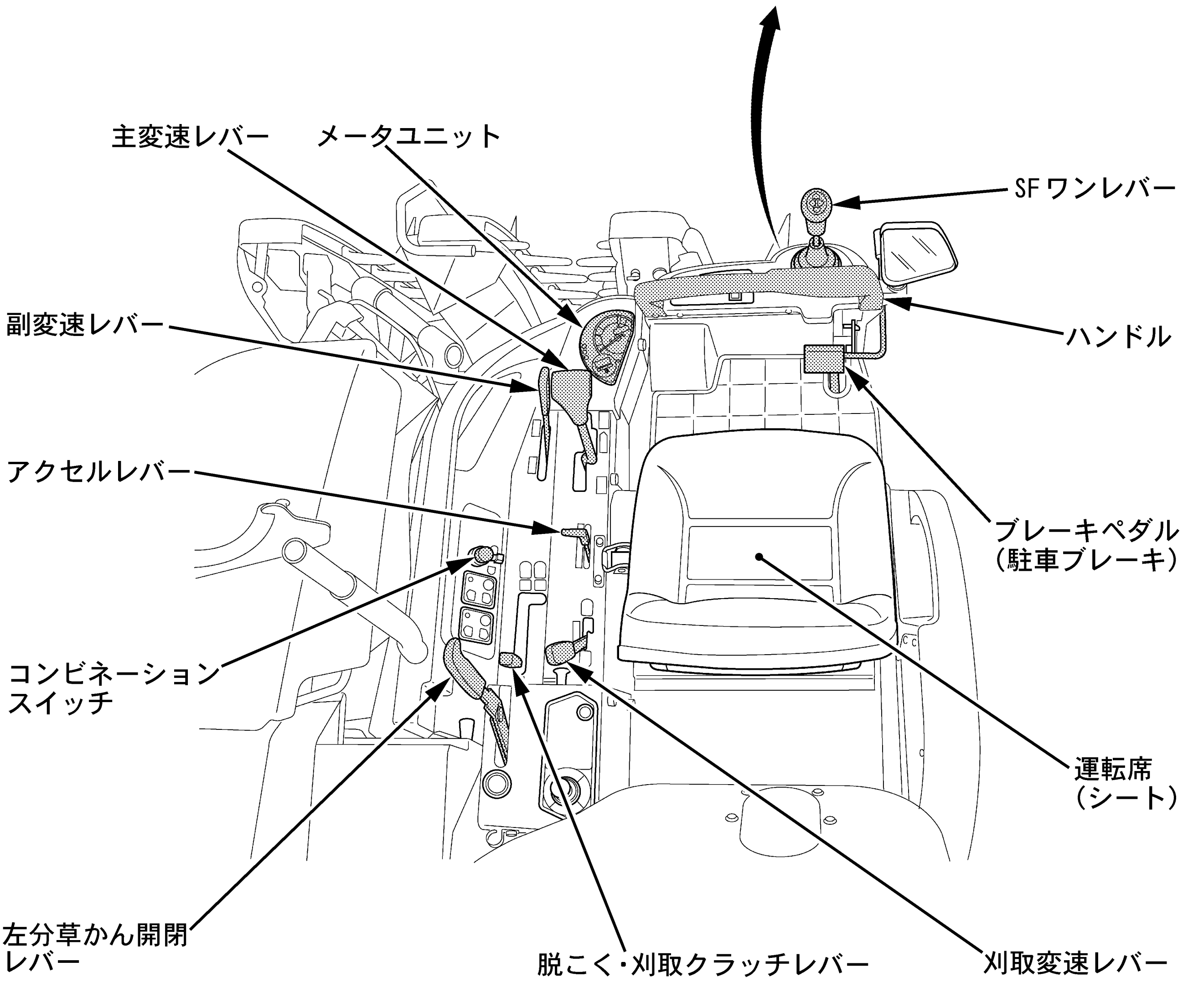
[ホッパ仕様]

[219・222]

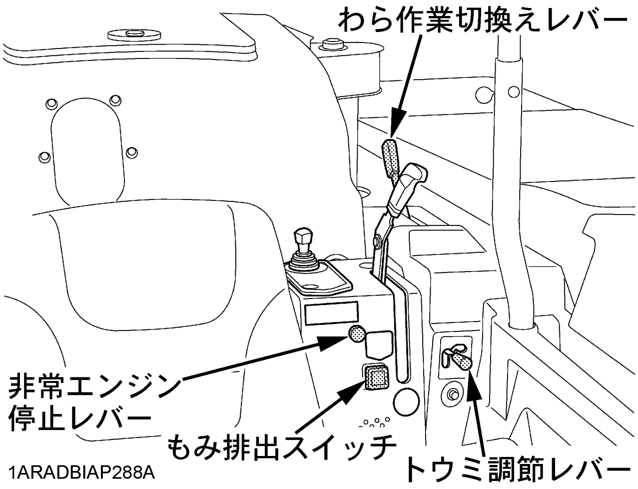


[219・222]



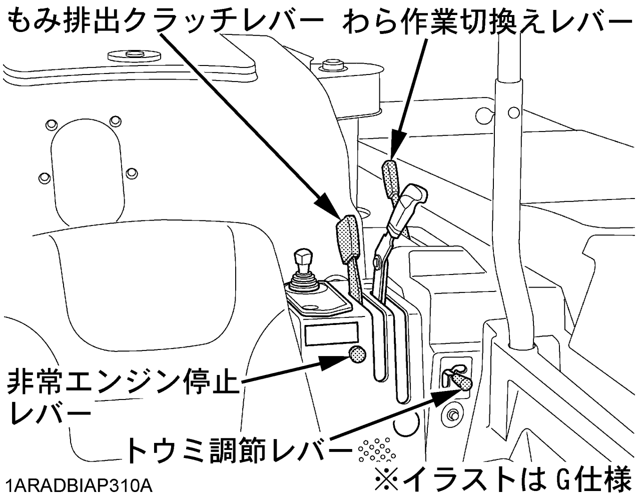


[HD 仕様]

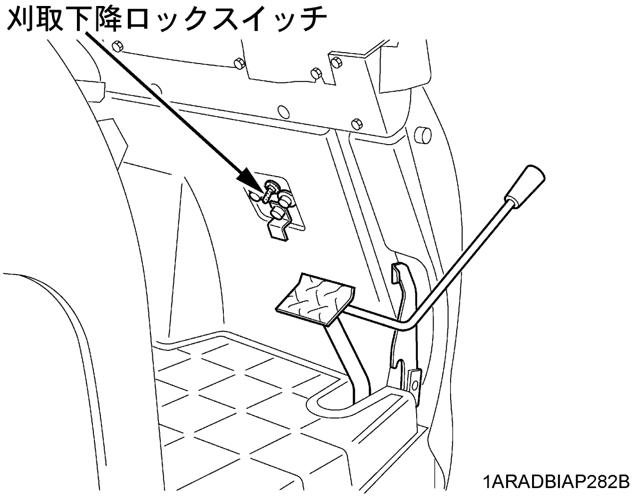


[HD 仕様]

[DX 仕様]



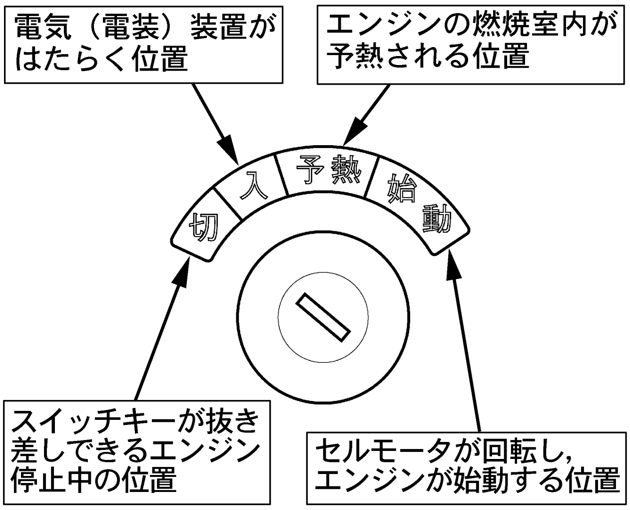
[DX 仕様]



◆ **エンジン操作関係**

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



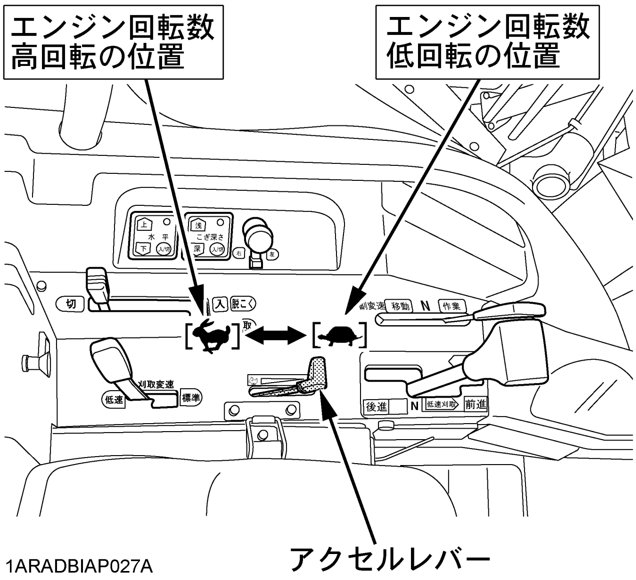
1ARADBEAP060A

補　足

＊ エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，［**入**］の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。



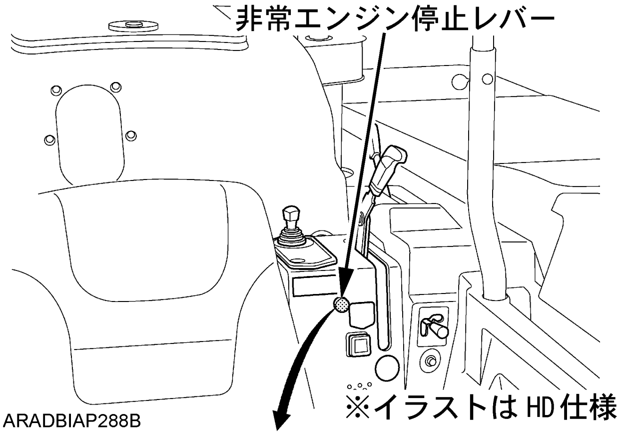
1ARADBIAP027A

補　足

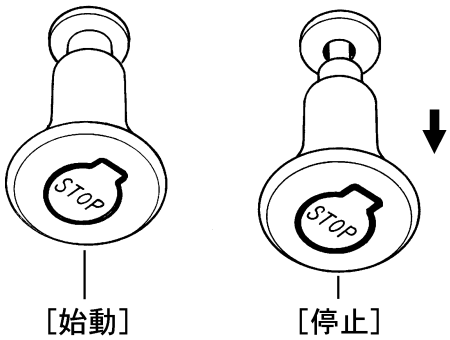
＊ エンジン回転計は，17 ページを参照してください。

■非常エンジン停止レバー

スイッチキーを［**切**］位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。



1ARADBIAP288B



1ARADAFAP051B

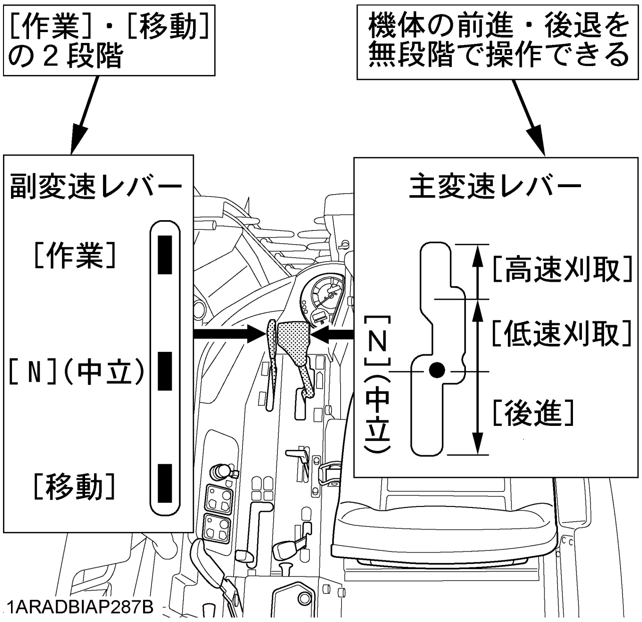
補　足

＊ レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。



重　要

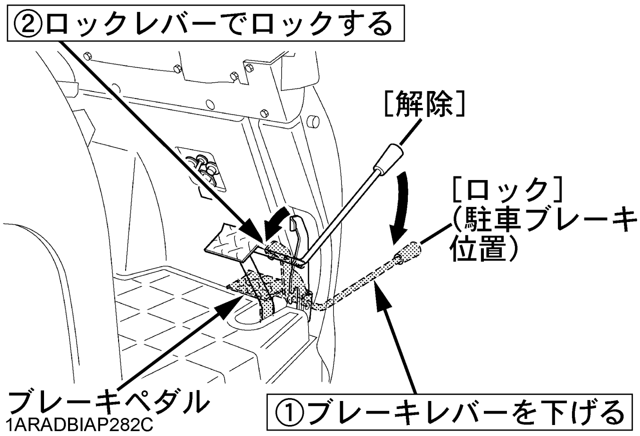
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

＊ ブレーキペダルを踏込む又は，駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[N]（中立）**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ **[後進]**位置にするとバックブザーが鳴り，後退灯（バックランプ）が点灯します。
＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを**[低速刈取]**又は，**[高速刈取]**の範囲内で刈取速度の調整を行なってください。（73 ページ参照）

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

レバーを下げるとブレーキが掛かり，ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。
駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込む又は，ブレーキレバーを押下げてロックを解除してください。



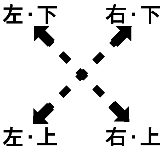
補　足

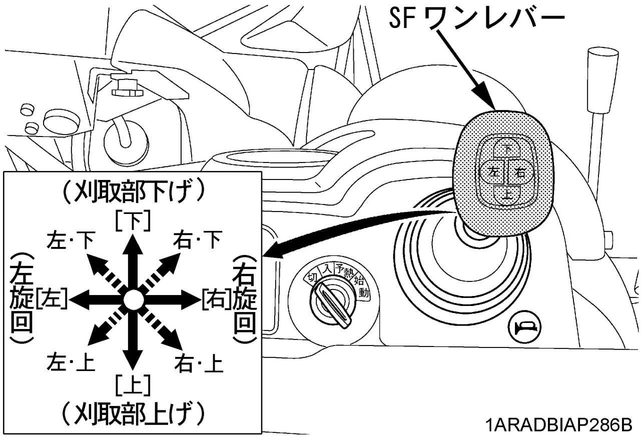
＊ 駐車ブレーキレバーを押さえると，減速すると同時に主変速レバーが**[N]（中立）**側に戻ります。
＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[N]（中立）**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

■ SF ワンレバー

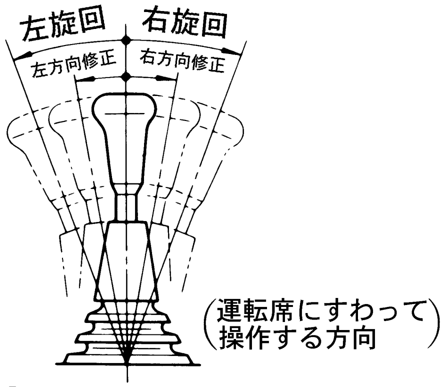
SF ワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

● SF ワンレバー

[左]⟷[右]	……	レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。
[下げ] ↕ **[上げ]**	……	レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。
	……	レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。



1ARADBIAP286B



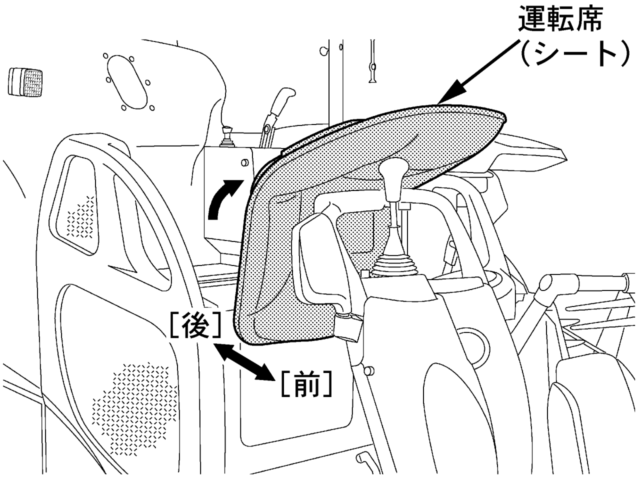
1ARADAFAP032B

補　足

＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときに SF ワンレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■運転席（シート）

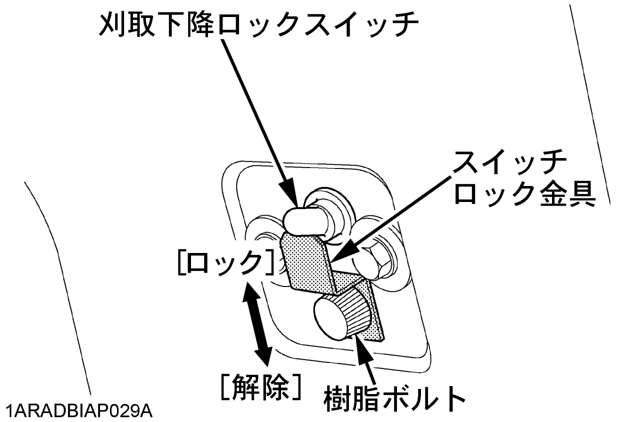
運転席（シート）を前方に倒しながら，**前・後**に調節が行なえます。



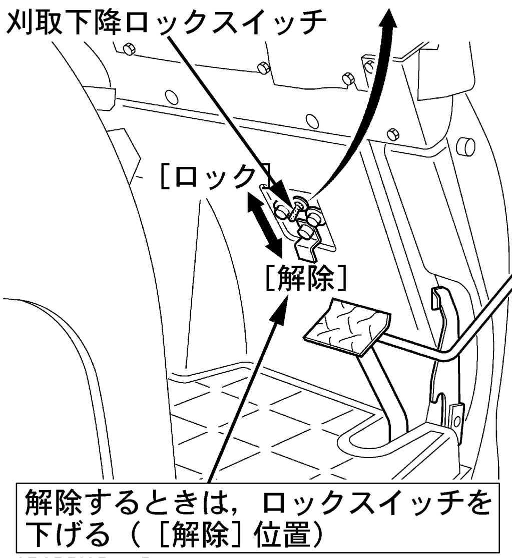
1ARADBIAP289A

■刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを上げる（**［ロック］**位置）と SF ワンレバーを操作しても刈取部は下降しません。



1ARADBIAP029A



1ARADBIAP282D

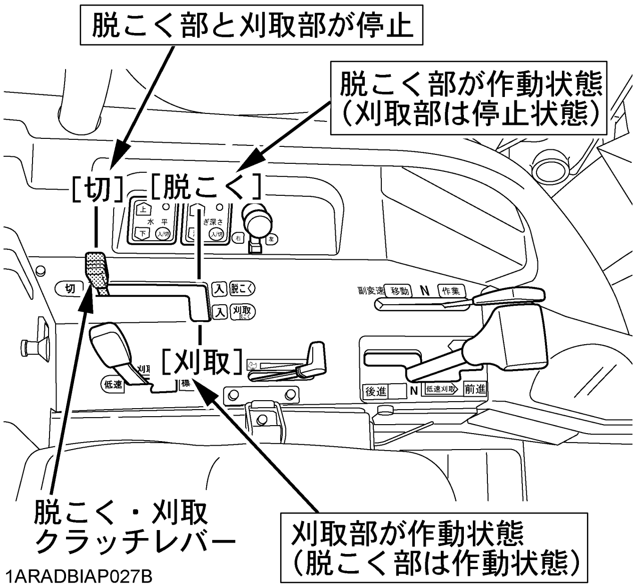
補　足

- ＊ ロックスイッチを上げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し，解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。
- ＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇，下降しません。
- ＊ メンテナンスなどで，刈取部を上げた状態で点検・調整などの作業を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■脱こく・刈取クラッチレバー

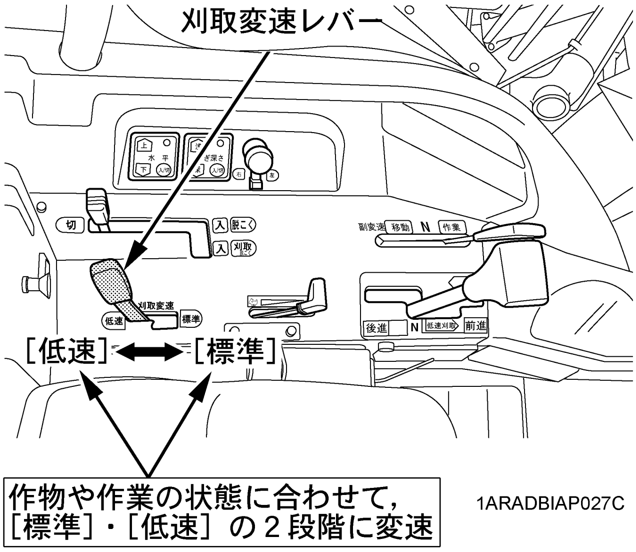
脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



1ARADBIAP027B

■刈取変速レバー

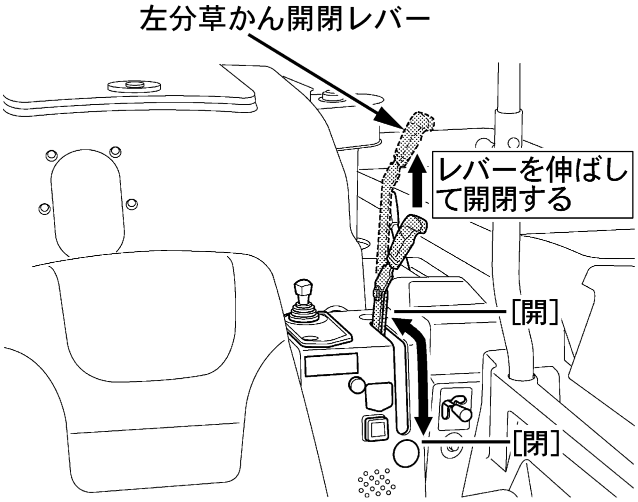
刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて，**［標準］**と**［低速］**の２段階に変速できます。



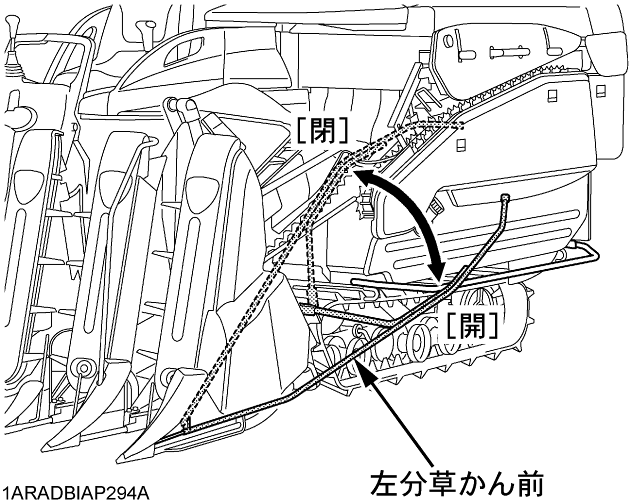
1ARADBIAP027C

■左分草かん開閉レバー

左分草かん前を開閉するレバーです。



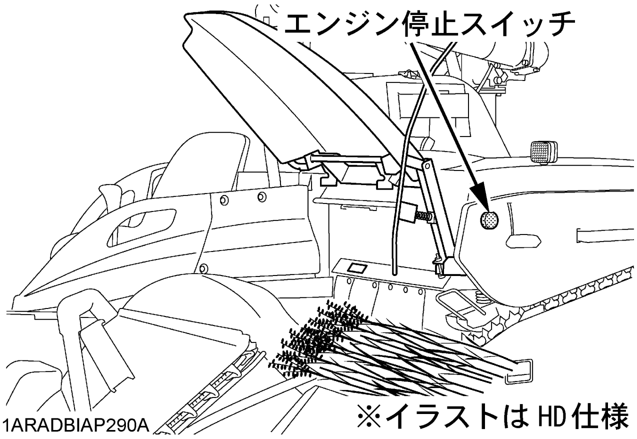
1ARADBIAP288C



1ARADBIAP294A

■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBIAP290A ※イラストはHD仕様

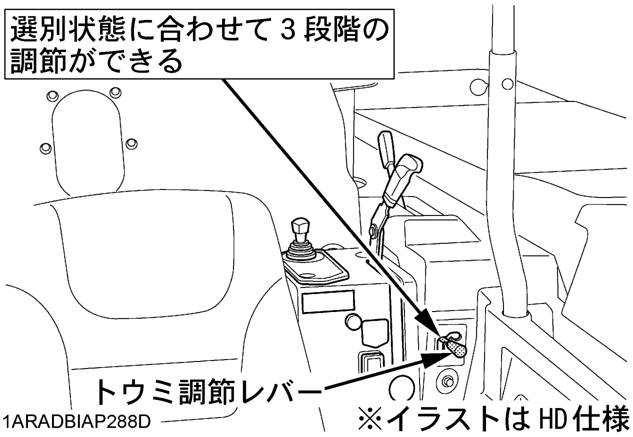
補　足

＊ スイッチキーを［切］位置にするとブザーは止まります。

＊ スイッチキーを［切］位置に戻してからエンジンを再始動してください。

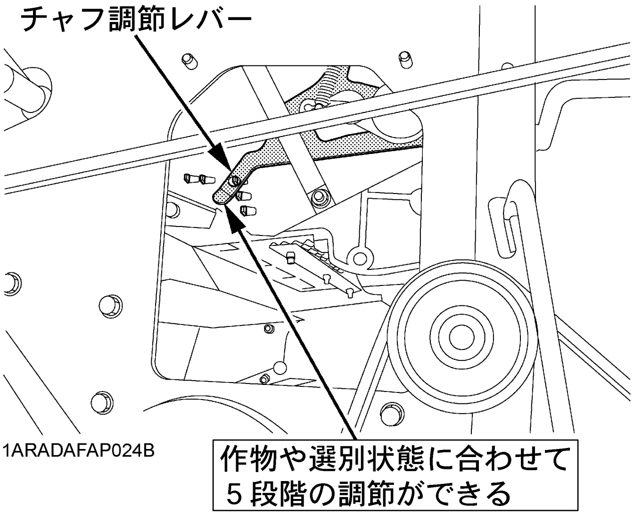
■トウミ調節レバー

トウミの風力調節を行なうレバーです。



■チャフ調節レバー

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。



補　足

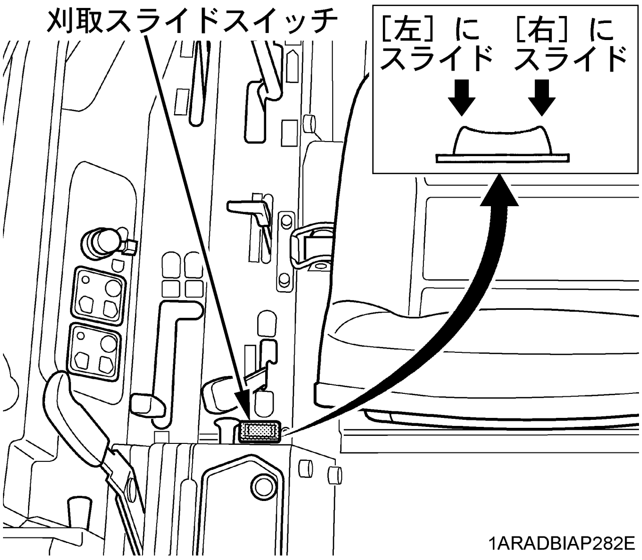
＊ チャフ調節レバーは，左サイドカバーを取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

■刈取スライドスイッチ

［219・222］

刈取部を左・右にスライドさせるスイッチです。

（70 ページ参照）



補　足

＊ 刈取スライド装置は，エンジン停止中でも，メインスイッチ **［入］** の位置で動きますが，バッテリ上がり防止のため，エンジンを始動してから操作してください。

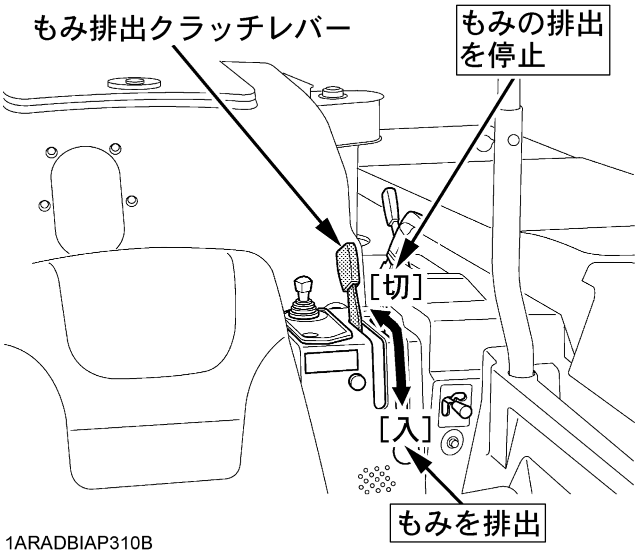
［219・222］

◆ **グレンタンク関係［G 仕様］**

■もみ排出クラッチレバー

［DX 仕様］

グレンタンク内のもみ排出操作を行なうレバーです。



1ARADBIAP310B

補　足

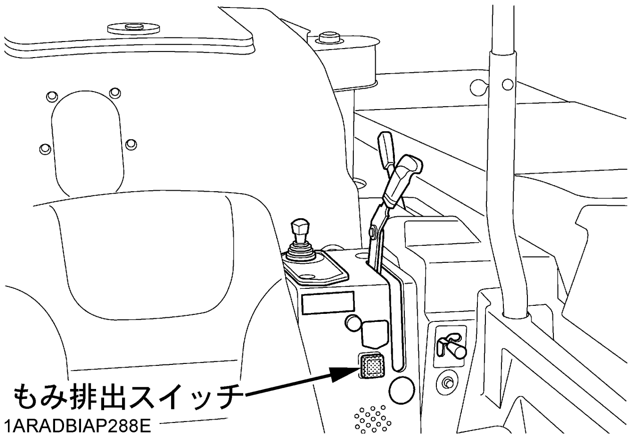
＊ もみ排出クラッチレバーを **［切］** 位置にしないと，エンジンは始動しません。
＊ もみ排出クラッチレバーが **［入］** 位置でエンジンを始動しようとすると, **［モミ排出クラッチを切ってください］** という音声が流れます。

［DX 仕様］

■もみ排出スイッチ

［HD 仕様］

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。スイッチを押してもみ排出の **［入］・［切］** を行ないます。



1ARADBIAP288E

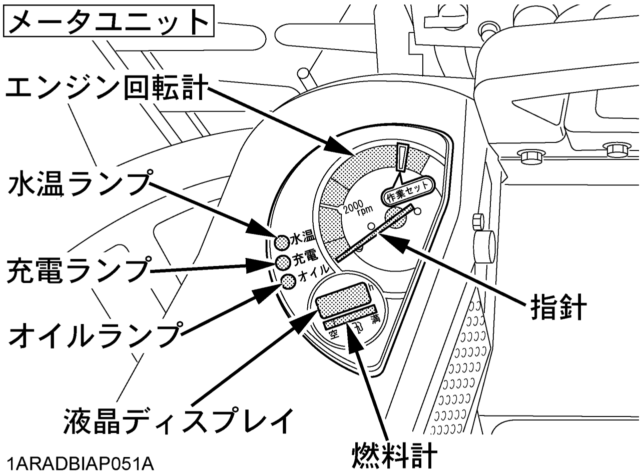
補　足

＊ スイッチを押してランプが点灯するともみが排出し，再度スイッチを押すとランプが消灯しもみの排出が停止します。
＊ エンジン始動後は，アンローダが収納状態でもみ排出スイッチを操作しても，もみは排出しません。

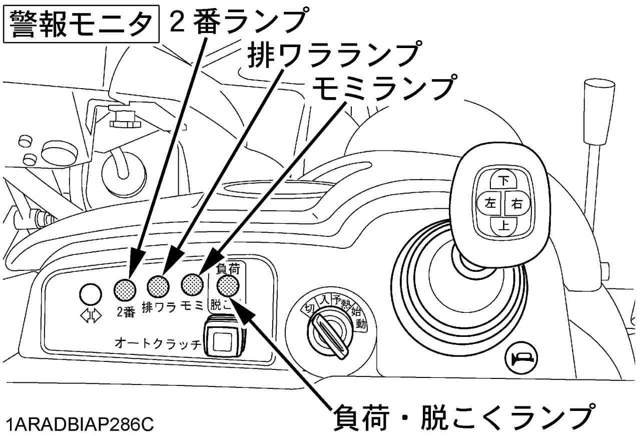
［HD 仕様］

◆ 電装関係

■メータユニット・警報モニタ



1ARADBIAP051A



1ARADBIAP286C

◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

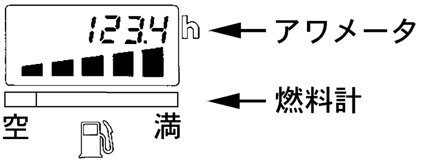
１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を液晶の目盛り（ ５段階 ）で表示します。

● アワメータ（単位：h 〔時間〕）

エンジン運転時間の積算使用時間を液晶ディスプレイに表示します。



1ARADAFAP037A

補　足

＊ 機械に異常が発生すると，液晶ディスプレイにエラーメッセージ（例：E-012 ）を表示します。エラーメッセージが表示されたときは，購入先に連絡してください。

◆ **各ランプ**

補　足

＊ 処置については，88 ページを参照してください。

＊ エンジンが停止しているとき，スイッチキーを **［入］** 位置にすると，充電ランプ・オイルランプが点灯しますが異常ではありません。

● **水温ランプ**

エンジンの冷却水温が高温になると点滅します。**（水温警報）**

補　足

＊ 水温警報が鳴ると同時に，水温ランプが点滅し，ブザーが鳴ります。

● **充電ランプ**

充電系統に異常が発生すると点灯します。**（充電警報）**

● **オイルランプ**

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。**（油圧警報）**

● **２番ランプ**

２番処理ケース内又は，２番縦スクリュケース内が詰まると点滅し，ブザーが鳴ります。**（２番警報）**

● **排ワラランプ**

フィードチェーン終端部及びわら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止 **（エンジン自動停止装置）** すると点滅し，ブザーが鳴ります。**（排ワラ警報）**

補　足

＊ 排ワラランプ表示は，**［結束機付き仕様］** の場合，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも点滅します。

● **モミランプ**

ホッパ内又は，グレンタンク内のもみが満杯になると点滅し，ブザーが鳴ります。**（もみ満杯警報）**

● **負荷・脱こくランプ**

エンジンに負荷がかかってくるとランプが点滅し，ブザーが鳴ります。**（負荷警報）** また，脱こく機のシーブケース上で詰まりが発生するとランプが点滅し，ブザーが鳴ります。**（シーブ警報）**

補　足

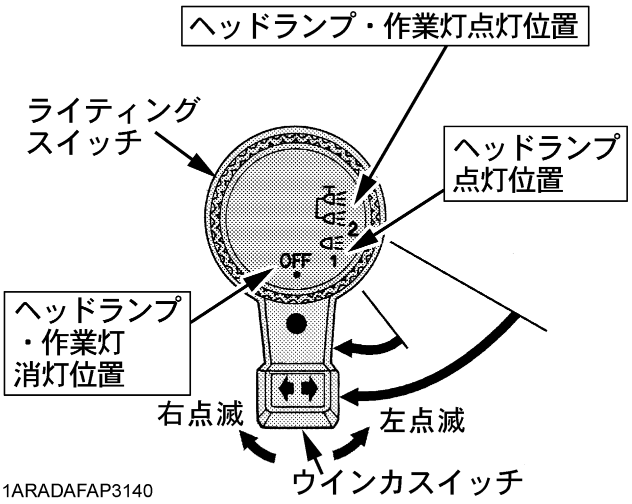
＊ エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。指針の示す位置で以下のようになります。

適正範囲（緑色）

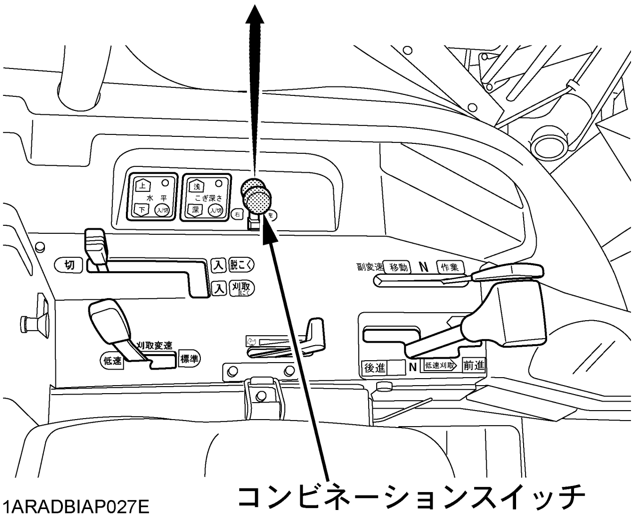
⬇

即時減速（赤色）……　ランプ点滅
ブザーが鳴る

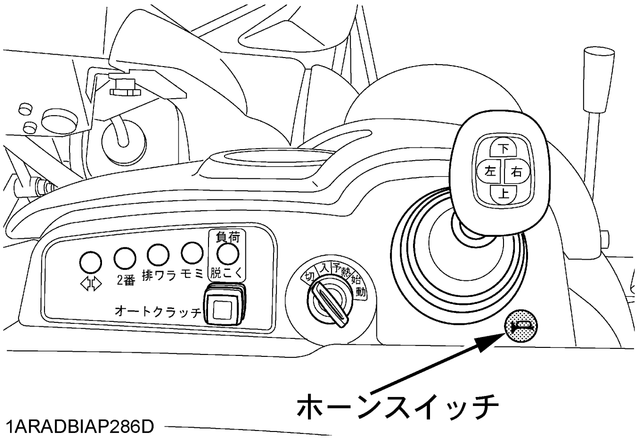
■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ



1ARADAFAP3140



1ARADBIAP027E



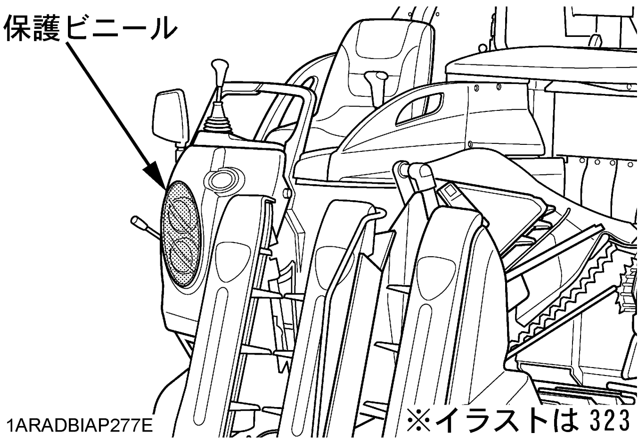
1ARADBIAP286D

● **ライティングスイッチ**

スイッチを操作するとランプが点灯します。

重　要

＊ ヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは，保護ビニールをはがしてください。ランプの熱でビニールが溶けたりランプが高熱になり破損する原因となります。



1ARADBIAP277E

補　足

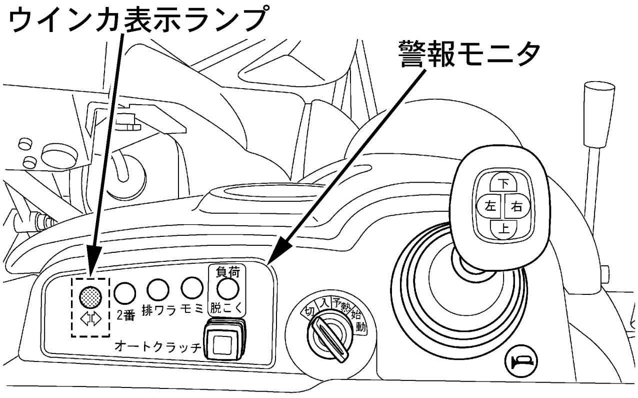
＊ 作業灯はオプション部品です。

● **ホーンスイッチ**

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

● **ウインカスイッチ**

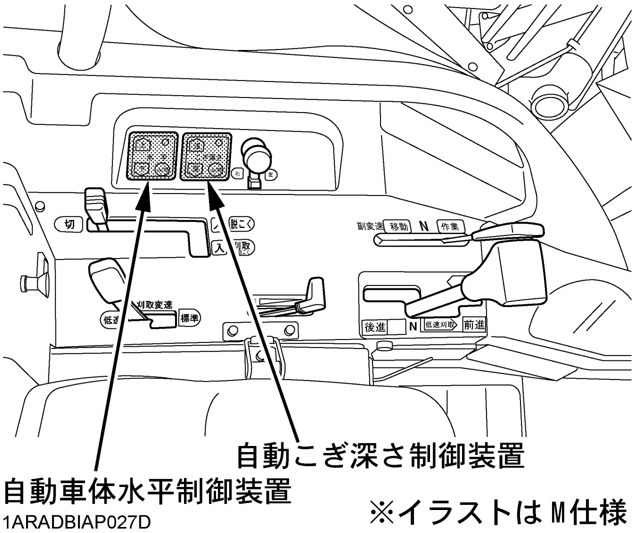
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時に警報モニタ内のウィンカ表示ランプが点滅します。



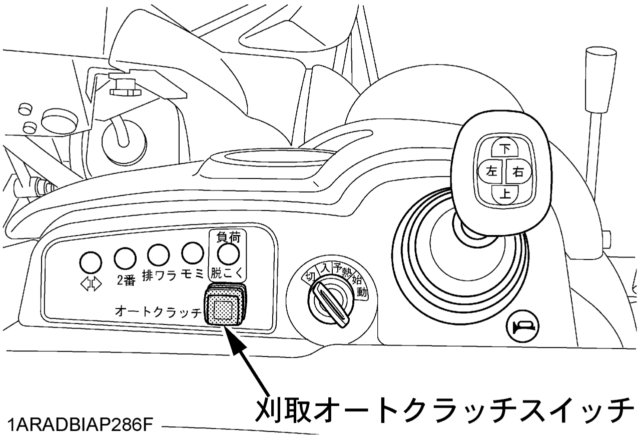
1ARADBIAP286E

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

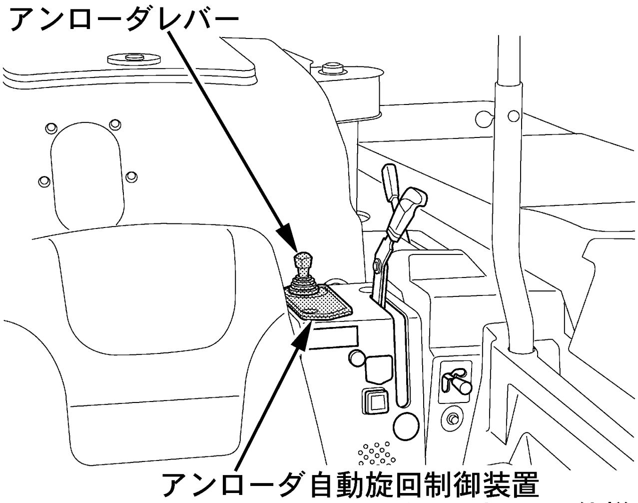


1ARADBIAP027D　※イラストはM仕様



1ARADBIAP286F

[G仕様]



1ARADBIAP288F　※イラストはHD仕様

[G仕様]

■自動車体水平制御装置（モンロー）

[M仕様]

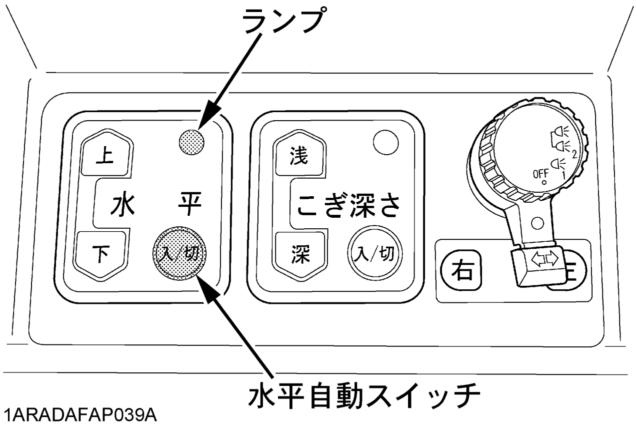
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

● **水平自動スイッチ**

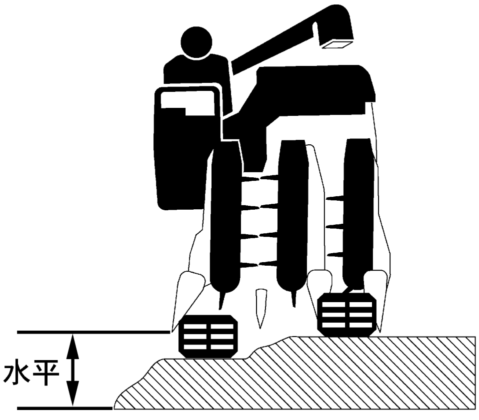
自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。

自動車体水平制御［入］…… ランプが点灯し，自動車体水平制御が作動します。

自動車体水平制御［切］…… ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。



1ARADAFAP039A



1ARADAFAP040A

補　足

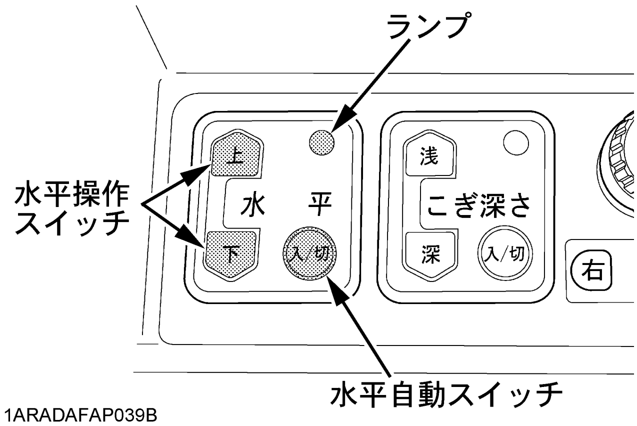
＊ 自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを **［切］**位置にするか，又は水平自動スイッチを **［切］**にすると，機体はいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作スイッチを操作すると下降が停止します。
＊ 水平自動スイッチを **［入］** 位置にしたとき，ランプが点滅しているときは，システム異常を起こしていますので購入先に連絡してください。

［M 仕様］

■水平操作スイッチ

［M 仕様］

車体右側の**上昇⟷下降**を行なう手動操作スイッチです。



1ARADAFAP039B

スイッチの操作方向	機体の動き
上	右側上昇
下	右側下降

補　足

＊ 自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作スイッチによる操作が優先されます。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

［M 仕様］

■自動こぎ深さ制御装置

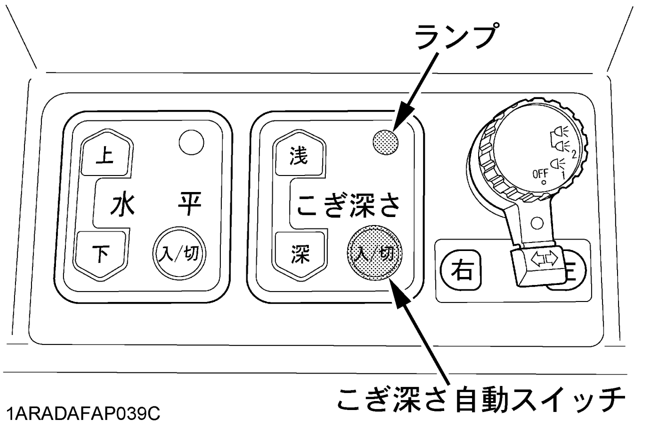
こぎ深さ自動制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

● こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。

自動こぎ深さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動こぎ深さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

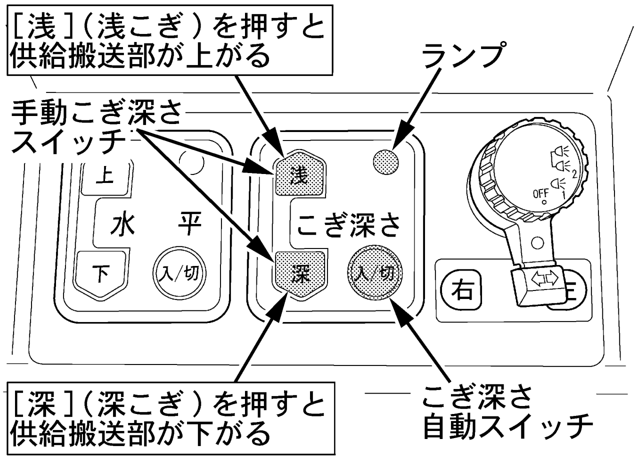


1ARADAFAP039C

■手動こぎ深さスイッチ

● **手動操作時**

こぎ深さを手動で行なう場合は，こぎ深さ自動スイッチを **[切]（ランプ消灯）** にしてください。



1ARADAFAP039I

スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

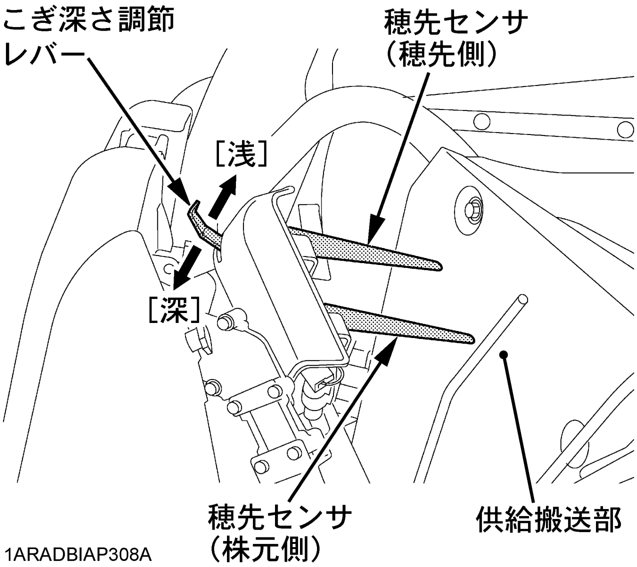
補　足

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

● **穂先センサの位置調節について**

通常は **[ほぼ中央]** に合わせてください。調節は，こぎ深さ調節レバーを **[深]** の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，こぎ深さ調節レバーを **[浅]** の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。

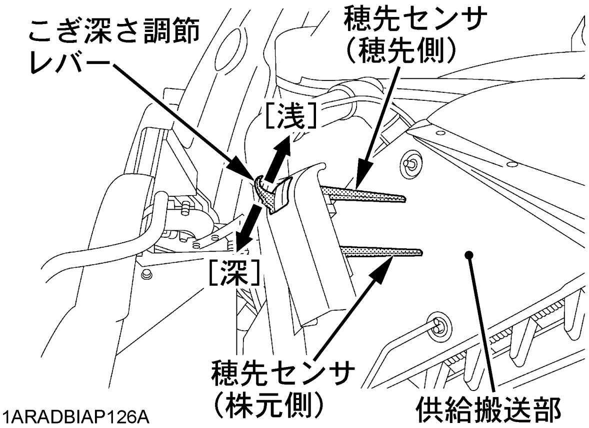
[219・222]



1ARADBIAP308A

[219・222]

[320・323]



1ARADBIAP126A

[320・323]

補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約 130cm 以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 作物よりも長い雑草が多いとき
- 倒伏作物を刈取るとき

■刈取オートクラッチ

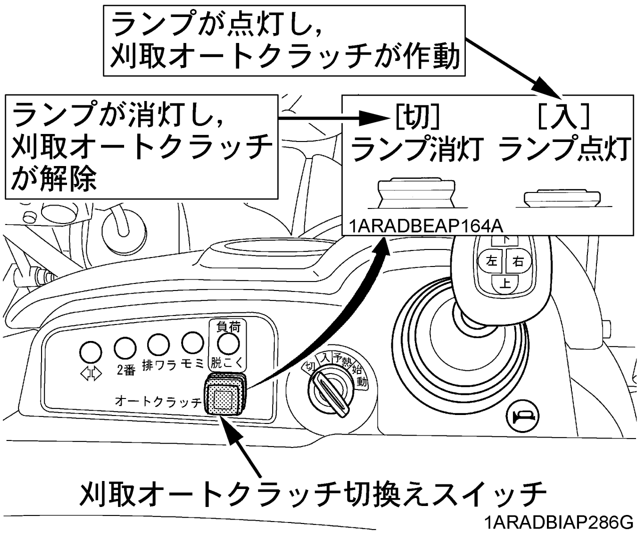
刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中に SF ワンレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

● オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。

オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

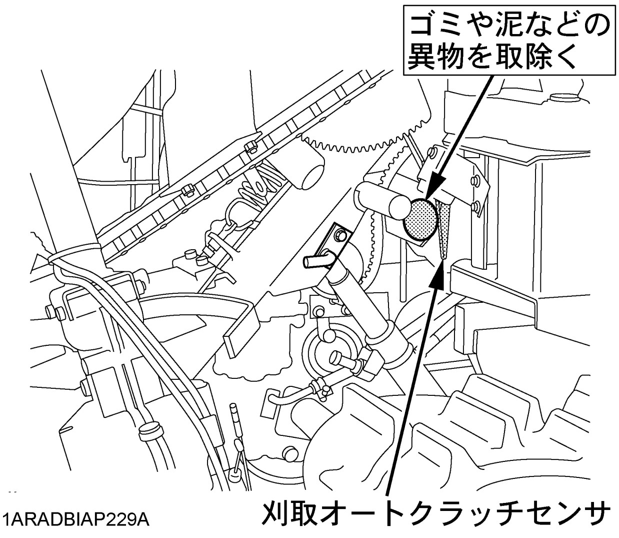


補　足

＊ 刈取オートクラッチ切換えスイッチ**［入］**（ランプ点灯）で，刈取搬送部が停止しているとき，切換えスイッチを**［切］**（ランプ消灯）にすると刈取搬送部を再度動かすことができます。

［320・323］

＊ 刈取作業中に刈取部を上昇してもオートクラッチが切れない（作物の搬送が停止しない）ときは，センサ部に溜まっている泥やゴミを掃除して取除いてください。



［320・323］

■アンローダ自動旋回制御装置

[G 仕様]

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

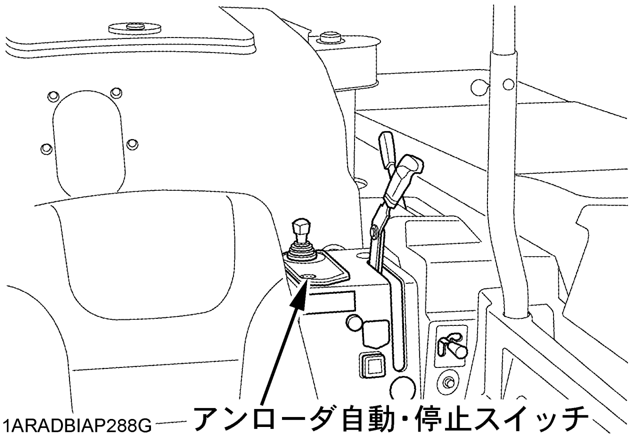
● **アンローダ自動・停止スイッチ**

アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと

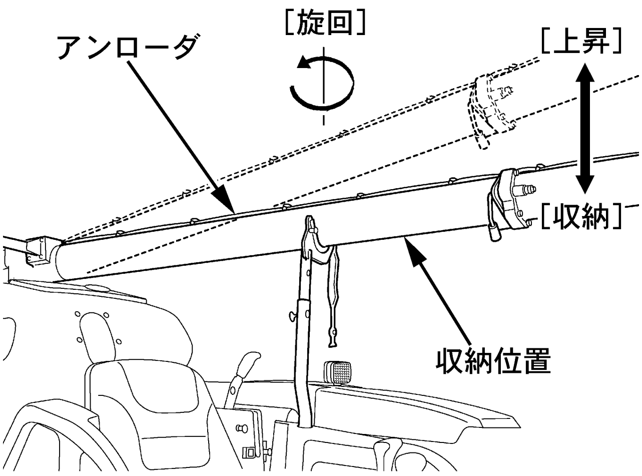
1. **収納位置**（アンローダ受けに収納状態）にあるときは，アンローダが上昇し排出位置（**[後]**方）まで自動的に旋回します。
2. **自動上昇・旋回・下降途中**でスイッチを押すと，その位置で停止します。そのあと，もう一度スイッチを押すと，アンローダの位置により次のように動きます。

(1) **自動旋回途中・収納位置以外での自動上昇途中**の場合は，収納位置まで自動的にもどります。

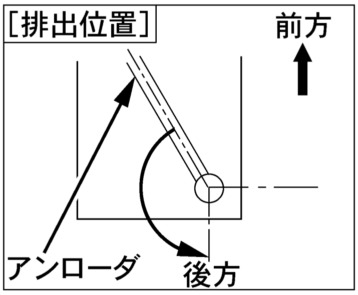
(2) **収納位置からの自動上昇途中・収納位置への下降途中**の場合は，排出位置まで上昇・旋回をします。



1ARADBIAP288G



1ARADBIAP032A



1ARADAFAP045G

重　要

＊ エンジン停止中でもメインスイッチ**[入]**の位置で旋回操作はできますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

補　足

＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

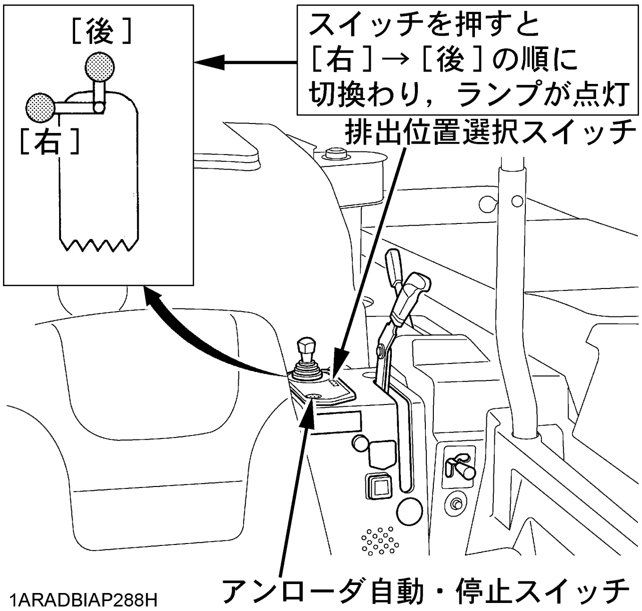
＊ 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待ってから自動・停止スイッチを押してください。

＊ アンローダが上限位置のとき，自動・停止スイッチを押すと約２秒後に旋回しますが，この間に自動・停止スイッチを再度押さないでください。

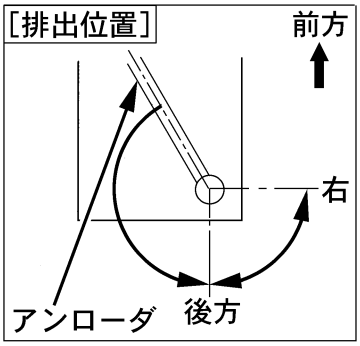
[HD 仕様]

● **排出位置選択スイッチ**

自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**[右]・[後]** の２方向）の選択を行なうスイッチです。



1ARADBIAP288H



1ARADAFAP045H

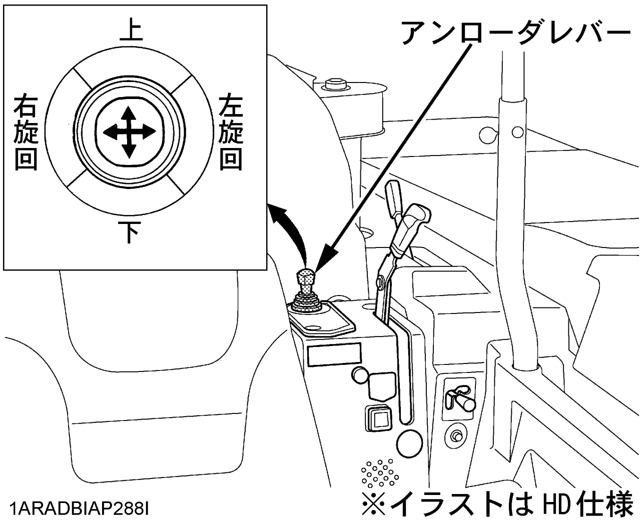
[HD 仕様]

[G 仕様]

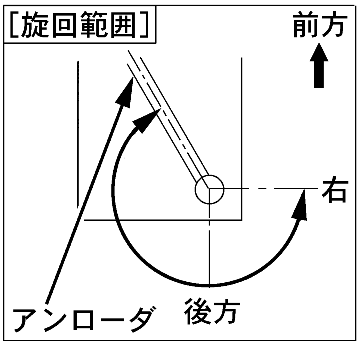
■アンローダレバー

[G 仕様]

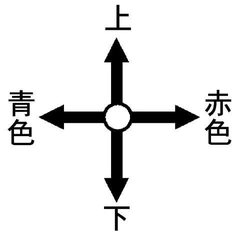
アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。



1ARADBIAP288I

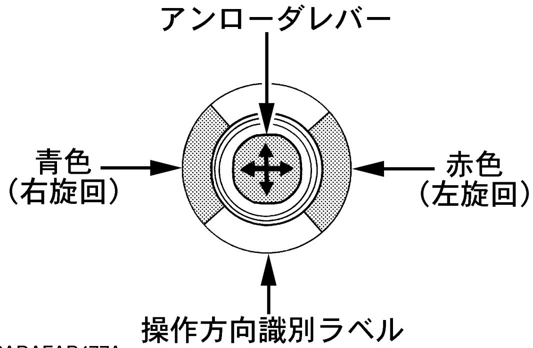


1ARADAFAP045I

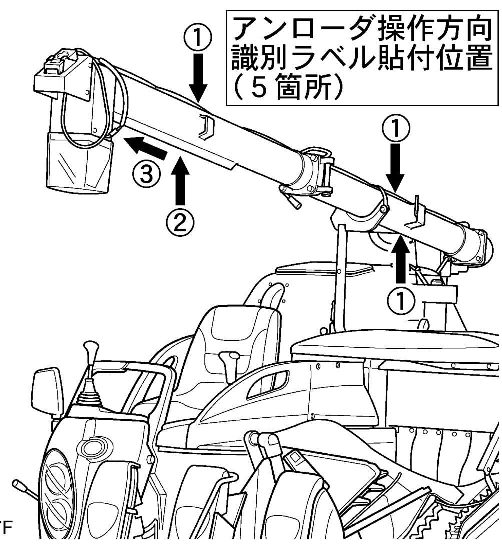
	レバーの操作方向	アンローダの動き
	上	上昇
	下	下降
	赤色	左回り（反時計方向）に旋回
	青色	右回り（時計方向）に旋回

補　足

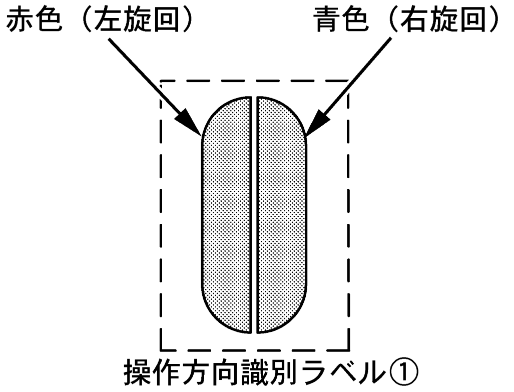
＊ アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



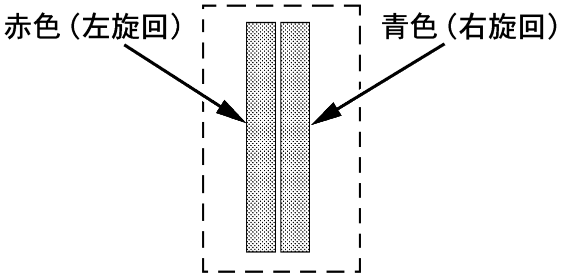
1ARADAFAP477A



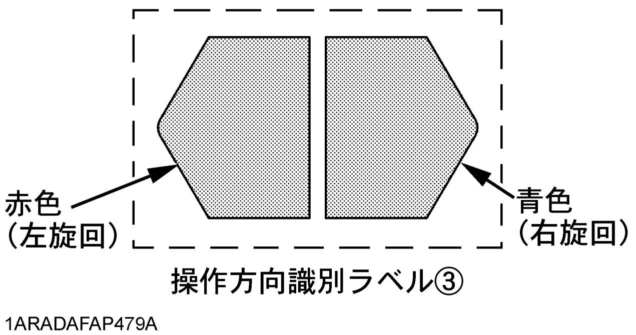
1ARADBIAP277F



1ARADAKAP280B



1ARADAFAP478A



1ARADAFAP479A

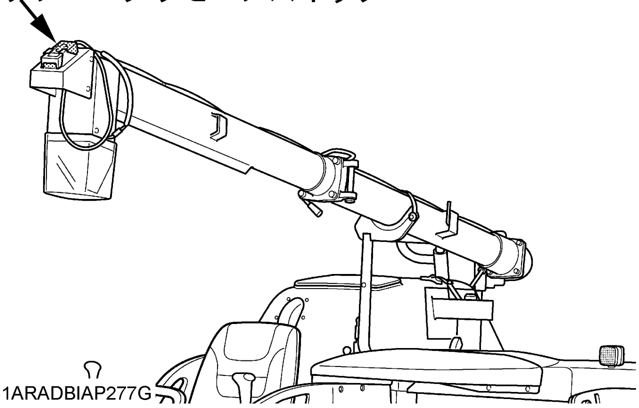
［G 仕様］

■アンローダリモコンスイッチ

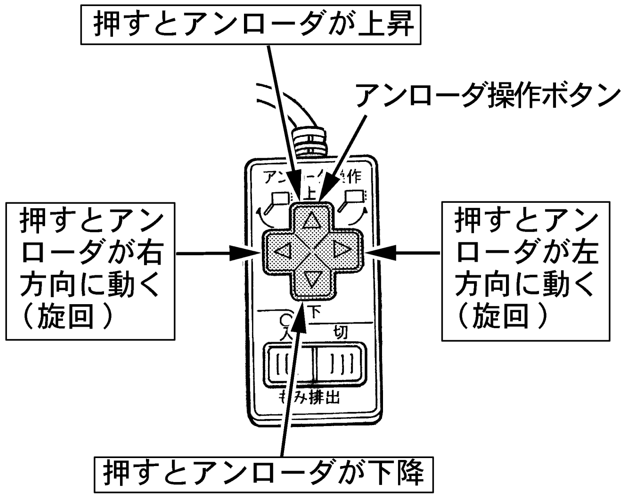
[HD 仕様]

アンローダの吐出口（先端）側からアンローダの上昇・下降及び旋回とグレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

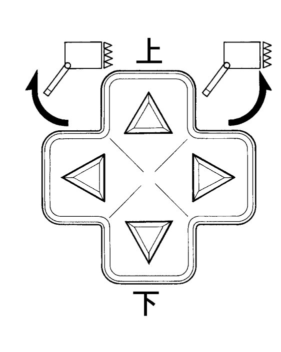
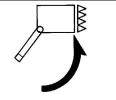
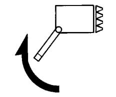
● **上昇・下降及び旋回操作**



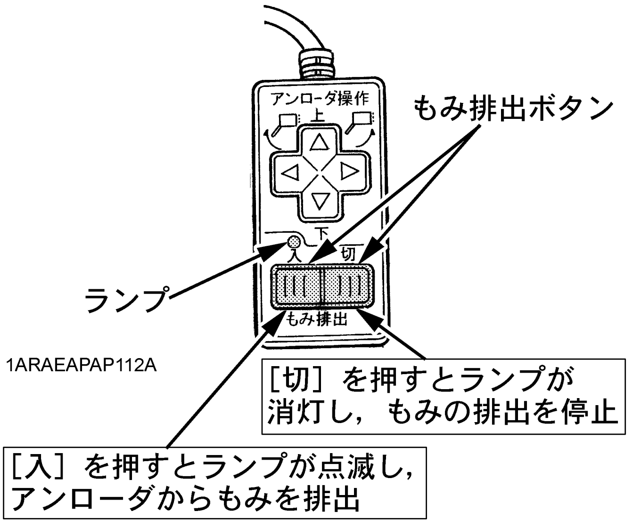
1ARADBIAP277G



1ASADAAAP1280

	操作方向	アンローダの動き
 1ASADACAP149A	上	上昇
	下	下降
		左回り（反時計方向）に旋回
		右回り（時計方向）に旋回

● **もみの排出操作**

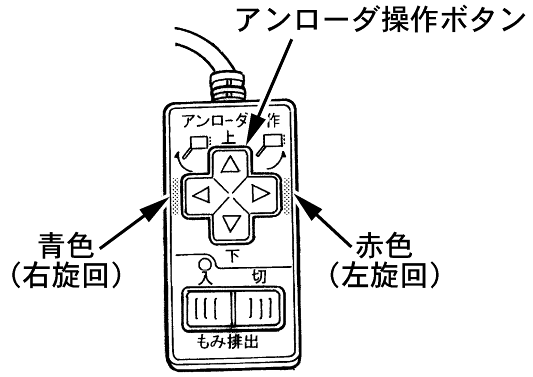


1ARAEAPAP112A

補　足

＊ アンローダレバーとアンローダリモコンを同時に操作したときは，アンローダリモコンによる操作が優先されます。

＊ アンローダ操作ボタンとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ操作ボタンを操作してください。アンローダ操作ボタンを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ操作ボタンを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。



1ASADACAP696A

＊ アンローダ受けにアンローダが収納状態のとき，もみ排出ボタンの **［入］** を押してももみは排出されません。

［HD 仕様］

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，92 ページ以降を参照）

警　告

＊ 平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整･点検･交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の **［クボタ純オイル・クボタ純グリース］** を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
機体の回りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	- - 157 120,211 ⚠-24
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	181,187,189
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	205
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	158
反射器	・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	205
こぎ胴・エンジンルームを開けて			
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。（摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	111,186
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D30 又は，D10W-30	149
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	154
ラジエータフィン オイルクーラフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	158
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	156
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	169
ホース，パイプ	・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	157
配線コード	・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・取付け又は，交換する。	202
運転席に座りメインスイッチを入れて			
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・ディーゼル軽油を補給する。	148
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。 又は，購入先へ連絡してください。	202,204
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。		
バックブザー	・主変速レバーを［**後進**］位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	198

＜ここを＞ ➡		＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする＞	参照ページ
エンジンを始動して				
メータユニット	充電ランプ	・各ランプは消灯するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付をする。	202
	オイルランプ		・エンジンオイルを規定量まで補給する。 …クボタ純オイル D30 又は，D10W-30	17,149
警報パネル			・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。	202
エンジン（マフラ）		・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	－
刈刃，各チェーン		・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	177,181
駐車ブレーキ		・駐車ブレーキは効くか。	・調整する。	162
各レバー		・各レバーの作動に異常はないか。	・調整又は，購入先へ連絡してください。	163,165
刈取スライド（刈取部）**[219・222]**		・スライドスイッチを操作したときに，刈取部の作動（スライド）に異常はないか。	・作動部にグリースを塗布する。	126
こぎ深さ制御（供給搬送部）		・手動こぎ深さスイッチを操作したときに，供給搬送部の作動（上昇 ⟷ 下降）に異常はないか。	・スライドガイドにグリースを塗布する。 ・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	126 202
エンジン停止スイッチ		・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	14,202

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

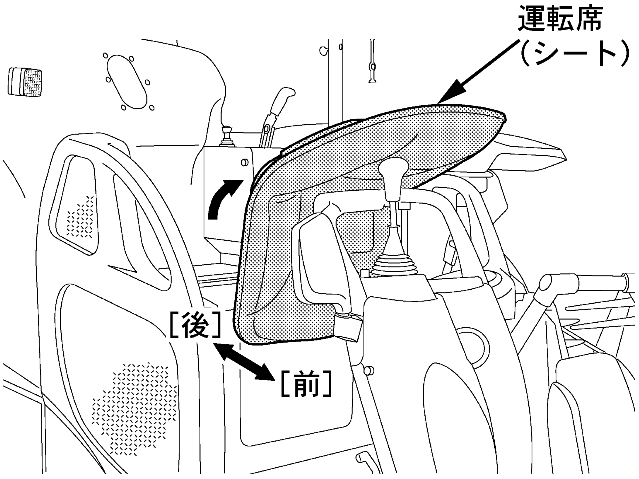
注　意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

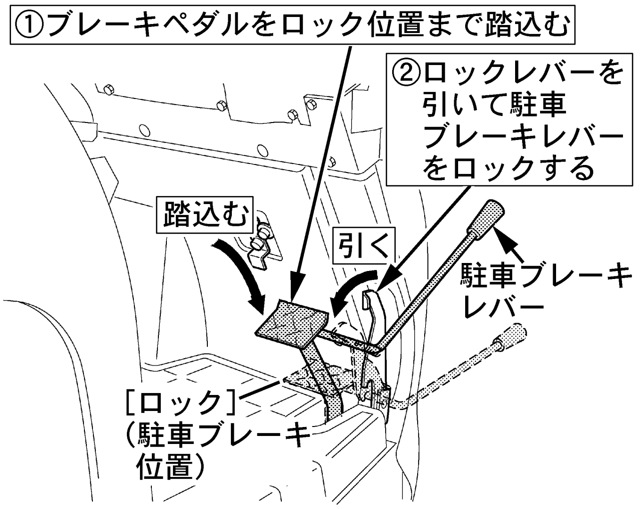
1. ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

2. 運転のしやすい位置に運転席（シート）を調整します。（12 ページ参照）



1ARADBIAP289A

3. 駐車ブレーキを掛けます。



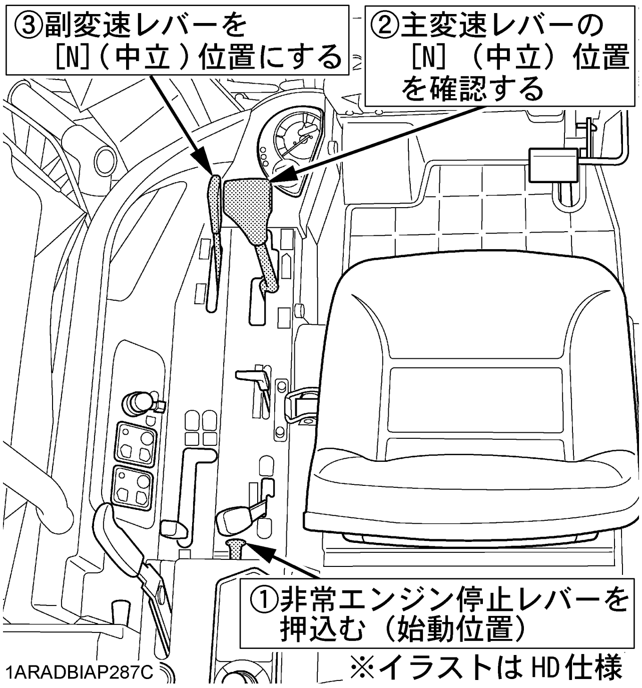
1ARADBIAP282F

補　足

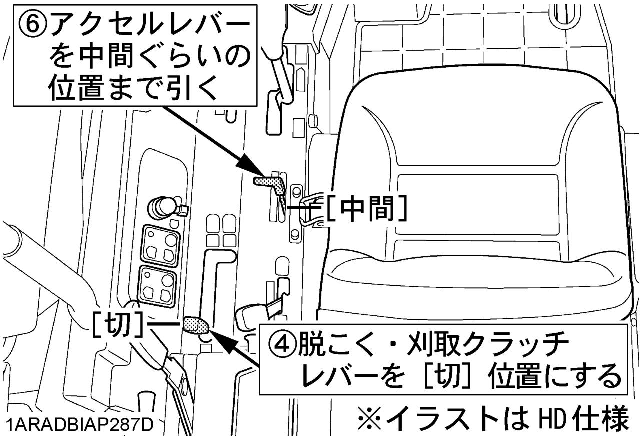
＊ ブレーキペダルをいっぱいまで踏むと主変速レバーが **［N］（中立）** 位置に戻ります。また，駐車ブレーキが掛かっているときには，主変速レバーは動きません。

＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンは始動しません。

4. 各レバー位置の確認をします。

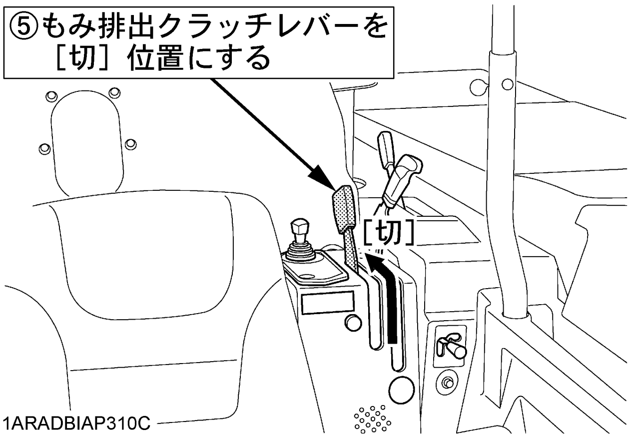


1ARADBIAP287C
※イラストは HD仕様



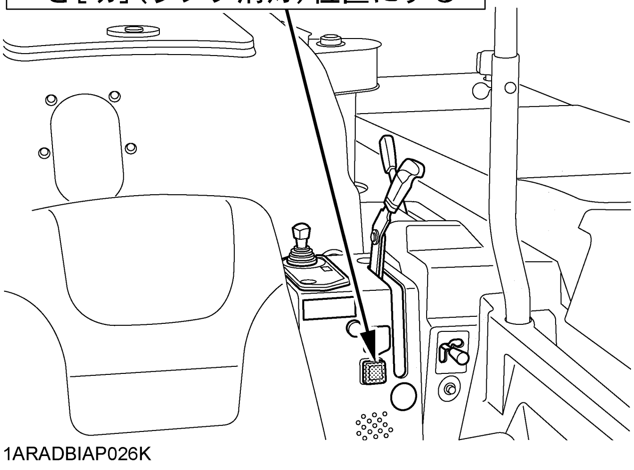
1ARADBIAP287D
※イラストは HD仕様

［GDX 仕様］



［GDX 仕様］

［GHD 仕様］



［GHD 仕様］

重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを前・後進方向に操作できません。
無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

［HD 仕様］

補　足

＊ 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，スイッチキーを回してもエンジンは始動せずボイスナビが下記の内容をお知らせします。

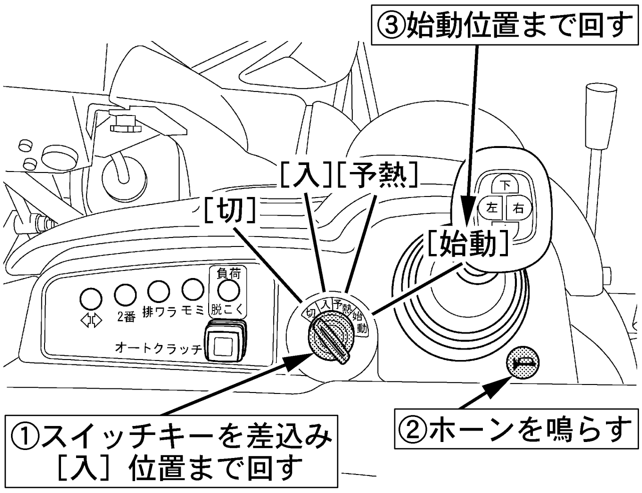
- **［脱こくクラッチを切ってください］**……………　脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にする。
- **［脱こく・もみクラッチを切り，ブレーキペダルを踏んでください］**………　脱こく・刈取クラッチレバー及びもみ排出クラッチスイッチを**［切］**位置にし，ブレーキペダルを踏む。

［HD 仕様］

補　足

＊ 主変速レバーは **［N］（中立）** 位置にあり，脱こく・刈取クラッチレバー及び **［G 仕様］** はもみ排出クラッチレバー又は，もみ排出スイッチを **［切］** 位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

5．エンジンを始動します。



1ARADBIAP286H

重　要

＊ スイッチキーを［**始動**］位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんキーを［**切**］位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。

＊ エンジン回転中に，スイッチキーを［**始動**］位置に回すと故障の原因になります。

＊ エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

◆ 暖機運転について

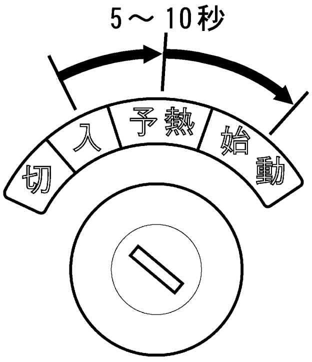
エンジン始動後，エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて約５～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆ 寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを［**グロー**］位置で５～ 10 秒間予熱したあと［**始動**］位置に回してください。



1ARADBEAP060B

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとSFワンレバーの操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0 ℃～ -10 ℃	約 10 分
-10 ℃～ -15 ℃	10 ～ 15 分
-15 ℃～ -20 ℃	15 ～ 20 分
-20 ℃以下	20 分以上

◆ 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1．脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを［**切**］位置にします。
2．燃料タンクに燃料を補給します。
3．**始動のしかた**の **1 ～ 4** を確認後，スイッチキーを［**入**］位置に保持し，そのあと［**始動**］を２～３回繰返します。

補　足

＊ スイッチキーを［**入**］位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

> **危　険**
>
> **＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触よって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。（198 ページ参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの **（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの **（－）端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを **［切］** 位置にします。
2. アクセルレバーを **［🐢］**（低回転）位置にします。
3. スイッチキーを **［切］** 位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でスイッチキーが **［入］** 位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。
＊ スイッチキーを **［切］** 位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

注 意

＊ ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 水平操作スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください。[M 仕様]
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［作業］位置にし，低速で走行してください。走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊ あゆみ板を使うときや，前後左右とも 10 度をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，主変速レバー・SF ワンレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

＊ 結束機などを装着している場合は，［道路運送車両法］の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊ ［道路運送車輌法］の［保安基準］に抵触するおそれがあるため，公道走行する前には必ず下記項目を確認し，異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また，異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
- **機械の周囲を回って油もれ，水もれ，燃料もれが発生している場所**
- **エンジン音に異常がある場合**
- **旋回異常がある場合**
- **ブレーキ，各変速，各クラッチに異常がある場合**
- **各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，ランプ）に異常がある場合**

＊ アンローダは必ず折りたたんでください。[G 仕様]
＊ 移動走行時は，エンジン回転数を 2000rmp 以上にしてください。

重 要

＊ 路面の凹凸や（溝や穴など）荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。
＊ **[G 仕様]** はアンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。

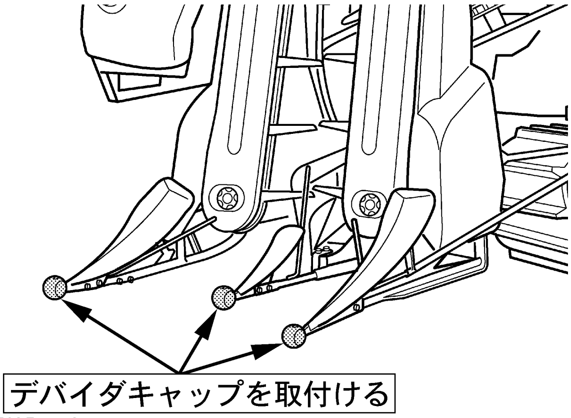
■走行前の準備

注　意

- **＊ 平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。**
- **＊ 木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでキャノピやアンローダ［G 仕様］を収納状態にしてください。**
- **＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。**

1. ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（74 ページ参照）
2. デバイダキャップを取付けます。

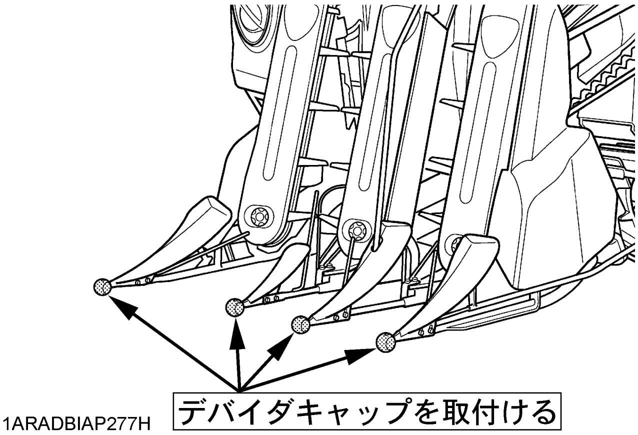
［219・222］



1ARADBIAP278A

［219・222］

［320・323］

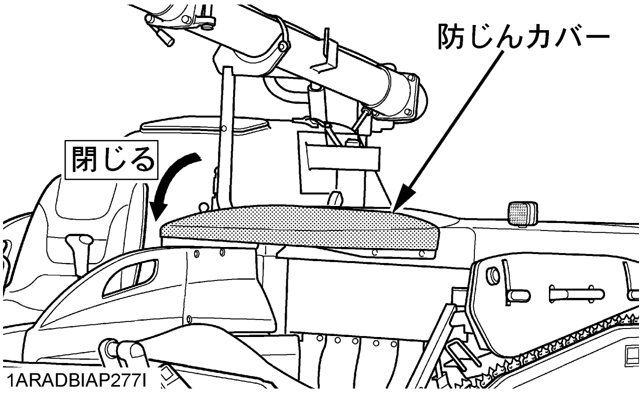


1ARADBIAP277H

［320・323］

［HD 仕様］

3. 防じんカバーを閉じます。

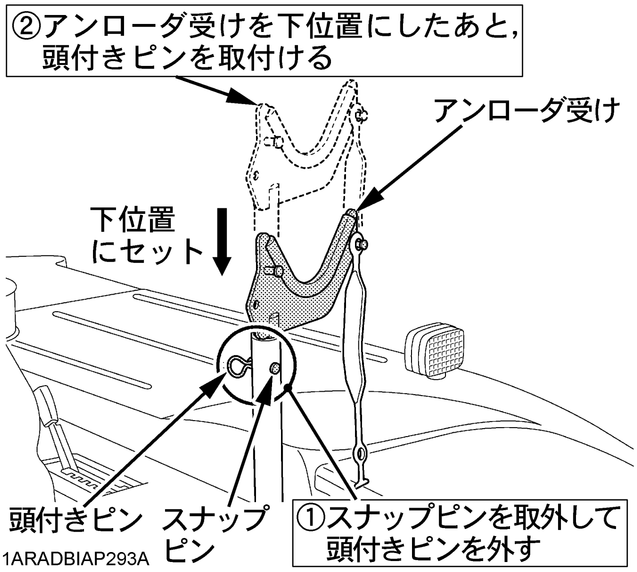


1ARADBIAP277I

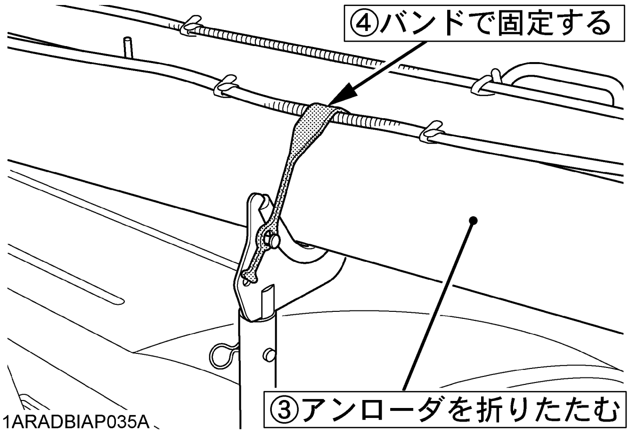
［HD 仕様］

[G 仕様]

4. アンローダを折りたたんでアンローダを固定します。(54 ページ参照)



1ARADBIAP293A



1ARADBIAP035A

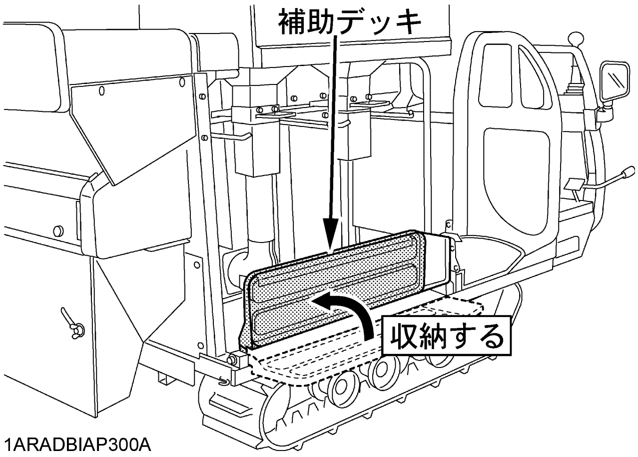
補 足

＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

[G 仕様]

[ホッパ仕様]

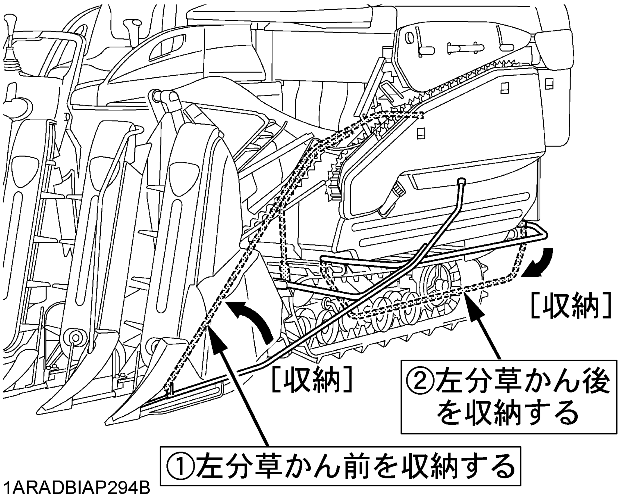
5. 補助デッキを収納します。



1ARADBIAP300A

[ホッパ仕様]

6. 左分草かん開閉レバーを操作して，左分草かん前を収納したあと，左分草かん後を収納します。



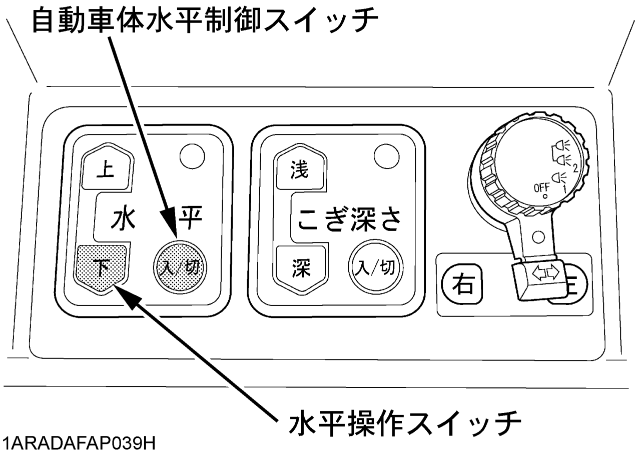
1ARADBIAP294B

補 足

＊ 左分草かん後は手動で収納してください。

[M 仕様]

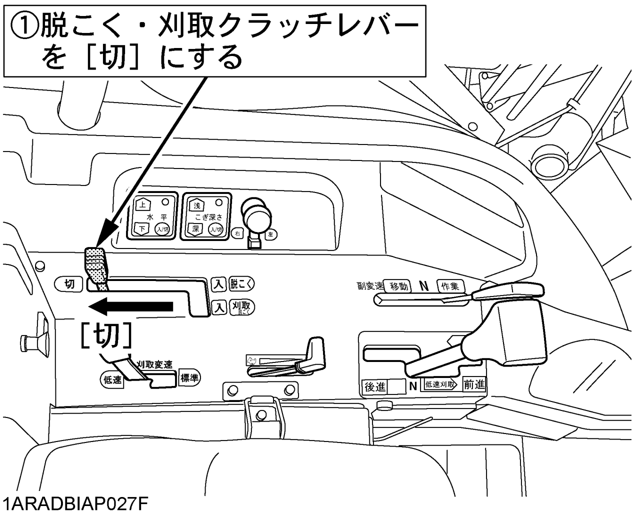
7. 自動車体水平制御スイッチを **[切]** にし，水平操作レバーで機体をいっぱいまで下げます。



1ARADAFAP039H

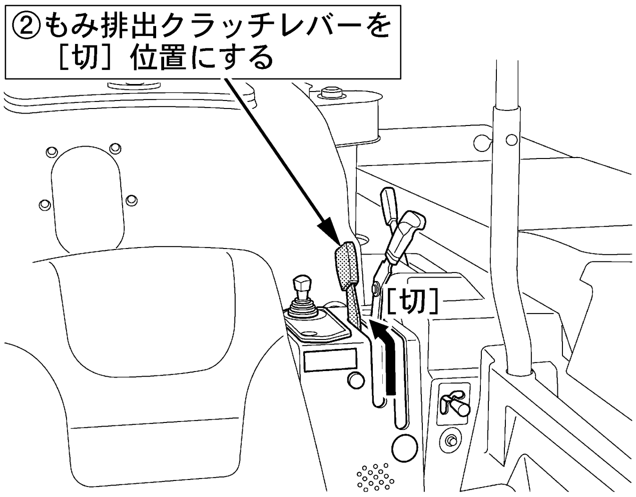
[M 仕様]

8. 各作業クラッチ（脱こく，刈取，もみ排出 **[G 仕様]**）を **[切]** 位置にします。



1ARADBIAP027F

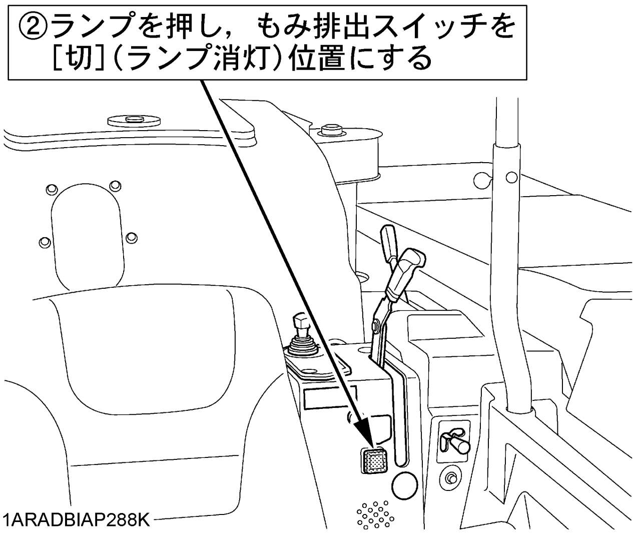
[GDX 仕様]



1ARADBIAP310D

[GDX 仕様]

[GHD 仕様]

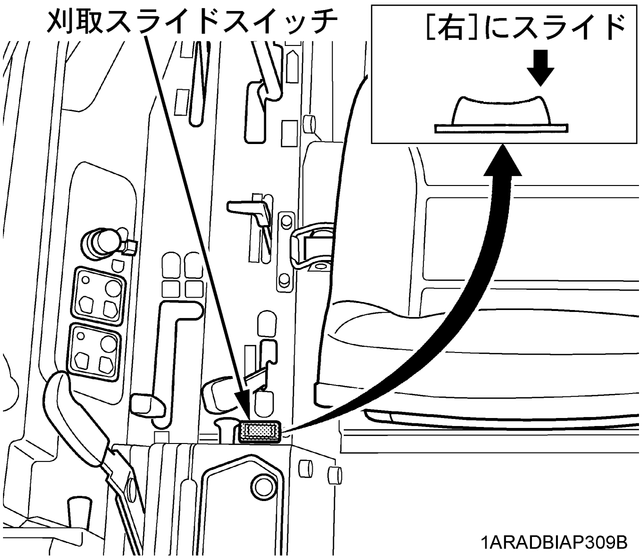


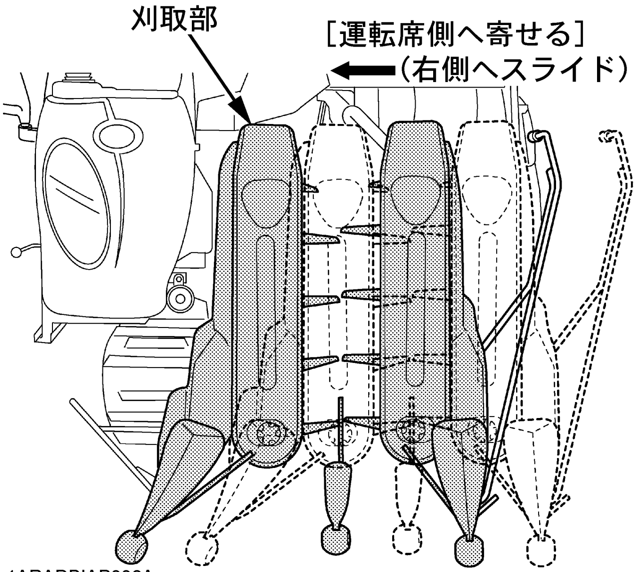
1ARADBIAP288K

[GHD 仕様]

[219・222]

9. エンジンを始動し，刈取部を地面から約 10cm 程度上げた状態で，刈取スライドスイッチを操作し，刈取部を**右端（運転席側）いっぱいまで**移動します。





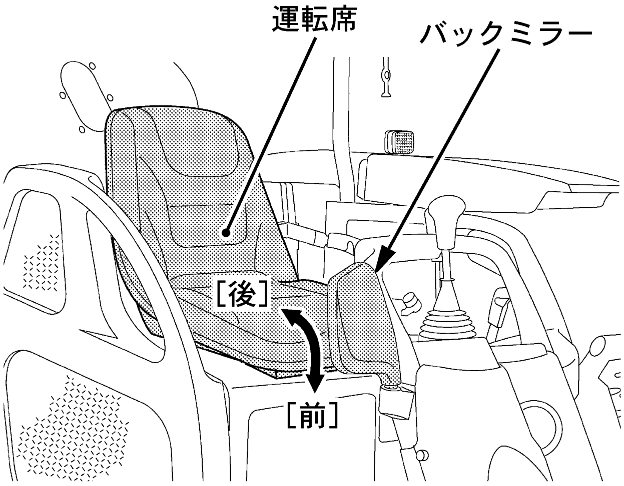
[219・222]

■発進のしかた

注　意

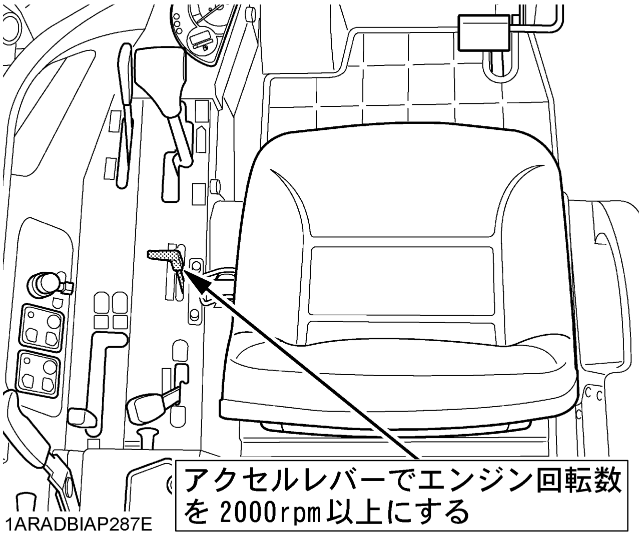
* **発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。**
* **急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。**

1.　運転席，バックミラーの調整を行ないます。

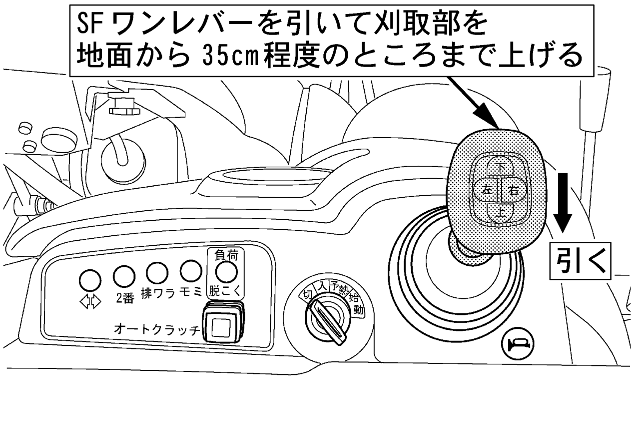


2.　アクセルレバーを操作します。

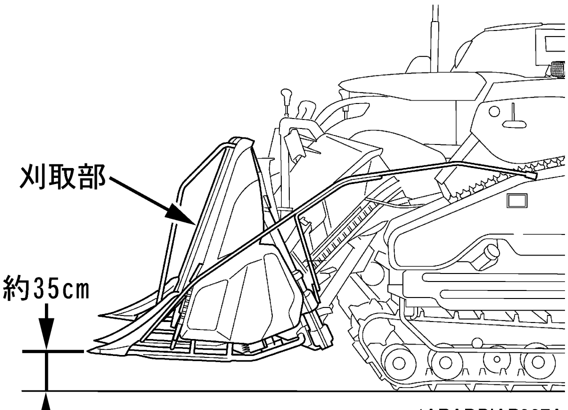
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



3.　刈取部を上げます。



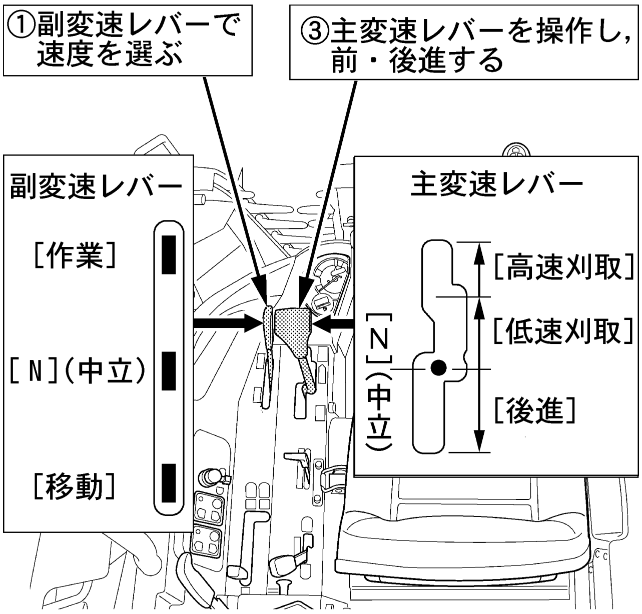
1ARADBIAP286I



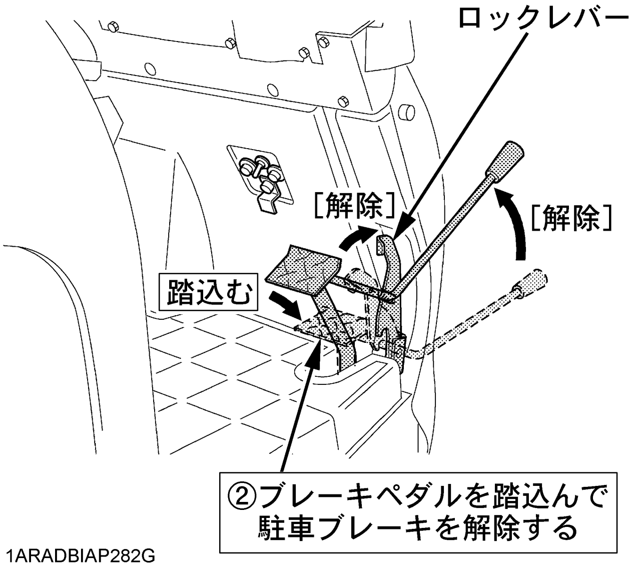
1ARADBIAP337A

4.　走行速度を選んで発進します。

ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除したあと，主変速レバーを **[N]（中立）** 位置より前に押すと**前進**し，後ろに引くと**後進**します。



1ARADBIAP287F



1ARADBIAP282G

重　要

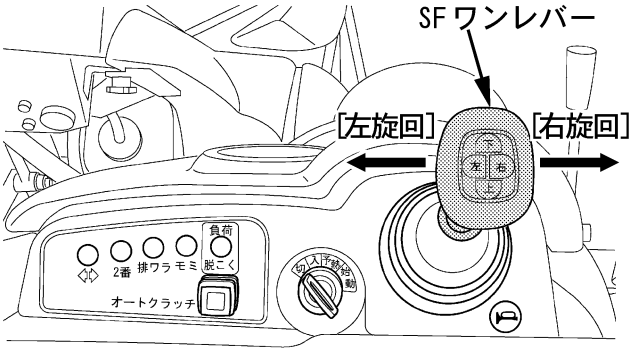
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

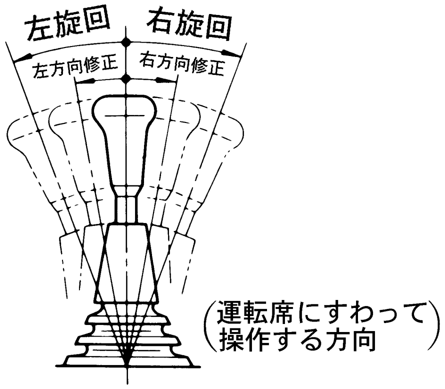
■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時，SF ワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。



1ARADBIAP286J



1ARADAFAP345A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。

＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを **[ ]（低回転）** 位置にします。
4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

■道路走行について

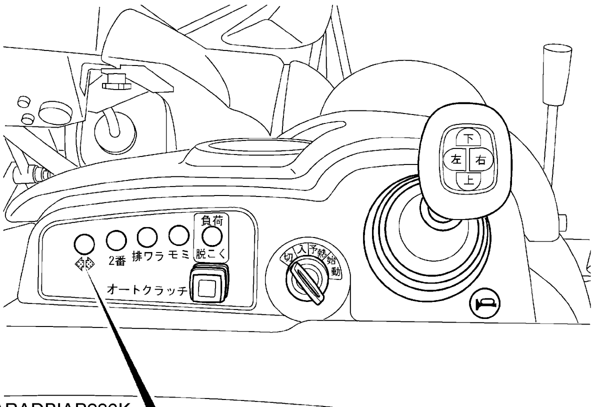
> **⚠ 警　告**
>
> **＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。**

> **⚠ 注　意**
>
> **＊ 結束機［結束機付き仕様］を装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。**
> **＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。**
> **＊ 作業灯は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色などの制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。**

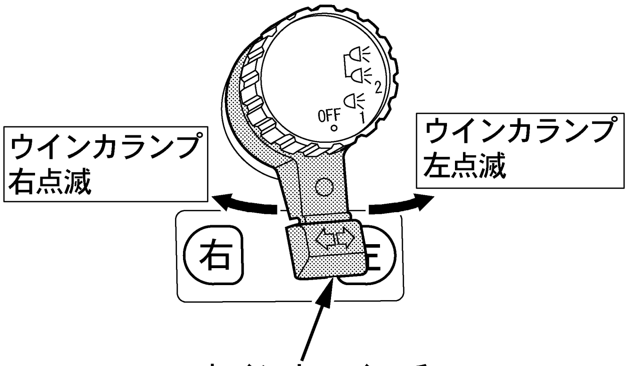
道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

● **ウインカスイッチ**

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，警告パネル内のウインカ表示ランプが点滅します。



1ARADBIAP286K



1ARADAFAP039E

補　足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

- ＊ **積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，1 速に入れたあと，さらにタイヤに歯止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。**
- ＊ **あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（50cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- ＊ **あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	50cm 以上
数　量	2 枚
強　度	1 枚が 1200kg 以上の重量に耐えうる

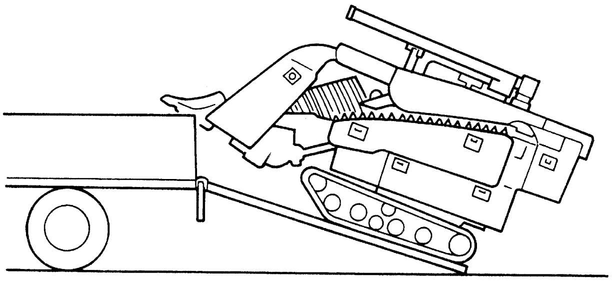
■コンバインの準備

もみをすべて排出又は降し，**[G 仕様]** はアンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダを折りたたみ，バンドで固定し，脱こく・刈取クラッチレバー，もみ排出クラッチを **[切]** 位置にし，**[M 仕様]** は自動車体水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げ，左補助デッキ **[ホッパ仕様]** や左分草かん前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダキャップを取付けます。（37 ページ参照）

■コンバインの積込み·積降しのしかた

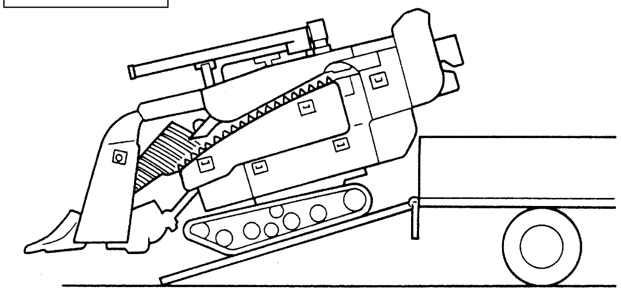
注　意

- ＊ **積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。**
- ＊ **積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。**
- ＊ **あゆみ板を走行中のコンバインから離れてください。**



1ARADAFAP054A

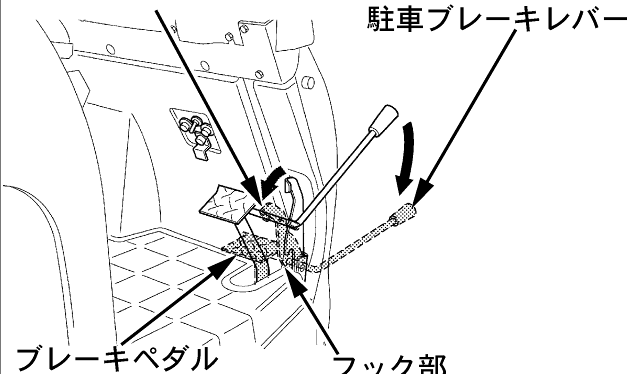
［結束機付］



1ARADAFAP055A

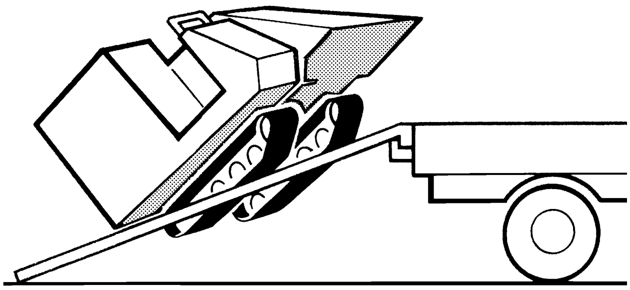
注　意

＊ 走行中に異常が発生し，緊急に停止するときは，駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押下げて，ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。



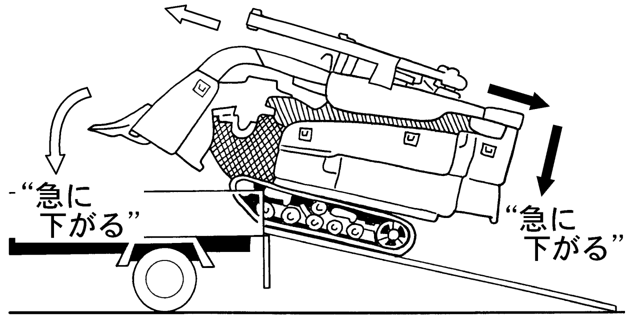
1ARADBIAP282H

＊ あゆみ板の途中で SF ワンレバー・副変速レバーを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1ARADAFAP4440

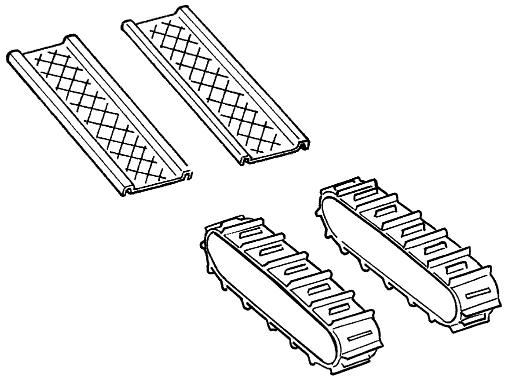
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARADAFAP347A

◆ **操作のしかた**

1. 各作業クラッチレバーを **[切]** 位置にします。
2. **[M 仕様]** は水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. SF ワンレバーで刈取部を上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を **2000rpm 以上**にし，副変速レバーを **[作業]** 位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADAFAP348A

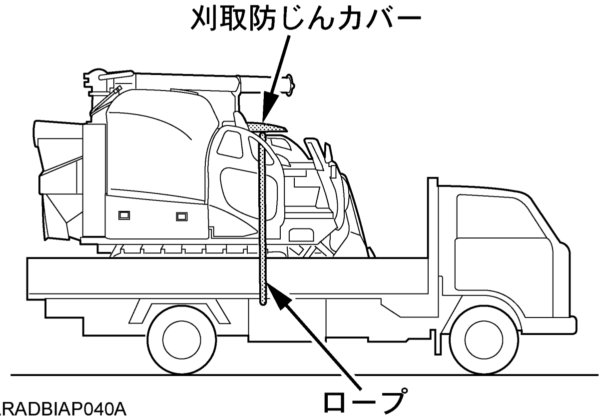
6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注　意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

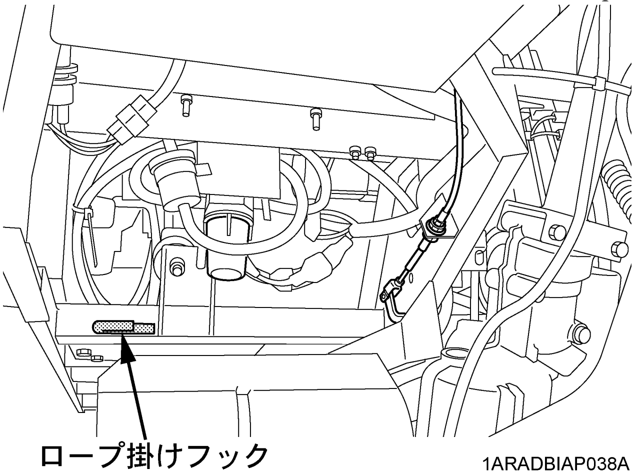
＊ トラックで輸送する場合は，風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，刈取防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。［HD 仕様］



1ARADBIAP040A

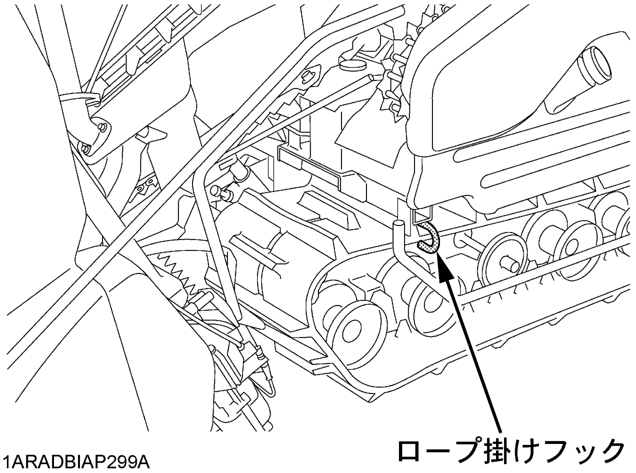
1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

［右前側］



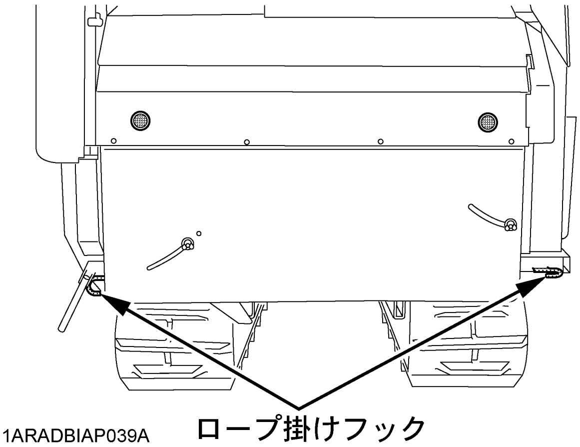
1ARADBIAP038A

［左前側］

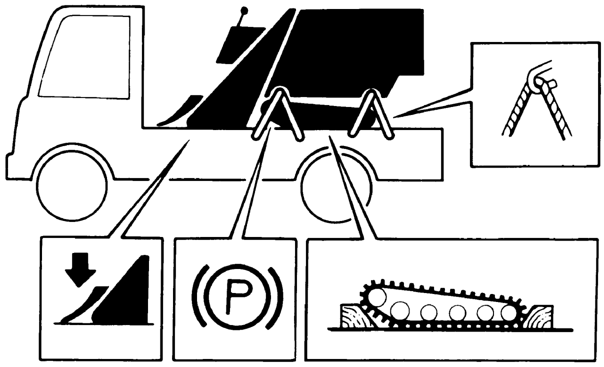


1ARADBIAP299A

［後側］



1ARADBIAP039A



1ARADAFAP349A

重　要

＊ ロープ掛けフック以外の所には，ロープを掛けないでください。

＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。

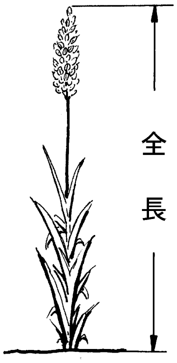
収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

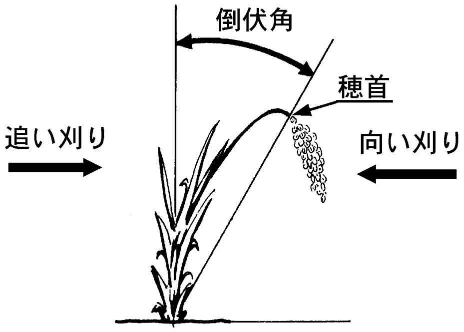
◆ 作物の長さ
刈取れる長さは，標準の刈高さで
……全長約 55 ～ 130cm



1ARADAFAP350A

◆ 作物の倒伏
作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	85 度以下
向い刈り	70 度以下



1ARADAFAP351A

◆ 作物のぬれ
作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

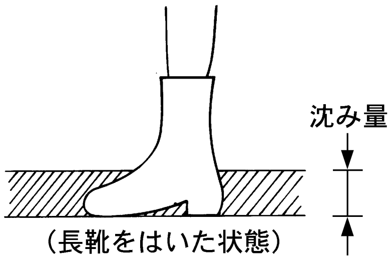
重　要

＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受あみの目詰まりを取除いてください。
掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。（111 ページ参照）

■ほ場の条件

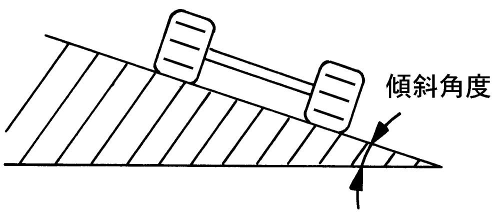
◆ ほ場のぬかるみ
足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様によって，目安の沈み量は異なります。

仕　様	沈　み　量
W	10cm まで
W2	15 ～ 20cm まで



1ARADAFAP352A

◆ ほ場の傾き
傾斜角 5 度以上では，作業できません。



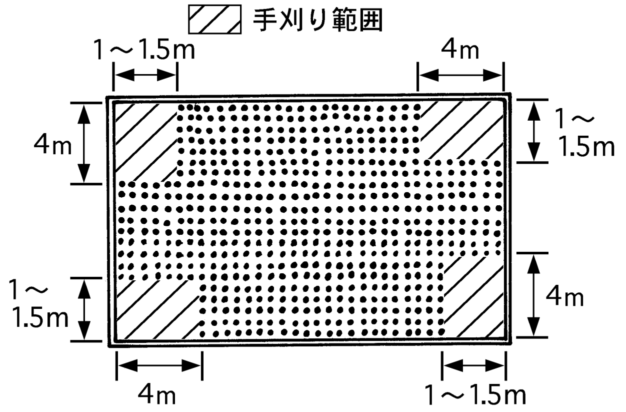
1ARADAFAP353A

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

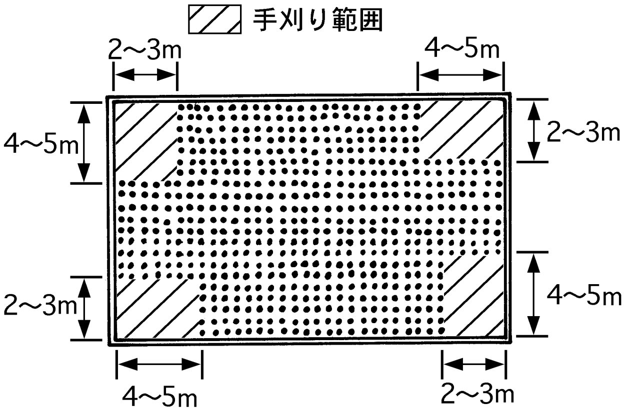
[219・222]



1ARADAFAP354B

[219・222]

[320・323]



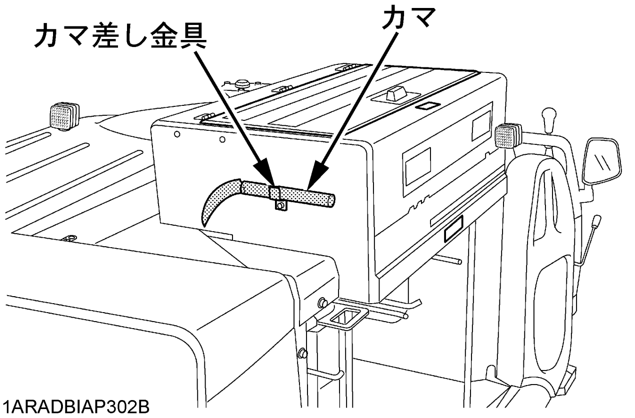
1ARADAFAP354A

[320・323]

補 足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

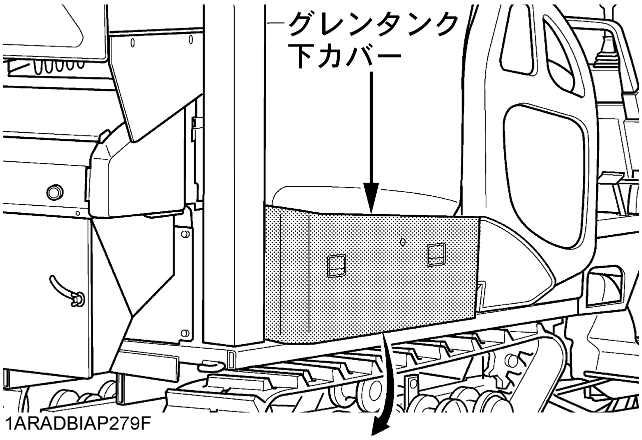
[ホッパ仕様]



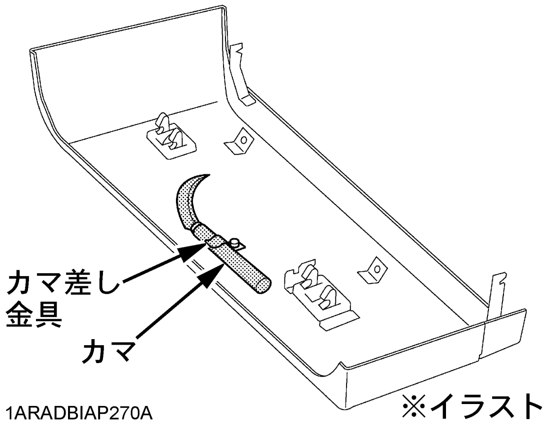
1ARADBIAP302B

[ホッパ仕様]

[G仕様]



1ARADBIAP279F



1ARADBIAP270A

※イラストは 323

[G仕様]

コンバインの準備

⚠ 注 意

- ＊ **平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。**
- ＊ **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

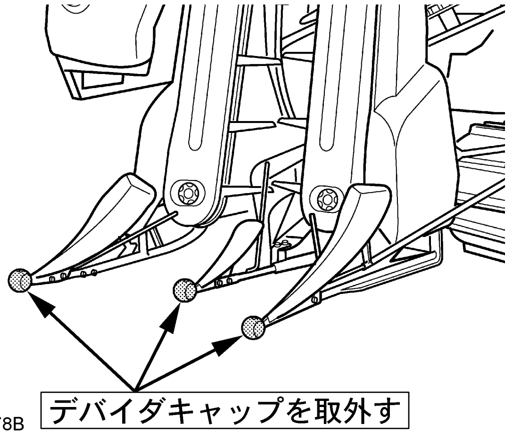
■準備のしかた

1. 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(126 ページ参照)

2. デバイダキャップの取外しと収納

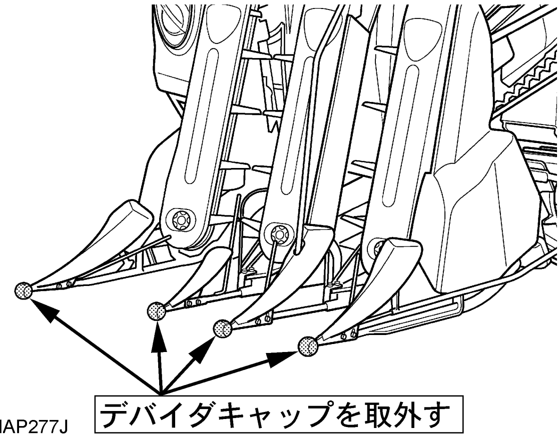
[219・222]



1ARADBIAP278B

[219・222]

[320・323]



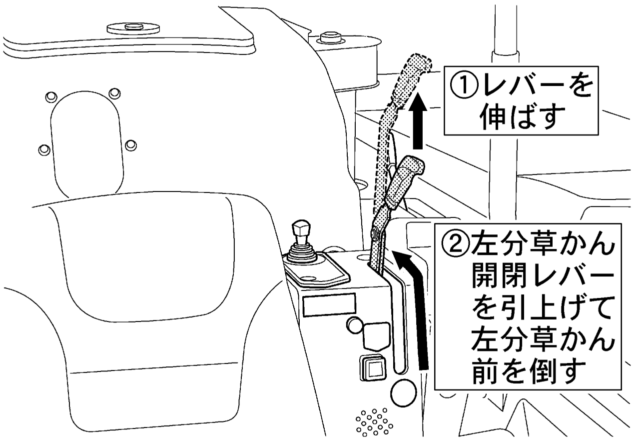
1ARADBIAP277J

[320・323]

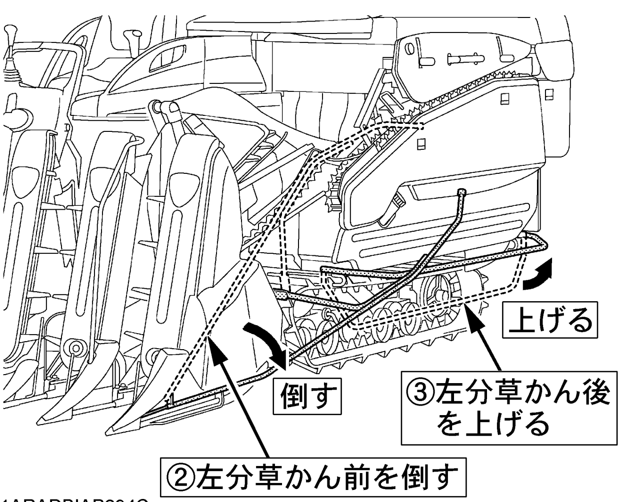
補 足

＊ 取外したデバイダキャップは，ビニール袋などに入れてから，取扱説明書を収納する運転席後側の収納場所に入れて保管してください。

3. 左分草かん前・後のセット



1ARADBIAP288L

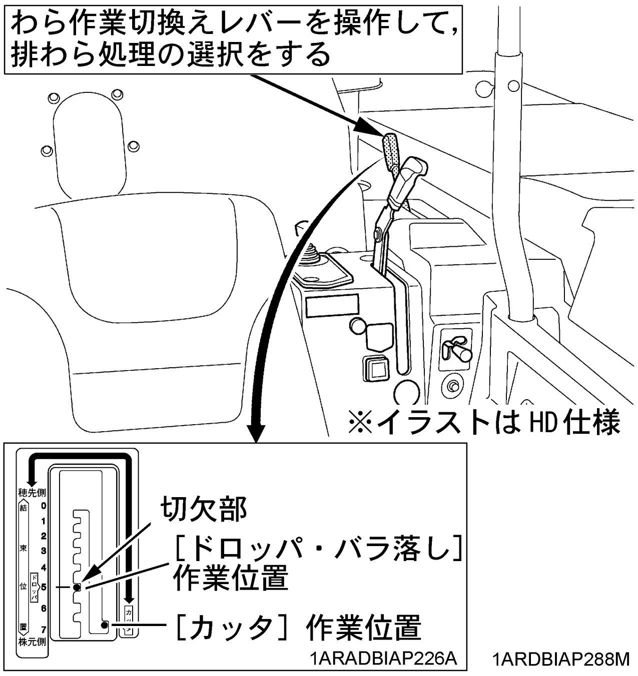


1ARADBIAP294C

補　足

＊ 左分草かん後は手で上げてください。

4. 排わら処理の選択



1ARDBIAP288M

重　要

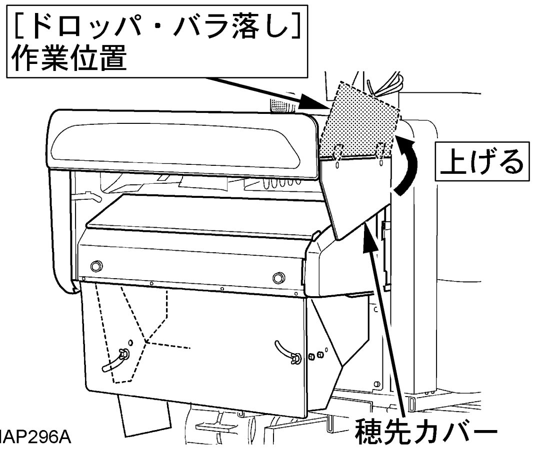
＊ 作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択するときは，切換えレバーを **［5］** の切欠部の位置にしてください。

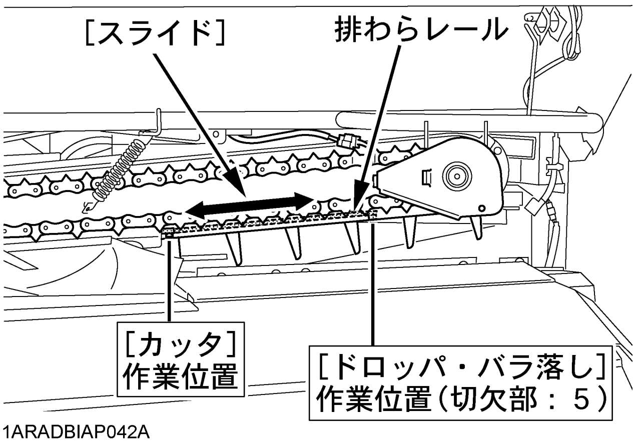
＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択したときに，切換えレバーの位置が **1～4** の切欠部にあると，わらを次行程で踏付けたり，**6～7** の切欠部にあると，排わらチェーンがわらを巻上げて詰まりの原因となります。

＊ ドロッパ・バラ落し作業のときは，穂先カバーを上げてください。



1ARADBIAP296A

＊ 切換えレバーを操作すると，カッタ部の排わら切換えカバーが開閉すると同時に，排わらレールがスライドします。

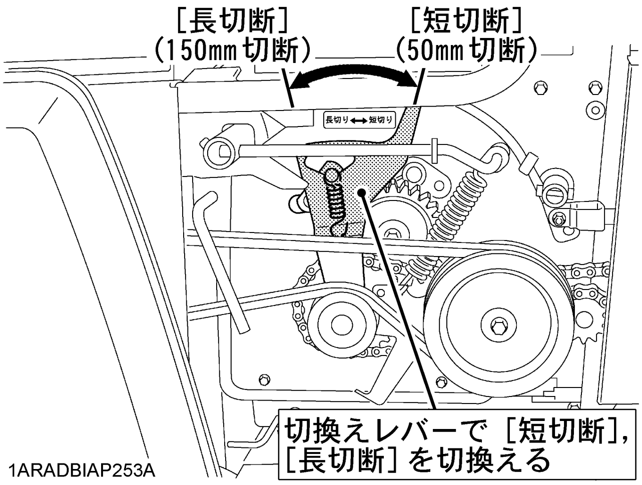


1ARADBIAP042A

5. 排わら切断長さの選択

［50/150mm 切換え式カッタ］

わらの切断長さの切換えを行なってください。切換えるときは，カッタ左サイドカバーを外し，切換えが終わったあとはカバーを取付けてください。

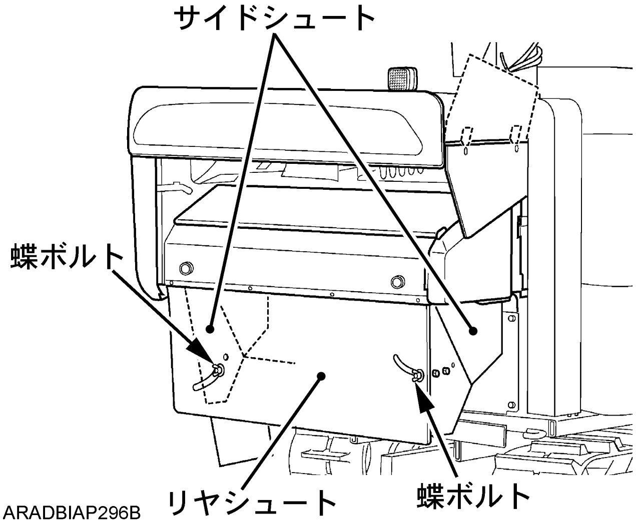


1ARADBIAP253A

［50/150mm 切換え式カッタ］

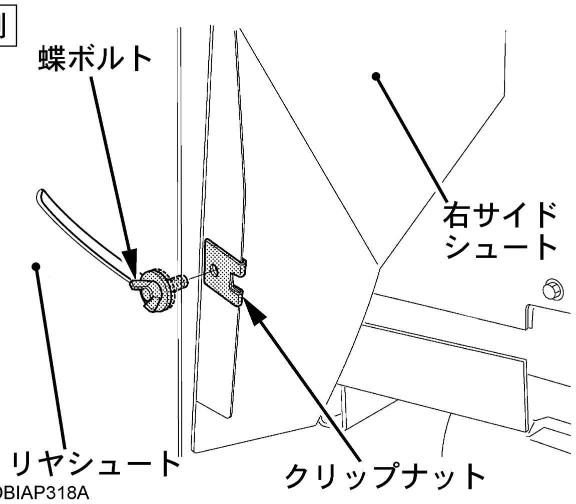
6. リヤシュート・サイドシュートの準備

1. 収納状態のリヤシュートとサイドシュートを固定している左・右の蝶ボルトをそれぞれゆるめて外し，リヤシュートとサイドシュートを広げます。
2. リヤシュートを後方に広げ，刈取作業に合わせた**セット位置**に左，右のサイドシュートを広げ，クリップナットに蝶ボルトを締付けます。



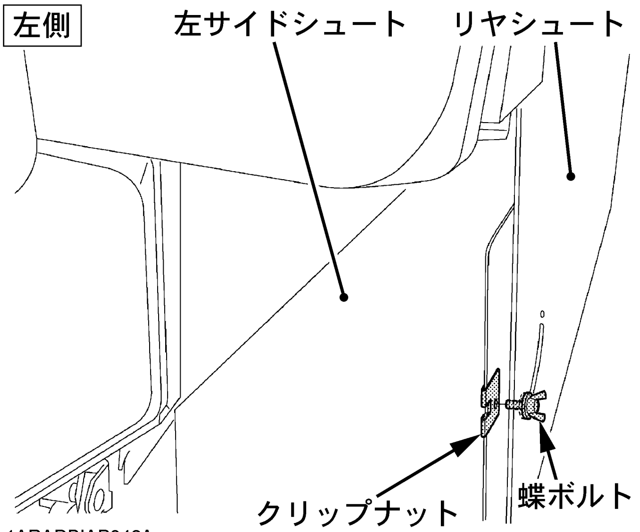
1ARADBIAP296B

右側



1ARADBIAP318A

左側

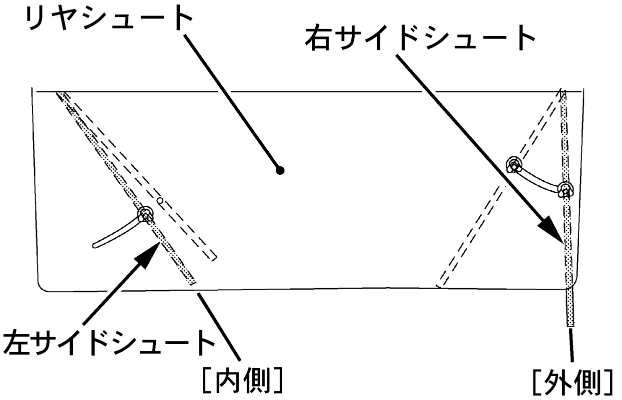


1ARADBIAP342A

◆ セット位置

● 通常作業時

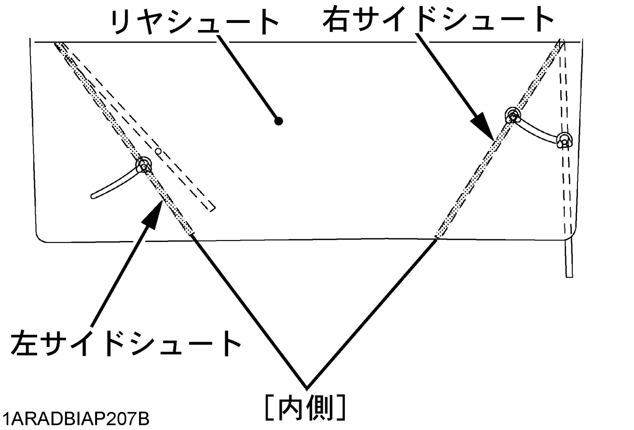
左サイドシュートは**内側**（長穴の右側いっぱい）の位置，右サイドシュートは**外側**（長穴の右側いっぱい）の位置にします。



1ARADBIAP207A

● 中割り作業時

左，右のサイドシュートをそれぞれ**内側**（長穴のそれぞれ**内側**方向いっぱい）の位置にします。

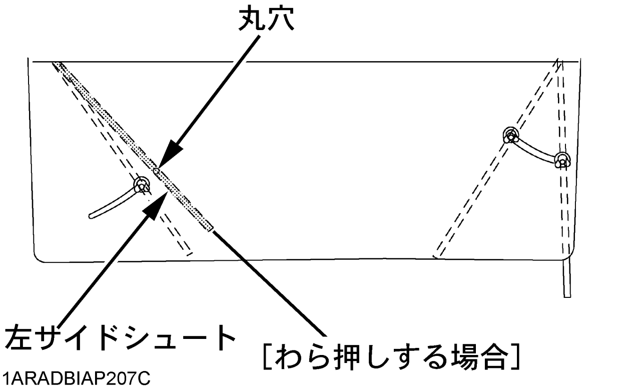


1ARADBIAP207B

補　足

＊ 中割り作業が終わったあとは，必ず**通常作業時**の位置にセットしてください。排わら処理を**［カッタ］作業**にしている場合は，わら詰まりの原因となります。

＊ ソリを地面に接地した刈りかた（58 ページ参照）で次行程の刈取作業中に右デバイダがわら押しをする場合は，左サイドシュートを長穴のさらに内側の丸穴位置にセットしてください。



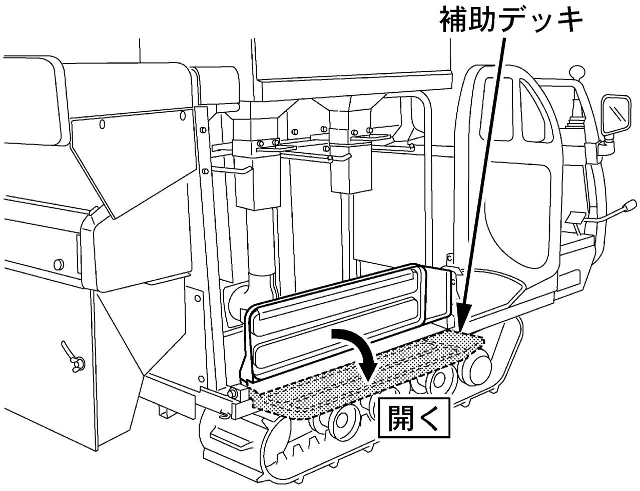
1ARADBIAP207C

＊ 切断わらを分散するときは，左サイドシュートを外側方向に調整してください。このとき，ソリが切わらに乗り上げるおそれがあるため，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取作業を行なってください。

［ホッパ仕様］

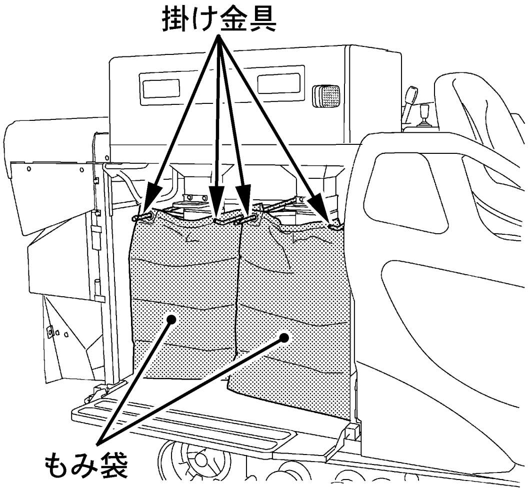
7. 補助デッキともみ袋の準備

1. 補助デッキを開きます。



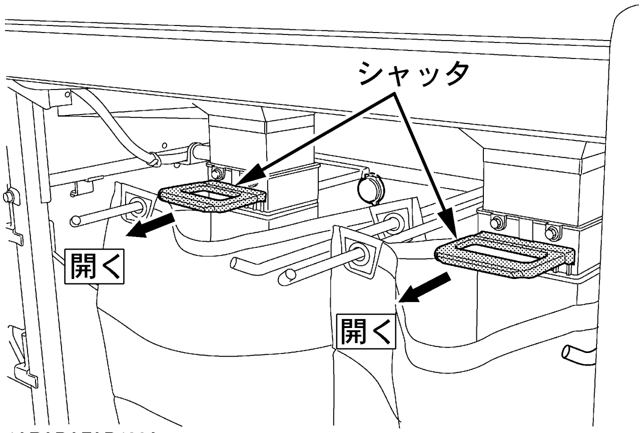
1ARADBIAP300B

2. もみ袋のファスナを開き，掛け金具に，もみ袋を取付けます。



1ARADBIAP304A

3. 各吐出口のシャッタを開きます。

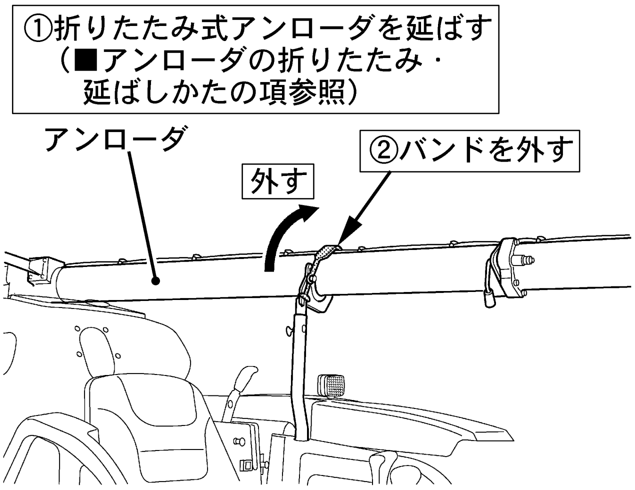


1ARADAFAP420A

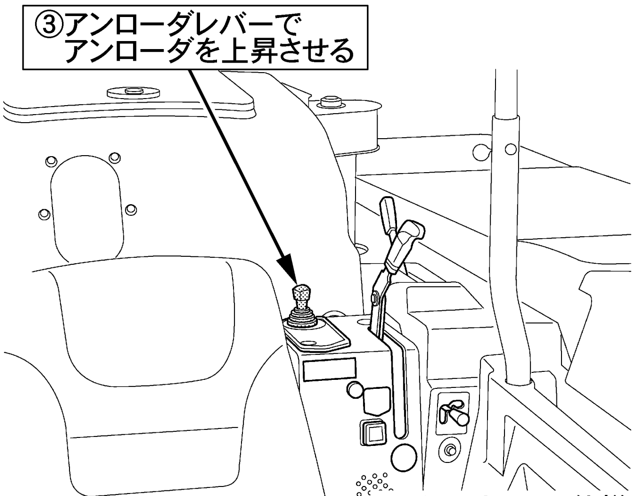
［ホッパ仕様］

［G 仕様］

8. アンローダの準備

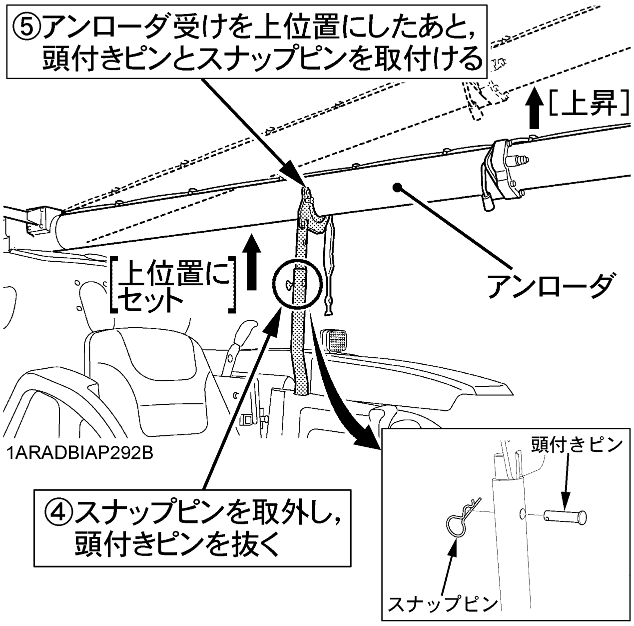


1ARADBIAP298A

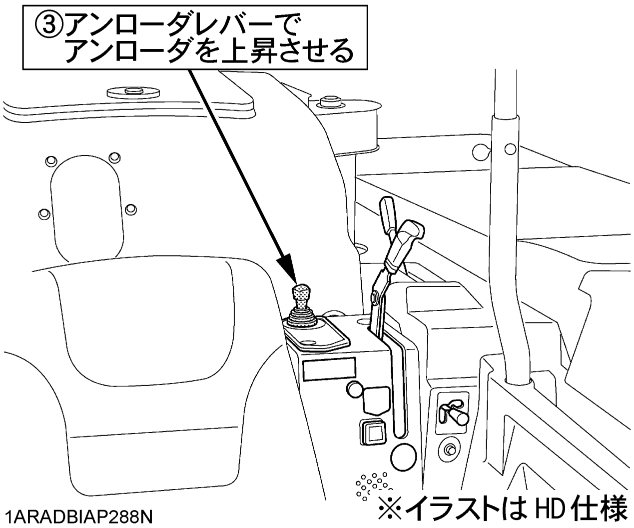


1ARADBIAP288N

※イラストは HD 仕様



1ARADBIAP292B



1ARADBIAP288N

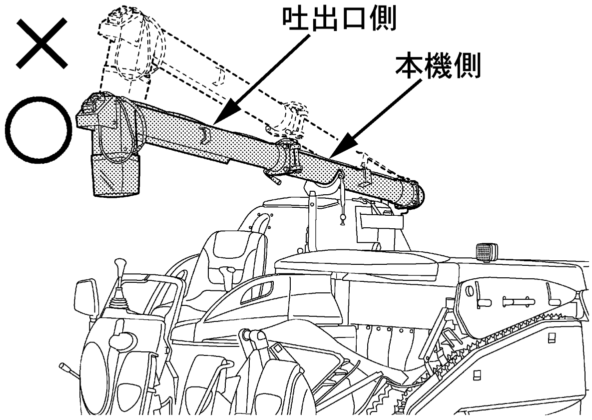
[G 仕様]

■アンローダの折りたたみ・伸ばしかた

[G 仕様]

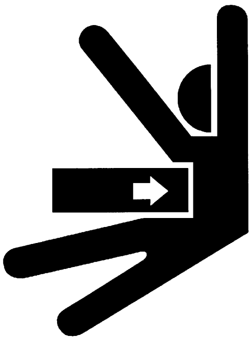
注 意

- ＊ **水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させてください。**
- ＊ **機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。**



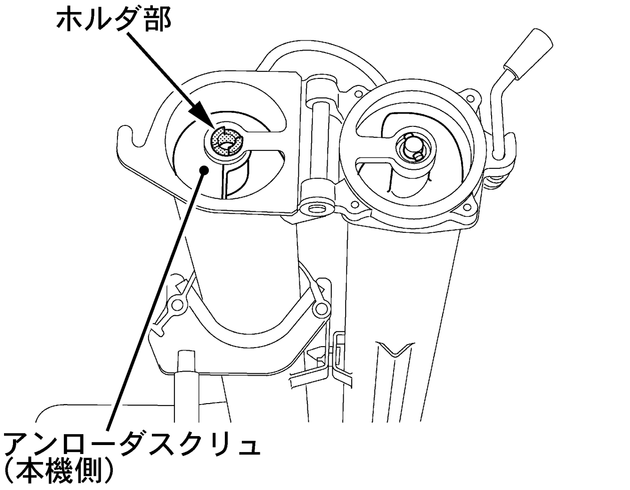
1ARADBIAP297A

- ＊ **アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。**
- ＊ **確実にロックされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。**



1ARADAFAP076A

＊ エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを［入］位置にしないでください。［入］位置にすると，アンローダスクリュ（本機側）が回転し，ケガをするおそれがあります。



1ARADBIAP055A

◆ 折りたたみかた

注　意

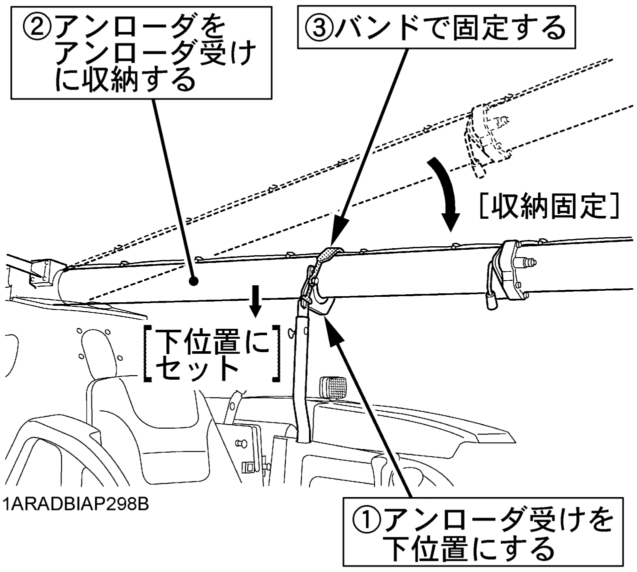
＊ あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。
＊ アンローダが開いて人や物にぶつかるおそれがあるので，必ずロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。

1. SFワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

補　足

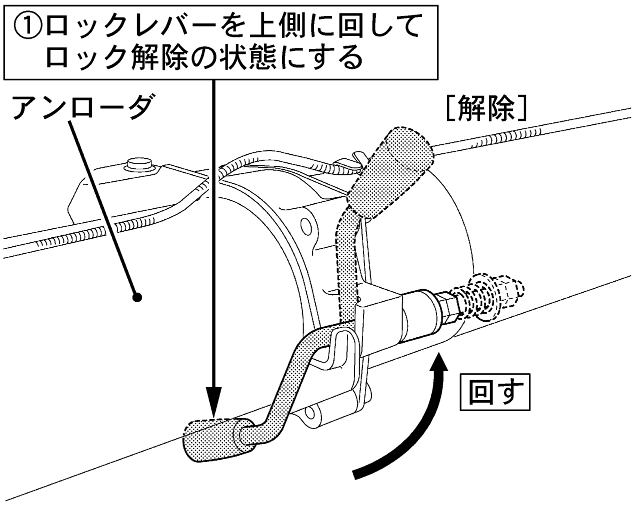
＊ アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを最上昇させてください。

2. アンローダを収納します。

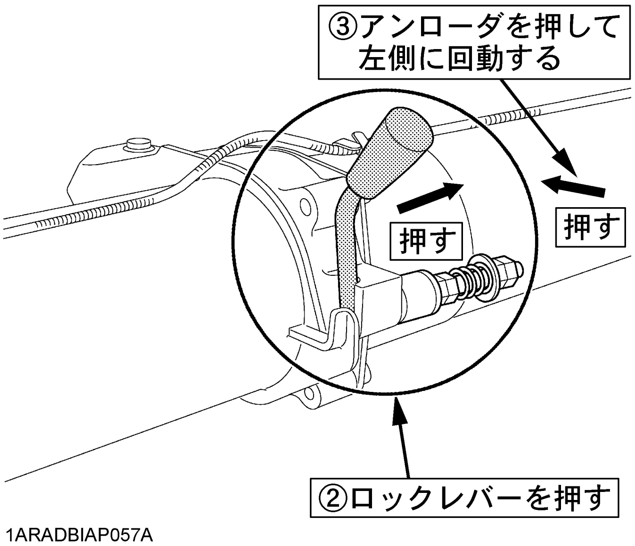


1ARADBIAP298B

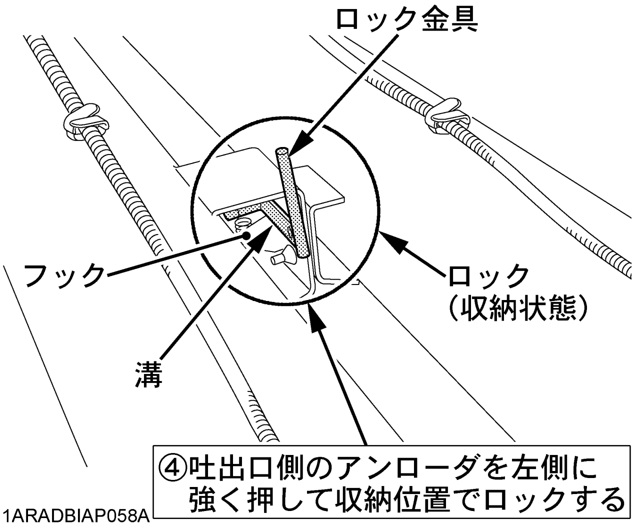
3. アンローダを折りたたみます。



1ARADBIAP056A



1ARADBIAP057A



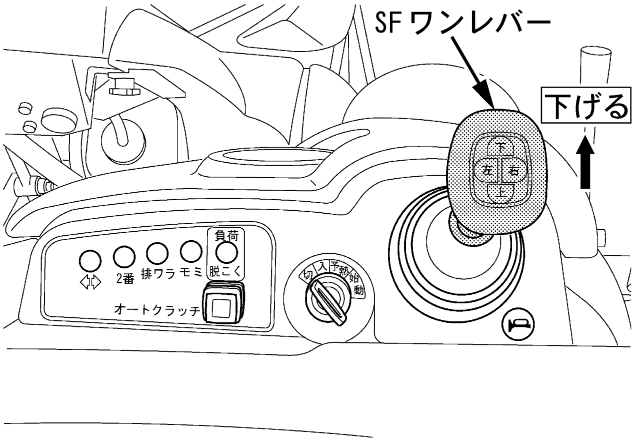
1ARADBIAP058A

補　足

＊ ロックしたあと，ロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。
＊ 吐出口側のアンローダを強く押すと自動的にロックされます。
＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれますので，アンローダは折りたたまないでください。

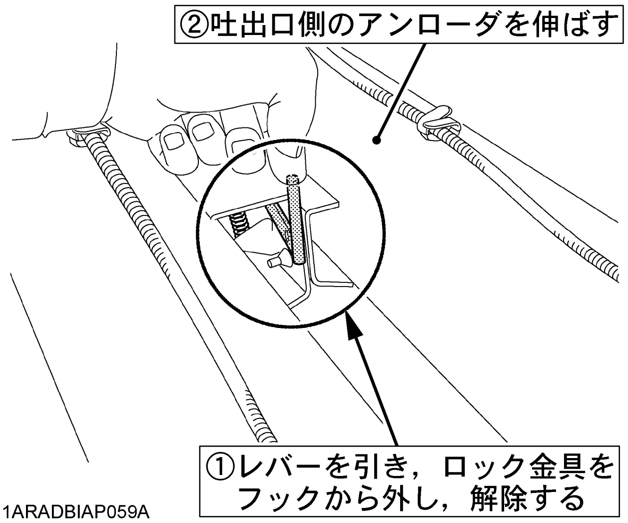
◆ 伸ばしかた（作業時）

1. SFワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。



1ARADBIAP286L

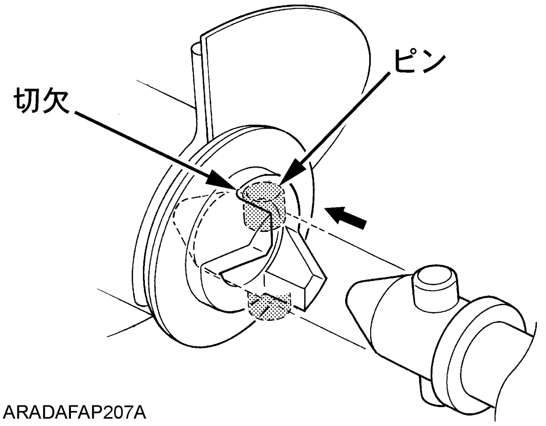
2. 吐出口側のアンローダを伸ばします。



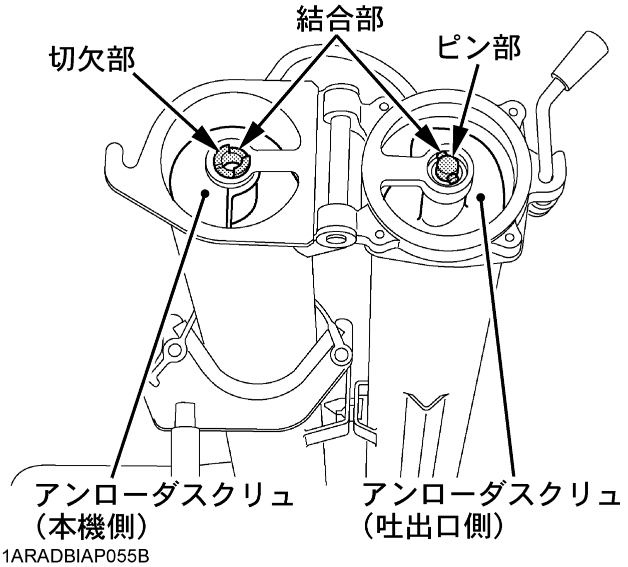
1ARADBIAP059A

補　足

＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合せてください。

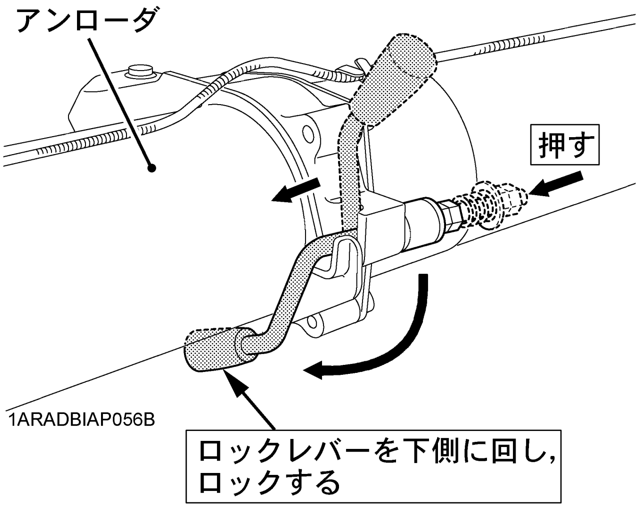


1ARADAFAP207A



1ARADBIAP055B

3. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。



4. バンドを外します。
5. スイッチキーを【入】位置にしたあと，アンローダレバーでアンローダを上昇させます。
6. アンローダ受けを**上位置**にします。
7. アンローダレバーを操作してアンローダ受けに収納します。

［G 仕様］

刈取作業のしかた

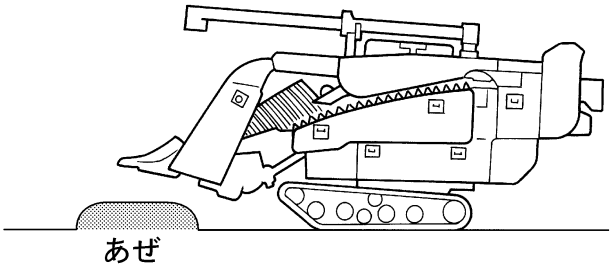
■ほ場の出入りのしかた

注 意

- **＊ ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。**
- **＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。機械が破損するおそれがあります。（44 ページ参照）**
- **＊ あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（50cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準（44 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。**
- **＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。**
- **＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。**
- **＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。［M 仕様］**
- **＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。**
- **＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。**

1. 副変速レバーを **［作業］** 位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を **2000rpm 以上** にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

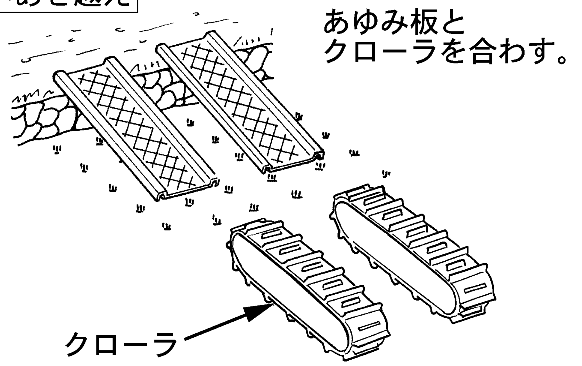
低いあぜ越え



1ARADAFAP075A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

高いあぜ越え

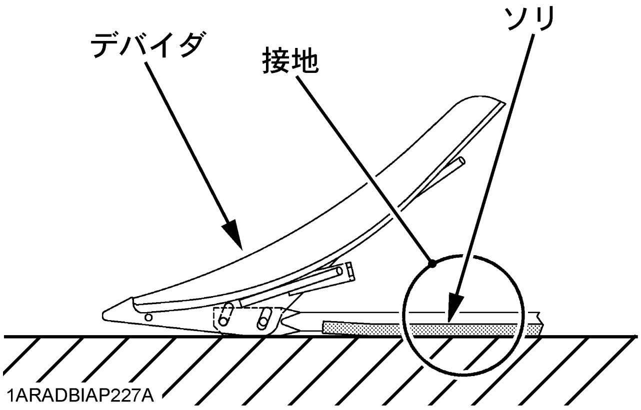


1ARADAFAP077A

■ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた

刈取作業は刈取部のソリを地面に接地した状態で刈取りを行なう刈りかた又は，地面からデバイダ・ソリを上げた状態で行なう刈りかたで行なってください。ソリを地面に接地した刈りかたは，ほ場や作物の条件により行なえない場合があります。

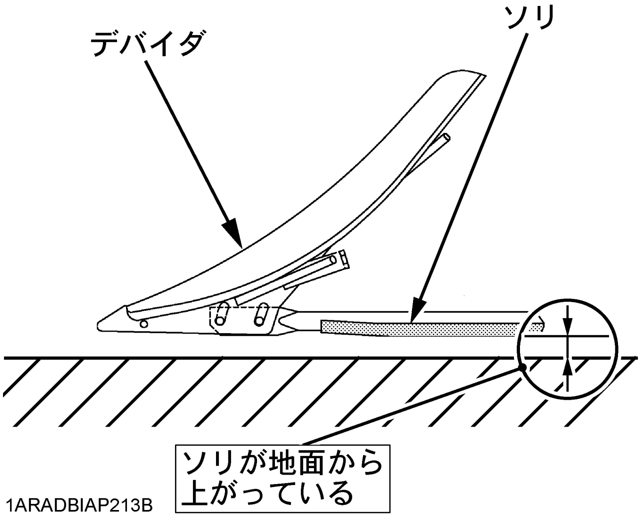
［ソリを地面に接地した刈りかた］



1ARADBIAP227A

［ソリを地面に接地した刈りかた］

［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］



1ARADBIAP213B

［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］

◆ソリを地面に接地した刈りかたについて

乾田のほ場で稲の刈取りを行なうときにはソリを地面に接地した刈りかたを行なうことができます。この刈りかたは，固い地面にソリを接地して刈取りを行なうため，下記の条件では正常な刈取りができない場合がありますので，デバイダ・ソリを地面から上げた状態で刈取作業を行なってください。

重　要

＊ ソリが接地している状態でSFワンレバーを前方に押すと，デバイダが地面に突込むおそれがあり，トラブルの原因となりますので，SFワンレバーを前方に押さないでください。

◆ ソリを地面に接地した刈りかたができない条件

● ほ場条件

湿田やほ場面の軟かいほ場

補　足

＊ ソリを接地した刈りかたは，ソリが固いほ場面（乾田）に接地した状態が必要です。ソリが沈み込むほ場では，ほ場面にデバイダが突っ込みトラブルの原因となります。

● 作物条件

稲の倒伏状態により，デバイダ先端部を下げて（83 ページ参照）刈取りを行なう場合

重　要

＊ デバイダ先端を下げた状態でソリを接地して刈取りを行なうと，ほ場面にデバイダが突込みトラブルの原因となります。

● 刈取条件

排わら処理を**［カッタ］作業**にして刈取作業を行なうとき，右デバイダが切わらを押す場合

補　足

＊ 切わらの中を進むとソリが切わらに乗り上げて正常な刈取作業が行なえなくなるおそれがあります。

■刈取作業の手順

⚠ 警　告

＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

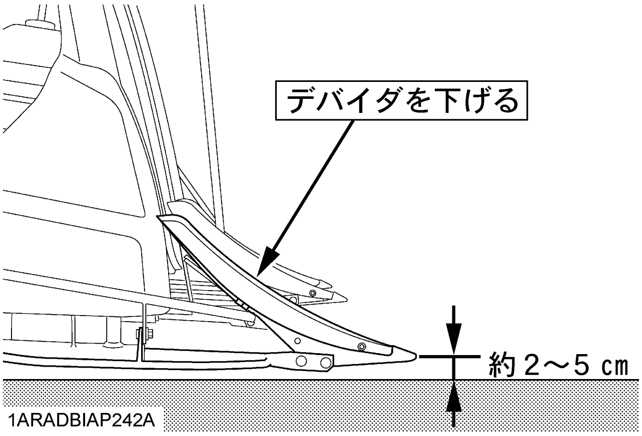
⚠ 注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。

重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**［G仕様］**
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 副変速レバーを**［移動］**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

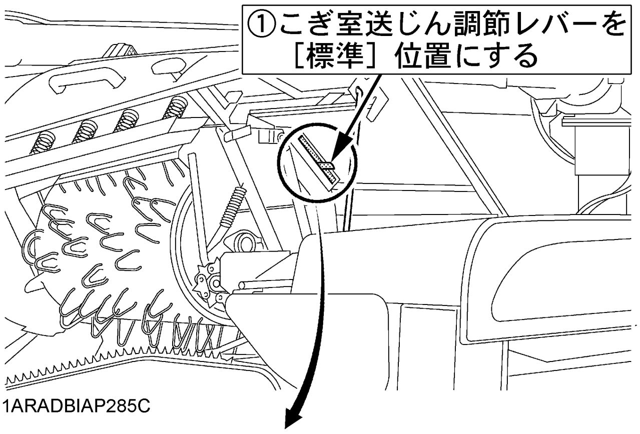
1. SF ワンレバーを操作し，ソリを地面に接地した刈りかたを行なうときはデバイダ先端を地面に接地（58 ページ参照），デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかたを行なうときはデバイダの先端を地面から２～５㎝のところまで刈取部を下げます。

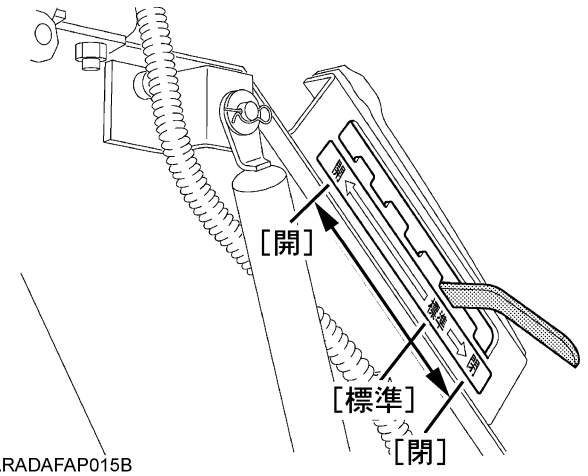


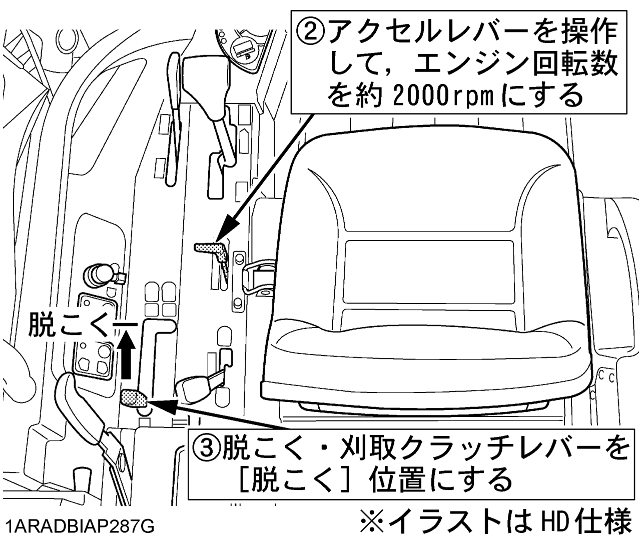
補　足

＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。
＊ ソリを地面に接地した刈りかたを行なうとき，デバイダ先端位置がソリより下がっているときは，デバイダの上下調整を行ない（83 ページ参照）デバイダの先端部をソリより高い位置にしてください。
＊ 乾田で立毛作物の刈取り作業時，**低刈り**を行なうときは，デバイダの上下調整を行ない（83 ページ参照）デバイダの先端部を上げてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

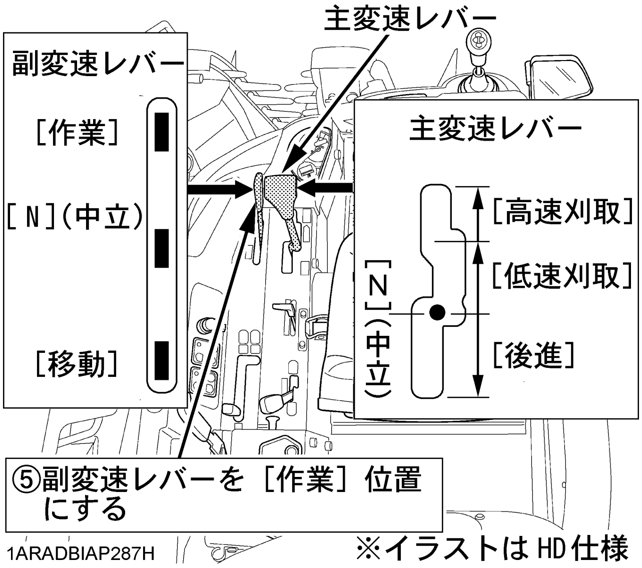






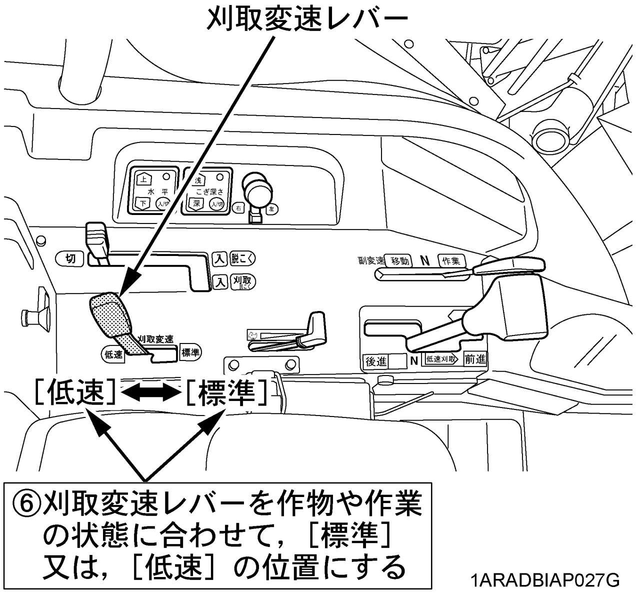
補　足

＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを **［脱こく］** 位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。
＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーがなります。



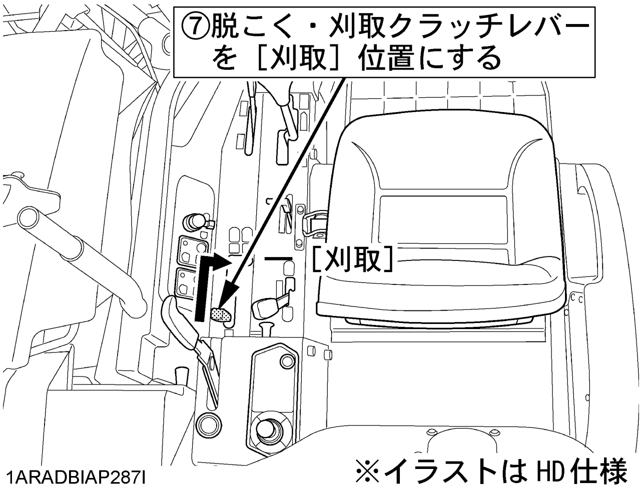
重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。



補　足

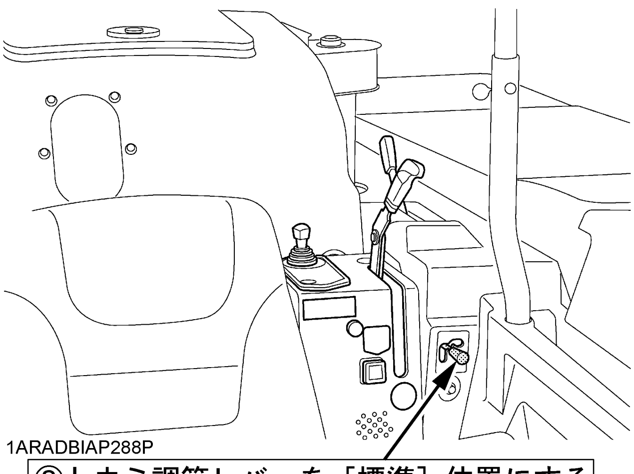
＊ 刈取変速については73ページを参照してください。



補　足

＊ 主変速レバーが **［N］（中立）** 又は，**［後進］** 位置にあるとき，脱こく・刈取クラッチレバーを **［刈取］** 位置にしても，刈取部は作動しません。主変速レバーと脱こく・刈取クラッチレバーの位置に対する刈取部の動きは次のとおりです。

主変速レバー位置	脱こく・刈取クラッチレバー位置	刈取部
－	**［切］** 又は，**［脱こく］**	**停止**
［N］（中立） 又は，**［後進］**	**［刈取］**	**停止**
前進	**［刈取］**	**作動**



1ARADBIAP288P

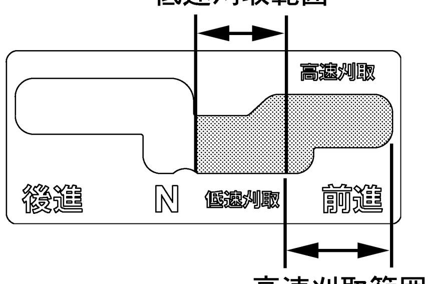
補　足

＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させてから行なってください。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**［入］**（ランプ点灯）にします。（21 ページ参照）
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（73 ページ参照）

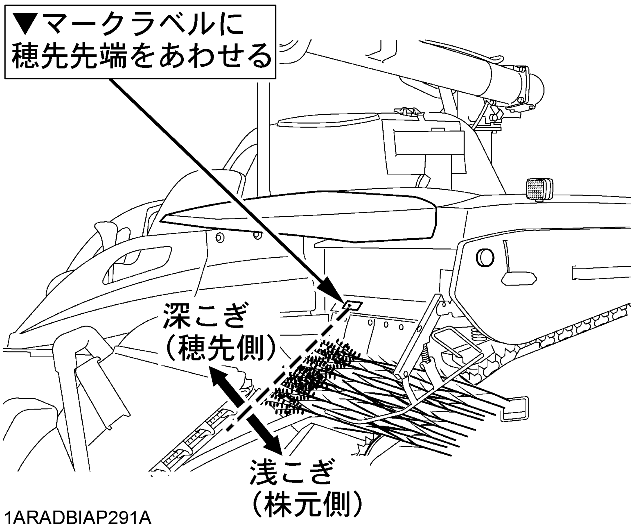
補　足

＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを**［低速刈取］**又は，**［高速刈取］**の範囲内で，刈取速度の調整を行なってください。（73 ページ参照）



1ARADAFAP421A

5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**［▼マーク］**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（21 ページ参照）



1ARADBIAP291A

補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出たり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（86,87 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**［脱こく］**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，ホッパ内又はグレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

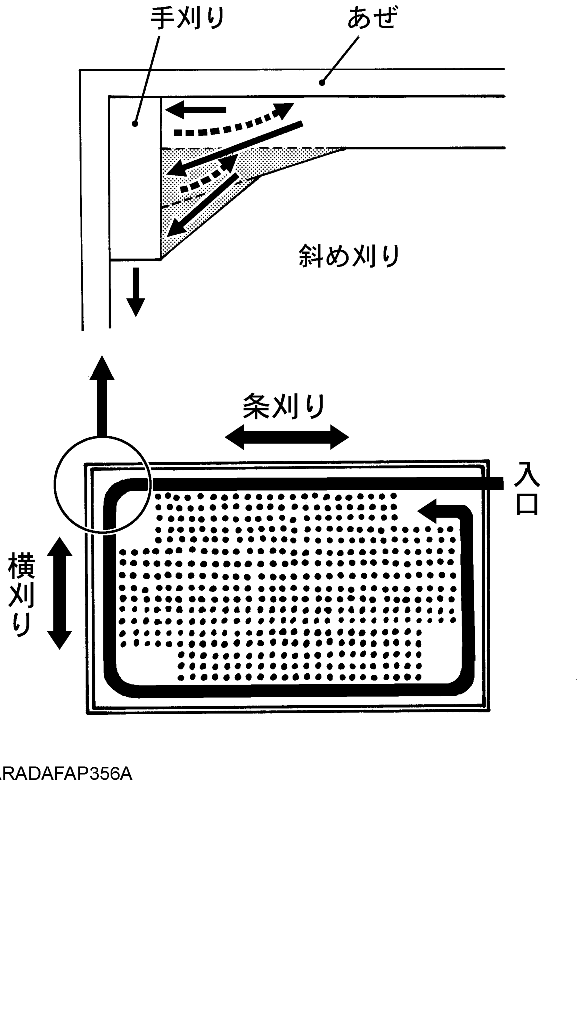
[219・222]

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの 2 方向刈りを行なってください。

重 要

＊ 刈取部を左右にスライドするときは，刈取部を約 10cm 程度浮かせてください。地面に着けたままではスライドできません。
＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**[G仕様]**

1. **刈取スライドを右（運転席）側へ移動**したあと，1周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで３条分を刈始めます。２周目からは**刈取スライドを左側へ移動**したあと２条分を刈取ります。
2. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

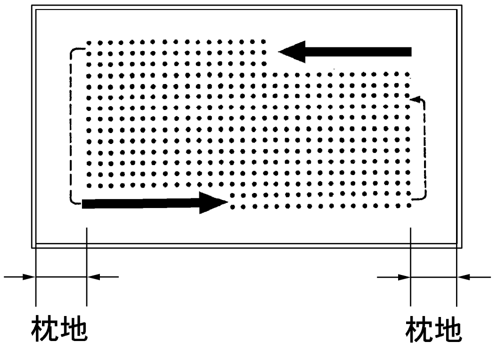


1ARADAFAP356A

補 足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ あぜぎわや隅の斜め刈りを行なうときは，あぜに突っ込むおそれがあるので**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取りしてください。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく機内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

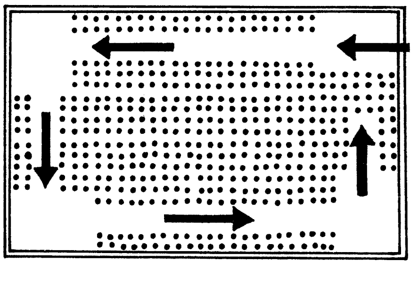
3. 刈取スライドを左側へ移動したあと，両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP357A

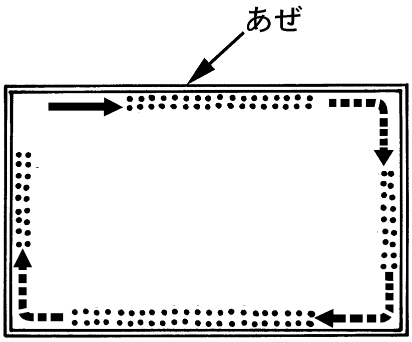
◆ あぜぎわの刈りかた

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げたり，ブロックに当たるときは，１周目は周囲２条分を残して３条分を刈取ります。



1ARADAFAP358A

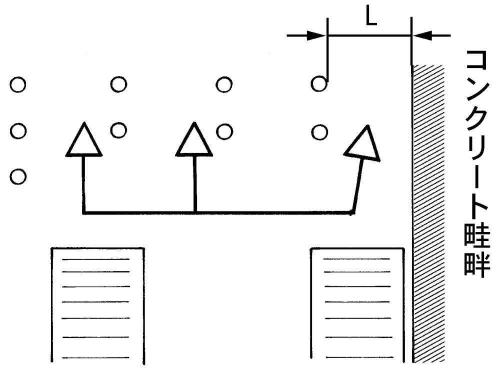
2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，左分草かんを収納し，**低速**で**右回り**で行ないます。このとき，あぜに突っ込むおそれがあるので，**［デバイダ・ソリを接地から上げた刈りかた］**で刈取りします。



1ARADAFAP359A

重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんをあぜに強く当ると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますのでクローラの仕様により，コンクリート畦畔から下図の距離（L）以上離れていることを確認して作業を行なってください。



1ARADBIAP210A

クローラの仕様	距離（L）
W	28cm 以上
W 2	33cm 以上

補　足

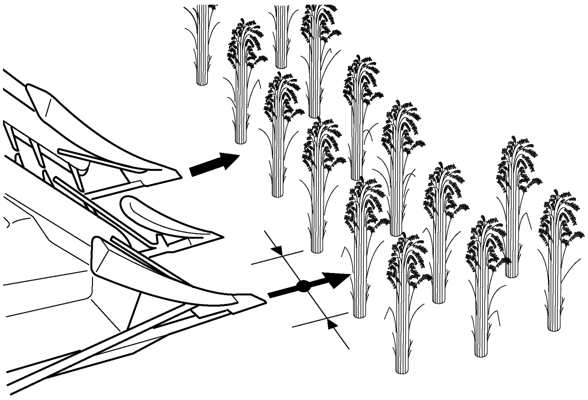
＊ 自動こぎ深さ装置を**［切］**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。
＊ **［ホッパ仕様］**は補助デッキを収納してください。

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合わせをするときは，コンバインの速度を落としてください。

● あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

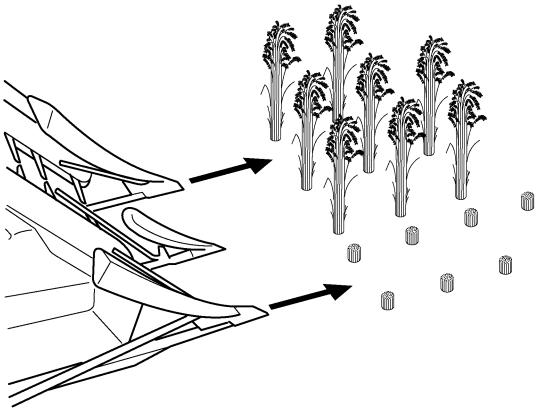
右デバイダを条間のほぼ中央になるように合わせて３条分を刈取ります。（低速で作業してください）



1ARADBIAP071A

● 通常の回り刈りのとき

既刈側刈株跡の外側約２ cm に右デバイダを合わせて２条分を刈取ります。



1ARADBIAP072A

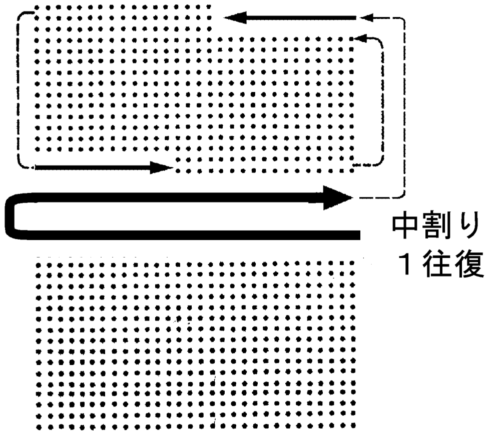
補　足

＊ 条合わせのときは，SF ワンレバーを小刻みに操作してください。

◆ 広いほ場の場合

[ソリを地面に接地した刈りかた]

刈取スライドを右（運転席）側に移動したあと，**中割り刈り**で分割して，3 条分を刈取ります。このとき，必ず **1 往復**を同じ要領で刈取ります。また，右デバイダがわら押しするのを防ぐため左右のサイドシュートをそれぞれ長穴の内側の位置（**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照）にします。1 往復刈取りが終わると右サイドシュートを外側に広げてください。



1ARADBIAP211A

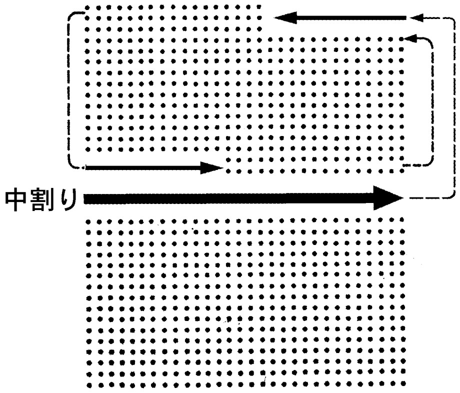
補　足

＊ 1 往復するとき，復路で刈取作業中に右デバイダがわら押しするときは，左サイドシュートを長穴よりもさらに内側の丸穴位置に調整してください。(**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照)
＊ 中割り刈りが終わったあと，右サイドシュートが長穴の内側の位置にあるとカッタ詰まりの原因となりますので中割り作業後は，必ず右サイドシュートを外側に広げた位置にしてください。

[ソリを地面に接地した刈りかた]

［ デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた ］

刈取スライドを右（運転席）側に移動したあと，**中割り刈り**で分割して，３条分を刈取ります。



1ARADAFAP362A

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

補　足

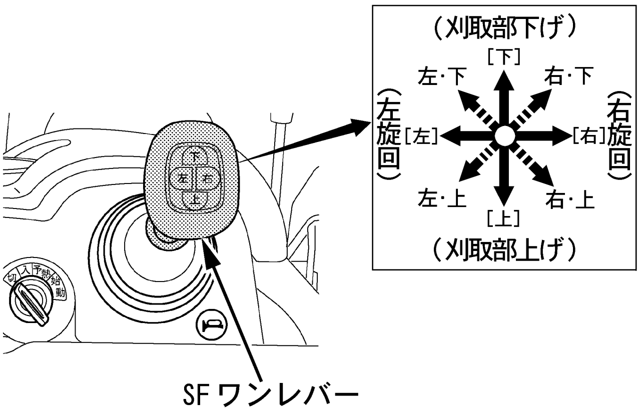
＊ 中割り刈り以外のときは，刈取部を左側にスライドして通常の回り刈りをしてください。
＊ **［ホッパ仕様］**は，補助デッキを収納してください。

◆ **旋回のしかた**

1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

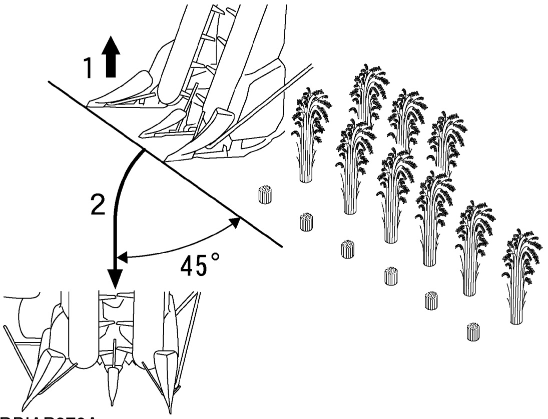
補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ SF ワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。



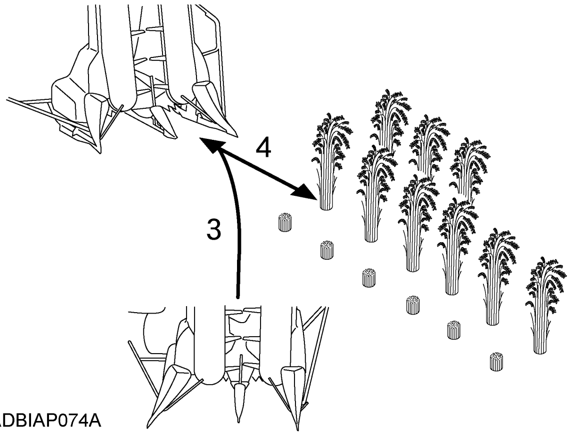
1ARADBIAP286M

2. SF ワンレバーを左に倒し，45 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



1ARADBIAP073A

3. 主変速レバーを**後進**位置に入れ，後進しながら SF ワンレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



1ARADBIAP074A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

＊ 刈取オートクラッチを**［入］**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

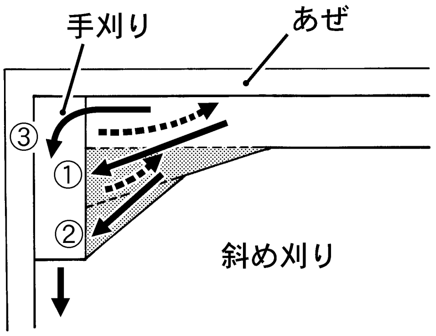
［HD 仕様］

［219・222］

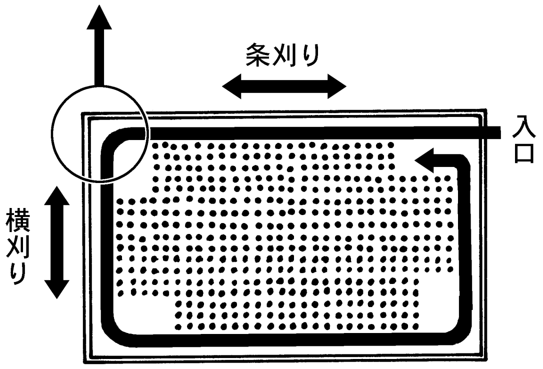
[320・323]

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

1. １周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで４条分を刈始めます。２周目からは３条分を刈取ります。
2. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。



1ARADAFAP368A

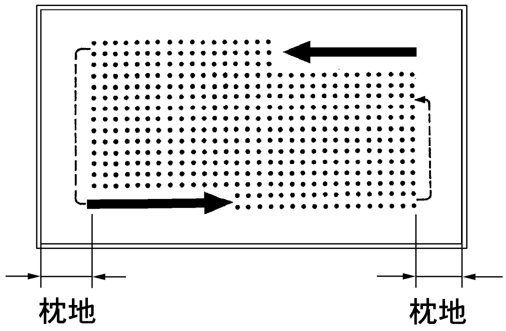


1ARADAFAP369A

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ あぜぎわや隅の斜め刈りを行なうときは，あぜに突っ込むおそれがあるので，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取りしてください。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく機内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

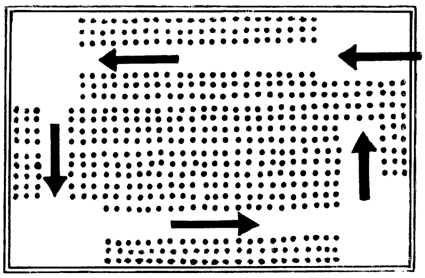
3. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP370A

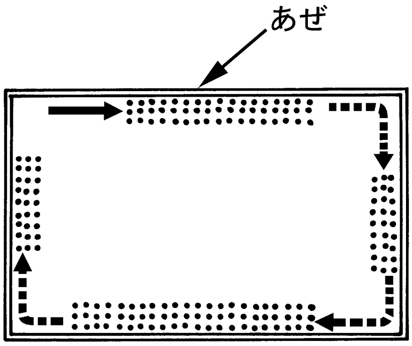
◆ **あぜぎわの刈りかた**

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げたり，ブロックに当たるときは，１周目は周囲３条分を残して４条分を刈取ります。



1ARADAFAP371A

2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，左分草かん前，後を収納し，**低速**で**右回り**で行ないます。



1ARADAFAP372A

重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんをあぜに強く当ると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますので注意してください。

補　足

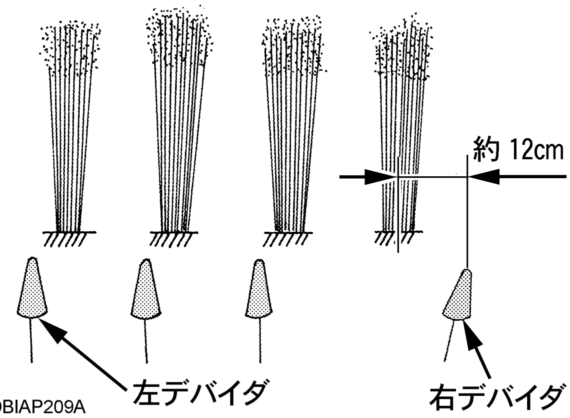
＊ 自動こぎ深さ装置を［**切**］位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

◆ **デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた**

条合せをするときは，コンバインの速度を落としてください。

● **あぜぎわ刈り・中割り作業のとき**

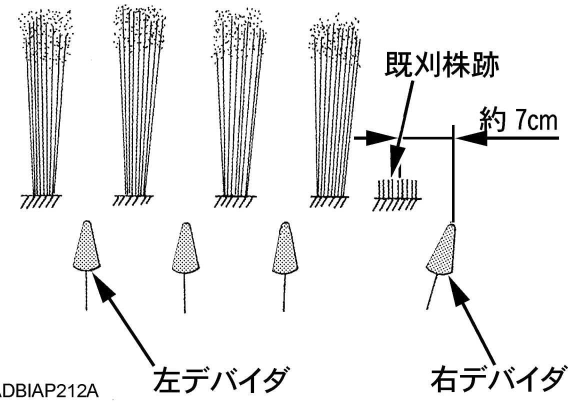
未刈株中心から約 12cm の位置に右デバイダ先端を合わせて４条分を刈取ります。
（低速で作業してください。）



1ARADBIAP209A

● **通常の回り刈りのとき**

既刈側刈株跡から約７ cm 離れた位置に右デバイダ先端を合わせて３条で刈取ります。



1ARADBIAP212A

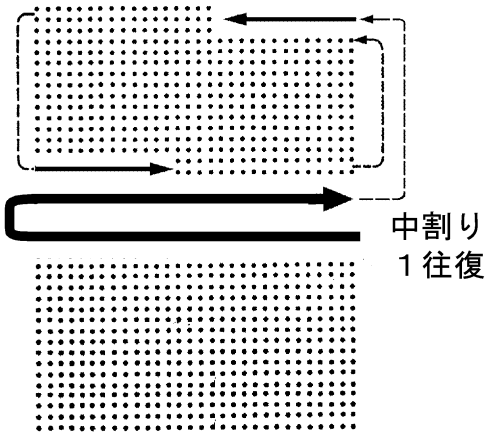
補　足

＊ 条合わせのときは，SF ワンレバーを小刻みに操作してください。

◆ 広いほ場の場合

[ソリを地面に接地した刈りかた]

中割り刈りで分割して，4条分を刈取ります。このとき，必ず**1往復**を同じ要領で刈取ります。また，右デバイダがわら押しするのを防ぐため左, 右のサイドシュートをそれぞれ長穴の内側の位置（**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照）にします。1往復刈取りが終わると右サイドシュートを外側に広げてください。



1ARADBIAP211A

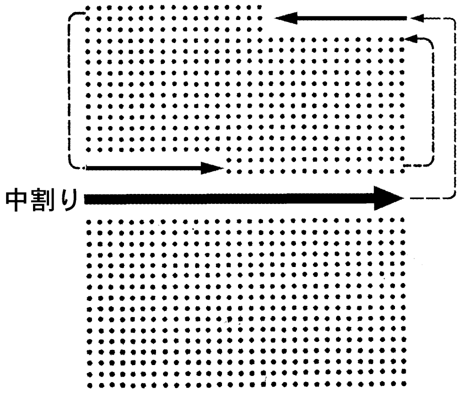
補　足

＊ 1 往復するとき，復路で刈取作業中に右デバイダがわら押しするときは，左サイドシュートを長穴よりもさらに内側の丸穴位置に調整してください。（**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照）
＊ 中割り刈りが終わったあと，右サイドシュートが長穴の内側の位置にあるとカッタ詰まりの原因となりますので中割り作業後は，必ず右サイドシュートを外側に広げた位置にしてください。

[ソリを地面に接地した刈りかた]

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

中割り刈りで分割して，４条分を刈取ります。



1ARADAFAP375A

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

補　足

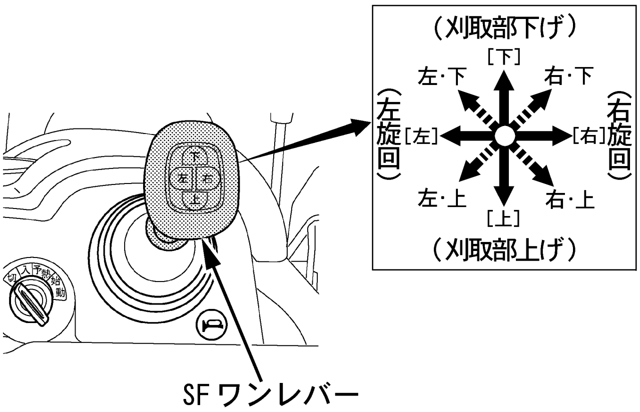
＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

◆ 旋回のしかた

1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

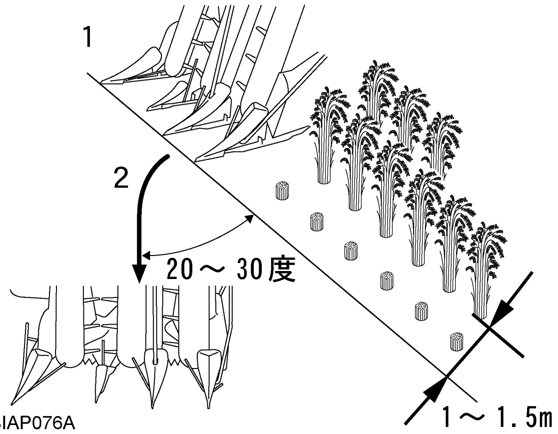
補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ SF ワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。



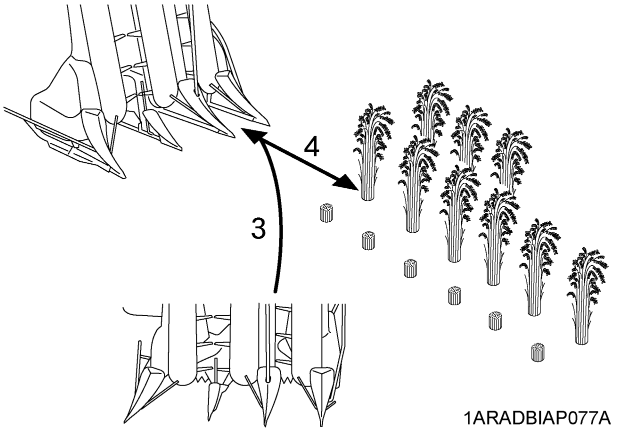
1ARADBIAP286M

2. 最後の作物を刈取ったあと，1 ～ 1.5m 程度走行しながら刈取部を上げSFワンレバーを左に倒し，20 ～ 30 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



1ARADBIAP076A

3. 主変速レバーを［**後進**］位置に入れ，後進しながら SF ワンレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



1ARADBIAP077A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

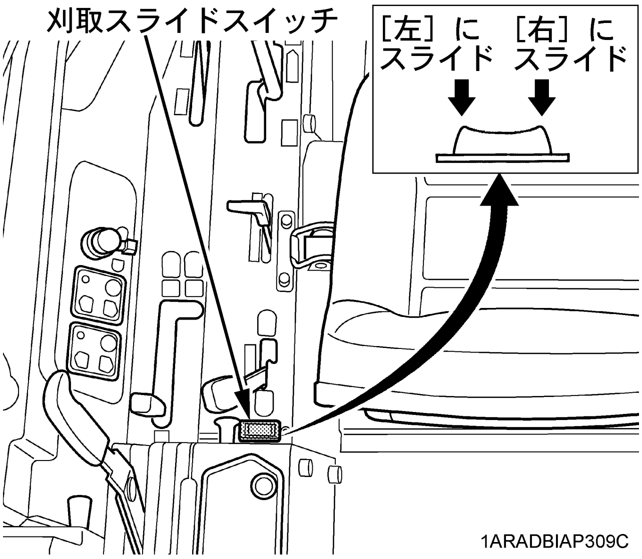
＊ 刈取オートクラッチを［**入**］位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

［320・323］

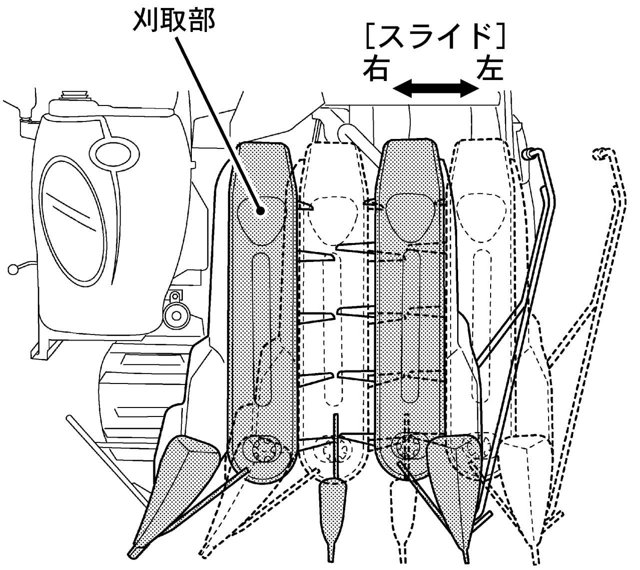
■刈取スライド装置の使いかた

［219・222］

刈取スライド装置は，スライドスイッチを操作することによって刈取部が**左 ⟷ 右**にスライドする装置です。スライドスイッチを操作するときは，刈取部を地面から約 10cm 程度浮かせて操作してください。



1ARADBIAP309C



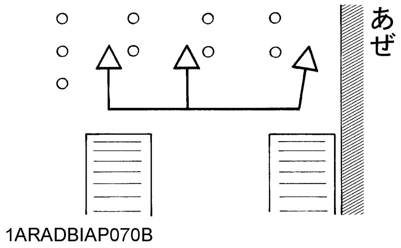
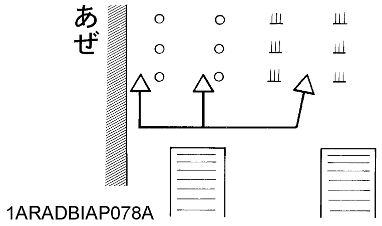
1ARADBIAP303A

◆ 刈取スライドの使いかた

作業に応じて使い分けてください。刈取部を右にスライドして踏代を少なくできます。

重　要

＊ デバイダ・ソリを地面に接地した状態で刈取部をスライドしないでください。スライドモータ部の故障の原因になります。
＊ あぜがコンクリートの場合は，クローラを乗上げると，クローラを折損する場合がありますので，あぜぎわ２条を残して刈取ってください。
＊ 刈取部に作物のある場合（刈取作業中や詰まった状態）は，刈取部をスライドしないでください。スライド部の故障の原因になります。
＊ スライドを連続して５往復以上しないでください。またスライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。
＊ スライド時は刈取部を約 10cm 程度浮かせてください。地面に着けたままではスライドできません。

作　業　内　容	刈取部の位置	刈取スライドの使い方
● 中割り刈り （３条刈取時） ● あぜぎわ順回り刈り （左回りで３条刈取時） ● 移動走行 ● トラックへの積込み		刈取部を**右スライド**位置で使います。 （運転席に近づける）
● 通常回り刈り （２条刈取時） ● あぜぎわ逆回り （右回りで２条刈取時） ● 刈取部脱着 ● 斜め刈り		刈取部を**左スライド**位置で使います。 （運転席から遠ざける）

[219・222]

■湿田作業のしかた

注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。

湿田で刈取作業を行なうときは，デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかたで作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。また **［M仕様］** は，水平自動スイッチを **［入］** 位置にしてください。

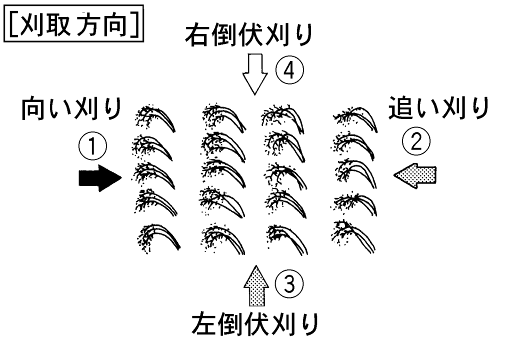
現　象	処　置
● スリップする。 ● 沈下して動かなくなる。 ● 機体が傾く。	● 低速で作業を行なう。 ● 同じ場所での旋回は避ける。 ● 急旋回はしない。（SF ワンレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ● 急発進はしない。 ● 機体を軽くする。 （ホッパ内又は，グレンタンク内のもみを早期排出する。） ● 水口場所や深いところでは，下車し，機体を軽くする。
● 刈取部が詰まる。	● 巻付いた作物，わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ下部や搬送部） ● 少し高刈りする。
● カッタ部が詰まる	● わらくずや泥の付着を取除く。

■作物に合わせた変速の選びかた

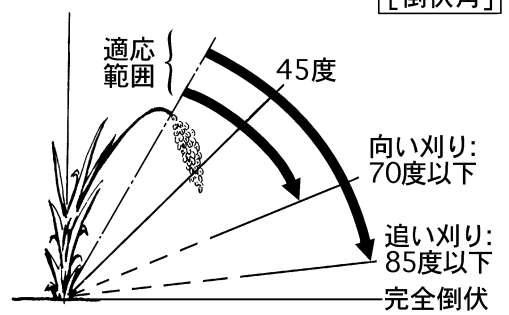
作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 作業速度の選びかた

下表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい（立毛）場合や水分が少ない（乾燥）場合は，作業速度を速くすることができます。



1ARADAFAP378A



1ARADAFAP379A

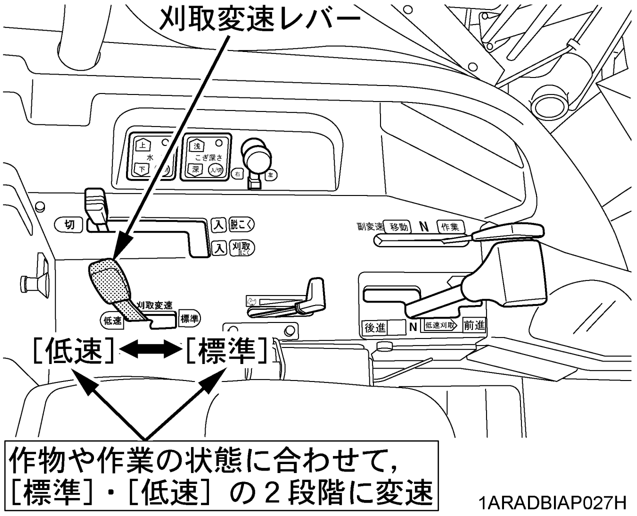
作物のぬれ	作業速度	変速レバー 副変速	変速レバー 主変速	倒伏 刈取り方向	立毛	倒伏角
乾燥 ↑ ↓ 水分多い	速い ↑ ↓ 遅い	作業	高速刈取（前進・中立・後進） 低速刈取（前進・中立・後進）	30度以下の①（向い刈り）③（左倒伏刈り） ④（右倒伏刈り） ②（追い刈り）		小さい ↑ ↓ 大きい

補　足

＊ 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

◆ 刈取変速の選びかた

作物の状態に合わせて，下表を参考にして，刈取変速レバーで **[低速]**・**[標準]**（２段階）の変速を行なってください。



1ARADBIAP027H

作 物 状 態		変速選択位置
倒伏度合	その他の条件	刈取変速レバー
直立	一般的作物	**[標準]**
	周囲刈りなど低速刈取作業	
	脱粒しやすい作物	**[低速]**
	短かんで少量作物	
倒伏	45 度以下の倒伏作物	**[標準]**
	45 度以上の倒伏作物長かん作物	
	45 度以上でかん切れが多い作物	**[低速]**

補 足

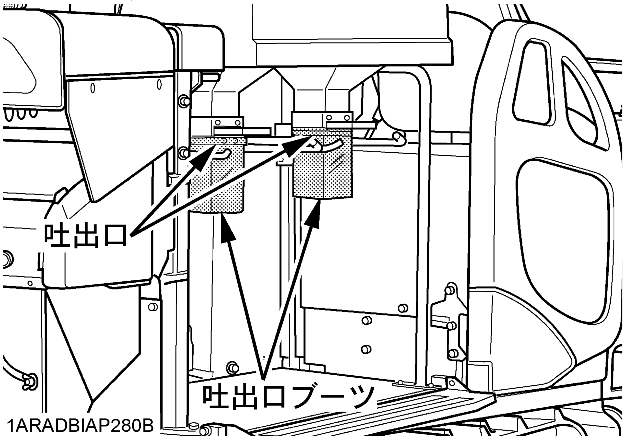
＊ 変速の選びかたの表は目安です。
＊ 出荷時は **[標準]** 位置です。
＊ かん切れが起こると，作物が途中で切れるため，搬送されずに刈取部前方に作物が滞留します。
＊ 下記のような条件では，上表のような作業速度では作業ができない場合があります。
- 雑草が極めて多いほ場
- ５度以上傾斜しているほ場
- 病虫害，風水害により倒伏している作物
- 根ぐされし，切れやすい作物，濡れ作物
- 長かんで脱粒しやすい作物
- 過熟して，茎が折れやすくなっている麦
- 10cm 以上の高うねのほ場
- 極短かんで極少量作物

■もみの排出のしかた

[ホッパ仕様]

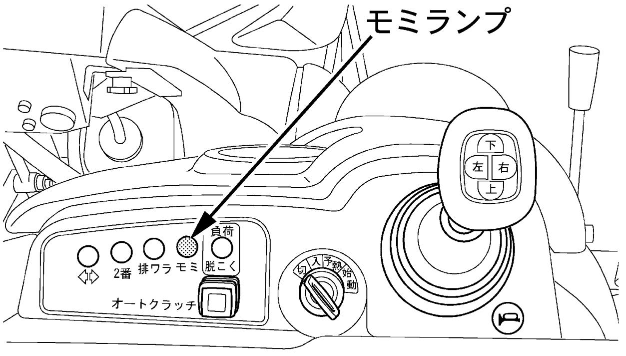
⚠ 注 意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。



1ARADBIAP280B

1. ホッパが満杯になると，警報パネルの **[モミ]** ランプが点滅すると同時にブザーがなります。



1ARADBIAP286N

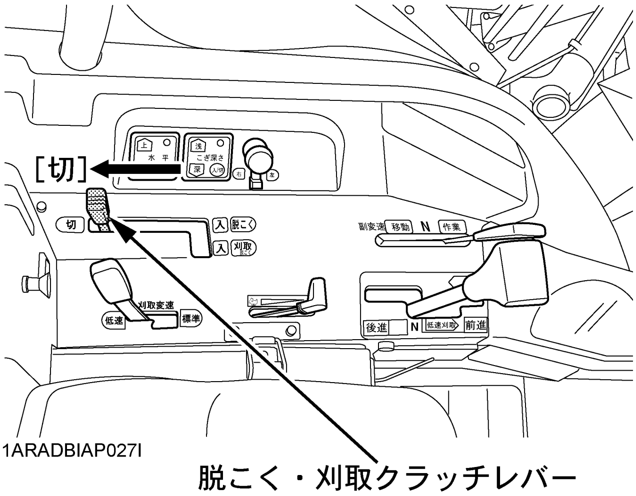
重 要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補 足

＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約 1.5 秒間押してください。ブザーは停止しても，**[モミ]** ランプは点滅したままの状態です。**[モミ]** ランプはもみを排出すると消灯します。

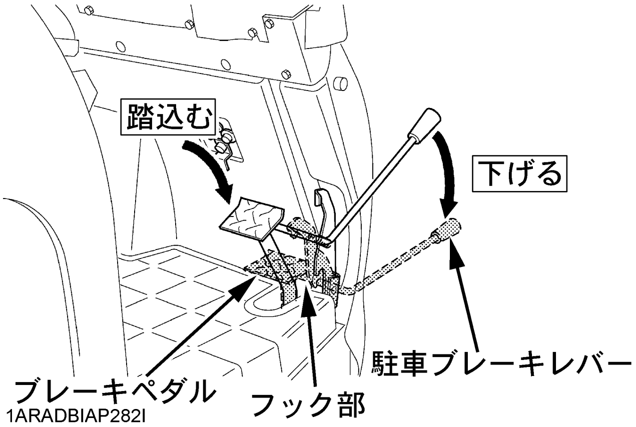
2. 作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと脱こく・刈取クラッチレバーを **［切］** 位置にし，脱こく部を停止します。



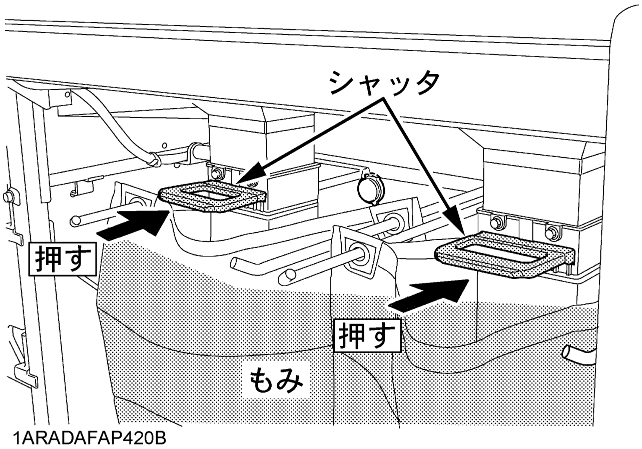
補　足

＊ 選別不良の原因となりますので，走行停止後 30 秒以上経過して行なってください。

3. 平坦な場所を選んで主変速レバーを **［N］（中立）** 位置にして，走行を停止したあと，駐車ブレーキを掛けます。



4. シャッタを押して閉じ，新しいもみ袋と交換したあと，シャッタを引きます。



補　足

＊ もみを排出すると，モミランプが消えます。

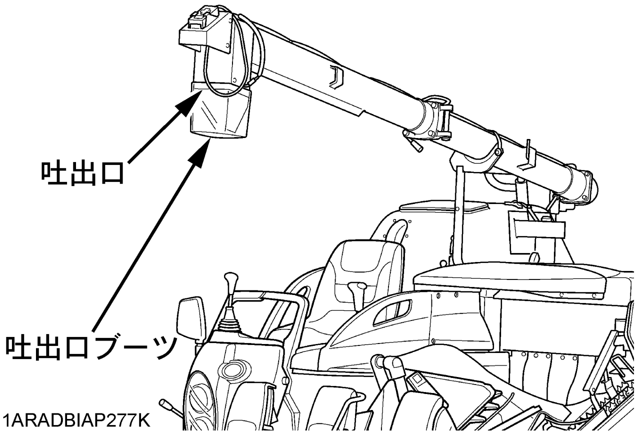
5. 駐車ブレーキを解除したあと，作業を始めてください。

［ホッパ仕様］

[G 仕様]

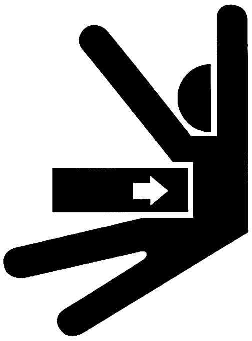
注 意

- **コンバインを必ず停止してください。**
- **吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。**



1ARADBIAP277K

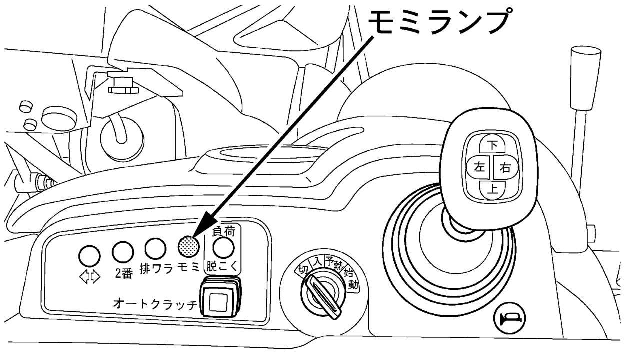
- **手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。**
- **もみ排出クラッチレバーを［入］位置にして，もみがアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。**
- **アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。**



1ARADAFAP076A

- **排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。**

1. グレンタンクが満杯になると，警報パネルのもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBIAP286N

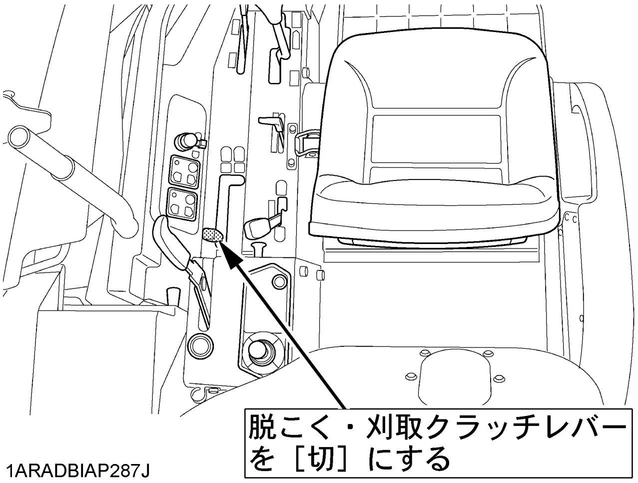
重 要

- ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。
- **［HD 仕様］**は，ボイスナビが**［もみがいっぱいになりました］**とお知らせします。

補 足

- ホーンスイッチを押すと，ブザーは停止します。

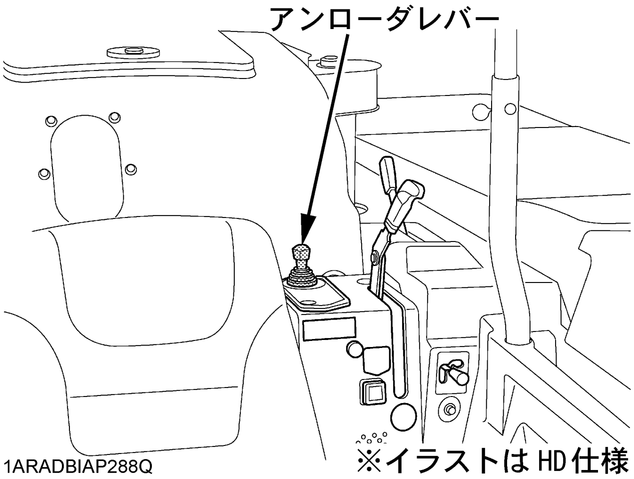
2. 作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。



1ARADBIAP287J

3. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



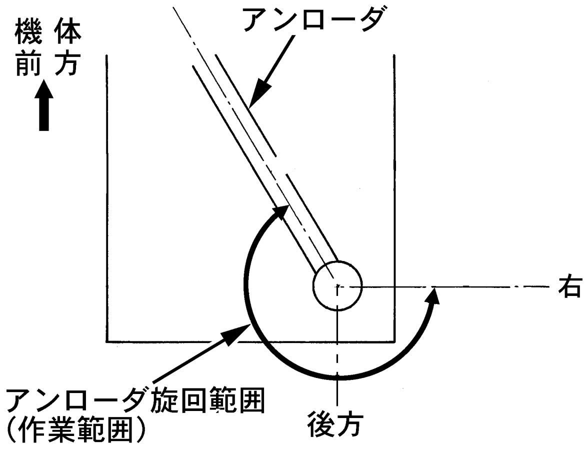
1ARADBIAP288Q

重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）の原因になります。
＊ 自動・停止スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

補　足

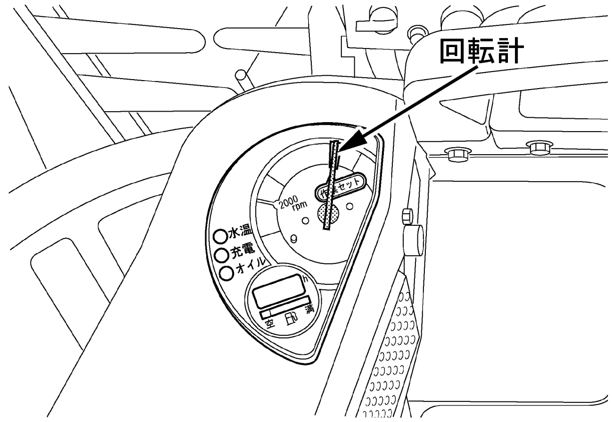
＊ 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待ってから自動・停止スイッチを押してください。
＊ 自動制御装置作動中に，自動・停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動・停止スイッチを押すと，アンローダは排出位置又は，収納位置に戻ります。
＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。



1ARADAFAP424D

＊ アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。（25ページ参照）

5. 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。



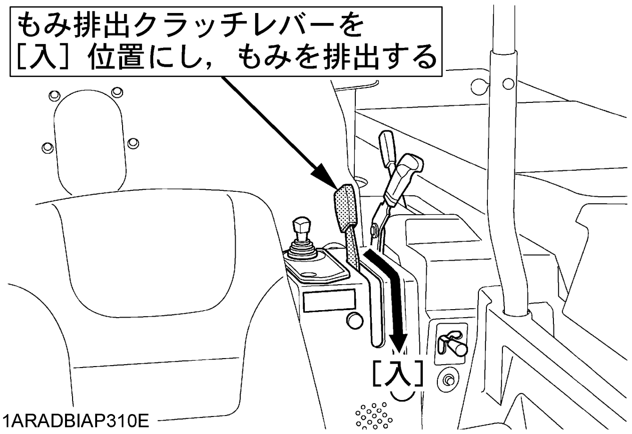
1ARADBIAP052B

補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm程度まで下げてください。

[DX仕様]

6. もみ排出クラッチレバーを **[入]** 位置にし，もみを排出します。

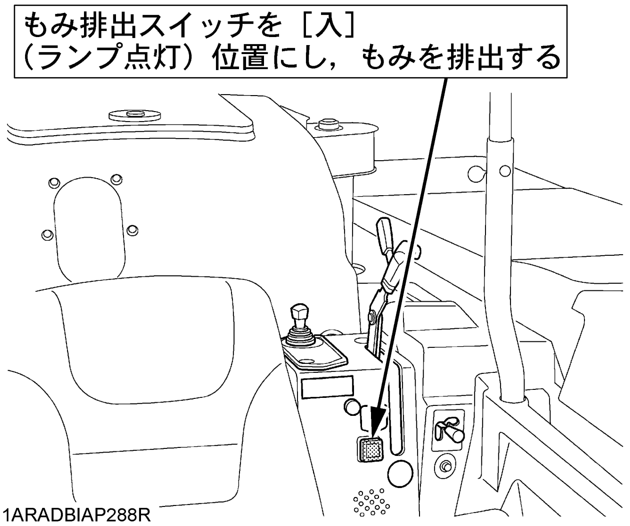


1ARADBIAP310E

[DX仕様]

[HD仕様]

6. もみ排出スイッチを押すとランプが点灯し（スイッチ **[入]**），もみを排出します。

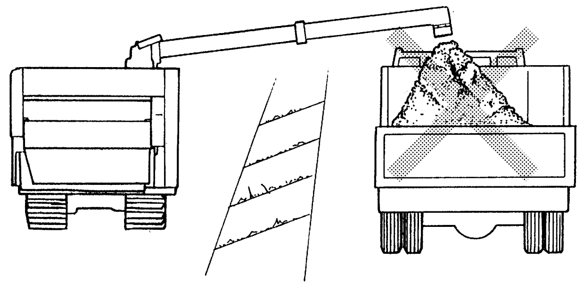


1ARADBIAP288R

[HD仕様]

重　要

* 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。



1ARADAFAP208A

* アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
* アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると駆動系統の故障の原因になります。

1ASADACAP311B

7. 排出が終わると，もみ排出クラッチを **[切]** 位置にし，アンローダ自動・停止スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

* アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
* アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

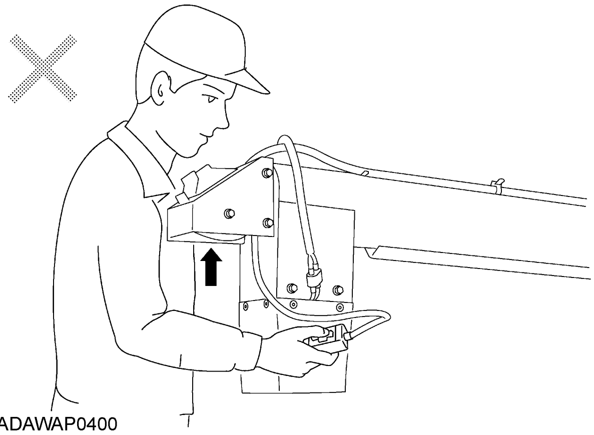
[G仕様]

◆ アンローダリモコンについて

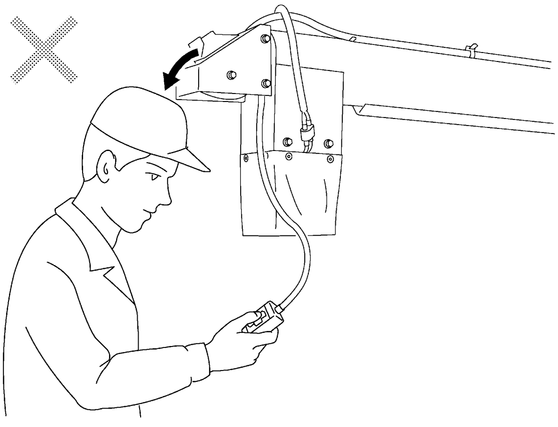
[HD 仕様]

警　告

＊ 共同作業を行なうときは，合図を徹底させて行なってください。
＊ アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。リモコンスイッチの誤作動により，不意に動いてケガをするおそれがあります。



1ARADAWAP0400



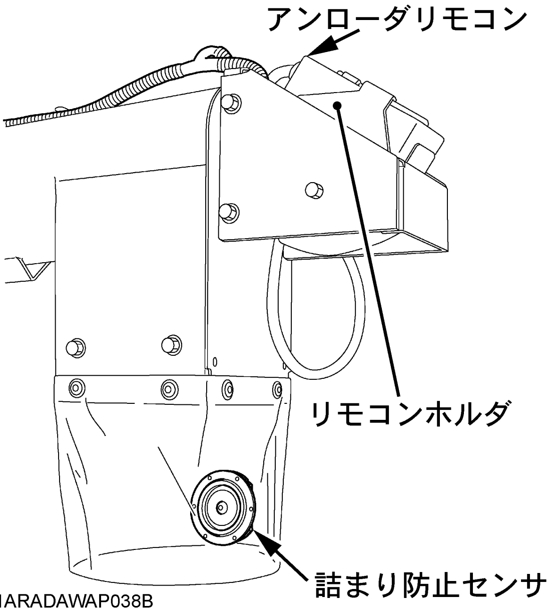
1ARADAWAP0390

＊ アンローダリモコンの操作中に，運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重　要

＊ アンローダが水平位置より低いところで操作するときは，アンローダ受けに接触させないでください。

1. アンローダの自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置に移動します。
2. リモコンホルダからアンローダリモコンを取外したあと，アンローダ操作ボタンを操作します。(27 ページ参照)



1ARADAWAP038B

補　足

＊ 詰まり防止センサは，排出時のもみの損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは，余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
＊ もみ袋に排出するときは，もみ袋が倒れないように，共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
＊ アンローダをゆっくり動かすときは，スイッチを小刻みに押し，大きく動かすときは，スイッチを押し続けてください。
＊ アンローダレバーとアンローダリモコンを同時に操作したときは，アンローダリモコンによる操作が優先されます。
＊ アンローダ操作ボタンを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回(ラベル赤色方向) し，アンローダ操作ボタンを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回(ラベル青色方向) します。(25 ページ参照)

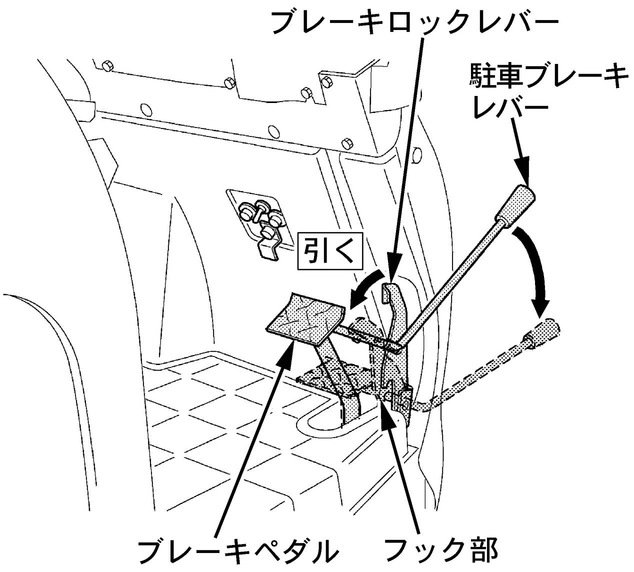
3. もみ排出ボタンの **[入]** を押すとランプが点滅し，もみを排出します。
4. もみの排出が終わると，もみ排出ボタンの **[切]** を押してもみの排出を止めます。このとき，ランプが消灯します。
5. 作業が終わるとリモコンをリモコンホルダに収納します。

[HD 仕様]

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

⚠ 警　告
＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。 ＊ コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。 ＊ 刈取部は地面に接地させて，停止してください。 ＊ 手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。 ＊ 脱こく部入口プレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

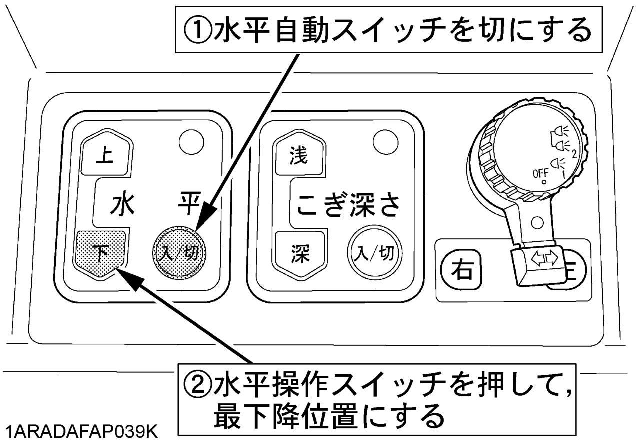
1. 平たんな場所を選んで走行を停止したあと，副変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，駐車ブレーキを掛けます。



1ARADBIAP282J

2. 脱こく・刈取クラッチレバーを **［切］** 位置にします。

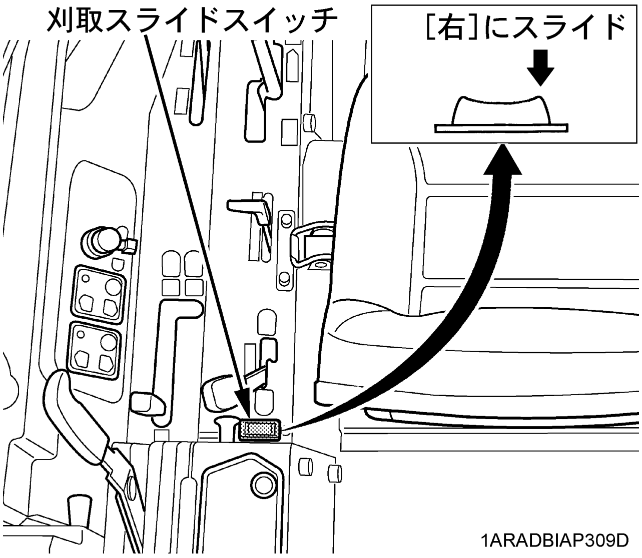
3. **［M 仕様］**は機体を最下降位置まで下げます。



1ARADAFAP039K

［219・222］

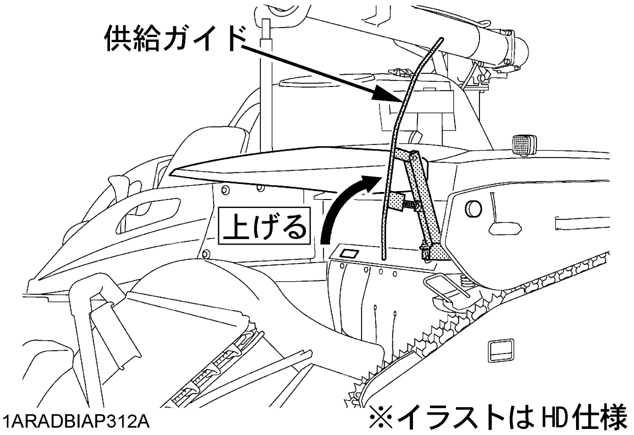
4. 刈取部を**右端（運転席側）いっぱいまで**スライドします。（70 ページ参照）



1ARADBIAP309D

［219・222］

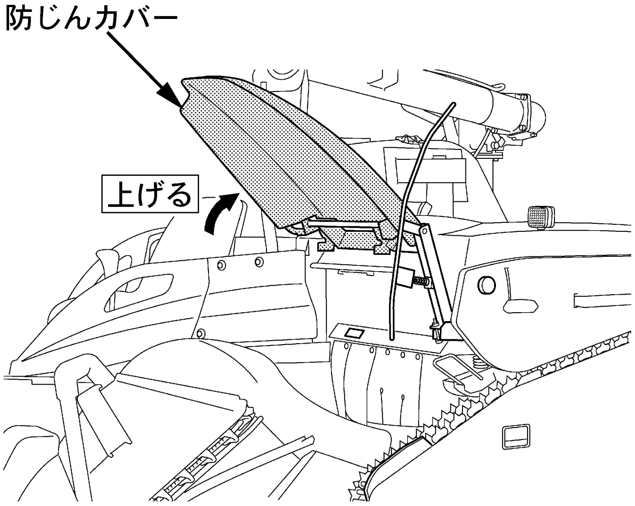
5. 供給ガイドを上げます。



1ARADBIAP312A　※イラストは HD 仕様

［HD 仕様］

6. 防じんカバーをロックするまで上げます。



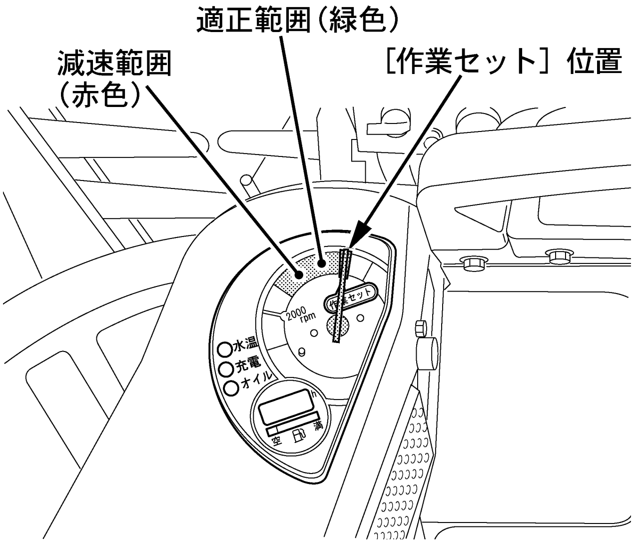
1ARADBIAP290B

補　足

＊ 作業終了後は防じんカバーを下げてください。

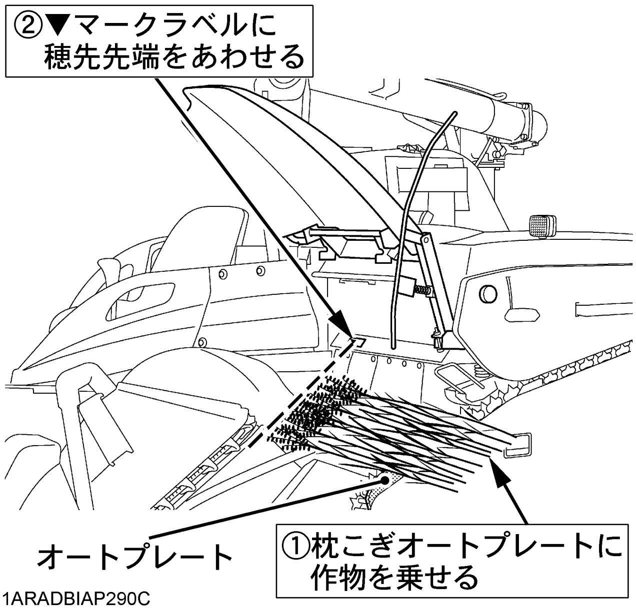
［HD 仕様］

7. 脱こく・刈取クラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，脱こく部だけを動かします。
8. エンジン回転数を**［作業セット］**位置（**緑の目盛**）から緑色の適正範囲内で下げる方向に調節してください。
このとき，赤色の減速範囲以下に下げると，詰まりが発生するおそれがあります。



1ARADBIAP052C

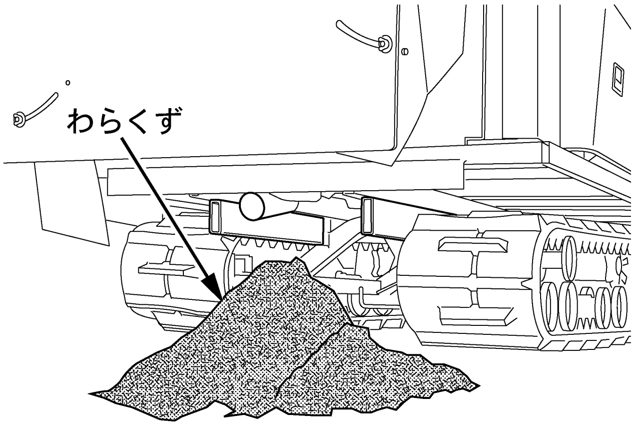
9. 手刈り作物を枕こぎオートプレートに乗せたあと，作物の穂先先端を**［▼マーク］**に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。



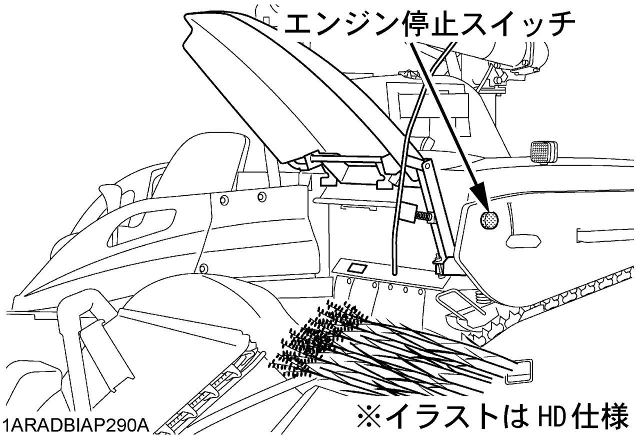
1ARADBIAP290C

重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。
＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



1ARADBIAP290A　※イラストはHD仕様

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警　告

＊ 調整時は必ずエンジンを止めてください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

＊ 平たんで安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

◆刈取部

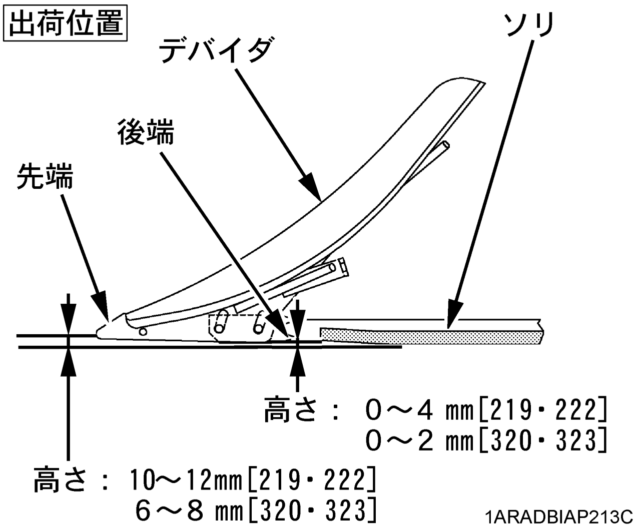
■デバイダの上・下調整

出荷時のデバイダ位置では，**［ソリを地面に接地した刈りかた］**と**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**のいずれの刈りかたでも行なえますが，

- **［ソリを地面に接地した刈りかた］**で刈取作業を行なう場合は，必ず**出荷時**の位置にセットしてください。
- **［ソリを地面に接地した刈りかた］**で刈取作業が行なえない場合（58 ページ参照）は，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取作業を行なってください。

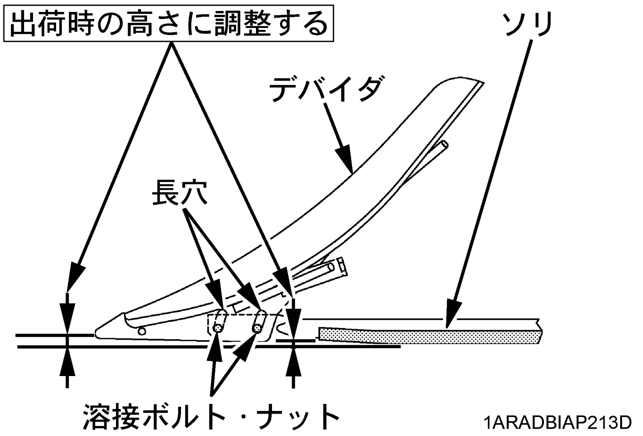
◆ デバイダの出荷時の位置について

出荷時のデバイダ位置は，ソリ底面からデバイダ先端下側の高さが，10 ～ 12mm **［219・222］**，6 ～ 8 mm **［320・323］** また，ソリ底面からデバイダ後端の高さが，０～４ mm **［219・222］**，０～２ mm **［320・323］** です。



● **出荷位置**への調整のしかた

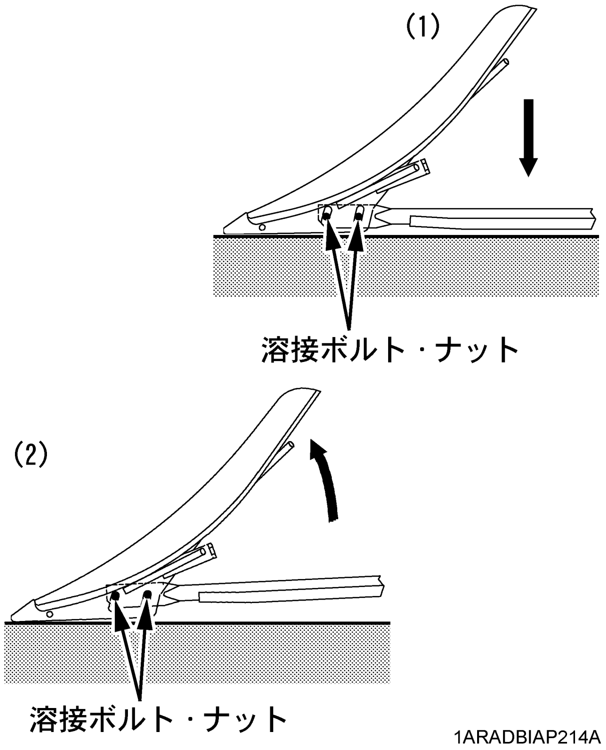
(1) ナット２個をゆるめたあと，デバイダ全体を長穴の下端部に溶接ボルトが接触するまで上げます。
(2) デバイダが下がらない程度に後側のナットを仮締めします。
(3) ソリの底面からデバイダの先端下側とデバイダ後端の高さをそれぞれ**出荷時**の高さに調整します。
(4) ナット２個を締付けます。
(5) 他のデバイダ全ても同じ高さに調整します。



◆ **ソリを地面から上げて刈取作業を行なう場合**

下表の作物条件を目安にして，調整を行なってください。調整のしかたは，**出荷位置**への調整のしかたを参照して同じ要領で調整を行ないます。

作物・ほ場条件	セット位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる(1) の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる(1) 又は (2) の位置



重　要

＊ ソリを地面に接地して刈取作業を行なうときは，必ず**出荷時**の位置にしてください。デバイダが地面に突込み，トラブルの原因となるおそれがあります。

補　足

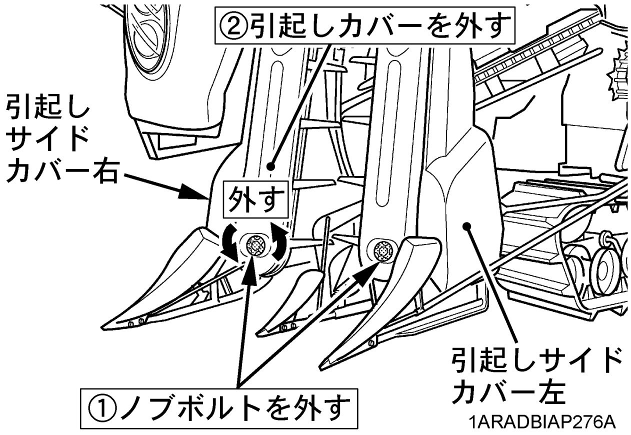
＊ デバイダの上下高さは，全てのデバイダを同じ高さにしてください。

■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

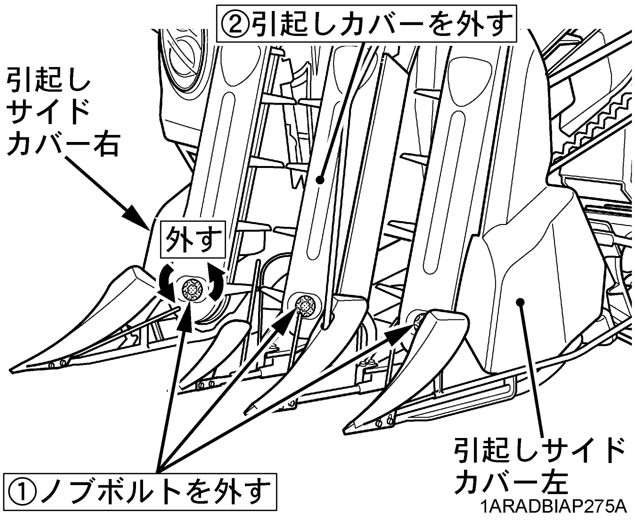
1. 引起しサイドカバー左，右を取外したあと，引起しカバーのノブボルトを外して引起しカバーを全て外します。

［219・222］

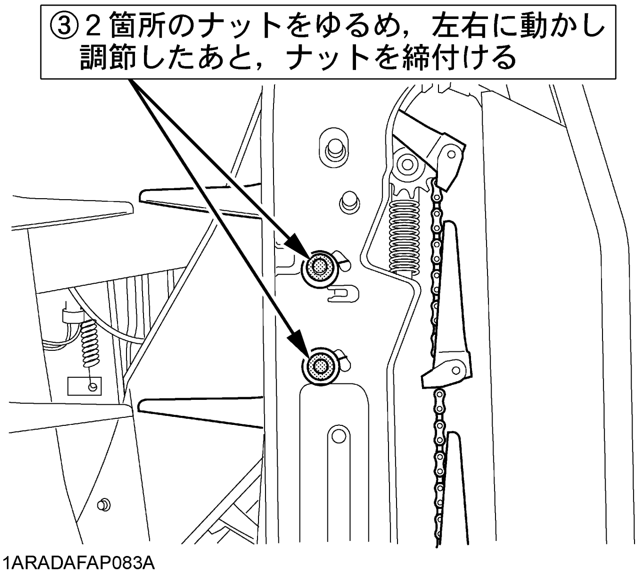


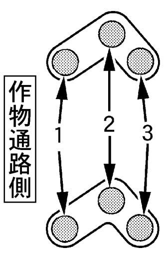
［219・222］

［320・323］



［320・323］



調節位置		作物条件
	1	立毛状態の長かん作物
		立毛状態の標準かん長作物
		倒伏した作物
	2	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熟小麦など）
	3	立毛状態の短かん作物

補　足

＊ 出荷時は１の標準位置です。

＊ **［２］**の位置に調節する場合は，ナット（２箇所）をゆるめて，上側のナットを**［２］**の位置で溝の上側に押付けた状態で，下側のナットを締付けてください。

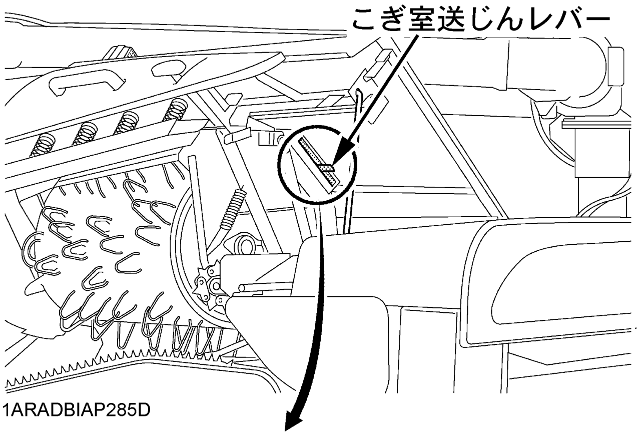
2. 引起しカバーを全て装着したあと，ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。

◆脱こく部

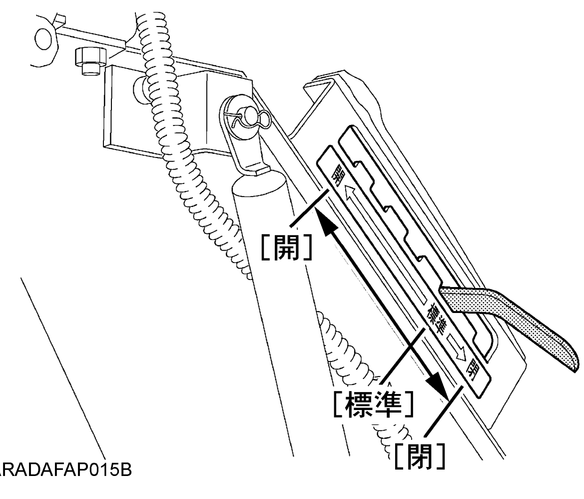
■こぎ室送じん調節レバーの調節

1. こぎ胴をオープンします。
2. 下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態）
[開] ⬆ [標準]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
[標準] ⬇ [閉]	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



1ARADBIAP285D



1ARADAFAP015B

3. こぎ胴を閉じます。

■排じん調整板の調節

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

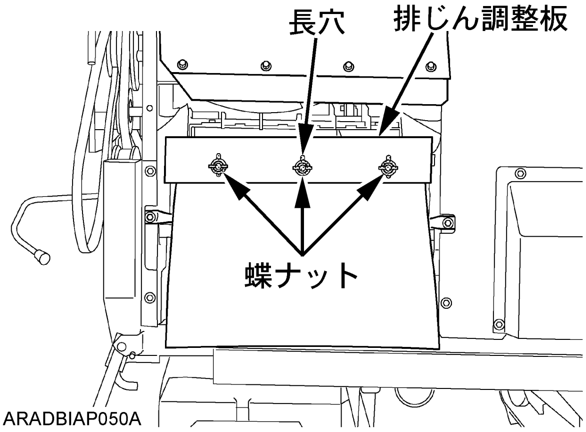
1. カッタをオープンします。（105 ページ参照）
2. 蝶ナット3個をゆるめます。

補　足

＊ 出荷時は，左・右の長穴横にある**標準位置合せマーク**位置に蝶ナットで締付けています。

3. 排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現　象（状　態）
上⬆ [標準位置]	● 排じんロスが多い
[標準位置] ⬇ 下	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）



1ARADBIAP050A

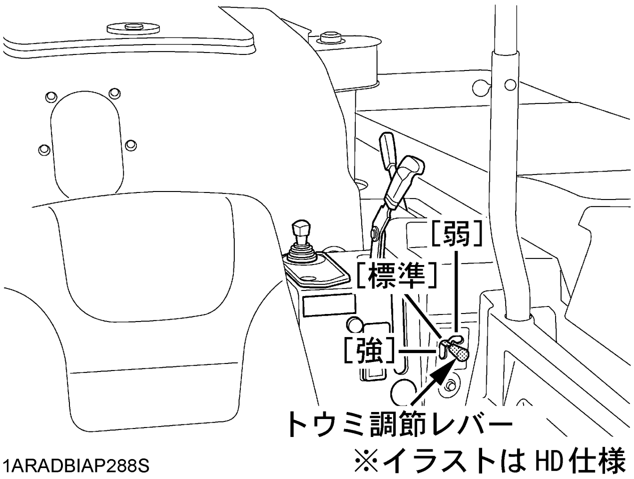
4. 蝶ナットを締付けて，カッタを閉じます。

■トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節

作物に合わせ，表を参照してトウミ切換えレバー及びチャフ切換えレバーで調節してください。

［トウミ調節］

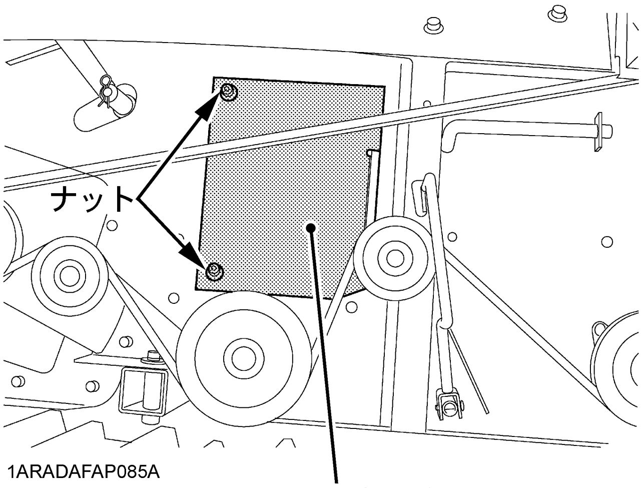
調節方向	現　象（状　態）
［強］ ⬆ ［標準位置］ ⬇ ［弱］	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い



1ARADBIAP288S

［チャフ（選別板のすき間）調節］

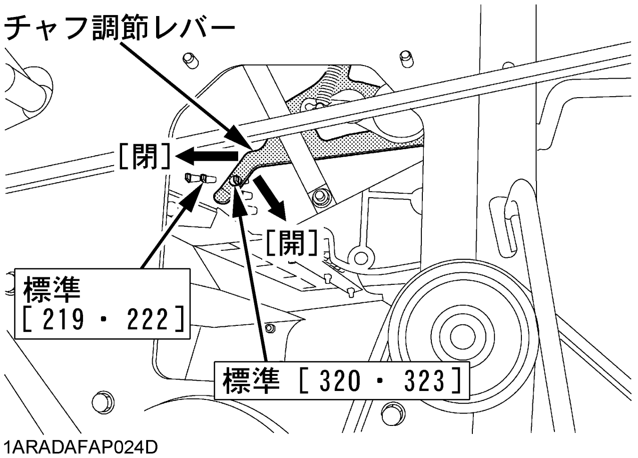
1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ナット２個を取外して１番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。



1ARADAFAP085A

3. チャフ調節レバーで調節します。

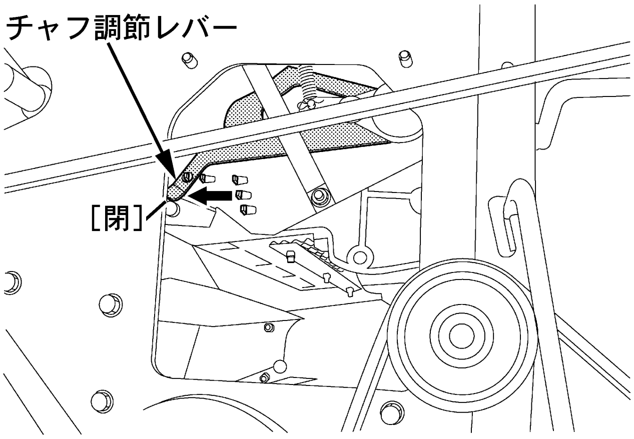
調節方向	現　象（状　態）
［開］ ⬆ ［標準位置］ ⬇ ［閉］	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い



1ARADAFAP024D

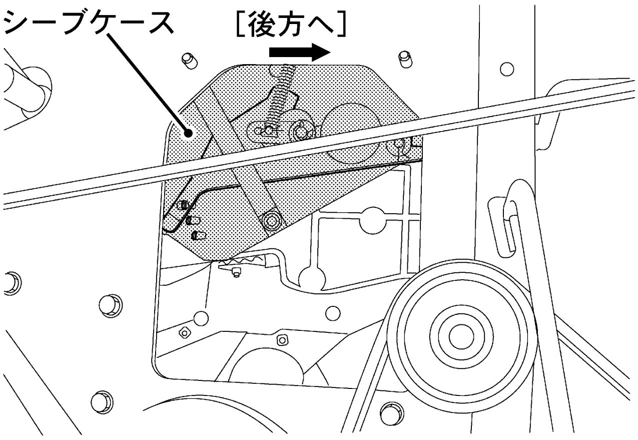
補　足

＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。
＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。
＊ **［ 閉 ］**方向に調節するときは，調節レバーを引いてください。



1ARADAFAP025A

＊ **［ 閉 ］**位置への調節がやりにくい場合（下図のような位置）は，こぎ胴を回してシーブケースを後方に動かしてください。



1ARADAFAP026A

4. 掃除口カバーを取付けてナットで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

■メータユニット・警報パネルによる異常と処置

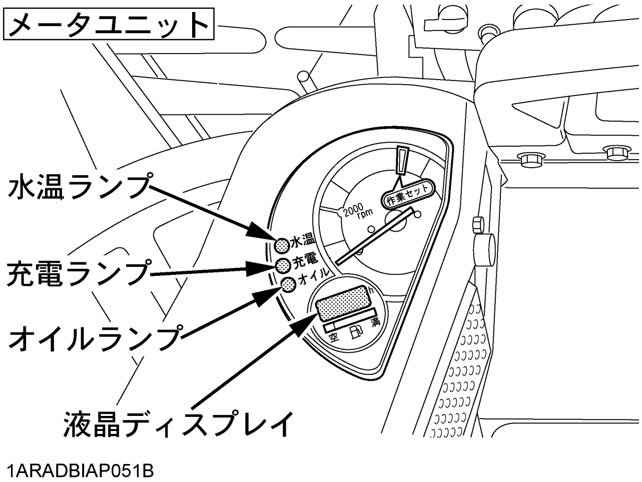
警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

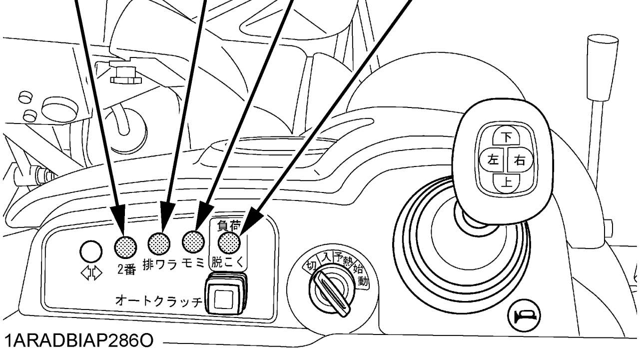
注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

メータユニットに警報が表示されたときは，次の表を参照して処置してください。



1ARADBIAP051B



1ARADBIAP286O

警報の 種　類	警　　報		警報ブザー (吹鳴時間)	音声警報 (ボイスナビ メッセージ) **[HD 仕様]**	現　　象	処　　置	参照 ページ
	液晶表示	ランプ/ メータ 表　示					
燃料警報	残り1目 盛が点滅	—	○ 断続 (約5秒後停止)	燃料を給油してください。	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	・燃料を補給します。	148
油圧警報	—	オイル ランプ 点灯	○ 断続 (処置後停止)	−	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・エンジン停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	149 157 157 -
充電警報	—	充電 ランプ 点灯	○ 断続 (約5秒後停止)	−	・バッテリに充電されていません。 ・そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	・エンジン停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	198 169 198 198

警報の種類	警報 液晶表示	警報 ランプ／メータ表示	警報ブザー（吹鳴時間）	音声警報（ボイスナビメッセージ）**［HD 仕様］**	現象	処置	参照ページ
 水温警報	水温表示に切替り目盛が全て点滅	水温ランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	オーバヒートです。アイドリングにしてください。 オーバヒートです。エンジンを停止してください。 オーバヒートです。冷却後点検してください。	・エンジンの冷却水温が上昇しています。 ・そのまま作業を続けると…**エンジンが焼付きを起こし停止します。** ・エンジン停止後，冷却水温が高温の状態です。 ・そのまま作業を続けると…**エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・アイドリングにしてくださいのメッセージの場合，アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を最低回転位置にします。 ・エンジンを停止してくださいのメッセージの場合，エンジンを直ちに停止し，30 分以上たってから点検と処置をします。 ・冷却後点検してくださいのメッセージの場合，エンジンは停止したまま，30 分以上たってから点検と処置をします。 ・点検と処置 ①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め ②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く ・購入先へ連絡してください。	10 10 154 157 169 158 —
負荷警報	—	負荷／脱こくランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	作業速度を落としてください。	・エンジンや脱こく部に負担がかかっています。 ・そのまま作業を続けると…**エンジンが停止します。**	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	11 73,86 86,87 —

警報の 種　類	警　報		警報ブザー （吹鳴時間）	音声警報 （ボイスナビ メッセージ） **［HD 仕様］**	現　象	処　置	参照 ページ
	液晶表示	ランプ／ メータ 表示					
シーブ 警報	—	負荷／ 脱こくラ ンプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	作業速度を 落としてく ださい。	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力を超えています。 ・そのまま作業を続けると……**エンジンが停止します。**	・作業速度を落としてください。 ⬇ ・作業速度を落としても警報が解除されないときは，刈取作業を中止し脱こく機を空運転します。 ⬇ ・空運転後も警報が解除されないときは，こぎ胴をオープンしてシーブ上の詰まりを取除きます。	11 13 120
もみ満 杯警報	—	モミラン プ点滅	○ 断続 （処置後停止又は，ホーンスイッチを押すと停止）	もみがいっ ぱいになり ました。	・グレンタンク内又は，ホッパ内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると…**グレンタンク又は，ホッパからもみがあふれます。又は，1番スクリュが詰まります。**	・刈取作業を中止，もみを排出します。	74 —
2番 警報	—	2番 ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後停止）	2番スク リュが詰ま りました。	・2番処理胴，2番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると…**エンジンが停止します。**	・2番処理胴，2番縦スクリュケースを掃除します。	120 —
排ワラ 詰まり 警　報	（自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。）				・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。 ・カッタ部にわらが詰まっています。 **◆［結束機仕様の場合］** ・結束機のひもなし，ひも切れです。 ・結束機の結節部のビルにわらやひもが巻付いているか，結束部にわらが詰まっています。	・こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端のわらを取除きます。 ・カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。 ・新しいひものセット，ひもの再セットをします。 ・ビルからわらやひもを取除きます。	93, 211 211 — （※）
	—	排ワラ ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後又は，メインスイッチ**［切］**で停止）	カッタが詰 まりました。			

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

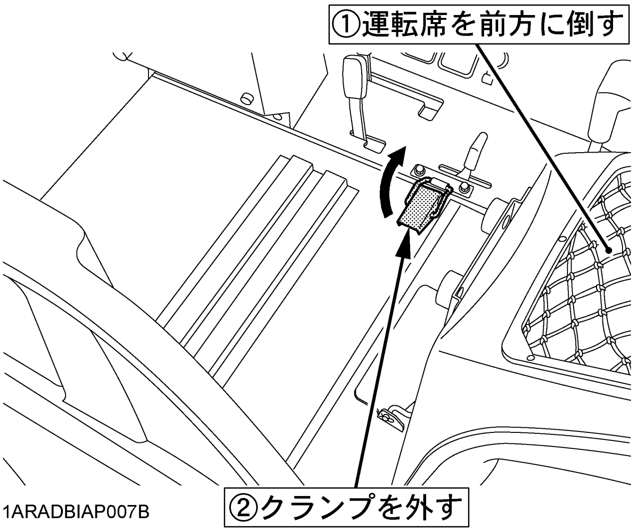
＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
＊ エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■エンジンルームオープン

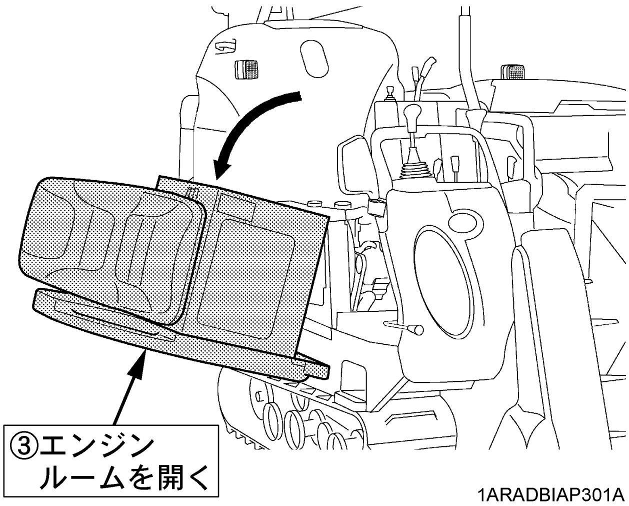
注　意

＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆開きかた



1ARADBIAP007B



1ARADBIAP301A

◆ 閉じかた

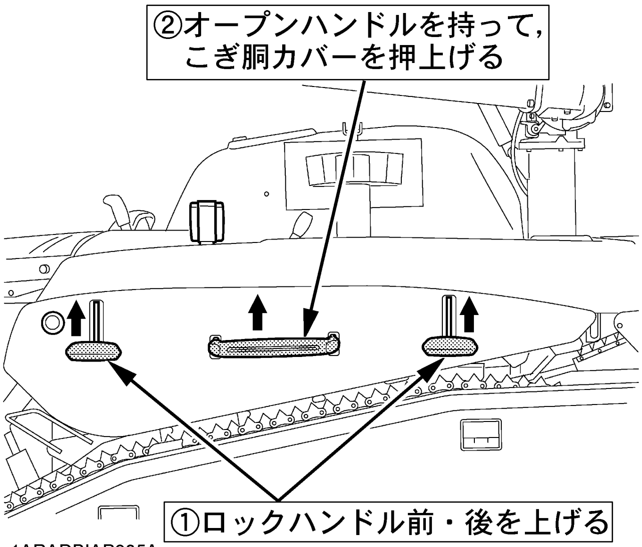
1. エンジンルームを閉じたあと，クランプをします。

■こぎ胴オープン

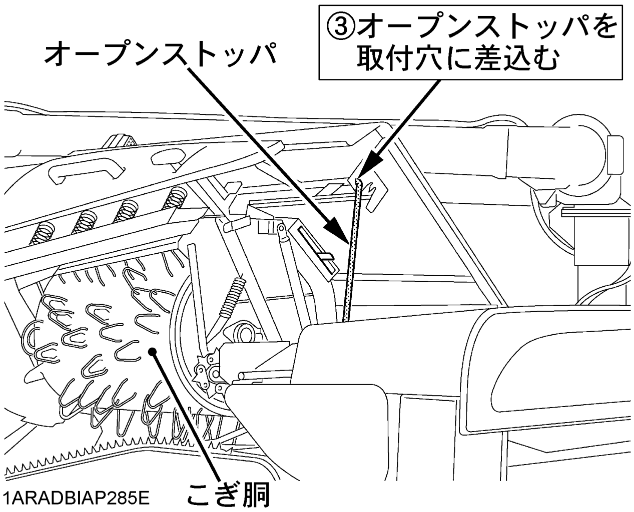
> **警 告**
>
> **＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープン するときは，エンジンを必ず止めてください。**
>
> **＊ こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。**

◆開きかた

こぎ胴をオープンします。



1ARADBIAP305A



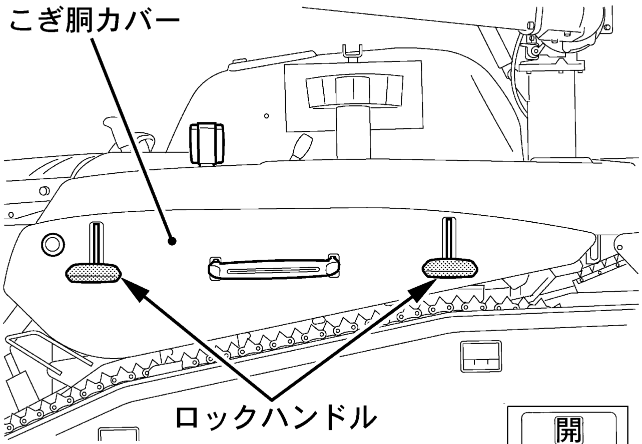
1ARADBIAP285E

◆閉じかた

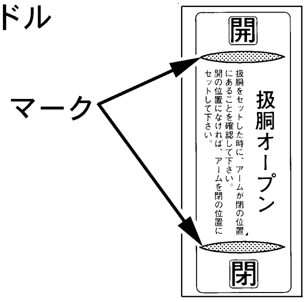
1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押下げます。

重 要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドル前，後の **[⬭]** マークが，ハンドル横の **[開]** ⟷ **[閉]** ラベルの **[閉]** の **[⬭]** マーク位置にあることを確認してください。**[閉]** の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



1ARADBIAP305B



■刈取オープン

警　告

- ＊ **刈取部をオープンするときは，平たんで安全な場所で，刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて行なってください。**
- ＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**
- ＊ **傾斜地では，刈取部の開閉を行なわないでください。**
- ＊ **刈取部をオープンしたまま，走行しないでください。**
- ＊ **刈取オープンした状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。**

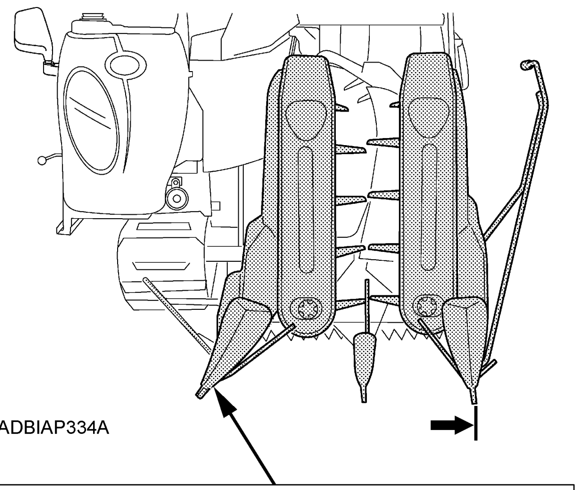
◆開きかた

[219・222]

注　意

- ＊ **取外したサポートスプリングは分解・調整をしないでください。スプリングが急に飛出しケガをするおそれがあります。**

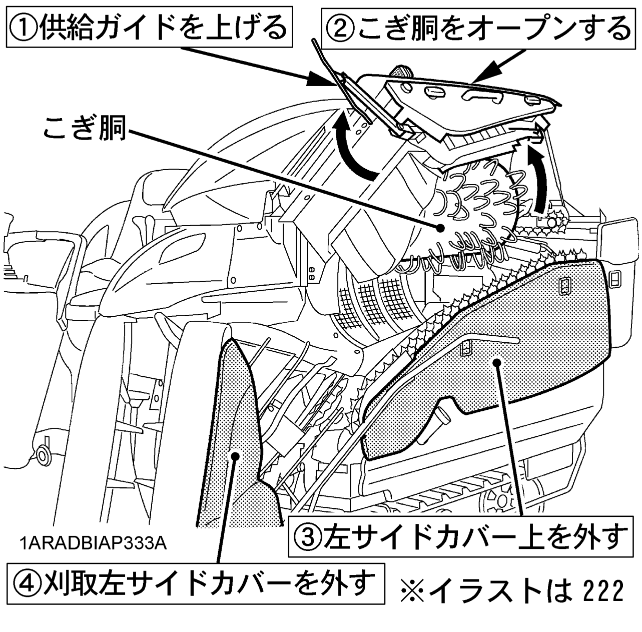
1. **[M 仕様]** は機体を**最下降**位置まで下げます。(20 ページ参照)
2. 手動こぎ深さスイッチを操作して，供給搬送部を**最深（最下降）**位置（22 ページ参照）にします。
3. スライドスイッチを操作して刈取部を**左端部**いっぱいまでスライドした（70 ページ参照）あと，スイッチキーを **[切]** 位置にします。そのあと，機体から降りて右デバイダを上下にゆすりながらさらに刈取部を**左端部**側に押します。



補　足

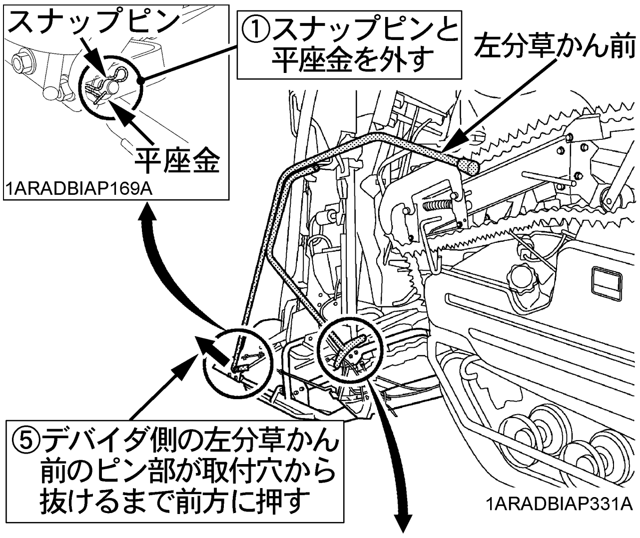
- ＊ 刈取部が左端いっぱいの位置以外では，スライドロック金具（**開きかた**の手順の **15.** 参照）がスライドできなくなるため，刈取オープンが行なえません。

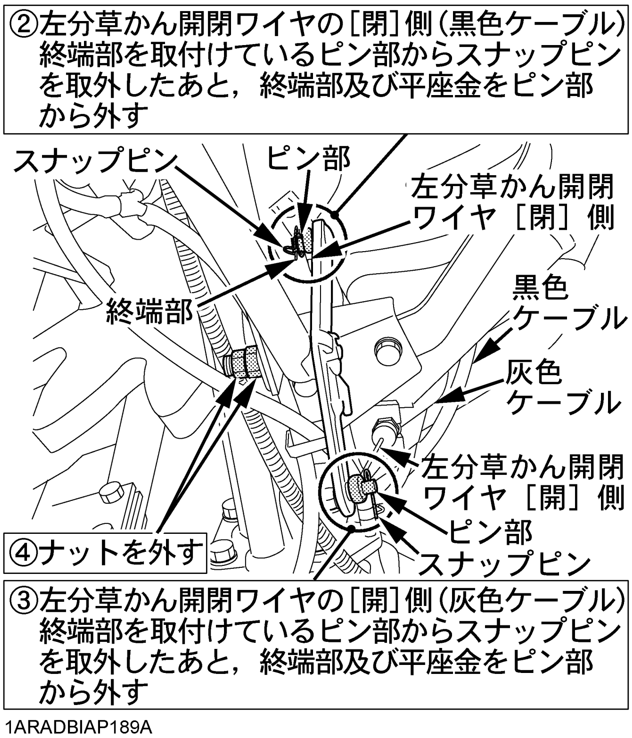
4. 供給ガイドを上げたあと，こぎ胴をオープンします。
5. 左サイドカバー上及び刈取左サイドカバーを外します。



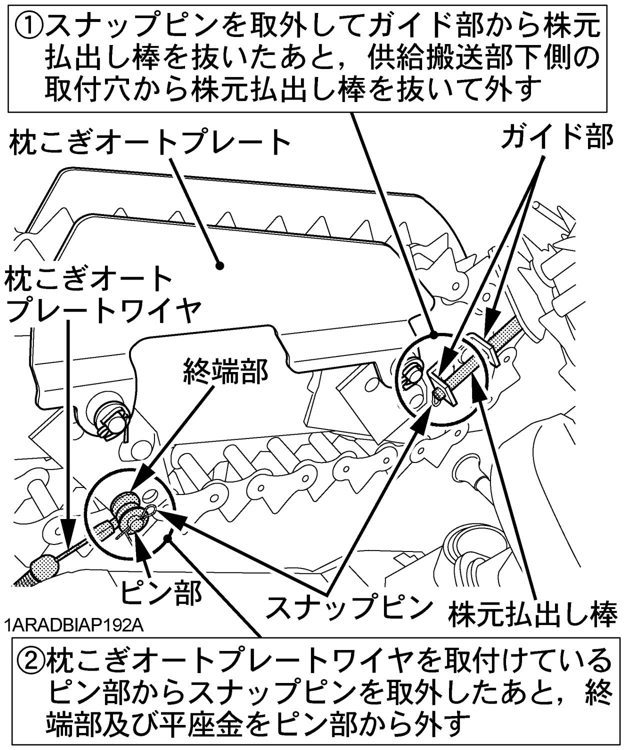
※イラストは 222

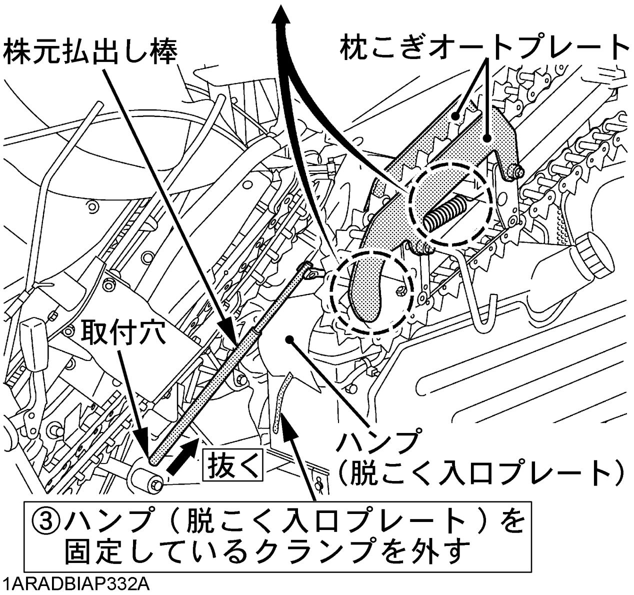
6. 左分草かん前を取外します。





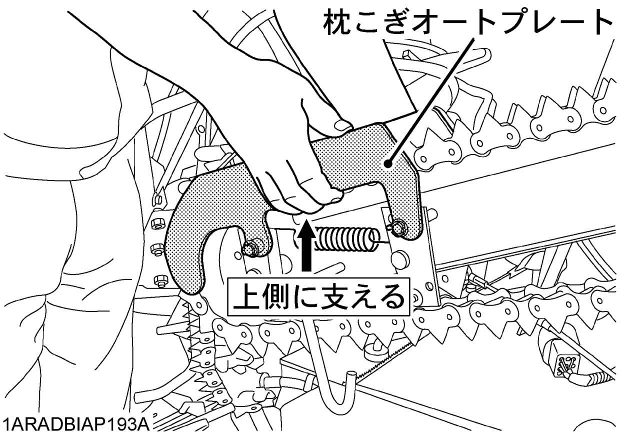
7. 株元払出し棒，枕こぎオートプレートワイヤ及び脱こく入口プレートを取外します。

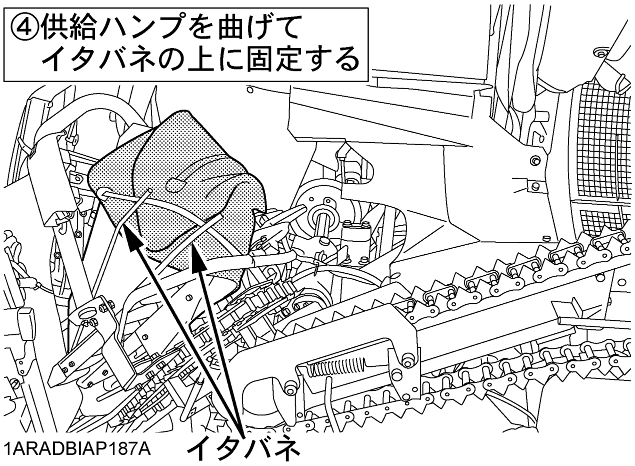


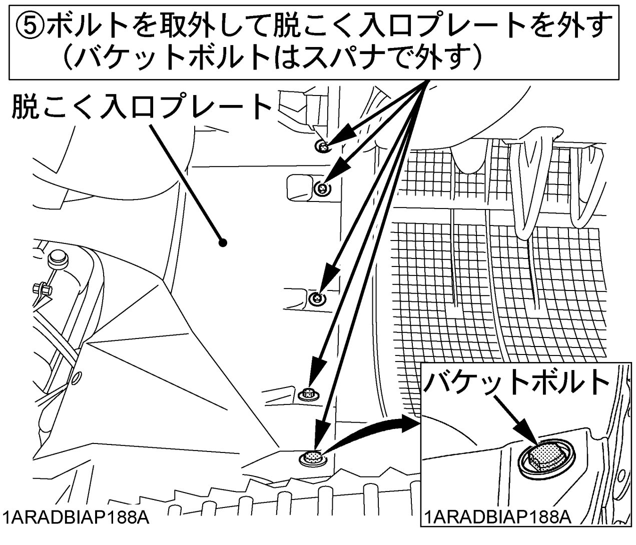


補　足

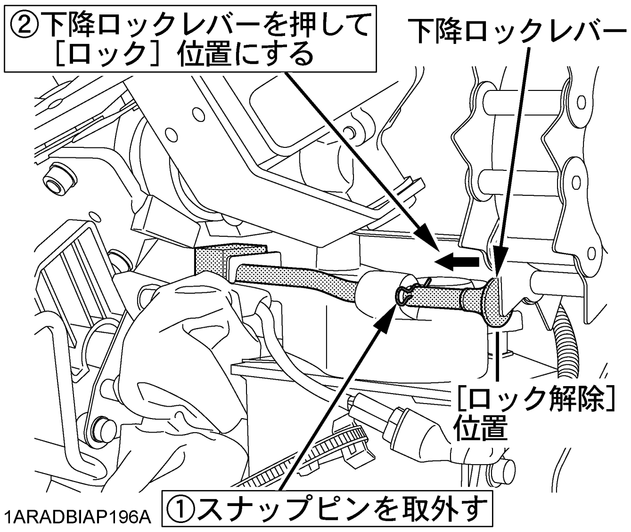
＊ 枕こぎオートプレートのワイヤを取外すときは，プレートを上側に手で支えながらピン部から終端部を取外したあと，ゆっくり下側に降ろしてください。

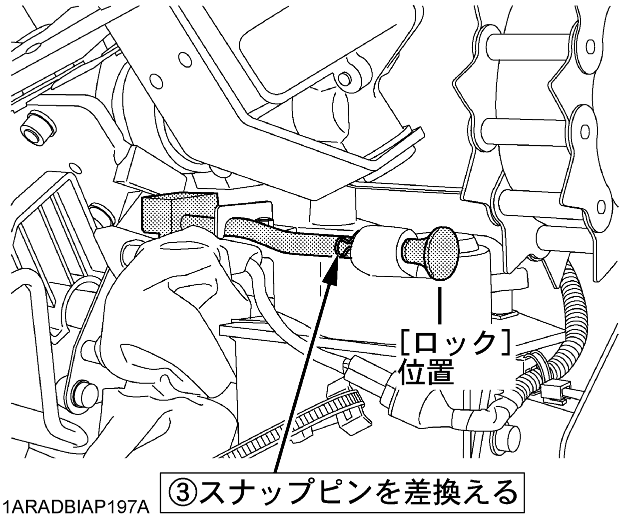


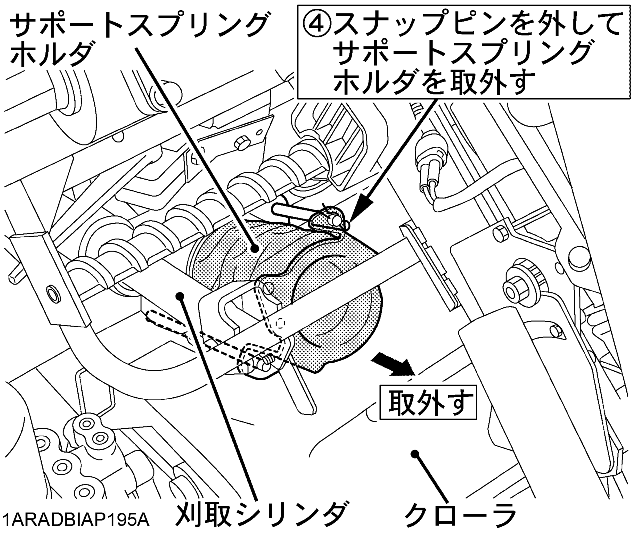




8. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
9. 刈取下降ロックスイッチを **［ロック］** 位置（13ページ参照）したあと，エンジンを停止します。
10. 下降ロックレバーを **［ロック］** 位置にしたあと，サポートスプリングホルダを取外します。







重　要

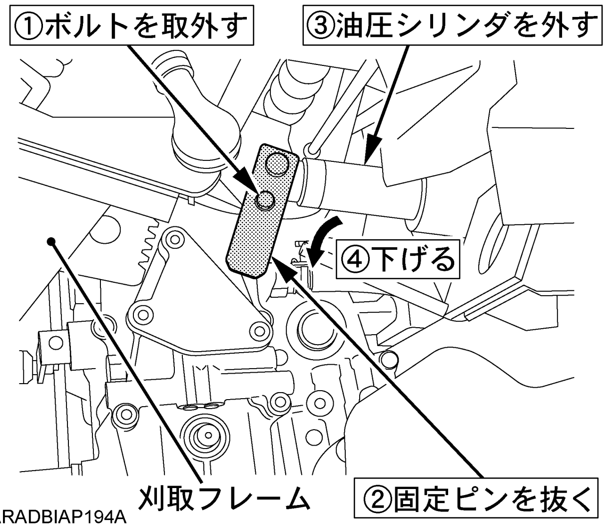
＊ 取外したサポートスプリングは分解・調整をしないでください。スプリングがはたらかなくなるおそれがあります。

11. エンジンを始動したあと，刈取下降ロックスイッチを**［解除］**位置にします。
12. SF ワンレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき，下降が停止したあとも約５秒間 SF ワンレバーを押さえ続けたあと，エンジンを停止します。

補　足

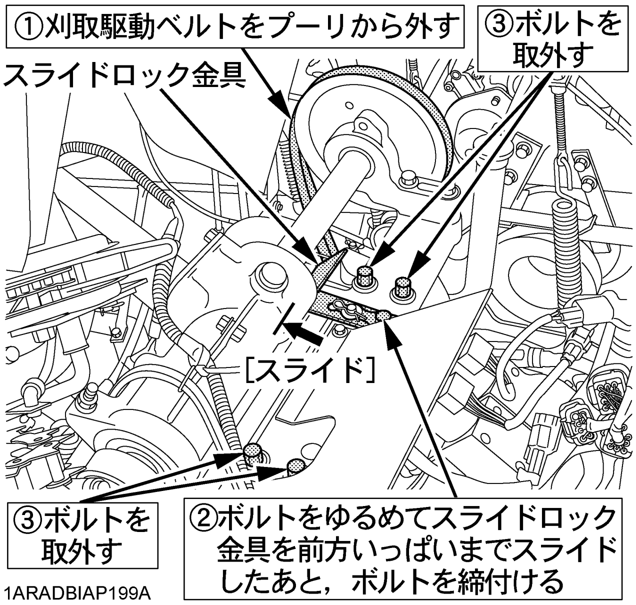
＊ 油圧シリンダの残圧が残っていると，閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため，約５秒間は SF ワンレバーを押さえ続けてください。

13. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。



1ARADBIAP194A

14. 刈取駆動ベルトをプーリから外したあと，刈取部を機体に固定しているボルトを取外します。



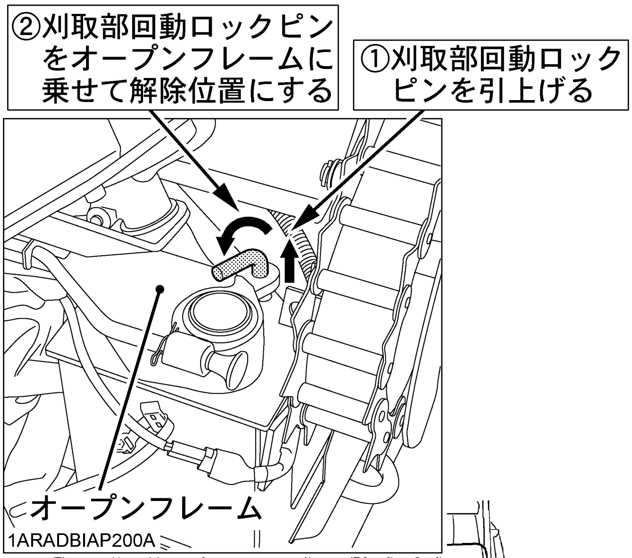
1ARADBIAP199A

15. メインスイッチのスイッチキーを**［入］**位置にしたあと，こぎ深さスイッチを操作して供給搬送部を**最浅（最上昇）**位置にしたあと，スイッチキーを**［切］**位置にします。

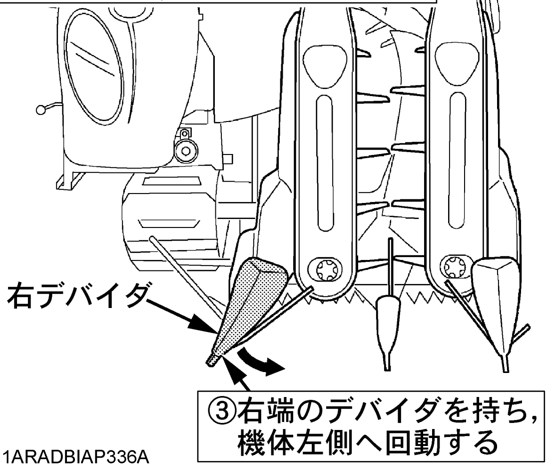
重　要

＊ 刈取オープンを行なうとき，供給搬送部が**最上昇**位置以外では，株元供給チェーンがフィードチェーンに接触して破損するおそれがあります。

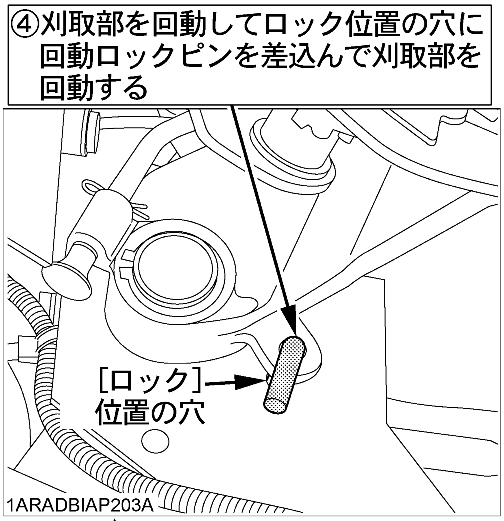
16. 刈取部をオープンします。

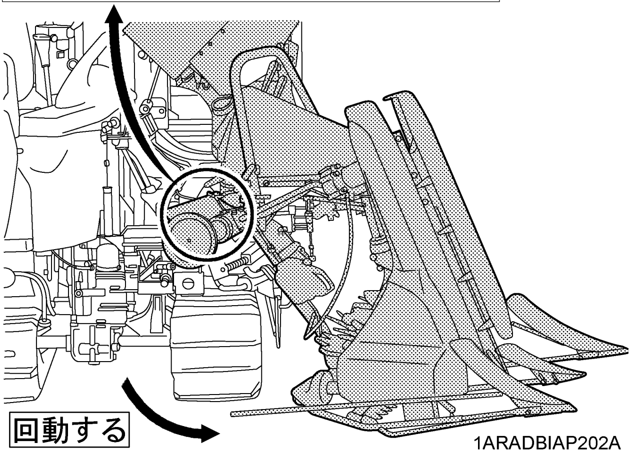


1ARADBIAP200A



1ARADBIAP336A





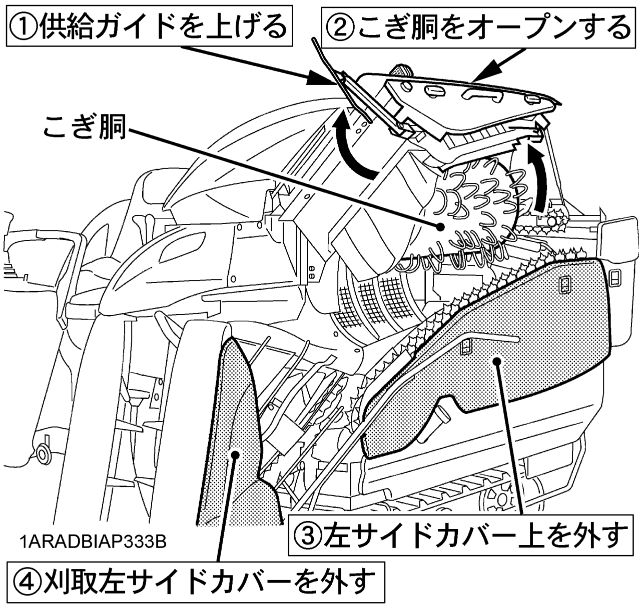
重　要

＊ 刈取部を固定していない状態で，ロック位置の穴より刈取部をさらに回動すると，左分草かん開閉ワイヤやハーネスなど損傷するおそれがあるのでロック位置で刈取部を必ず固定してください。

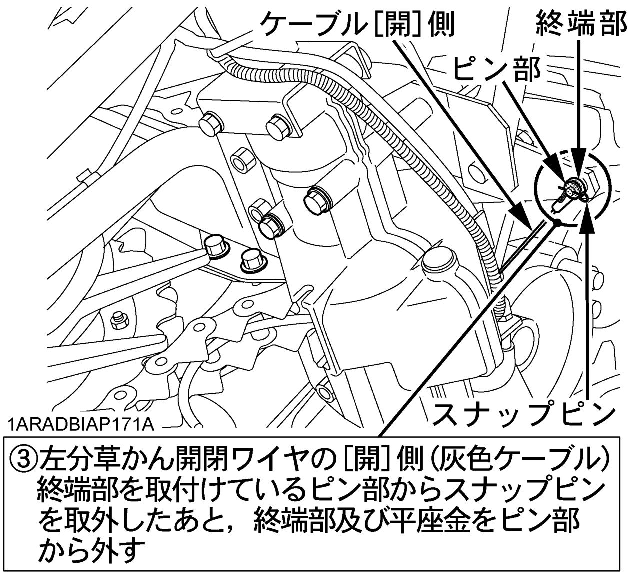
[219・222]

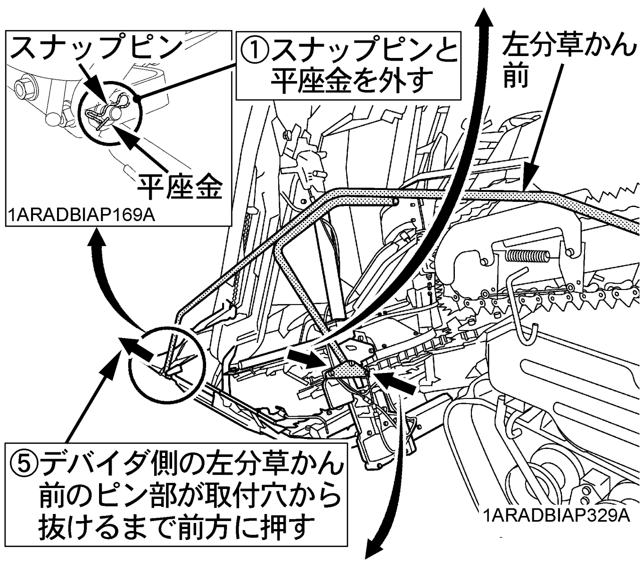
[320・323]

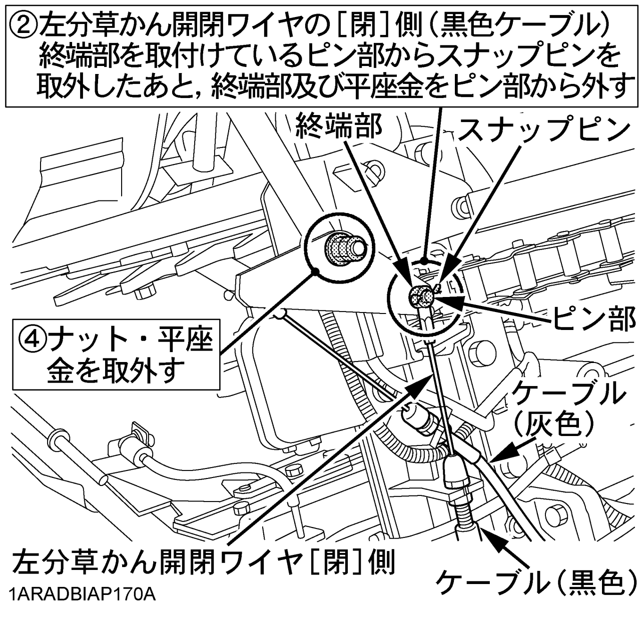
1. **[M 仕様]**は機体を**最下降**位置まで下げます。（20 ページ参照）
2. 手動こぎ深さスイッチを操作して，供給搬送部を**最深（最下降）**位置（22 ページ参照）にします。
3. 刈取部を地面まで降ろしたあと，スイッチキーを**[切]**位置にします。
4. 供給ガイドを上げたあと，こぎ胴をオープンします。
5. 左サイドカバー上及び刈取左サイドカバーを外します。



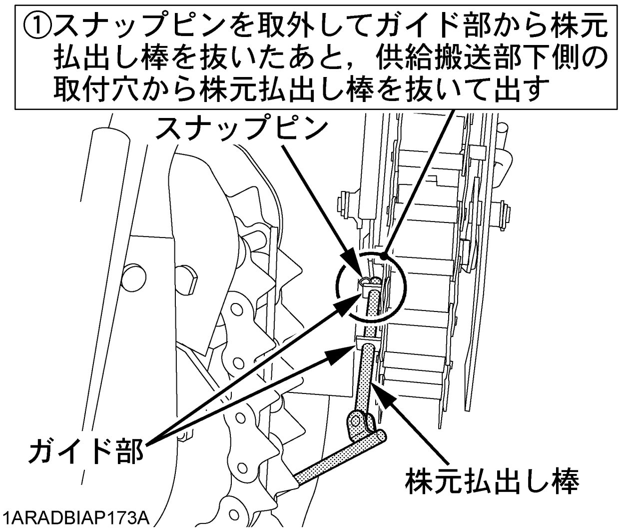
6．左分草かん前を取外します。

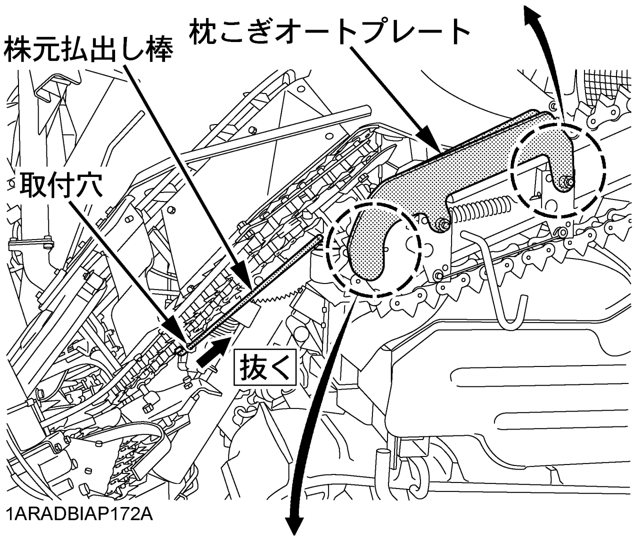


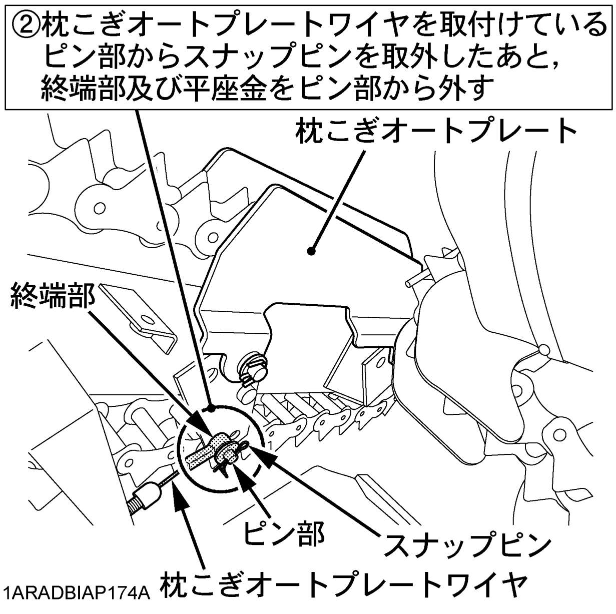




7．株元払出し棒，枕こぎオートプレートワイヤ及び脱こく入口プレートを取外します。

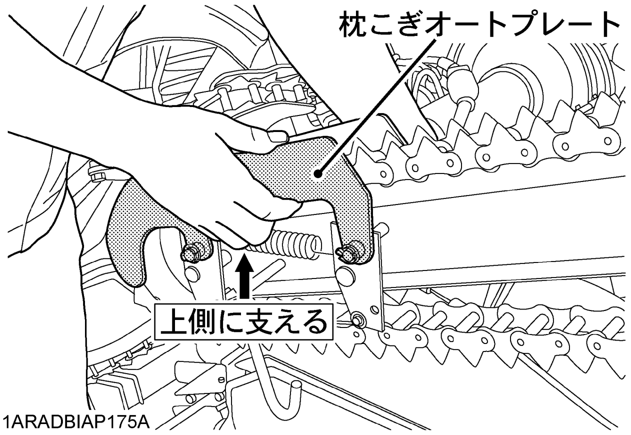




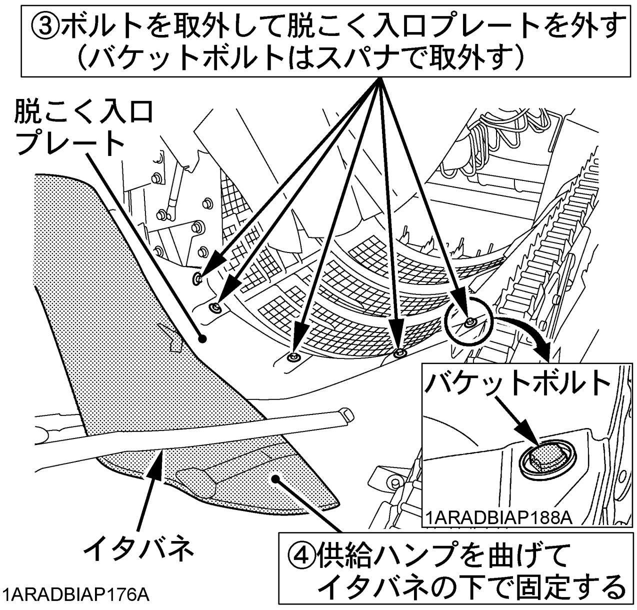


補　足

＊ 枕こぎオートプレートのワイヤを取外すときは，プレートを上側に手で支えながらピン部から終端部を取外したあと，ゆっくり下側に降ろしてください。

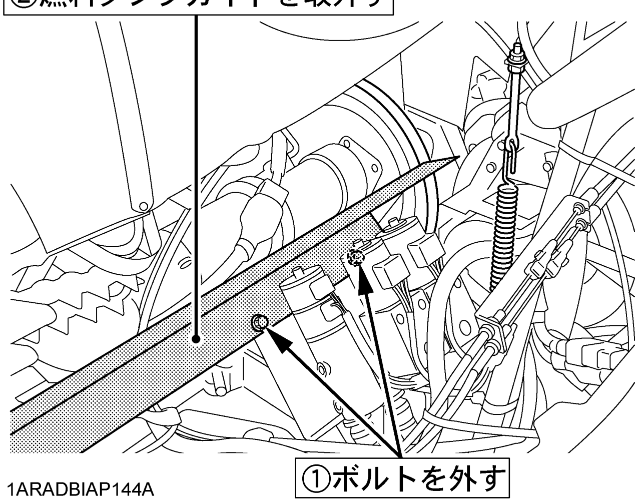


1ARADBIAP175A



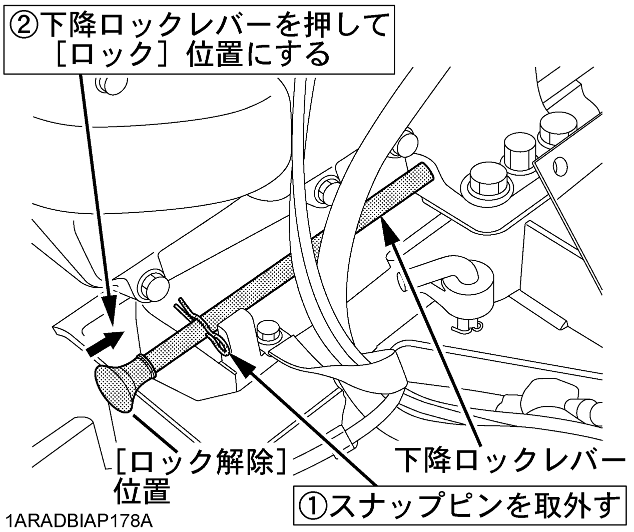
1ARADBIAP176A

8. 燃料タンクガイド板を取外します。

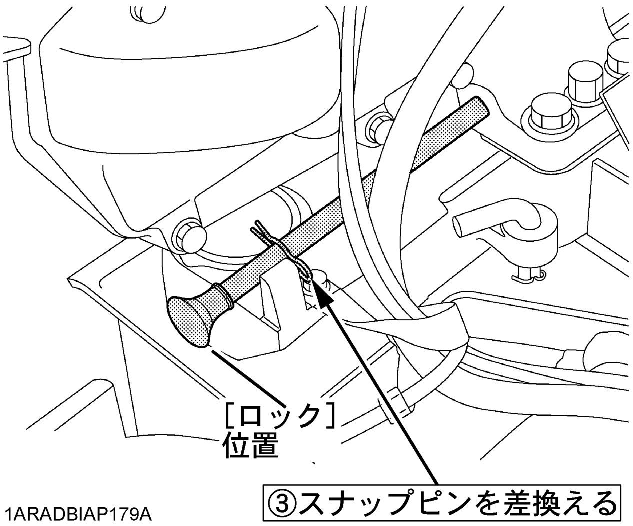


1ARADBIAP144A

9. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
10. 刈取下降ロックスイッチを **［ロック］** 位置（13ページ参照）したあと，エンジンを停止します。
11. 下降ロックレバーを **［ロック］** 位置にします。



1ARADBIAP178A



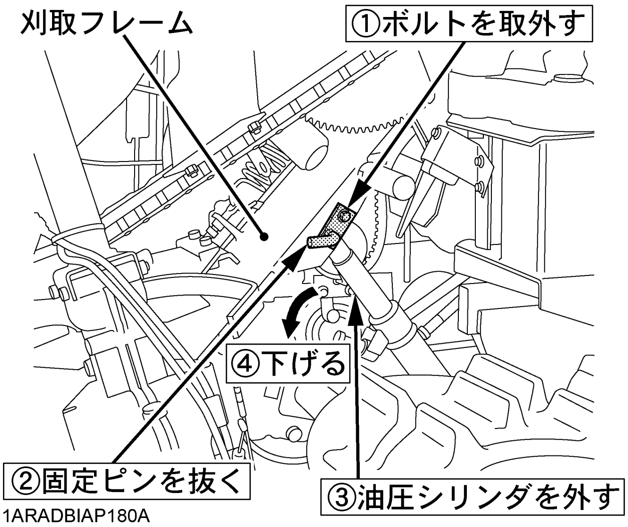
1ARADBIAP179A

12. エンジンを始動したあと，刈取下降ロックスイッチを **［解除］** 位置にします。
13. SF ワンレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき，下降が停止したあとも約５秒間 SF ワンレバーを押さえ続けたあと，エンジンを停止します。

補　足

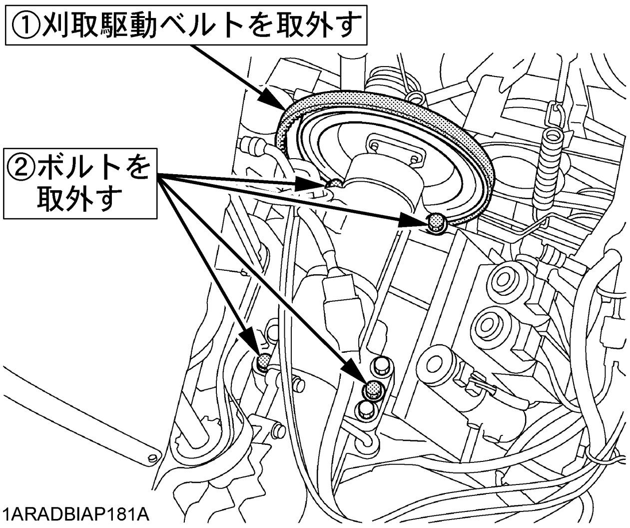
＊ 油圧シリンダの残圧が残っていると，閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため，約５秒間は SF ワンレバーを押さえ続けてください。

14. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。



1ARADBIAP180A

15. 刈取駆動ベルトをプーリから外したあと，刈取部を機体に固定しているボルトを取外します。



1ARADBIAP181A

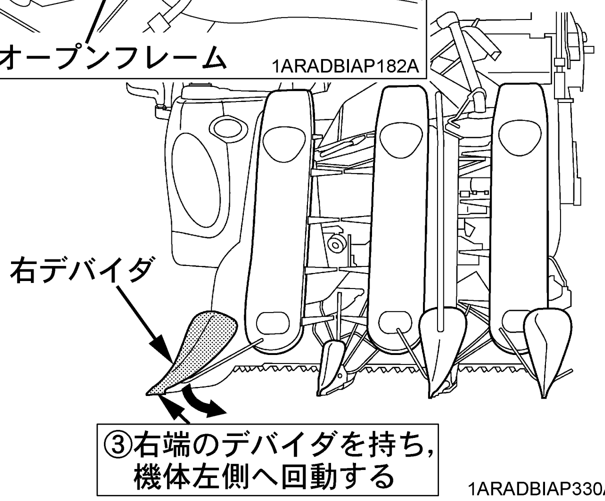
16. メインスイッチのスイッチキーを**［入］**位置にしたあと，こぎ深さスイッチを操作して供給搬送部を**最浅（最上昇）**位置にしたあと，スイッチキーを**［切］**位置にします。

重　要

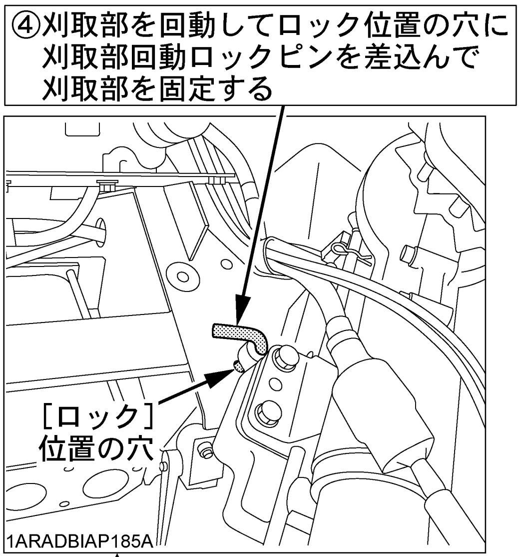
＊ 刈取オープンを行なうとき，供給搬送部が**最上昇**位置以外では，株元供給チェーンがフィードチェーンに接触して破損するおそれがあります。

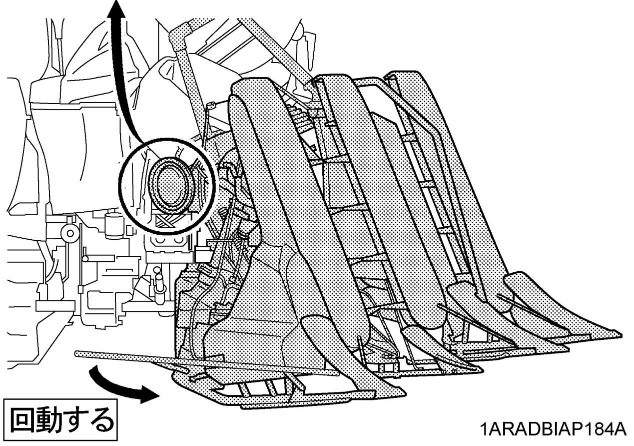
17. 刈取部をオープンします。

1ARADBIAP182A



1ARADBIAP330A





重　要

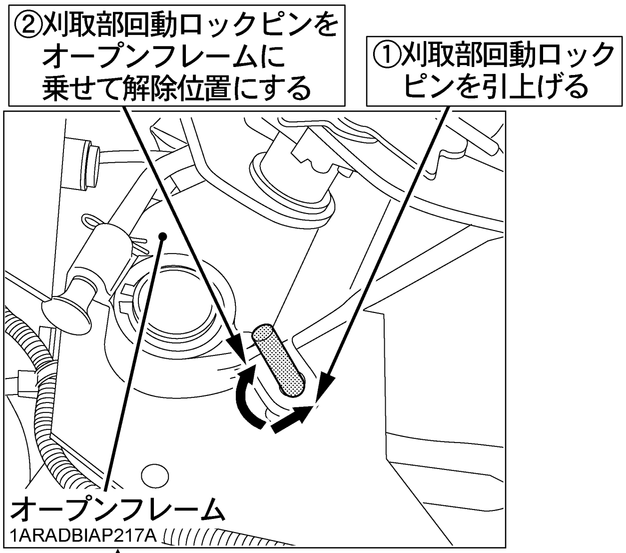
＊ 刈取部を固定していない状態で，ロック位置の穴より刈取部をさらに回動すると，左分草かん開閉ワイヤやハーネスなど損傷するおそれがあるのでロック位置で刈取部を必ず固定してください。

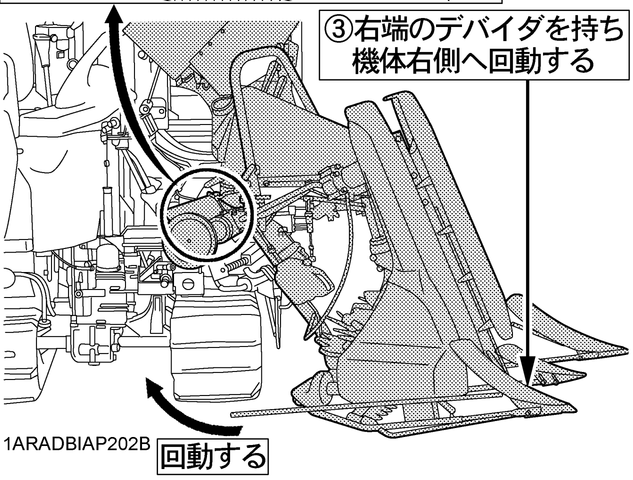
［320・323］

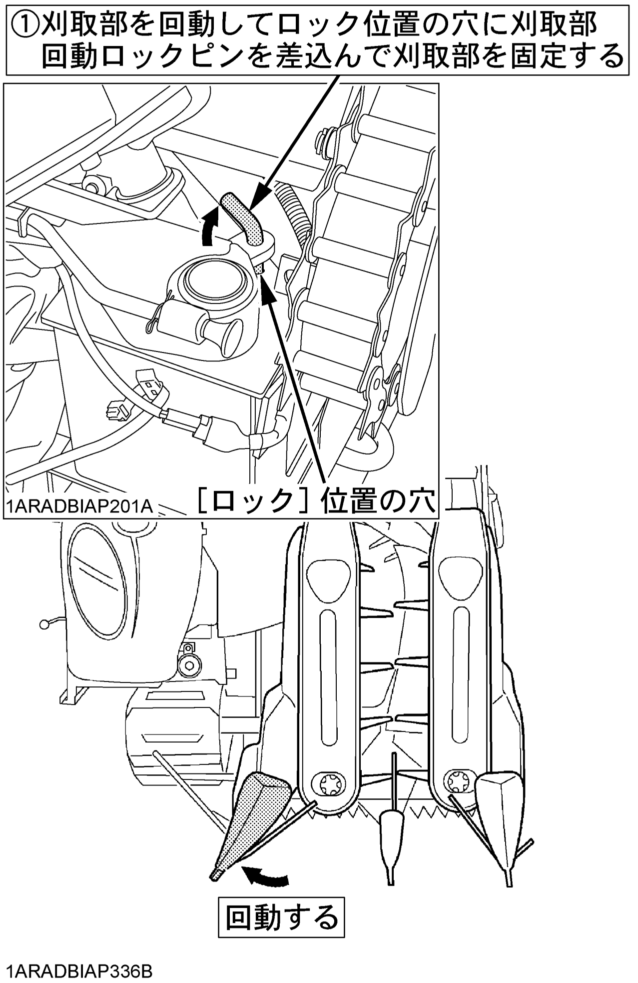
◆閉じかた

1．刈取部を閉じます。

［219・222］

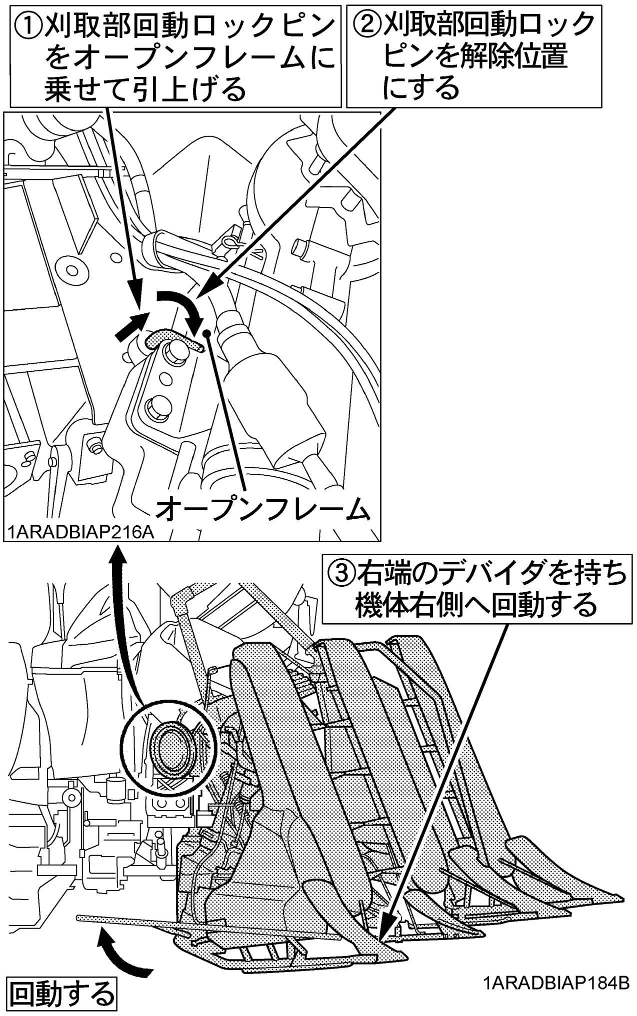


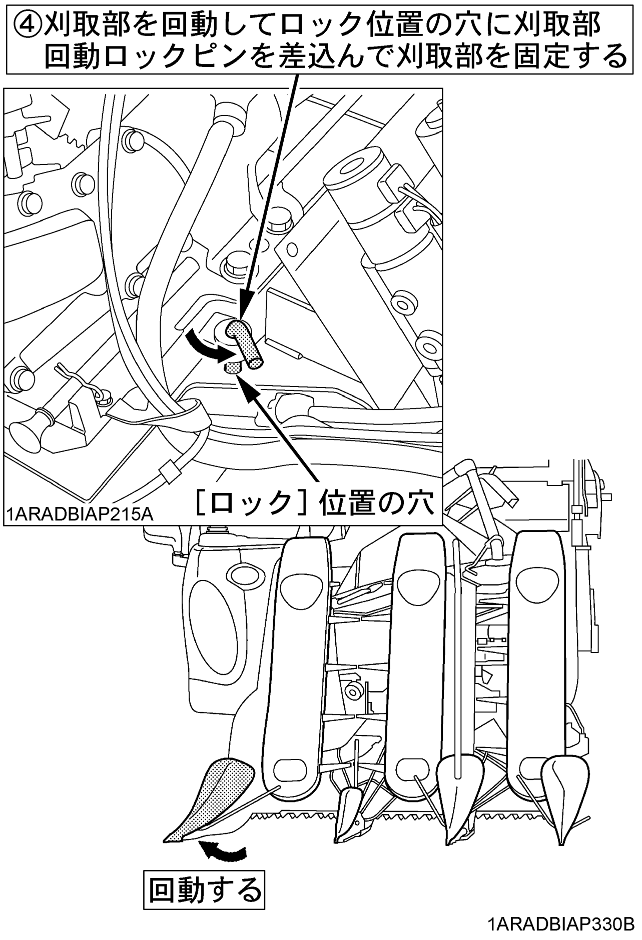




［219・222］

［320・323］

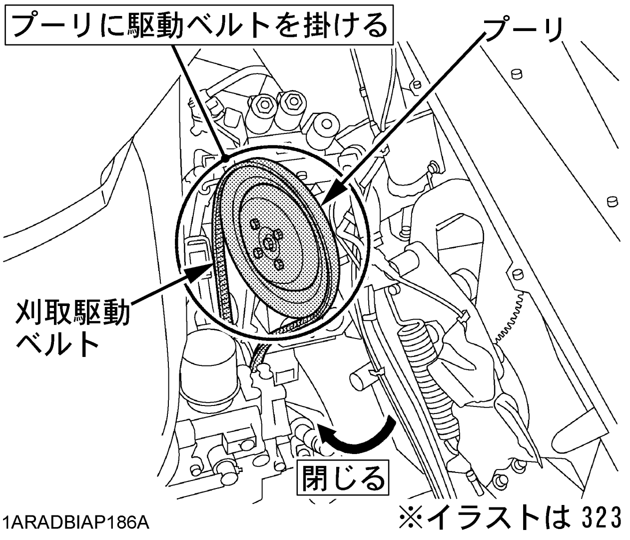




［320・323］

補　足

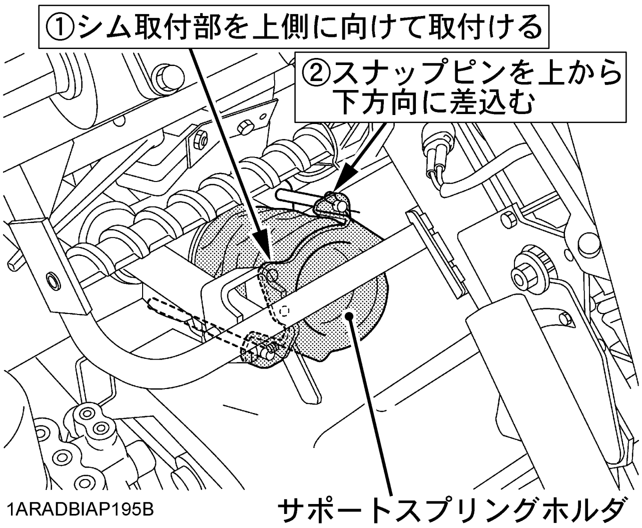
＊ 刈取部を閉じる前に刈取駆動ベルトをプーリに掛けながら閉じてください。



2. メインスイッチのスイッチキーを**【入】**位置にしたあと，こぎ深さスイッチで供給搬送部を**最深（最下降）**位置にし，スイッチキーを**【切】**位置にします。
3. 開きかたと逆の手順で各部品を取付けます。

重　要

＊ サポートスプリングホルダを取付けるとき，シム取付部（スイスイデバイダ用）を上側に向けた状態で取付けてください。また，スナップピンは上から下方向に差込んでください。



補　足

［219・222］

＊ レバーガイドシートを降ろしたあとは，コードバンドで必ず固定してください。

［219・222］

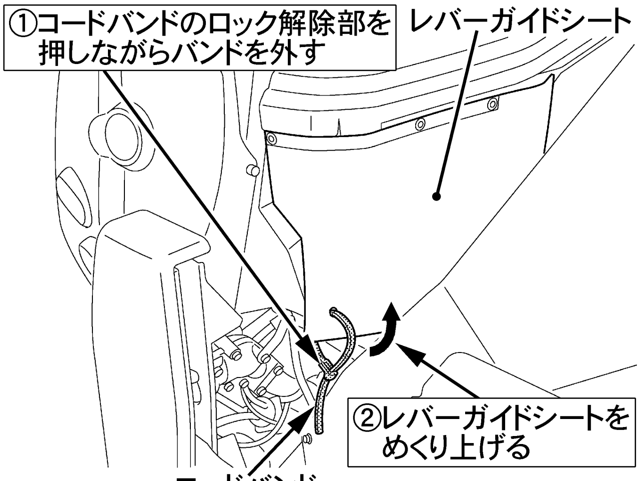
＊ 開きかたの手順**14**の刈取シリンダの固定ボルト及び手順**15**のボルト４本の中の機体側のボルトの取付けが困難なときは，補助者に刈取部のデバイダ先端部を持上げてもらいながら取付けてください。

■レバーガイドシートオープン

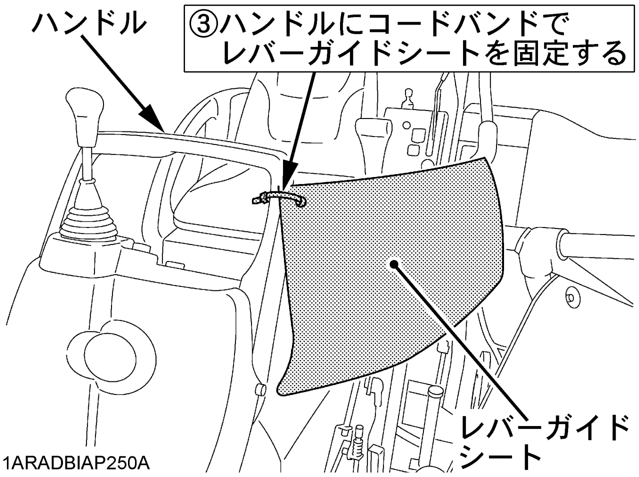
刈取部側から運転席下側のメンテナンスを行なうとき，レバーガイドシートをめくり上げ（オープン）てから作業を行なってください。

◆開きかた

1. 刈取部を地面に降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. コードバンドを取外したあと，レバーガイドシートをめくり上げます。
3. ハンドルにレバーガイドシートを取外したコードバンドで共締めします。



1ARADBIAP249A



1ARADBIAP250A

◆閉じかた

開きかたと逆の手順でレバーガイドシートを降ろします。

重 要

＊ レバーガイドシートはコードバンドで必ず固定してください。

■カッタオープン

⚠ 警 告

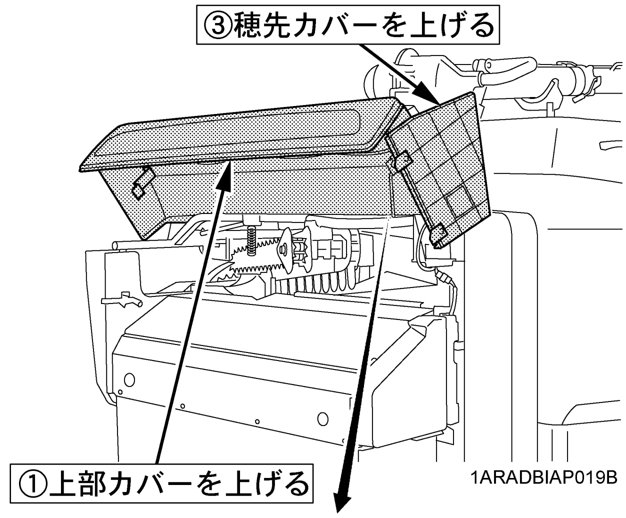
＊ カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

⚠ 注 意

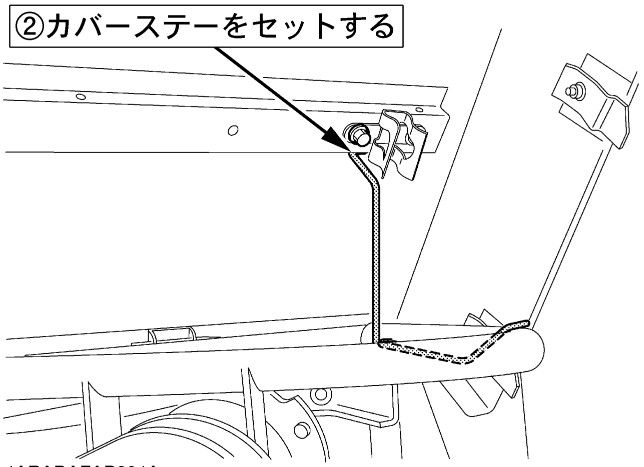
＊ 傾斜地ではカッタの開閉をしないでください。
＊ カッタをオープンして掃除をするときは，ステーで必ず固定してください。
＊ 厚手の手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

◆開きかた

1. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。

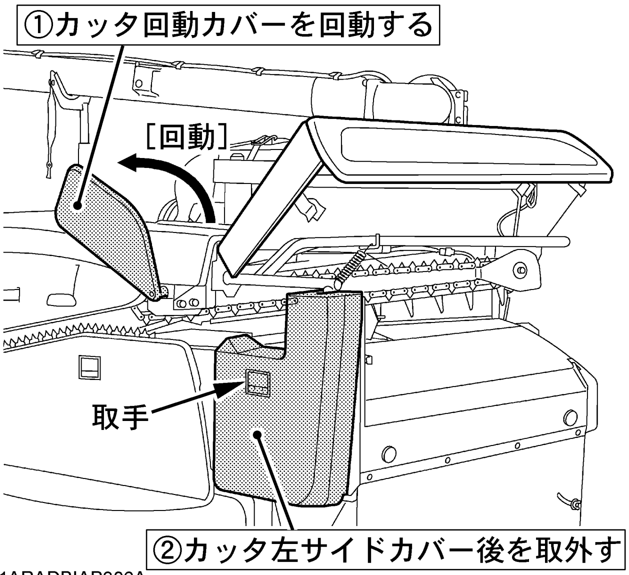


1ARADBIAP019B



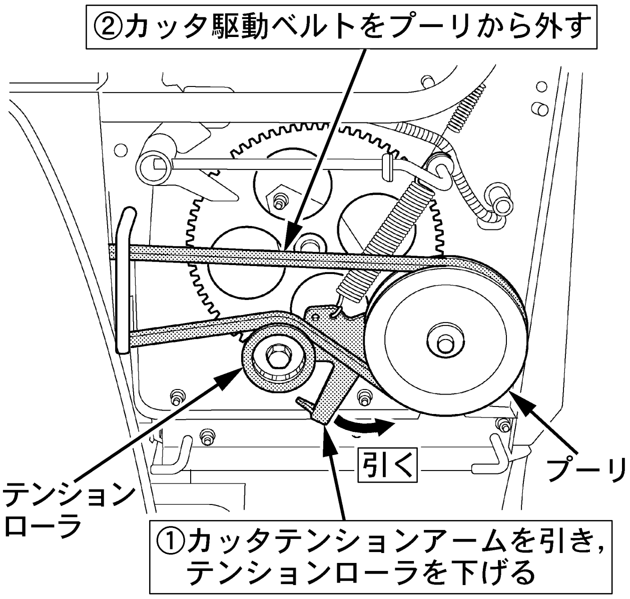
1ARADAFAP091A

2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。

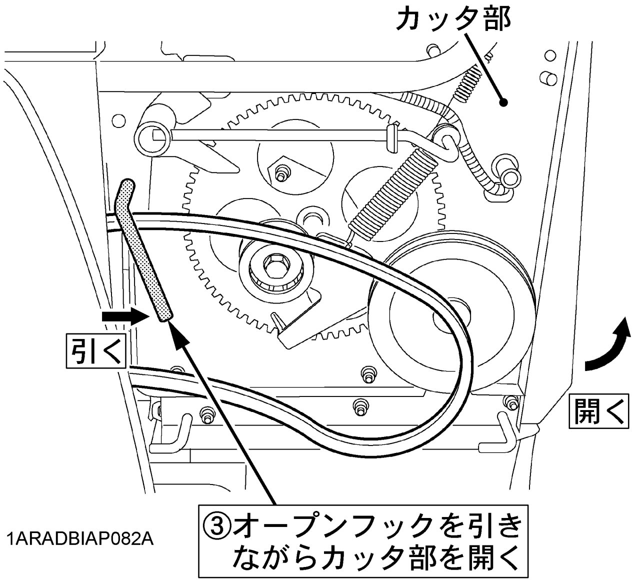


1ARADBIAP306A

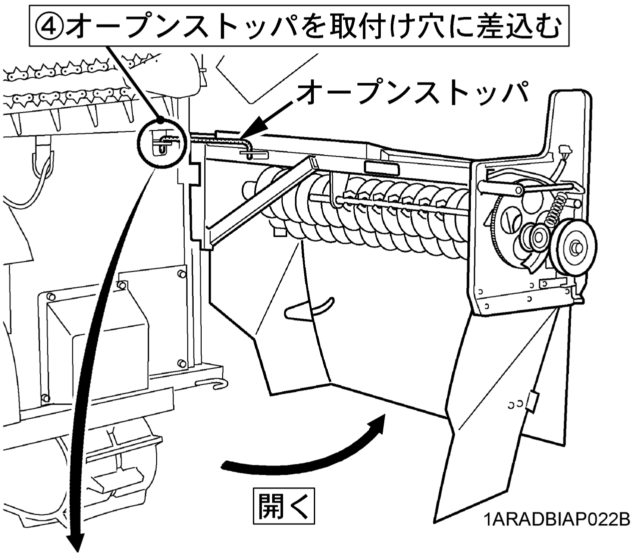
3. カッタをオープンします。



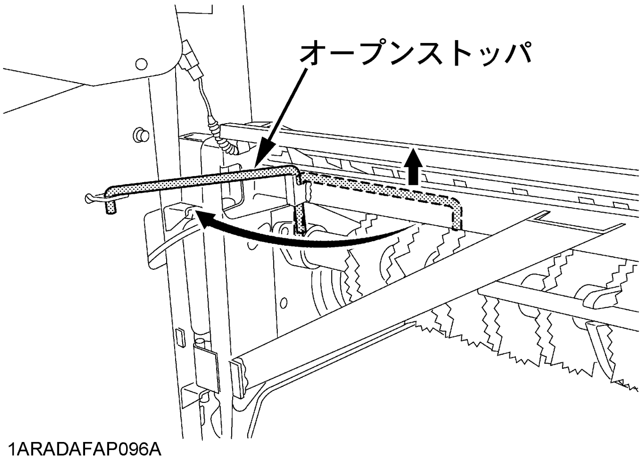
1ARADBIAP081A



1ARADBIAP082A



1ARADBIAP022B



1ARADAFAP096A

◆閉じかた
開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊ カッタ部を閉じたあとは，オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。

■シーブケースの脱着

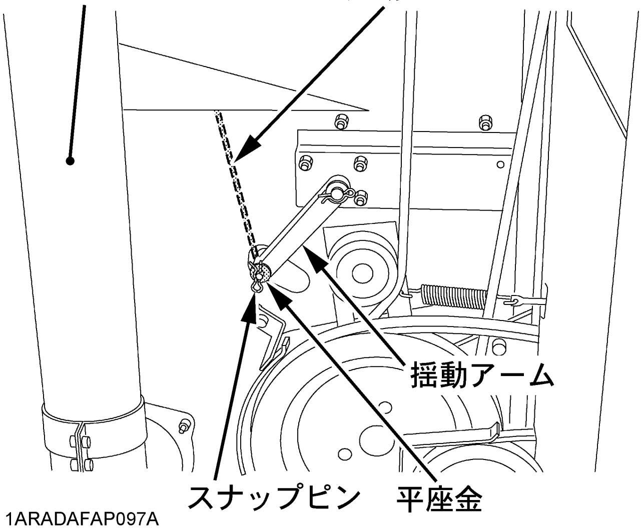
注　意

＊ 脱着作業は，合図を掛け合って２人以上で行なってください。

◆ 抜出しかた
1. こぎ胴をオープンします。（93 ページ参照）
2. 左サイドカバー上，下及びカッタ左サイドカバーを取外します。

［G 仕様］

3. 揺動アーム軸を抜く準備をします。
   (1) グレンタンクをオープンします。（118 ページ参照）
   (2) １番縦スクリュ軸前方にある，揺動アーム軸のスナップピンと平座金を取外します。



1ARADAFAP097A

補　足

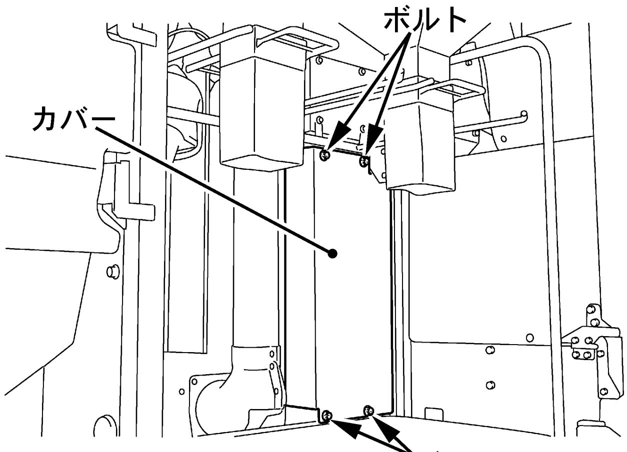
＊ 揺動アーム軸を後の工程で取外すとき，固くて引抜きにくい場合がありますので，そのときは，揺動アームを取外すと，揺動アーム軸が引抜きやすくなります。

(3) グレンタンクを閉じます。

［G 仕様］

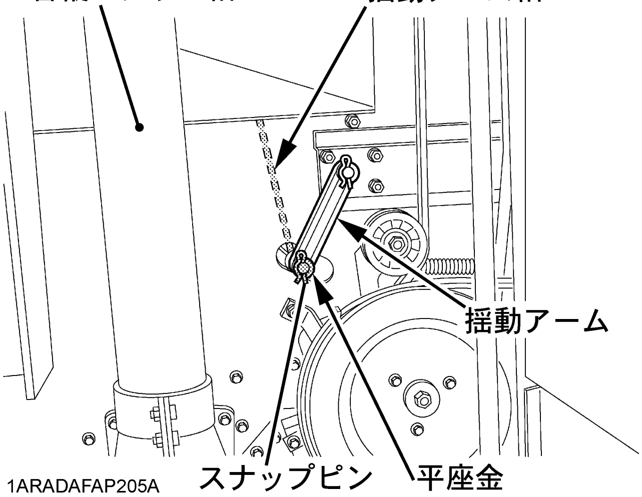
［ホッパ仕様］

3. 揺動アーム軸を抜く準備をします。
   (1) ボルト４本を取外してカバーを外します。



1ARADAFAP139B

   (2) １番縦スクリュ軸前方にある揺動アーム軸のスナップピンと平座金を取外します。



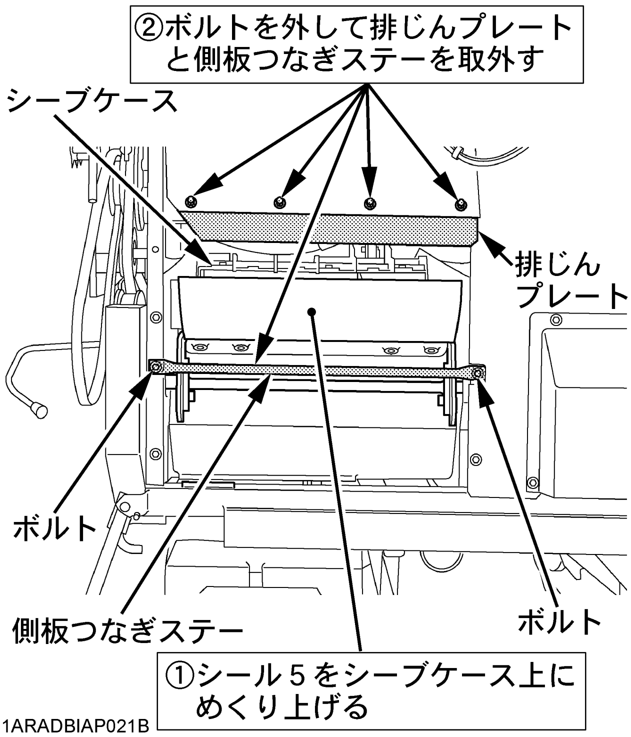
1ARADAFAP205A

補　足

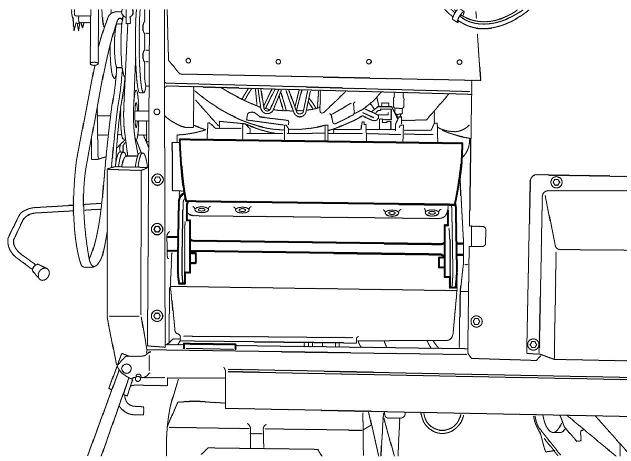
＊ 揺動アーム軸を後の工程で取外すとき，固くて引抜きにくい場合がありますので，そのときは，揺動アームを取外すと，揺動アーム軸が引抜きやすくなります。

［ホッパ仕様］

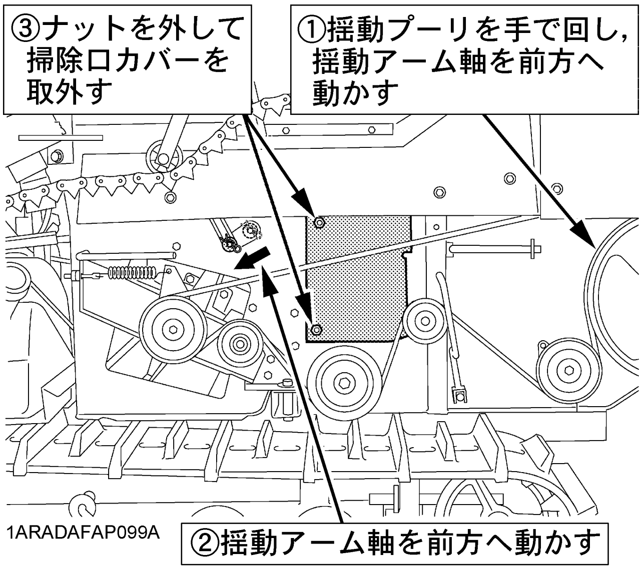
4. カッタオープンをします。（105 ページ参照）
5. シーブケースを引出す準備をします。



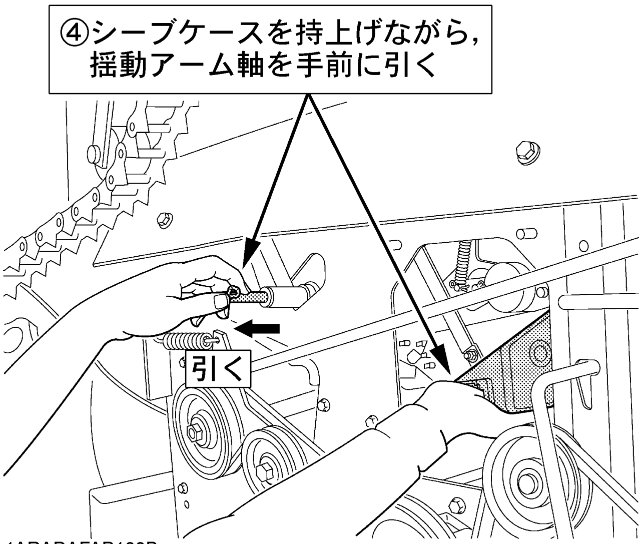
1ARADBIAP021B


1ARADBIAP083A

6. 揺動アーム軸を手前側に引抜きます。

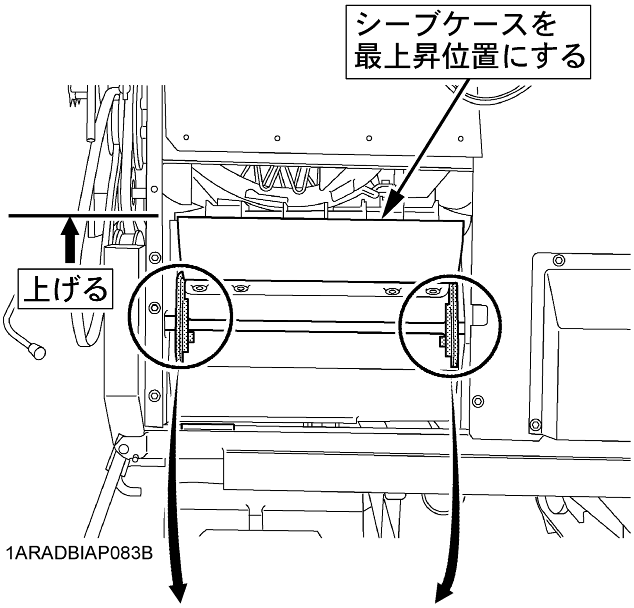


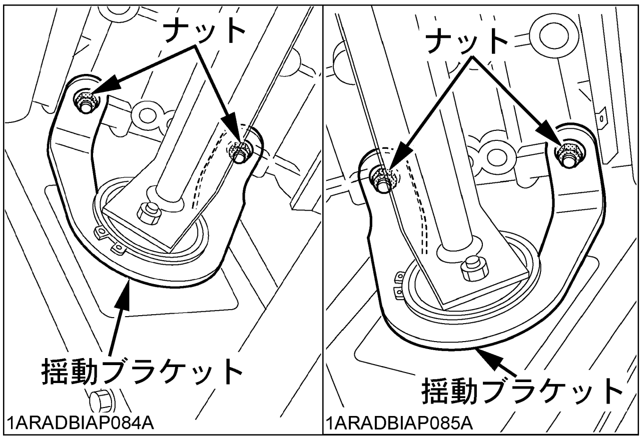
1ARADAFAP099A



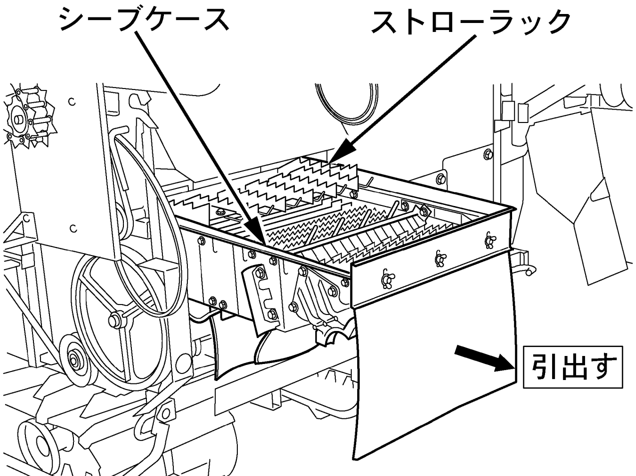
1ARADAFAP100B

7. こぎ胴を回してシーブケースを**最上昇**位置にします。
8. ナットを取外して左，右の揺動ブラケットを外します。





9. シーブケースを引出します。



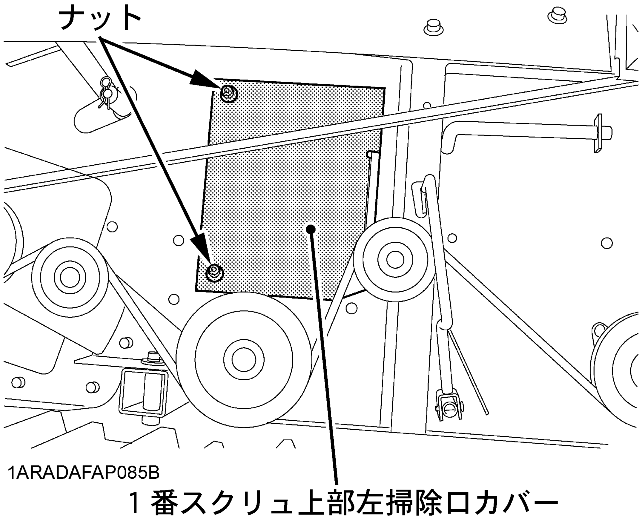
1ARADBIAP091A

補　足

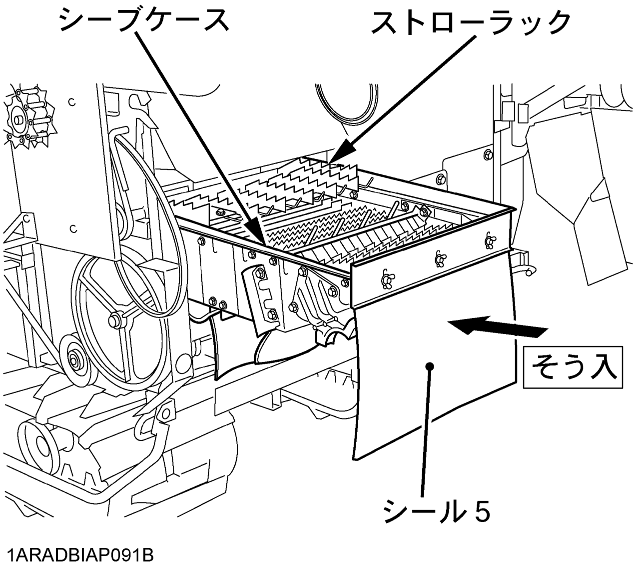
＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。

◆ **取付けかた**

1. ナットを取外して１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外します。



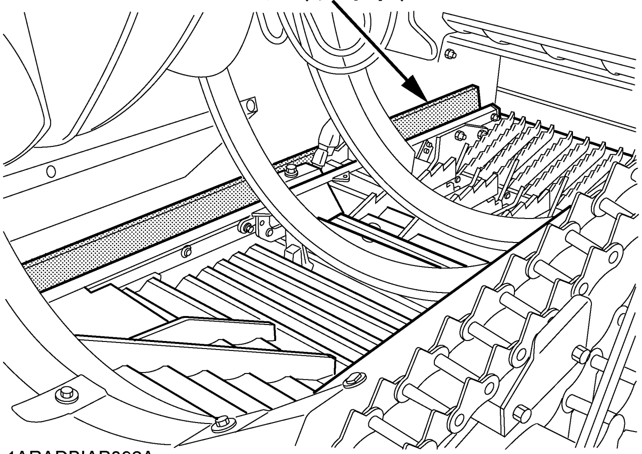
2. シーブケース後部のシール５をシーブケース上にめくり上げます。
3. シーブケースをそう入します。



1ARADBIAP091B

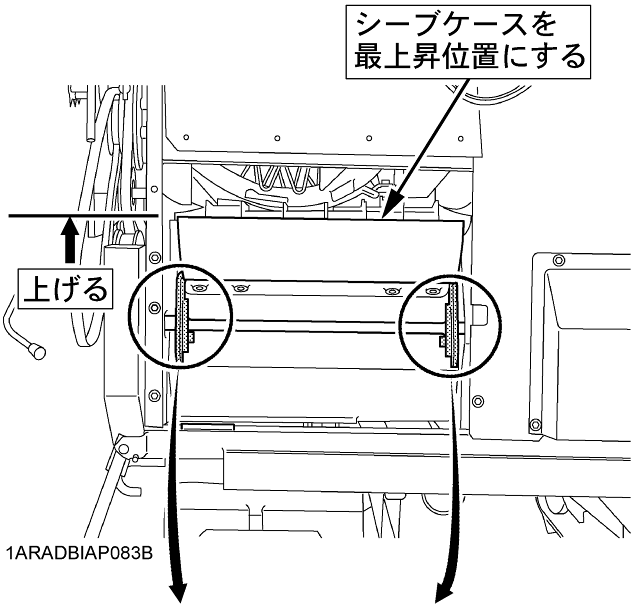
重　要

＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。
＊ そう入途中で，大きく上下動させないでください。
＊ そう入したあとこぎ胴をオープンして，受けあみを外し，シーブケースのシール（サイド）左，右が下側に折曲がっているときは，シール（サイド）左，右の先端が上側になるようにしてください。

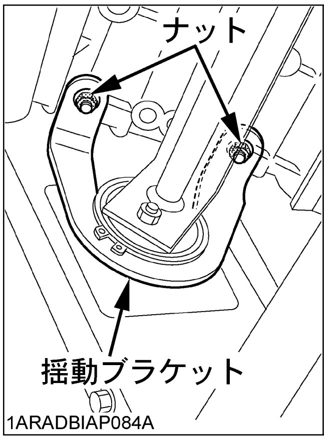


1ARADBIAP092A

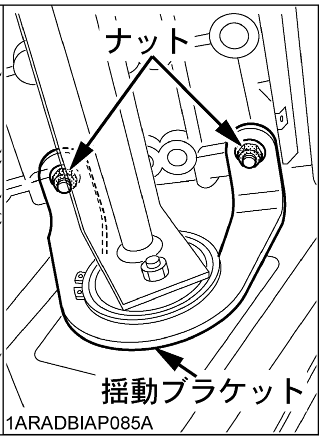
4. こぎ胴を回してシーブケースを**最上昇**位置にします。
5. 左，右の揺動ブラケットの組付け方向を合わせてナットを締付けます。



1ARADBIAP083B

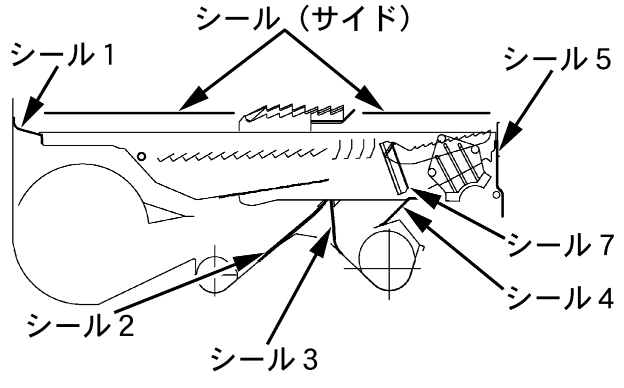


1ARADBIAP084A



1ARADBIAP085A

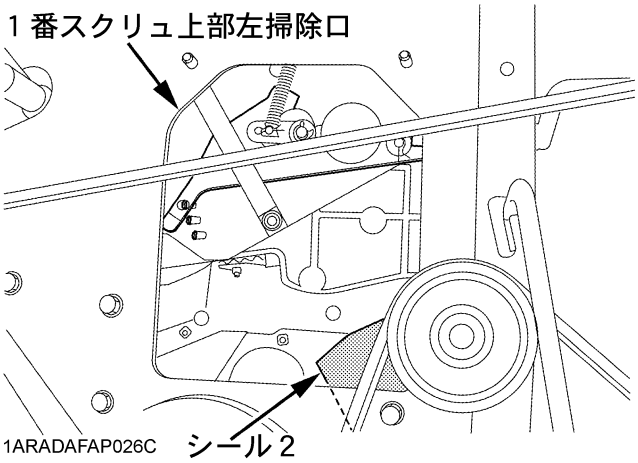
6. シール各部を下図のようにセットします。



1ARADAFAP241A

補　足

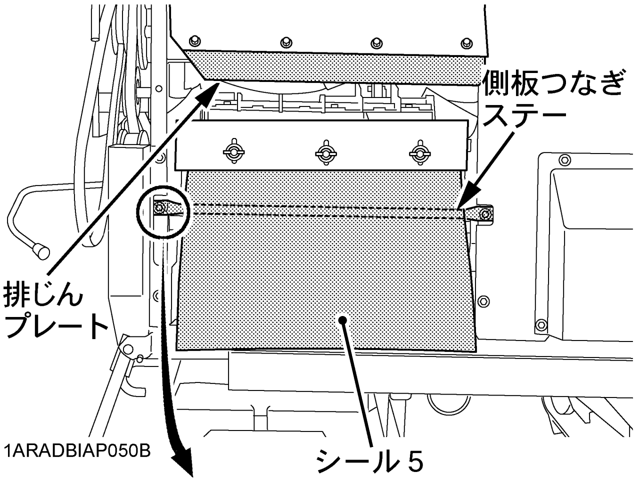
＊ シール２は，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外したあと，１番スクリュ上部掃除口より手を入れて下図のようにセットします。



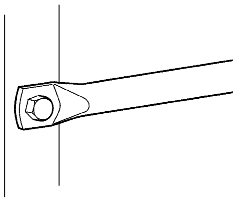
1ARADAFAP026C

7. １番縦スクリュ上部左掃除口カバーを取付けます。
8. 揺動アーム軸を取外した逆の手順で取付けます。

9. 排じんプレート及び側板つなぎステーを取付けたあと，シール５をセットし，カッタ部を閉じます。
10. 左サイドカバー上・下及びカッタ左サイドカバーを取付けます。



1ARADBIAP050B


1AKADAFAP470A

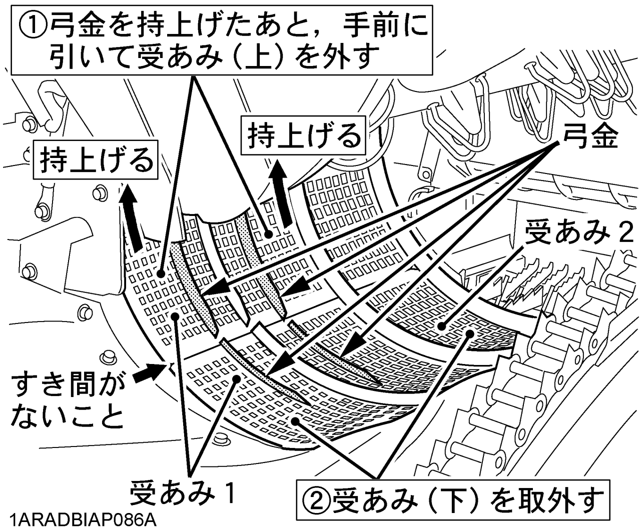
補　足

＊ 側板つなぎステーを取付けるときは，取付方向に注意してください。

11. こぎ胴を閉じます。

■受あみの脱着

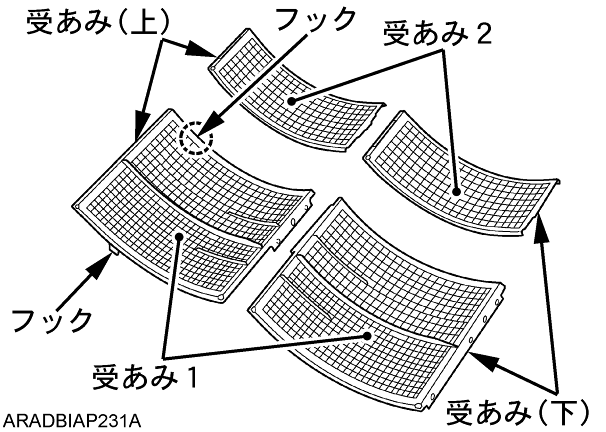
1. こぎ胴を開きます。
2. 受あみ１，２の各（上），（下）を取外します。
3. 逆の手順で受あみ（下）を取付け，受あみ（上）をそれぞれ取付けます。



1ARADBIAP086A

重　要

＊ 取付けたときに受あみ（上），（下）の間にすき間があったり，受あみ（上），（下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。
＊ 受あみが確実に取付いていることを確認してください。
＊ 受あみ（上），（下）それぞれ２種類あります。受あみ（上）にはフックがあります。



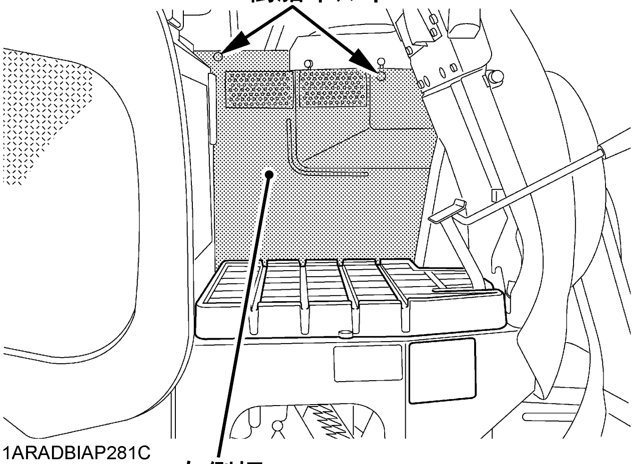
1ARADBIAP231A

4. こぎ胴を閉じます。

■運転席左側板の脱着

◆ 取外しかた

樹脂ボルト２本を取外して，左側板を取外します。



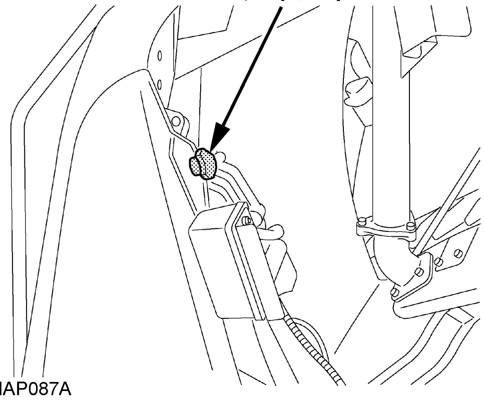
1ARADBIAP281C

■引起しサイドカバー右・左の脱着

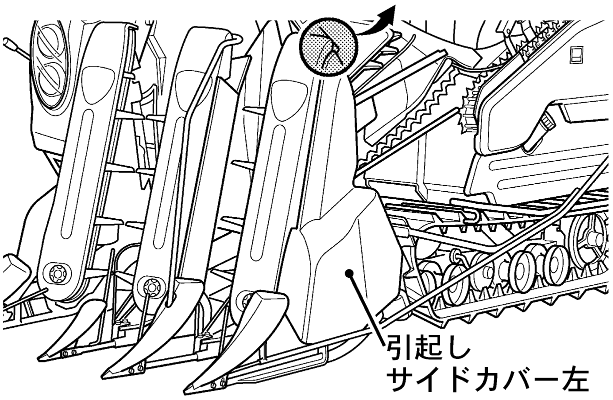
刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた

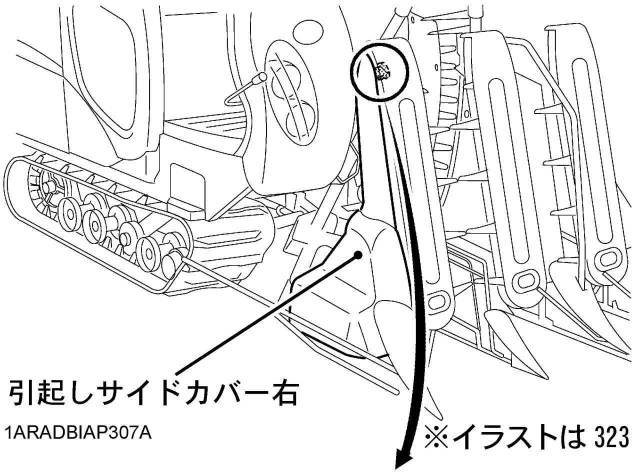
ノブボルトをゆるめて取外します。



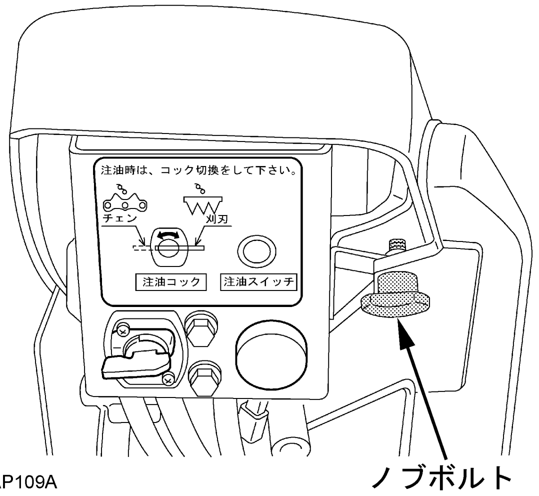
1ARADBIAP087A



1ARADBIAP275B



1ARADBIAP307A



1ARADAFAP109A

◆ 取付けかた

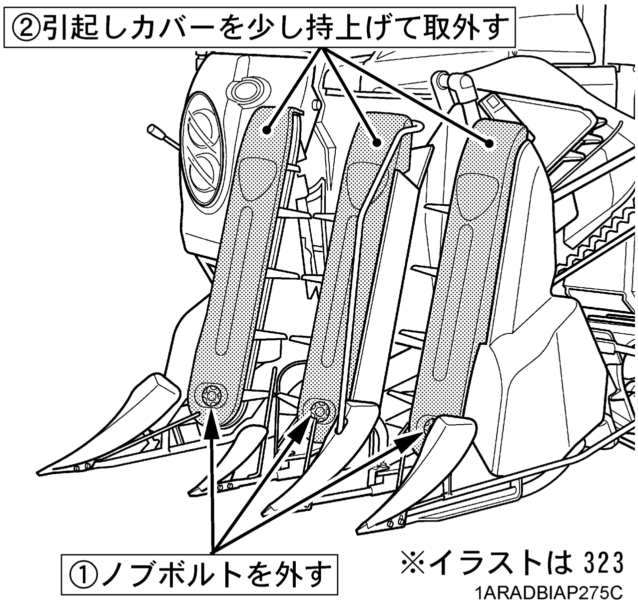
引起しサイドカバー側に出ている引起し爪を全て上側に倒したあと，カバーを取付けます。

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた

ノブボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。



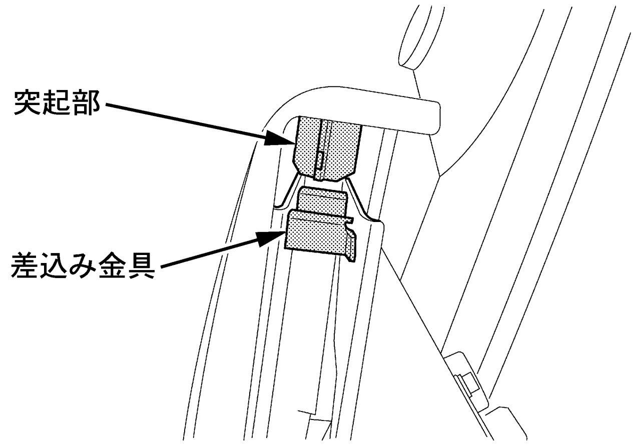
1ARADBIAP275C

◆取付けかた

引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

補　足

＊ 引起しカバーを取付けるとき，上部にある差込み金具に引起しカバーの突起部を差込んでください。

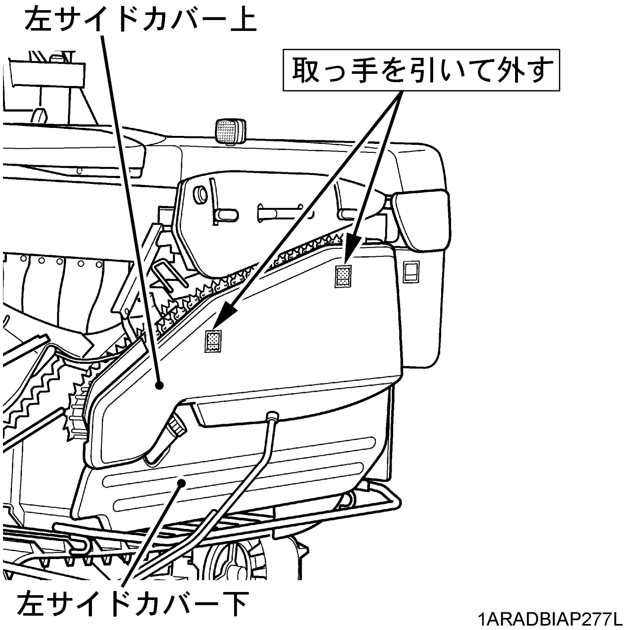


1ARADAFAP110A

■左サイドカバー及びカッタ左サイドカバーの脱着

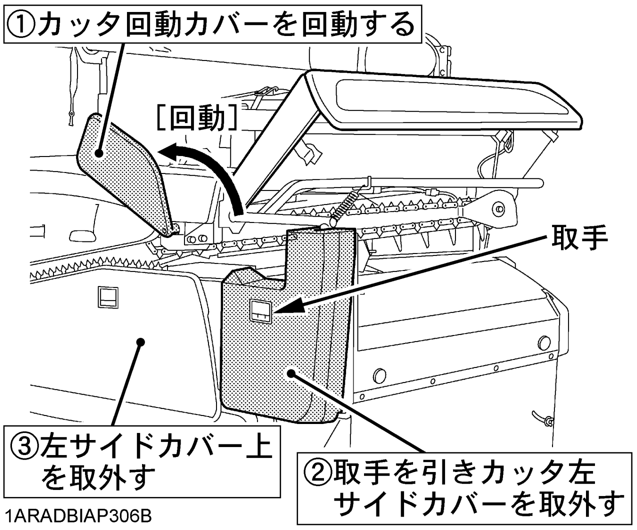
◆ 取外しかた

● **左サイドカバー上，下**

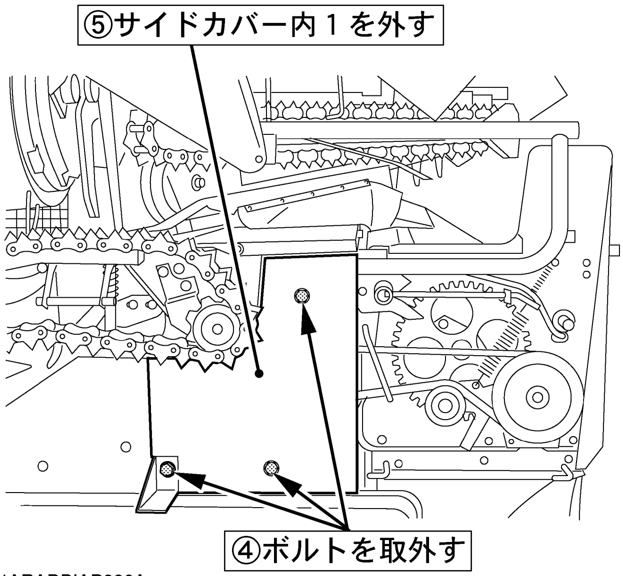


1ARADBIAP277L

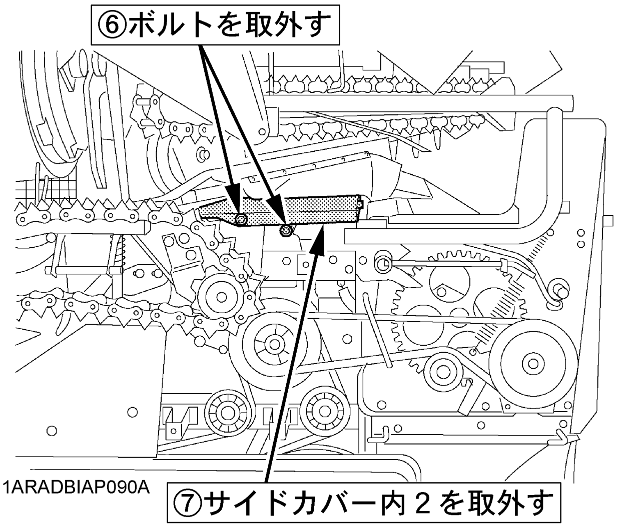
● **カッタ左サイドカバー**
● **左サイドカバー内１・内２**



1ARADBIAP306B



1ARADBIAP089A



1ARADBIAP090A

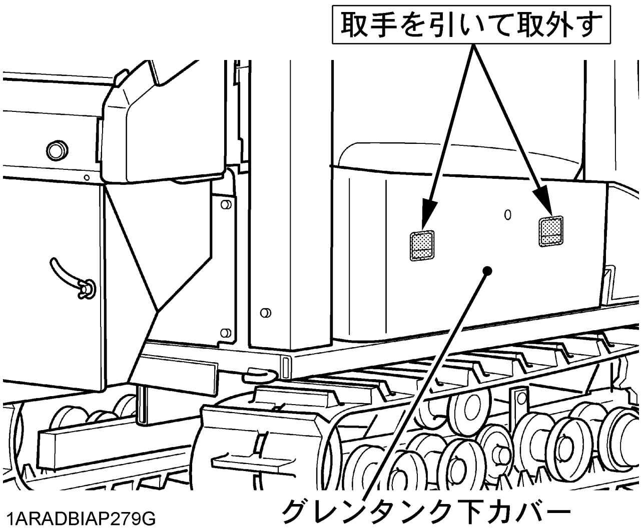
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■グレンタンク下カバーの脱着

［G 仕様］

◆ 取外しかた



1ARADBIAP279G

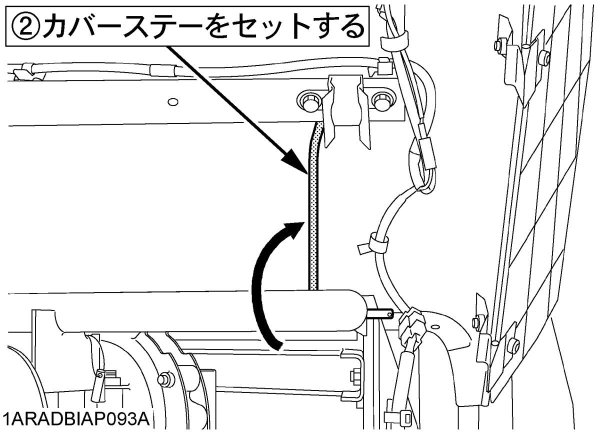
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

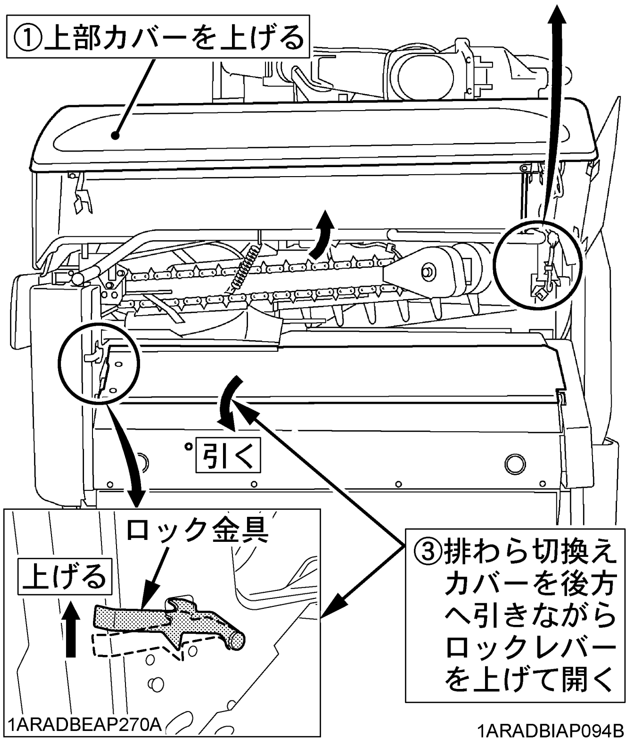
［G 仕様］

■排わら切換えカバーのオープン

◆ 開きかた

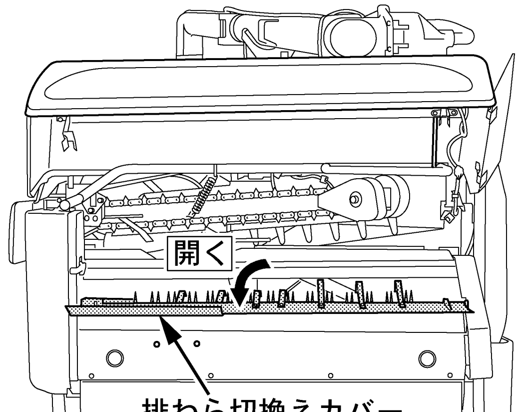


1ARADBIAP093A



1ARADBEAP270A

1ARADBIAP094B



1ARADBIAP095A

◆ 閉じかた

排わら切換えカバーを前方に倒して閉じてください。

補　足

＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを［入］位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ず切換えカバーを閉じてください。

■グレンタンクの脱着のしかた

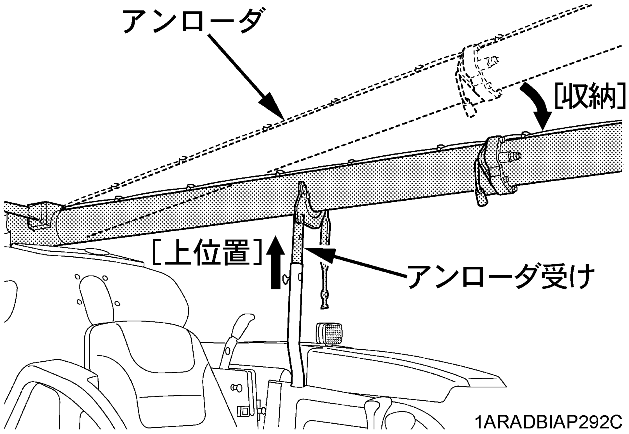
［G 仕様］

注　意

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆ 取外しかた

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（74 ページ参照）
2. 主変速レバーを **［N］（中立）** 位置，副変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）を **［切］** 位置にします。
3. アンローダ受けを上位置にして，アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

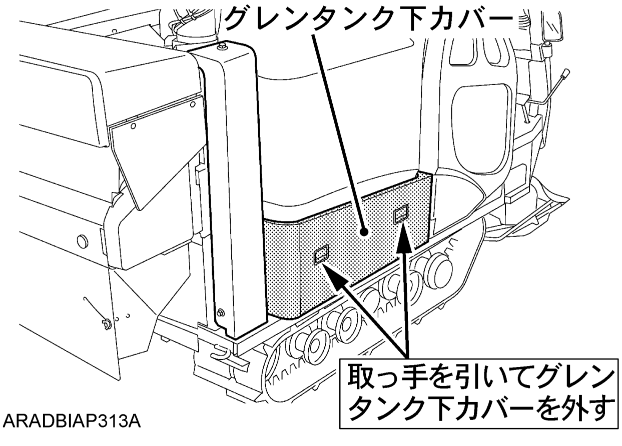


1ARADBIAP292C

重　要

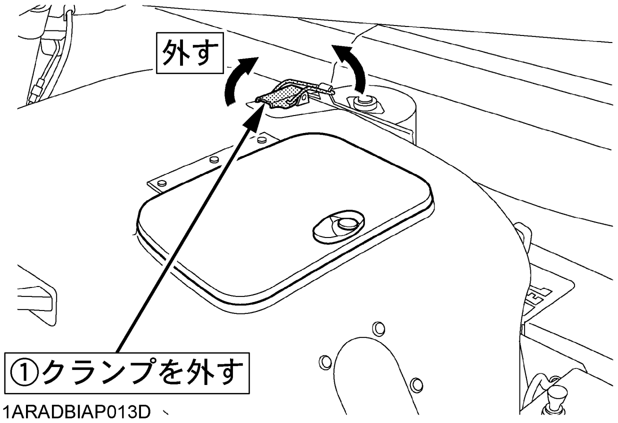
＊ グレンタンクの脱着を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

4. グレンタンク下カバーを外します。

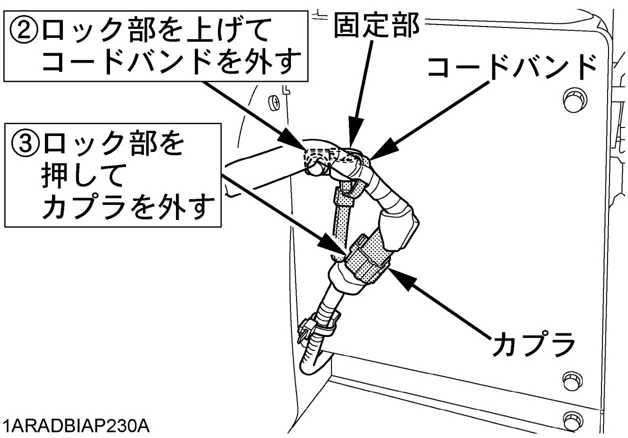


1ARADBIAP313A

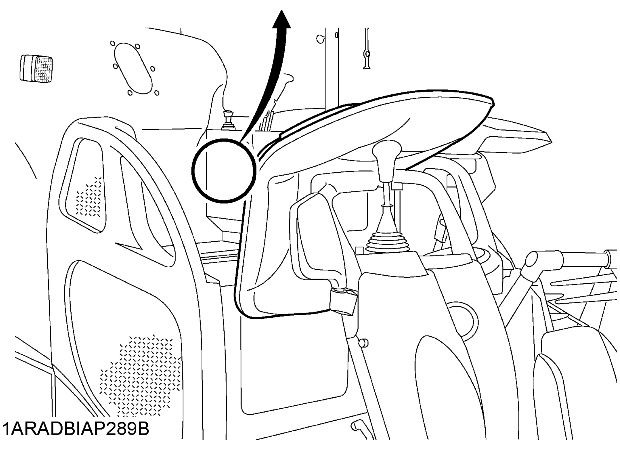
5. グレンタンクのクランプを外します。
 (1) ロック部を上げて固定部からコードバンドを外します。
 (2) ロック部を押して，カプラを外します。
6. グレンタンクの取手を持ち，タンクを手前に引きながら持上げて取外します。



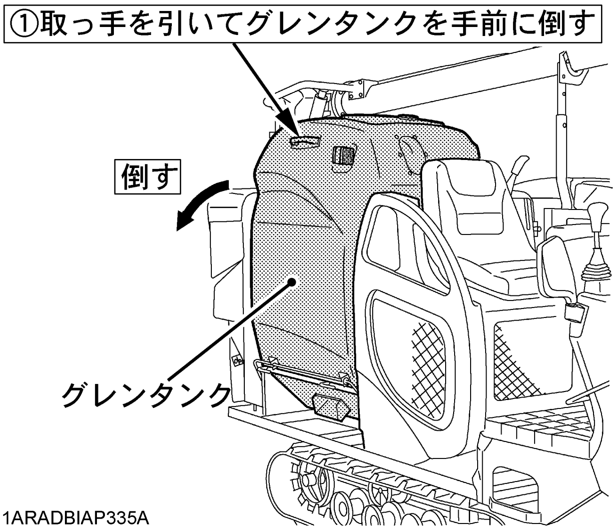
1ARADBIAP013D



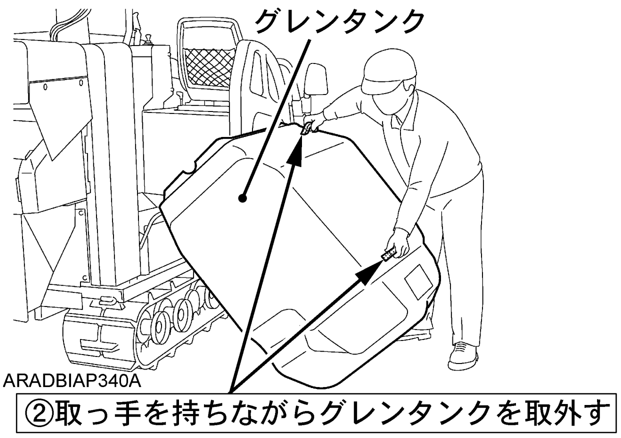
1ARADBIAP230A


1ARADBIAP289B

7. グレンタンクを取外します。



1ARADBIAP335A



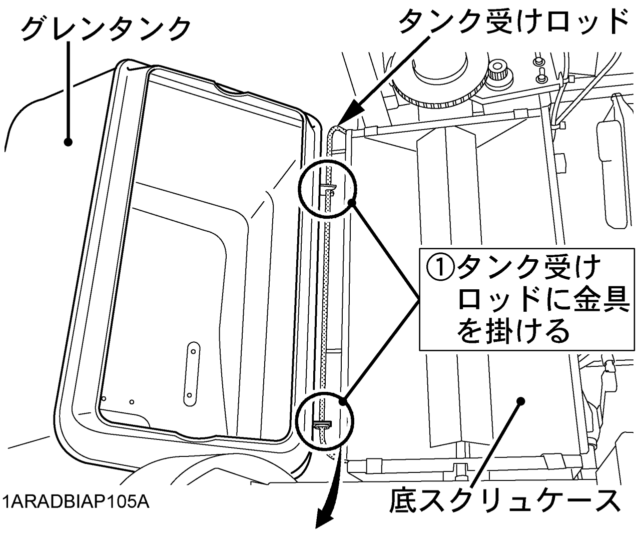
1ARADBIAP340A

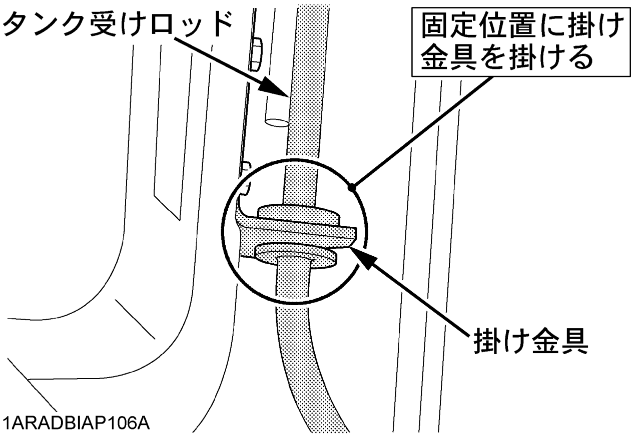
重　要

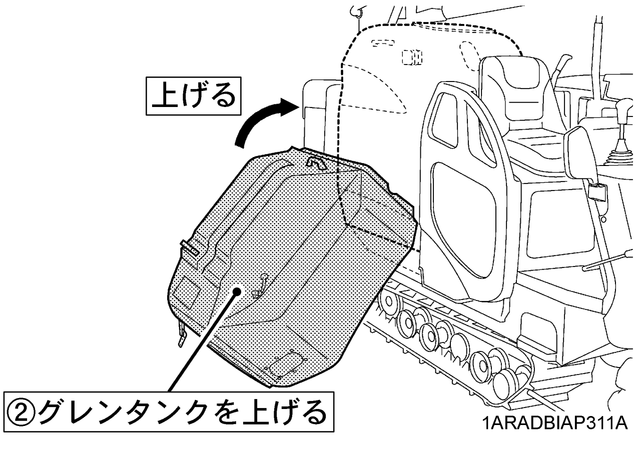
＊ グレンタンクを開いた状態でグレンタンクの脱着はしないでください。グレンタンクを落として破損するなどトラブルの原因となります。

◆ **取付けかた**

1. グレンタンクを底スクリュケースに乗せます。







2. クランプをしたあと，カプラを接続し固定部にコードバンドを共締めします。

重　要

＊ タンクは確実に取付けてください。

3. グレンタンク下カバーを取付けます。

[G 仕様]

■グレンタンクオープン

[G 仕様]

注　意

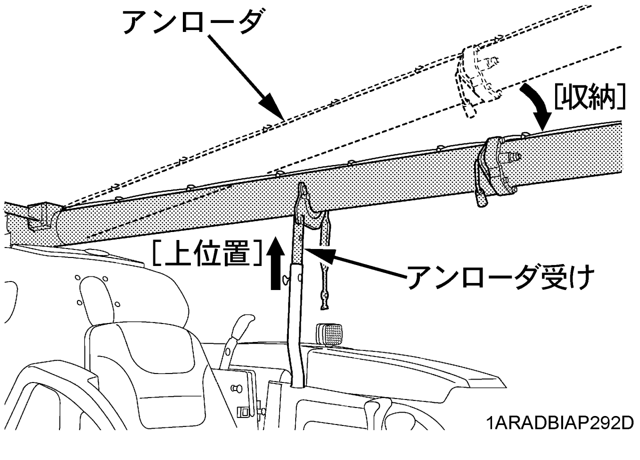
＊ **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
＊ **傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。**

重　要

＊ カッタ部が開いているときは，グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し，破損するおそれがあります。

◆**開きかた**

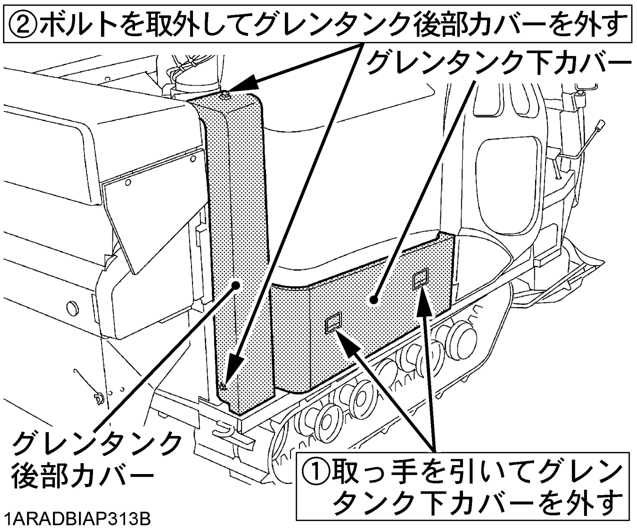
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（74 ページ参照）
2. 主変速レバー **[N]（中立）** 位置，副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）を **[切]** 位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。



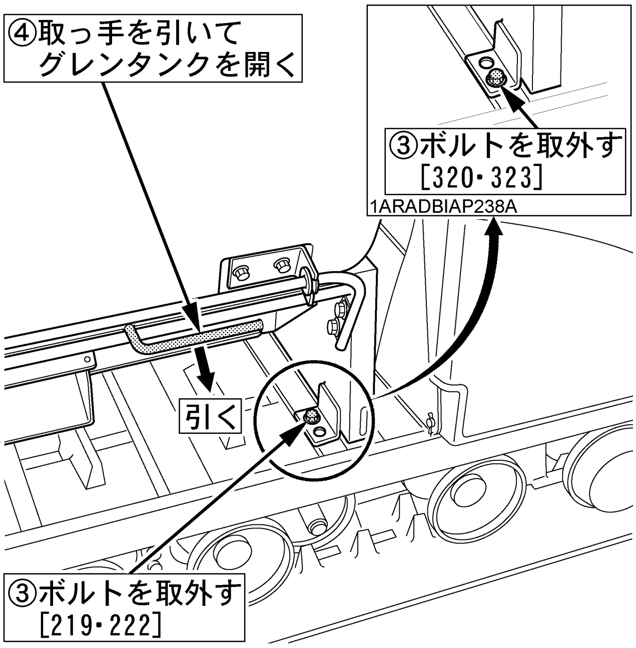
重　要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

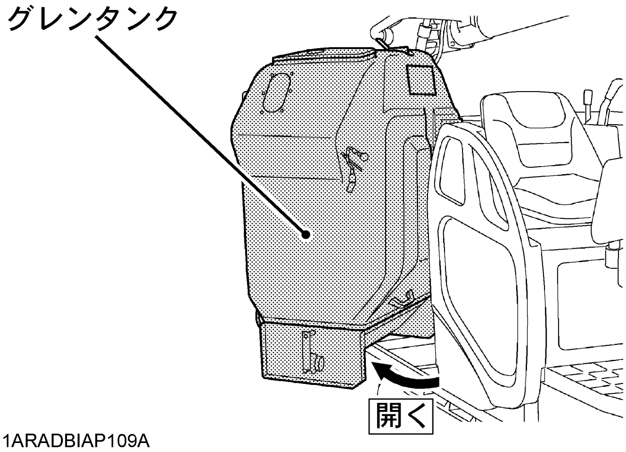
4. カプラを外します。（116 ページ参照）
5. グレンタンクのクランプを外します。（116 ページ参照）
6. グレンタンクをオープンします。



1ARADBIAP313B



1ARADBIAP108B



1ARADBIAP109A

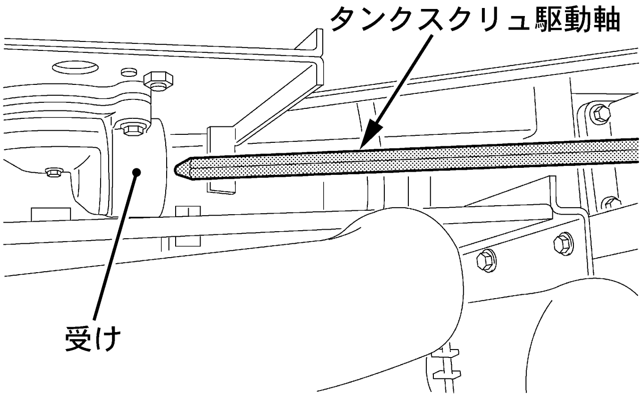
◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊ グレンタンクを固定するボルトは確実に締付けてください。

＊ タンクスクリュ駆動軸が受けに入らないときは，エンジンルームを開き，タンクスクリュ駆動軸を手で回しながら，グレンタンクを押して軸を受けに差込んでください。



1ARADAFAP211A

［G仕様］

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊ 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを取付け忘れるともみが飛散します。
＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
＊ 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

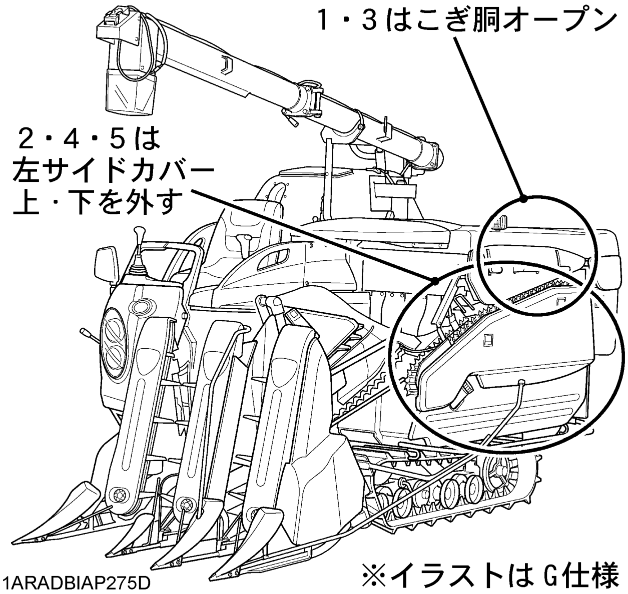
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（37 ページ参照）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［**切**］位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン（開閉）又は，掃除口を開いてください。

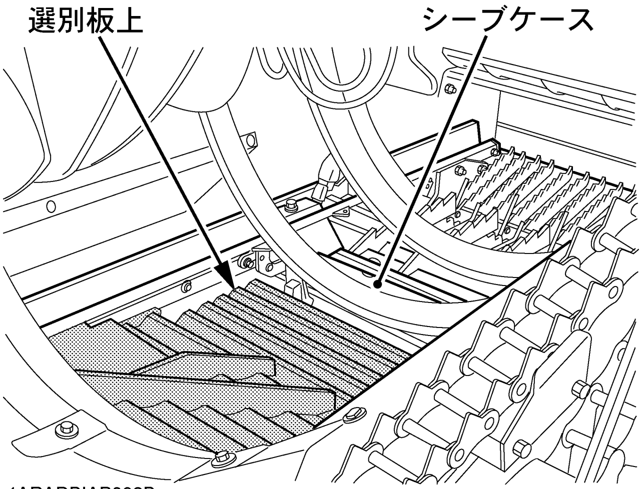
◆掃除箇所



※イラストはＧ仕様

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

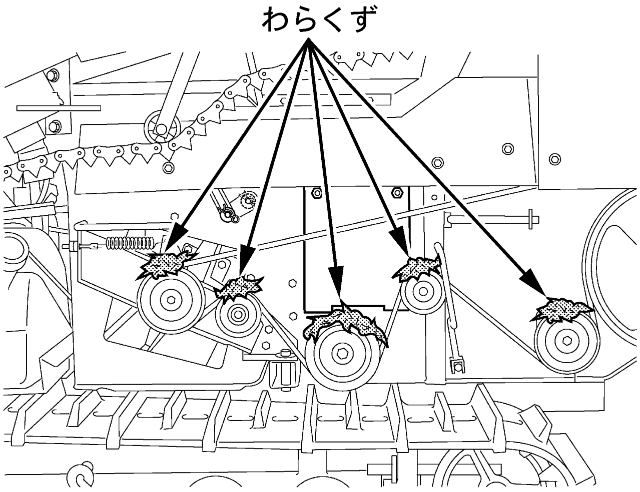
受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は，受あみ（上，下）を取付け，こぎ胴を閉じてください。（111 ページ参照）



1ARADBIAP092B

2. ベルトカバー内

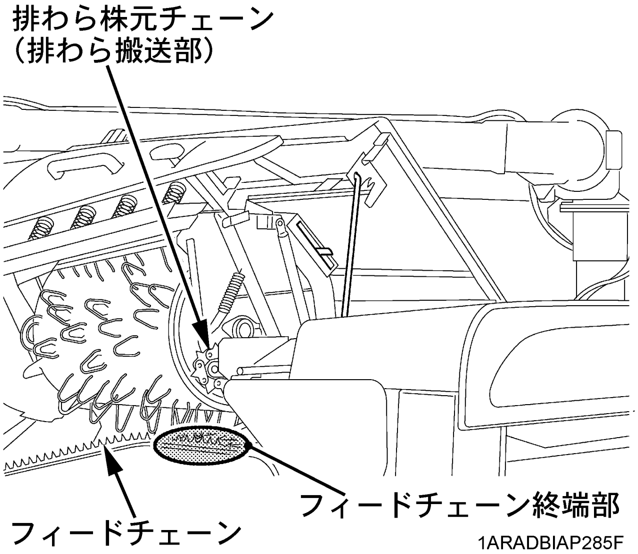
左サイドカバー上及び下とカッタ左サイドカバーを外したあと，左サイドカバーの内側カバー２箇所を取外して掃除してください。掃除後は，各カバーを取付けてください。（114 ページ参照）



1ARADAFAP212A

3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

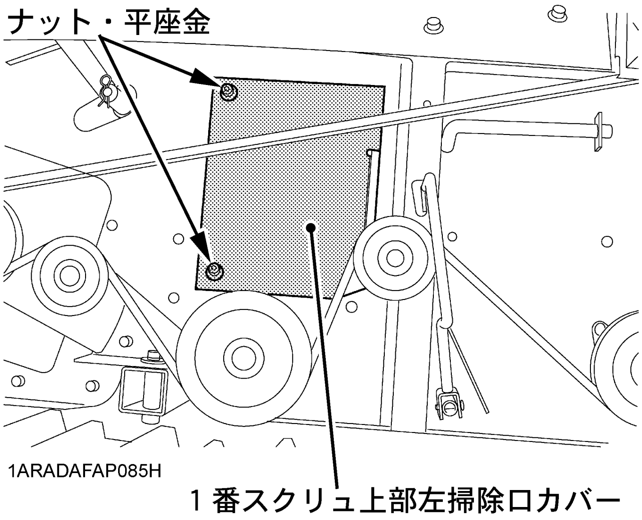
自動エンジン停止装置がはたらいたとき**［わら詰まりのとき］**に掃除してください。掃除後は，こぎ胴を閉じてください。



1ARADBIAP285F

4. １番スクリュ上部左掃除口

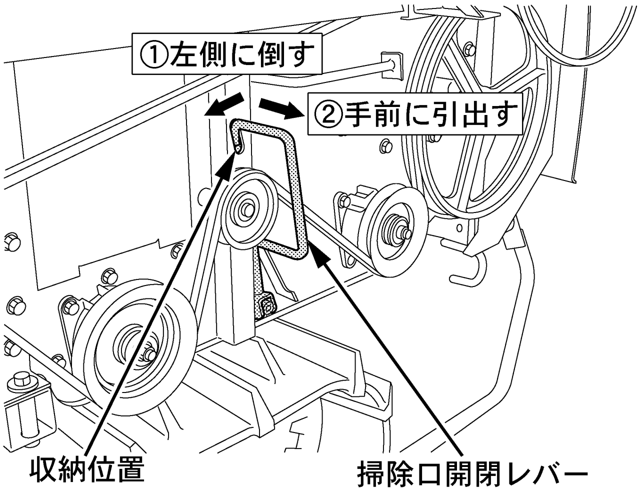
ナット・平座金を外し，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

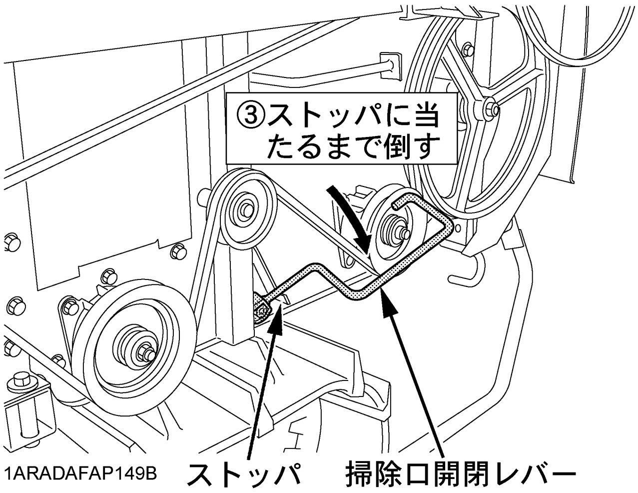


1ARADAFAP085H

5. １・２番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを左側に倒して収納位置から手前に引出した後，右側に倒し，１・２番横スクリュ下部にある掃除口開閉カバーを開いてください。掃除後は，掃除口開閉レバーを収納位置に収納して各カバーを取付けてください。





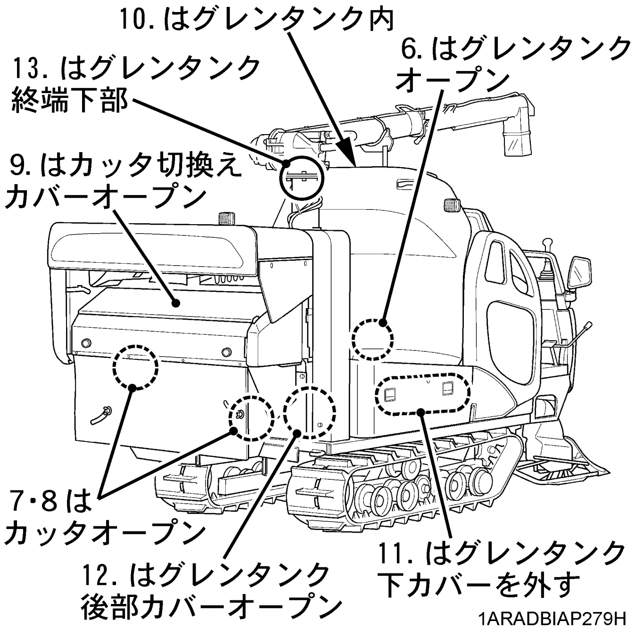
重　要

＊ 掃除口開閉レバーを使用しないときは，収納状態にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

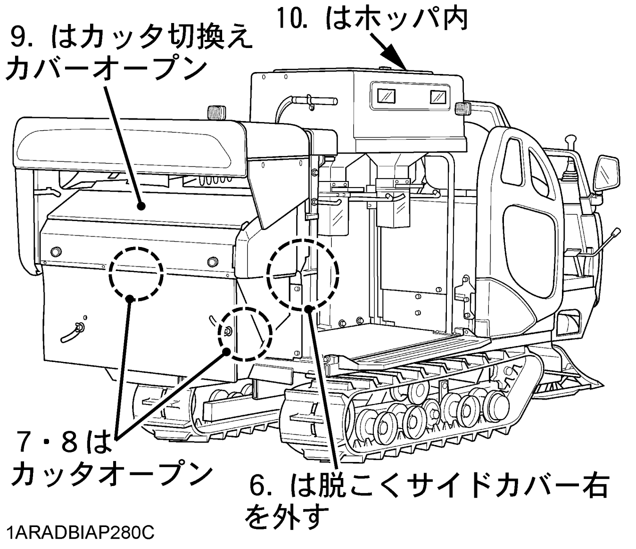
＊ クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し，開閉しなくなります。

[G 仕様]



[G 仕様]

[ホッパ仕様]

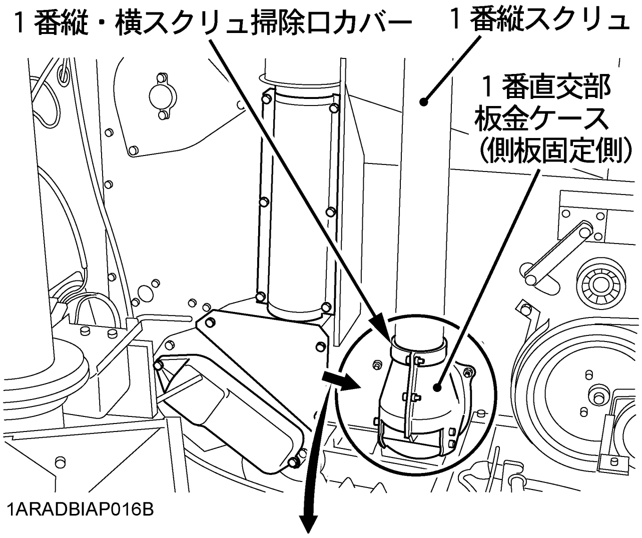


[ホッパ仕様]

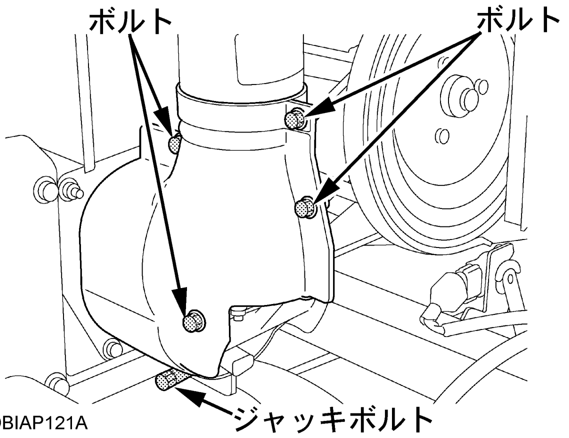
6. １・２番スクリュ掃除口

● **１番縦・横スクリュ掃除口**

ボルトを外して，１番縦・横スクリュ掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。



1ARADBIAP016B



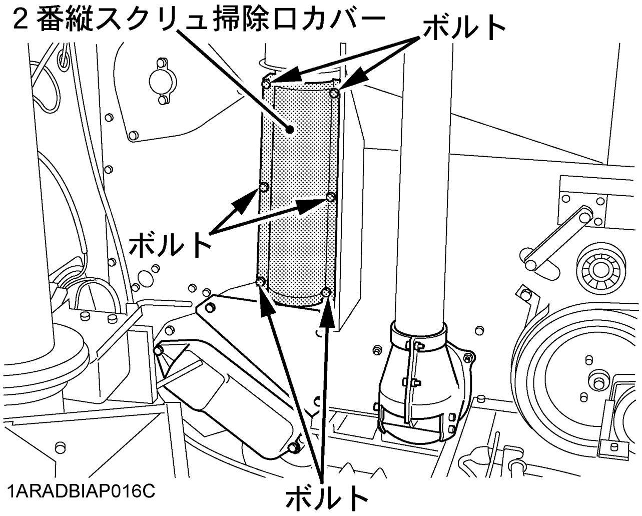
1ARADBIAP121A

補　足

＊ 掃除口カバーを取付けるときは，ボルト４本とジャッキボルトで確実に取付けてください。１番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。

● **２番縦スクリュ掃除口**

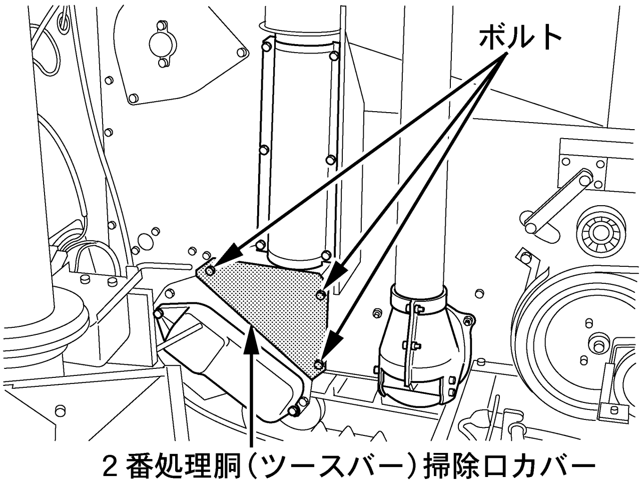
ボルトを外して２番縦スクリュ掃除口の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けグレンタンクを閉じてください。



1ARADBIAP016C

7. ２番処理胴（ツースバー）掃除口

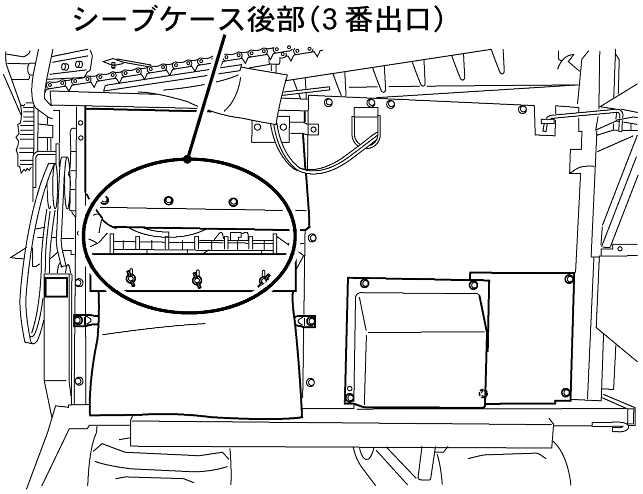
ボルトを取外したあと，掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。



1ARADBIAP016D

8. シーブケース後部（3番出口）

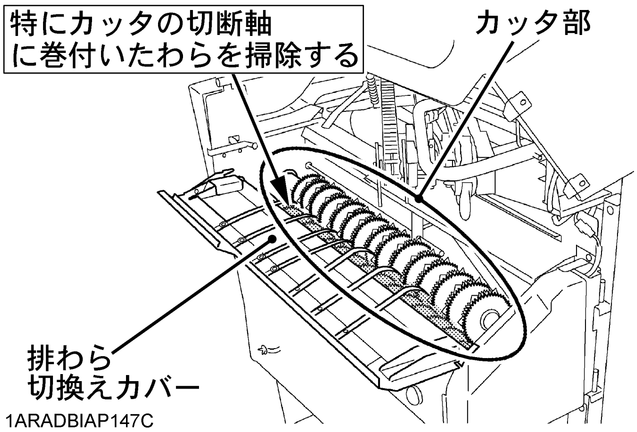
カッタ部を開いて掃除してください。掃除後は，カッタ部を閉じてください。



1ARADBIAP018B

9. カッタ部内

排わら切換えカバーを開いて掃除してください。掃除するときは，特にカッタの切断軸に巻付いたわらは全て取除いてください。掃除後は，カッタ切換えカバーを閉じてください。

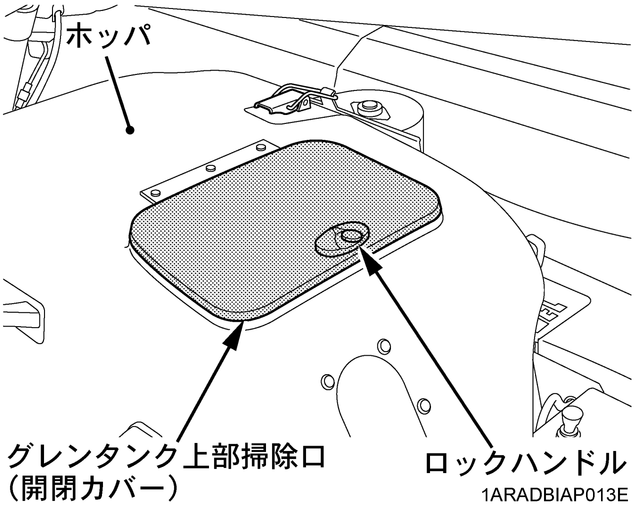


1ARADBIAP147C

10. ホッパ内・グレンタンク内

[G 仕様]

ロックハンドルを回して掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じたあと，ロックハンドルを回してカバーをロックしてください。



1ARADBIAP013E

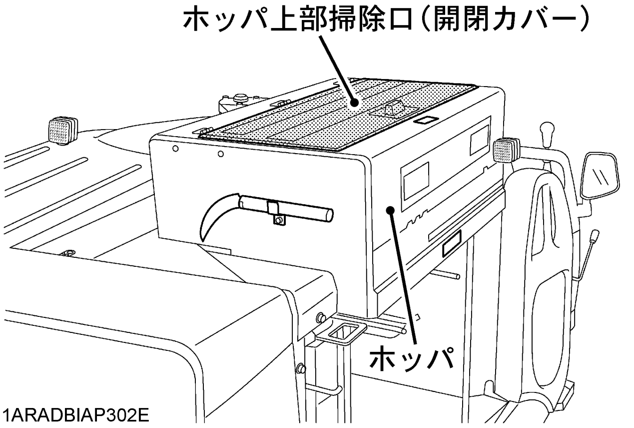
補　足

＊ 必要に応じてグレンタンクを取外して掃除してください。（116 ページ参照）

[G 仕様]

[ホッパ仕様]

掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じてください。



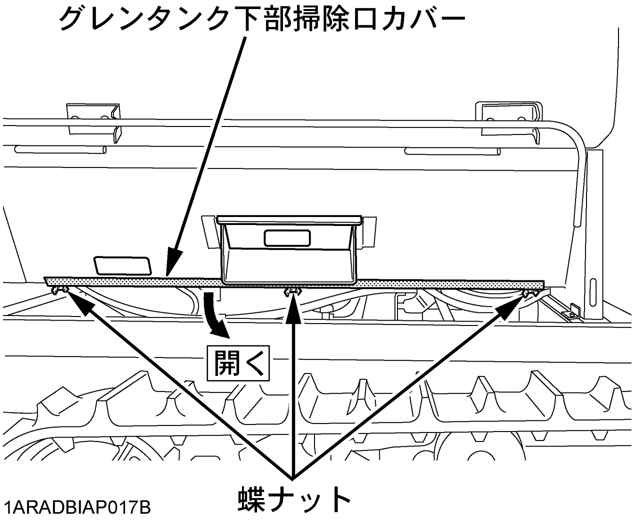
1ARADBIAP302E

[ホッパ仕様]

11. グレンタンク下部掃除口

[G 仕様]

蝶ナットを外し，掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク下カバーを取付けてください。

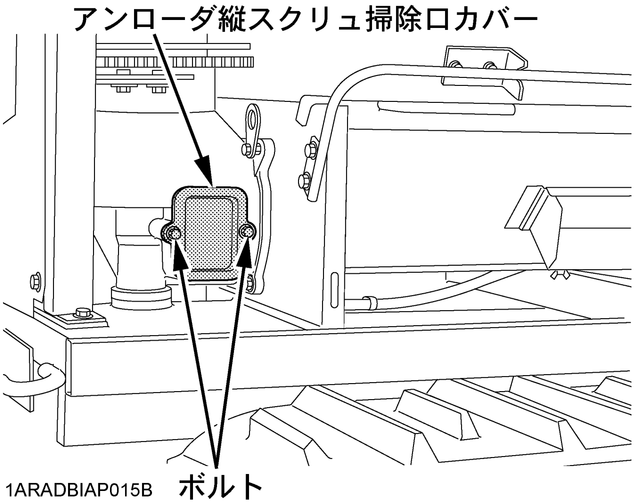


[G 仕様]

12. アンローダ縦スクリュ掃除口

[G 仕様]

ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉じてください。。

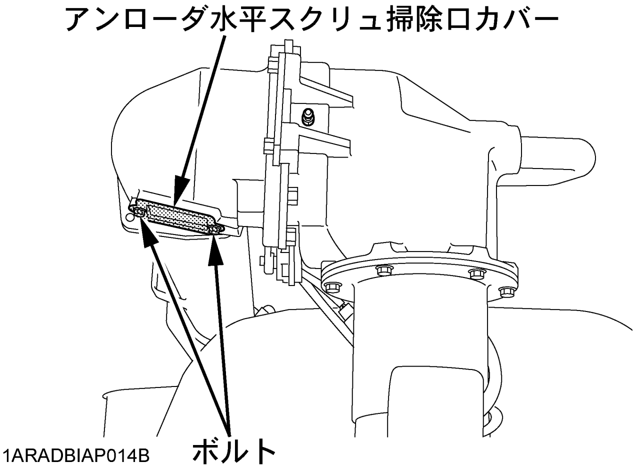


[G 仕様]

13. アンローダ水平スクリュ掃除口

[G 仕様]

ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉じてください。



[G 仕様]

◆掃除後の処置と確認

掃除終了後は，取外したり，開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

⚠ 警　告

＊ 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき，油差しを使っての注油作業や注油後の確認を行なうときは，じゅうぶん注意してください。

＊ そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。

⚠ 注　意

＊ エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

[219・222]

◆ 集中注油装置による注油

集中注油装置の注油レバーを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補　足

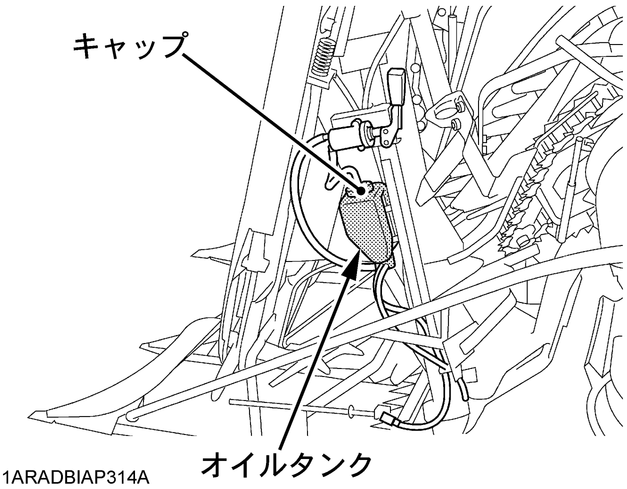
＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。

＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

＊ 刈刃へ注油するときは，注油レバーを強く押して勢いよく注油してください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重　要

＊ 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

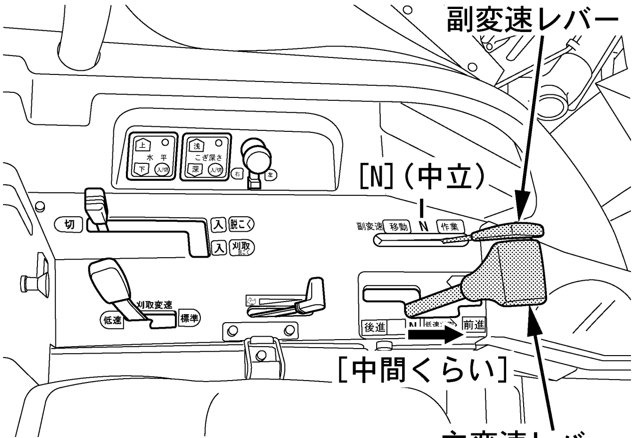
オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W-30 又は，D30	約 0.5L

3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 1600 ～ 1800rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを **［入］** 位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

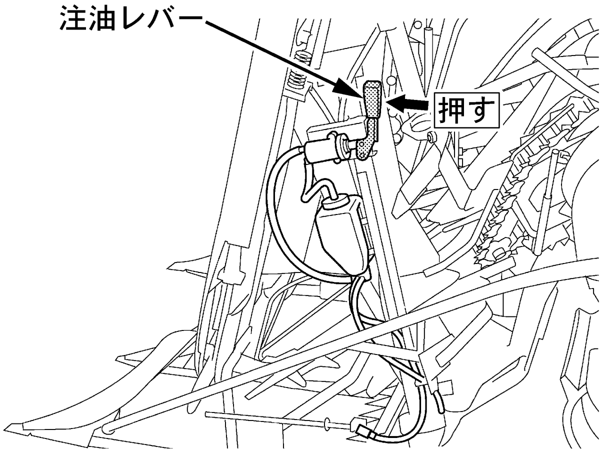
＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため,ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを **［N］（中立）** 位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



1ARADBIAP027J

5. 注油レバーを３～４回強く押して注油します。



1ARADBIAP314B

重　要

＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

補　足

＊ オイルタンクに給油したあとは，オイルを吸い上げるまで注油レバーを押してください。
＊ 集中注油装置を最初に動かすときは，各部にオイルがじゅうぶんに注油されるまで注油レバーを押してください。このとき，左刈刃と左引起しチェーンのオイルの量が，多くでます。

6. エンジンを停止したあと，各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。

7. 引起しサイドカバー左を取付けます。

［219・222］

[320・323]

◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

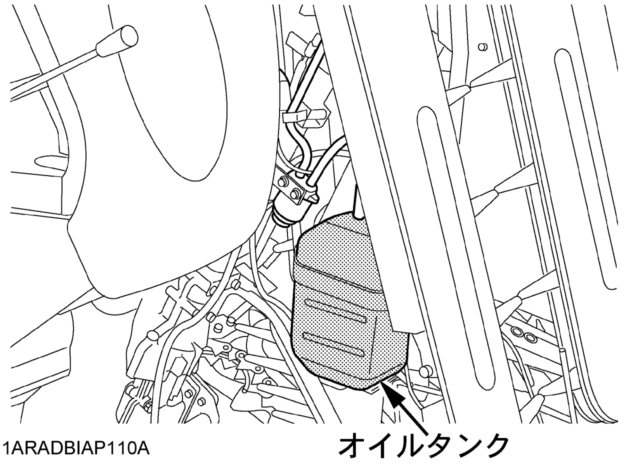
補　足

＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。

＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



1ARADBIAP110A

重　要

＊ 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W-30 又は，D30	約 4L

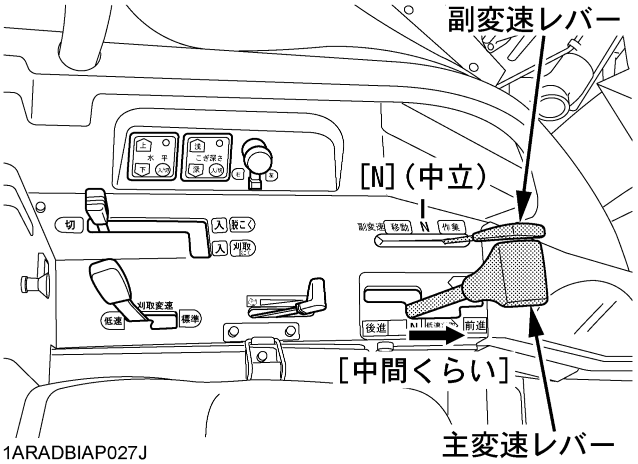
3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 1600 ～ 1800rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**刈取［入］**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。

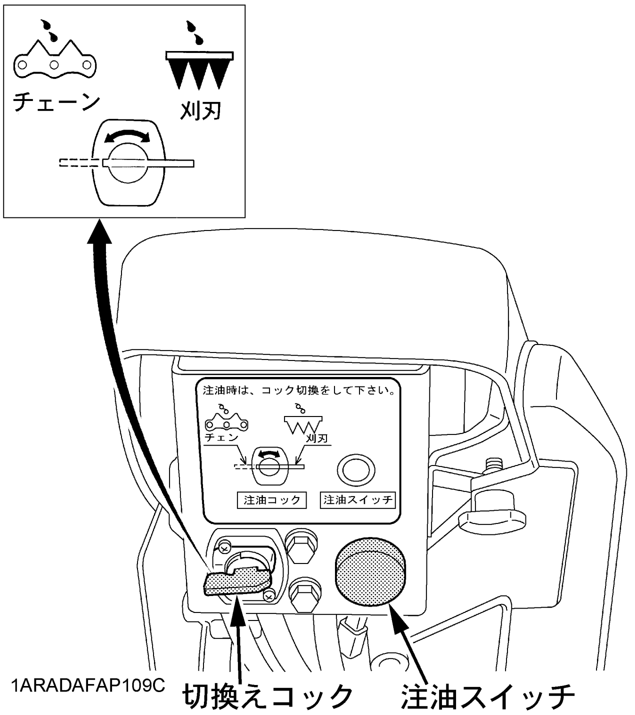
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため,ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを**[N]（中立）**位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



1ARADBIAP027J

5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。
- チェーン位置… 7 ～ 10 秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置……… 5 ～ 7 秒間**断続**で押す。



1ARADAFAP109C

重　要

＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップを押して，エア抜きしてから作動してください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

補　足

＊ 最初の 1 回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

6. エンジンを停止したあと，各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

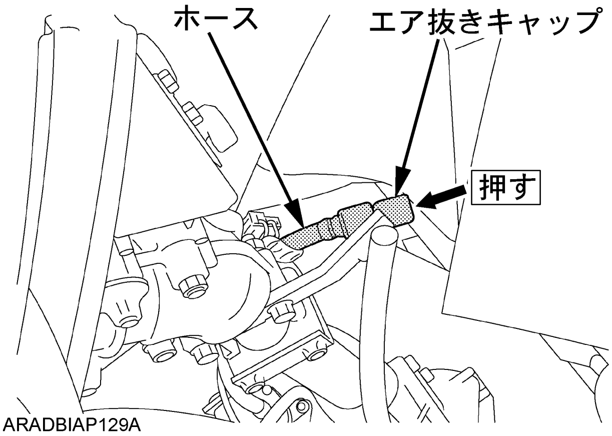
補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。

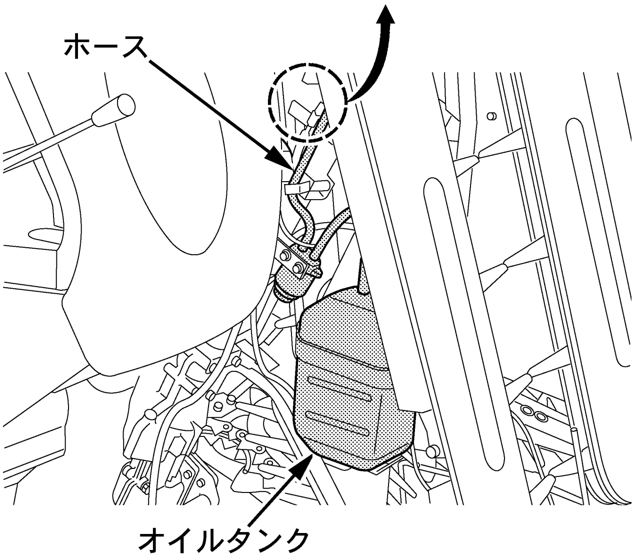
7. 引起しサイドカバー右を取付けます。

◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。
1. 注油後 2 ～ 3 分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを **[N]（中立）**位置にし，エンジンを停止したあと，引起しサイドカバー右を取付けます。



1ARADBIAP129A



1ARADBIAP110B

[320・323]

◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

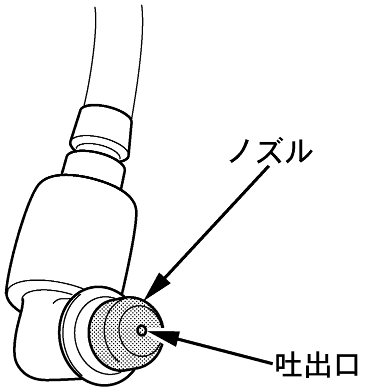
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは，**エンジンを必ず止めて**，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

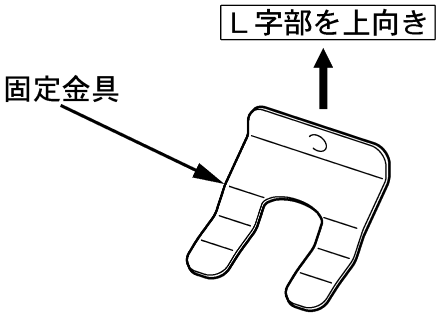
補 足

＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を外すと掃除が容易に行なえます。



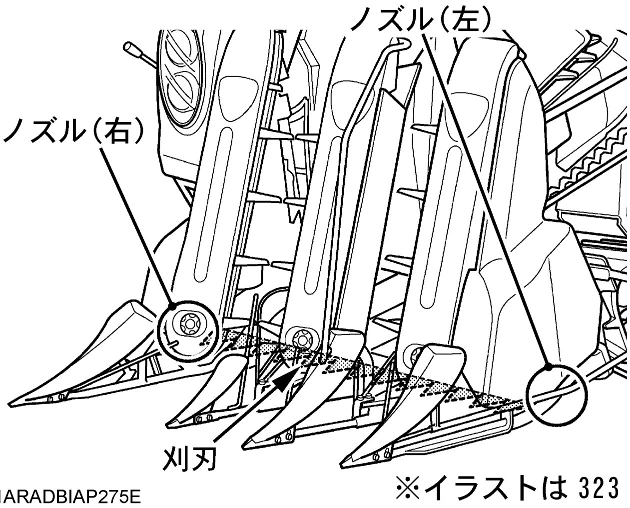
1ARADAFAP481A

＊ 固定金具を取付けるときは，必ず金具のＬ字部を上側に向けて取付けてください。



1ARADAFAP497A

● 刈刃



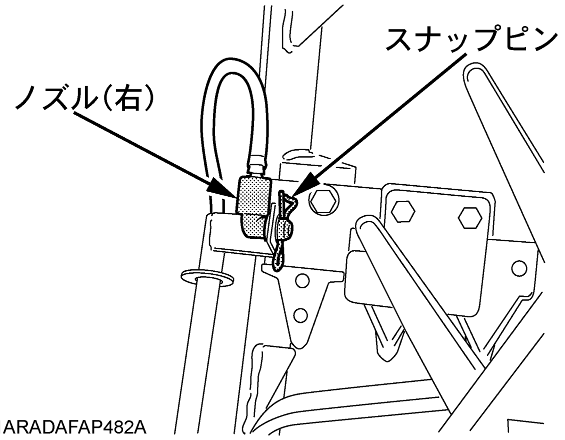
1ARADBIAP275E

※イラストは 323

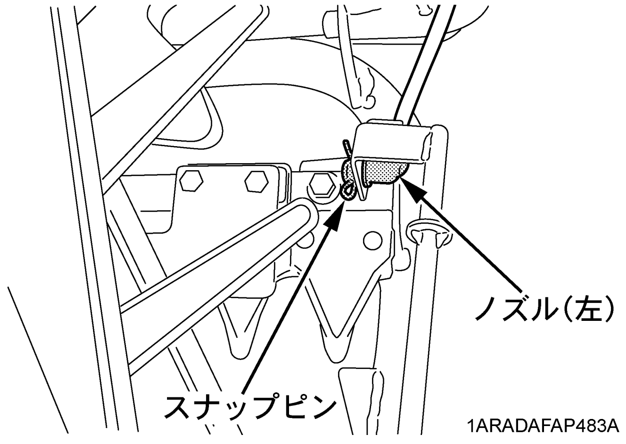
掃除箇所

刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，ノズルからスナップピンを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。

[219・222]



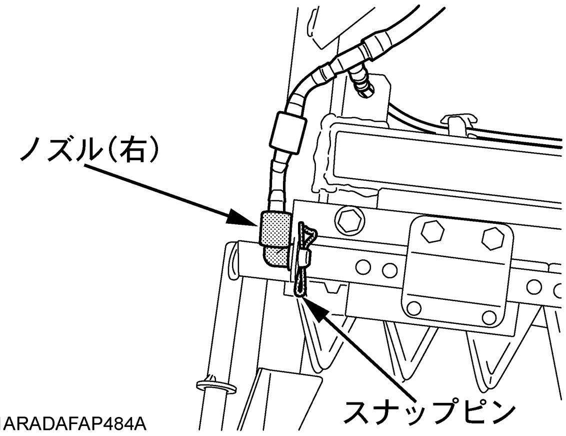
1ARADAFAP482A



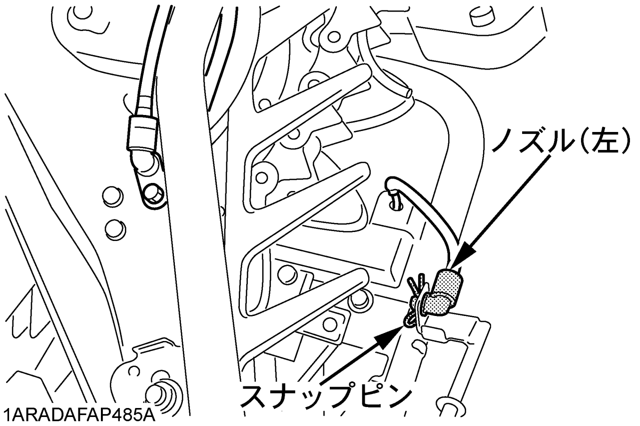
1ARADAFAP483A

[219・222]

[320・323]



1ARADAFAP484A

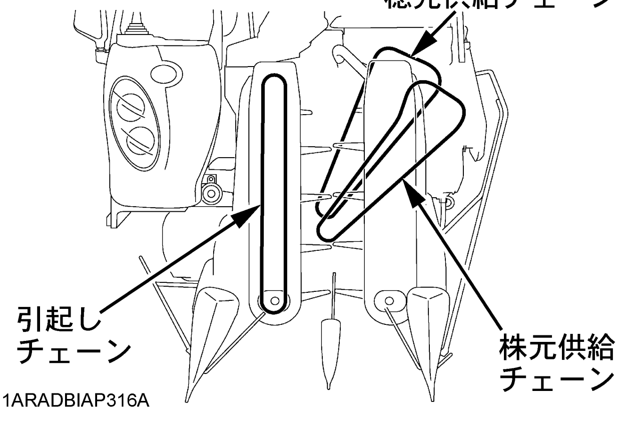


1ARADAFAP485A

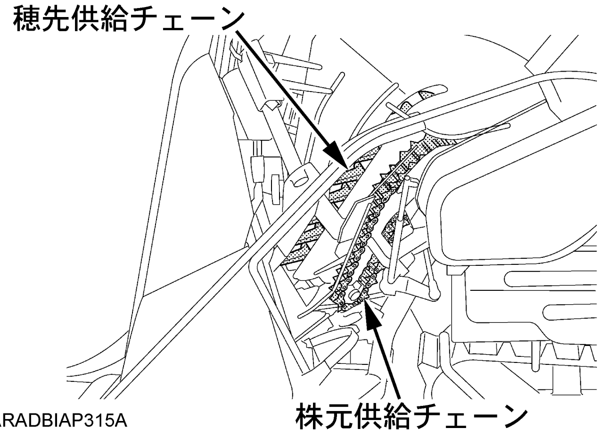
[320・323]

[219・222]

● **引起しチェーン・穂先供給チェーン・株元供給チェーン**



1ARADBIAP316A

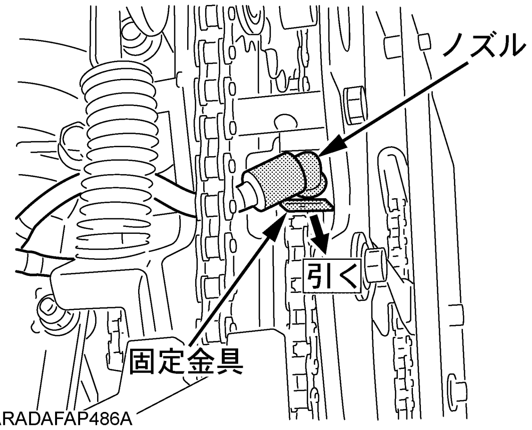


1ARADBIAP315A

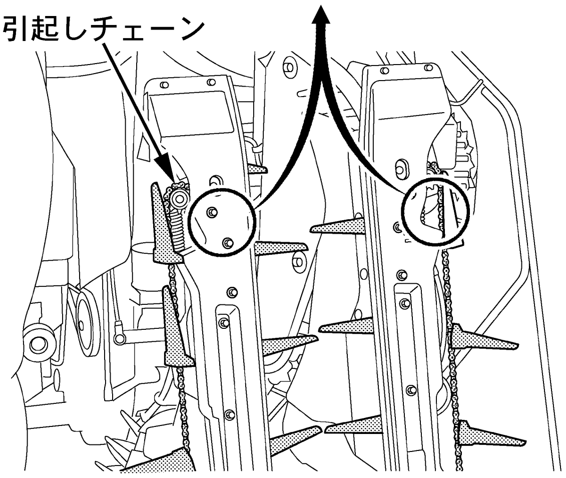
掃除箇所

● **引起しチェーン**

各引起しカバーを取外したあと，引起しサイドカバー左右を取外し，固定金具を取外してください。掃除後は，固定金具を取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。



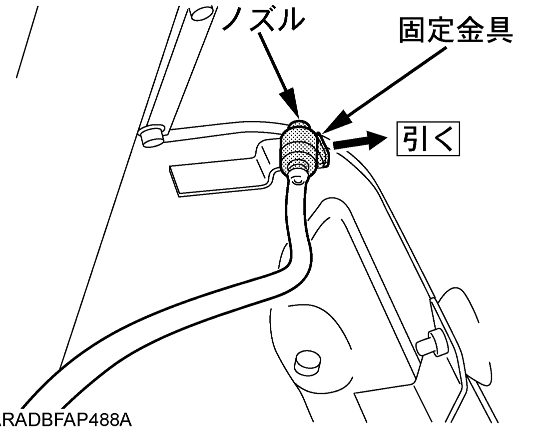
1ARADAFAP486A



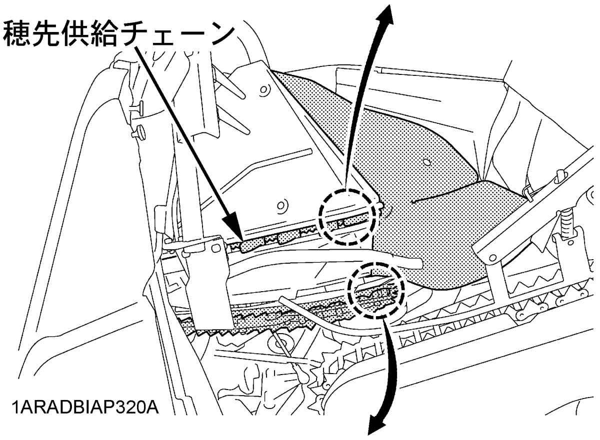
1ARADBIAP113A

● **穂先供給チェーン・株元供給チェーン**

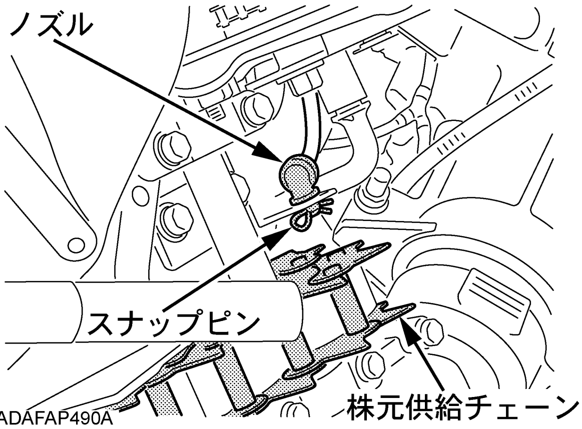
穂先供給チェーンは固定金具を取外してください。また，株元供給チェーンはハンプをめくり上げたあと，スナップピンを取外してください。掃除後，ノズルを取付けてください。



1ARADBFAP488A



1ARADBIAP320A

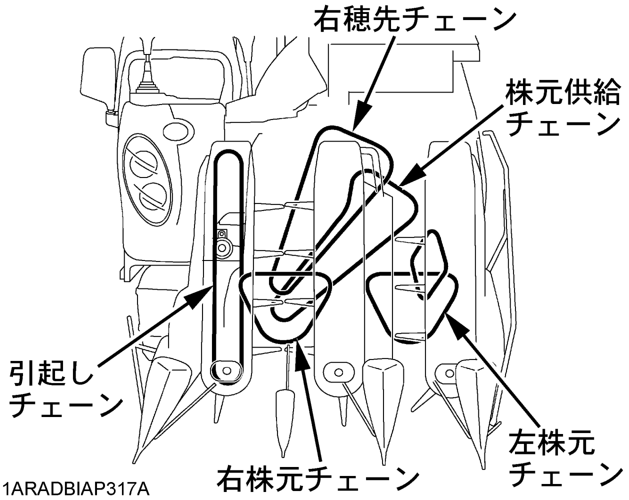


1ARADAFAP490A

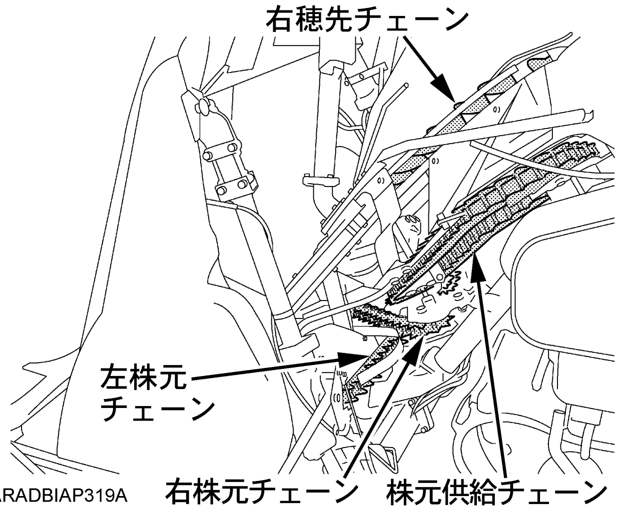
[219・222]

[320・323]

● **引起しチェーン・右穂先チェーン・右株元チェーン・左株元チェーン・株元供給チェーン**



1ARADBIAP317A

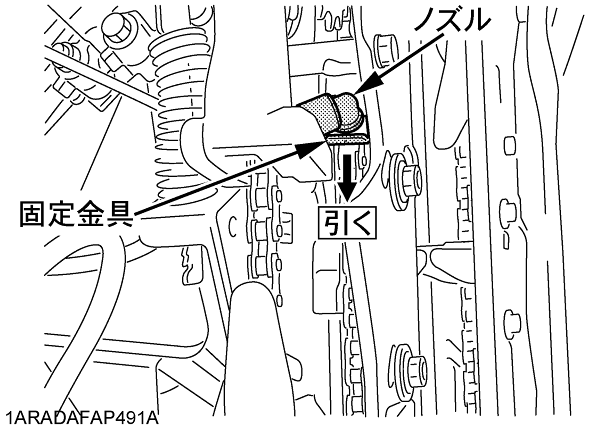


1ARADBIAP319A

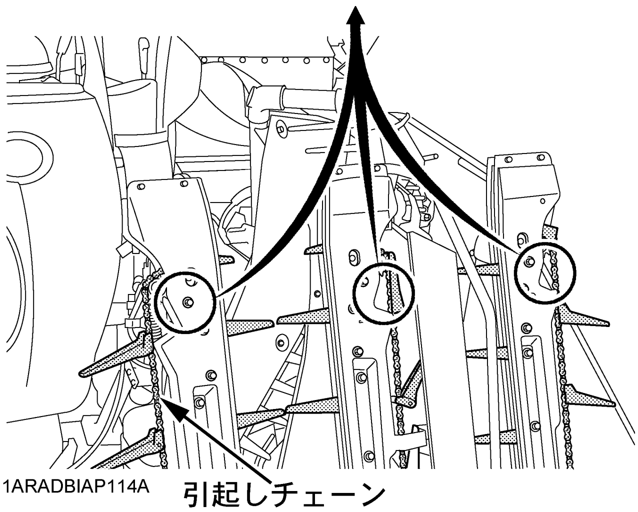
掃除箇所

● 引起しチェーン

各引起しカバーを取外したあと，引起しサイドカバー左右を取外し，固定金具を取外してください。掃除後は，各引起しカバーを取付けてください。



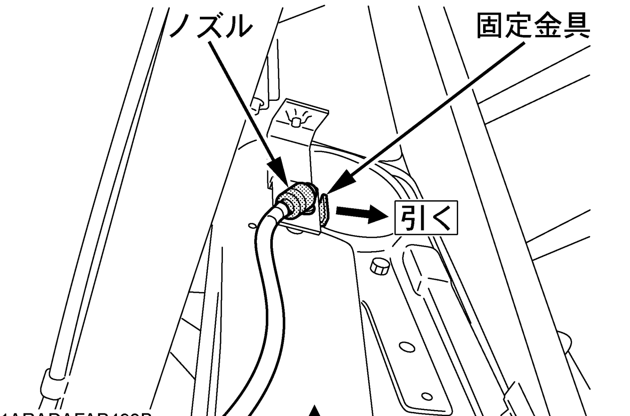
1ARADAFAP491A



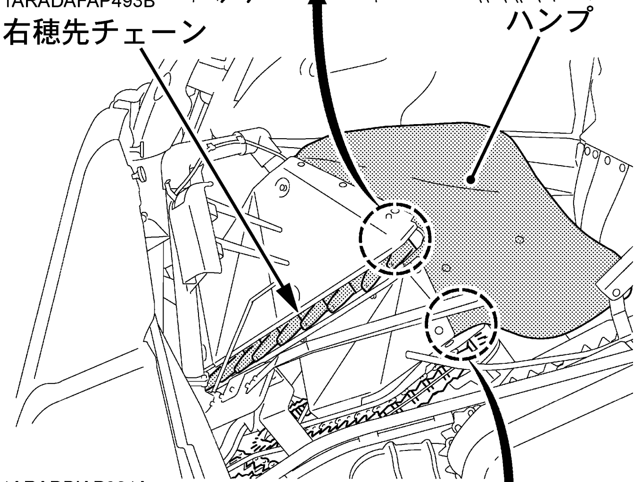
1ARADBIAP114A

● 右穂先チェーン・株元供給チェーン

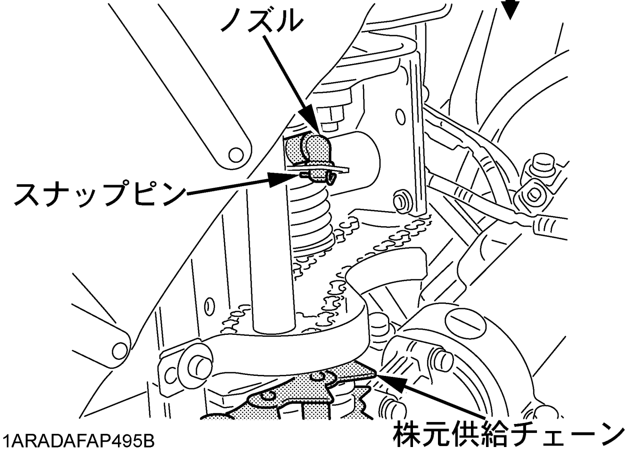
右穂先チェーンは固定金具を取外してください。また，株元供給チェーンはハンプをめくり上げたあと，スナップピンを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けてください。



1ARADAFAP493B



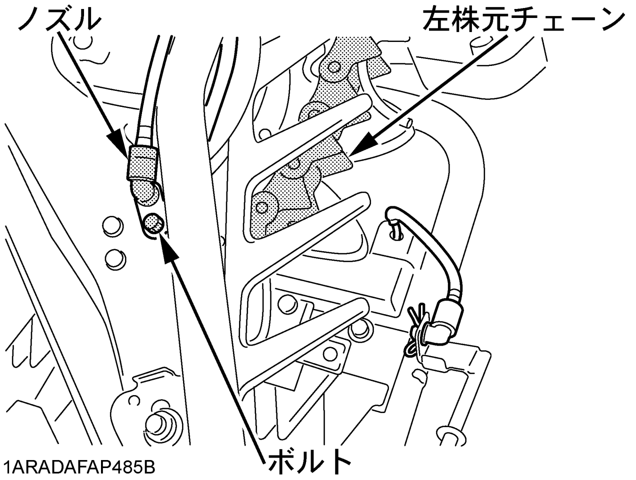
1ARADBIAP321A



1ARADAFAP495B

● **左株元チェーン**

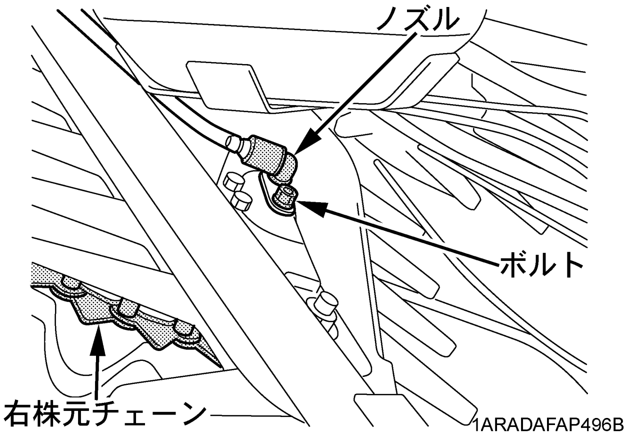
引起しサイドカバー左を取外したあと，ボルトを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左を取付けてください。

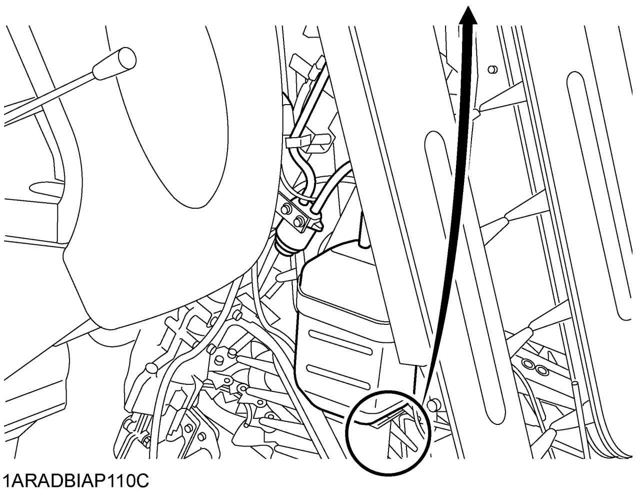


[320・323]

● **右株元チェーン**

引起しサイドカバー右を取外したあと，ボルトを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー右を取付けてください。



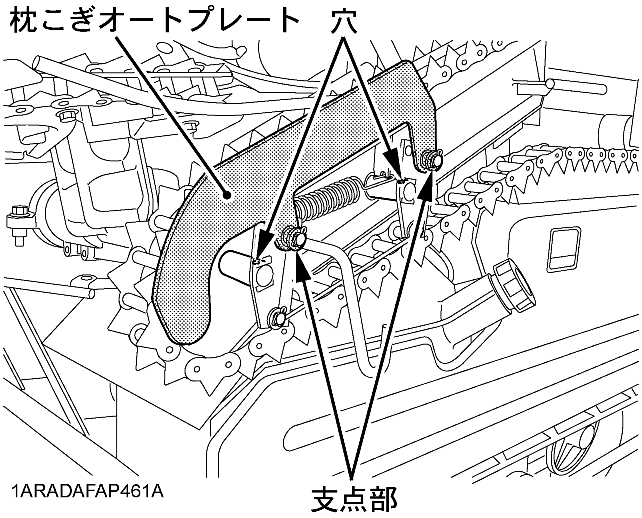


2. 手差し注油

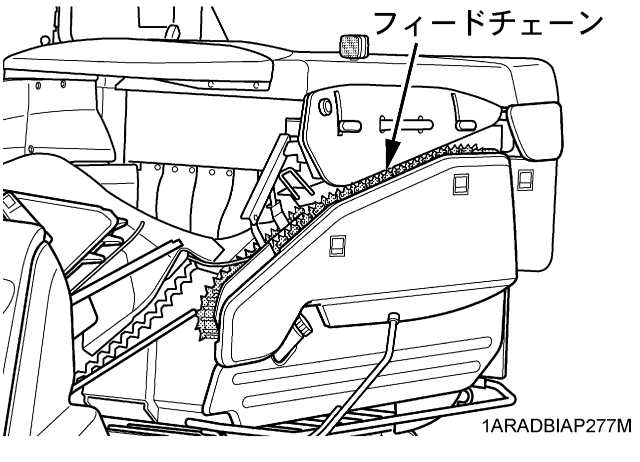
下記箇所は油差しを使用して行なってください。

● **枕こぎオートプレート支点部**

左サイドカバー上を取外して注油してください。注油後は，左サイドカバー上を取付けてください。

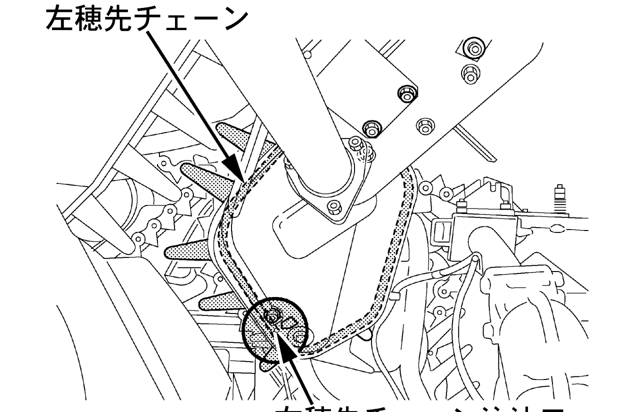


● **フィードチェーン**



● **左穂先チェーン**

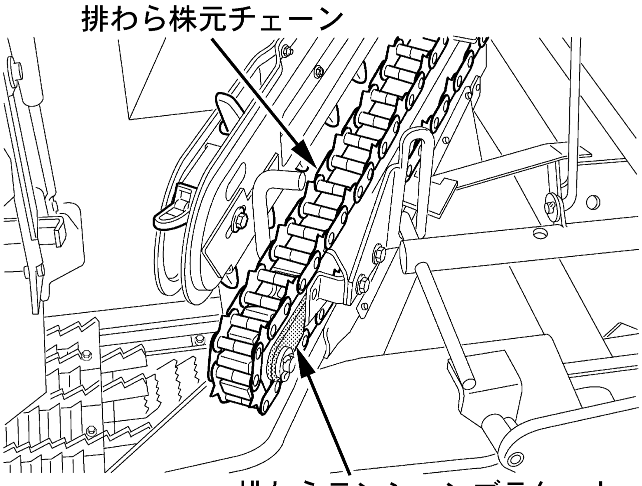
[320・323]



1ARADBIAP134A

[320・323]

● **排わら株元チェーンテンション部（排わらテンションブラケット）**

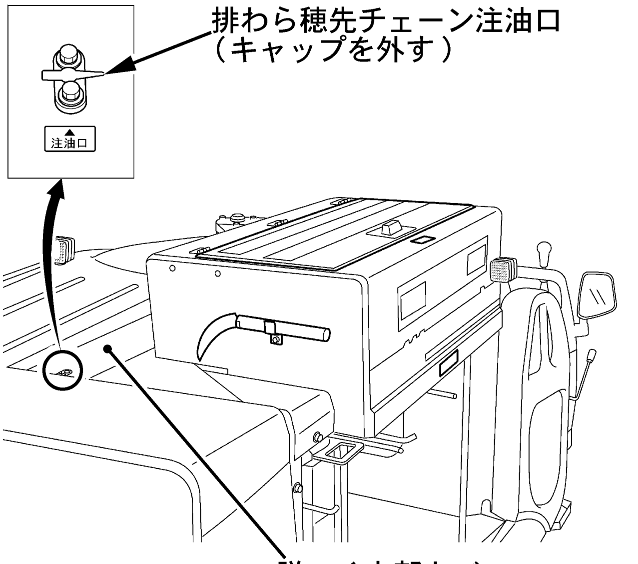


1ARADAFAP166C

● **排わら穂先チェーン**

エンジンを始動したあと，脱こく部を中速回転しながら，脱こく上部後方にある注油口から注油してください。

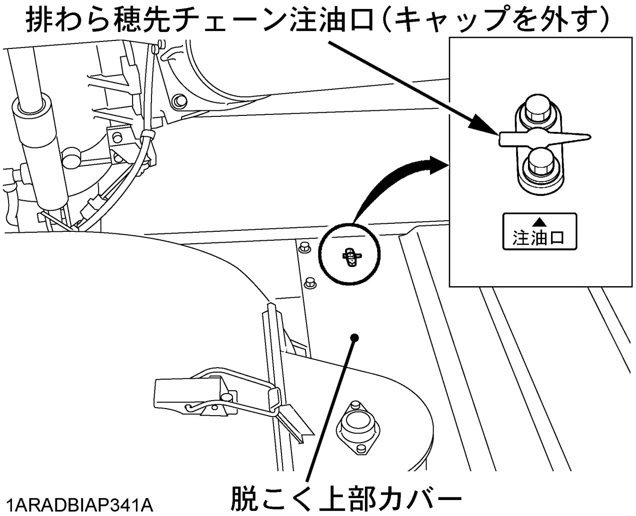
[ホッパ仕様]



1ARADBIAP302D

[ホッパ仕様]

[G 仕様]



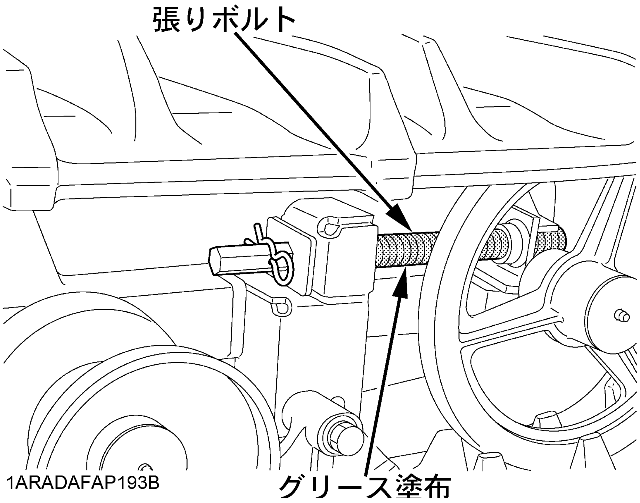
1ARADBIAP341A

[G 仕様]

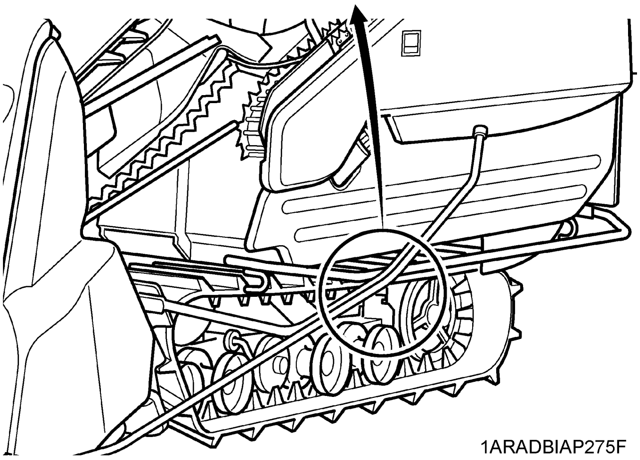
3. グリース塗布

クローラの張り調整を行なう前にグリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト（左，右）



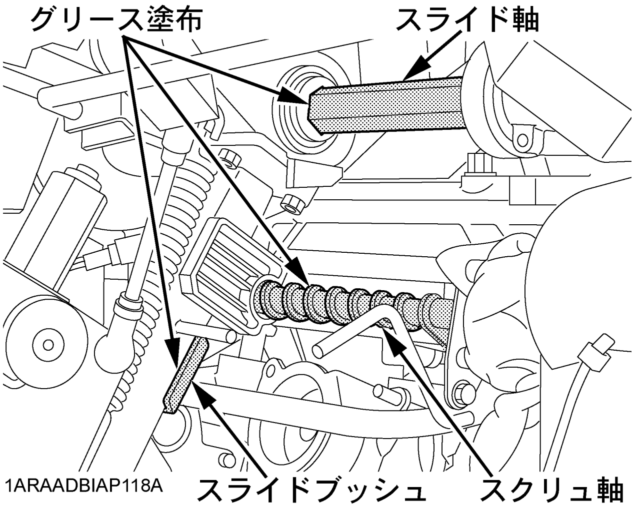
1ARADAFAP193B



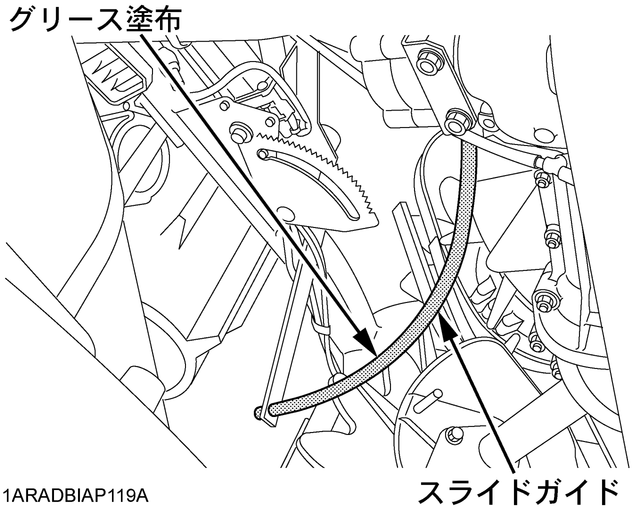
1ARADBIAP275F

● スライド軸･スクリュ軸･スライドブッシュ･スライドガイド

[219・222]



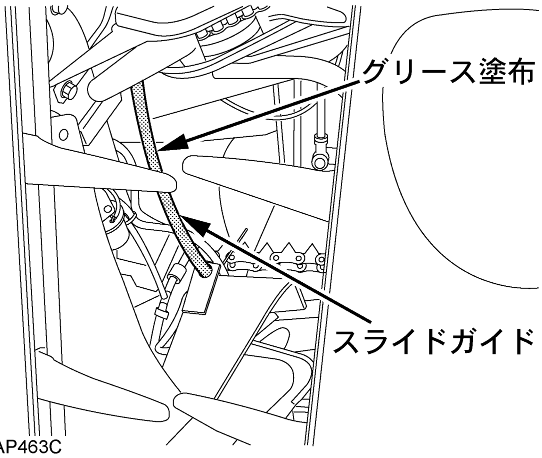
1ARAADBIAP118A



1ARADBIAP119A

[219・222]

［320・323］



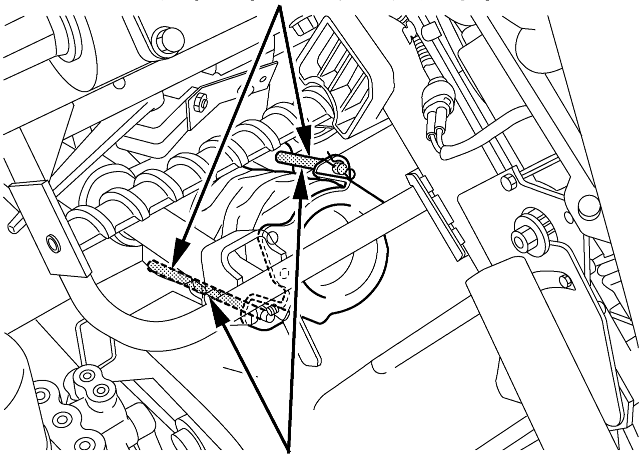
1ARADAFAP463C

［320・323］

● サポートスプリングガイド

［219・222］

刈取部を最上昇し，刈取下降ロックを行なったあと，さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてエンジンを停止してください。

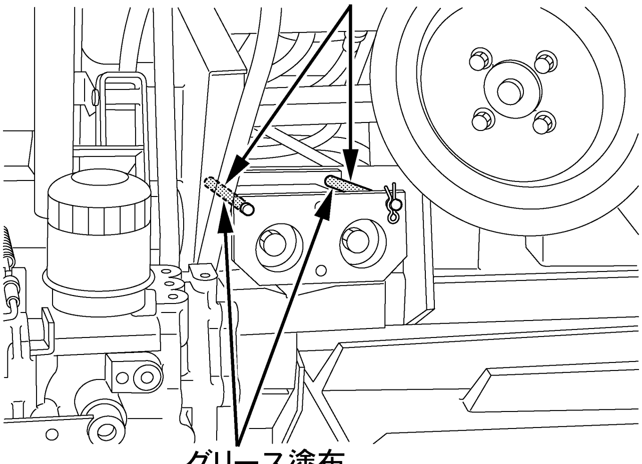


1ARADBIAP195C

［219・222］

［320・323］

刈取オープン（94 ページ参照）を行なってください。グリース塗布後は，刈取部を閉じてください。



1ARADBIAP232A

［320・323］

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，ロック金具をセットして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。

■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20，及び50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

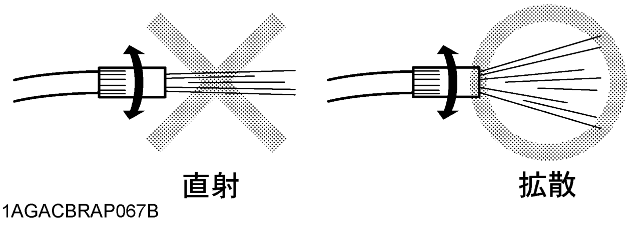
高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

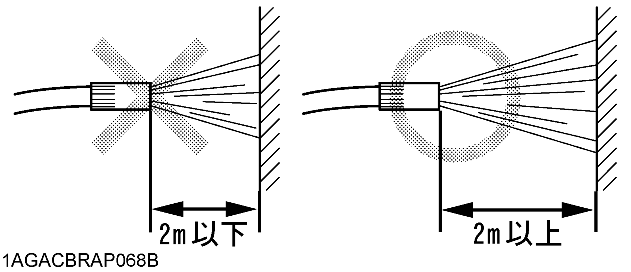
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067B

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068B

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部（ケッセツブカンビ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	169 ☆
	交換	250 時間ごと		
燃料噴射ノズル開弁圧	点検	1500 時間ごと	全型式	☆
バルブクリアランス	調整	800 時間ごと	全型式	☆
燃料噴射管	掃除	200 時間ごと	全型式	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	156
	交換	300 時間ごと（点検・掃除が 6 回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	157
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
インレットマニホルド	点検	200 時間ごと	全型式	☆
燃料フィルタエレメント	掃除	100 時間ごと	全型式	159
	交換	400 時間ごと		
燃料フィルタアッシ	交換	400 時間ごと	全型式	158
オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイル交換が２回目のとき，同時交換）	全型式	160
燃料パイプ	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	157 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	148
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	157 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	157 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
各ホース，パイプの締付けバンド	点検	200 時間ごと	全型式	☆
	交換	300 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	157
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	158

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆走行・操作部				
走行（ミッション）駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	169 ☆
	交換	300 時間ごと		
駐車ブレーキ	調整	50 時間ごと	全型式	162
アクセルワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
SF ワンレバープッシュプルワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
刈取変速ワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
左分草かんワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
枕こぎオートプレートワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（ミッション・HST オイル交換が３回目のとき同時交換）	全型式	160 ☆
クローラ	調整	初回又は，交換後：20，及び 50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	205 ☆
	交換	250 時間ごと		
車軸・転輪・後輪各シール・ボールベアリング	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
キャリアローラシール・ボールベアリング	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
転輪・ドライブスプロケット	交換	300 時間ごと	全型式	☆
クローラガイド（前・後）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
可動転輪・ローラシール	交換	250 時間ごと	全型式	☆
駆動スプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	170 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	172 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	交換	自動テンションのラチェット歯の終端部で交換	全型式	178
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
引起しローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
穂先供給チェーン	点検	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	219・222	179 ☆
	交換	300 時間ごと		
穂先供給搬送爪	交換	300 時間ごと		☆
株元供給チェーン	点検	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと		179 ☆
	交換	300 時間ごと		
右穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	320・323	179 ☆
	交換	300 時間ごと		
右穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		☆
右株元チェーン	点検	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと		179 ☆
	交換	300 時間ごと		
株元供給チェーン	点検	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと		179 ☆
	交換	300 時間ごと		
左穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	320・323	179 ☆
	交換	300 時間ごと		
左穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		☆
左株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと		179 ☆
	交換	300 時間ごと		
刈刃	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	181
	交換	200 時間ごと	219・222	
	交換	300 時間ごと	320・323	
刈刃駆動ベアリング	点検	20 時間ごと	219・222	☆
	交換	100 時間ごと		
刈刃クランクピン，ローラ，ベアリング	交換	300 時間ごと	320・323	☆
株元センサ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（上，下）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	500 時間ごと（パッカ交換時は，トルクリミッタ調整）	219・222	204 ☆
		500 時間ごと	320・323	☆
刈取スライドブッシュ	点検	50 時間ごと	219・222	207 ☆
	交換	100 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆脱こく部				
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	174 ☆
	交換	300時間ごと		
こぎ胴ケース駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	173 ☆
	交換	300時間ごと		
１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	175 ☆
	交換	300時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	180 ☆
	交換	400時間ごと		
排わら穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	180 ☆
	交換	300時間ごと		
排わら穂先搬送爪	交換	300時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	交換	300時間ごと	全型式	180 ☆
排わら入力チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	180 ☆
	交換	300時間ごと		
排わらレール長さ切換えワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
わら切刃	交換	200時間ごと	全型式	187
こぎ歯	交換	300時間ごと	全型式	186
受あみ１（弓金含む）	交換	500時間ごと	全型式	111
受あみ２	交換	500時間ごと	全型式	111
１番縦スクリュ	交換	400時間ごと	全型式	☆
１番スクリュ	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュ	交換	400時間ごと	全型式	☆
２番スクリュ	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュケース	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番処理ケース	交換	400時間ごと	全型式	☆
ツース（２番固定歯）	交換	500時間ごと	全型式	☆
ツース（２番処理歯）	交換	500時間ごと		☆
フロントハンプ	交換	300時間ごと	全型式	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	ホッパ仕様	197 ☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆グレンタンク部				
グレンタンク駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	G 仕様	175 ☆
	交換	300 時間ごと		
底スクリュ軸	交換	300 時間ごと	G 仕様	☆
縦スクリュ軸	交換	300 時間ごと	G 仕様	☆
水平スクリュ軸	交換	300 時間ごと	G 仕様	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	G 仕様	197 ☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	175 ☆
	交換	300 時間ごと		
排わら切換えカバー開閉ワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	163 ☆
	交換	250 時間ごと		
カッタ刃	調整	50 時間ごと	全型式	191 ☆
	交換	150 時間ごと		
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回 50 時間後，それ以降 200 時間ごと	全型式	189
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータが黒色のとき	全型式	198 ☆
	交換	インジケータが白色のとき		
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	202 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	202 ☆
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	204 ☆
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	204 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）点検	点検・処置時期（アワメータ表示時間）処置	容量・規定量（L）	種　　類	参照ページ
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	－	・容量……………約24	ディーゼル軽油	148
オイル	エンジン	補給・交換		・初回…35時間目 ・２回目以降…100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間……2.2～3.2	クボタ純オイル D30 又は，D10W-30	149
	集中注油オイルタンク	補給		－	・容量 …約0.5 **[219・222]** …約4.0 **[320・323]**	クボタ純オイル D30 又は，D10W-30	126
	HST・トランスミッションケース	補給・交換	100時間ごと	・初回…50時間目 ・２回目以降…100時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで……約3.0	クボタ純オイル スーパーUDT-2	150
	フィードチェーン駆動ケース			分解時	・容量…………約0.3	クボタ純オイル M80B又は，M90	151
	こぎ胴駆動ケース				・容量…………約0.15		152
	引起しチェーン	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適　　量	クボタ純オイル D30 又は，D10W-30	126
	左穂先チェーン **[320・323]**						126
	供給チェーン（株元，穂先）**[219・222]**						126
	穂先供給チェーン **[320・323]**						126
	フィードチェーン						126
	排わらチェーン（株元，穂先）						126
	排わら（株元，穂先，入力）チェーンテンション部						126
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前又は，作業後	２年ごと又は，冬季停止時は排出	＊規定量 タンク側面の **LOW（下限）**と **FULL（上限）**の間 LOW ……………0.15 FULL……………0.25	清水又は，クボタ不凍液	154

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種　　類	参照ページ
			点検	処置			
グリース	**◆走行部**						
	スイングアーム部	補給	作業シーズン終了後	－	適　量	クボタ純グリース No.2	153
	転輪・後輪部				内側シールから少しはみ出るまで		153
	◆刈取部						
	刈刃ギヤケース	補給	分解時	－	適　量	クボタ純グリース No.2	☆
	パッカ駆動ケース						
	刈取りギヤケース						
	供給ギヤケース						
	引起しギヤケース						
	スライドケース **[219・222]**		100時間ごと				
	ベベルケース **[219・222]**						
	スライド軸 **[219・222]**	塗布	作業前及び，作業後（洗車後）	－			
	スクリュ軸（スライド）**[219・222]**						
	スライドブッシュ **[219・222]**						
	刈取り昇降アーム **[219・222]**						
	スライドガイド（こぎ深さ）						
	サポートスプリングガイド	補給		50時間ごと			
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	－	適　量	クボタ純グリース No.2	☆
	１番ベベルケース						
	２番ベベルケース						
	２番チェーンケース						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種　類	参照ページ
			点検	処置			
グリース	**◆グレンタンク部**						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	☆
	アンローダケース１						
	アンローダケース２						
	アンローダケース３						
	アンローダケース２・３ 接続回動しゅう動部	補給	作業シーズン終了後				
	アンローダケース１，縦 アンローダモータステー 接続回動しゅう動部	塗布	分解時				

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料·オイル·グリース の点検·補給·交換

注 意

- ＊ **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- ＊ **燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。**
- ＊ **燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。**

重 要

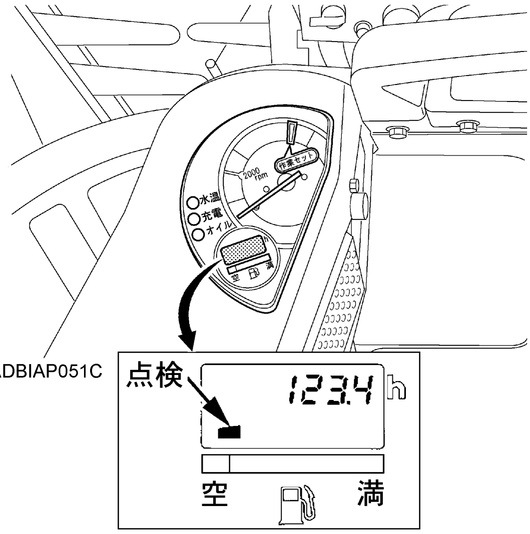
＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。

＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。

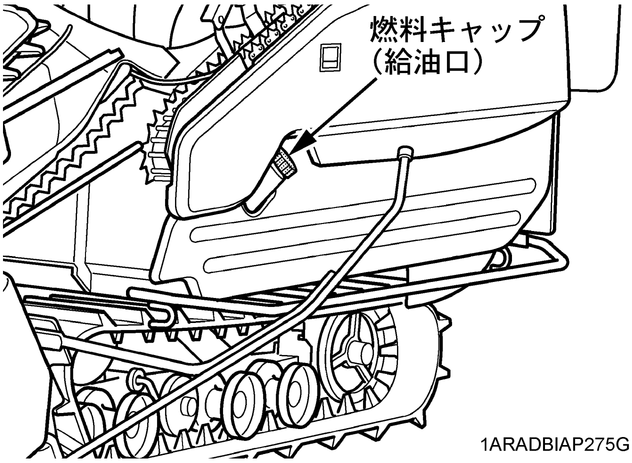
- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは, 現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは, オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため, 給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき, 規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル·クボタ純グリース**を使用してください。

■燃料

メータユニットの燃料計の最後の１目盛が点滅し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。**［HD 仕様］**では，ブザーが鳴ったのち，ボイスナビが**［燃料を給油してください］**とお知らせします。



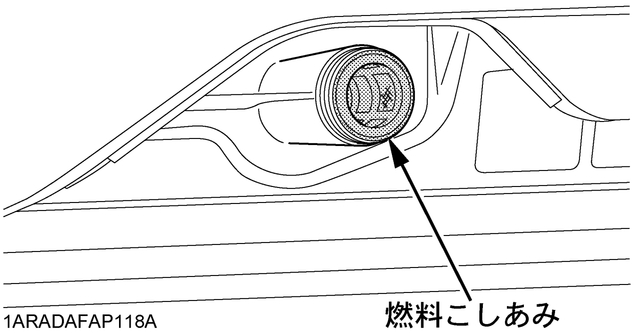
1ARADBIAP051C



1ARADBIAP275G

重 要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



1ARADAFAP118A

◆ **給油**

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを［**入**］位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。
［**HD 仕様**］では，ブザーが鳴ったのち，ボイスナビが［**燃料がいっぱいになりました**］とお知らせします。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 24L

補 足

＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
● エンジン停止後約 20 秒間
● 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
● 液晶ディスプレイの燃料表示が全て点灯（満タン付近）している状態で給油したとき
● 給油量が少ないとき

■エンジンオイル

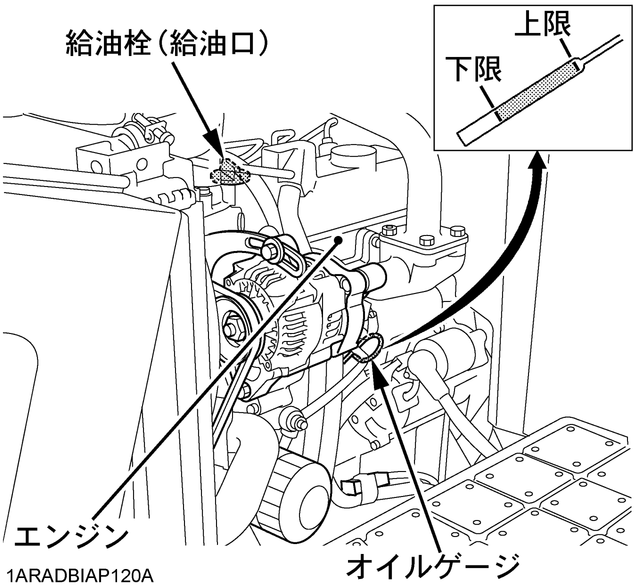
エンジンルームをオープンしてください。

重 要

＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ **点検・補給**

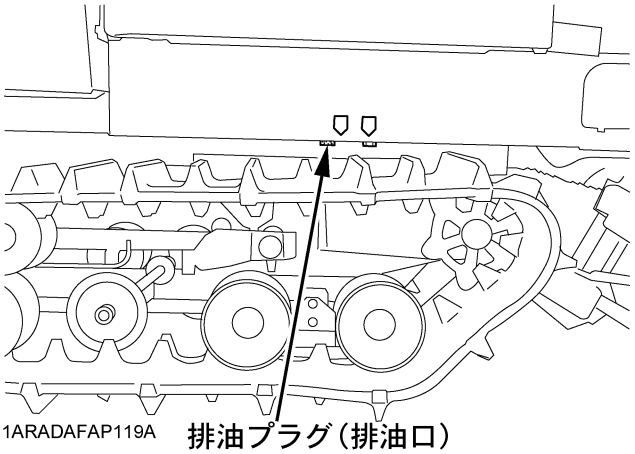
エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ **交換**

● **排油のしかた**

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。



3. 排油プラグを取付けたあと，給油栓を取付けます。

重 要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けたあとエンジンルームを閉じてください。

重 要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15 ℃未満のとき	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D30 又は D10W-30	・上限線…約 3.2L ・下限線…約 2.2L
15 ℃以上のとき	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D10W-30	

■トランスミッションオイル

警 告

＊ **点検・補給・交換するとき，刈取部を上げて行なうときは，刈取下降ロックスイッチを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**

点検を行なうときは，刈取部，車体水平制御 **[M 仕様]** を最下降位置にし，レバーガイドシートを開いてください。

重 要

＊ 点検するとき，刈取部が上昇していたり機体が傾いていると，正確な量を示しません。

◆ **点検・補給**

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ **交換**

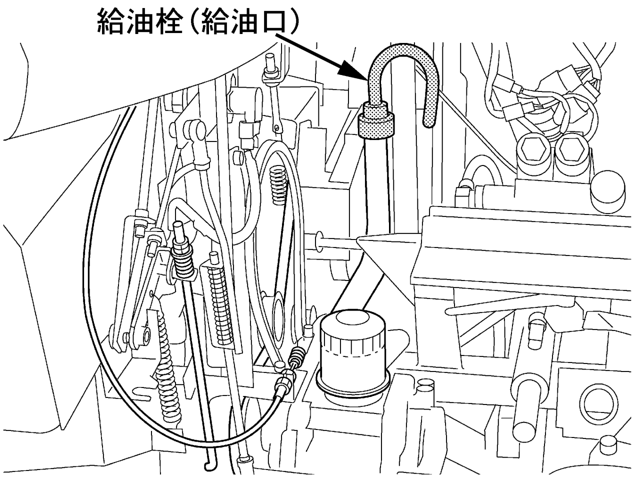
● **排油のしかた**

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

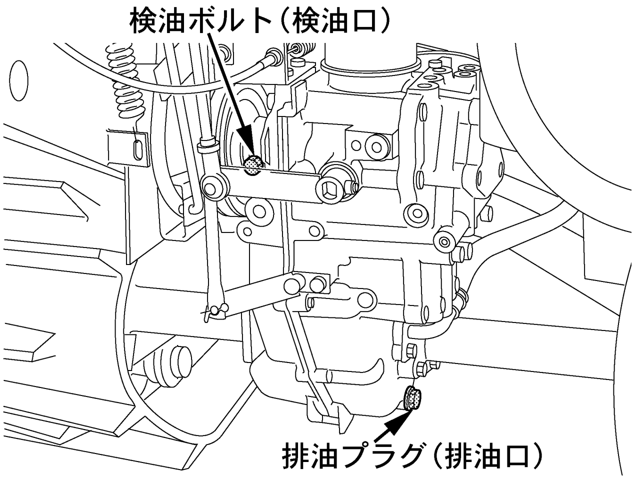
● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。

[219・222]



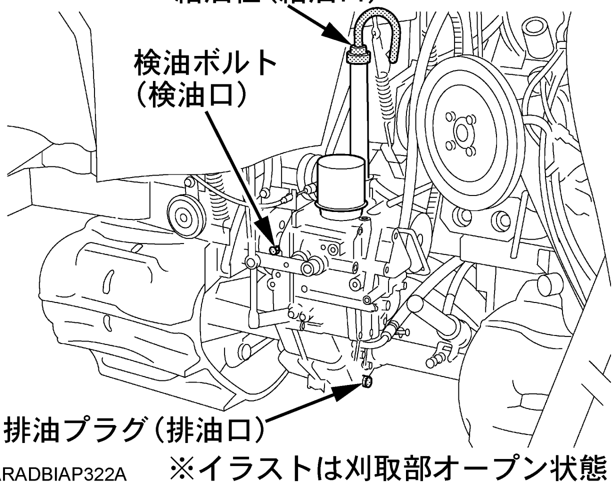
1ARAADBIAP327A ※イラストは刈取部オープン状態



1ARADBIAP155A ※イラストは刈取部オープン状態

[219・222]

［320・323］



1ARADBIAP322A　※イラストは刈取部オープン状態

［320・323］

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 3.0L

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイル

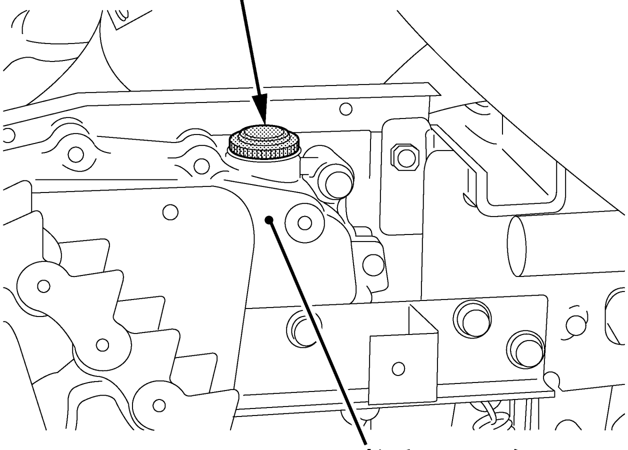
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

こぎ胴を開いたあと，ボルトを取外して左サイドカバー後１，２を外します。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，左サイドカバー後１，２を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。



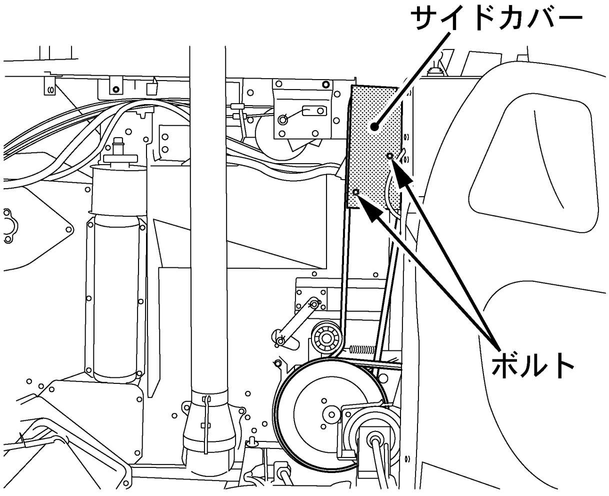
1ARADBIAP128A

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.3L

■こぎ胴駆動ケースオイル

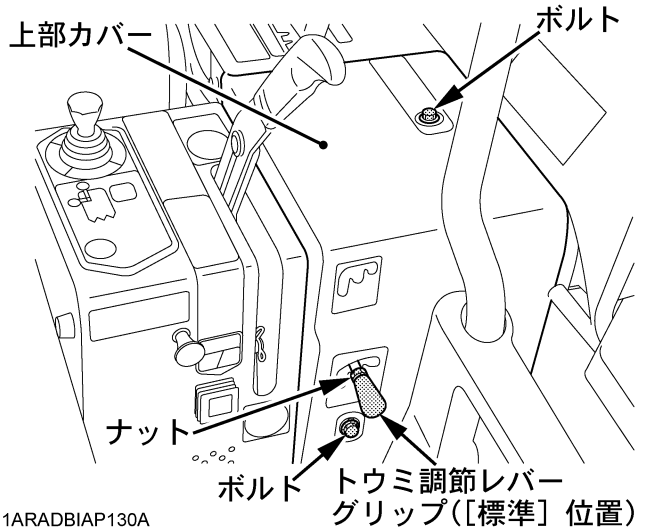
脱こく上部右前方にあるこぎ胴駆動ケースのカバーを取外します。

1. **[G 仕様]** はグレンタンクをオープンします。
2. **[320・323]** はボルトを取外して脱こく駆動ケースのサイドカバーを外します。



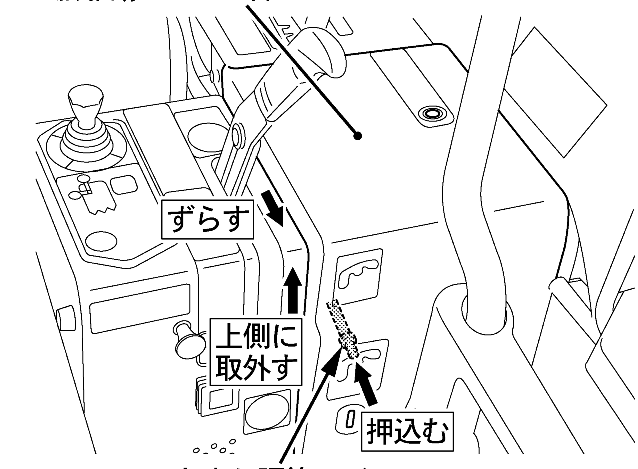
1ARADBIAP122A

3. トウミ調節レバーを **[標準]** 位置にしたあと，レバーのグリップ根元にあるナットをゆるめてグリップを取外します。
4. こぎ胴駆動ケースの上部カバーのボルトを取外します。



1ARADBIAP130A

5. トウミ調節レバーを押込み，こぎ胴駆動ケースの上部カバーを手前にずらして，上部カバーを上側に取出します。

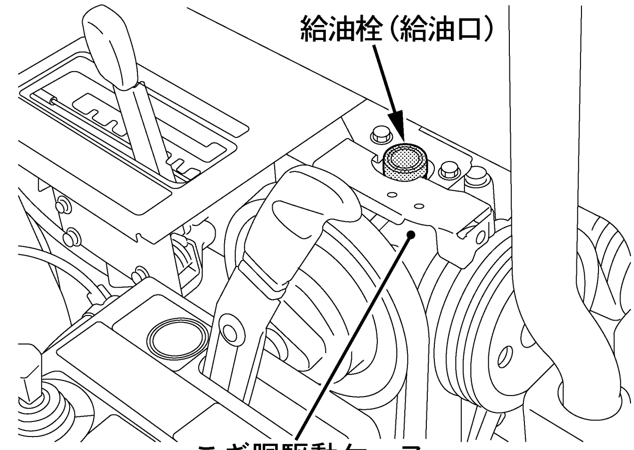


1ARADBIAP131A

6. オイルを補給後は逆の手順でカバーを取付けます。
7. **[G 仕様]** はグレンタンクを閉じます。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



1ARADBIAP132A

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.15L

■各部のグリース

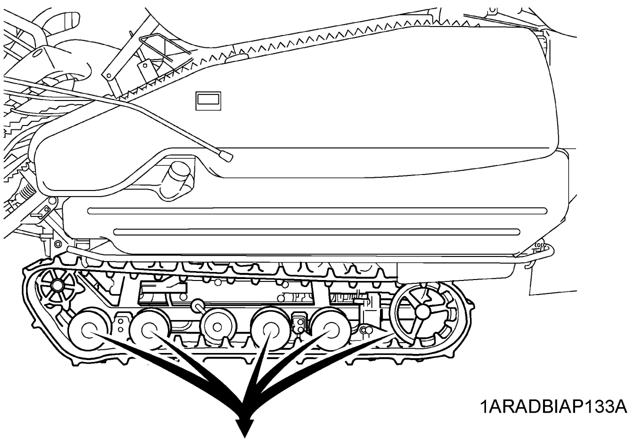
クボタ純グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。

◆ 転輪・後輪部（左，右５箇所）

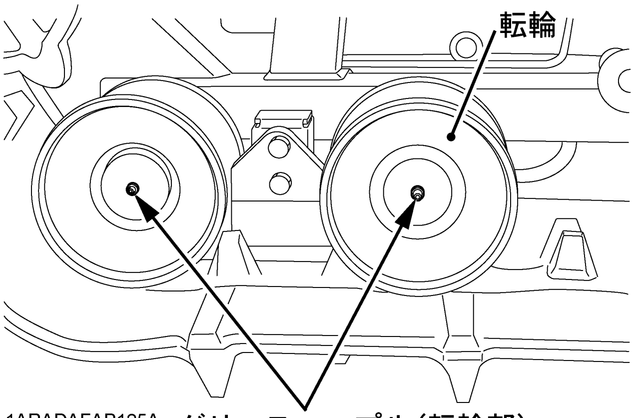
転輪部へのグリースアップを行なうときは，内側のオイルシールからグリースがはみ出るまで各転輪部のグリースニップルにグリースを補給してください。

補　足

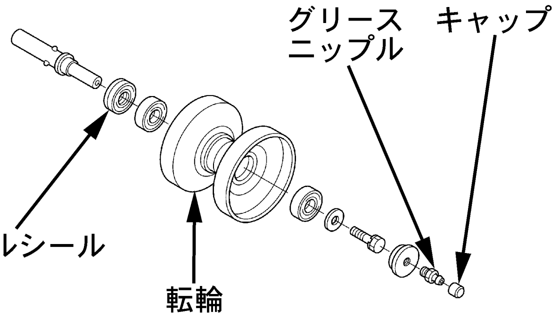
＊ 工場出荷時は，グリースを全容量の 50％封入しています。
＊ グリース注入後は，グリースニップルのキャップを必ず取付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。



1ARADBIAP133A



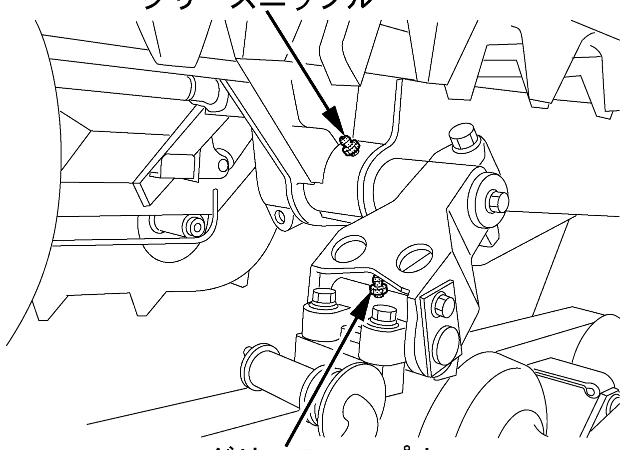
1ARADAFAP125A



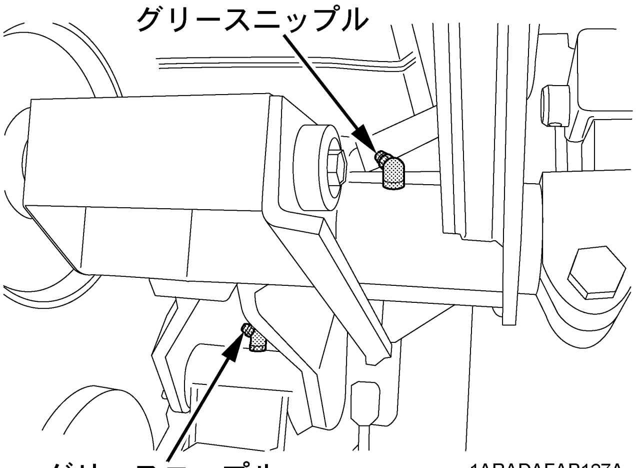
1ARADAFAP480A

［M 仕様右側］

◆ スイングアーム部（右４箇所）



1ARADAFAP126A

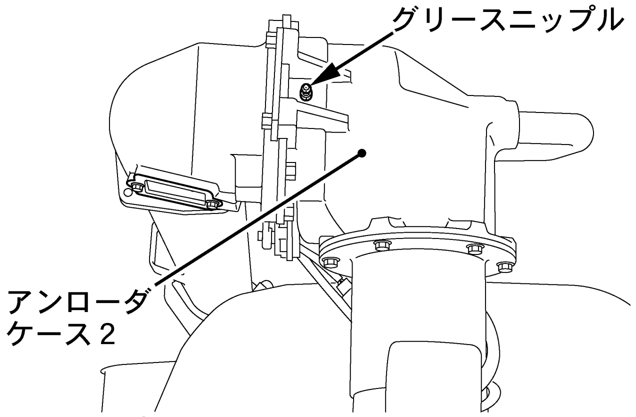


1ARADAFAP127A

［M 仕様右側］

◆ アンローダ部

[G 仕様]



1ARADBIAP014C

[G 仕様]

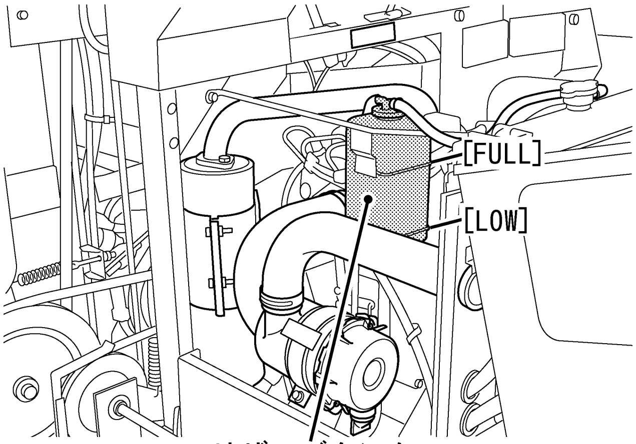
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

- ＊ **ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。**
- ＊ **異なるメーカの不凍液を混用しないでください。**

◆ 点検

エンジンルームをオープンしたあと，リザーブタンク水量が **[LOW]**（下限）と **[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。点検・補給後は，リザーブタンクのキャップを取付けたあと，エンジンルームを閉じてください。



1ARADBIAP008B

重　要

＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

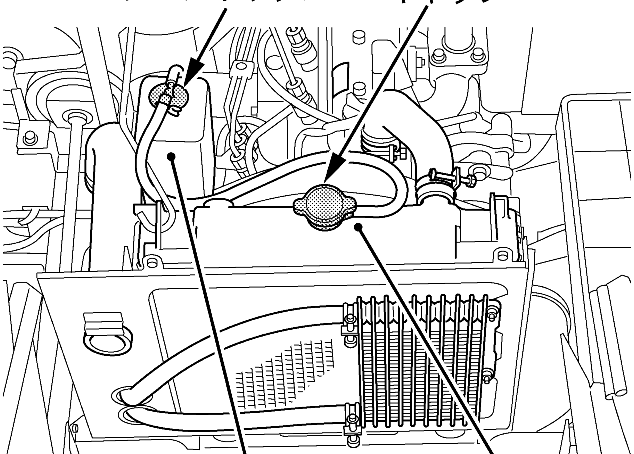
補　足

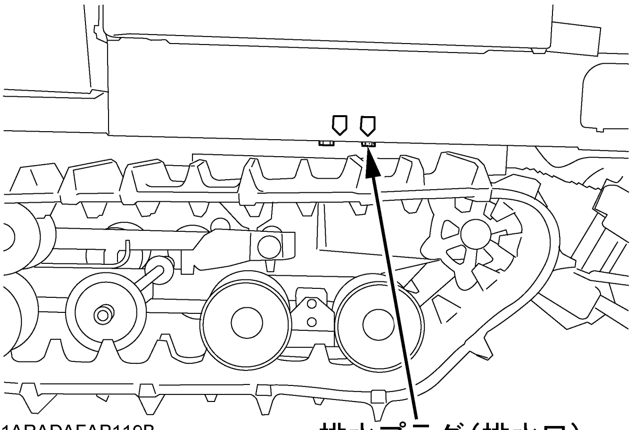
＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

＊ **[FULL]**（上限）で約 0.25L です。

◆ **交換**

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。





4. 排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

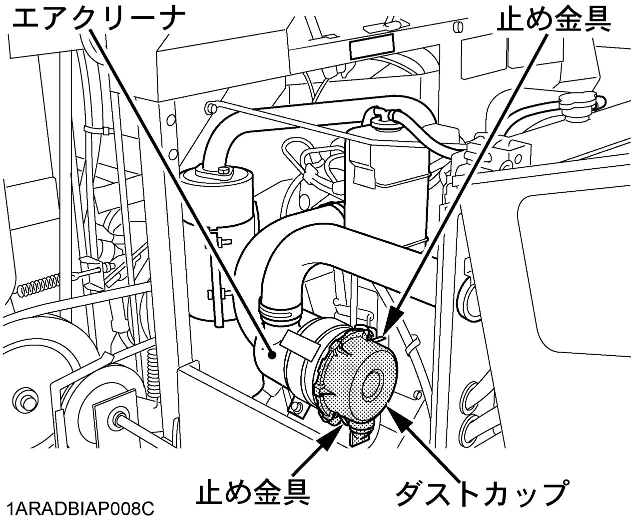
外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準　不凍液35％（北海道[H]向け:50％）
※ ラジエータ容量：3.3L
（リザーブタンク容量は含まない）
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

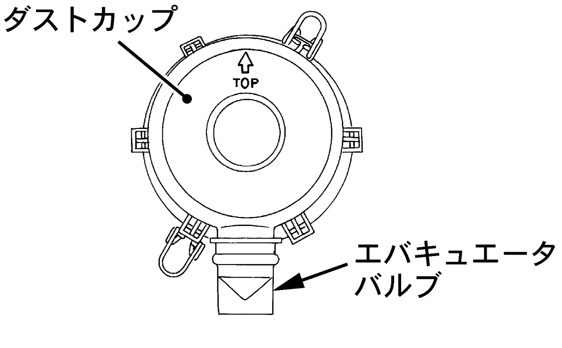
5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エンジンルームをオープンしたあと，上，下２箇所の止め金具を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはエバキュエータバルブをつまんで取除いてください。



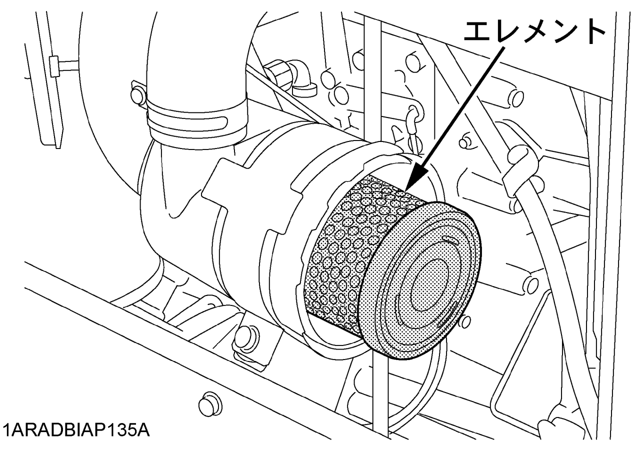
1ARADBIAP008C



1ARADAKAP093A

◆ 点検・掃除・交換

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってごみを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは,交換してください。

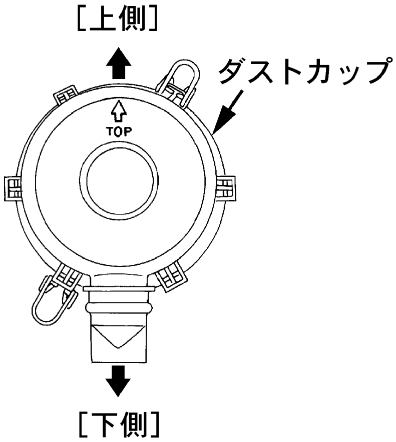


1ARADBIAP135A

点検・掃除・交換を行なったあと，エンジンルームを閉じてください。

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり，かたい物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。
＊ ダストカップを取付けるときは，傾かないように取付けてください。傾いた状態で取付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。



1ARADAKAP093B

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

■パイプ･ホース類の点検･交換

注 意

* **運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。**
* **燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。**

◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

* オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
* 油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

◆ 交換

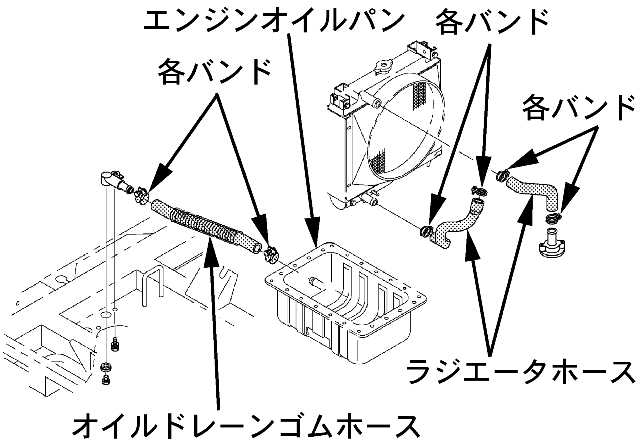
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

重 要

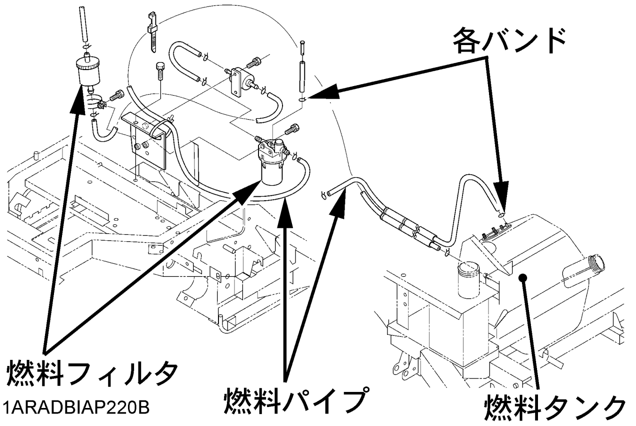
* 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補 足

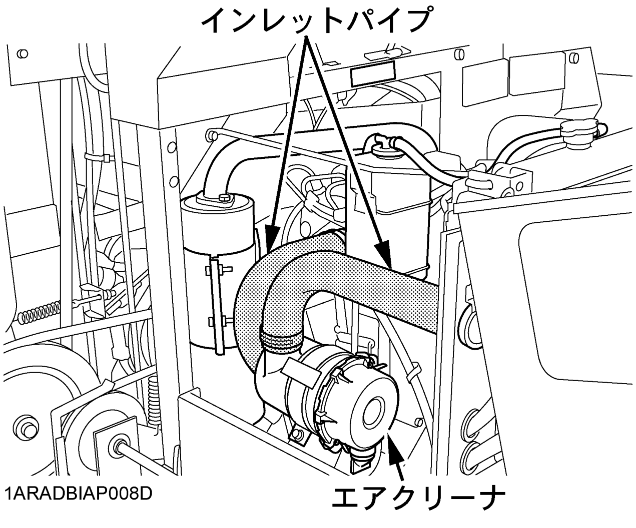
* 交換を行なうときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。
* 燃料パイプ交換後は，メインスイッチのキーを【入】位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。



1ARADAFAP243A



1ARADBIAP220B

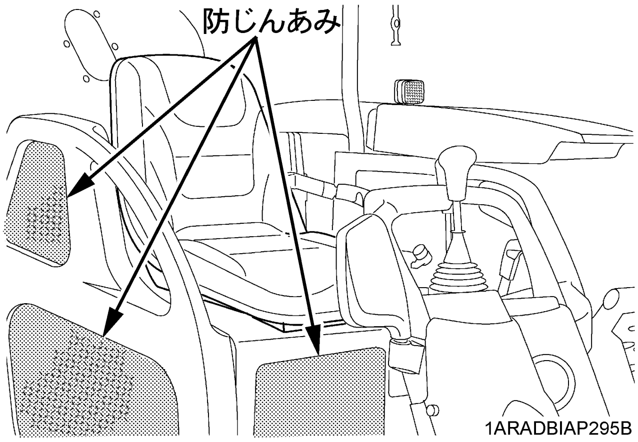


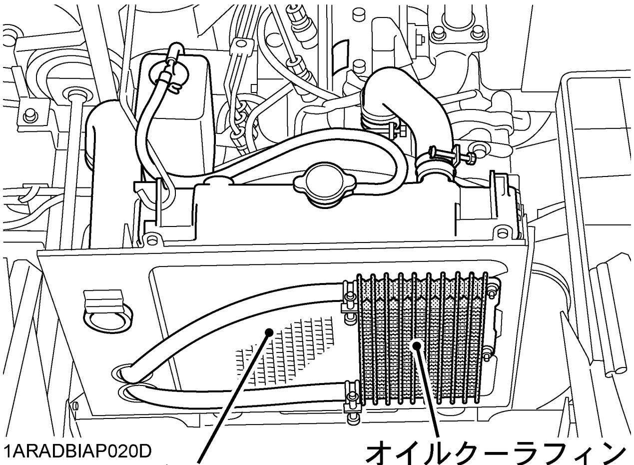
1ARADBIAP008D

■防じんあみ，ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除

◆ 掃除

エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

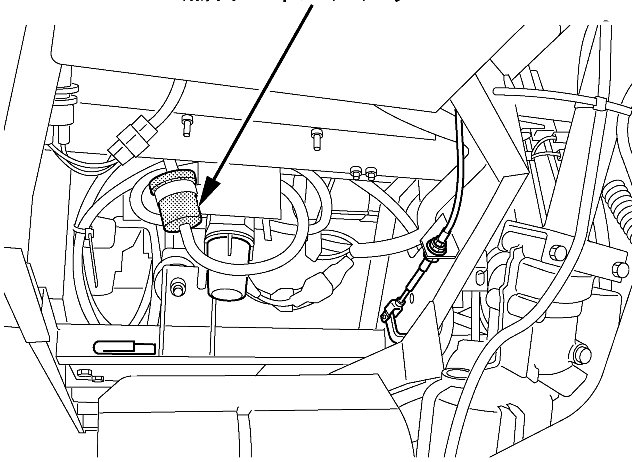
補　足

＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

■燃料フィルタアッシの交換

◆ 交換

運転時間が200時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシはステップの下側にあります。



重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。

＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると約30秒で自動的にエア抜きされます。

■燃料フィルタの掃除，フィルタエレメントの交換

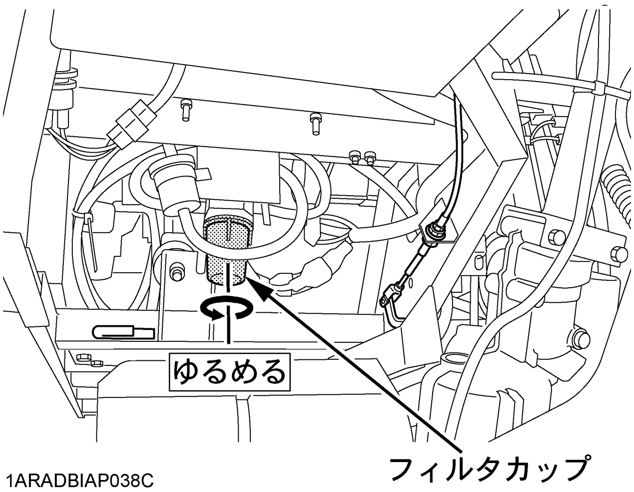
フィルタの掃除やエレメントの交換を行なうときは，燃料タンク内の燃料が半分以下になってから行なってください。燃料が半分以上あるときに，フィルタカップを取外すと燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流することがあります。
また，燃料フィルタはステップ下側にありますのでステップを取外してください。

◆ 掃除・交換

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に掃除又は，交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

1. フィルタカップをゆるめて外します。

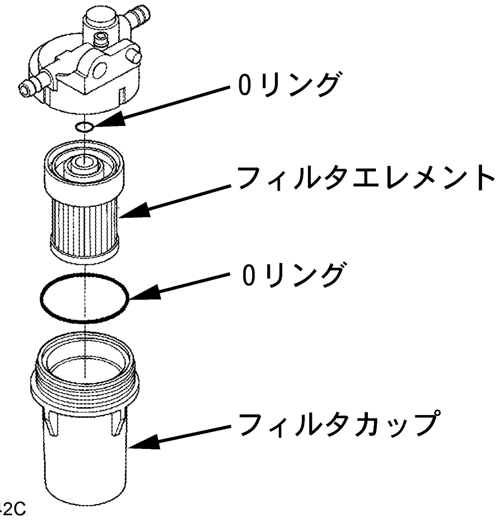


1ARADBIAP038C

重　要

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの燃料流出は自動的に止まります。

2. フィルタエレメントを取出して**軽油**で 0 リングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が 400 時間経過しているときは交換してください。



1ARADAFAP242C

重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

3. 0 リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ 0 リングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ ゴミが燃料内に混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

補　足

＊ 掃除又は，交換後は，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

２回目のエンジンオイルの交換(149 ページ参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

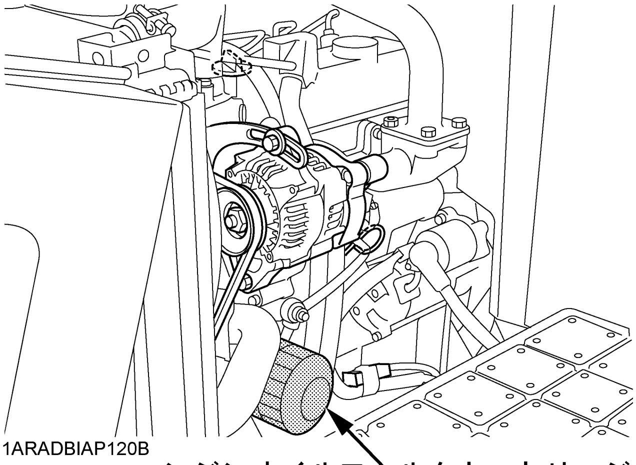
◆ 交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは O リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■ミッション・HST オイルフィルタカートリッジの交換

⚠ 警　告

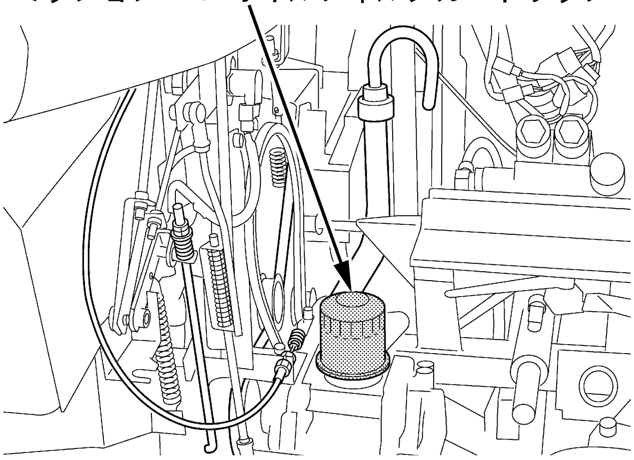
＊ 刈取部の開閉を行なうときは，平たんで安全な場所で，機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて行なってください。
＊ 傾斜地では，刈取部の開閉は行なわないでください。
＊ 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は，枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
＊ 刈取部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
＊ 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

1. 刈取オープンをします。(94 ページ参照)
2. ミッションオイルを排出します。(150 ページ参照)
3. 専用工具を使ってミッション･HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。
＊ ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取外すとき，少しゆるめたあと，左・右に４～５回程度動かして，オイル抜きを行なってください。

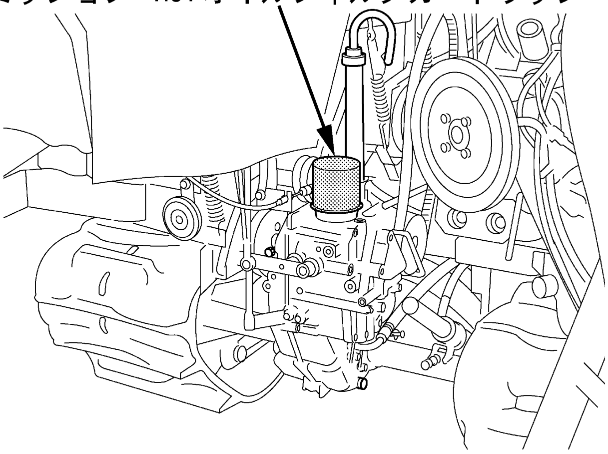
[219・222]



1ARADBIAP327B

[219・222]

[320・323]



1ARADBIAP322B

[320・323]

4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

5. 150 ページを参照し，オイルを規定量給油します。

重 要

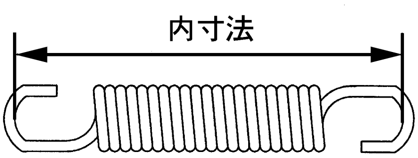
* 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
* オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションや HST の故障の原因となります。
* 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

6. 刈取部を閉じます。

■各部ワイヤ・ロッドの点検・調整

補 足

* スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



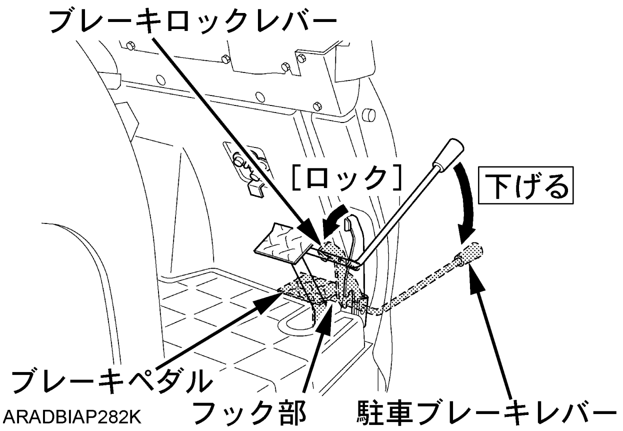
1ARADAFAP214A

■駐車ブレーキ

⚠ 警告
＊ 刈取オープンを行なうときは，平たんな場所で機体を最下降位置にしてください。

圧縮スプリングの長さを31～33㎜に調整します。

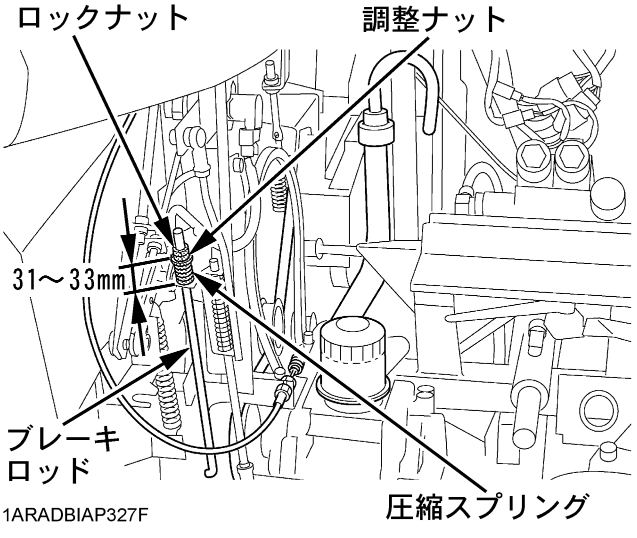
1. 刈取オープンをします。(94 ページ参照)
2. 駐車ブレーキを掛けます。



1ARADBIAP282K

3. レバーガイドシートをオープンします。(105 ページ参照)
4. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
5. ロックナットを締付けます。

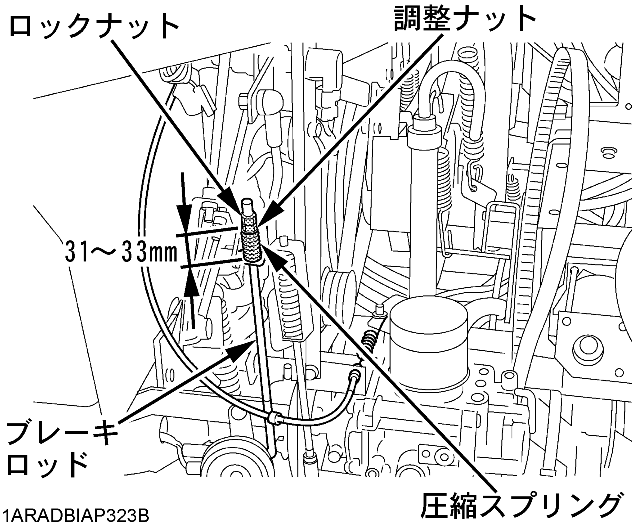
[219・222]



1ARADBIAP327F

[219・222]

[320・323]



1ARADBIAP323B

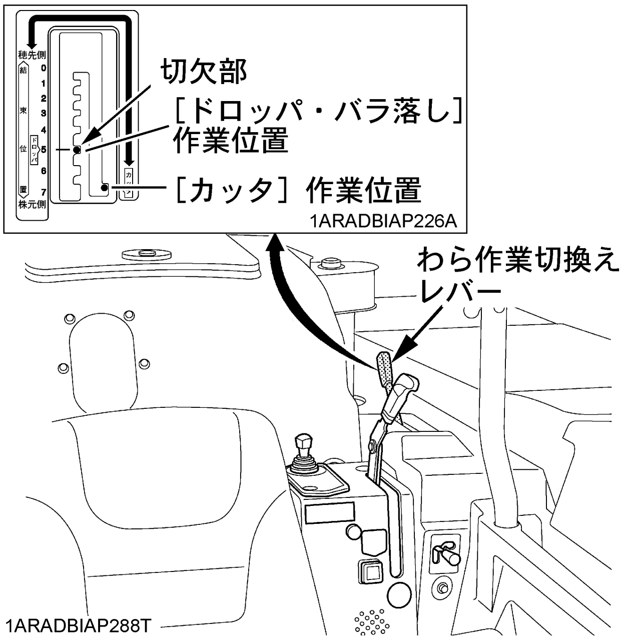
[320・323]

6. 駐車ブレーキを解除します。
7. レバーガイドシートを降ろしたあと，コードバンドで固定します。
8. 刈取部を閉じます。
9. 調整後，駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。

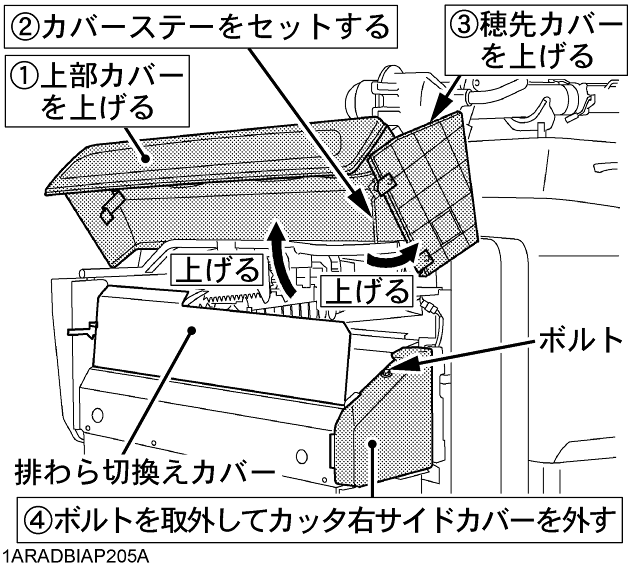
■排わら切換えワイヤ

わら作業切換えレバーを［カッタ］作業位置にしたときカッタ切換えカバーが内側へ傾いているときは，排わら切換えカバーの開閉ワイヤを張ってください。

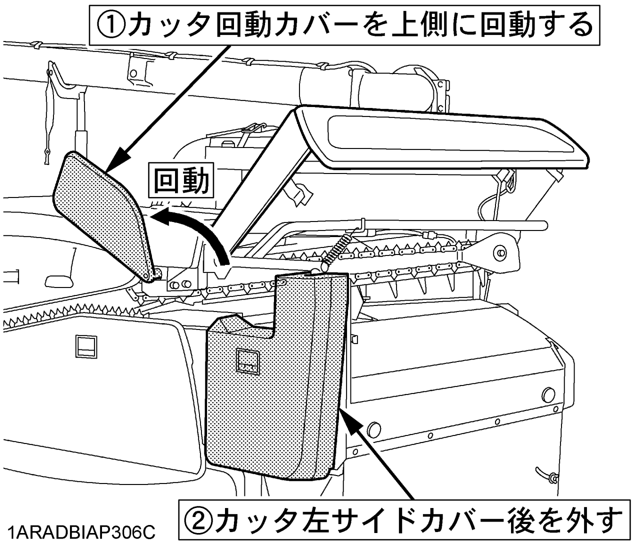
1. わら作業切換えレバーを［カッタ］作業位置にします。



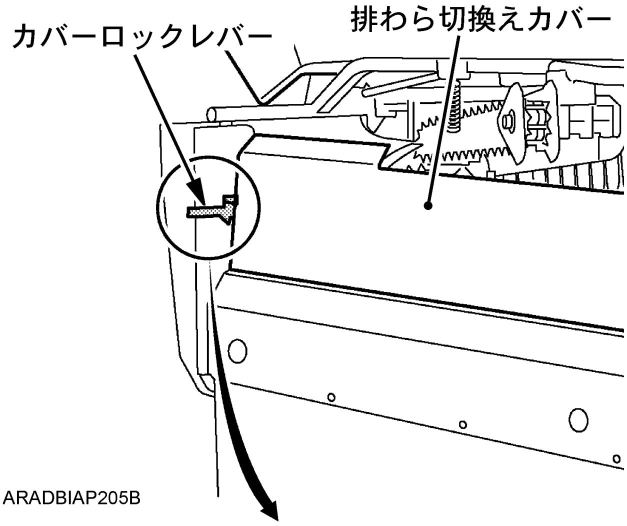
2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。



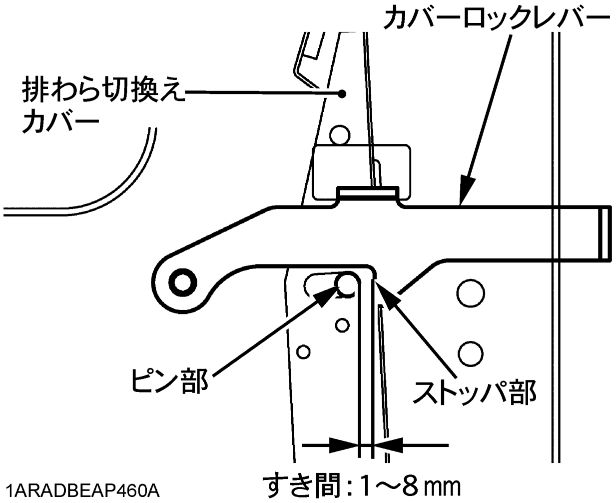
3. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。



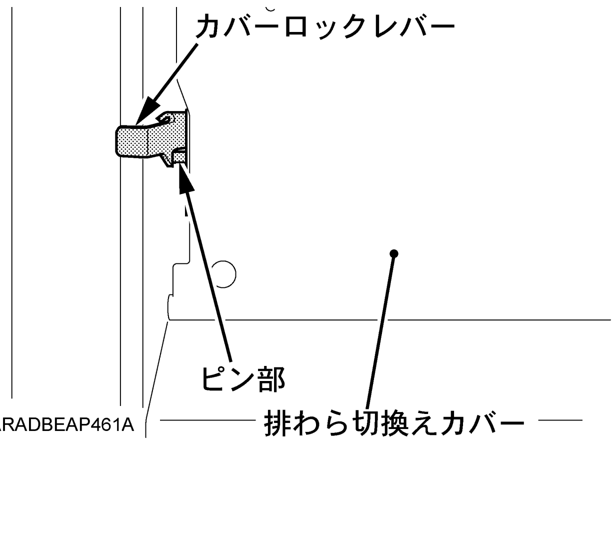
4. 排わら切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。



1ARADBIAP205B

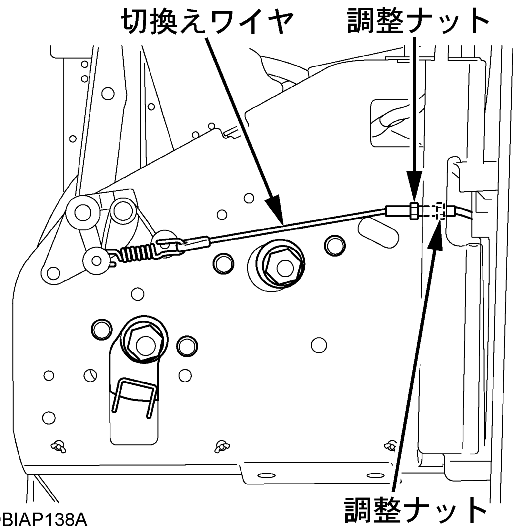


1ARADBEAP460A



1ARADBEAP461A

5. すき間が８㎜以上あるときは，すき間を１～８㎜の範囲に調整します。
(1) わら作業切換えレバーを**［ドロッパ・バラ落とし］**作業位置にしていったん排わら切換えカバーを閉じます。
(2) 調整ナット２箇所をゆるめます。
(3) 再度わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にします。
(4) ピン部とストッパ部のすき間を１～８㎜に調整ナットでワイヤを張ります。
(5) 調整ナット２箇所を締付けます。



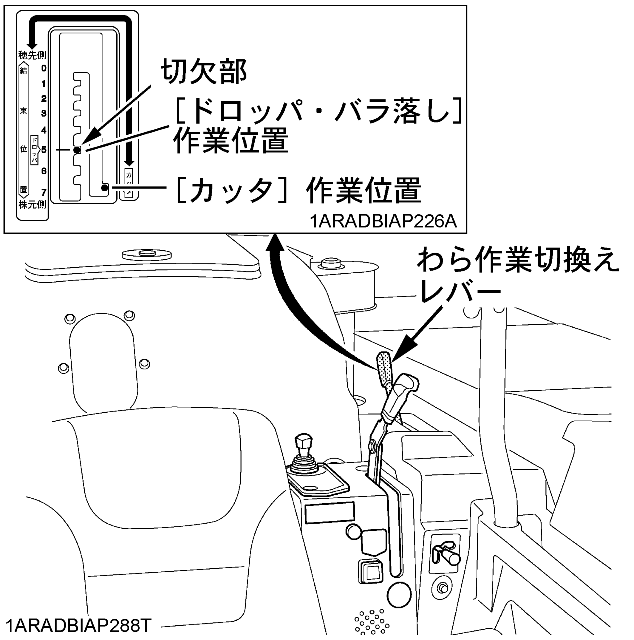
1ARADBIAP138A

6. カッタ右サイドカバー及びカッタ左サイドカバー後を取付けたあと，カッタ回動カバーを降ろします。
7. 上部カバーと穂先カバーを閉じます。

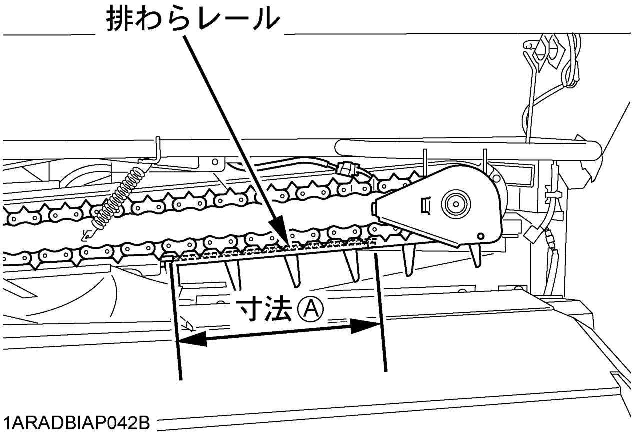
■排わらレールの点検・調整

わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業位置にしたとき，カッタ上部排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を260～295mmに調整します。

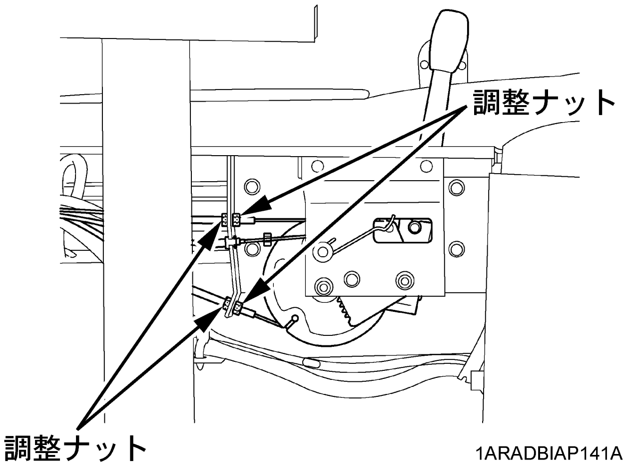
1. わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業位置にします。



2. 下図の出代の寸法Ⓐを測定します。



3. グレンタンクをオープンします。**［G仕様］**
4. 寸法Ⓐが規定値（260 ～ 295mm）から外れているときは１番縦スクリュ後部にある２箇所の調整ナットで調整します。調整ナットをゆるめて調整を行ない，調整後は調整ナットを締付けます。

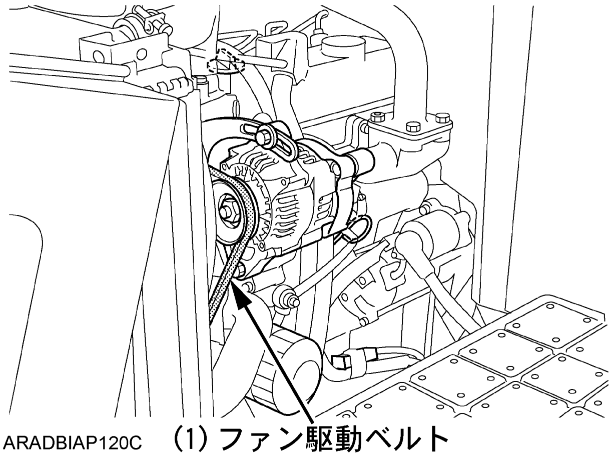


5. グレンタンクを閉じます。**［G仕様］**

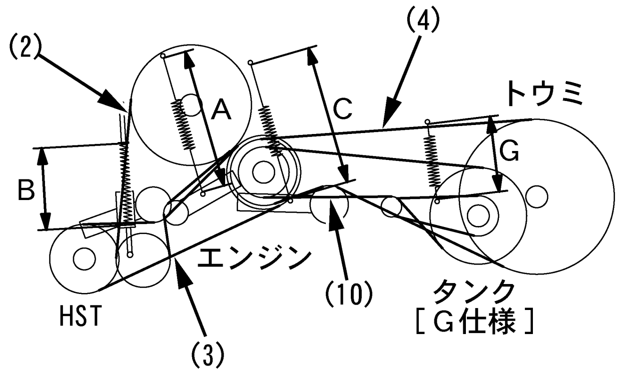
■各部ベルトの点検･調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						※テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
運転席・刈取部周辺	（1）	ファン駆動ベルト	［全機種］	37ブイベルト	1	－	－	5 ～ 10
	（2）	刈取駆動ベルト	［219・222］	特A37	1	A	242 ～ 248	－
			［320・323］	特B44（コグ）			252 ～ 258	－
	（3）	走行（ミッション）駆動ベルト	［全機種］	特B45	1	B	147 ～ 153	－
	（4）	脱こく駆動ベルト	［219・222］	特C60	1	C	257 ～ 263	－
			［320］	特C67				
			［323］	特C66				
	（5）	補助搬送（突起付）ベルト	［219・222］	－	2	－		3 ～ 6
			［320・323］		3			5 ～ 10
脱こく部・カッタ部周辺	（6）	こぎ胴ケース駆動ベルト	［全機種］	特C84	1	D	116 ～ 126	－
	（7）	こぎ胴駆動ベルト	［219・222］	特C50	1	E	125 ～ 135	－
			［320・323］	特B50	2			
	（8）	1番・2番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	［全機種］	特B120	1	F	119 ～ 129	－
	（9）	カッタ駆動ベルト	［全機種］	特B47	1	スプリングの掛け換え		－
グレンタンク部	（10）	グレンタンク駆動ベルト	［G仕様］	特A47	1	G	142 ～ 148	－

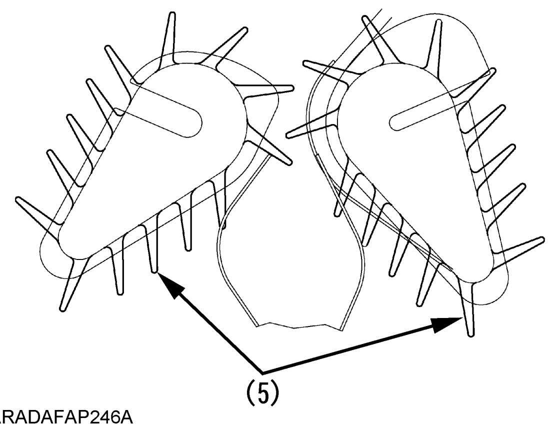


1ARADBIAP120C



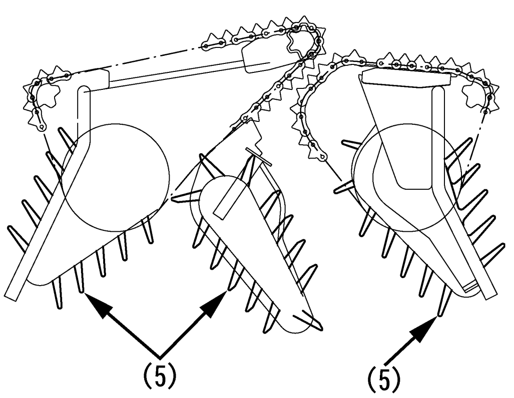
1ARADAFAP245A

[219・222]



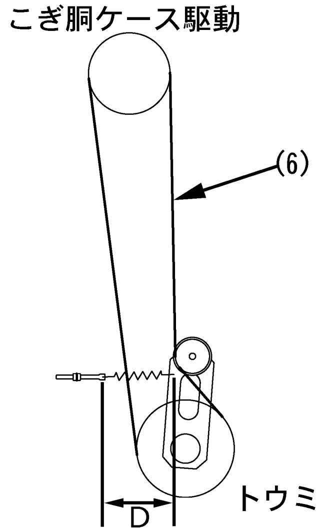
1ARADAFAP246A

[320・323]

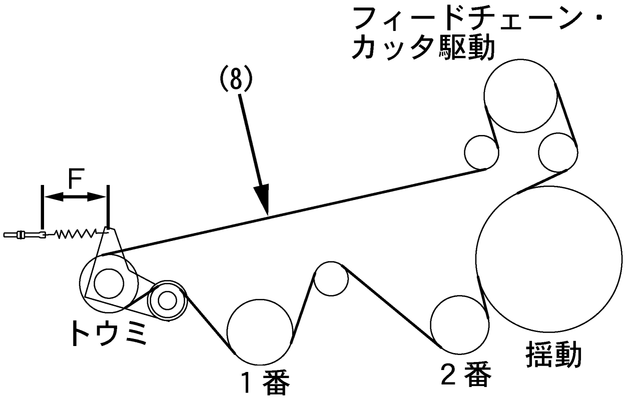


1ARADAFAP247A

[219・222]

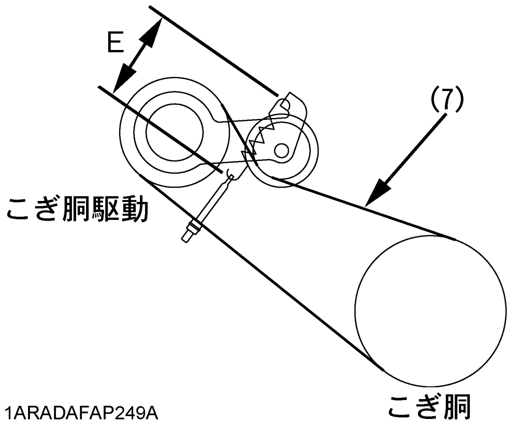


1ARADAFAP248A

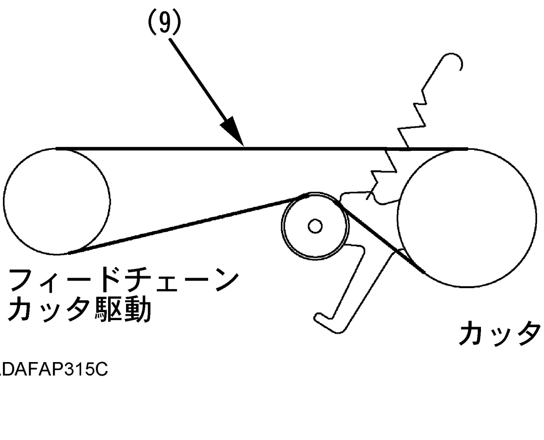


1ARADAFAP250A

[320・323]



1ARADAFAP249A

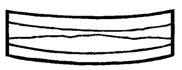
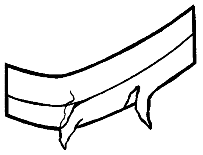
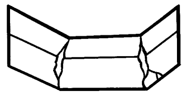


1ARADAFAP315C

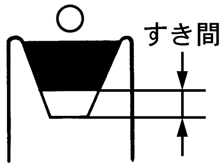
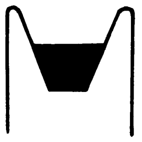
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

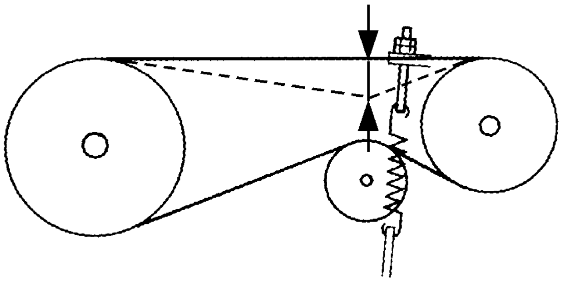
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

3. ベルトの伸び（たわみ量）



1AEADAFAP441A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

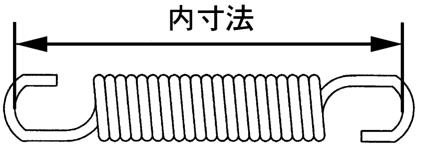
＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

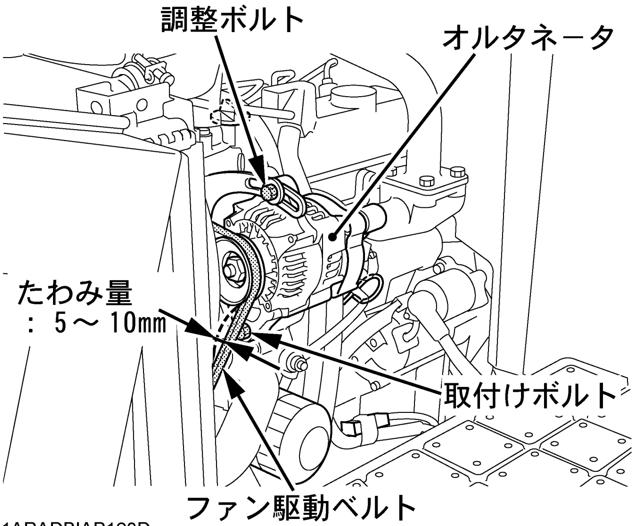
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



■ファン駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき(約60～70N｛6～7 kgf｝の荷重）のたわみ量を5～10㎜に調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



1ARADBIAP120D

5. エンジンルームを閉じます。

■走行（ミッション）駆動ベルト

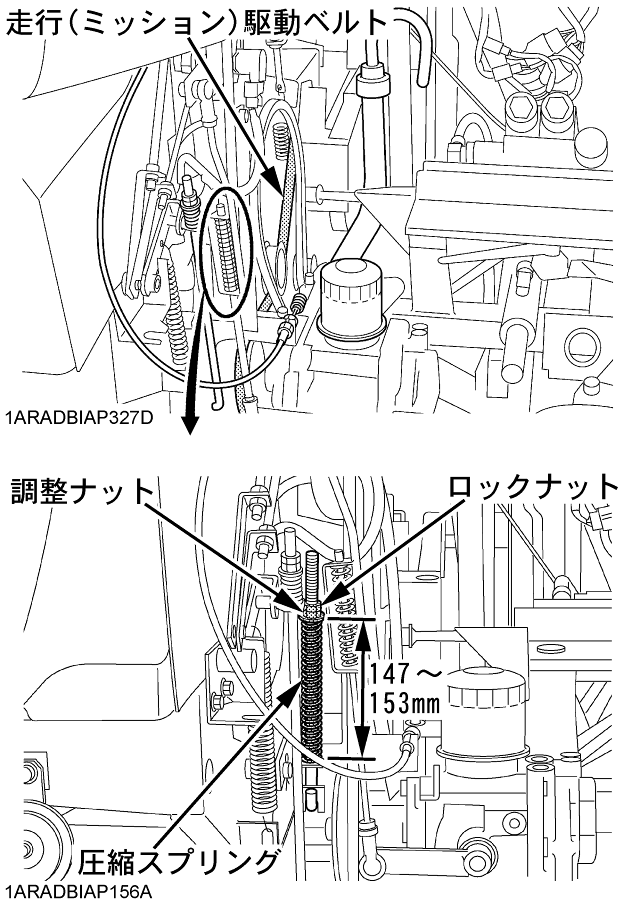
警告

＊ 刈取オープンを行なうときは，平たんな場所で機体を最下降位置にしてください。

圧縮スプリングの長さを147～153㎜に調整します。

1. 刈取オープンをします。(94ページ参照)
2. レバーガイドシートをオープンします。(105ページ参照)
3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けます。

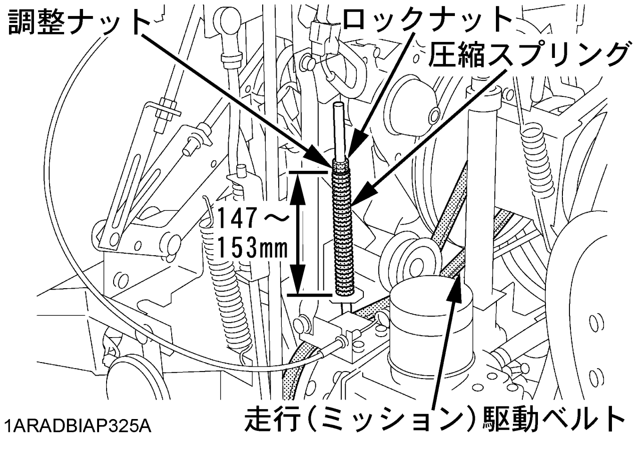
[219・222]



1ARADBIAP327D
1ARADBIAP156A

[219・222]

[320・323]



1ARADBIAP325A

[320・323]

5. レバーガイドシートを降ろしたあと，コードバンドで固定します。
6. 刈取部を閉じます。

■**刈取駆動ベルト**

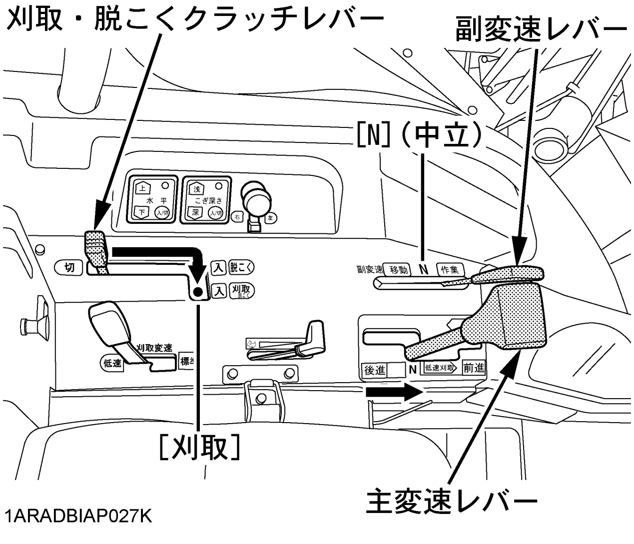
テンションスプリングの長さを **[219・222]** は 242 ～ 248mm，**[320・323]** は 252 ～ 258mm に調整します。

1. 刈取部を地面に接地するまで降ろします。
2. エンジンを停止したあと，メインスイッチのスイッチキーを **[入]** 位置にします。
3. 脱こく・刈取クラッチレバーを **[刈取]** 位置にします。
4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にしたあと，主変速レバーを**前進側**に操作してテンションスプリングを張ります。

補 足

＊ 主変速レバーが **[後進]** 又は，**[N]（中立）** 位置のときは，刈取駆動ベルトのテンションが張らないため，調整が行なえません。

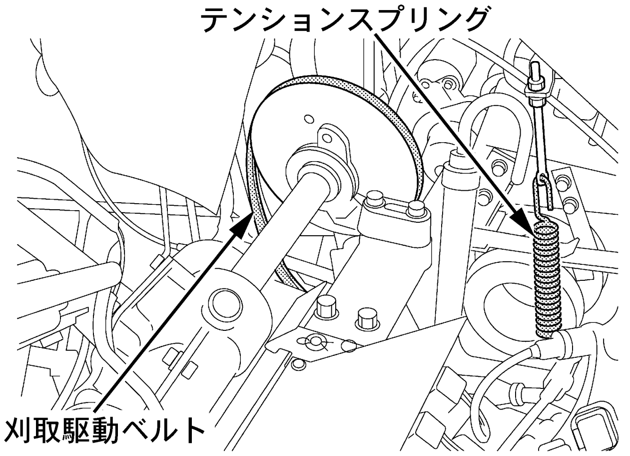
5. メインスイッチのスイッチキーを **[切]** 位置にします。



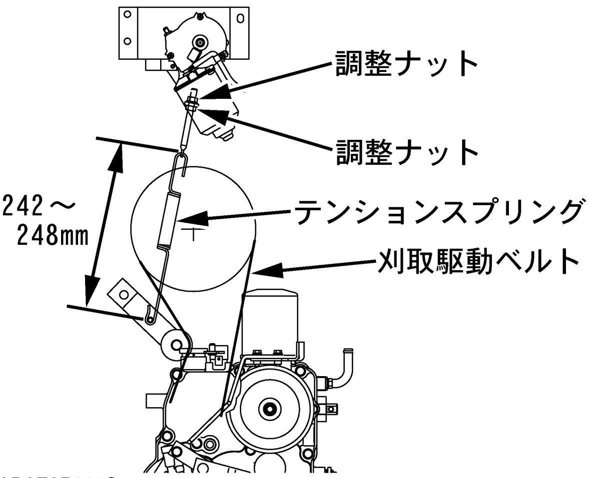
1ARADBIAP027K

[219・222]

6. エンジンルームを開いたあと，ステップ左側の側板を開きます。
7. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
8. 調整ナットを締付けたあと，側板を閉じてエンジンルームを閉じます。



1ARADBIAP326A ※イラストは刈取部側から見た状態

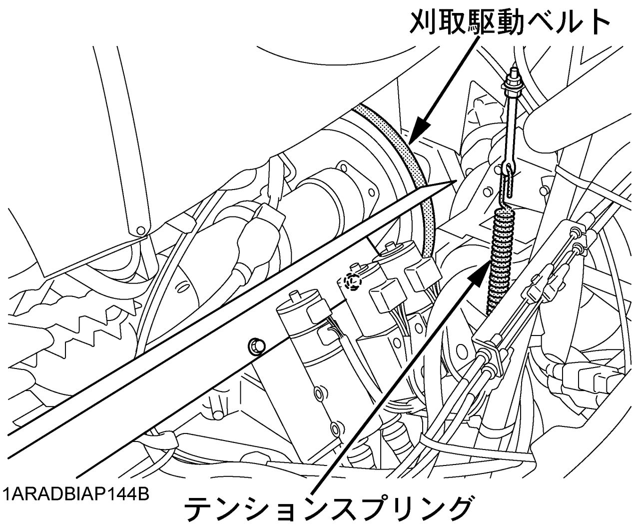


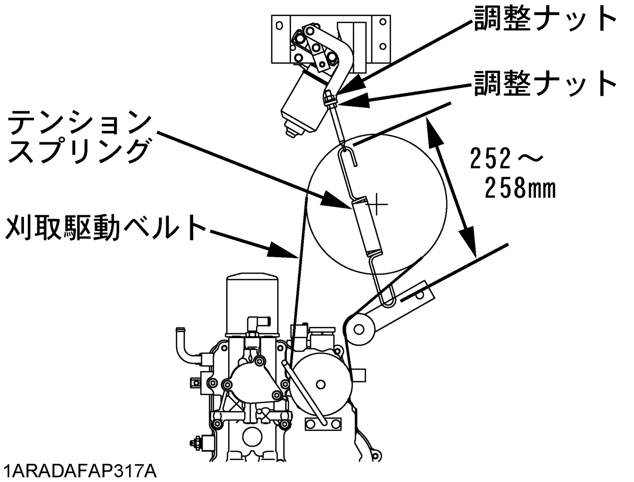
1ARADAFAP220C

[219・222]

[320・323]

6. 脱こく入口プレートを取外します。
   (94 ページ参照)
7. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
8. 調整ナットを締付けたあと，脱こく入口プレートを取付けます。





[320・323]

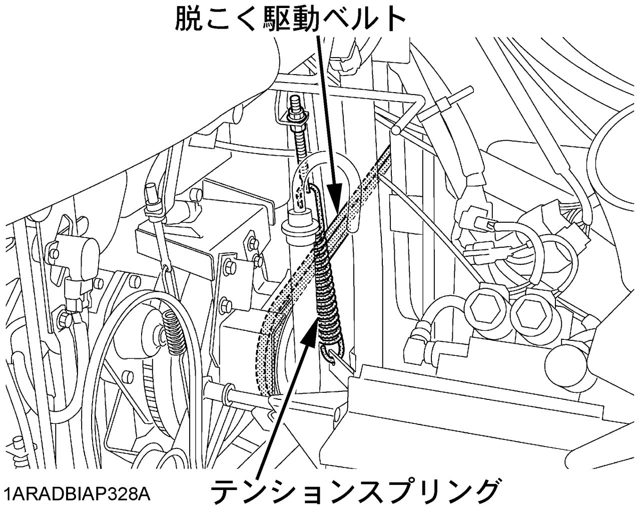
9. 主変速レバー **[N]（中立）** 位置にしたあと，脱こく･クラッチレバーを **[切]** 位置にします。

■脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 257～263mm に調整します。

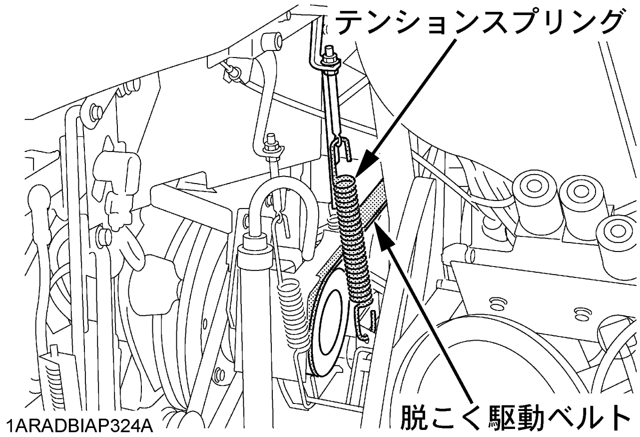
1. 刈取オープンをします。(94 ページ参照)
2. 刈取・脱こくクラッチレバーを **[脱こく]** 位置にします。
3. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈取部を閉じます。

[219・222]

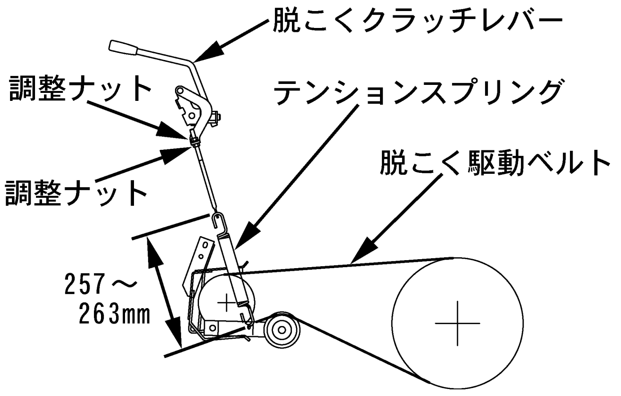


[219・222]

[320・323]



[320・323]

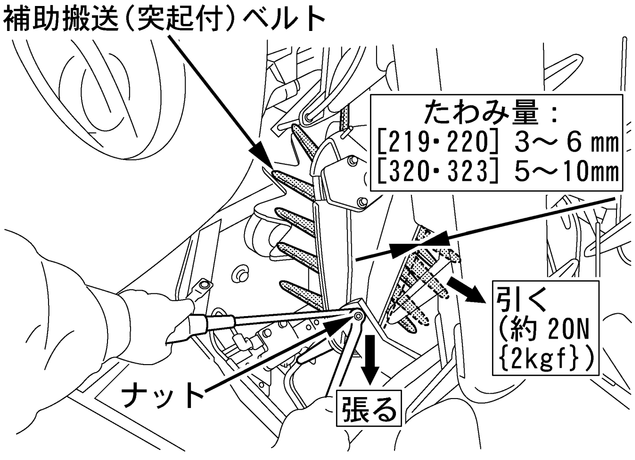


1ARADAFAP316A

■**補助搬送（突起付）ベルト**

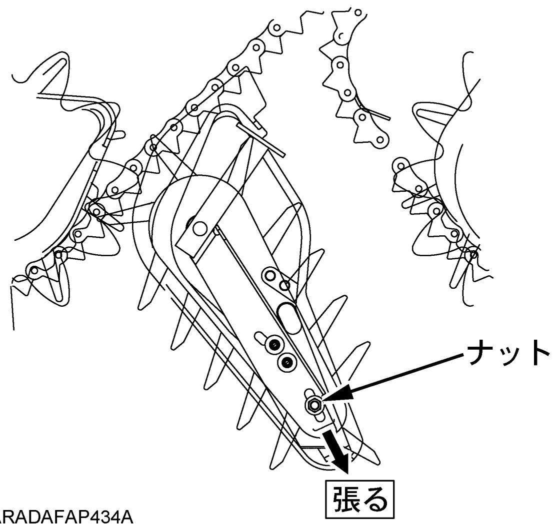
指先でベルトの中央部を引いたとき（約20N{ 2 kgf} の荷重）のたわみ量を **[219・220]** は3～6 mm, **[320・323]** は5～10mmに調整します。

1. 引起しサイドカバー右・左を取外します。
2. ナットをゆるめます。
3. 両端部は下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
4. **[320・323]** の中央部はナットを少しゆるめて，樹脂ハンマーなどでナット取付部を前方に少しずつ張りながらベルトの調整を行なったあとナットを締付けます。
5. 引起しサイドカバー右・左を取付けます。



1ARADBIAP139A
※イラストは 222

[320・323 中央部]



1ARADAFAP434A

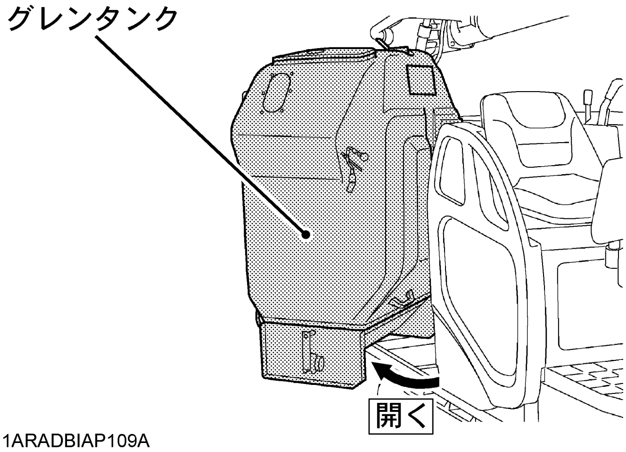
[320・323 中央部]

■こぎ胴ケース駆動ベルト

テンションスプリングの長さを116～126mmに調整します。

1. **［G仕様］**はグレンタンクオープンをします。**［ホッパ仕様］**はボルト４本を取外して，カバーを取外します。

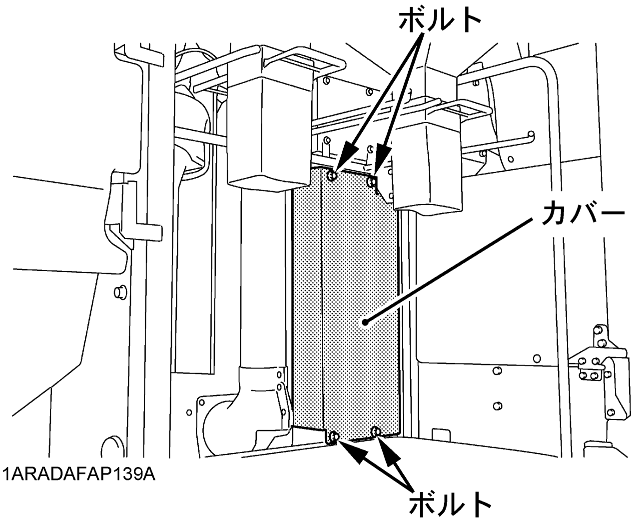
［G仕様］



1ARADBIAP109A

［G仕様］

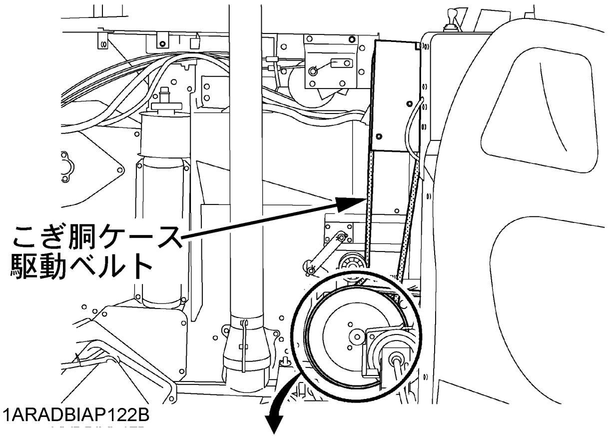
［ホッパ仕様］



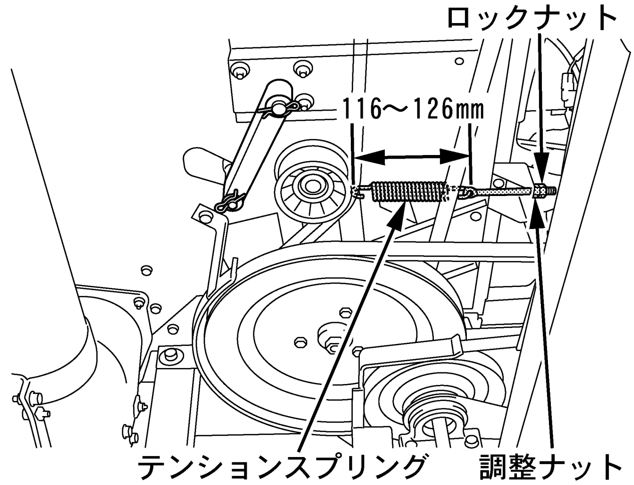
1ARADAFAP139A

［ホッパ仕様］

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，**［G仕様］**はグレンタンクを閉じ，**［ホッパ仕様］**はベルトカバーを取付けます。



1ARADBIAP122B

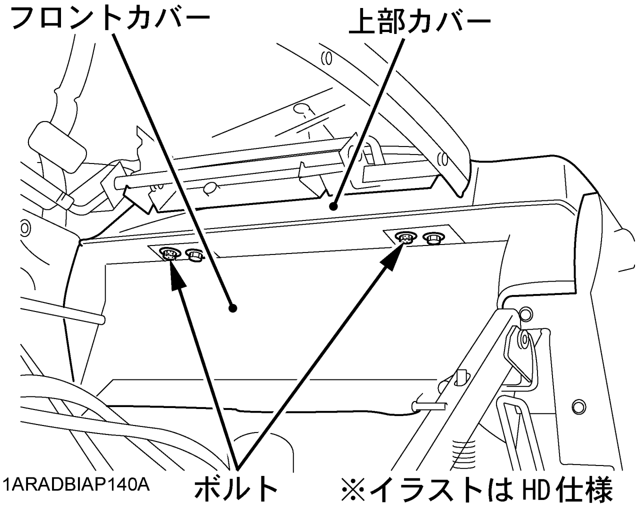


1ARADAFAP141A

■こぎ胴駆動ベルト

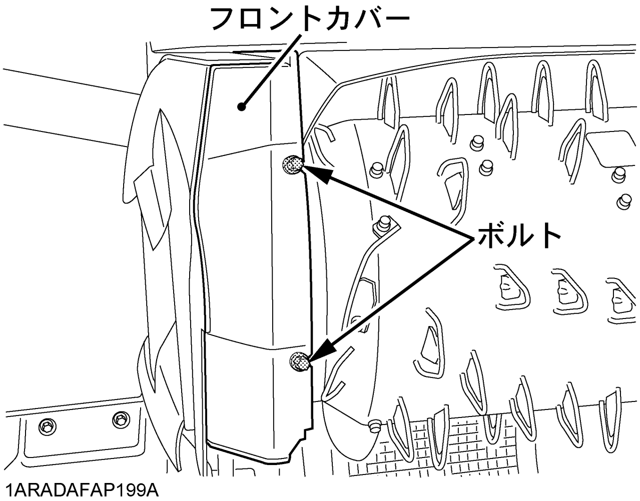
テンションスプリングの長さを125～135mmに調整します。

1. こぎ胴フロントカバーと上部カバーを取付けているボルト２本を取外します。



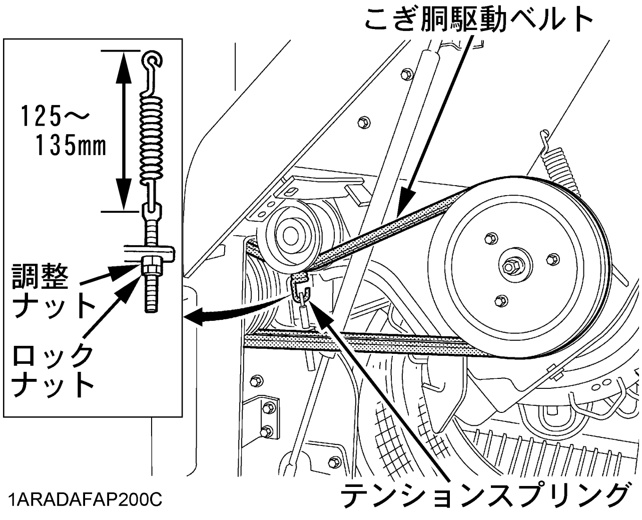
1ARADBIAP140A

2. こぎ胴をオープンしたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けているボルト２本をゆるめます。そのあと，フロントカバーを前方に取外します。



1ARADAFAP199A

3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。



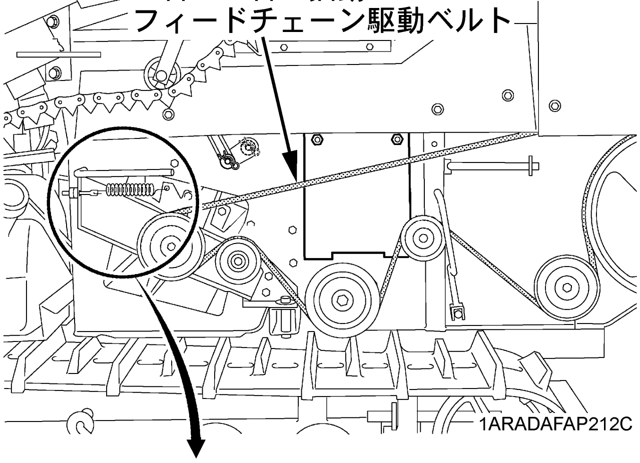
1ARADAFAP200C

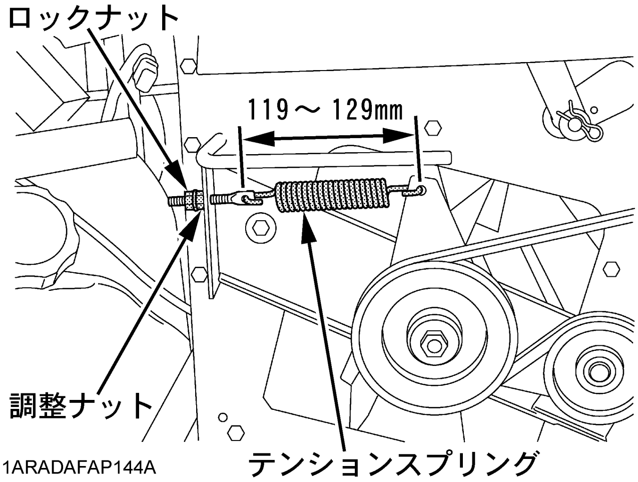
4. ロックナットを締付けたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けます。
5. こぎ胴を閉じます。

■１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト

テンションスプリングの長さを119～129㎜に調整します。

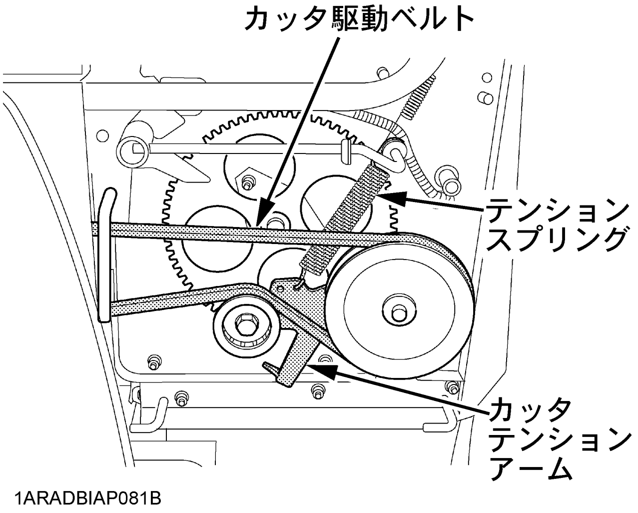
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。

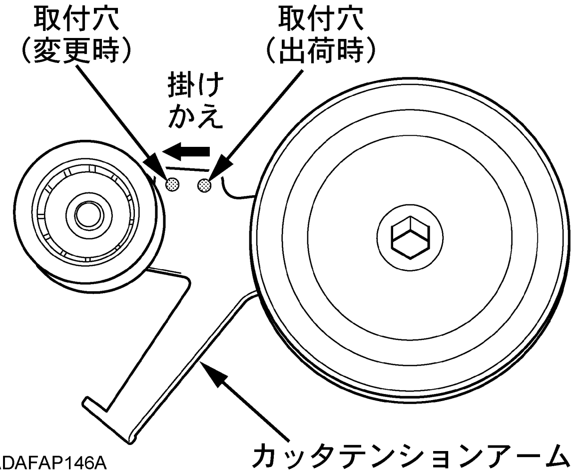




■カッタ駆動ベルト

ベルトの張りが弱いときは，テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）してください。





■グレンタンク駆動ベルト

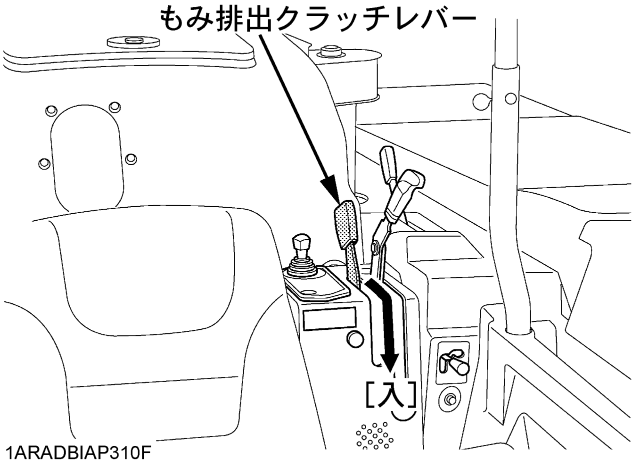
[G仕様]

テンションスプリングの長さを142～148㎜に調整します。

1. グレンタンクをオープンします。（118ページ参照）

【DX 仕様】

2. もみ排出クラッチレバーを【入】位置にします。

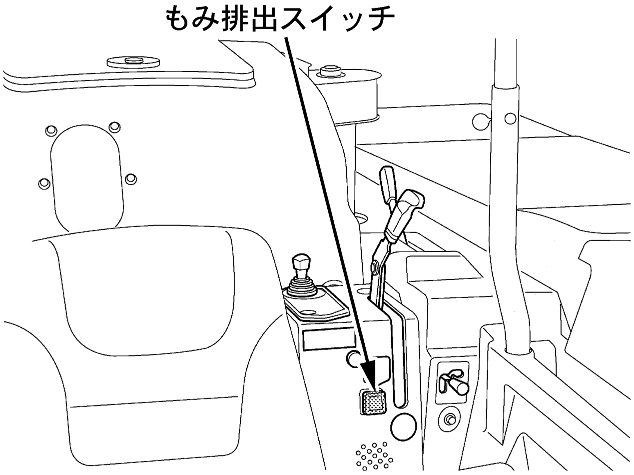


1ARADBIAP310F

【DX 仕様】

【HD 仕様】

2. メインスイッチのスイッチキーを【入】位置にし，もみ排出スイッチを押して【入】（ランプ点灯）位置にします。



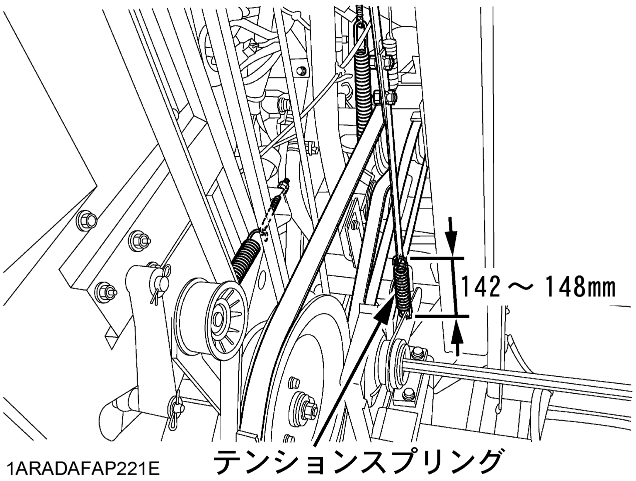
1ARADBIAP288U

補　足

＊ 調整が終わったあと，スイッチキーを【入】位置にすると，自動的にもみ排出スイッチは【切】（ランプ消灯）位置になります。

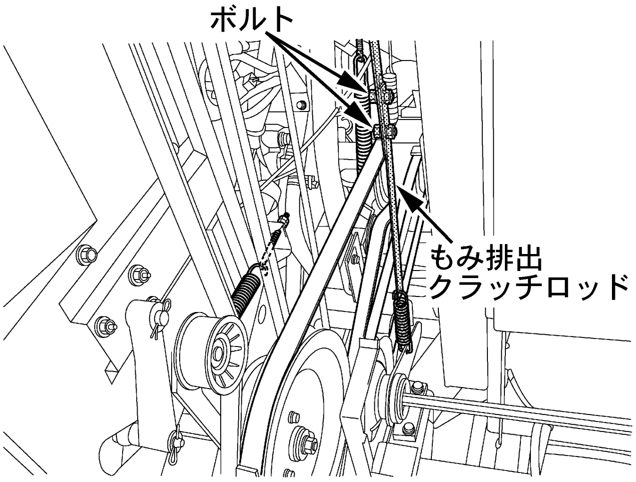
【HD 仕様】

3. テンションスプリングの長さを測定します。



1ARADAFAP221E

4. 規定値（142 ～ 148mm）から外れているときは，【DX 仕様】はもみ排出クラッチレバー，【HD 仕様】はもみ排出スイッチをいったん【切】位置にします。
5. もみ排出クラッチロッド中間位置にある２箇所のボルトをゆるめて，調整を行ないます。



1ARADAFAP221D

6. ２箇所のボルトを締付けたあと，【DX 仕様】はもみ排出クラッチレバー，【HD 仕様】はもみ排出スイッチを【入】位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。
7. グレンタンクを閉じます。

【G 仕様】

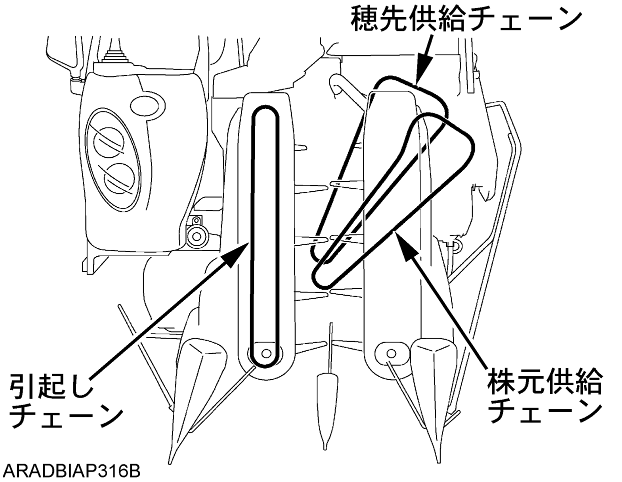
■各部チェーンの点検･調整

◆ 点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所

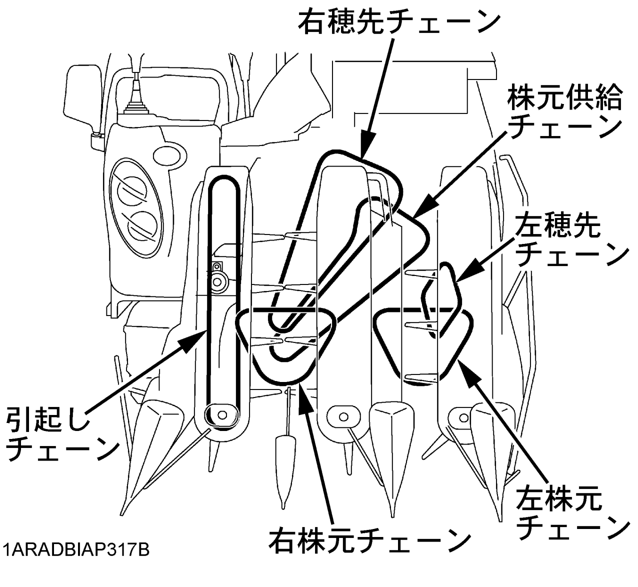
[219・222]



1ARADBIAP316B

[219・222]

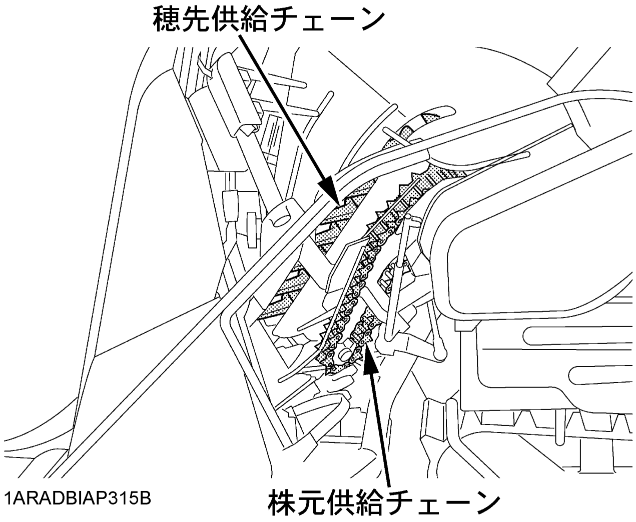
[320・323]



1ARADBIAP317B

[320・323]

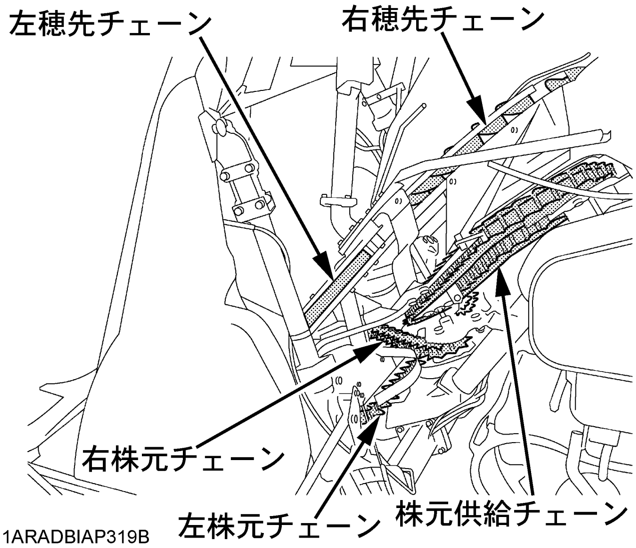
[219・222]



1ARADBIAP315B

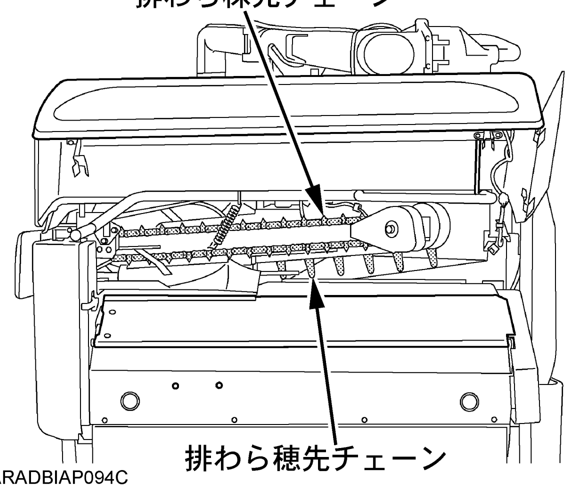
[219・222]

[320・323]

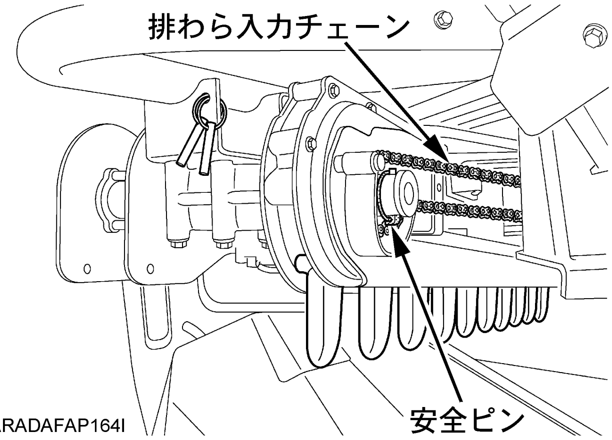


1ARADBIAP319B

[320・323]



1ARADBIAP094C



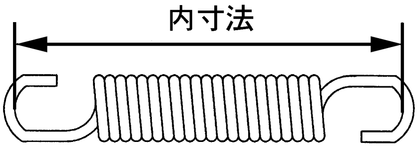
1ARADAFAP164I

◆ **調整**

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

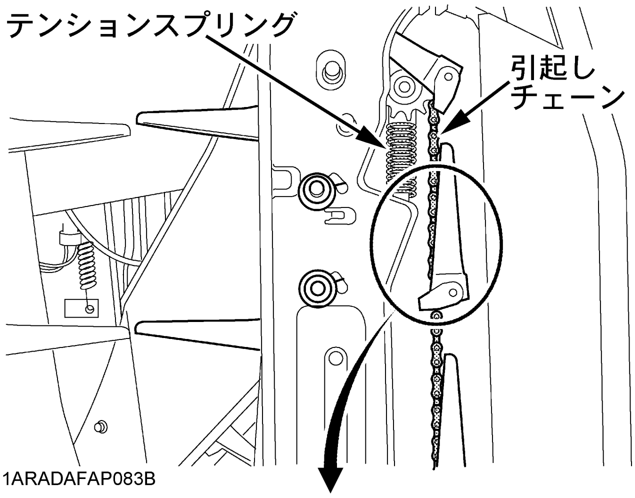
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



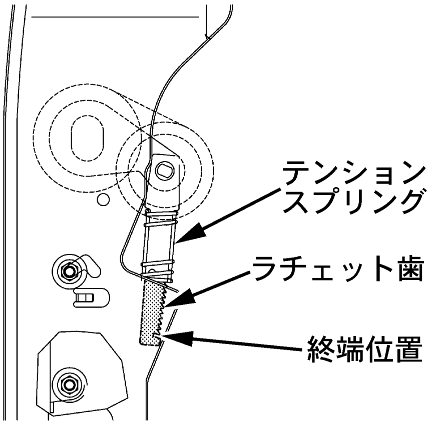
1ARADAFAP214B

■引起しチェーン

引起しチェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，ラチェット歯の終端位置までチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。点検するときは引起しカバーを取外してください。



1ARADAFAP083B



1ARADAFAP438A

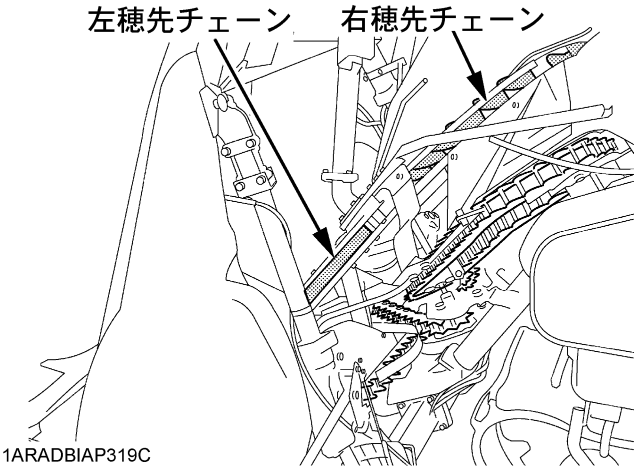
補　足

＊ チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ上昇します。

■左穂先チェーン・右穂先チェーン

[320・323]

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

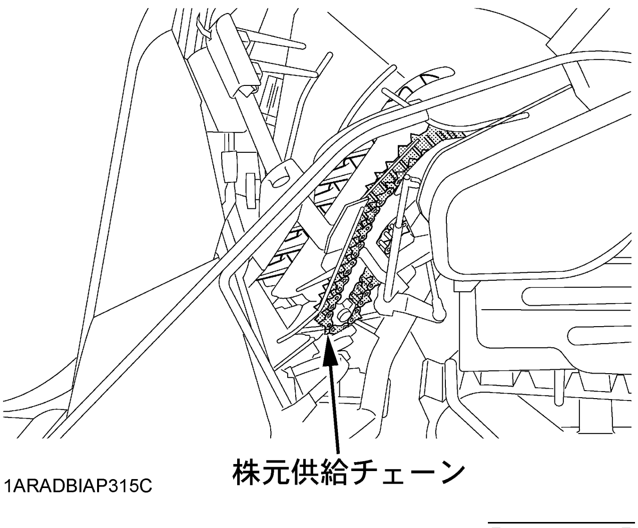


[320・323]

■株元供給チェーン

[219・222]

株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

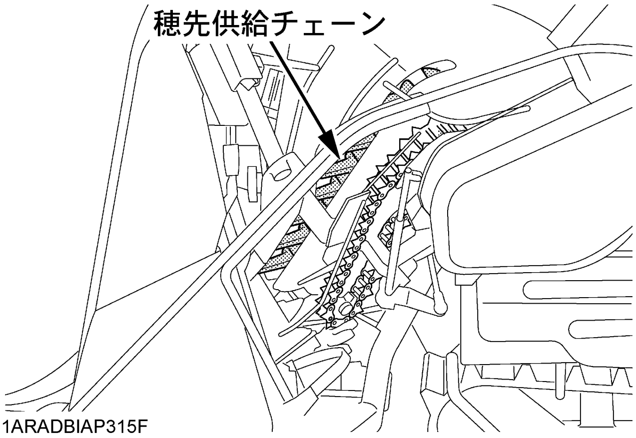


[219・222]

■穂先供給チェーン

[219・222]

穂先供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。点検を行なうときは，刈取部を左側にスライドしてください。

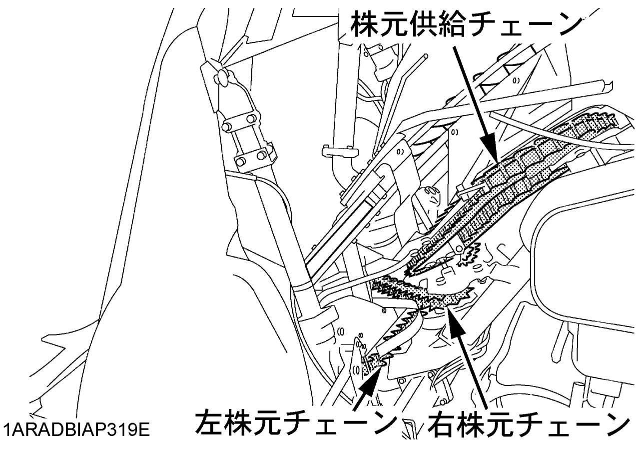


[219・222]

■左株元チェーン・右株元チェーン・株元供給チェーン

[320・323]

左，右株元チェーン，株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは購入先に連絡して修理を依頼してください。

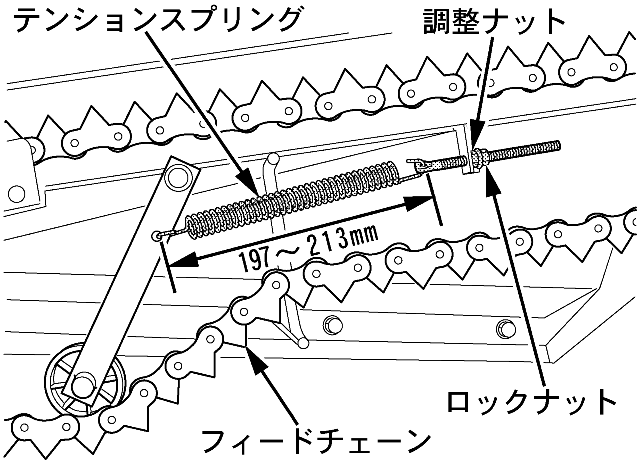


[320・323]

■フィードチェーン

テンションスプリングの長さを197～213mmに調整します。

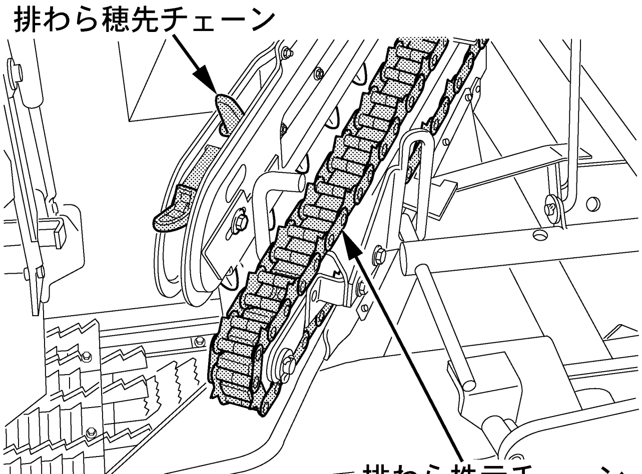
1. 左サイドカバー上を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。



1ARADAFAP165A

■排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン

排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

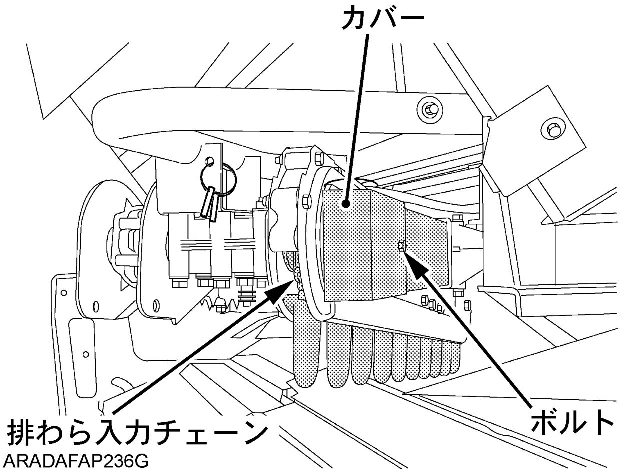


1ARADAFAP166B

■排わら入力チェーン

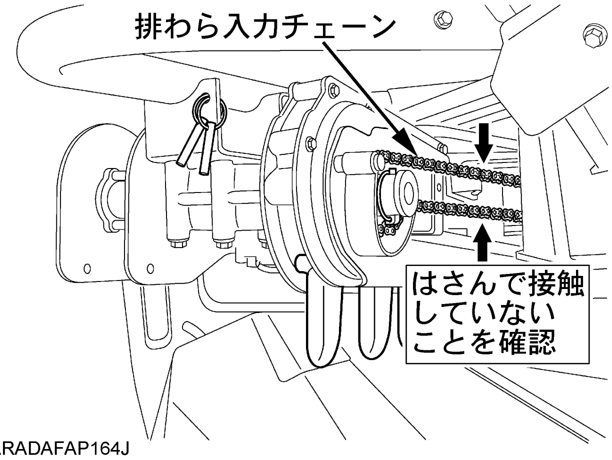
排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，指で上下のチェーンをはさむと接触するときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを外します。



1ARADAFAP236G

2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところをはさみ，入力チェーンの上側と下側が接触していないか確認します。



1ARADAFAP164J

3. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

[219・222]

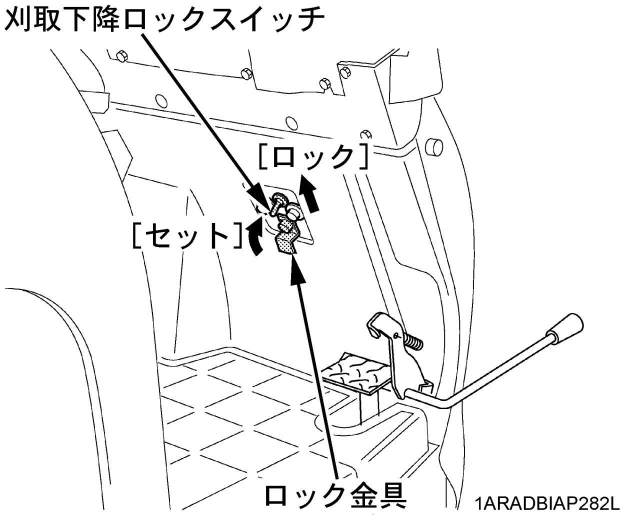
注　意

- **＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
- **＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **＊ 刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。**
- **＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。**

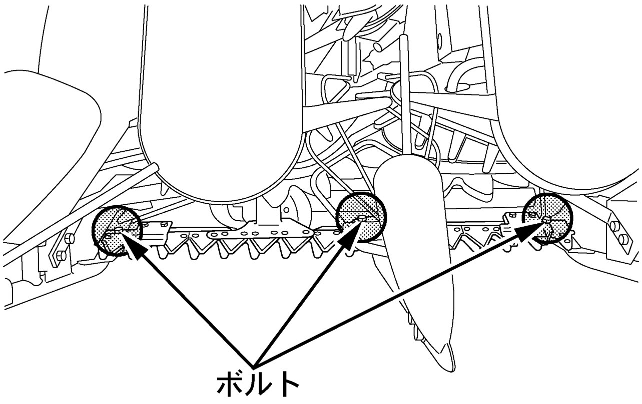
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検・取外し

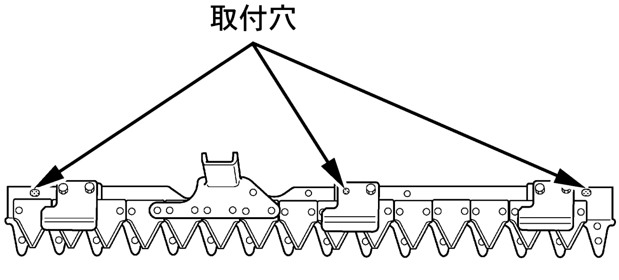
1. 刈取部を上げたあと刈取下降ロックスイッチを **［ロック］** 位置にし，ロック金具をセットして，解除防止を行なったあと，エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。



2. ボルト３本を取外して刈刃全体を外します。

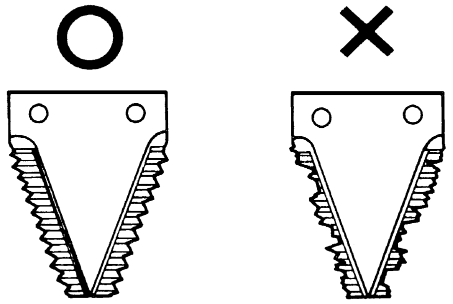


1ARADAFAP168A



1ARADAFAP167A

3. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



1ARADBEAP506A

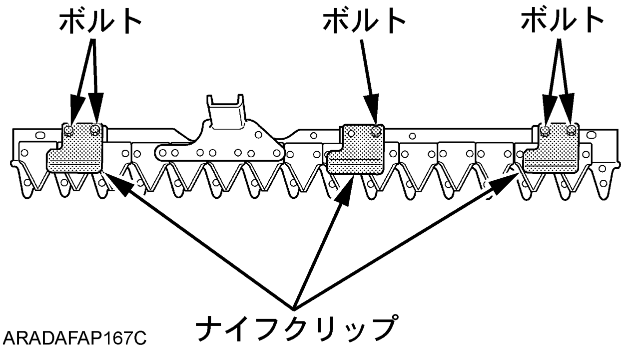
◆ **すき間調整**

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

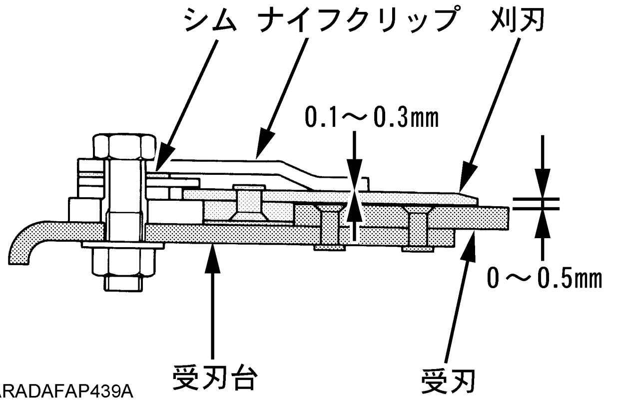
1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップ（３箇所）を受刃台から外します。



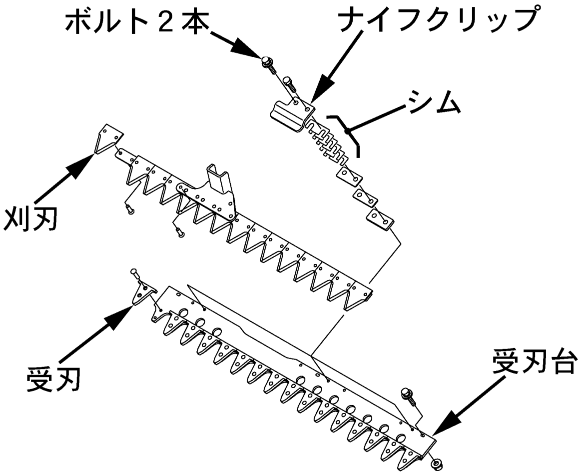
1ARADAFAP167C

2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。

3. ナイフクリップと一緒に組付けているシムを増減して，刈刃と受刃のすき間を０～ 0.5mm に調整します。

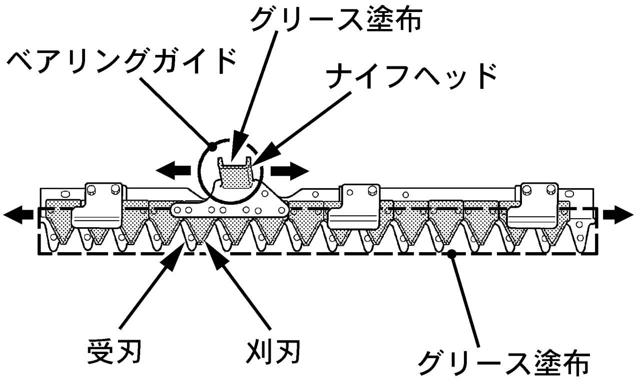


1ARADAFAP439A



1ARADAFAP318C

4. ナイフクリップ（３箇所）をボルトで締付けます。このとき，締付けたあとの刈刃とナイフクリップのすき間が 0.1 ～ 0.3mm になるように調整します。
5. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，刈刃，ナイフヘッドのベアリングガイドにグリースを塗布します。



1ARADAFAP167D

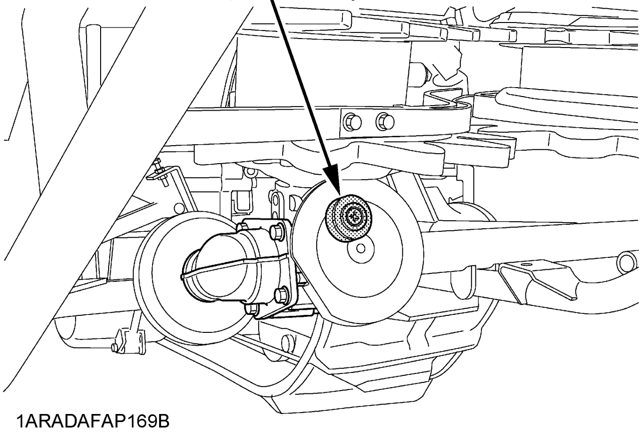
◆ **取付け**

1. ナイフヘッドが取付く刈刃ギヤケースのベアリングにグリースを塗布します。

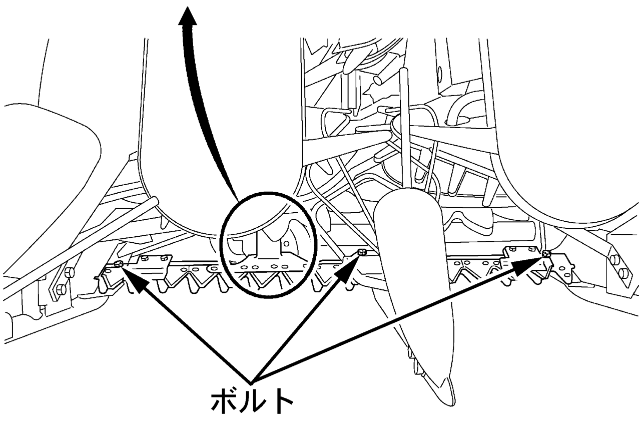
補　足

＊ ベアリングが固くて回転しないときは，ベアリングのシール部に注油して組付けてください。

2. ベアリングの位置が下図位置にあることを確認したあと，ナイフヘッドの溝にベアリングを合わせ刈刃全体をセットしてボルト３本で締付けます。



1ARADAFAP169B



1ARADAFAP168E

［219・222］

［320・323］

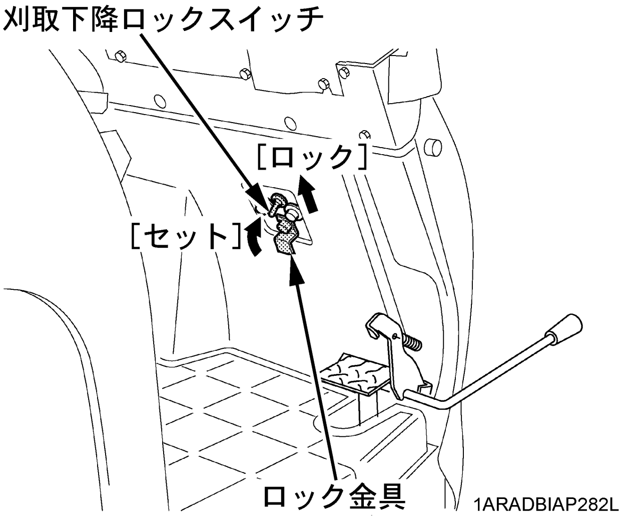
注　意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。
＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

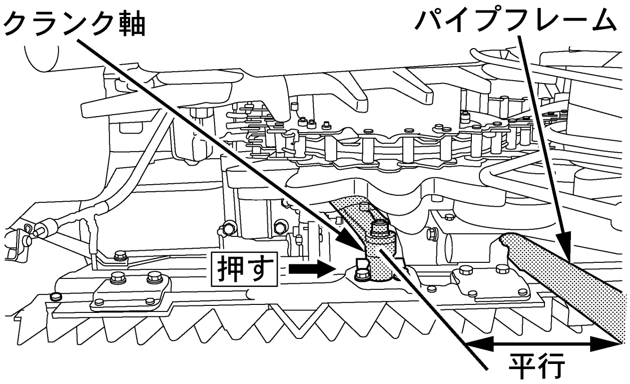
◆ 点検・取外し

1. 刈取部を上げたあと刈取下降ロックスイッチを **[ロック]** 位置にし，ロック金具をセットして，解除防止を行なったあと，エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。



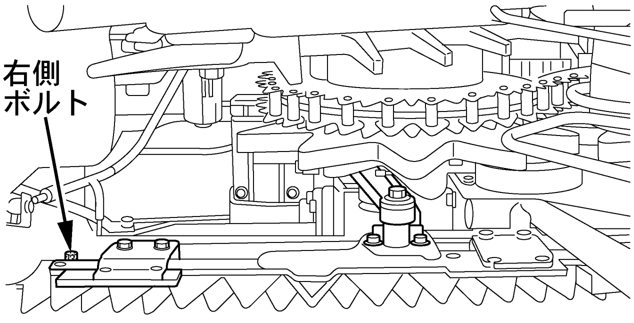
1ARADBIAP282L

2. クランク軸を押して，下図のようにパイプのフレームとクランク軸が平行状態になるように調整します。

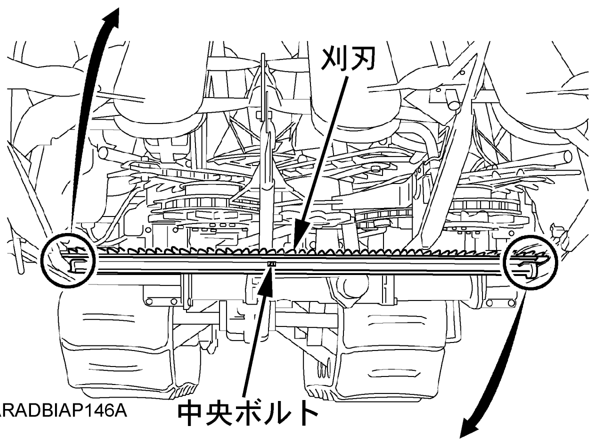


1ARADAFAP326F

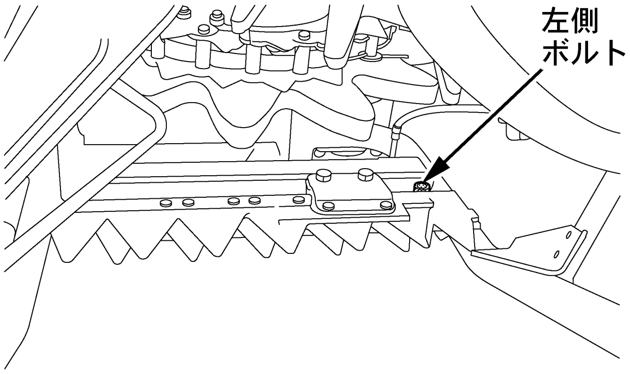
3. 刈刃を取付けているボルト３本を取外します。このときボルトは，左，右は上から，中央は下から取外します。



1ARADBIAP145A

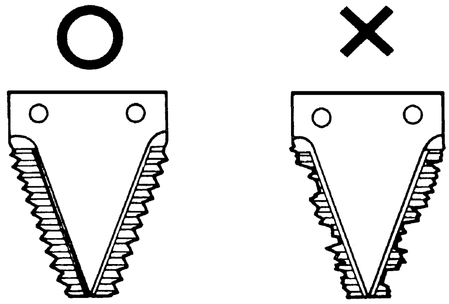


1ARADBIAP146A



1ARADAFAP327B

4. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。

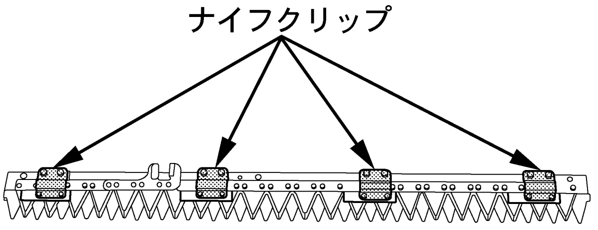


1ARADBEAP506A

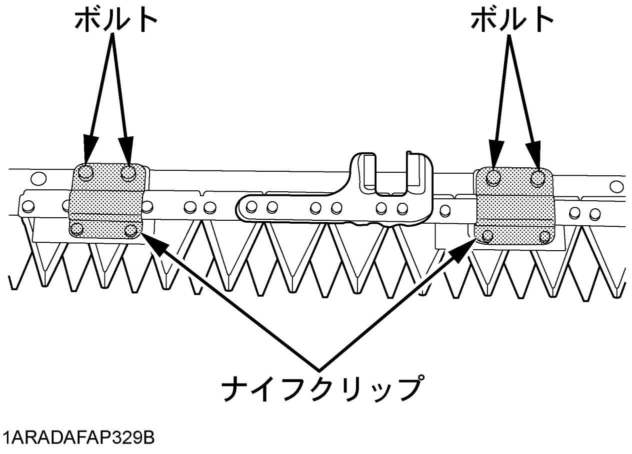
◆ **すき間調整**

調整は刈刃アッシの右側又は，左側のどちらかを行なってからもう片方を行なってください。また，すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

1. ボルト・ナットを取外して全てのナイフクリップを受刃台から外します。



1ARADAFAP328B

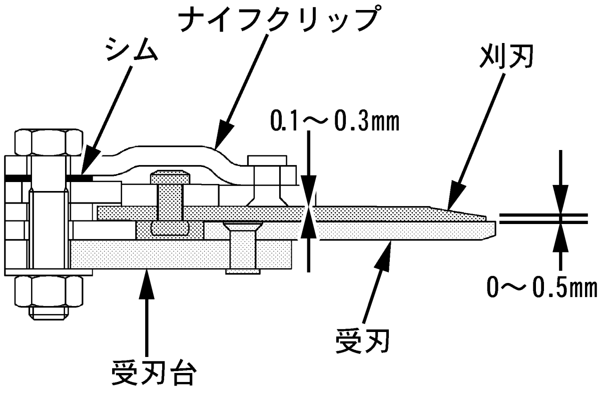


1ARADAFAP329B

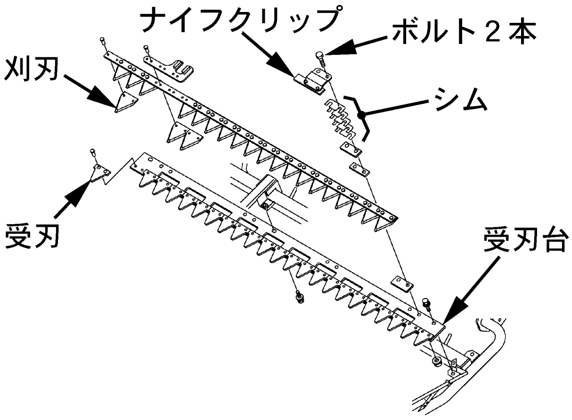
補　足

＊ 刈刃や受刃台上面に付着している泥（土）を掃除して取除いてください。

2. ナイフクリップとスライドプレート２の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を０～0.5mmに調整します。

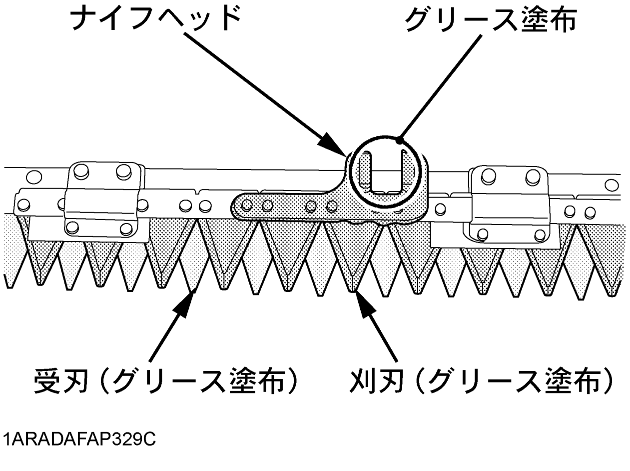


1ARADAFAP319C



1ARADAFAP320D

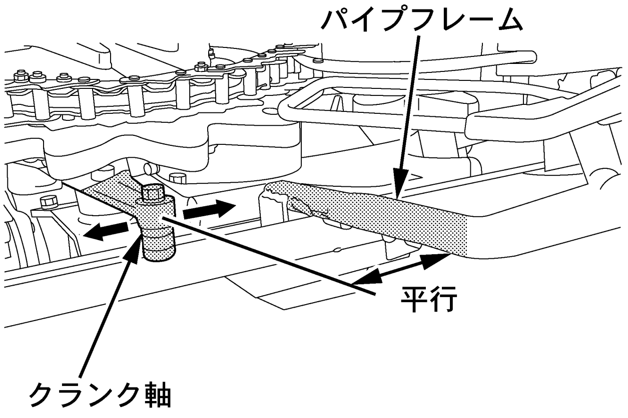
3. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，ナイフヘッドのローラガイドにグリースを塗布します。



1ARADAFAP329C

◆ **取付け**

1. クランク軸とパイプのフレームを平行状態に調整します。調整は，クランク軸を右又は，左に動かして行ないます。



1ARADAFAP330B

2. 取外しの逆の手順で刈刃完備を本機側に取付けます。

　(1) 刈刃完備を持上げて，ナイフヘッドにローラをはめ込みます。
　(2) 本機側の刈刃フレームに刈刃完備をボルト３本で左，右は上から，中央は下からそれぞれ取付けます。
　(3) 刈刃ガイド左，右を刈取りフレームに取付けボルト各２本でそれぞれ取付けます。このとき，刈刃ガイドが受刃の先端に対して，下方向になるように締付けます。
　(4) 刈刃完備を取付けたあと，各部のすき間・刈刃の反りや作動状態を確認し，異常があるときは再調整を行ないます。

[320・323]

■こぎ歯の点検･交換

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊ 平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行なってください。

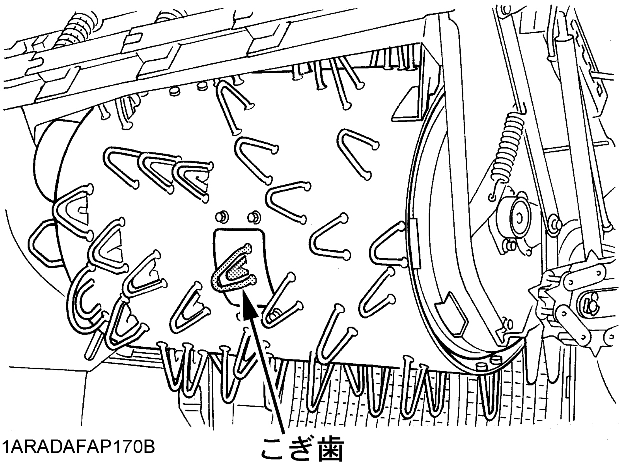
こぎ歯の歯先が摩耗してくると,受あみとのすき間が大きくなり,こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が 2.5mm 以下になったときは，こぎ歯の交換を行なってください。

重　要

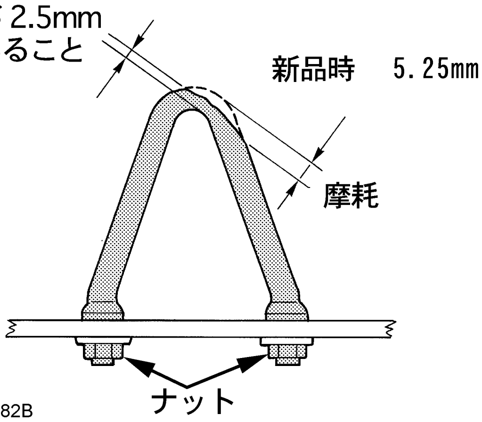
＊ 歯先の線径が 2.5mm 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ **点検**

1. こぎ胴をオープンします。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し,線径が2.5mm 以下のときは交換します。



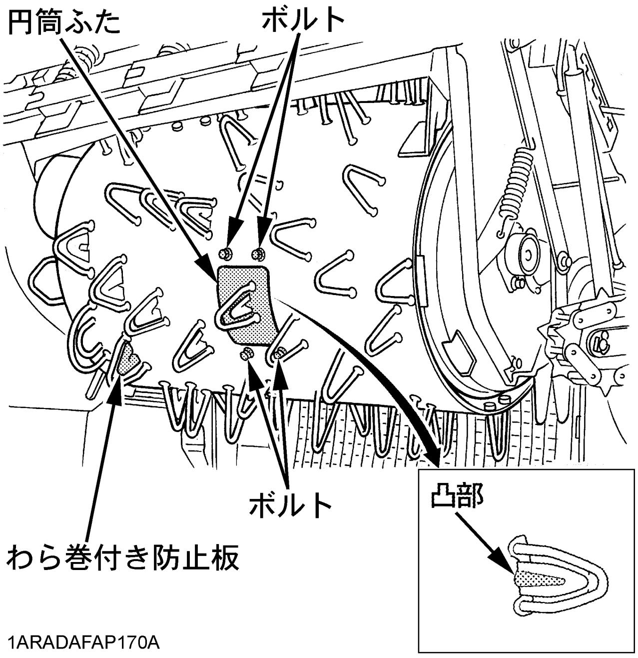
1ARADAFAP170B



1ARADAFAP382B

◆ **交換**

1. 六角レンチでボルト 4 本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット 2 個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット 2 個で取付けます。
4. 円筒ふたを取付けます。



1ARADAFAP170A

補　足

＊ 円筒ふたは２箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取付けてください。
＊ 六角レンチは購入先にご相談ください。

■わら切刃の点検·交換

注　意

＊ **刃部に手を掛けないでください。**
＊ **危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。**

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり，2 番処理胴に詰まったりします。

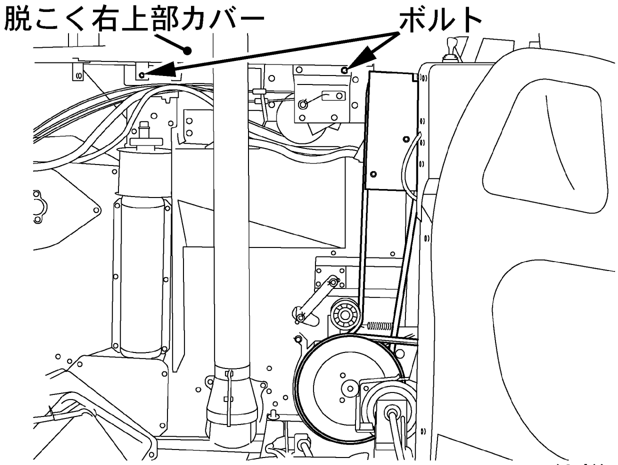
◆ **点検**

[G 仕様]

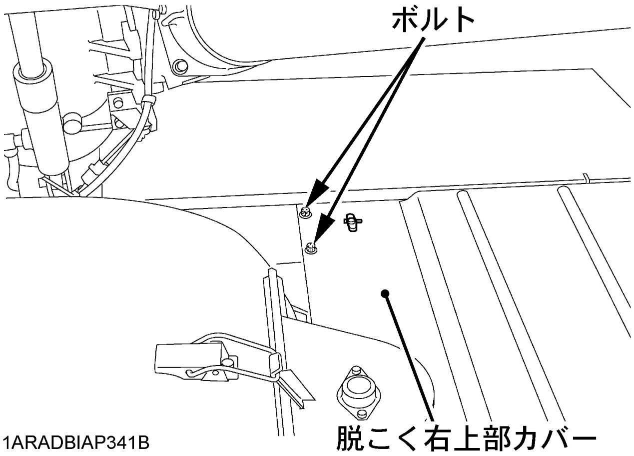
1. グレンタンクをオープンします。(118 ページ参照)

[G 仕様]

2. こぎ胴を閉じた状態で，脱こく右上部カバーを取付けているボルト 4 本を取外します。

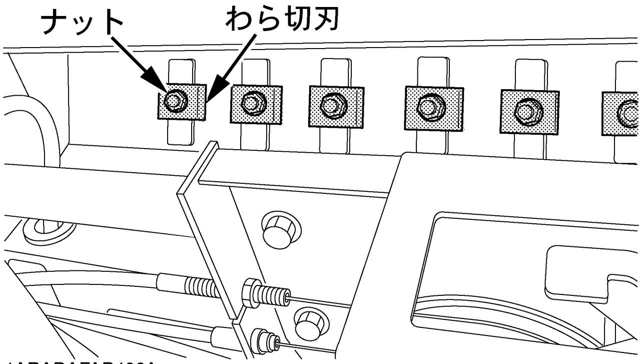


1ARADBIAP122C　※イラストは G 仕様

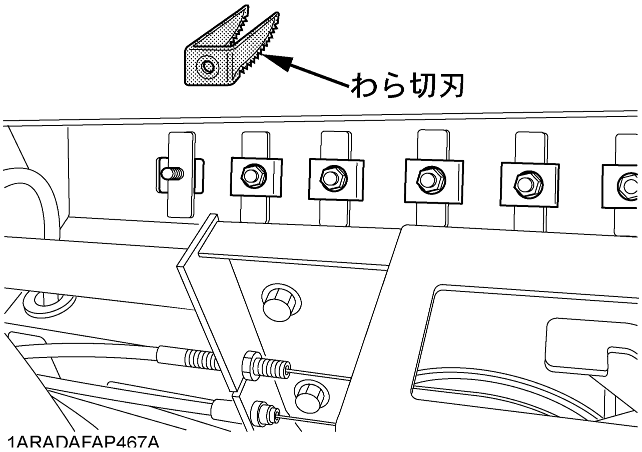


1ARADBIAP341B

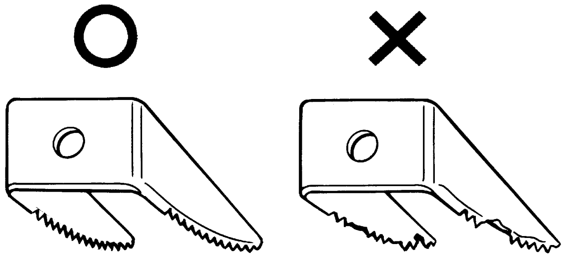
3. わら切刃を取付けているナットを取外して，わら切刃を抜取ったあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは，交換してください。



1ARADAFAP466A



1ARADAFAP467A



1ARADAFAP455A

4. 同じ要領で各わら切刃の点検又は，交換を行ないます。

◆ **交換・取付け**

1. 刃先を**下側**にして各わら切刃を差込みます。
2. ナットをボルト部に取付けます。
3. 脱こく右上部カバーを取付けます。

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

■カッタ部の点検·調整

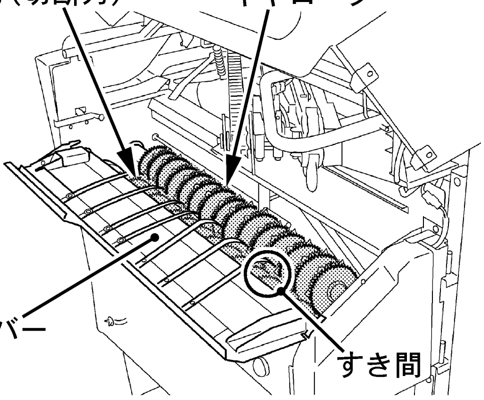
警 告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

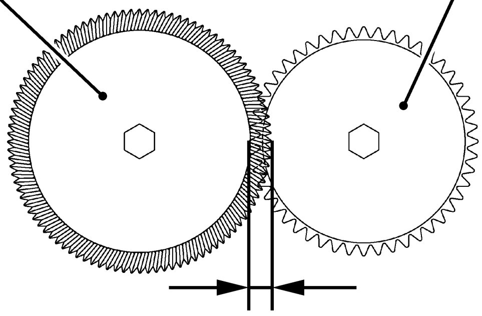
補 足

＊ わらくずなどは取除いてください。

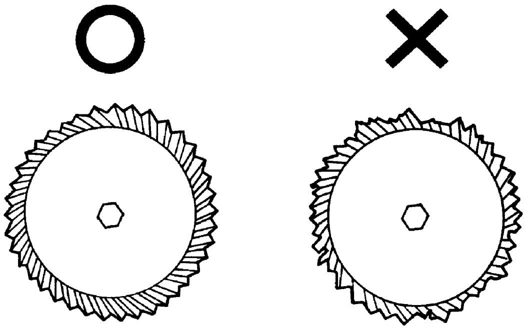
カバーロックレバーを引き,切換えカバーを開いてカッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり,欠けているときは交換してください。また，カッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代やすき間が大きかったり,小さかったりする場合は調整してください。



1ARADBIAP147A



1ARADBIAP262A



1ARADAFAP225A

重 要

＊ ラップ代が少なくなると，わらの切断長さが長くなったり，わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早目に交換してください。

補 足

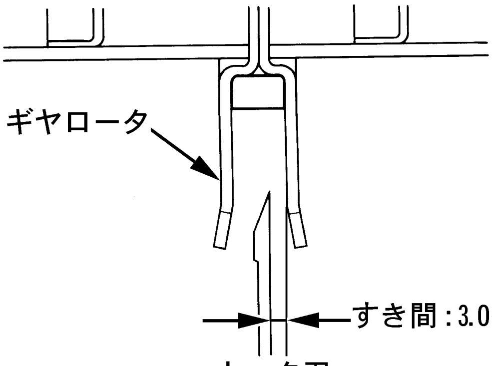
＊ 切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

◆ カッタ刃とギヤロータのすき間の点検・調整

ギヤロータとカッタ刃のすき間を確認し,すき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは,すき間調整を行ないます。

● 点検

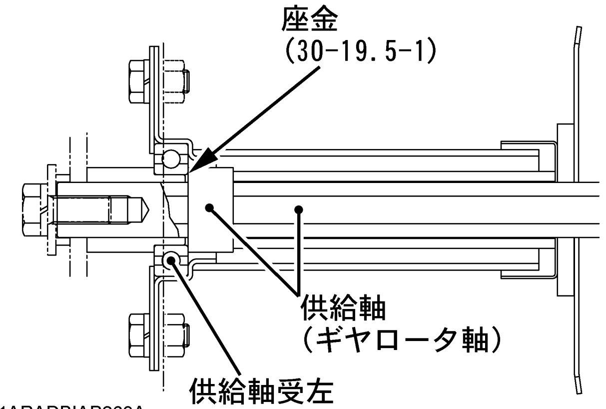
1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ刃とギヤロータのすき間を確認し，3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。



1ARADAKAP143B

● **調整**

カッタ刃とギヤロータがくっついていたり，離れているときはすきま調整を行ないます。
供給軸受左と供給軸の間に座金（30-19.5-5）を使用して，すき間を3.0～6.5mmに調整します。



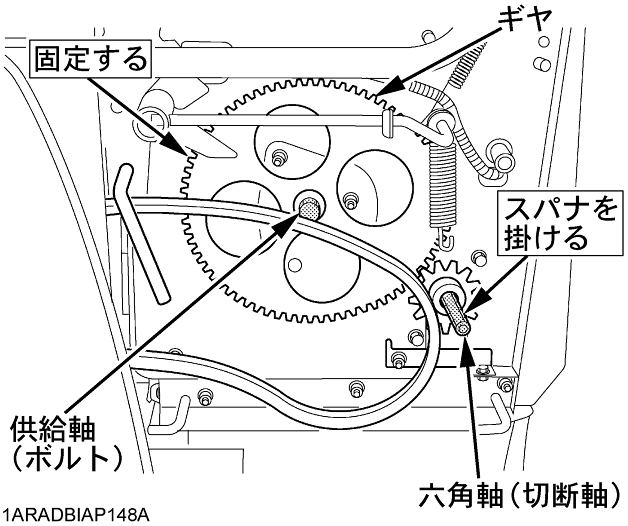
1ARADBIAP263A

重　要

＊ すき間が適正範囲（3.0 ～ 6.5mm）外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。
＊ すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。

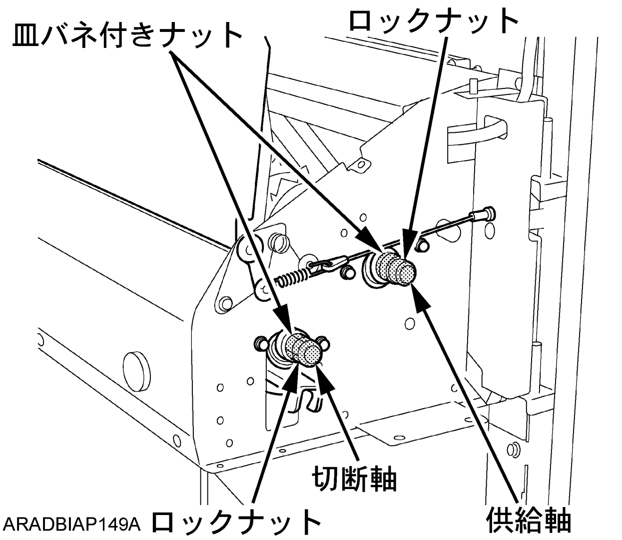
◆ **切断刃（カッタ刃），ギヤロータの増締め**

1. **［カッタ刃の交換］**（191 ページ参照）の手順の 1. ～ 5. （テンションアームの取外しまで）を行ないます。
2. 切断軸の株元側は，１人が六角軸にスパナを掛けます。また，供給軸の株元側は，ギヤを固定します。



1ARADBIAP148A

3. カッタ右サイドカバーを取外します。
4. もう１人の作業者が，穂先側の切断軸，供給軸のロックナットをゆるめたあと，皿バネ付きナットをスパナで締付けます。



1ARADBIAP149A

重　要

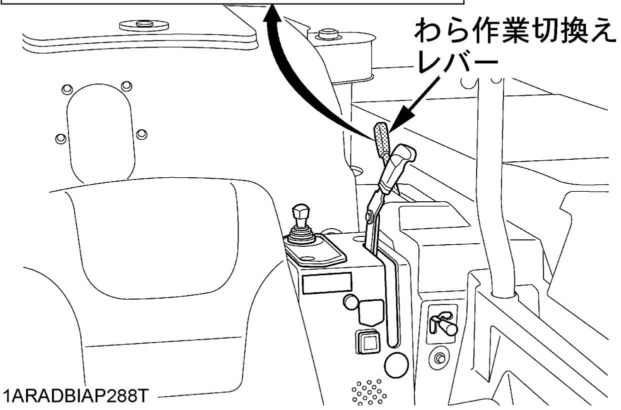
＊ 軸の締付けトルクは 4903 ～ 5884N･cm(500 ～ 600kgf・cm) です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

5. ロックナットを締付けたあと，カッタ右サイドカバーを取付けます。
6. 供給軸側は，ギヤを取付けます。
7. **［カッタ刃の交換］**（191 ページ参照）の手順の 5. ～ 1. を行ないます。

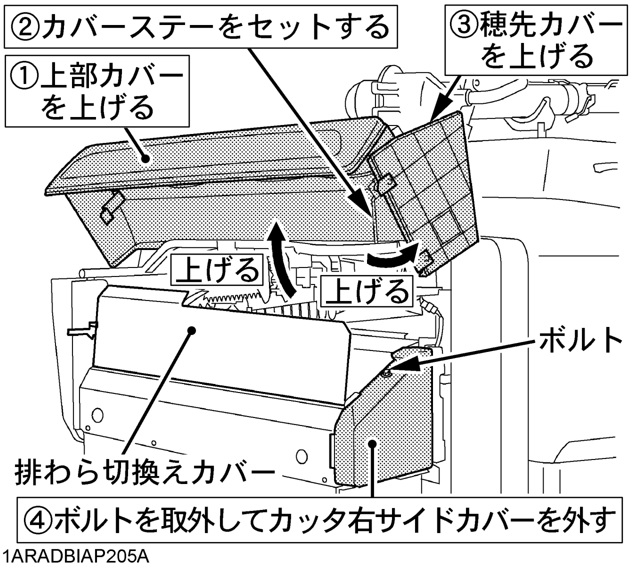
■カッタ刃の交換

> **⚠ 警 告**
>
> **＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。**
> **＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。**
> **＊ 切断軸完備を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。**
> **＊ 切断軸完備の分解・組立て作業は２人作業で行なってください。**

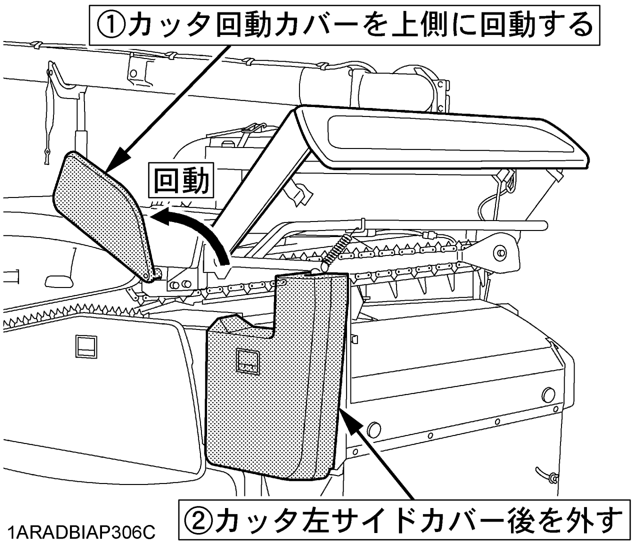
1. わら作業切換えレバーを **［カッタ］** 作業位置にします。



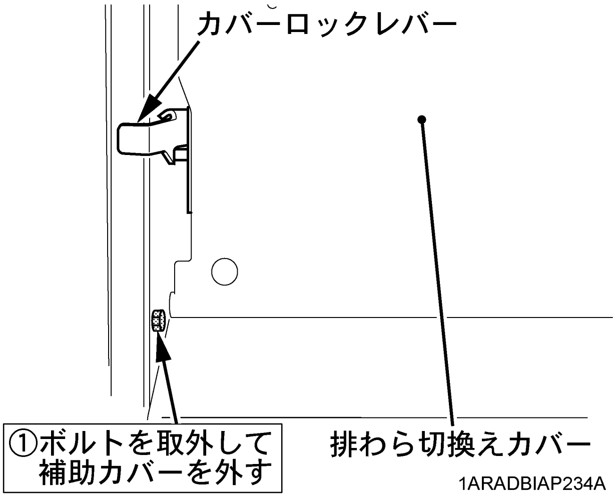
2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。



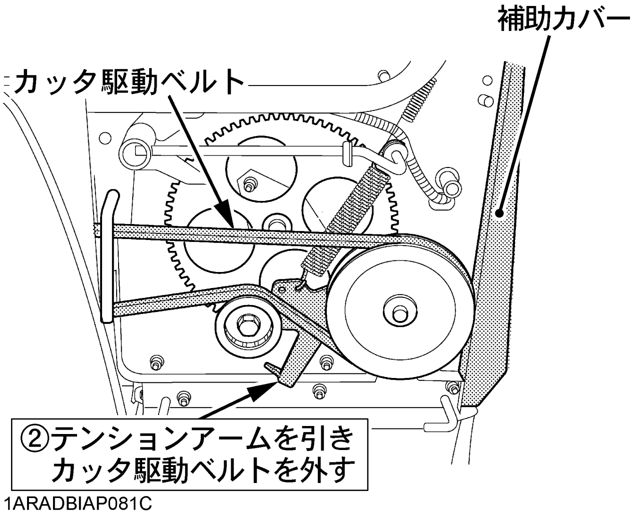
3. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，カッタ左サイドカバー後を外します。



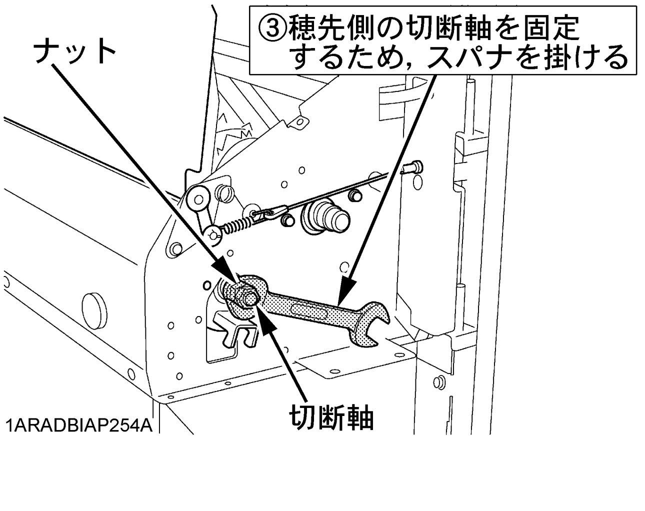
4. カバーロックレバーの下側にあるボルトを取外して補助カバーを外します。
5. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと，カッタ駆動プーリを外します。



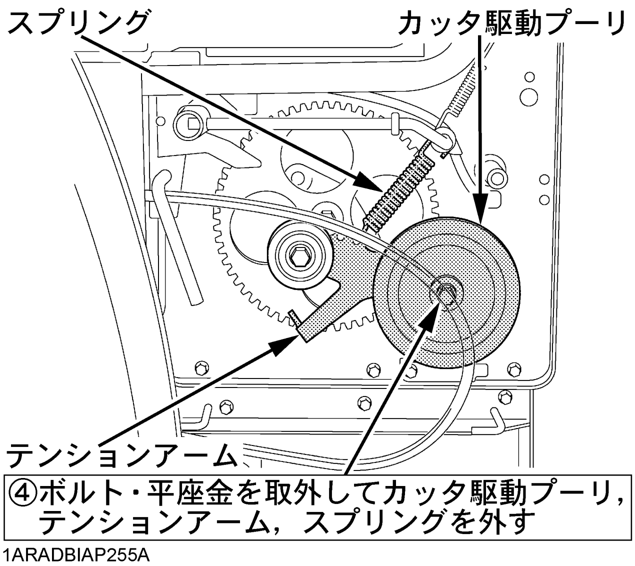
1ARADBIAP234A



1ARADBIAP081C

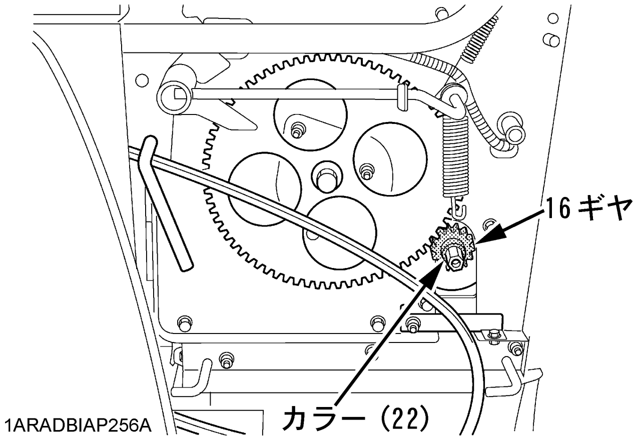


1ARADBIAP254A



1ARADBIAP255A

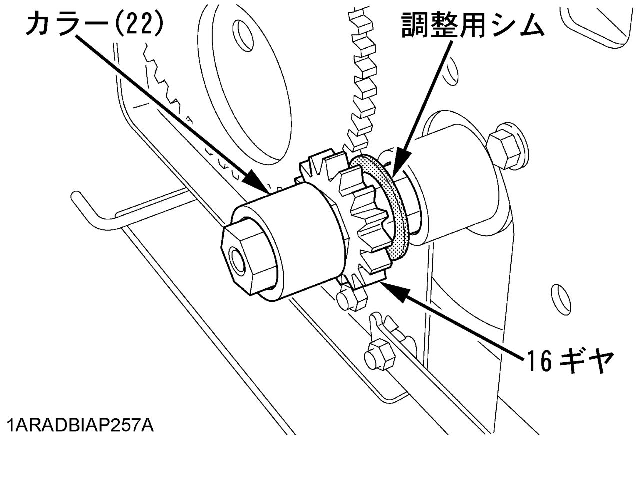
6. カラー（22），16 ギヤを取外します。



1ARADBIAP256A

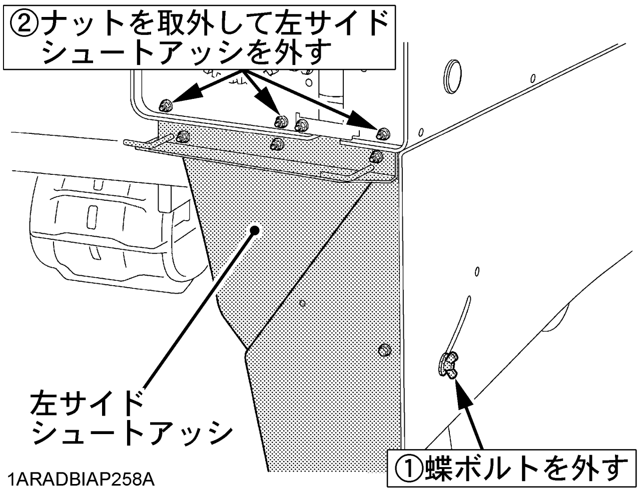
補　足

＊ 調整用シムが入っている場合は，カラー(22)，16 ギヤと同じように取外してください。



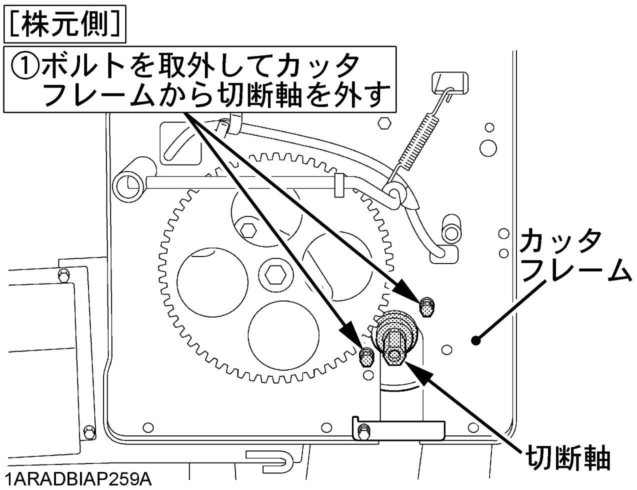
1ARADBIAP257A

7. カッタを開いたあと，左サイドシュートアッシを取外します。

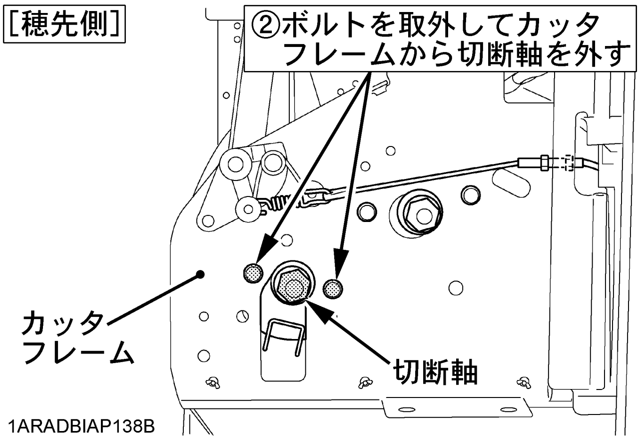


1ARADBIAP258A

8. 切断軸をカッタフレームから外します。

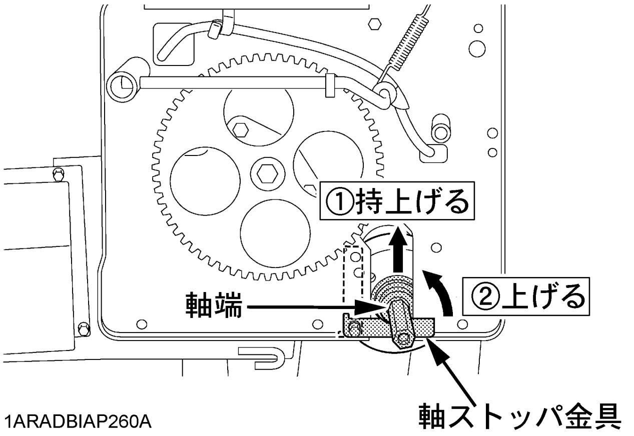


1ARADBIAP259A

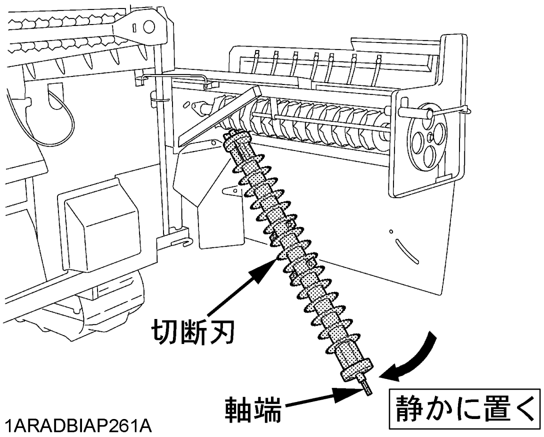


1ARADBIAP138B

9. 株元側の軸端を少し持上げて，軸ストッパ金具を上に回動して，切断軸アッシの軸端を静かに地面に置きます。

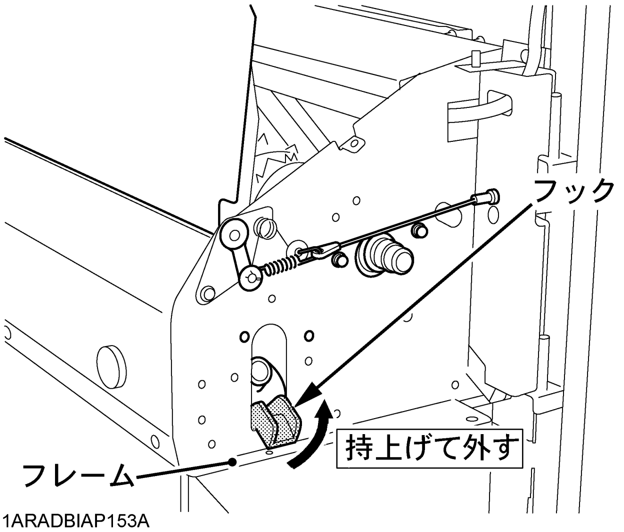


1ARADBIAP260A



1ARADBIAP261A

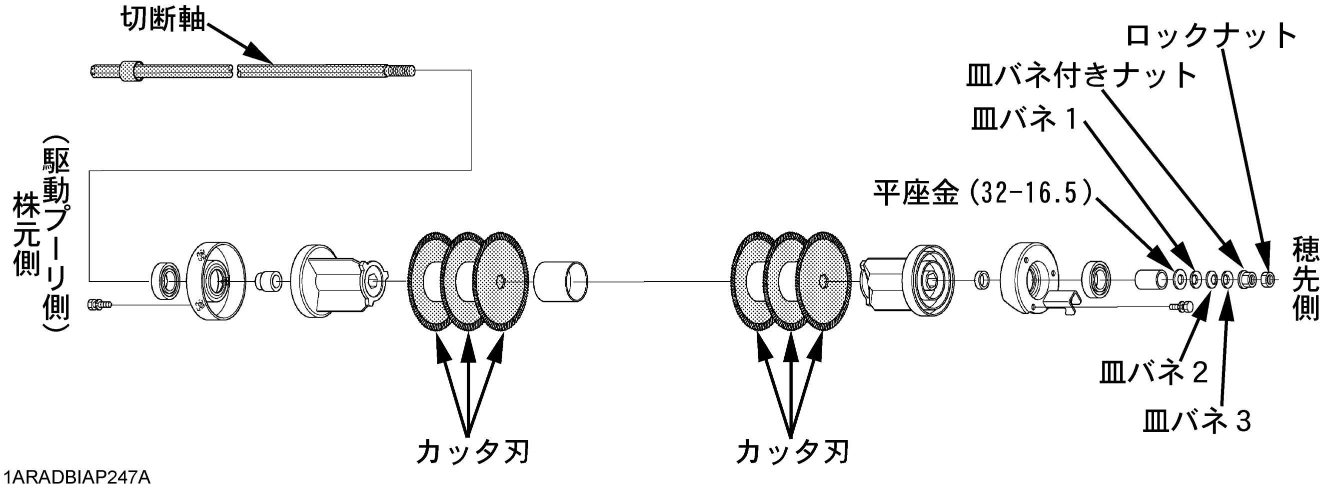
10. 穂先側の軸受けフックをフレームから外し，切断軸を取外します。



1ARADBIAP153A

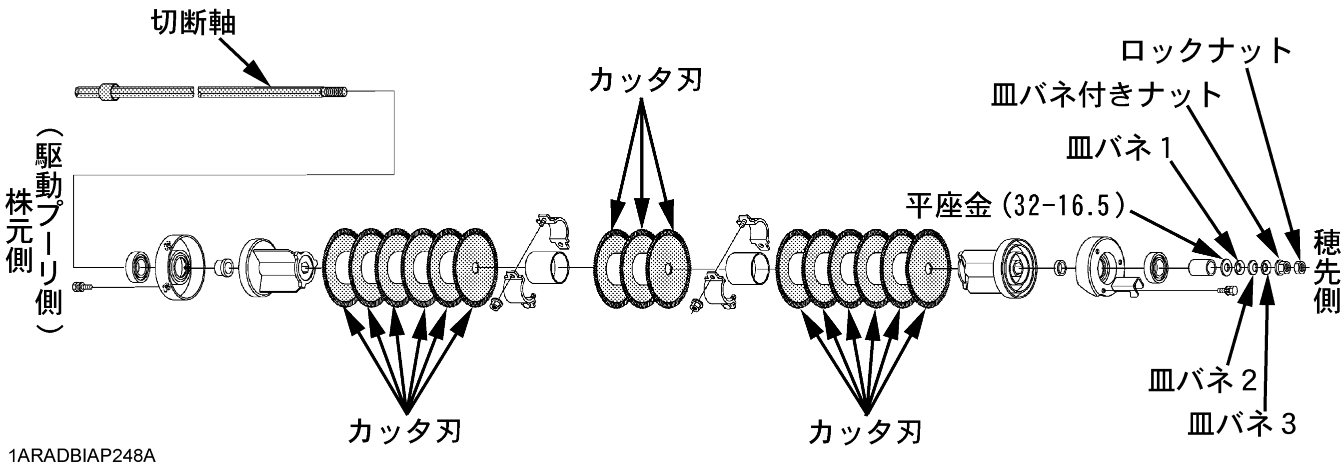
11. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは，必ず補助者と共に２人作業で行なってください。
  (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き，穂先側のロックナット，皿バネ付きナットと順番に取外して分解します。
  (2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）に注意しながら交換を行ないます。

[35mm 切断カッタ (SS-ARN323)]



[35mm 切断カッタ (SS-ARN323)]

[50mm 切断カッタ (S-ARN323)]



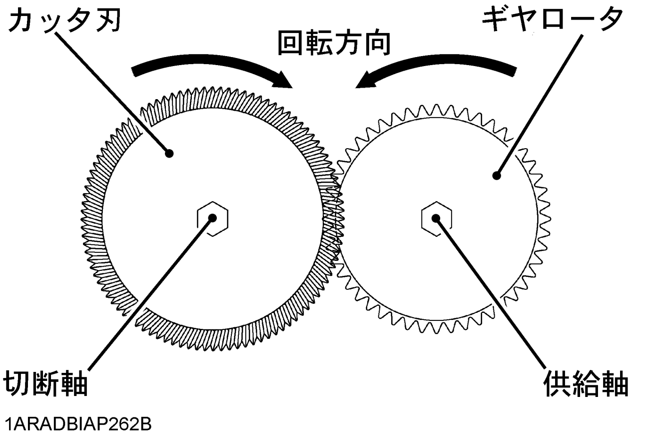
[50mm 切断カッタ (S-ARN323)]

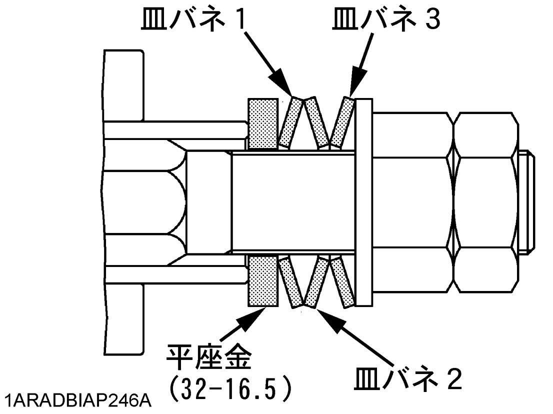
重 要

＊ 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると，切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
＊ 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると，カッタ刃とギヤロータのすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ，上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補　足

＊ 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違うとわらの切断性能が悪くなります。
＊ 刃の向きと回転方向は下図のようになります。
＊ 皿バネ３枚は下図のように組付けてください。





(3) カッタ刃の交換が終わると，分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
(4) 切断軸アッシを垂直に立てた状態で皿バネ付きナットをスパナで締付けたあと，ロックナットを締付けます。

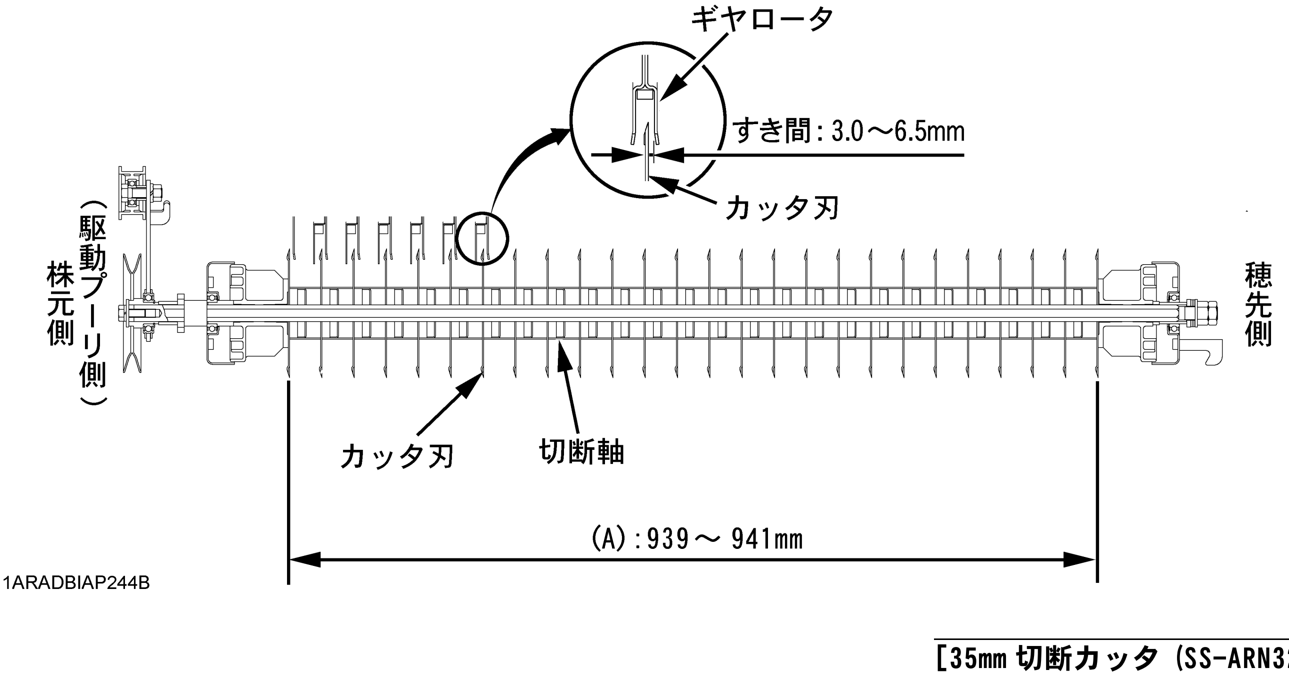
12. 切断軸アッシをカッタフレームに取付けます。（手順７～10 の逆に取付けます。）

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 4903 ～ 5884N・cm（500 ～ 600kgf・cm）です。確実に締付けてください。
カッタ刃とギヤロータが接触していないか，手で切断軸を軽く回して確かめてください。

[35mm 切断カッタ（SS-ARN323）]

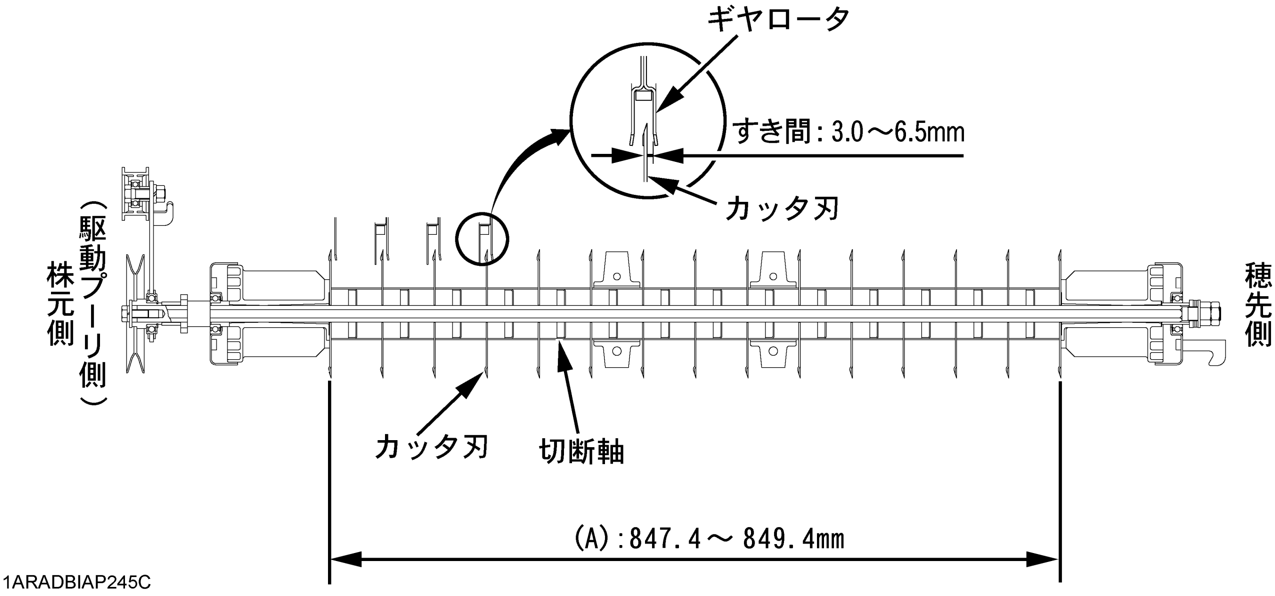
13. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法（A）が 939 ～ 941mm の範囲から外れているときは再度分解し，正しい組立てを行ないます。カッタ刃とギヤロータのすき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは，供給軸（ギヤロータ取付け軸）の座金（30-19.5-1）で調節します。



[35mm 切断カッタ（SS-ARN323）]

[50mm 切断カッタ (S-ARN323, S-ARN323C)]

13. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法 (A) が 847.4 ～ 849.4mm の範囲から外れているときは再度分解し，正しい組立てを行ないます。カッタ刃とギヤロータのすき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは，供給軸（ギヤロータ取付け軸）の座金（30-19.5-1）で調節します。



[50mm 切断カッタ (S-ARN323, S-ARN323C)]

補　足

＊ 供給軸（ギヤロータ取付け軸）の座金（30-19.5-1）が必要な場合は，購入先に連絡してください。

重　要

＊ 再組立てを行なっても範囲から外れるときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

14. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。
15. 排わら切換えカバーを閉じます。

補　足

＊ 排わら切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

■吐出口ブーツの点検･交換

吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

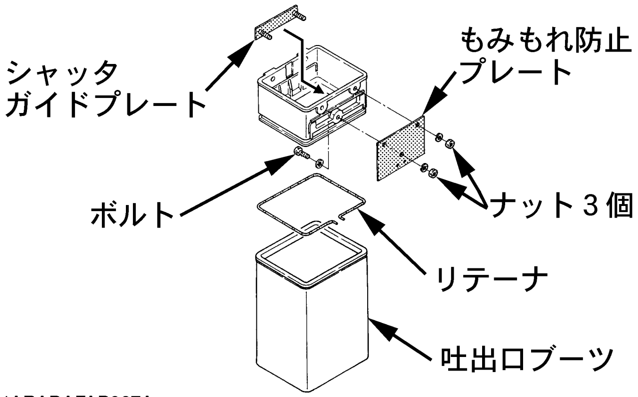
◆ 交換

[ホッパ仕様]

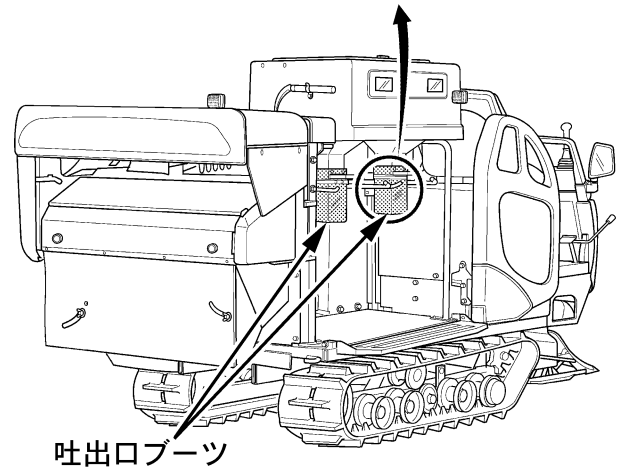
1. もみもれ防止プレートを取付けているボルト，シャッタガイドプレートとナットをそれぞれ取外し，プレートを外します。
2. リテーナを外して，吐出口ブーツを取外します。
3. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。



1ARADAFAP387A



1ARADBIAP280D

重　要

＊ ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

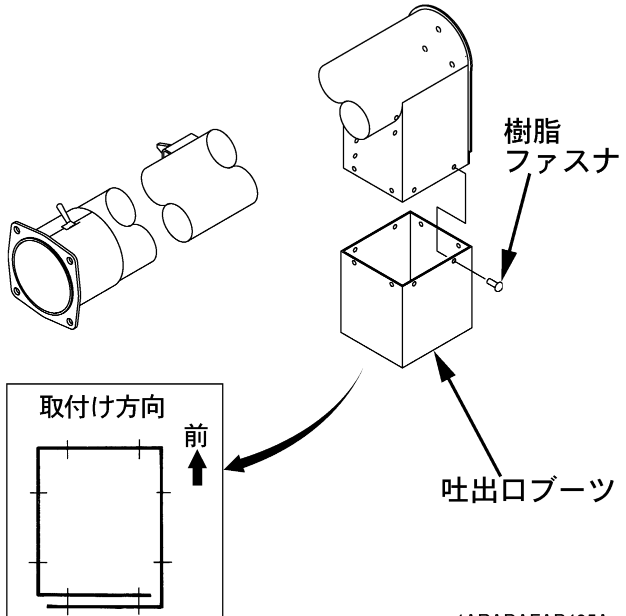
[ホッパ仕様]

[G 仕様]

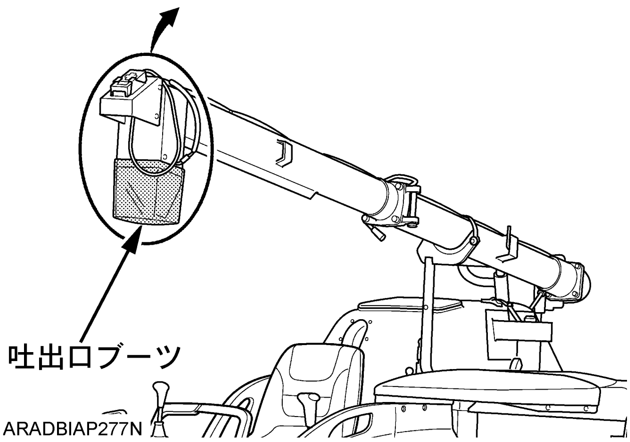
1. ブーツを取付けている樹脂ファスナー８本を外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。



1ARADAFAP435A



1ARADBIAP277N

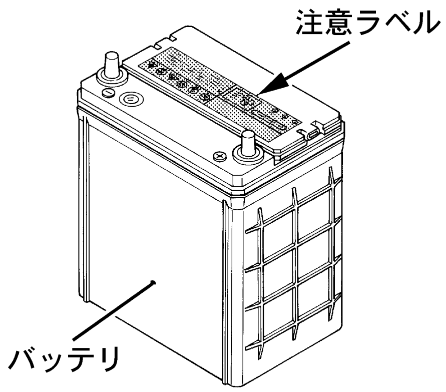
重　要

＊ ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

[G 仕様]

■バッテリの点検·交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1ARADAFAP388A

危　険

- ＊ **バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（+）端子と（−）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**
- ＊ **バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。**
- ＊ **充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。**
- ＊ **この　12V　バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。**
- ＊ **急速充電は厳禁です。**
- ＊ **開封は厳禁です。（密封タイプ）**

警　告

- ＊ **バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。**

補　足

＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

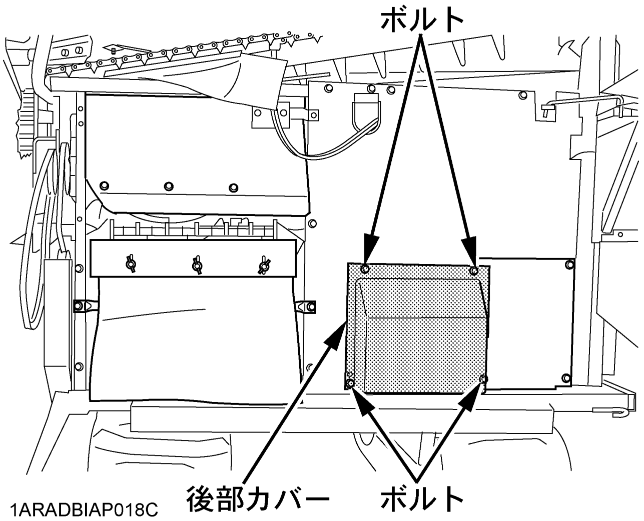
◆ 点検

危　険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき………

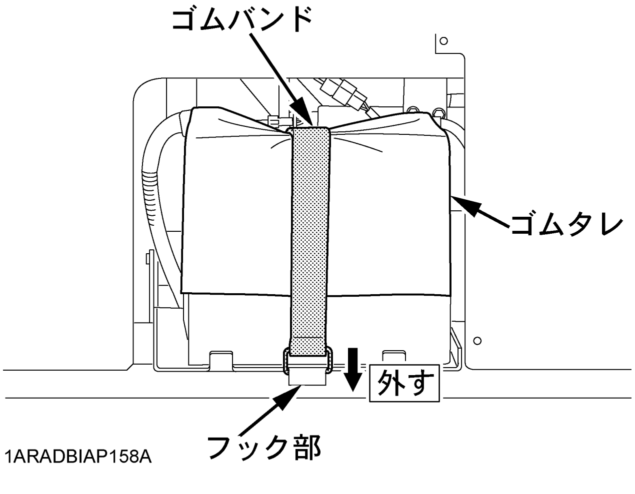
- ＊ **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- ＊ **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

1. カッタを開きます。
2. ボルトを取外して，バッテリ後部カバーを取外します。



1ARADBIAP018C

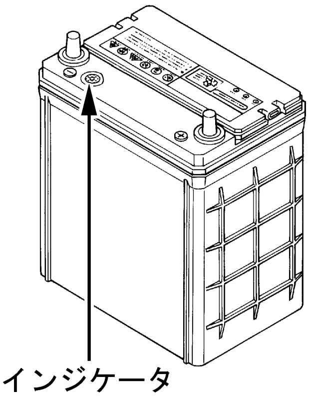
3. ゴムバンドをフックから外して，ゴムタレをめくります。



1ARADBIAP158A

4. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認ます。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1ARADAFAP389A

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

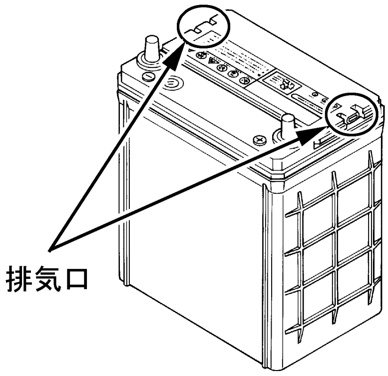
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

   (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

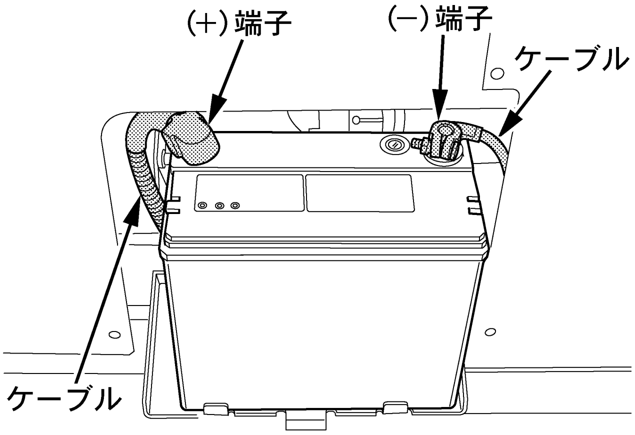
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAFAP390A

   (4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1ARADBIAP159A

◆ 補充電・交換

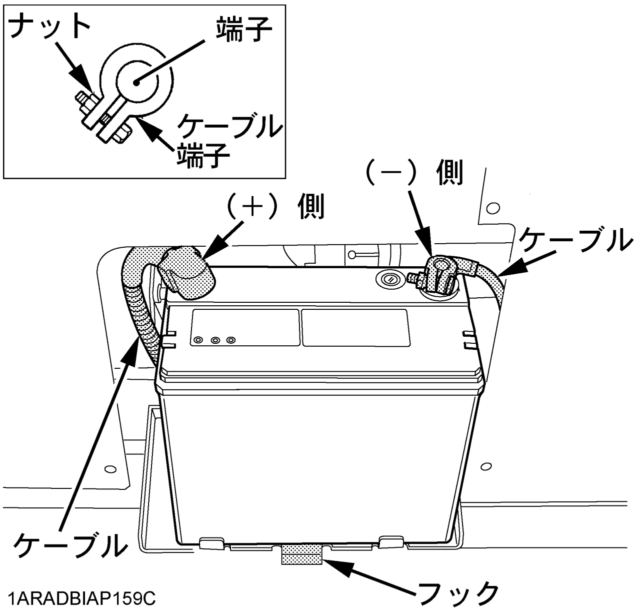
⚠ 警　告

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…（－）端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外し，ゴムタレをめくり上げます。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
　バッテリ形式：**50B24L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

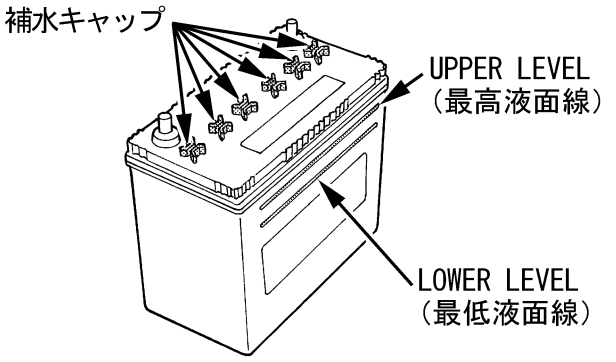
◆ **点検・補水**

注　意

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
* **バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。**
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
  すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
* **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。

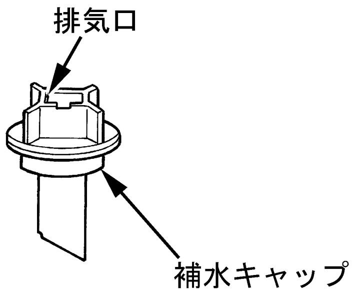


1ARADAFAP391A

重　要
* バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
* バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
* バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要
* 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAFAP392A

◆ **補充電・交換**

注　意

* **補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換

注 意

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

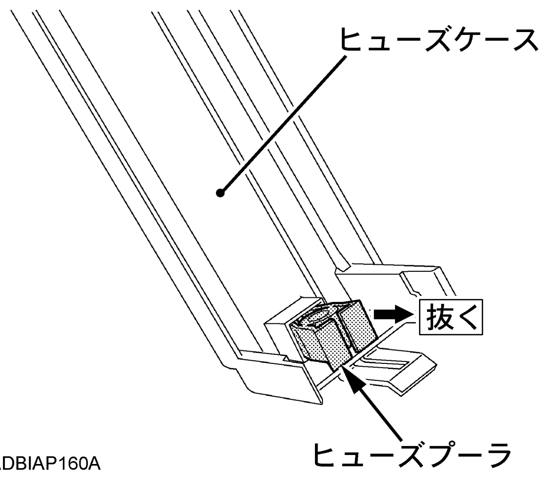
重 要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。

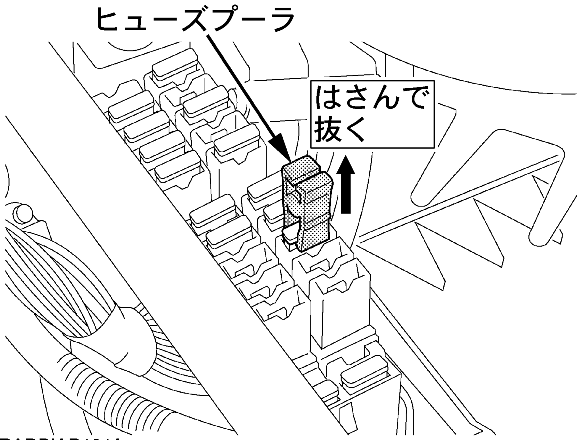
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡して修理を依頼してください。

補 足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケースのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。



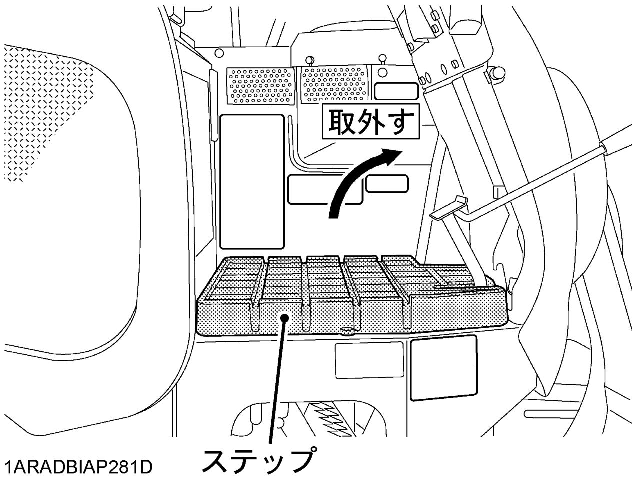
1ARADBIAP160A



1ARADBIAP161A

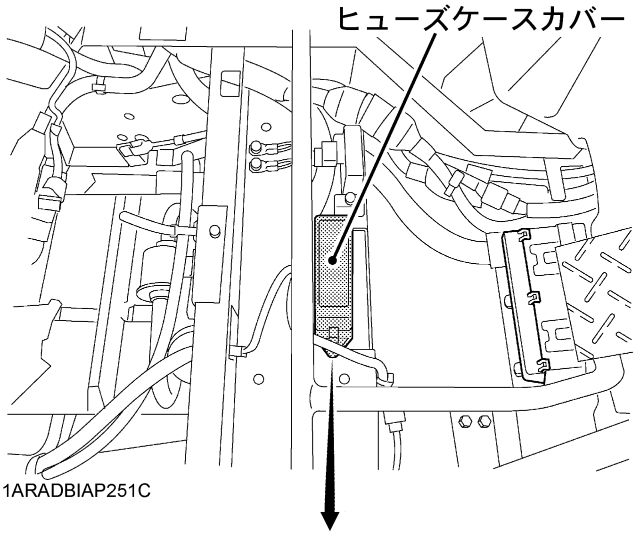
● 本機

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席足元のステップを取外します。



1ARADBIAP281D

3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
5. カバーを取付けます。

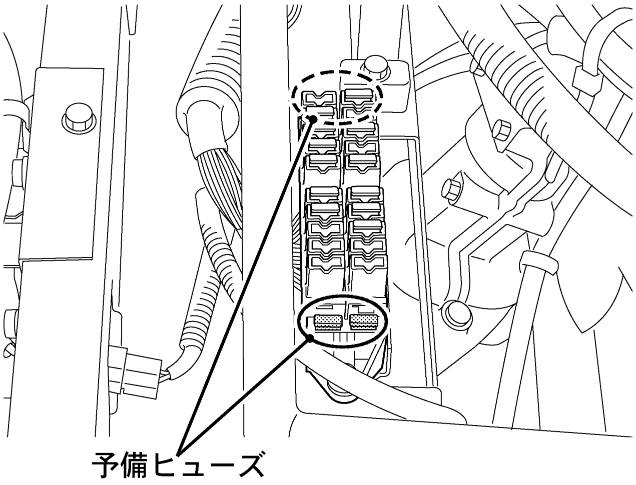


1ARADBIAP251C

	13	-	1	2	3	4	5	6	-	-		
14	-	-	A	B	C	D	E	F	-	-	16	ヒューズ抜き
15	-	G	H	I	J	K	L	-	-	-	17	
		7	8	9	10	11	12	-	-	-		

1ARADBIAP219A

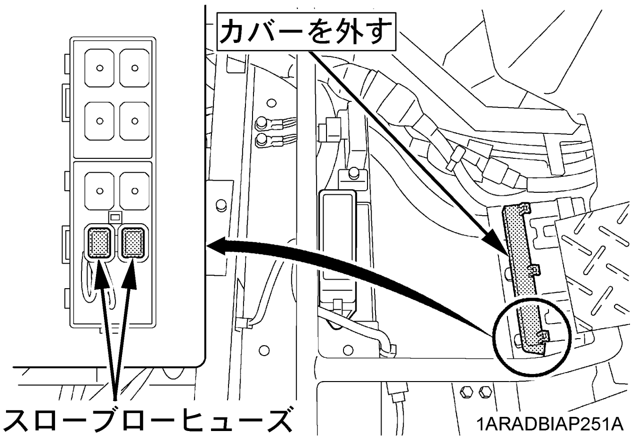
容量(A)		回 路		対象型式
1	25	A	アンローダモータ	G仕様
2	15	B	スライドモータ（2条）	219・222
3	20	C	クラッチモータ	全型式
4	20	D	こぎ深さモータ	全型式
5	15	E	モミクラッチ（オプション）	G仕様
6	15	F	結束機（オプション）	全型式
7	5	G	マイコン（直B）	全型式
8	5	H	マイコンリレー	全型式
9	5	I	メータ，ユニットスイッチ	全型式
10	10	J	ホーン，オルタネータ	全型式
11	15	K	前照灯，ウインカ	全型式
12	15	L	油圧バルブ	全型式
13	15	-	予備	全型式
14	20	-	予備	全型式
15	25	-	予備	全型式
16	10	-	予備	全型式
17	5	-	予備	全型式



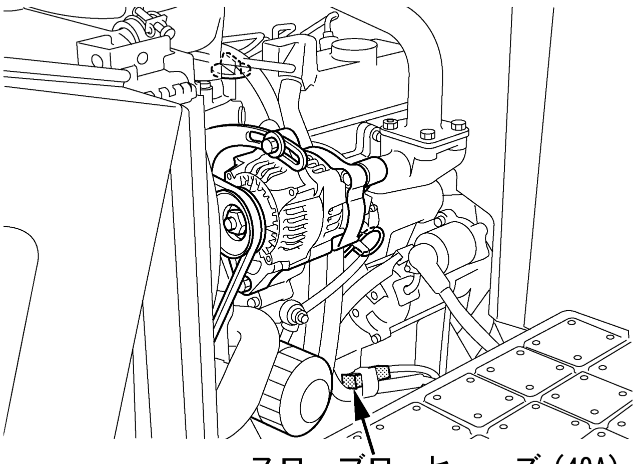
1ARADBIAP162A

● スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンが掛からないときはカバーを外して点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。点検又は，交換したあとはカバーを取付けてください。



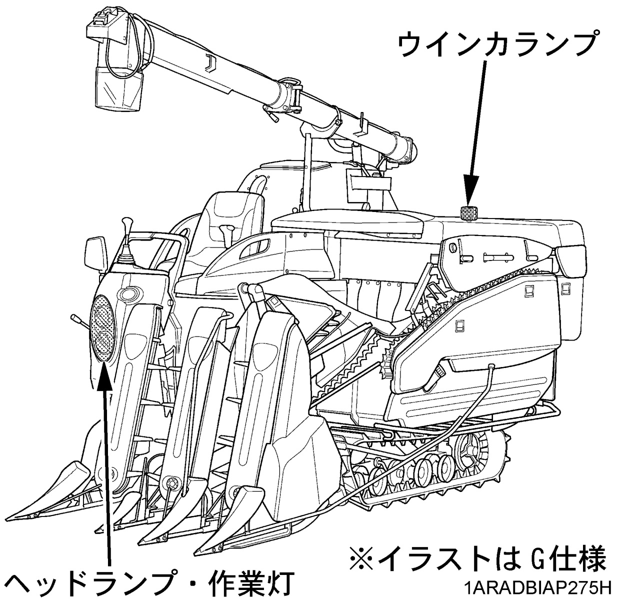
1ARADBIAP251A



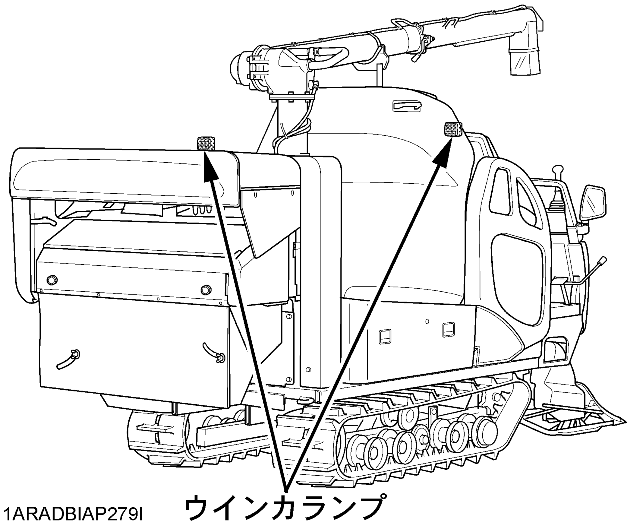
1ARADBIAP120E

■ランプ（電球）の点検･交換･ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

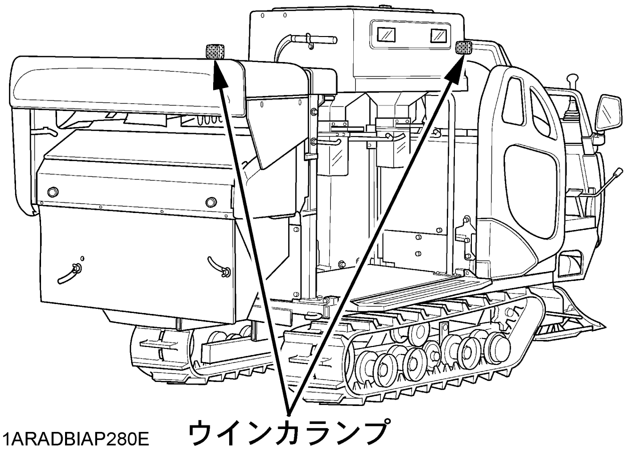


［G 仕様］

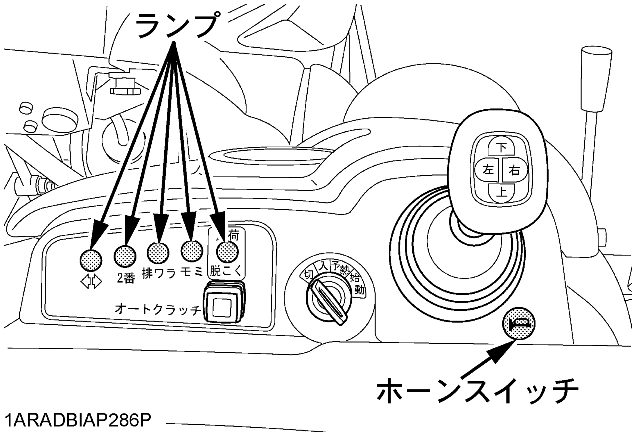


［G 仕様］

［ホッパ仕様］



［ホッパ仕様］



■パッカのトルクリミッタの調整

⚠ 注　意
＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ ロック ］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

［219・222］

トルクリミッタは右側のパッカに取付けてあり，パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。
パッカの分解掃除や交換を行なったときは必ず調整してください。

◆ **調整**

1. 刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでパッカの取付けナットをゆるめます。
2. 手でいっぱいに締付けたあと，レンチで 1.5 回転締付けます。

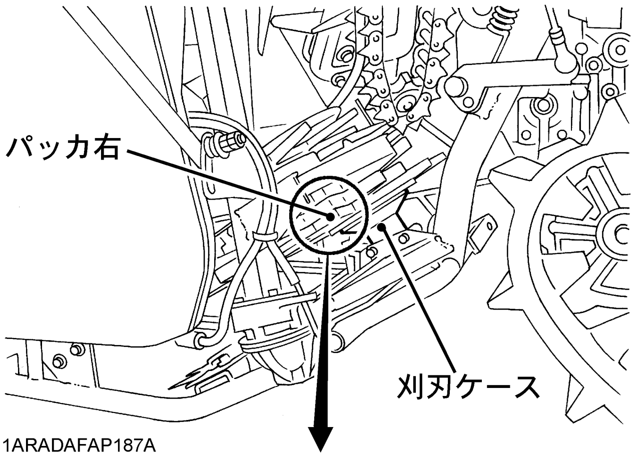
補　足

＊ スリップ時のトルクは，98 ～ 128N・m（10 ～ 13kgf・m）です。

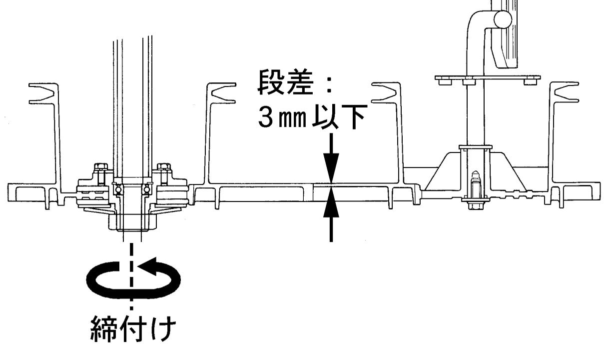
3. パッカの左と右の段差を測定し，3 mm 以下であれば正常です。

重　要

＊ 3 mm 以上段差があるときは，わら詰まりやパッカ部の損傷の原因となりますので，購入先へ連絡して修理を依頼してください。



1ARADAFAP187A

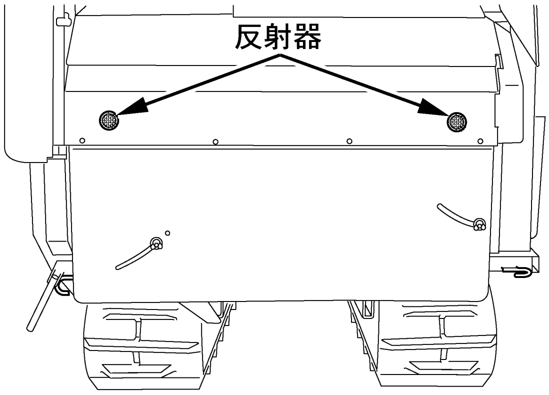


1ARADAFAP445A

[219・222]

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



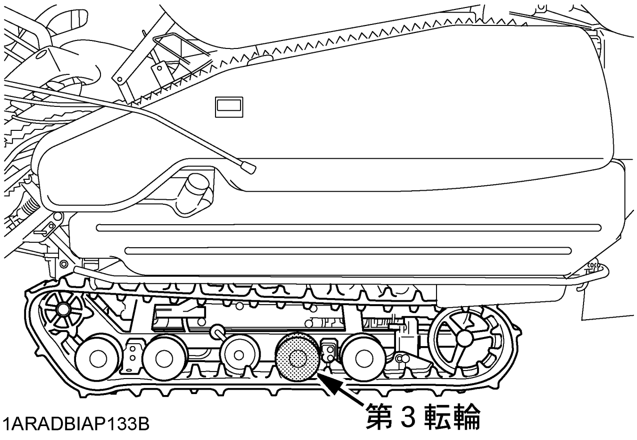
1ARADBIAP039B

■クローラの点検･調整

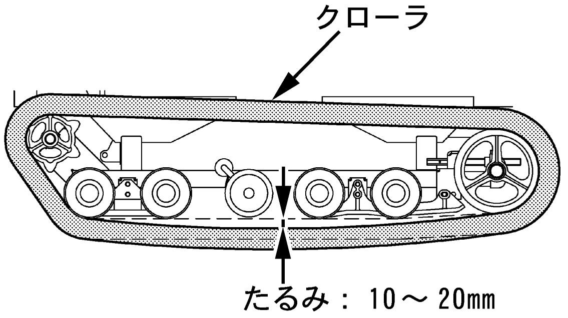
注　意

＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて行なってください。
＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ ジャッキアップを行なうときは，コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊ ジャッキは持上荷重が 2 トン以上の物を使用してください。
＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

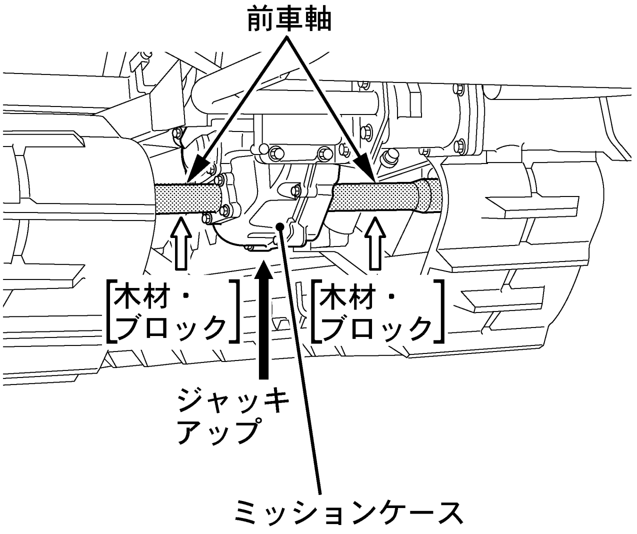
地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，第 3 転輪とクローラ下側のたるみを 10 ～ 20mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。



1ARADBIAP133B

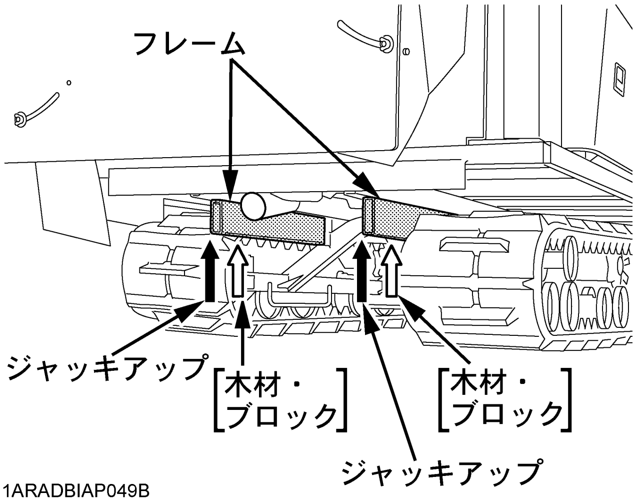


1. 機体をジャッキアップして，クローラを地面から 10㎝程度浮かせます。
   (1) 前側はミッションケース部の調整を行なう側の前車軸に木材やブロックをセットします。



1ARADBIAP164A

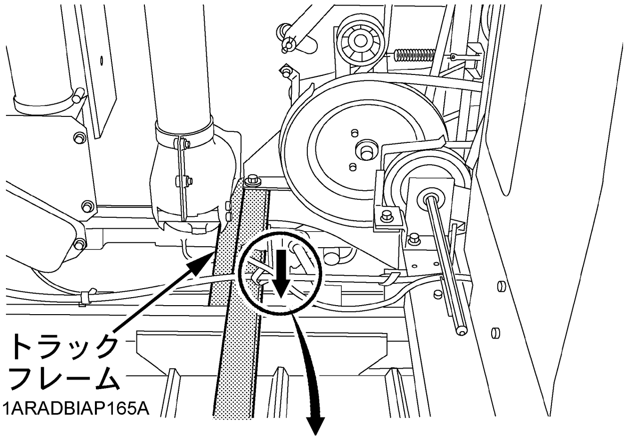
   (2) 後側は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



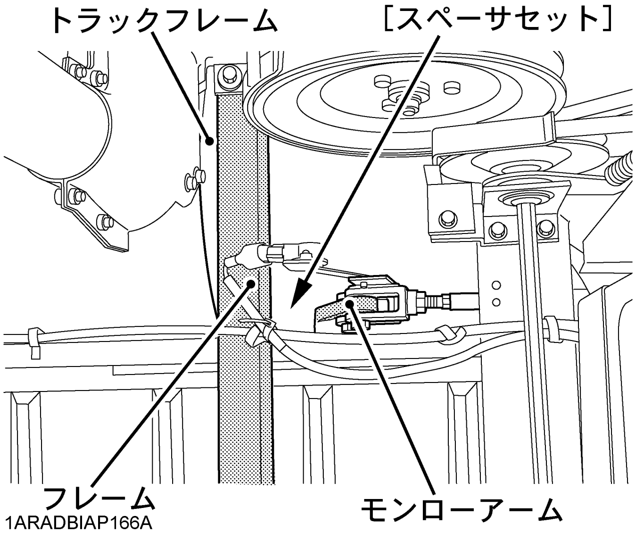
1ARADBIAP049B

[M 仕様]

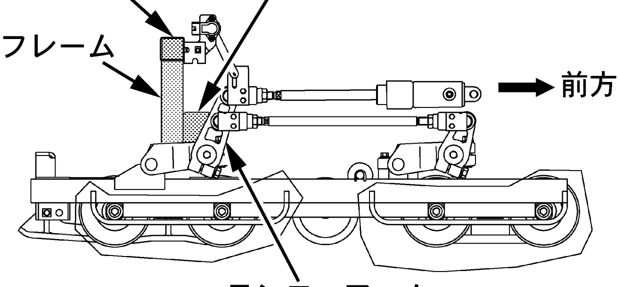
   (3) グレンタンクを開いたあと，機体右側にあるフレームとモンローアームの間にトラックフレーム落下防止用のスペーサをセットします。



1ARADBIAP165A



1ARADBIAP166A



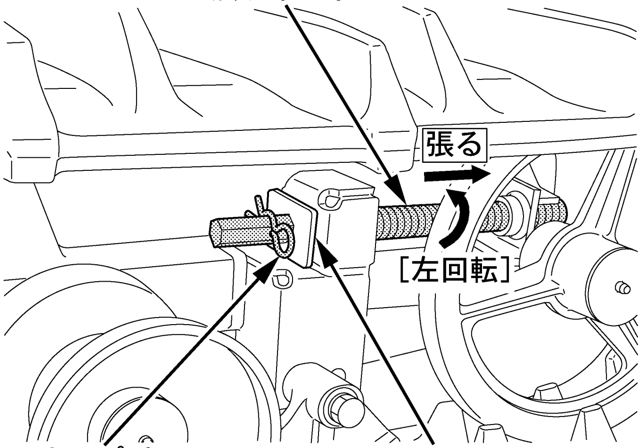
1ARADAFAP469A

補　足

＊ スペーサは金属や固い木材片を使用してください。
＊ スペーサをセットしないと，機体を上昇したあと，トラックフレームが自然落下するため，クローラが下側に張り，正しい調整が行なえなくなります。

[M 仕様]

2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



1ARADAFAP193A

4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
5. **[M 仕様]** はスペーサを取外し，ジャッキアップしてブロックや木材を取外します。
6. ジャッキを取外します。

重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
＊ クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
- 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
- オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■刈取スライドの点検･注油

[219・222]

注　意

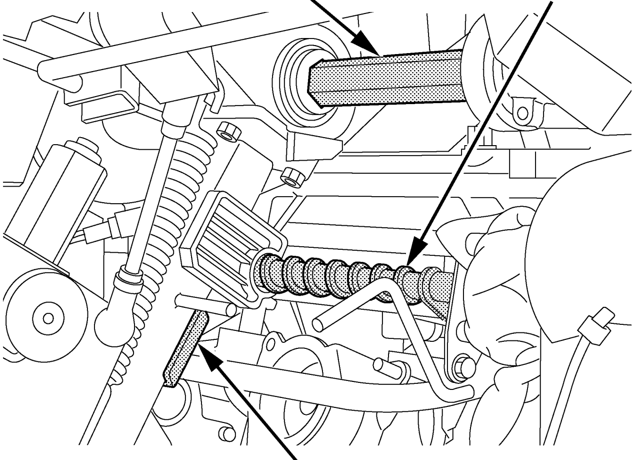
＊ 平たんな場所で，刈取下降ロックをして必ずエンジンを停止してください。

刈取部を地面から約 10cm 上げたあとエンジンを停止します。そのあと，刈取下降ロックスイッチを **[ロック]** 位置にし，スイッチキーを **[入]** 位置にしてください。

◆ 点検

刈取部をスライドスイッチで**左⟷右**に動かして，スライドする時間が正常時（約 12 秒以内）より遅いときは，スライド装置各部に注油してください。

◆ 注油個所



1ARADBIAP118B

重　要

＊ スライドを連続して５往復以上しないでください。
また，スライドが停止したら，スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。

［219・222］

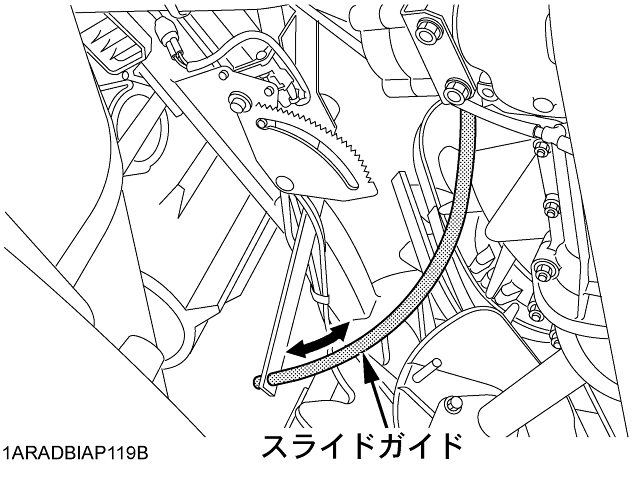
■スライドガイドの点検･注油

［219・222］

◆ 点検

スイッチキーを［入］位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，動きが停まったり遅いと感じたときはスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油個所



1ARADBIAP119B

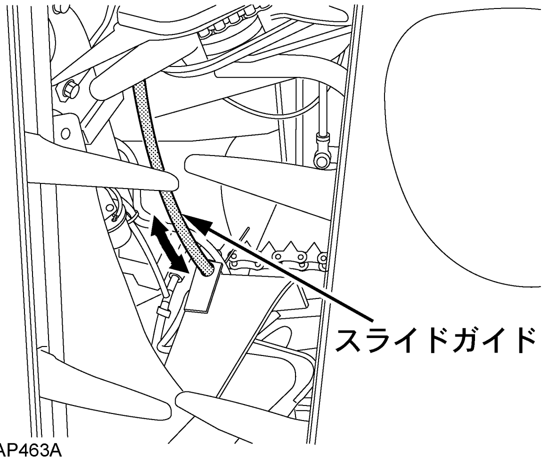
［219・222］

［320・323］

◆ 点検

スイッチキーを［入］位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときはスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油個所



1ARADAFAP463A

［320・323］

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
（126 ページ参照）
3. アンローダを収納します。**［G 仕様］**
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 各グリースニップルには，高圧水を直接かけないでください。水が浸入し，故障の原因となります。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **［給・注油（水）一覧表］**（145 ページ）を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ **［219・222］** の刈取スライド軸，スライドブッシュの当たり面付近には，さびが発生しないように洗車後はじゅうぶんグリースを塗布してください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないように洗車後にじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（154ページ参照）
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（154ページ参照）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。（冷却水容量……3.3L）
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダキャップを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げてアンローダを折りたたみ収納します。**［G仕様］**
- アクセルレバーをいっぱい戻して（**［🐢］**位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは**［切］**位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

警告

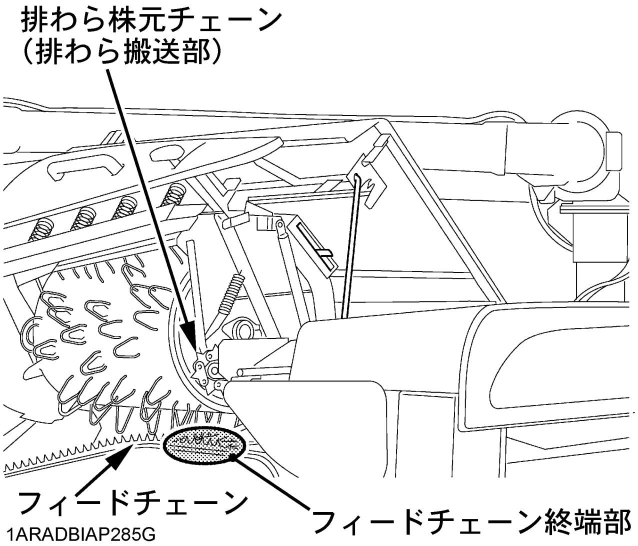
- ＊ エンジンを必ず止めてください。
- ＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣類などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
- ＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
- ＊ 刃先に直接手を触れないでください。

わらが詰まる

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

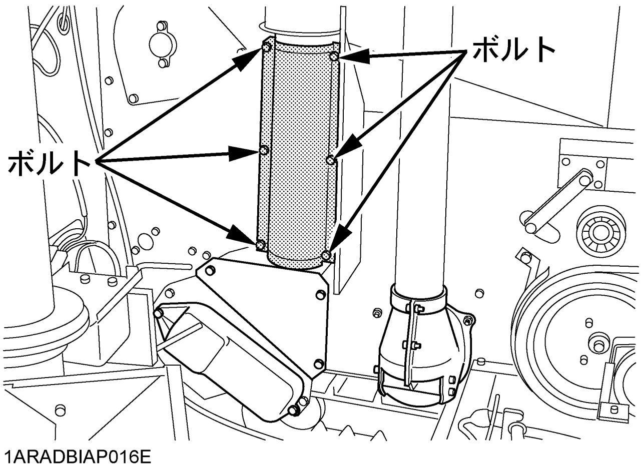
自動エンジン停止装置がはたらき，警報パネルの排ワラランプが点灯したときには，掃除してください。



1ARADBIAP285G

◆ 2 番縦スクリュ掃除口

警報パネルの２番ランプが点灯したときには，縦スクリュ掃除口のボルト６本を取外して脱着カバーを外してください。

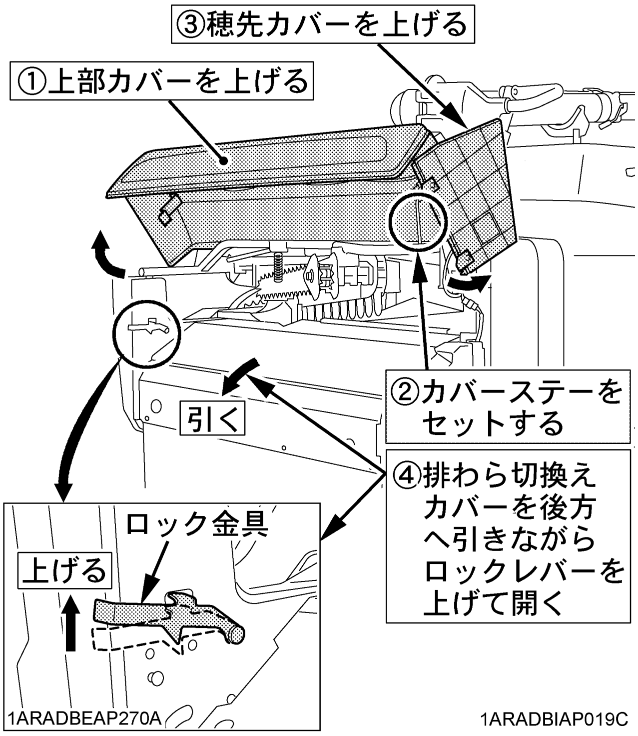


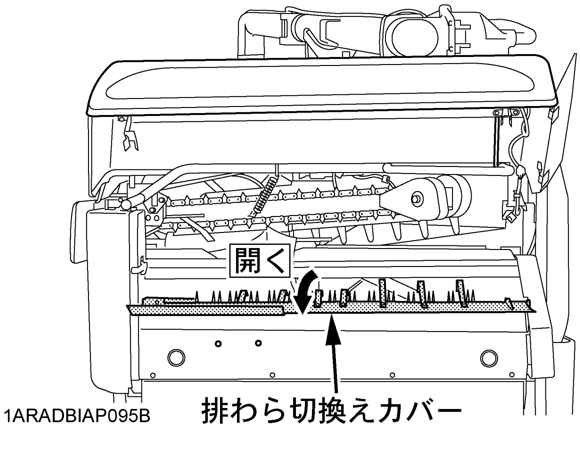
1ARADBIAP016E

◆ **カッタ部・排わらチェーン部**

自動エンジン停止装置がはたらき，警報パネルの排ワラランプが点灯したときには，次の手順で掃除してください。

1. 排わら切換えカバーを開きます。
   (1) 上部カバーを上げてカバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。
   (2) カバーロックレバーを引き，排わら切換えカバーを後方へ倒します。





補　足

＊ 必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。
＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを【入】位置にするとエンジンが止まります。

2. カバーをロックレバーを引きながら排わら切換えカバーを閉め，カバーロックレバーを確実にロックします。

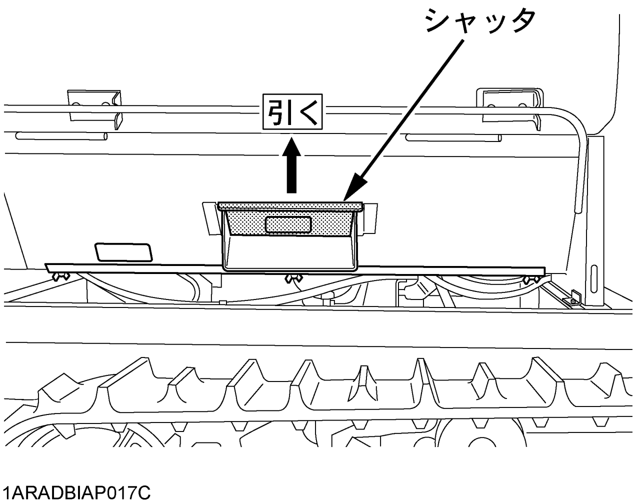
もみが詰まる

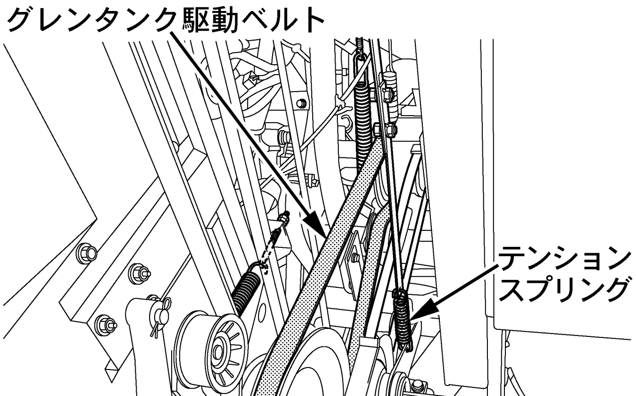
■アンローダからもみが排出されないとき

[G 仕様]

下記事項を点検し，もみ排出クラッチを【切】位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（120 ～ 126 ページ参照）し，異物を取除いてください。
2. グレンタンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きもみを排出したあと，グレンタンクをオープン（118 ページ参照）し，グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの調整（175 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。





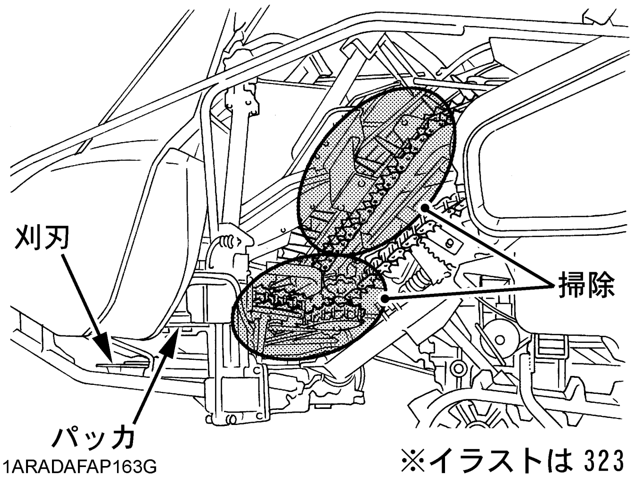
[G 仕様]

泥やわらが詰まる

■株元搬送通路の泥やわらの取除きかた

湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取り作業を行なったとき，刈取部の搬送通路が泥やわらくずでふさがったときは，取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈刃後方やパッカ下部などの搬送通路を掃除します。

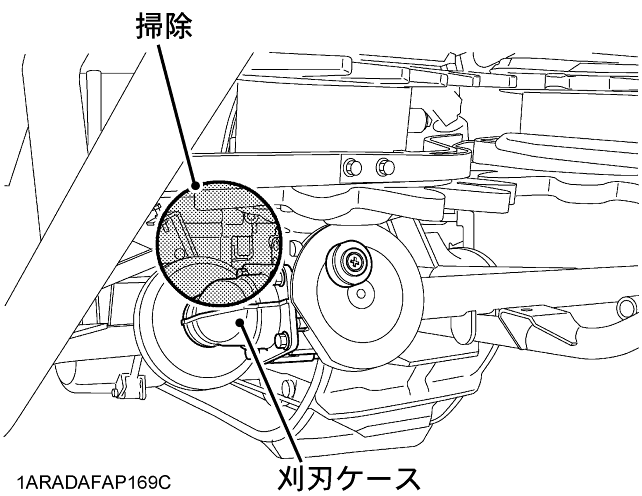


※イラストは 323

[219・222]

刈刃から異音がするときは，刈刃ケース後部を点検し，わらの巻付きによるわら溜まりがあるときは，掃除して取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 必要に応じて刈刃を取外します。（181 ページ参照）
3. 溜まっているわらを取除きます。
4. 刈刃を取付けます。

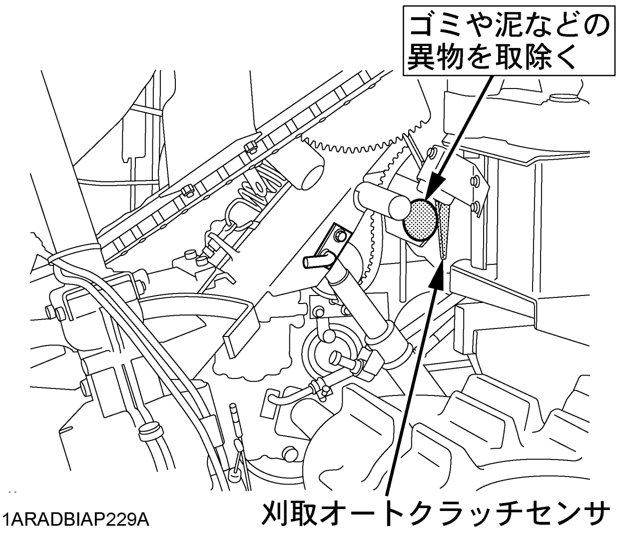


[219・222]

■刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた

刈取作業中に刈取部を上昇しても刈取部及び刈取搬送が停止しないときは，刈取オートクラッチセンサのセンサ部にわらくずなどのゴミや泥などが溜まってセンサが作動不良の状態になっている場合がありますので，センサ部に溜まっているゴミや泥などを掃除して取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈取オートクラッチセンサに溜まっているゴミや泥などを取除きます。
3. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
4. エンジンを停止したあと，刈取オートクラッチセンサが戻っている（上がっている）ことを確認します。

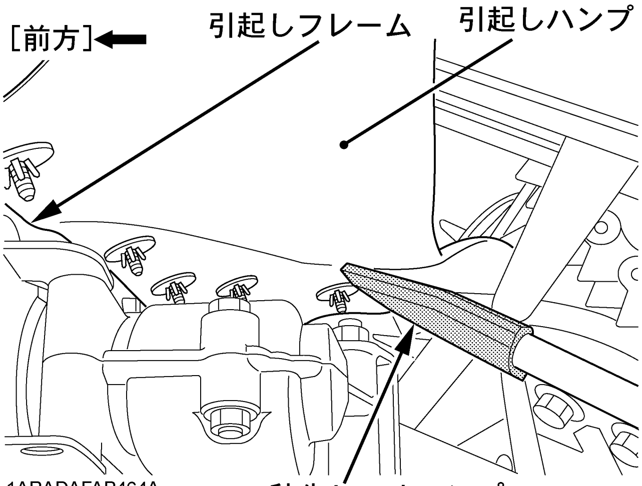


■穂先搬送先端部のわらの取除きかた

1. エンジンを停止します。
2. 穂先搬送先端部に詰まったわらを取除きます。

補　足

＊ 掃除を行なったとき，引起しフレーム左側の裏面に取付けている左引起しハンプと穂先フレーム先端に取付けている穂先レールハンプの位置が下図のようになっているか確認し，ハンプを正しくセットしてください。



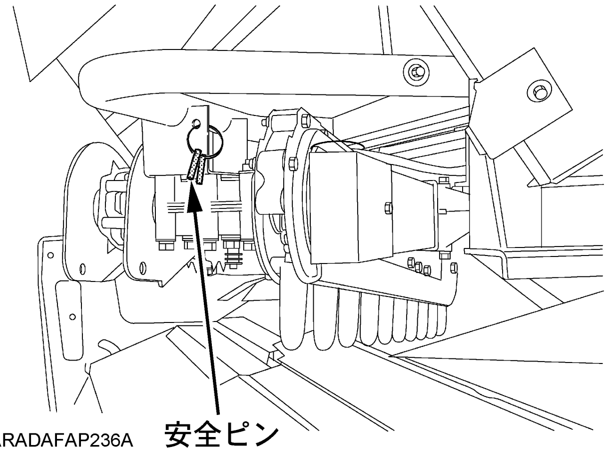
その他

■安全ピンについて

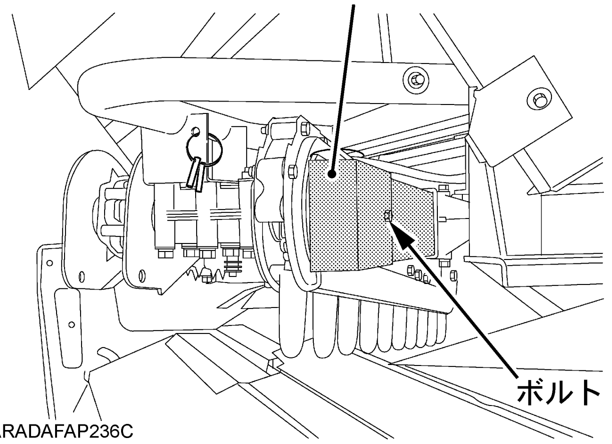
排わら処理を行なっているとき，排わら穂先・株元各チェーンに負荷が掛かると，チェーンの駆動部に入っている安全ピンが切れてチェーンが動かなくなりますので，刈取り作業状態で排わら穂先・株元各チェーンが動かないときは購入先に連絡してください。

補　足

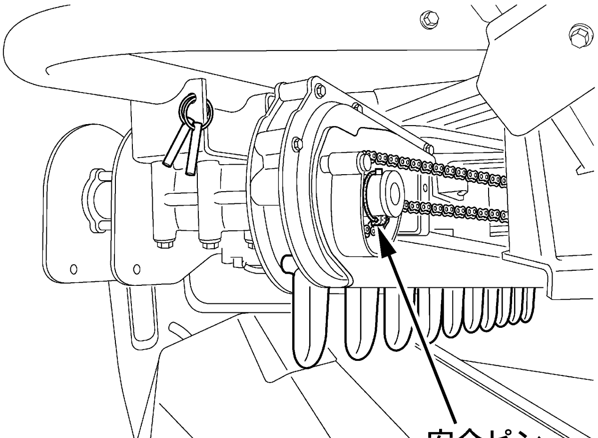
＊ 予備の安全ピンを出荷時は下記のところに設置しています。



＊ 安全ピンはボルト 1 本を取外してカバーを取外すと，下図の位置に取付けています。



1ARADAFAP236C



1ARADAFAP164C

＊ 排わら穂先・株元各チェーンが動かなくなるとフィードチェーン終端部がわら詰まりにより，自動エンジン停止がはたらき，エンジンが停止しますので，わら詰まりを取除いたあと，脱こく部を動かしてチェーンの作動状態を確認してください。

付表

主要諸元

農機型式名			クボタ R0504〔G〕			
商品名			ARN219〔G〕			
区分		ホッパ仕様	DXW［W2］	−	−	−
		G仕様	DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
機体寸法	全長(mm)		3250			
	全幅(mm)		1660			
	全高(mm)	ホッパ仕様	1710	−		
		G仕様	1940			
機体質量(kg)		ホッパ仕様	1050［1075］	−	−	−
		G仕様	1155［1180］	1205［1230］	1160［1185］	1210［1235］
エンジン	型式名		D1105-E3-C-15			
	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル			
	総排気量(L{cc})		1.123{1123}			
	出力／回転速度(kW{PS}/rpm)		13.9{19.0}/2500			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量(L)		24			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ(V･Ah)		12･36〔50B24L-MF〕			
走行部	クローラ 中心距離(mm)	ホッパ仕様	825［855］	−	−	−
		G仕様	825［855］			
	クローラ 幅×接地長(mm)	ホッパ仕様	330×1160［400×1160］	−	−	−
		G仕様	330×1160［400×1160］			
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	ホッパ仕様	13.4{0.14}［11.4{0.12}］	−	−	−
		G仕様	14.8{0.15}［12.5{0.13}］	15.4{0.16}［13.0{0.13}］	14.9{0.15}［12.5{0.13}］	15.5{0.16}［13.1{0.13}］
	最低地上高(mm)		180［185］			
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段･後進無段〔副変速各２段〕			
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕移動：0〜1.62 作業：0.17〜0.90			
		後進	〔副変速〕移動：0〜1.13 作業：0〜0.63			
	旋回方式		BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕			
刈取部	刈取り条数(条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		820			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅(mm)		750			
	変速段数(段)		〔定速〕2			
	刈高さ範囲(mm)		35〜150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
	刈取横スライド量(mm)		190			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ･単胴･軸流式			
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×600			
		回転速度(rpm)	525			
	処理胴	径×幅(mm)	190×100〔ツースバー処理方式〕			
		回転速度(rpm)	1170			
	２番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ(mm)	510×1140			
	選別方式		揺動･圧風･全幅吸引			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0504〔G〕			
商品名			ARN219〔G〕			
区分	ホッパ仕様		DXW［W2］	−	−	−
	G仕様		DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
こく粒処理部	G仕様	排出方式	スクリュコンベア式			
		タンク容量(L{袋})	590{約12}　〔1袋約50L〕			
		旋回範囲(度)・旋回方式	255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
		昇降範囲(度)・昇降方式	0〔水平〕〜45・油圧式			
		排出高さ〔作業時〕(mm)	1795〜4310			
		排出長さ〔作業時〕(mm)	2235〜3295			
	ホッパ仕様	ホッパ　容量(L{袋})	100{約2}〔1袋約50L〕			
		ホッパ　吐出口数(口)	2			
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：35mm又は，50mm又は，50/150mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃〕			
	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機　●カッタ後部ドロッパ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃〕●簡易拡散装置			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○	○	○
		自動車体水平制御	−	○	−	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○
		アンローダ［G仕様］　自動旋回装置	○	○	○	○
		アンローダ［G仕様］　排出位置選択	−	−	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○
	刈取部横スライド装置〔スライドヘッダ〕		○	○	○	○
	刈取突込み防止装置		○	○	○	○
	左分草かん開閉装置		○	○	○	○
	枕こぎオートプレート		○	○	○	○
	バイブロシャッタ［G仕様］		−	−	○	○
	アンローダリモコン［G仕様］		△	△	○	○
	パワークラッチ〔刈取〕		○	○	○	○
	パワークラッチ〔もみ排出〕［G仕様］		△	△	○	○
	集中注油装置〔手動〕		○	○	○	○
	防じんカバー		△	△	○	○
	ボイスナビ〔音声警報〕		−	−	○	○
	警報装置		燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，2番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕			
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550〜1300			
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			18〜6{34〜102}			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　−：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

<table>
<tr><td colspan="2">農機型式名</td><td colspan="4">クボタ　R0503G</td></tr>
<tr><td colspan="2">商品名</td><td colspan="4">ARN222G</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td>DXW［W2］</td><td>DXMW［W2］</td><td>HDW［W2］</td><td>HDMW［W2］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td>全長 (mm)</td><td colspan="4">3250</td></tr>
<tr><td>全幅 (mm)</td><td colspan="4">1660</td></tr>
<tr><td>全高 (mm)</td><td colspan="4">1940</td></tr>
<tr><td colspan="2">機体質量 (kg)</td><td>1175［1200］</td><td>1225［1250］</td><td>1180［1205］</td><td>1230［1255］</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td>型式名</td><td colspan="4">D1105-E3-C-17</td></tr>
<tr><td>種類</td><td colspan="4">水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル</td></tr>
<tr><td>総排気量 (L{cc})</td><td colspan="4">1.123{1123}</td></tr>
<tr><td>出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)</td><td colspan="4">16.2{22.0}/2800</td></tr>
<tr><td>使用燃料</td><td colspan="4">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>燃料タンク容量 (L)</td><td colspan="4">24</td></tr>
<tr><td>始動方式</td><td colspan="4">セルモータ式</td></tr>
<tr><td>バッテリ (V・Ah)</td><td colspan="4">12.36〔50B24L-MF〕</td></tr>
<tr><td rowspan="10">走行部</td><td>クローラ 中心距離 (mm)</td><td colspan="4">825［855］</td></tr>
<tr><td>クローラ 幅×接地長 (mm)</td><td colspan="4">330×1160［400×1160］</td></tr>
<tr><td>クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm^2})</td><td>15.0{0.15}
[12.7{0.13}]</td><td>15.7{0.16}
[13.2{0.13}]</td><td>15.1{0.15}
[12.7{0.13}]</td><td>15.8{0.16}
[13.3{0.14}]</td></tr>
<tr><td>最低地上高 (mm)</td><td colspan="4">180［185］</td></tr>
<tr><td>変速方式</td><td colspan="4">油圧モータ式〔HST〕</td></tr>
<tr><td>変速段数</td><td colspan="4">前進無段・後進無段〔副変速各２段〕</td></tr>
<tr><td>走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕 前進</td><td colspan="4">〔副変速〕移動：0～1.80　作業：0.19～1.00</td></tr>
<tr><td>走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕 後進</td><td colspan="4">〔副変速〕移動：0～1.26　作業：0～0.70</td></tr>
<tr><td>旋回方式</td><td colspan="4">BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕</td></tr>
<tr><td rowspan="8">刈取部</td><td>刈取り条数 (条)</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)</td><td colspan="4">820</td></tr>
<tr><td>刈取装置形式</td><td colspan="4">往復動刃式</td></tr>
<tr><td>刃幅 (mm)</td><td colspan="4">750</td></tr>
<tr><td>変速段数 (段)</td><td colspan="4">〔定速〕２</td></tr>
<tr><td>刈高さ範囲 (mm)</td><td colspan="4">35～150</td></tr>
<tr><td>こぎ深さ調節方式</td><td colspan="4">電動モータ式</td></tr>
<tr><td>刈取横スライド量 (mm)</td><td colspan="4">190</td></tr>
<tr><td rowspan="8">脱こく部</td><td>脱こく方式</td><td colspan="4">下こぎ・単胴・軸流式</td></tr>
<tr><td>こぎ胴 径×幅 (mm)</td><td colspan="4">390×600</td></tr>
<tr><td>こぎ胴 回転速度 (rpm)</td><td colspan="4">540</td></tr>
<tr><td>処理胴 径×幅 (mm)</td><td colspan="4">190×100〔ツースバー処理方式〕</td></tr>
<tr><td>処理胴 回転速度 (rpm)</td><td colspan="4">1200</td></tr>
<tr><td>２番還元方式</td><td colspan="4">スクリュ式</td></tr>
<tr><td>揺動板 幅×長さ (mm)</td><td colspan="4">510×1140</td></tr>
<tr><td>選別方式</td><td colspan="4">揺動・圧風・全幅吸引</td></tr>
</table>

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名	クボタ　R0503G			
商品名	ARN222G			
区分	DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
こく粒処理部　排出方式	スクリュコンベア式			
こく粒処理部　タンク容量（L{袋}）	590{約12}〔1袋約50L〕			
こく粒処理部　旋回範囲（度）・旋回方式	255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
こく粒処理部　昇降範囲（度）・昇降方式	0〔水平〕～45・油圧式			
こく粒処理部　排出高さ〔作業時〕（mm）	1795～4310			
こく粒処理部　排出長さ〔作業時〕（mm）	2235～3295			
わら処理部　工場出荷仕様	●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：35mm又は，50mm又は,50/150mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃〕			
わら処理部　オプション	●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機　●カッタ後部ドロッパ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃〕●簡易拡散装置			
諸装置　自動化装置　自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　自動車体水平制御	－	○	－	○
諸装置　自動化装置　自動脱こく制御	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　アンローダ　自動旋回装置	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　アンローダ　排出位置選択	－	－	○	○
諸装置　自動化装置　自動エンジン停止装置	○	○	○	○
諸装置　刈取オープン	○	○	○	○
諸装置　刈取部横スライド装置〔スライドヘッダ〕	○	○	○	○
諸装置　刈取突込み防止装置	○	○	○	○
諸装置　左分草かん開閉装置	○	○	○	○
諸装置　枕こぎオートプレート	○	○	○	○
諸装置　バイブロシャッタ	－	－	○	○
諸装置　アンローダリモコン	△	△	○	○
諸装置　パワークラッチ〔刈取〕	○	○	○	○
諸装置　パワークラッチ〔もみ排出〕	△	△	○	○
諸装置　集中注油装置〔手動〕	○	○	○	○
諸装置　防じんカバー	△	△	○	○
諸装置　ボイスナビ〔音声警報〕	－	－	○	○
諸装置　警報装置	燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，2番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕			
適応作物範囲〔全長〕（mm）	550～1300			
倒伏適応性（度）	追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕（a/hr{分/10a}）	20～6{31～102}			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

農機型式名		クボタ　R0502G			
商品名		ARN320G			
区分		DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
機体寸法	全長（mm）	3470			
	全幅（mm）	1690			
	全高（mm）	1970			
機体質量（kg）		1275［1295］	1325［1345］	1280［1300］	1330［1350］
エンジン	型式名	D1105-E3-C-16			
	種類	水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル			
	総排気量（L{cc}）	1.123{1123}			
	出力／回転速度（kW{PS}/rpm）	14.7{20.0}/2500			
	使用燃料	ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量（L）	24			
	始動方式	セルモータ式			
	バッテリ（V・Ah）	12.36〔50B24L-MF〕			
走行部	クローラ　中心距離（mm）	890［910］			
	クローラ　幅×接地長（mm）	360×1250［400×1250］			
	クローラ　平均接地圧（kPa{kgf/cm^2}）	13.9{0.14}［12.7{0.13}］	14.4{0.15}［13.2{0.13}］	13.9{0.14}［12.7{0.13}］	14.5{0.15}［13.2{0.14}］
	最低地上高（mm）	205［210］			
	変速方式	油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数	前進無段・後進無段〔副変速各２段〕			
	走行速度（m/s）〔エンジン定格回転速度時〕　前進	〔副変速〕移動：0～1.44　作業：0.15～0.80			
	走行速度（m/s）〔エンジン定格回転速度時〕　後進	〔副変速〕移動：0～1.01　作業：0～0.56			
	旋回方式	BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕			
刈取部	刈取り条数（条）	3			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕（mm）	1175			
	刈取装置形式	往復動刃式			
	刃幅（mm）	1100			
	変速段数（段）	〔定速〕２			
	刈高さ範囲（mm）	35～150			
	こぎ深さ調節方式	電動モータ式			
脱こく部	脱こく方式	下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴　径×幅（mm）	390×600			
	こぎ胴　回転速度（rpm）	540			
	処理胴　径×幅（mm）	190×100〔ツースバー処理方式〕			
	処理胴　回転速度（rpm）	1200			
	２番還元方式	スクリュ式			
	揺動板　幅×長さ（mm）	510×1140			
	選別方式	揺動・圧風・全幅吸引			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名	クボタ R0502G			
商品名	ARN320G			
区分	DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
こく粒処理部　排出方式	スクリュコンベア式			
こく粒処理部　タンク容量（L{袋}）	650{約13}〔１袋約50L〕			
こく粒処理部　旋回範囲（度）・旋回方式	255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
こく粒処理部　昇降範囲（度）・昇降方式	0〔水平〕～45・油圧式			
こく粒処理部　排出高さ〔作業時〕(mm)	1820～4335			
こく粒処理部　排出長さ〔作業時〕(mm)	2235～3295			
わら処理部　工場出荷仕様	●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：35mm又は，50mm又は,50/150mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃〕			
わら処理部　オプション	●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機　●カッタ後部ドロッパ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃〕●簡易拡散装置			
諸装置　自動化装置　自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　自動車体水平制御	－	○	－	○
諸装置　自動化装置　自動脱こく制御	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　アンローダ　自動旋回装置	○	○	○	○
諸装置　自動化装置　アンローダ　排出位置選択	－	－	○	○
諸装置　自動化装置　自動エンジン停止装置	○	○	○	○
諸装置　刈取オープン	○	○	○	○
諸装置　刈取突込み防止装置	○	○	○	○
諸装置　左分草かん開閉装置	○	○	○	○
諸装置　枕こぎオートプレート	○	○	○	○
諸装置　バイブロシャッタ	－	－	○	○
諸装置　アンローダリモコン	△	△	○	○
諸装置　パワークラッチ〔刈取〕	○	○	○	○
諸装置　パワークラッチ〔もみ排出〕	△	△	○	○
諸装置　集中注油装置〔手動〕	○	○	○	○
諸装置　防じんカバー	△	△	○	○
諸装置　ボイスナビ〔音声警報〕	－	－	○	○
諸装置　警報装置	燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，２番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕			
適応作物範囲〔全長〕(mm)	550～1300			
倒伏適応性（度）	追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})	23～9{27～70}			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

<table>
<tr><td colspan="2">農機型式名</td><td colspan="4">クボタ　R0501G</td></tr>
<tr><td colspan="2">商品名</td><td colspan="4">ARN323G</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td>DXW［W2］</td><td>DXMW［W2］</td><td>HDW［W2］</td><td>HDMW［W2］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td>全長（mm）</td><td colspan="4">3470</td></tr>
<tr><td>全幅（mm）</td><td colspan="4">1690</td></tr>
<tr><td>全高（mm）</td><td colspan="4">1970</td></tr>
<tr><td colspan="2">機体質量（kg）</td><td>1295［1315］</td><td>1345［1365］</td><td>1300［1320］</td><td>1350［1370］</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td>型式名</td><td colspan="4">D1105-E3-C-17ARN</td></tr>
<tr><td>種類</td><td colspan="4">水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル</td></tr>
<tr><td>総排気量（L{cc}）</td><td colspan="4">1.123{1123}</td></tr>
<tr><td>出力／回転速度（kW{PS}/rpm）</td><td colspan="4">16.9{23.0}/2800</td></tr>
<tr><td>使用燃料</td><td colspan="4">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>燃料タンク容量（L）</td><td colspan="4">24</td></tr>
<tr><td>始動方式</td><td colspan="4">セルモータ式</td></tr>
<tr><td>バッテリ（V・Ah）</td><td colspan="4">12.36〔50B24L-MF〕</td></tr>
<tr><td rowspan="10">走行部</td><td>クローラ　中心距離（mm）</td><td colspan="4">890［910］</td></tr>
<tr><td>クローラ　幅×接地長（mm）</td><td colspan="4">360×1250［400×1250］</td></tr>
<tr><td>クローラ　平均接地圧（kPa{kgf/cm²}）</td><td>14.1{0.14}
[12.9{0.13}]</td><td>14.7{0.15}
[13.4{0.14}]</td><td>14.2{0.14}
[12.9{0.13}]</td><td>14.7{0.15}
[13.4{0.14}]</td></tr>
<tr><td>最低地上高（mm）</td><td colspan="4">205［210］</td></tr>
<tr><td>変速方式</td><td colspan="4">油圧モータ式〔HST〕</td></tr>
<tr><td>変速段数</td><td colspan="4">前進無段・後進無段〔副変速各２段〕</td></tr>
<tr><td>走行速度（m/s）〔エンジン定格回転速度時〕　前進</td><td colspan="4">〔副変速〕移動：0～1.62　　作業：0.17～0.90</td></tr>
<tr><td>走行速度（m/s）〔エンジン定格回転速度時〕　後進</td><td colspan="4">〔副変速〕移動：0～1.13　　作業：0～0.63</td></tr>
<tr><td>旋回方式</td><td colspan="4">BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕</td></tr>
<tr><td rowspan="7">刈取部</td><td>刈取り条数（条）</td><td colspan="4">3</td></tr>
<tr><td>刈幅〔デバイダ先端間隔〕（mm）</td><td colspan="4">1175</td></tr>
<tr><td>刈取装置形式</td><td colspan="4">往復動刃式</td></tr>
<tr><td>刃幅（mm）</td><td colspan="4">1100</td></tr>
<tr><td>変速段数（段）</td><td colspan="4">〔定速〕２</td></tr>
<tr><td>刈高さ範囲（mm）</td><td colspan="4">35～150</td></tr>
<tr><td>こぎ深さ調節方式</td><td colspan="4">電動モータ式</td></tr>
<tr><td rowspan="8">脱こく部</td><td>脱こく方式</td><td colspan="4">下こぎ・単胴・軸流式</td></tr>
<tr><td>こぎ胴　径×幅（mm）</td><td colspan="4">390×600</td></tr>
<tr><td>こぎ胴　回転速度（rpm）</td><td colspan="4">540</td></tr>
<tr><td>処理胴　径×幅（mm）</td><td colspan="4">190×100〔ツースバー処理方式〕</td></tr>
<tr><td>処理胴　回転速度（rpm）</td><td colspan="4">1200</td></tr>
<tr><td>２番還元方式</td><td colspan="4">スクリュ式</td></tr>
<tr><td>揺動板　幅×長さ（mm）</td><td colspan="4">510×1140</td></tr>
<tr><td>選別方式</td><td colspan="4">揺動・圧風・全幅吸引</td></tr>
</table>

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0501G			
商品名			ARN323G			
区分			DXW［W2］	DXMW［W2］	HDW［W2］	HDMW［W2］
こく粒処理部	排出方式		スクリュコンベア式			
	タンク容量（L{袋}）		650{約13}〔1袋約50L〕			
	旋回範囲（度）・旋回方式		255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
	昇降範囲（度）・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧式			
	排出高さ〔作業時〕（mm）		1820～4335			
	排出長さ〔作業時〕（mm）		2235～3295			
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：35mm又は，50mm又は，50/150mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃〕			
	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機　●カッタ後部ドロッパ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃〕●簡易拡散装置			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○	○	○
		自動車体水平制御	－	○	－	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○
		アンローダ　自動旋回装置	○	○	○	○
		アンローダ　排出位置選択	－	－	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○
	刈取突込み防止装置		○	○	○	○
	左分草かん開閉装置		○	○	○	○
	枕こぎオートプレート		○	○	○	○
	バイブロシャッタ		－	－	○	○
	アンローダリモコン		△	△	○	○
	パワークラッチ〔刈取〕		○	○	○	○
	パワークラッチ〔もみ排出〕		△	△	○	○
	集中注油装置〔手動〕		○	○	○	○
	防じんカバー		△	△	○	○
	ボイスナビ〔音声警報〕		－	－	○	○
	警報装置		燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，2番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕			
適応作物範囲〔全長〕（mm）			550～1300			
倒伏適応性（度）			追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕（a/hr{分/10a}）			26～9{24～70}			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書 1
＊ メンテナンスブック 1 **［320・323］**
＊ 取扱説明確認カード 1
＊ 取扱説明書 1
＊ 本機カバー 1
＊ もみ袋 2 **［ホッパ仕様］**
＊ デバイダ 1 式
＊ デバイダキャップ 1 式
＊ 前分草ガイド 1 **［320・323］**

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品　番	品　名	対象型式
5H565-00000	ARNM222 スイスイデバイダ	219・222
5H564-00000	ARNM323 スイスイデバイダ	320・323

■刈取り防じんカバー

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名	対象型式
5K250-9130-0	オプション， アッシ（ボウジン）	DX 仕様

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品　番	品　名	対象型式
5K250-9110-0	コウカンブヒン， アッシ（シュシヨウ）	全型式

■キャノピ

グレンタンク装着型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名	対象型式
5H572-00000	CPN222 キャノピ	219・222 G 仕様
5H577-00000	CPN323 キャノピ	320・323

◆ こく粒処理部

■アンローダリモコン

もみ排出がスイッチ操作で行なえます。また，アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5H570-9510-0	パワーユニット， キット（GPK）	G 仕様

■作業灯ランプ

● アンローダ先端部から照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H550-9610-0	ランプ， アッシ（G，サギョウトウ）	G仕様

● ホッパ吐出口を照らします。

品　番	品　名	対象型式
5K253-9120-0	ランプ，アッシ（ホッパ）	ホッパ仕様

● 脱こく部入口を照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H550-9210-0	ランプ， アッシ（サギョウトウ）	G仕様
5H553-9210-0	ランプ， アッシ（サギョウトウ）	ホッパ仕様

◆ 排わら処理部

■ 35mm・50mm 切断カッタ

品　番	品　　名	対象型式
5F565-00000	S-ARN323 カッタ（50mm 切断）	全型式
5F567-00000	SS-ARN323 スーパカッタ （35mm 切断）	

■ 50/150mm 切断長切換えカッタ

わらの切断長さがレバー１本で簡単に約 50mm と約 150mm に切換えができます。

品　番	品　　名	対象型式
5F566-00000	S-ARN323C 切換えカッタ （50/150mm 切断）	全型式

■セラミック切断刃

品　番	品　　名	個数／台		
		50mm 切断	35mm 切断	50/105mm 切断
57748-91120	セツダンバ （130×17セラミック）	－	－	11
57748-91110	セツダンバ （150×17セラミック）	16	26	5

■カッタ後部標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57960-00000	K-N323SY	全型式

■カッタ後部ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57970-00000	K-N323SR	全型式

■カッタ後部ドロッパ

品　番	品　名	対象型式
5F906-00000	DARN323	全型式

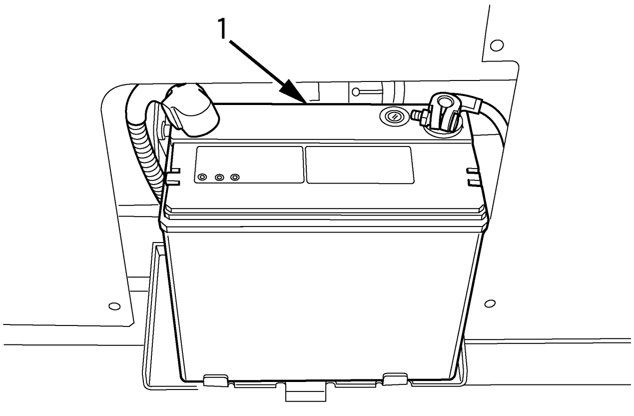
■簡易拡散装置

わら処理部で切わらの拡散と条散布の作業が行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5F531-9120-0	カクサン，アッシ（カンイ）	全型式

消耗部品(純正部品を使いましょう)

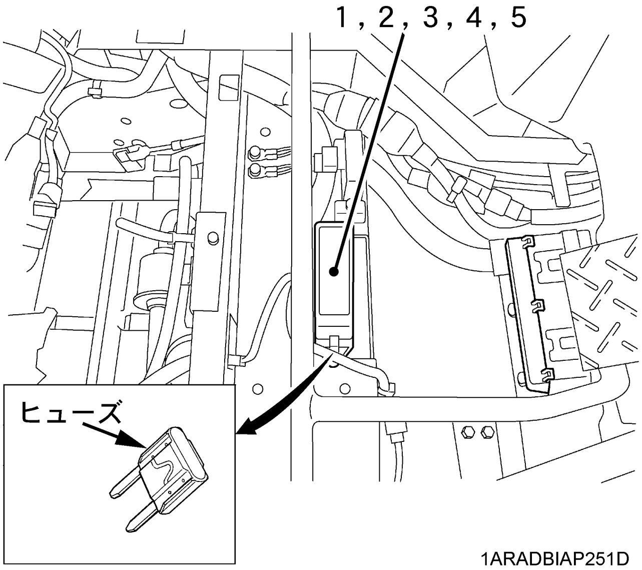
◆ バッテリ



1ARADBIAP159D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ (50B24L-MF)	07908-25040	全型式

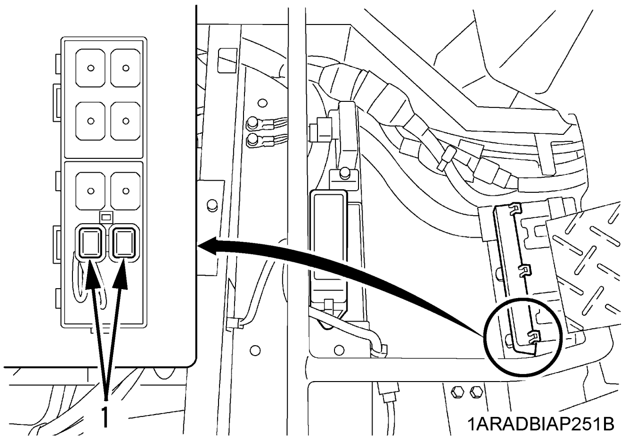
◆ ヒューズ



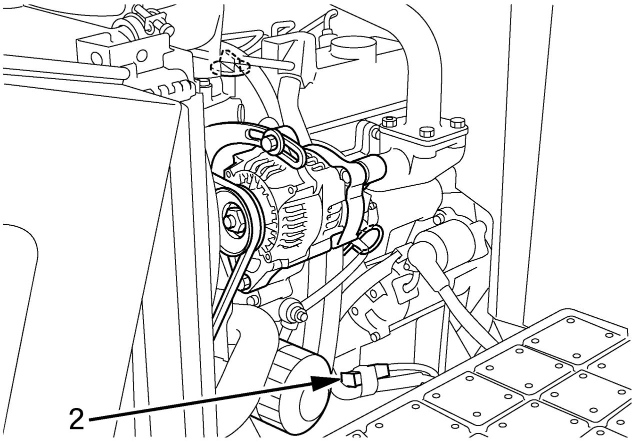
1ARADBIAP251D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ヒューズ (ミニ 5A)	T1060-3043-0	全型式
2	ヒューズ (10A, オート)	5H050-4162-0	全型式
3	ヒューズ (15A, オート)	5H050-4163-0	全型式
4	ヒューズ (20A, オート)	5H050-4164-0	全型式
5	ヒューズ (25A, オート)	5H050-4165-0	G 仕様

◆ スローブローヒューズ



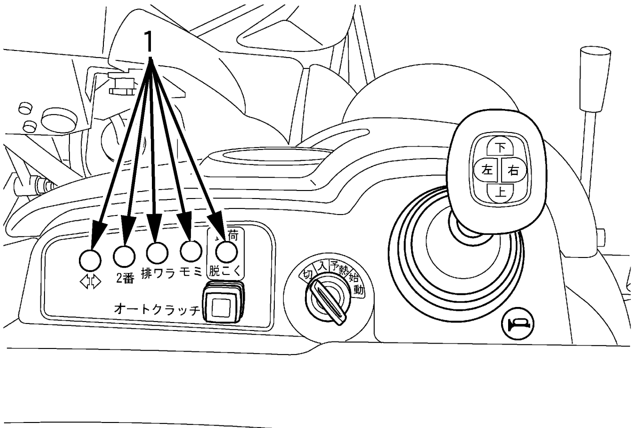
1ARADBIAP251B



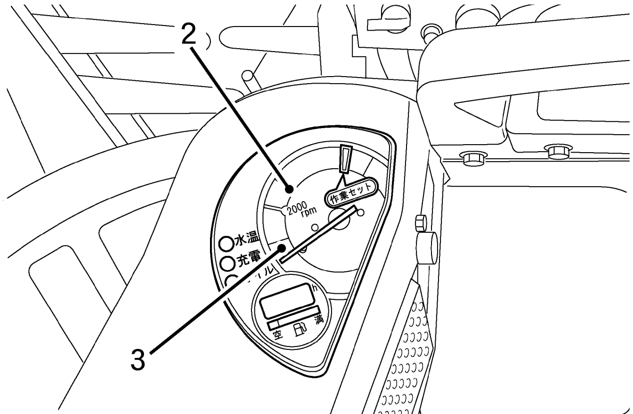
1ARADBIAP120F

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スローブローヒューズ (50A)	17478-6008-0	全型式
2	スローブローヒューズ (40A)	5H570-4139-0	全型式

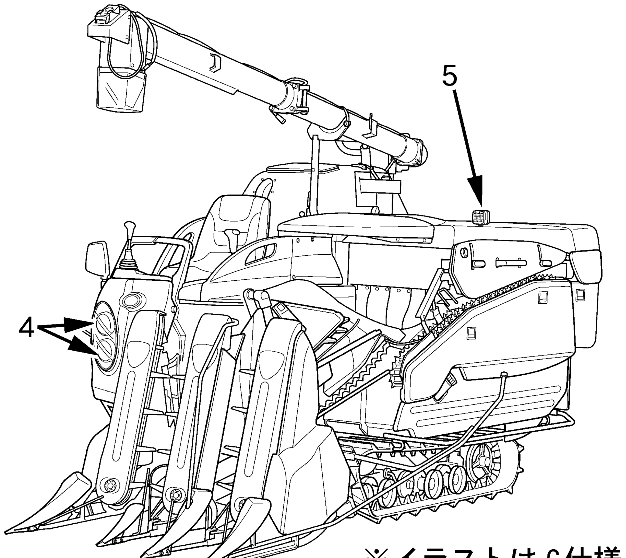
◆ ランプ（電球）



1ARADBIAP286Q



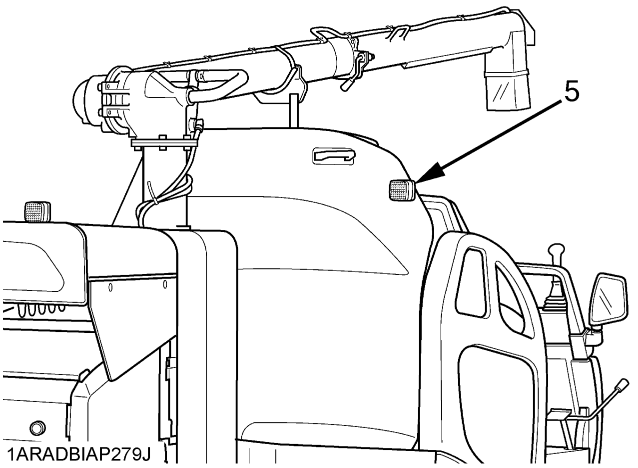
1ARADBIAP051D



1ARADBIAP275I

※イラストはG仕様

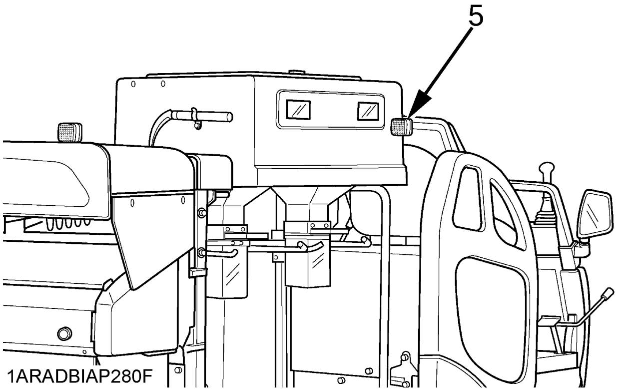
［G 仕様］



1ARADBIAP279J

［G 仕様］

［ホッパ仕様］

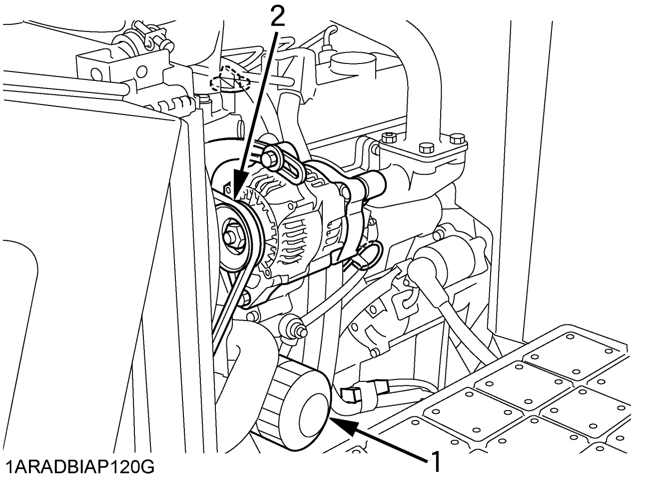


1ARADBIAP280F

［ホッパ仕様］

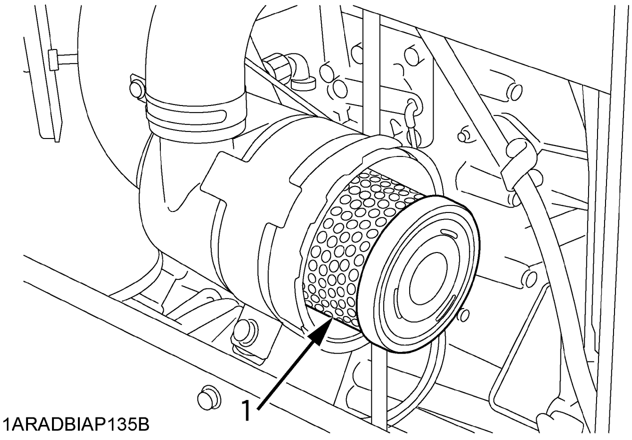
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ランプバルブ（12V, 1.7W)	5H550-4157-0	全型式
2	ランプバルブ（0.84W)	5H050-4407-0	
3	ランプバルブ（0.84Wキャップ付)	5H607-4154-0	
4	ランプバルブ	56713-4172-0	
5	バルブ（12V,21W)	T2255-9912-0	

◆ オイルフィルタカートリッジ
◆ ファン駆動ベルト（37 ブイベルト）



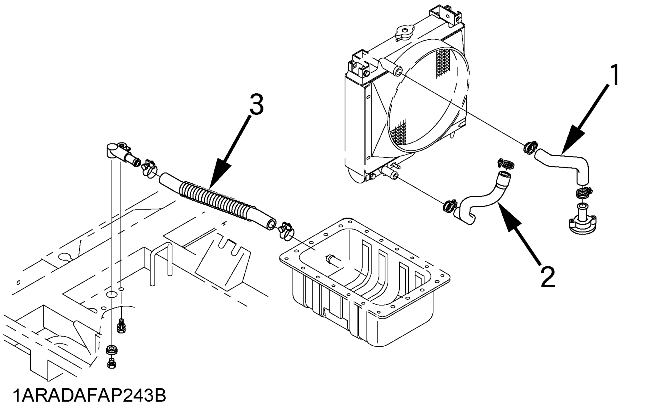
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ，アッシ（オイル，カートリッジ）	16271-3209-2	全型式
2	37V ベルト	16356-9701-0	

◆ エアクリーナエレメント



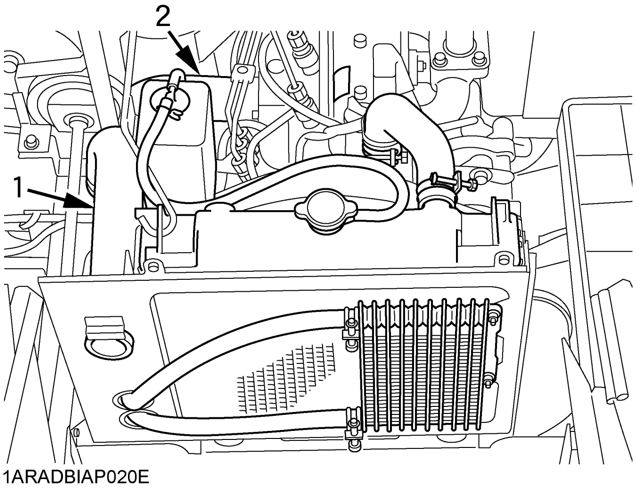
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	エレメントアッシ	6A100-8263-0	全型式

◆ ラジエータホース，
オイルドレーンゴムホース



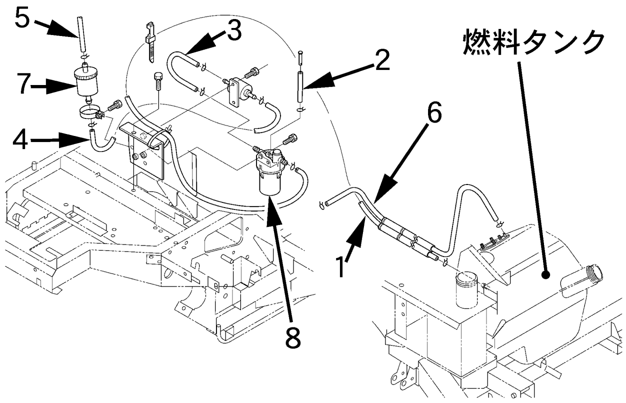
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ウォータパイプ 2	52300-2544-0	全型式
2	ホース（2，ウォータ）	52320-2539-2	
3	ハイユチューブ	56900-2591-0	

◆ インレットパイプ

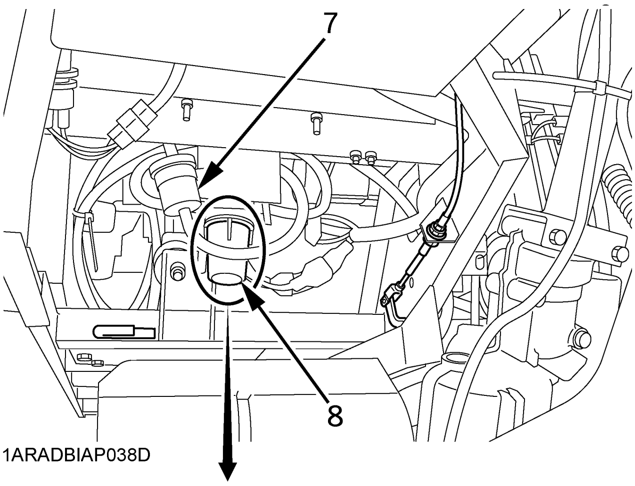


図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（インレットパイプ 1）	5H550-2542-4	全型式
2	チューブ（インレットパイプ 2）	5H550-2543-0	

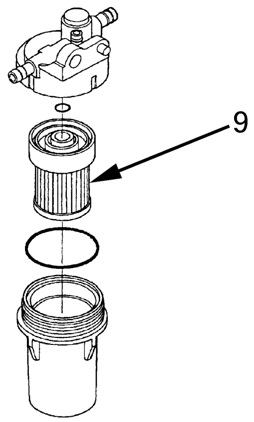
◆ **燃料パイプ**
◆ **燃料フィルタアッシ，フィルタエレメント**



1ARADBIAP220A



1ARADBIAP038D

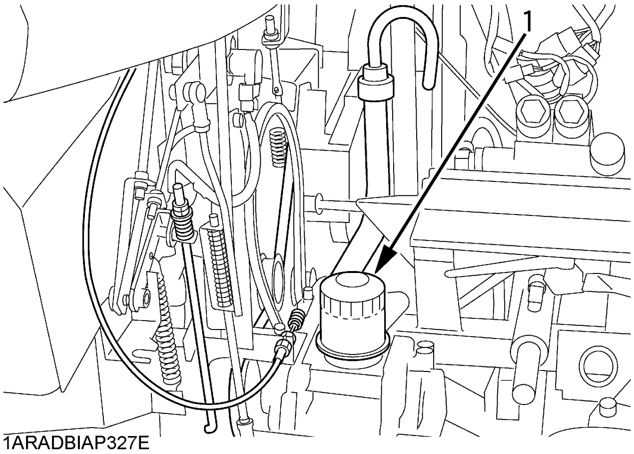


1ARADBIAP221A

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-72000	全型式
2	フューエルパイプ	09661-40040	
3	フューエルホース	09661-70200	
4	フューエルチューブ	09661-70300	
5	フューエルチューブ	09661-71000	
6	フューエルチューブ	09661-41400	
7	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	
8	フィルタ，アッシ（フューエル）	6A320-5886-2	
9	フィルタ	6A320-5993-0	

◆ ミッション･HSTオイルフィルタカートリッジ

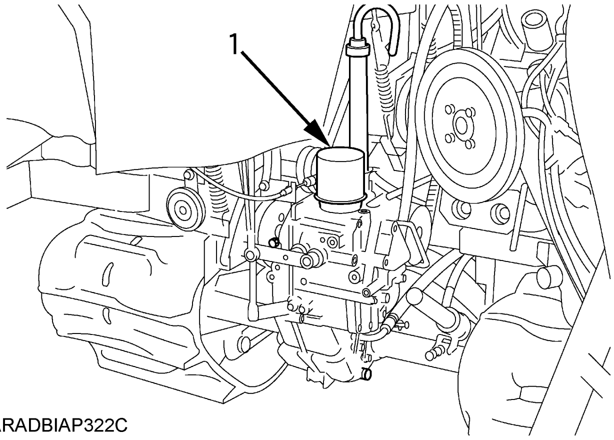
【219・222】



1ARADBIAP327E

【219・222】

【320・323】

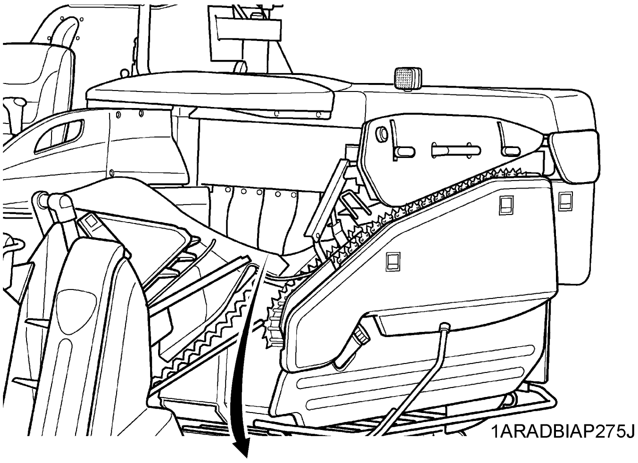


1ARADBIAP322C

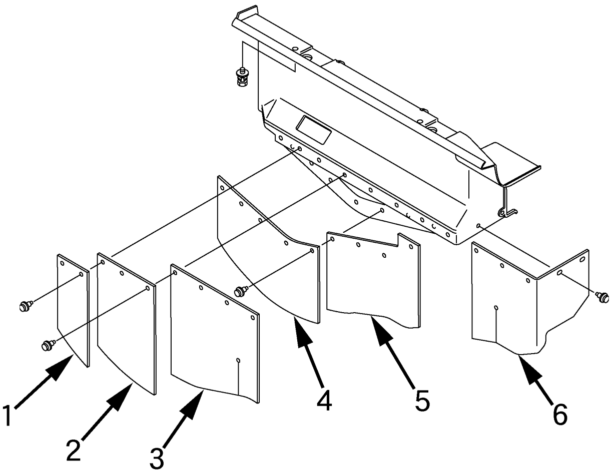
【320・323】

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル）カートリッジ	6A600-3901-2	全型式

◆ 脱こくフロントハンプ



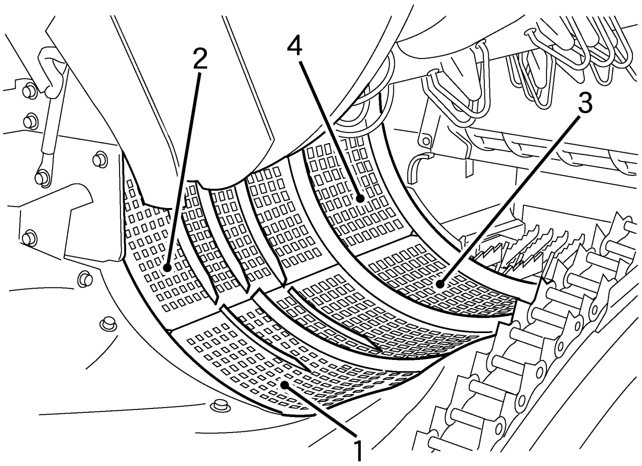
1ARADBIAP275J



1ARADAFAP323A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ（3，フロント）	5K250-6124-2	全型式
2	ハンプ（2，フロント）	5K250-6123-0	
3	ハンプ（1-1，フロント）	5K250-6121-0	
4	ハンプ（4，フロント）	5K250-6125-0	
5	ハンプ（5，フロント）	5K250-6126-0	
6	ハンプ（1-2，フロント）	5K250-6122-0	

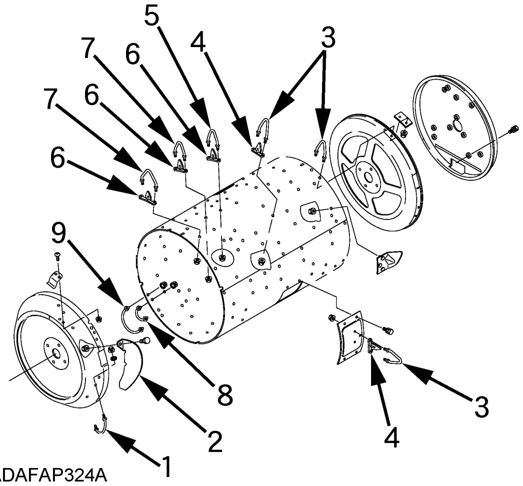
◆ 受あみ



1ARADBIAP086B

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ (9+11.5, 1)	5K257-2111-0	219・222
	コンケーブ (10+11.5, 1)	5K255-2111-0	320・323
2	コンケーブ (9+11.5, 2)	5K257-2112-0	219・222
	コンケーブ (10+11.5, 2)	5K255-2112-0	320・323
3	コンケーブ (1, ウチヌキ 10)	5K250-2113-5	全型式
4	コンケーブ (2, ウチヌキ 10)	5K250-2115-5	

◆ こぎ歯

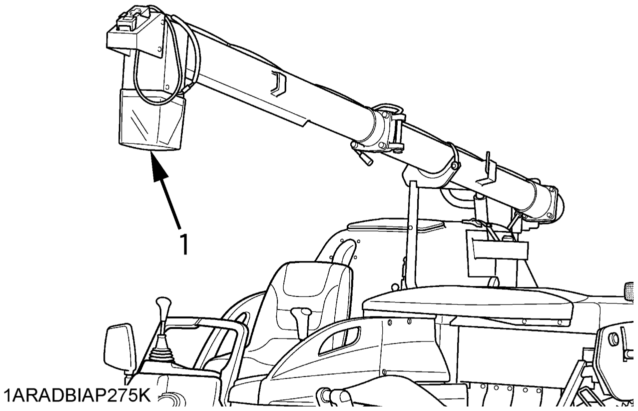


1ARADAFAP324A

図番	品　　　名	品　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	53582-7221-0	全型式
2	イタセイソシ	5K262-2415-0	
3	ナミハ	53582-7219-0	
4	イタコキハ	53567-2147-0	
5	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	
6	イタホキョウシ	53567-2146-0	
7	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	
8	ダイ３セイソシシヨウ	53514-7215-0	
9	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	

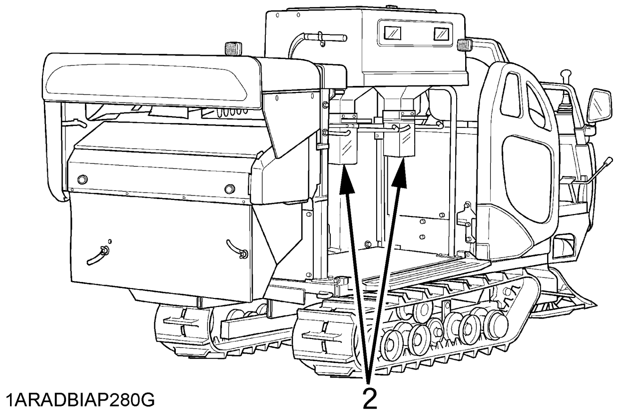
◆ 吐出口ブーツ

[G 仕様]



[G 仕様]

[ホッパ仕様]

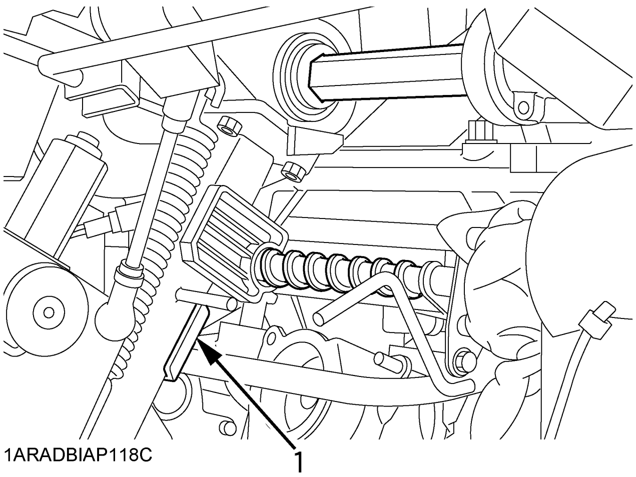


[ホッパ仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	5G030-5124-0	G 仕様
2	ブーツ（ホッパ）	53696-5323-0	ホッパ仕様

◆ スライドブッシュ

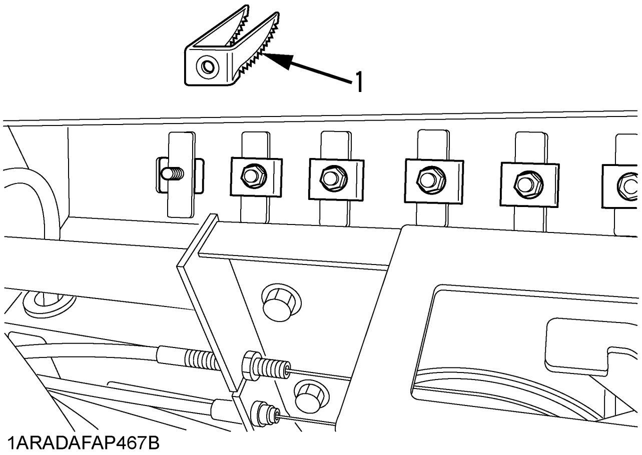
[219・222]



[219・222]

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ブッシュ（スライド）	5H552-4915-0	219・222

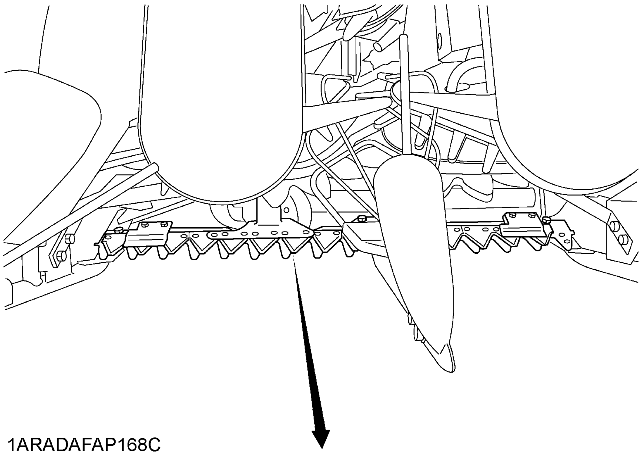
◆ わら切刃



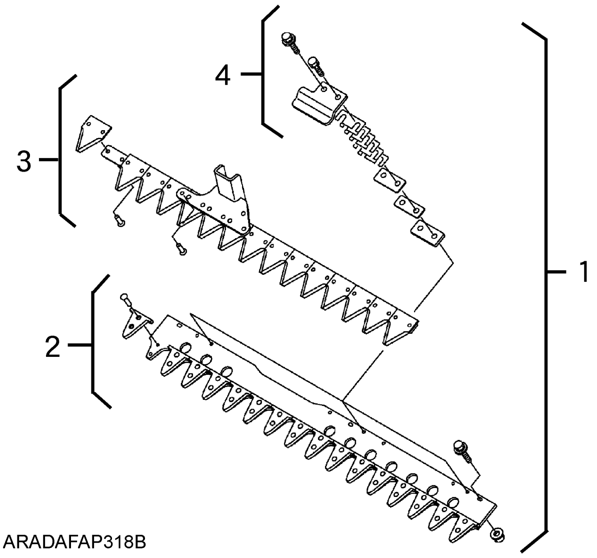
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ワラキリハ	5K250-2142-0	ホッパ仕様

◆ 刈刃

[219・222]



1ARADAFAP168C

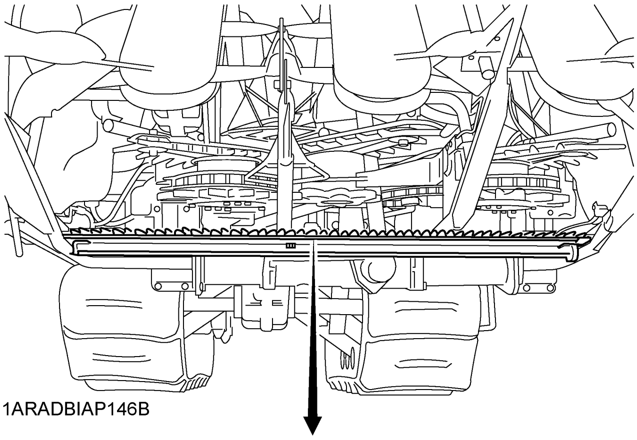


1ARADAFAP318B

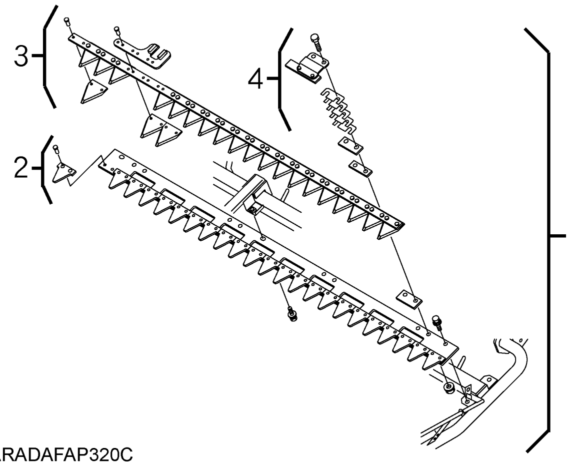
図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	5H552-5820-0
2	受刃コンプ	5H552-5830-0
3	刈刃コンプ	5H552-5840-0
4	ナイフヘッド	5H552-5841-0

[219・222]

[320・323]



1ARADBIAP146B



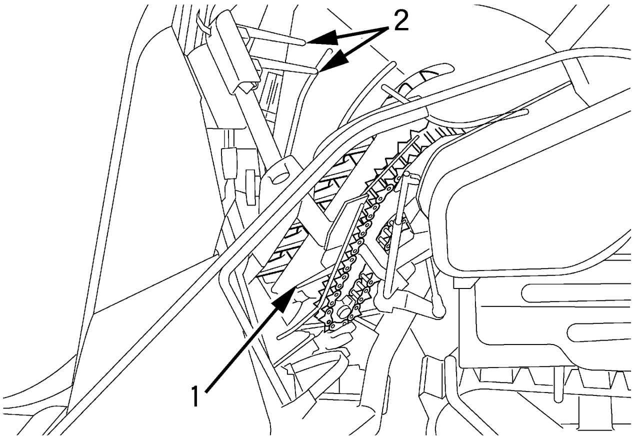
1ARADAFAP320C

図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	5H550-5801-0
2	受刃コンプ	5H550-5820-0
3	刈刃コンプ	5H550-5810-0
4	ナイフヘッド	5H550-5813-0

[320・323]

◆ 株元センサ
◆ 穂先センサ

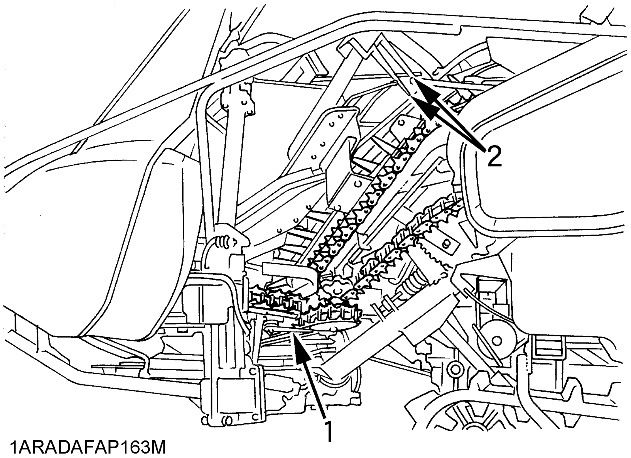
[219・222]



1ARADBIAP315E

[219・222]

[320・323]



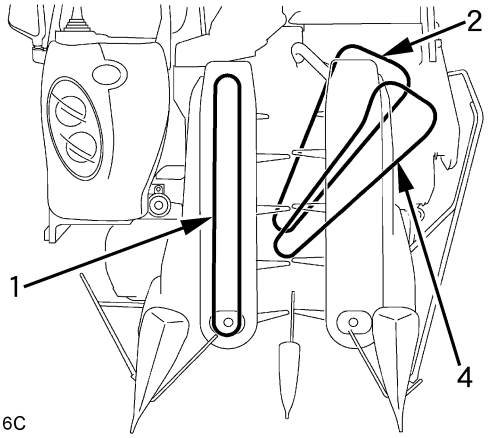
1ARADAFAP163M

[320・323]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スイッチ， アッシ（カブモト）	59700-7503-2	219・222
	スイッチ， アッシ（カブモト 100）	5H601-7503-0	320・323
2	センサ， アッシ（ホサキ）	5H215-7530-0	219・222
	センサ， アッシ（ホサキ）	5H550-7534-0	320・323

◆ 引起しチェーン
◆ 穂先供給チェーン
◆ 株元供給チェーン［219・222］
◆ 右株元・左株元チェーン［320・323］

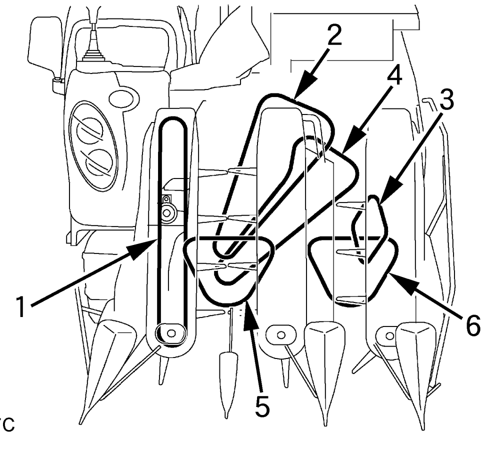
[219・222]



1ARADBIAP316C

[219・222]

[320・323]



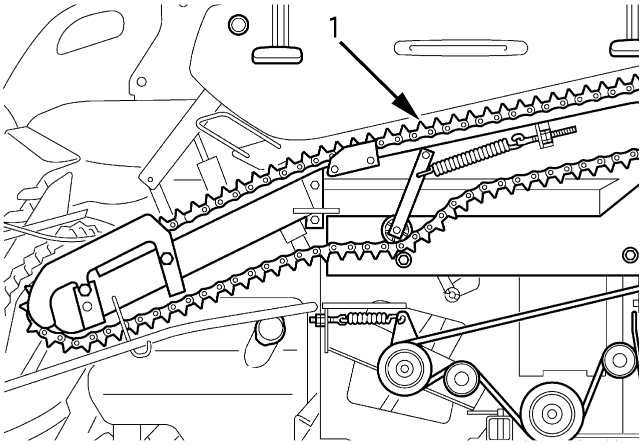
1ARADBIAP317C

[320・323]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン， アッシ（ヒキオコシ）	5H235-5301-0	全型式
2	チェーン， アッシ（ホサキ）	5H552-6670-0	219・222
	チェーン， アッシ（ホサキ）	5H550-6670-0	320・323
3	チェーン， アッシ（L，ホサキ）	5H550-6801-0	320・323
4	チェーン， アッシ（キョウキュウ）	5H552-6620-0	219・222
		5H550-6620-0	320・323
5	チェーン， （ミギカブモト）	5H550-6135-0	320・323
6	チェーン， （ヒダリカブモト）	5H550-6159-0	320・323

◆ 各チェーン

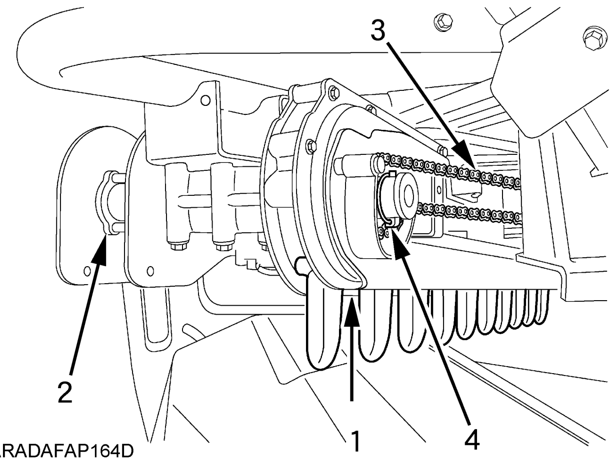
● フィードチェーン



1ARADAFAP142A

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン （フィード，104L）	5K250-4215-0	全型式

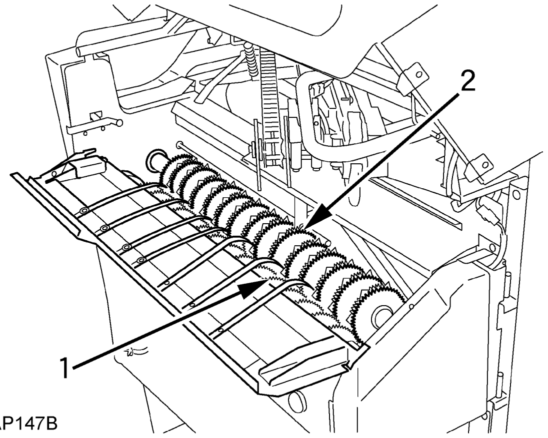
● 排わら穂先・株元チェーン
● 安全ピン



1ARADAFAP164D

図番	品　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ （ハイワラホサキ）	5K200-4340-0	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	5K250-4311-0	
3	チェーン （ハイワラニュウリョク）	5K257-2112-0	
4	ピン，アッシ	5A000-1780-0	

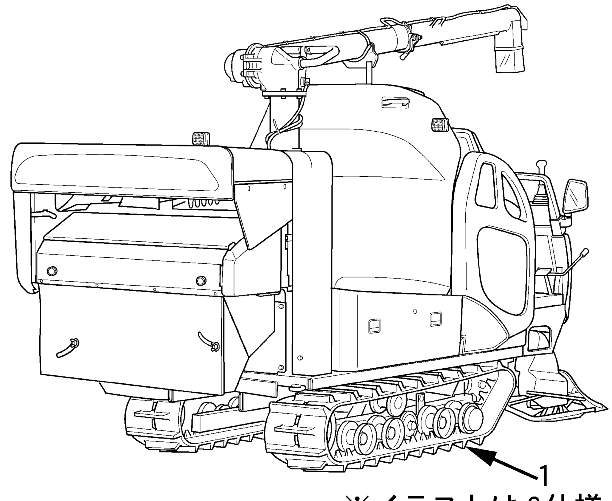
◆ カッタ刃・ギヤロータ



1ARADBIAP147B

図番	品　名	品　番	対象型式
1	150 セツダンバ	57783-2121-0	全型式
2	130 ギヤロータ	57783-2138-0	

◆ クローラ

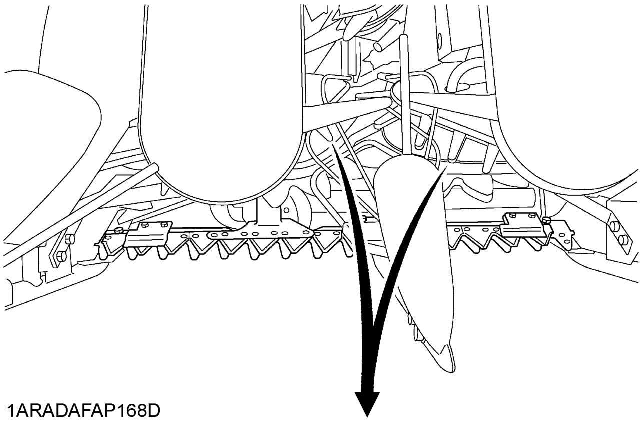


1ARADBIAP279K　※イラストは G仕様

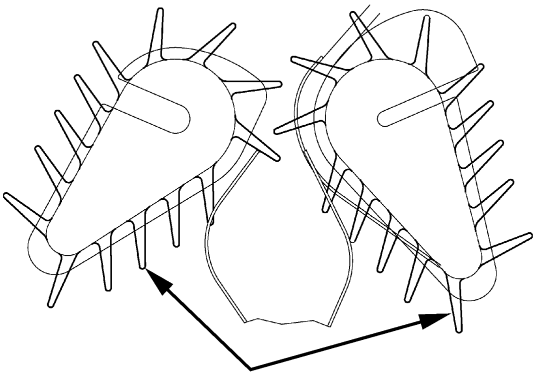
図番	品　名	品　番	対象型式
1	クローラ（330-37-90）	5H552-2251-0	219・222 （W 仕様）
	クローラ（400-37-90）	5H552-2252-0	219・222 （W2 仕様）
	クローラ（360-39-90）	5H550-2251-0	320・323 （W 仕様）
	クローラ（400-39-90）	5H550-2252-0	320・323 （W2 仕様）

◆ 突起付ベルト

[219・222]



1ARADAFAP168D

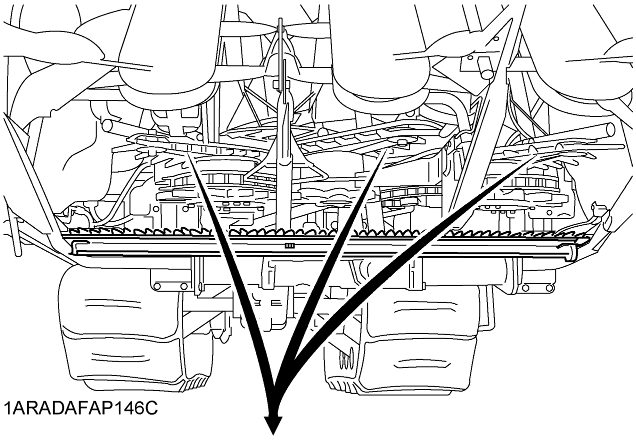


1ARADAFAP246B

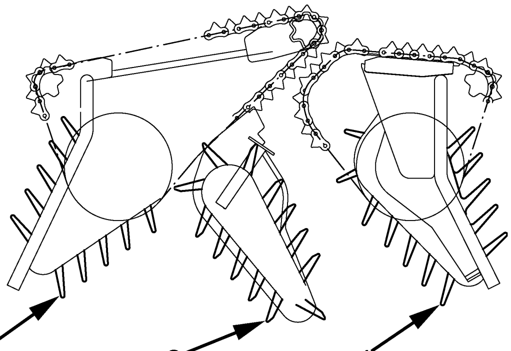
図番	品　　名	品　　番
1	ベルト（32，トッキ）	5H215-6181-0

[219・222]

[320・323]



1ARADAFAP146C

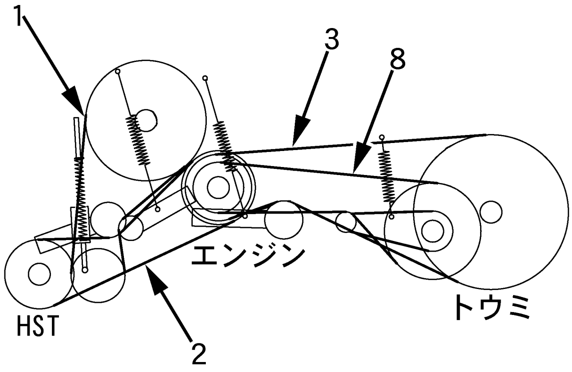


1ARADAFAP247B

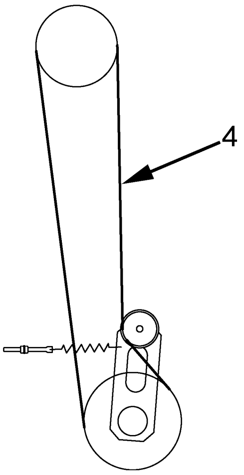
図番	品　　名	品　　番
1	ベルト（32，トッキ）	5H215-6181-0
2	ベルト（29，トッキ）	5H550-6181-0

[320・323]

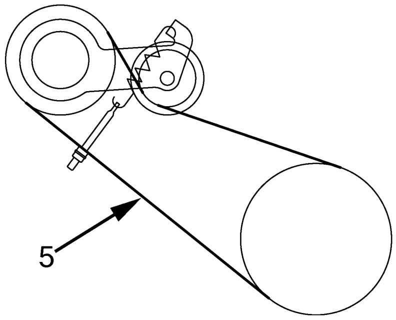
◆ 各ベルト



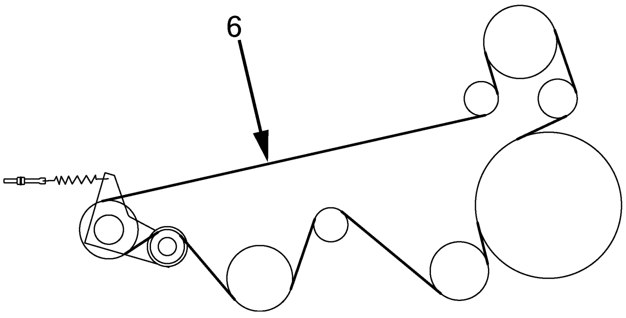
1ARADAFAP245B



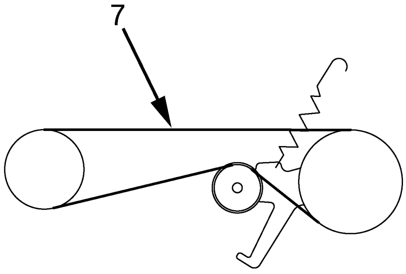
1ARADAFAP248B



1ARADAFAP249B



1ARADAFAP250B



1ARADAFAP315B

	図番	品　　名	品　番	対象型式
本機	1	Vベルト (A37)	5H552-1275-0	219・222
		Vベルト (B44)	5H550-1275-0	320・323
	2	Vベルト (B45)	5H550-1153-0	全型式
	3	Vベルト (C60)	5H604-1146-0	219・222
		Vベルト (C67)	5H551-1216-0	320
		Vベルト (C66)	5H551-1215-0	323
脱こく	4	Vベルト (C84)	5K250-1581-0	全型式
	5	Vベルト (C50)	5K252-1572-0	219・222
		Vベルト (B50)	5K250-1571-0	320・323
	6	Vベルト (B120)	5K250-2591-0	全型式
カッタ	7	Vベルト (B-47)	5F565-3121-0	全型式
グレンタンク	8	Vベルト (A47)	5H550-1257-2	G仕様

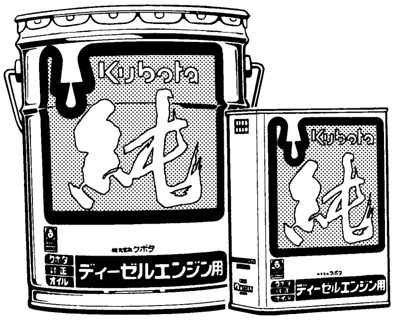
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，購入先へご用命ください。

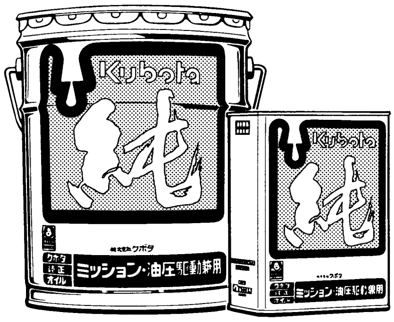
- **D30 又は D10W-30（ディーゼルエンジン用）**



20L　　4L

1ARADAFAP393A

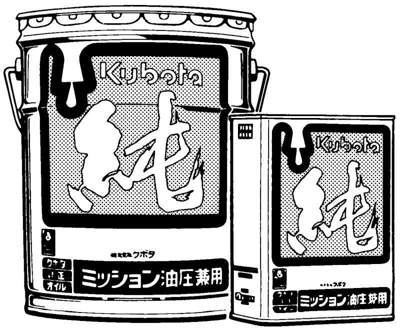
- **スーパー UDT-2**
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



20L　　4L

1ARADAFAP394A

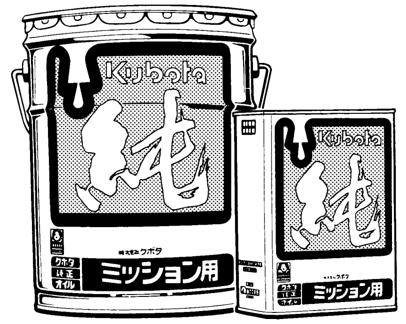
- **M80B（ミッション油圧兼用）**



20L　　4L

1ARADAFAP395A

- **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**

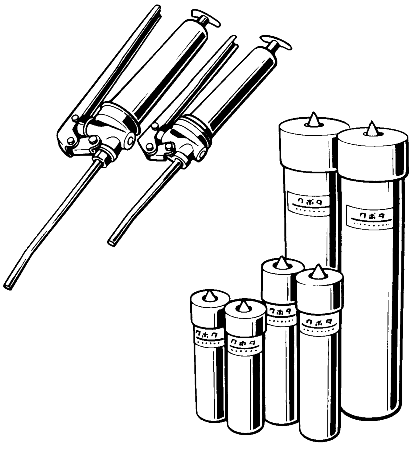


20L　　4L

1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

- **No.2**



60　100　400

1ARADAFAP397A

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当		電話（　　）　ー
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形(庄内地区)	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形(庄内地区以外)	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部(米子事務所)
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜１丁目１番１号
中国営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275番地
中国営業技術推進部(米子事務所)：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市富合町廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-7247　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜１丁目１番１号

ARN219/222/320/323
AP. I. 13-15. 2. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制
2次規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の
19kW未満汎用ディーゼルエンジン排出ガス自
主規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5H570-8611-6